

博士論文

まちづくり小集団の討議過程の分析技法

ーテキストマイニング、会話分析を援用した討議分析技法ー

島 田 昭 仁

序 説

まちづくり小集団やその成員への（対人・対グループ・対コミュニティ）援助を職とする専門家が、その援助技術の質を向上させるために、自らの介入の前提となった小集団の状況や介入により小集団がどのように変化していったのかを第三者に対して客観的に説明することが近年求められて来ている。

すなわち、専門家にとって経験や勘などの主観的なものが欠かせないことは確かだが、それらにのみ頼るのでは客観性が希薄になる。データに基づいて振り返り、自身の行為が小集団のトータルな目標のどこに位置づけられ、どのような状況に対してどのような介入を行い、どのような役割を果たしたのかといった点について、記述し他者と共有できるようにしておくことが必要となってきた。

そのような要請から従来は、専門家自身が主観的に重要な出来事を選定して記述する方法が取られてきた。

ただし、重要な出来事や事柄を選択した結果しか示してこなかったため、自身の恣意性が排除できないという問題が残されたままになっていた。

一方、討議内容をありのままに書き起こす会議録など、誰が誰に対して発話し、誰がそれに応えたのかをなるべくありのままに残す方法も近年いくつか提示されてきたが、成員が多数に及び会議が長期にわたるようなケースにおいては文書データが膨大になり、それを読み解くことが難しくなるという問題を抱えていた。

そこで本論は、長期間に渡る討議内容をありのままに書き起こした会議録の文書データをその対話形式を壊さずに大きく縮約し、そこから重要な会話群を抽出する過程をシステム化し、他者と共有可能にする技法を提示するものである。

そしてその縮約された文書データを以て、まちづくり小集団が、専門家の介入や成員間の相互作用によりどのように変化していったのかを記述する技法を提示するものである。

【目 次】

序 説

第1章 研究の背景と目的

第1節 研究の背景

第1項 研究の社会的背景	1
①都市計画における市民参加の重要性が広く認識され始めた近年	1
②専門家の立場の多様化	2
③情報公開と会議録の在り方の変化	3

第2項 先行研究

①土木・建築・都市計画分野において	3
②社会科学（ソーシャルワーク論）の分野において	4
③まちづくりの討議過程を分析するにあたっての既存手法の活用可能性と課題	7

第2節 研究の目的	8
-----------	---

第3節 研究の構成

第1項 各章の構成	8
第2項 事例の位置づけ	10

第2章 当該技法の開発と手順

第1節 技法としての概観

第1項 全体的な概観	13
第2項 作業工程の基本的考え方	14

第2節 当該技法の手順

第1項 会議録コーパスの作成	19
第2項 時期の分節化	21
第3項 指標発話候補の抽出と指標発話の選定	23
第4項 指標発話連鎖会話群の抽出	29
第5項 コミュニケーション構造図の作成	32
第6項 リーダーシップ構造図の作成	34
第7項 会話分析	37

第3節 当該技法の有効性・妥当性についての評価の考え方

第1項 テーマ網羅性についての検証	41
①時期の分節化の妥当性	41
②抽出及び選定したデータのテーマ網羅性（指標発話連鎖会話群まで）	42

第2項 選択の妥当性についての検証	42
-------------------	----

第4節 当該技法の適用限界	43
---------------	----

第5節 小括	43
--------	----

CASE STUDY

第3章 桐生市の「かんのんまちづくりの会」への適用

第1節 地域選定の視点	45
-------------	----

第2節 対象とする地域とまちづくり小集団の特徴

第1項 対象地域の特徴	45
第2項 対象とする小集団の特徴	47

第3節 当該技法の適用

第1項 データ縮約化と分析対象箇所の絞り込みの工程	49
---------------------------	----

①会議録コーパスの作成	49
②時期の分節化	49
③指標発話（候補）の抽出と選定	50
④指標発話連鎖会話群の抽出	62
⑤コミュニケーション構造図の作成	66
⑥リーダーシップ構造図の作成	67
⑦会話分析シートの作成	69
第2項 データ縮約の結果	82
第3項 分析の成果	83
①リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の照合から分かること	83
②意見対立の発生と展開の実態	88
③目標表現の共有過程	91
④各成員が果たした役割	93
第4節 小括	96

第4章 小布施町の「図書館建設運営委員会」への適用

第1節 地域選定の視点	99
第2節 対象とする地域とまちづくり小集団の特徴	
第1項 対象地域の特徴	99
第2項 対象とする小集団の特徴	101
第3節 当該技法の適用	
第1項 データ縮約化と分析対象箇所絞り込みの工程	103
①会議録コーパスの作成	103
②時期の分節化	103
③指標発話（候補）の抽出と選定	105
④指標発話連鎖会話群の抽出	126
⑤コミュニケーション構造図の作成	129
⑥リーダーシップ構造図の作成	130
⑦会話分析シートの作成	133
第2項 データ縮約の結果	142
第3項 分析の成果	143
①リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の照合から分かること	143
②意見対立の発生と展開の実態	148
③目標表現の共有過程	154
④各成員が果たした役割	159
第4節 小括	161

第5章 神戸市の「真野まちづくり検討会」への適用

第1節 地域選定の視点	163
第2節 対象とする地域とまちづくり小集団の特徴	
第1項 対象地域の特徴	163
第2項 対象とする小集団の特徴	165
第3節 当該技法の適用	
第1項 データ縮約化と分析対象箇所絞り込みの工程	167
①会議録コーパスの作成	167
②時期の分節化	167
③指標発話（候補）の抽出と選定	169
④指標発話連鎖会話群の抽出	182
⑤コミュニケーション構造図の作成	186

⑥リーダーシップ構造図の作成	187
⑦会話分析シートの作成	189
第2項 データ縮約の結果	199
第3項 分析の成果	200
①リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の照合から分かること	200
②意見対立の発生と展開の実態	204
③目標表現の共有過程	208
④各成員が果たした役割	210
第4節 小括	220

第6章 各地区事例の比較を通じて

第1節 小集団分析の評価（各分析から得られた知見）	
第1項 リーダーシップ構造分析から得られた知見	222
第2項 コミュニケーション構造分析から得られた知見	224
①特徴的な構造の発見	224
②注目すべき発話行為が現れる箇所	228
③各小集団の構造的特徴	229
第3項 会話（談話）分析から得られた知見	231
①意見対立の解消過程に着目して	231
②「目標表現の共有化」の共通点	232
第2節 小集団の意向調整に向けた支援技術の考察	
第1項 専門家の介入時機に着目して	233
第2項 小集団の静的分類の観点による比較考察	237
第3項 その他の成員の役割に着目して	238
第3節 小括	239

CASE STUDY

第7章 当該技法の有効性・妥当性についての評価

第1節 当該技法による討議記録のデータ（発話レコード）数の縮約性能	242
第1項 会議録コーパスから「指標発話連鎖会話群」まで	242
第2項 コミュニケーション構造図から会話分析シートの作成まで	244
第2節 時期の分節化の妥当性	245
第1項 桐生事例の場合	245
第2項 小布施事例の場合	248
第3項 真野事例の場合	251
第3節 抽出及び選定したデータのテーマ網羅性	254
第1項 桐生事例の場合	254
第2項 小布施事例の場合	262
第3項 真野事例の場合	268
第4項 3事例のテーマの網羅実績	271
第4節 コミュニケーション構造図における会話分析対象箇所の選定妥当性	273
第1項 桐生事例の場合	273

第2項 小布施事例の場合	282
第3項 真野事例の場合	290
第5節 小活	297
第8章 結論	299
第9章 補論～手順書	
第1節 会議録コーパスの作成	302
第2節 データベースの作成	305
第1項 時期の分節の仕方～「ターン割合」の算定手順	306
第2項 「頻出単語」の抽出及び記入の仕方	312
第3項 「指標発話」の抽出・選定及び記入の仕方	315
第4項 「指標発話連鎖会話群」の作成の仕方	321
第3節 コミュニケーション構造図の作成	325
第4節 リーダーシップ構造図の作成	329
第5節 会話分析シートの作成	331
後説・謝辞	334

第1章 研究の背景と目的

第1節 研究の背景

第1項 研究の社会的背景

①都市計画における市民参加の重要性が広く認識され始めた近年

都市計画の分野の研究論文の中で「コミュニティ・デザイン」が論じられたものが、1971（昭和 46）年に刊行された『ニュータウンと人間開発』『都市開発とコミュニティ・デザイン』¹、渡辺博史²に初見される。この論文は前年 10 月に開催されたシンポジウム「第 22 回日本教育社会学会大会」において問題提議された「新しいコミュニティをつくりあげるための方策」の討議内容について渡辺氏が意見を寄せたものである。

「コミュニティ」の定義はそもそもわが国で狭義には「意思以前のかつ保守的」な「共同体（ムラ社会）」と限定的に用いられることも多かった³中で、当シンポジウムでは社会学者の松原治郎によって「＜市民＞としての自主性と主体性と責任とを自覚した住民によって、共通の地域への帰属意識と共通の目標を持って、共通の行動がとられようとする、その＜態度＞の内に見出されるもの。」と再定義された。

その定義を受けて、社会学者の渡辺氏はそのような新しいコミュニティをつくりあげていくために「住民を＜コミュニティ・プランニング＞への計画案に積極的に参画せしめて行くこと」と提言し、さらに「コミュニティ形式を意図的・計画的に設計し、それによってコミュニティに対する住民参加の実質的効果を高めていこうとするコミュニティ・デザイン」が重視されるべきだと主張したのである。

さて 1970 年代当時、都市計画分野で「コミュニティ・プランニング」はどのように使われていたのか。1977（昭和 52）年に刊行された「都市計画」、共立出版の中で日笠端は「広義には、＜コミュニティ・オーガニゼーション＞のような非物的計画を含むと考えられ、…中略…しかし狭義には、…中略…居住地の部分を対象とする物的な計画を意味し」と述べている。

前半は明らかに渡辺博史のいうようなソフトの「コミュニティ・デザイン」が包摂されていることが洞察される。また後半の狭義についても「住宅地が備えていなくてはならない一般的な諸条件のほかに、住民の様々な＜ローカルニーズ＞を取り入れる地区計画の技法」（日笠,1977）と述べているように物的な地区計画であっても、住民意向にも射程を広げていることが分かる。

その後 70 年代から 80 年代にかけて、大阪市、神戸市、横浜市、などのいわゆる「革新自治体」で住民運動を支援した居住環境改善に向けた様々なユニークな制度と運用が行われ、（広義の）コミュニティ・プランニングは実践段階に移っていった³。

その後 1990 年代以降の都市計画法の改正や「地方分権一括法」の制定、1998 年の「特定非営利活動促進法」、1999 年の「情報公開法」の制定の流れや、2000 年代以降の地方公共団体の「まちづくり条例」による参加機会の開放といった一連の流れの中で、都市計画における住民参加の重要性は広く認識されつつあるとともに、市民によるまちづくりは広く普及しつつある。

1 東洋大学名誉教授。ヘブライ大学に留学して帰国後「キブツ：イスラエルにみるある村づくり」（1966,新生活運動協会）を著した。その後は日本の市民社会形成のためのコミュニティ形成と教育について論じた。この時はキブツを例にした住民参加のことを「コミュニティ・デザイン」と呼んだが具体的な論述はなかった。

2 マッキーバーの定義をもとに、広義には「共同性」と「地域性」を相含むものとして理解されてきた。

3 世田谷区はこの時の革新自治体ではないが、市民参加を支援した自治体としてここに加えても良いと思われる。

②専門家の立場の多様化

米国では 1923 年に「アメリカ地域計画協会」が設立され、「イギリス田園都市運動のアメリカへの定着を目指し、地域計画の枠内で田園都市を建設しようとする自己の主張をコミュニティ・プランニングと称した。」（渡辺俊一,1977）そしてその成果が「サニーサイド・ガーデンズ」や「ラドバーン」である^{注4}。

その後、近年のアメリカの中で「コミュニティ・プランニング」がどのように用いられているかというと、ニューヨーク市では「Community-based planning」と呼ばれるように、行政の都市計画に対する住民のカウンタープランを住民が自分たちで考える運動としても用いられている。（Tom Angotti,2011）

Tom Angotti によれば、この運動は伝統的な都市計画に対する Jane Jacobs による批判と 1960 年代からのグラスルーツ運動に始まり、フランスの社会学者アンリ・ルフェーブ(Henri Lefebvre)の「都市への権利」に啓発された運動で、既成市街地の土着住民や移民、性的マイノリティーや貧困層らを組織化した（行政への計画提案を主軸とした）住民運動であるとされている。（Tom Angotti,2013,p-37-39）さらに、そこには「コミュニティ・オーガナイザー」の存在が欠かせないものとなっている^{注5}。

日本でも「まちづくり運動に依拠した居住環境の創造」という活字が京都大学西山卯三研究室の広原盛明の博士論文に 1973 年に見られるように、1960 年代末から神戸市丸山地区で「まちづくり運動^{注6}」への専門家による支援が展開されている^{注7}。

また同時期、神戸市真野地区では日本社会福祉大学の坂下達男と大阪府立大学の牧里毎治が社会福祉協議会を通じて「コミュニティ・オーガナイザー」として関わっていたことが知られている。

その後 1988～1997 年に R・ヘスター^{注8}の「Community Design Primer」（Hester,1990）が紹介され^{注9}、ヘスターに影響を受けた知識人たちが「コミュニティ・デザイン」を「地域の分野を超えた人々が生活や地域を形作る過程」というヘスターの言葉を新たな意味で 90 年代後半より語用し実践し始めてから、先述の渡辺の提唱した「コミュニティ・デザイン」の中身はさらにバリエーションを見せてきたと言える。

そして先述のように 2000 年代以降、市民によるまちづくりは広く普及しつつある中で、まちづくりにおいては小集団を形成し意思形成を図るといった協議会形式が一般化しつつあり、協議会形式のまちづくり小集団を支援する専門家に求められるニーズは、その意味で大きく多様化してきている。

すなわち、従来の狭義の都市計画における「住民の様々なローカルニーズを取り入れる」立場と、広義の都市計画における「コミュニティ・オーガナイザー」としての立場が大きく違うように、協議会は住民の意見を聞く場なのか、住民運動なのか、さらには創造や気づきの場なのか等々、それによって専門家へのニーズも多様化してきていると言える。

⁴ これらは郊外住宅地の開発であった。その後米国では、郊外住宅地の人種や階級問題が社会問題化し、1940 年代から「コミュニティ・プランニング」はそうした社会問題に対処するための計画という意味でも用いられている。日本でも初めは「ニュータウン」において実践されようとしたが、そこに人種・階級問題は含まれていなかった。

⁵ NY 市では Community-based Organize と言う。著名な「コミュニティ・オーガナイザー」に Saul Alinsky がいる。

⁶ 同論文の中で広原は「まちづくり運動とは広義の都市計画を実現していく住民運動と考えたい。」と述べている。

⁷ ただしそこでの活動は「住民の様々なローカルニーズを取り入れる」立場に徹していたように思われる。

⁸ ランドルフ・ヘスター：当時 UC バークレー教授。

⁹ 日本では 1997 年に「まちづくりの方法と技術」R・T・HESTER,JR./翻訳：土肥真人として公開。

③情報公開と会議録の在り方の変化

1950年代米国では様々な対人・対コミュニティサービスを提供する社会事業が盛んに行われ、それに伴って「プログラム評価理論」（以降「評価論」と略す。）が生まれた。すなわち社会事業は何らかの意図的に計画されたプログラムを通して実施されるので、サービスの受け手にとって、クライアント（出資者）にとって説明責任を果たすためにプログラムの評価分析過程の客観的な可視化が必要となったからである。

さらに近年、専門家へのニーズが多様化してきていることに伴って、必ずしも一人の専門家が全てのニーズに対応できなくなってきたことから、同僚やスーパーバイザーに相談することや、実務家と研究者が共有することも増えてきている。その意味で多様な立場での多様な役割を事後的に吟味することが専門家にとっての技術の向上・伝播のために必要となってきた。

したがって評価分析にあたっては、誰もが客観的に把握できるデータを媒介にすることが要請され、したがって「エビデンス・ベイスド・プラクティス」という理念の下で「プログラム評価理論」はエビデンスとしてどのようなデータを扱うかに注視して発展してきた。（安田,2011,p-192）

まちづくりに関わる専門家の場合、先述のように協議会形式が一般化してきた中で、会話記録すなわち会議録が証憑（エビデンス）として重要視されるようになってきた。また近年では情報公開を徹底する社会的要請があり、第三者が事後的に振り返り確認できる記録として会議録をなるべくありのままに残すことも多くなっている。

会議で発言された言葉をありのままに起こして記録していくと一つの会議でも相当量のテキストデータとなり、数カ月、数年かけて実施された会議になると、読み込むだけで職人芸を要するような膨大な量のテキストデータとなる。専門家はこの膨大なテキストデータを使って、どのように評価分析すべきなのか、その体系的な技法については、次項で紹介するいくつかの試みはあるものの、まだほとんど論じられていないと言ってよい。

第2項 先行研究

このように協議会形式を伴う専門家の役割は多様化し、その会議録も情報公開される方向に進むなかで、研究者たちは会議録をどのように分析しようとしてきたのであろうか。

①土木・建築・都市計画分野において

これらの分野では、古くから制度的には説明会、審議会があり、近年はまちづくり条例や景観条例で定める協議会や都市計画マスタープランをはじめ様々な計画を住民参加で行う委員会もあり、また前述のように近年は情報公開の流れを受けて会議録は公開されることが多くなったので、これを分析する研究も活発に行われている^{注10}。

須永・原科(2009)によれば、これらの研究は大きく i 発言内容の分類、ii 意見による素案の変遷、iii 意見の計画への反映状況、の3つに大別できると言う。例えば i については公聴会における意見の分布や傾向を、ii については環境計画のまちづくり指針に参加者の意見が反映されていることを、iii についてはワークショップで得られた市民の意見の都市計画マスタープランへの反映状況を、明らかにした研究を紹介している^{注11}。

¹⁰ 柴山ら(2003)の研究が挙げられる。

¹¹ i については村山・堀川(2006)、吉岡ら(2004)を、ii については朝倉・関野(1997)を、iii については横山ら(2001)、錦

言い換えれば、i は会議における意見の内容の傾向を、ii は計画案が意見とともに変遷していく実態を、iii は住民の意見を計画に反映させるしくみとその成果について、分析したものと言えるが、いずれにしても会議の「意見」に着目したものであり、発話という「行為」に着目したものではない。したがってそこには＜相互行為＞という視点はない。

先述の「エビデンス・ベイスト・プラクティス」という視点で捉えた場合には、そこに介入した専門家の一つ一つの行動（ないし発話行為）が、参加者一人一人のどのような行動（発話行為）を知覚して行われたのか、まで説明できなくてはならず、それは参加者の相互行為まで分解しなくては把握できないことであるが、そのような視点に立った研究はほとんどされてこなかった^{注12}。

また、これまで多くの会議録は、(多くの場合当局側の) 観察者の主観によって編集されてきた。それゆえ観察者(すなわち編集者)の恣意性が排除できないことから、観察者と参加者、あるいはその外部の人間との間で不公平な関係を有してきた。観察者の恣意性に支配されないためには、すなわち「エビデンス」としての公正さを担保するためには、参加者の相互行為まで徹底的に分解可能なリアリティーが必要であった。

そこで 2000 年以降、会議録のテキスト化(電子化)が一般的に行われるようになって、そのテキストから発話同士の因果関係を分析する研究が現われてきた(佐藤・堀田,2006)。

「CRANES」(堀田・神野,2001)も土木・建築・都市計画分野における数少ないその一つである。複数の発話の持つひとまとまりを把握してその中での発話の階層化によって発話同士のつながりを可視化する技術であり、会議活性化支援技法に資するものであると言える。確かにこの技法によれば、介入した専門家の一つ一つの発話行為が、参加者一人一人のどのような発話行為を知覚して行われたのか、までを説明するエビデンスとなりうる。

②社会科学(ソーシャルワーク論)の分野において

社会科学の分野において会議録(会話記録)の分析を前提とする研究は、古くは「ソーシャルワーク論」に見られる。また、言葉(文章)を分析するという意味では、「内容分析(content analysis)」にもあった。

まずソーシャルワーク論は 1950 年の国際ソーシャルワーク大会^{注13}で、ケースワーク論、グループワーク論、コミュニティ・オーガニゼーション(以降 CO と略す。)の 3 大基礎技法論(メソッド)を包括する体系として位置づけられた^{注14}。このうちパーソナルな(マンツーマン)の援助を専らとするケースワーク論あるいはそれを数人程度のグループに発展させたグループワーク論では、C・ロジャース^{注15}が、会話記録の分析を 1950 年代に始めている。

一方、CO のワーカー^{注16}の仕事は「住民の組織化を通じて、彼らが協力にふみだす条件をつくり出

澤ら(1997)を例に挙げている。(須永・原科,2009)

¹² 近い研究が土木学会(曾根・濱田・田中,2000)、建築学会(藤田他,2005)など、梗概集に散見される程度である。また前注の柴山の論文も発話の「内容」を分析しているが、「行為」として捉えていない。

¹³ パリにおける第 5 回国際ソーシャルワーク会議。なおコミュニティ・オーガニゼーションのワーカーの役割が強調されたのは、1962 年リオデジャネイロでの 11 回世界ソーシャルワーク会議においてである。

¹⁴ CO の定義については諸説あるが、M.G.ロス(1955 年)の定義では「地域社会が、その欲求あるいは目標を確認し、充足しようとする確信を育て、・・・略・・・地域社会の中で協同的・協力的な態度と実践を育てる過程」と説明される。

¹⁵ カール・ロジャース,加藤・東口訳(2007)

¹⁶ 日本では昭和 38 年に社会福祉協議会の専門員として「コミュニティ・オーガナイザー」が設置され、昭和 46 年の中央社会福祉審議会の答申「コミュニティ形成と社会福祉」では、「住民主体の原則を十分生かすよう・・・訓練を受けたコミュニティ・オーガナイザーの増員と質の向上についていっそう努力を傾けることが必要」と書かれているが、その後近

す技術」と定義されている（ロス,岡村訳 1963）ように、住民組織を対象としているため、社会運動論や小集団研究が主流であり、その中でももちろん、或る住民組織についてのモノグラフの中で部分的に会話や会議録が登場することはあったが、会話や言葉のみを対象とする研究は長い間なかった^{注17}。

また、ソーシャルワークの分野では主にアメリカを中心として 1950 年代から「評価論」の研究が進み^{注18}、次第にその証憑（エビデンス）が重要視されるようになり、被観察者の会話記録を証憑として記述することも増えてきた。

例えば、グループワーク論において「エビデンス・ベイスト・プラクティス」の流れから採用されてきた技法に「プロセスレコード^{注19}」がある。

「プロセスレコード」は、被観察者の行動を知覚し介入した専門家の行動を内省的な観察を加えて継時的に記述する方法である。ここでの「被観察者の行動」とは対人相互作用による行動のことであるから発話行為も含まれ、原理的には発話行為だけで記述していくことも可能である^{注20}。その意味において、討議記録を記述的に分析する実現可能性の高い技法であると言える。ただし、現場ではありのままに全文筆記するという形式はとらず、部分的に＜観察者の主観に任せて＞重要だと思われる部分を抜粋するという形式が採用されてきた。

次に内容分析は、新聞や雑誌の活字となった言葉（文章）を対象に研究する分野で、起源は 19 世紀に遡ることもできる。そして 20 世紀前半から第 2 次大戦前後にかけて、社会科学の理論・概念に加えて、統計学的手法が持ち込まれ、方法論がまとめられ現在にいたっている（樋口,2015）。

内容分析は、質的内容分析と量的内容分析に分かれ、質的内容分析は、特定の限られた文章や会話におけるシンボル（語句やスローガン）の構文的特性と意味的特性^{注21}を記述する技法である。

また量的内容分析は、シンボルの構文的特性と意味的特性といった質的データを量的に扱えるように変換する作業として（いくつかのカテゴリーにデータを分類していく）「コーディング」が行われ、それらが出現する頻度を統計学的に現し^{注22}、それらの諸特性を帰納的（経験的）に一般化し、社会科学のより普遍的な命題と関連付ける（推論に結び付ける）。膨大な文書データを扱うことを特徴とし、会議録の分析は現在でも行われている^{注23}。

その他の技法として、社会科学では「グラウンデッド・セオリー」、「談話分析」、「会話分析」、「オーラル・ライフヒストリー・アプローチ」等がある。

「グラウンデッド・セオリー」は、「人間と人間とが直接的にやり取りをする社会的相互作用に関わる研究である」（木下,2007）ことから会話記録（ただしインタビュー等）を対象にすることは多い。

また 1960 年代にグレーザーとスト劳斯によって提唱された時から質的研究法と説明され、一時期、

年では援助技術統合化の趨勢が進み、ケースワーカーやグループワーカー含め全てソーシャル・ワーカーと呼ばれる。

¹⁷ 戦中・戦後の数十年の間は、パーソンズの「構造—機能分析」論やホムズンの「相互作用論」といった、いわゆる社会システム研究、すなわち現象の記述を演繹的に単純な要素に分類し当てはめ、共通の因果関係を発見していこうとする「分析的方法」がその中心になっていた。

¹⁸ およそ 1980 年代までは、被観察者をいくつかの類型に分類するといった、観察者による主観的考察に委ねられていたが。

¹⁹ ペプロウによって提唱された看護の臨床現場における看護者と患者の相互行為と相互作用を記述した記録のことで、記録の形式はその後の研究者によって様々なバリエーションが生まれている。（ハワード・シンプソン,高橋ほか訳,1994）

²⁰ 患者と看護者との対話に関する全文記録という意味では、C・ロジャーズが 1950 年代に行っている。

²¹ 構文と意味（シンタクスとセマンティクス）とは、外形的な記号とそこに含ませた意味や意図、という意味である。

²² 母集団とサンプルといった統計学的手法をとることから、いわゆるアンケート調査とも共通する部分がある。

²³ 例えば「戦後日本の高等教育関連議員と政策課題—国会における発言量と内容分析—」（橋本,2013）などがある。

社会学においてというよりも対人サービスを行う医療・福祉領域において関心が広まった^{注24}ことから、（ケースワークを中心に）ソーシャルワーク論の技法としても採用されてきた。質的データを量的に扱えるように変換する「コーディング」（もしくは「概念の生成^{注25}」）作業を伴うことから「量的内容分析」と類似している点がある。

「談話分析（discourse analysis）^{注26}」は、文章や会話から相互行為に隠された「構造」や「意味」を解明しようとする^{注27}。またそのため文脈（コンテクスト）を解釈する。よってこれも「内容分析」と共通点を持っている^{注28}。

「談話分析」が社会や集団に影響を与えた「言説」に注視する傾向があるとすれば、「会話分析（conversation analysis）」は、日常会話などから相互行為の手続き（プロセス）にも注視しようとする。また特定の限られた文章や会話における構文的特性と意味的特性を記述する技法という意味では、「質的内容分析」とも共通点を持っているが、（発話）行為に着目している点で大きく異なる。

「会話分析」の起源にはフィールドワーク調査から独自のコミュニケーション研究領域を切り拓いたガーフィンケル^{注29}とゴフマン^{注30}という二つの社会学者がいた。ガーフィンケルによれば、会話分析は「カテゴリー化の問題^{注31}」と「自然な会話の形式的な組織化装置^{注32}の記述」に分かれるとされるが、ゴフマンやその後のサックス、シュグロフ、ジェファースンら^{注33}によって展開された会話分析では「カテゴリー化の問題」は一切登場してこない。専ら「日常会話」における会話参加者たち自身が組み立てている相互行為の手続きの記述を目指している。そのためか会議録を対象にした研究はほとんど目にしない^{注34}。

「オーラル・ライフヒストリー・アプローチ」は、被調査者について自分の言葉で語ってもらい、それをテキスト化することで、被調査者に隠された「物語（ナラティブ）」を対象化し、「物語」間の相関関係を探っていく（又は明らかにする）記述的方法である。この技法はもともと被観察者の生活史に関わることを語ってもらうことに特徴を持つが、それはまちづくりに関わる生活史を当事者が語る形式において、古くからまちづくりのルポルタージュやドキュメンタリーに使われてきた^{注35}手法である。まちづくりの会議も専門家の進行次第では当事者たちの生活史として語らせることは可能であり、またその意味において、会議録分析にも応用可能な技法である。

24 当初、アメリカ看護領域で受け入れられ、その後も日本でもこの領域に関心を持たれた（木下,2007）。

25 修正グランデッドセオリー（M-GTA）を提唱する木下は「コーディング」とは呼ばずに「概念の生成」という。

26 言説分析とも言う。

27 談話分析はフッサール現象学の流れをくむ社会構築主義者による定義と、そうでない（例えば内容分析等の）研究者とでは大きく定義が異なる。前者の立場に立った時、「構造」とは単なる文章の「構文」のことだけでなく社会構造や人的関係における構造のことも指している。本論では発話の相互行為に隠された「意味」を解釈するとき「談話分析」という。（ヴィヴィアン・バー、田中訳,2002）

28 内容分析は言説分析の一技法ということができる。（有馬,2014）

29 Garfinkel Harold。「エスノメソドロジー」を打ち立てた。

30 Goffman Erving。後期の研究では「エスノメソドロジー」を批判した。“Forms of talk”,1981 では、発話過程の儀式化、参加の枠組、等のメカニズムが解明されている。1982 年アメリカ社会学会会長を務めた。

31 「カテゴリーに付着する“権力性”は日常会話場面を通してどのように現実の行為を支配していくのか」など（ガーフォインケル著、山田他訳,2008）

32 科学理論を「観察可能な現象を組織化するための形式的な装置である」と見なす（すなわち、その背後にある観察不可能な実在の真の姿は知り得ないという）道具主義的立場による用語。

33 現在の会話分析の創始者にあたる。Harvey Sacks, Emanuel Schegloff, Gail Jefferson。

34 ただし、筆者は会話分析研究会（正確には神奈川大学細川ゼミ）で会議録を対象にした会話分析を行っている。

35 例えば、松下,1972、足立,2010、梅津,2015 などがある。

③まちづくりの討議過程を分析するにあたっての既存手法の活用可能性と課題

先述のとおり討議過程の分析は、会議録を分析するという意味では都市計画・土木の分野でも社会科学においても行われてきた。以下、それぞれの分析技法における（まちづくりの討議過程を分析するにあたっての）課題を整理する。

③－１ 都市計画分野における既存手法の活用可能性と課題

先述のように、かつての会議録は、（多くの場合当局側の）観察者の主観によって編集されてきた。それゆえまず会議録というデータそのものが「ありのまま」でないことから直接的に使用できないことが多かった。あるいは、そうしたバイアスを前提に分析するしかなかった。

しかし 2000 年以降、会議録の全面可視化も増えてきており、テキスト化（電子化）が一般的に行われるようになって、前述のようにそのテキストから発話同士の因果関係を分析する研究も土木分野で現われてきた（佐藤・堀田,2006）。「CRANES」（堀田・神野,2001）は数少ないその一つである。

ただし、この技法もありのままに全面可視化する会議録と同様の問題を抱えていて、短時間ないし数回の会議であれば十分解読できるものの、時間や人数が或る限界を超えると、記述する側も読む側も相当な負荷がかかり、可視化した意味が薄れてしまうという問題が残されたままである。

またこれまで、まちづくりの小集団の会議において意見対立の解消や目標の共有過程において専門家がどのようなコミュニケーションスキルを駆使しているのかを明確に記述した研究はない。

③－２ 社会科学における既存手法の活用可能性と課題

前述のとおり社会科学においては会話記録を分析する「会話分析」や「オーラル・ライフヒストリー・アプローチ」があり、必ずしも会話記録だけでなく記事も含めた言葉（文章）を分析する「談話分析」や「内容分析」があり、ソーシャルワーク論の「プロセスレコード」のように状況を文章で記述したものを対象とする技法もある。また「グラウンデッド・セオリー」は多様な形式のデータを許容している。しかし、まちづくりの参与観察のようなフィールドワークを伴い長期にわたる被観察者の発話行為をそのまま書き起こすとなると膨大な書き起こし文章を生成することになる。そのままでは記述的方法とは言えない^{注36}（のみならず、評価もできない）ので、結局研究者（分析者）の主観に従って^{注37}、伝えたい出来事や事柄を部分的に選択して記述している。その意味において「たまたま研究者の目にとまったものなのか、それとも大量の資料を精査した結果、まぎれもなく典型的なものとして選ばれたのか」という疑問が、曖昧なまま残されている」という質的研究一般への批判（樋口,2015）に対して、十分に答えられない^{注38}。

そこで、膨大な会話記録をありのままに記述したデータを使用しながらも、質的研究の俎上に載せるためには、なるべく再現可能な客観的な方法で^{注39}縮約することが求められる。さらに、成員の態度変化と専門家の介入効果の因果関係を討議過程から明らかにするためには、その発話行為の継時的順番を生かしたまま縮約されていなくてはならない。しかし従来の社会学的技法ではこれに対応できていない^{注40}。

³⁶ そこから帰納的・経験的に何らかの解釈を生み出すこと、ないし解釈を他者と共有することが困難なので。

³⁷ なるべく被観察者の視点に立とうと努力しても、主観的バイアスが残ることは否定できない。

³⁸ 量的内容分析においても質的なデータを量的に扱える形に変換するときの、いくつかのカテゴリーにデータを分類していく「コーディング作業」は、量的ではない質的な作業であって、研究者によって異なるコーディングルールが作成される（樋口,2015）という点では質的研究一般への批判と同様な課題を抱えている。

³⁹ 例えば、計量的テキスト分析を用いてテキスト型データを整理することによって（樋口,2015）。

⁴⁰ 一方、情報学の分野では、会話分析の発話の順番交代を意味する「ターン」という概念（本論第 2 章参照）に着目して

第2節 研究の目的

（長期間にわたるまちづくりの会議録から会話分析の対象を抽出する技法）

そこで本論は、長期間にわたるまちづくり協議会の会議録のテキストデータをより客観的（機械的）かつ継時的に縮約し、かつ誰が誰に対してどのようなタイミングで、賛成ないし反対したのかといった情報を可視化して重要な会話を明示し、それを対象とした「談話分析」や「会話分析」などの質的研究を可能にする技法（その手順）を提示することを第1の目的とする。

（討議テーマの変遷過程及び専門家が果たした役割の客観的解釈）

さらに、会話分析・談話分析を援用することにより発話間の繋がり、意味、長期にわたる討議テーマの変遷過程が明らかになり、第三者が事後的に、集団にとって有効となった目標表現を誰が行い、どのように了解されたか、誰が意見対立し、誰によってどのように解消したか、が理解できるようになり、そしてそれらを通して専門家が他の成員との相互関係の中で果たした役割を質的に解釈することが可能となる。本論は、以降紹介する3つのケーススタディの記述と分析を通して、専門家が果たした役割を第三者が客観的に解釈しうることを確認することを第2の目的とする。

第3節 研究の構成

第1項 各章の構成

本論は8つの章と1つの補論から構成され、研究の目的を第1章に、方法を第2章に示し、そしてその方法を使ったケーススタディを第3章から5章までに展開し、第6章でケーススタディを通した分析を行い、第7章で当該技法の検証的評価を行っている。そして第8章に結論をまとめている。

第1章「研究の背景と目的」では、「コミュニティデザイン」に付与された意味が多様化し、それとともに専門家に要請される役割も多様化してきていることを歴史的に整理し、これに伴い生じてきた研究課題について整理するとともに、本論の目的を述べた。

次に、第2章「当該技法の開発と手順」では、はじめに本論で提示する技法のしくみを手順に分けて概括的に示し、その後で手順ごとに、考え方、手順、既往研究から援用した概念、について詳しく説明する。

第3章から第5章まではケーススタディであり、第2章で示した当該技法に従って、データベース（指標発話連鎖会話群）、コミュニケーション構造図、会話分析シート、リーダーシップ構造図、を作成し、それらをもとに各小集団の目標の共有化過程や意見対立の解消過程について質的分析を行う。

第6章は、第3章から5章までのリーダーシップ構造図、コミュニケーション構造図といったアウトプットの比較を行い、また会話分析を通して共通して分かったことを整理している。そして専門家の役割や他の成員の役割についても論じている。

第7章では、当該技法の有効性・妥当性について評価する。当該技法は、文書データを縮約するしくみと重要な文書へ段階的に近づいていくしくみを包括している。ここでは総括的に、会議録の討議テーマを十分に拾えているか、重要な文書データに到達できているか、などを手順ごとに検証した。

第8章は、第1章の「研究の目的」にしたがって、まず会議録のテキストデータを対象とした「談話分析」や「会話分析」などの質的研究を可能にする技法、及び誰が誰に対してどのようなタイミン

発話量を計測する試みは行われたが、縮約する試みは行われてこなかった。但し筆者は電子情報通信学会（2011年度東京支部学生会研究発表会）及び情報処理学会（2015年度インタラクション）で発表している。

グで、賛成ないし反対したのかといった情報を可視化する技法を第2章で提示できたことを述べる。そして当該技法を実例に適用した場合に大きな問題は生じなかったことを第3章から第6章を通じて示すことができたことを述べる。さらに3つのケーススタディを通して、専門家が果たした役割を第三者が解釈できることを確認できたことを述べるとともに、当該技法の課題や今後の研究計画について述べる。

第9章（補論）は、第2章で概括的に説明した「手順」について、より詳細に説明するために設けた。おそらく分析者が実際の作業過程で迷うであろう箇所について、その判断基準をなるべく詳細に示している。

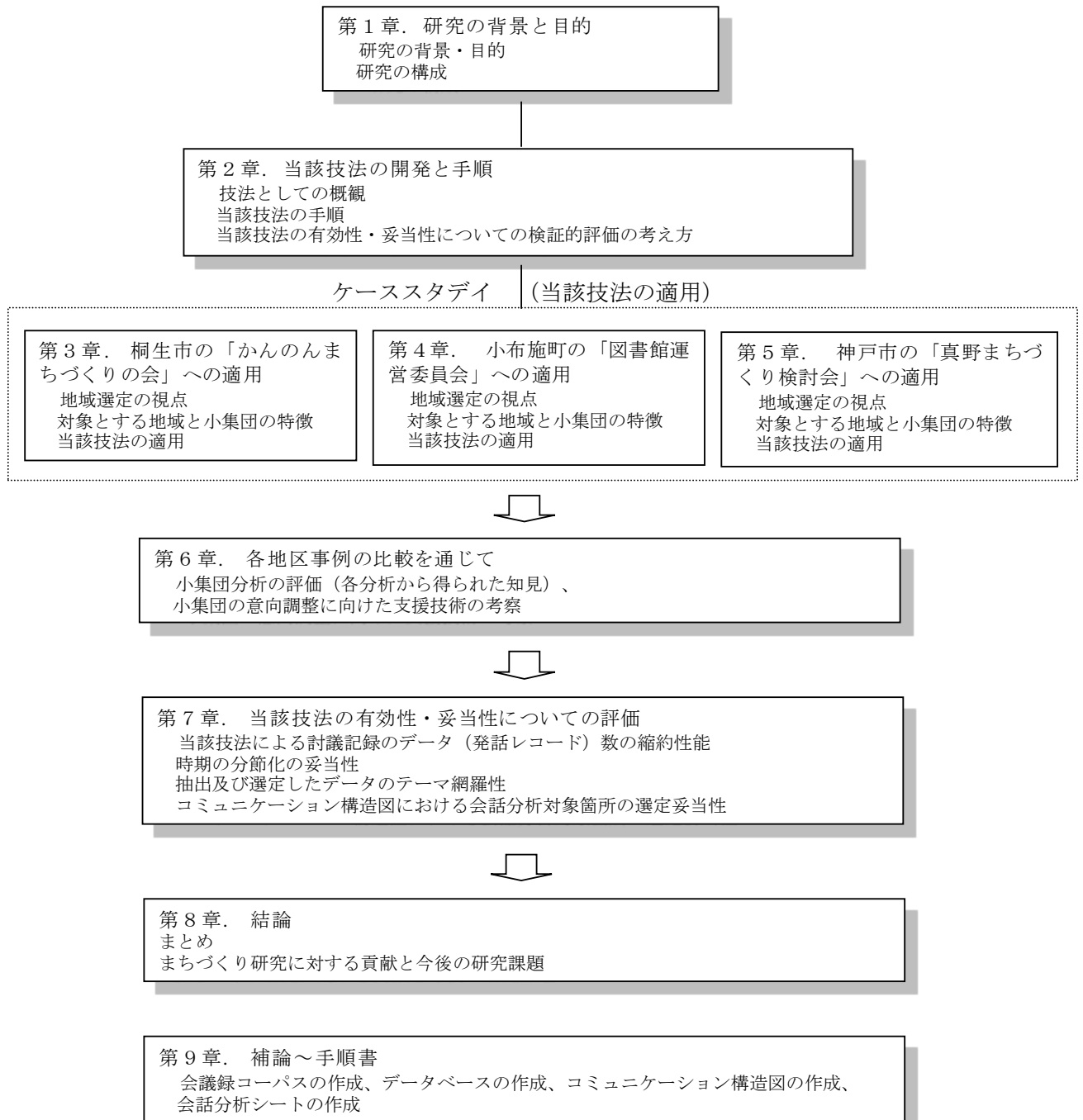


図 1-3-1 本論の構成

第2項 事例の位置づけ

本研究ではケーススタディとして、桐生市の「かんのんまちづくりの会」、小布施町の「図書館建設運営委員会」、神戸市の「真野まちづくり検討会」を選んだ。各事例を選定したねらいは概ね以下のとおりである。

まず「かんのんまちづくりの会」は、まちづくりの小集団の中での意見の相違が集団の分裂を引き起こしている桐生市の住民運動に対して、その原因が各運動の協議の場における討議構造にあるのではないかと考え、果たしてそれがどのような構造であるのかを分析するために近年の住民運動の事例として選んだ。そして当会は2009年が設立から3年目の反省の時期、2010年が4年目の本格運転開始時期にあたり、会の目標をイベント中心とするか古民家再生を中心とするかで意見が対立し、紆余曲折し、やがて古民家再生を中心と決するに至った期間に当たるため、討議においてどのように意見が対立し、どのように解消され、一つの共有目標へ了解されるに至ったのかを明らかにすべく当該技法の適用を行うこととした。

次に、まちづくりの小集団の中での意見の相違が集団の分裂を引き起こしている桐生市の住民運動に対して、どのようにして分裂の危機を克服しているのかを分析するために小布施町の「図書館建設運営委員会」を選んだ。当委員会は新しい交流機能を設計に盛り込むにあたって、旧図書館の利用者や職員と、新たな図書館が想定する利用者層との間で、空間の取り合いをめぐるニーズが対立していたにも関わらず、討議によって了解が得られ、竣工後も様々な利用者による自律的な空間利用の調整が行われている。どのように意向調整が行われ分裂の危機を克服したのかを明らかにすべく当該技法の適用を行うこととした。

真野まちづくり検討会（及びその前段の懇談会）は、30年以上という長い期間を通して継続して会が存続している点が、2年間の期間限定で行われた小布施町図書館建設運営委員会とはどのような類似点ないし相違点が観察できるのかを確認すべく、また、まちづくりの住民運動が相互になかなか連帯できないでいる桐生市と比較するため、研究対象として選んだ。すなわち、真野小学校周辺は3つの自治会の塊が飛び地に入り混じった状況が20年余り続いていて連合自治会の統一ができない中で、具体的にどのような討議プロセスがあり、3人の自治会長がどのように意識を変化させていったのかを明らかにすべく当該技法の適用を行うこととした。

<第1章の参考文献>

i 引用及び脚注で示した文献

- ・朝倉・関野, 1997, 「環境計画の策定段階における住民参加のあり方に関する基礎研究」, 計画行政 vol120, No. 4, p-66-77
- ・足立重和, 2010, 『郡上八幡-伝統を生きる』, 新曜社
- ・有馬明恵, 2014, 『内容分析の方法』, ナカニシヤ出版
- ・ヴィヴィアン・バー, 田中訳, 2002, 『社会構築主義への招待』, 川島書店
- ・梅津正之輔, 2015, 『太子堂・住民参加のまちづくり 暮らしがあるからまちなのだ!』, 学芸出版社
- ・カール・ロジャーズ, 島瀬監修, 加藤・東口訳, 2007, 『ロジャーズのカウンセリング（個人セラピー）の実際』, コスモライブラリー
- ・木下康仁, 2007, 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い』, 弘文堂

- ・ 佐藤・堀田, 2006, 「Web マイニングを用いた因果ネットワークの自動構築手法の開発」, 社会技術研究論文集, vol. 4p-66-74
- ・ 柴山(知)・川端・柴山(真)・佐々木, 2003, 「公共海岸事業の選択における専門家と一般市民」, 海岸工学論文集, vol150, p-1351-1355
- ・ 島田・小泉, 2011, 「汎用テキストマイニングソフトを使った会話分析手法—ミニパブリックにおける会議を分析対象にして—」, 電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会梗概集, p-44
- ・ 島田・小泉, 2015, 「会話記録からワーカー記録を客観的に作成する技法(コミュニティ・オーガナイザーのワーカー記録に関して)」, 情報処理学会インタラクション 2015 論文集, p-477-479
- ・ 須永・原科, 2009, 「廃棄物処理施設の新規建設に関するステークホルダー会議」, 計画行政 vol. 32, No. 1, p-62-73
- ・ 曾根・濱田・田中, 2000, 「都市計画の合意形成に関する研究」, 『土木学会年次学術講演会講演概要集第 4 部』55, p-470-471
- ・ 錦沢・吉村・原科, 1997, 「都市計画マスタープラン策定におけるまちづくりワークショップの現状分析」, 都市計画論文集, vol132, p-253-258
- ・ 橋本鉾市, 2013, 「戦後日本の高等教育関連議員と政策課題—国会における発言量と内容分析—」, 名古屋高等教育研究第 13 号
- ・ ハロルド・ガーフィンケル著, 山田・好井・山崎訳, 2008, 『エスノメソドロジー—社会学的思考の解体—』, せりか書房
- ・ ハワード・シンプソン, 高橋ほか訳, 1994, 『ペプロウの発達モデル』, 医学書院
- ・ 日笠端, 1977, 『都市計画 第 3 版』, 共立出版
- ・ 樋口耕一, 2015, 『社会調査のための計量テキスト分析』, ナカニシヤ出版
- ・ 堀田, 神野, 2001, 「参加型パブリック・マネジメントの情報基盤 CRANES の開発」 土木学会論文集IV-52, 109-120
- ・ 松下竜一, 1972, 『風成の女たち—ある漁村の闘い』, 朝日新聞社
- ・ マレー・G. ロス, 岡村訳, 1963, 『コミュニティ・オーガニゼーション：理論と原則』, 全国社会福祉協議会
- ・ 村山・堀川, 2006, 「環境影響評価における公聴会の実施内容に関する実証的分析」, 環境アセスメント学会誌, vol4, NO. 1, p-77-83
- ・ 安田節之, 2011, 『プログラム評価—対人・コミュニティ援助の質を高めるために』
- ・ 矢野克也, 2010, 『アクション・リサーチ—実践する人間科学』, 新耀社
- ・ 横山・池田・川上, 2001, 「参加型まちづくり手法におけるワークショップの効果と行政の対応について」, 日本建築学会論文集, No. 543, p-223-229
- ・ 吉岡・須永・原科, 2004, 「審議会における学識経験委員と利害関係委員の役割に関する研究」, 日本計画行政学会第 27 回全国大会研究報告要旨集, p-178-181
- ・ 渡辺俊一, 1977, 『アメリカ都市計画とコミュニティ理念』, 技法堂出版
- ・ 渡辺博史, 1966, 『キブツ：イスラエルにみるある村づくり』, 新生活運動協会
- ・ 渡辺博史, 1971, 『ニュータウンと人間開発』 日本教育科学研究所編, 「都市開発とコミュニティ・デザイン」, 鳳舎
- ・ Goffman Erving, 1981, “Forms of talk”, University of Pennsylvania Press
- ・ M. G. Ross, 1955, “Community Organization. Theory and Principles.” New York:Harper&Bros.
- ・ R. T. Hester, “Community Design Primer” , RIDGE TIMES PRESS, 1990
- ・ Tom Angotti, 2011, “New York for Sale—Community planning Confronts Global Real Estate” , MIT PR
- ・ Tom Angotti, 2013, “The new century of the metropolis:urban enclave and orientalism” , New York:Routledge

ii その他の文献

- ・ B. G. グレイザー・A. L. ストラウス著, 後藤・大出・水野訳, 2006, 『データ対話型理論の発見』, 新曜社
- ・ G・C・ホマンズ著, 橋本訳, 2007, 『交換の社会学 G・C・ホマンズの社会行動論』, 世界思想社
- ・ H サックス・E. A. シェグロフ・G. ジェファソン, 西坂訳, 2010, 『会話分析基本論集』, 世界思想社
- ・ P. H. ロッシ・M. W. リブセイ・H. E. フリーマン著, 大島ほか訳, 2004, 『プログラム評価の理論と方法』, 日本評論社
- ・ ROBERT FOREN 著, 宗内訳, 2013, 『ソーシャルケースワークと権威』, 書肆彩光
- ・ 青井和夫・綿貫譲治・大橋幸, 1972, 『集団・組織・リーダーシップ』, 培風館
- ・ 石川淳志・佐藤健二・山田一成, 1999, 『見えないものを見るカー社会調査という認識』, 八千代出版
- ・ 岩見良太郎, 2012, 『場のまちづくりの理論』, 日本経済評論社
- ・ 大塚達雄ほか, 1994, 『ソーシャルケースワーク論』, ミネルヴァ書房
- ・ 奥田道大・有里典三, 2002, 『ホワイト「ストリート・コーナー・ソサエティ」を読むー都市エスノグラフの新しい地平』, ハーベスト社
- ・ 奥田道大・大森彌・越智昇・金子勇・梶田孝道, 1981, 『コミュニティの社会設計』, 有斐閣
- ・ 串田秀也, 2006, 『相互行為秩序と会話分析ー「話し手」と「共-成員性」をめぐる参加の組織化』, 世界思想社
- ・ ケネス・J・ガーゲン著, 東村訳, 『あなたへの社会構成主義』, ナカニシヤ出版
- ・ 戈木クレイグ・ヒル滋子, 2007, 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ理論を生み出すまで』, 新曜社
- ・ 佐藤健二, 1996, 『都市の読解力』, 勁草書房
- ・ ジェイムズ・S・フィッシュキン著, 岩木訳, 『人々の声が響き合うとき』, 早川書房
- ・ 壽福眞美・船橋春俊編, 2012, 『規範理論の探求と公共圏の可能性』, 法政大学出版局
- ・ 鈴木聡志, 2007, 『会話分析・ディスコース分析 ことばの織りなす世界を読み解く』, 新曜社
- ・ 副田義也, 1968, 『コミュニティ・オーガニゼーション 社会福祉事業シリーズ6』, 誠信書房
- ・ 高見沢実編, 2006, 『都市計画の理論』, 学芸出版社
- ・ 武田建, 1972, 『グループワークとカウンセリング』, 日本 YMCA 出版部
- ・ 豊泉周治, 2002, 『ハーバーマスの社会理論』, 世界思想社
- ・ 中野秀一郎, 1999, 『タルコット・パーソンズ』, 東信堂
- ・ ノーマン・フェアクラフ, 2012, 『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』, くろしお出版
- ・ 野口裕二, 2005, 『ナラティブの臨床社会学』, 勁草書房
- ・ 日笠端, 1977, 『コミュニティの空間計画論』, 財団法人第一住宅建設協会
- ・ 坊農真弓・高梨克也, 人工知能学会編, 2009, 『多人数インタラクションの分析手法』, オーム社
- ・ 御厨貴, 2007, 『オーラル・ヒストリー入門 岩波テキストブックス』, 岩波書店
- ・ 山田富秋, 2000, 『日常性批判ーシュッツ・ガーフィンケル・フーコー』, せりか書房
- ・ ロラン・バルト著, 2006, 『テキスト理論の愉しみ』, みすず書房
- ・ 渡辺俊一, 2000, 『「都市計画」の誕生ー国際比較からみた日本近代都市計画ー』, 柏書房
- ・ 好井裕明・山田富秋・西坂仰, 2004, 『会話分析への招待』, 世界思想社
- ・ Charles D Garvin, 1987, " *CONTEMPORARY GROUP WORK* ", Prentice Hall
- ・ PATSY HEALEY, 2006, " *Collaborative Planning* " PALGRAVEMACMILLAN

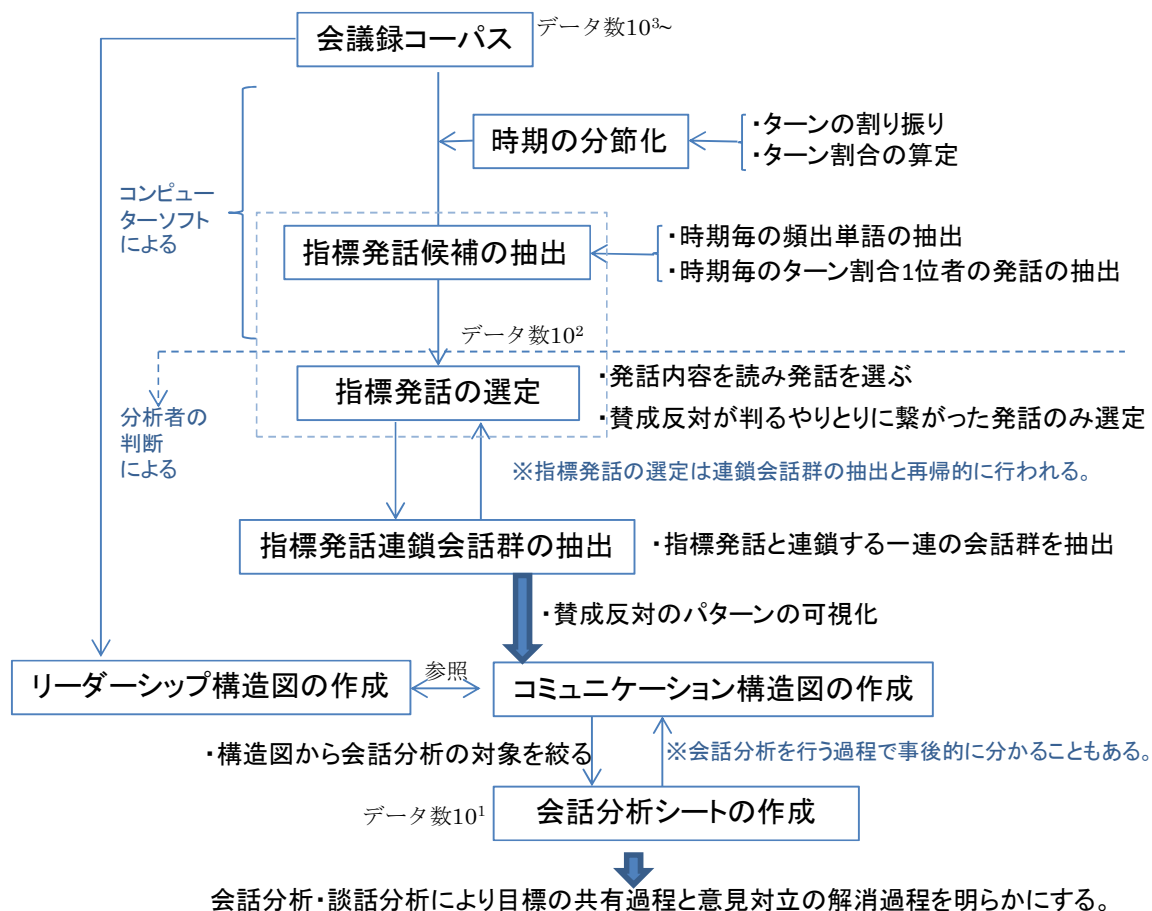
第2章 当該技術の開発と手順

第1節 技法としての概観

第1項 全体的な概観

はじめに当該技法の全体的な概観について説明する。

本技法は最終局面で会話（談話）分析を行い、まちづくり小集団の目標の共有過程や対立の解消過程を分析する。その際、第1章でも述べたように、膨大な会議録をそのまま会話分析することに無理があることから、会議録を縮約する。



■図 2-1-1 当該技法の全体フロー

まず、図 2-1-1 に示すように、会議録（コーパス）をいくつかの時期に分節し、分節された時期ごとに「頻出単語」を抽出する。次に「頻出単語」を含む重要な発話（指標発話）を抽出し、そして次に「指標発話」の前後に連鎖する発話（指標発話連鎖会話群）を抽出する。以上が、データベースを作成するまでの概観であり、「分析対象となる発話を絞り込む作業」であると言える。

この時点で、もとの会議録コーパスのデータ数を相当程度縮約している。縮約にあたっては、まずコンピューター・ソフトウェアによる操作（抽出）を行い、ソフトウェアでは正確に把握できない（言語の内容的）部分を分析者が行い選定する^{注1}。具体的には図 2-1-1 のように、「頻出単語」と「指標発話候補」の「抽出」はソフトウェアを使い、「指標発話」の選定は分析者が読んで判断する。また「指

¹ 当該技法によればソフトウェアによってデータ数は 10^3 レベルから 10^2 レベルまで縮約できており、このまま会話分析を行うことも無理ではないが、より簡便にかつ的確に会話分析すべき個所を絞り込むため、 10^1 レベルまで縮約化を行う。

標発話連鎖会話群」も、分析者が前後に連鎖する発話を読んで（どこからどこまでかを）決める。

さらに、このデータベースで整理された発話全てを肯定的か否定的かに振り分けて記号化した図（コミュニケーション構造図という。）を作成する。

次に、その図の中で特徴的な箇所を選び、会話分析の元となるシート（会話分析シートという。）を作成して会話（談話）分析を行う。

以上が、当該技法の概観である。

第2項 作業工程の基本的考え方

前項で述べたように当該技法は大まかに言えば、最終的に会話分析を行うことと、それを可能にするため、それに適ったデータベースを作成する技法と言うことができ、大きく見ればデータベースの作成過程と分析過程に分かれる。

さらに図 2-1-1 のように、データベースから直接分析するのではなく、その間に「コミュニケーション構造図」や「リーダーシップ構造図」を作成して、視覚的に会話分析箇所を絞り込めるようにしている点が特徴となっている注2。

以下、作業工程の基本的考え方を説明する。

①会議録コーパスの作成

まず、会議録をコンピューター・ソフトウェアで読み取ることが可能なようにテキストデータを適切な形で入力する。これを会議録コーパス^{注3}という。

②時期の分節化

会議録コーパスを相対的に同質なグループに、かつ一定の時期に分けるプロセスを本論では「時期の分節化」（及び分節化された時期を「時期分節」）という。

前述のように最終的に会話分析するためには、その吟味する箇所を会議録から切片化^{注4}しなくてはならないが、そのまま冒頭から切片化していくのには無理があり、実際は会議録全体の某かの構造を把握し、その構造から切片化する箇所を合理的に選択する^{注5}必要がある。

本技法では、発話者の出現率を算定し^{注6}、成員全体の出現率の構成が大きく変化した点で時期を区分し、それぞれの時期から切片化する箇所を選択することとした。

発話者の出現率は、全体の発話総数における発話者の発話数（発話割合）を指すことから、どの成員がどの時期にどのくらい討議に参加したかを表す。

成員全体の出現率の構成の変化は、その成員の小集団における役割分担やテーマに対する関連性を反映するものであり、小集団が初期、発展期、成熟期へと成長・発展していくことや、討議テーマの変わり目など、何らかの討議環境の変化によってもたらされと考えられる。よって当該時期区分毎に何らかの特徴的な討議環境を有していると考えられ、それぞれの時期から切片化する箇所を選択することが合理的と考えたのである。

2 また、その箇所を会話分析箇所として選んだ理由を他者に対して説明するのを容易にする目的もある。

3 コンピューターで計算可能なように体裁づけられた言語データをコーパスという。

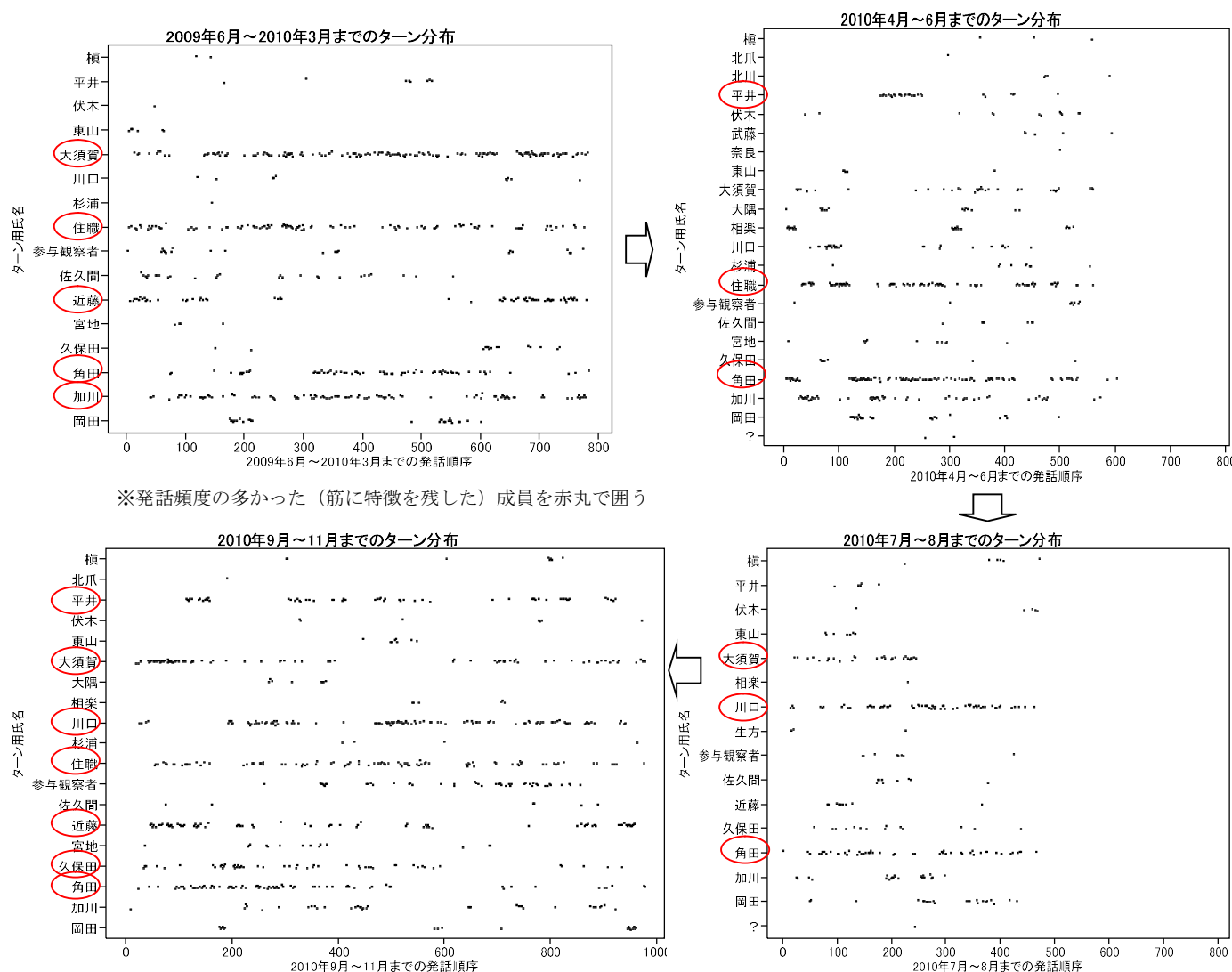
4 ここでは、誰が誰に何をなぜ話したのかを分析できるような一つの局面に限定して記述することをいう。

5 概念的には統計学の「層化」、グラウンデッド・セオリーの「カテゴリー化」に極めて近い。

6 各発話者が各会議でどれだけ登場したか、それはすなわち発話行為の出現率であるが、当該技法では会話分析で言う「ターン」（順番交代が起こるまでの発話区間）の割合を算定する。詳細は後述する。

同時に、この時期区分はその時期に誰が討議をリード⁷しようとしたのかも示唆していると考えられるので、或る種のリーダーシップ構造が分かると考えた。

そこで次の工程で、そのリーダーシップを果たした成員が何をテーマにして話していたのかを把握することでその時期の特徴的な討議内容を把握できると考えたのである。



■図 2-1-2 発話行為の分布の変化

③指標発話候補の抽出と指標発話の選定

前述のようにこの工程では、各時期分節の出現率の高かった成員の発話に注目する。そしてこのうち「頻出単語」を含む発話のことを「指標発話」と呼ぶ。

本論では第 1 章の「目的」で述べたように、まちづくり小集団の討議過程における目標の共有過程や意見対立の解消過程を分析する。そこで、前者についてはどのような目標表現だったのか、後者についてはどのような争点だったのかを把握する必要がある。前述のように、各時期分節はそれぞれ固有の討議環境を有していると思われることから、各々の時期分節から頻出単語を調べるこ

⁷ 積極的な目標表現や意見対立の解消に向けた努力をすること。リードの考え方については第 2 節第 6 項の補注で述べる。

で、その手がかりとなるキーワードを把握することができると考えた。

次に、各時期分節で出現率の高かった成員は、積極的に目標表現を行った結果、もしくは意見対立の当事者なり対立解消を努めた成員なり、いずれにしても争点に積極的に関与した結果、発話行為が多かった成員と考えられる。

よって、各時期分節の出現率の高かった成員の発話の中で（当該時期分節の）「頻出単語」を含む発話に着目することで、すなわち、そのような条件を満たす「指標発話」に着目することで、討議における重要なテーマ（目標や争点）をなるべく漏らさずに把握できると考えたのである。

具体的には、上②の作業工程において各時期分節の中で出現率の高かった発話者^{注8}が明らかになる。また、それとは別に各時期分節で討議テーマを表すようなキーワード（頻出単語）を検索する。この2つの情報からまず機械的に「指標発話候補」（ここではまだ確定していないので「指標発話候補」と呼ぶことにした。）を抽出する^{注9}。

次に、上の工程で抽出した「指標発話候補」を一つ一つ読みながら、討議テーマを表すようなキーワードとして相応しい単語を含む発話だけを選抜し「指標発話」として定める。

前述のように「指標発話」とは「指標発話連鎖会話群」を抽出するための「指標」となる発話である。したがって、前後につながる発話も含めて（読んでみて）、いずれも＜肯定もしくは否定の明確な意志が確認できない発話＞は「指標発話連鎖会話群」にしても有為でないので、省除する。

すなわちこの後半の工程（指標発話の選定）では、選定の判定を分析者が行う。

④指標発話連鎖会話群の抽出

上の工程で抽出した「指標発話」の前後の発話を含め、一連のつながった会話群を抽出する^{注10}。これらの会話群が次の分析工程の対象となるので、本論では「データベース」^{注11}とも呼ぶこととした。

「連鎖」とは、会話分析において「発話の動作主とそれに結びついた発話の相手」という発話主体を同定する考え方から援用したものであり、先述の「指標発話」がどちらかであれば、その相手となる発話までが「連鎖」である。実際は二つの発話のみで構成されるものではなく、その間や前後に複数のやり取りを伴うことから、それらを含めて「指標発話連鎖会話群」とした。これによって、目標表現を誰が行ったのか、誰と誰が意見対立し誰の介入によって解消されたのか、といった振る舞いが確認できる討議過程を選び出すことができると考えたのである。

⑤コミュニケーション構造図の作成

上の工程で抽出した会話群の発話すべてを対象に、一つ一つの発話を読みながら肯定的（Pro.）に続いた発話と否定的（Con.）に続いた発話とに分けて、記号化し図示する^{注12}。この図によって発話相互の関係が分かりやすくなることから、次の会話分析を行うべき箇所を絞り込むことが容易になると考えた。

本論ではまちづくり小集団の討議における目標の共有過程や意見対立の解消過程を会話分析する。その前に、発話間の肯定・否定関係を可視化しておくことが（或る目標表現に誰が「同調」したの

8 本論では「ターン割合」の高かった人物をさす。「ターン割合」については後述する。

9 具体的には、「ターン割合」の1位者の発話から当該頻出単語を含む発話を検出する。詳細は後述する。

10 本論では、会話分析の「連鎖」という概念を援用して一連の会話群を抽出する。詳細は後述する。

11 会議録コーパスを加工した質的分析のためのデータベース。

12 更に2次加工したデータ群。

か、誰と誰が意見「対立」し、誰の介入によって「了解」に至ったのか、といった）会話分析をより効率的に行うことができると考えたからである。

⑥リーダーシップ構造図の作成

「リーダーシップ構造図」は、各会議で会議をリードした人物の変遷を表した図である。前述のように本論では出現率の高かった成員をリーダーシップと見なす¹³。よって、「時期の分節化」の工程ですでにリーダーシップ構造を把握していると言える。ここではその情報からリーダーシップ構造をより視覚的に把握できるよう作図を行う¹⁴。

また、前述のようにリーダーシップ構造の変化は何らかの討議環境の変化を表していると考えられることから、この情報を「コミュニケーション構造図」での（同調・対立・了解といった）発話の相互関係の解釈に資するものとして用いる。

⑦会話分析シートの作成

まず上⑤の工程を通して、会話（談話）分析すべき箇所を絞り込む。そして絞り込んだ箇所について、発話の一つ一つについて、誰が誰に何を話したのかといった基礎データをシートに整理する。これを本論では「会話分析シート」と呼ぶことにした。そして、このシートを使って、会話（談話）分析を行い、目標の共有過程や意見対立の解消過程についての解釈を行う。

以上②から⑦までの過程で、もともとの会議録コーパスのデータ（発話レコード）数を人間（分析者）が簡易に扱えるデータ数¹⁵にまで減らすことができる。この結果、これらのデータを使って会話分析・談話分析を行うことが実質的に可能になる。

以上が、作業工程の概観である。次節において各工程についてのより具体的な手順を説明するが、その前に第1章から使用している専門的な用語を簡単に整理しておく。

■表 2-1-1 本論で使用する用語の説明

用 語	定 義
会話記録	本論では、対人会話を記録したものとして使用し、会議録も含めるものとする。
会話分析	エスノメソドロジーを提唱したガーフィンケル、サックス、ハーベイ、シェグロフなどによって確立されつつある分析手法。彼らは日常会話における手続きの解明を目的とし、いくつかの概念を提示している。本論ではこれらのうち「連鎖」の概念を援用。
談話分析	会話分析が相互行為の手続き（プロセス）を解明しようとするのに対して、談話分析は相互行為に隠された「構造」や「意味」を解明しようとする ¹⁶ 。またそのため文脈（コンテキスト）を解釈する。
言説	研究者によって定義が異なるが、本論では時間と空間を超えて、成員のアイデンティティを反映した、あるいは形成した、その意味で影響力のあった発話のことを「言説」と呼ぶこととした。
分析的方法と記述的方法	分析的方法（analytical method）は、現象の記述を演繹的に単純な要素に分類し当てはめ、共通の因果関係を発見していこうとするのに対して、記述的方法（descriptive method）は、現象の過程や機能を言葉で記述し、説明要因となるべき概念の広がりや関連を帰納的に探ろうとする。
技術、技法	本論では、“skill” の訳として「技能」を、“technique” の訳として「技術」を、“method” の訳として「技法」を用いる。なお「技法」は何らかの「技術」を伴った「方法」のことであり、その意味で「方法」も「技法」と同じ文脈の中で使われることもある。

¹³ 本論ではターン割合の多かった人物をさす。ターン割合についての詳細は後述する。

¹⁴ なお当該構造図は、会議録コーパスから（計量的に）直接作成できるので、手順としては、コミュニケーション構造図の後に作成されるものではなく、会議録コーパス作成後任意の時点で作成可能である。

¹⁵ 本論では3事例の会議録コーパスのデータ数がいずれも10³レベルあり、それを10¹レベルにまで減らすことができる。

¹⁶ 談話分析は言説分析（Discourse Analysis）とも呼ばれ、フッサール現象学の流れをくむ社会構築主義者による定義と、そうでない（例えば内容分析等の）研究者とは大きく定義が異なる（ヴィヴィアン・バー著、田中訳、2002、p-250）が、本論では発話の相互行為に隠された「意味」を解釈するとき「談話分析」という。

会議録コーパス	コーパスとはコンピュータで計算可能なように体裁づけられた言語データを指す。本論では、会議の話者と発話内容が対応して時系列に整理された表形式のテキストデータを「会議録コーパス」といい、以下の「発話」単位で整理されている。
発話	本論では、会議中一人の話者の一つのある連続した区間を持った発言をさすものとする。本論の会議録コーパスは、分析時に発話間の連鎖関係を見る時に、例えば一人の発話者が長時間話した内容をすべて一つの単位としておくと、そのうちの部分が関係しているのが見えにくくなってしまうため、なるべく意味のまとまりとして自然と思われるところで短く区切っておくことが有効であり、初めに分析者が最も自然と思われるところで区切られている ^{注17} 。この一つ一つが「発話レコード」であり、「ターン」とは異なる。
ターン (turn)	話者交替が起こるまで一人の話者が連続して発話した区間。 会話分析ではこれを TCU (ターン構成単位) という概念で厳密に認定を行う場合もあるが、会議では比較的明確に話者交替が行われるので TCU 認定は行わない。具体的には、単なる「あいづち」や「あいさつ」や、はじめからリターンを前提としていない発話を「ターン」から除外する。また複数の発話であってもリターンが1つの場合は1ターンと見なす。
ターン割合	ターンの出現数の構成比。すなわち単位会議あたりのターン総数における或る成員のターン数の割合を意味することから本論では「ターン割合」と称す。
テキストマイニング	主としてコンピューターソフトの検索機能を用いて、知りたい情報を掘り当てることをいう。本論では期間当たりの頻出単語を検索する作業及び、その頻出単語を含む発話者の検索にテキストマイニング・ソフトを用いている。
アセスメント	本論ではグループワーク論から援用し、成員やグループを様々な角度から「状況把握」することを指す。
第1水準の頻出単語	本論では、単位会議あたりに使用された名詞を上位 50 位まで検索し、そのうちまず討議テーマとして意味をなさない名詞 (指示代名詞等) を削除して「(第1水準の) 頻出単語」とした。「指標発話候補」の検索に使用する頻出単語である。
第2水準の頻出単語	本論では、コンピューターソフトで検索された「指標発話」を読み、討議テーマとして有為性のない頻出単語や、他の会議にも現れている単語を落としていった残ったものを「第2水準の頻出単語」とした。
指標発話 指標発話候補	ターン割合上位者の発話の中で頻出単語を含む発話。ただし最終的には発話を読んで頻出単語が討議テーマを表しているかどうかを判断して決める。よって決定するまでは「指標発話候補」とした。
連鎖	会話分析でいう「行為の連鎖」をさす。本論では、「F-S 連鎖」と「拡張連鎖」と「修復連鎖」をいう。
F-S 連鎖	隣接ペア (「initiating action」と「responding action」という二つの発話のペア) という考え方を基本とし、第1成分 (First の頭文字をとって F と称される。) と、第2成分 (Second の頭文字をとって S と称される。) に分解可能な一組の発話をさす。
拡張連鎖	前方連鎖 (前置き連鎖) : F-S 連鎖の前に現れる前置きのなやり取り、挿入連鎖 : F-S 連鎖の F と S の間に現れる挿入的なやりとり、後方連鎖 : F-S 連鎖の後に現れる後付け的なやり取り、の3つをいう。
修復連鎖	なんらかの問題で話者が対話の進行をそのままでは済ませたくないという (了解志向的な) 意思から、トラブル源者の問題を顕在化する発話行為が生じた時「修復の開始」といい、それに呼応してトラブル源を処理しようとした発話行為を「修復の操作」という。本論では、例えば「質問」と「応答」といった連鎖から見て「応答」が来るべき位置に「質問」が来るといった順番交替の乱れが生じ、了解志向的な意思とトラブル源の提示が確認された時に「修復の開始」と見なす。ただし「修復の操作」は必ずしも訪れない。また「訂正」は「修復」の一つである。
セグメント	談話セグメント (discourse segment) ともいう。人は話しながら何らかの「まとまり」を見つけ、それが何に関して話されているのかを或る程度直感的に認定することができると言われている。セグメントには始まりと終わりがあるが、それをどこまでとするかは様々な考え方がある。
指標発話連鎖 会話群	本論では、「指標発話」の前後に「連鎖」する発話のひとつまとまり (セグメント群) を「指標発話連鎖会話群」という。ここでは「頻出単語」や「指標発話」も含めて分かるようになっており、以降の質的分析のデータベースとなる。
構造図	本論では、まちづくり小集団の「グループ構造」を表すものとして「リーダーシップ構造図」と「コミュニケーション構造図」を作成する。
目標表現	成員から自発的に発せられた、小集団にとっての活動目標となるような発話。

¹⁷ この区切り方に明確な基準はないが、「XU1」認定と呼ぶこともある。(坊農,2009,p-97)

第2節 当該技法の手順

第1項 会議録コーパスの作成

①当該技法における会議録コーパスの役割

会議録の文章をコンピュータ・ソフトウェアで読み込むことが可能なようにテキストデータを適切な形で整理したものを^{注18}、「会議録コーパス」と呼ぶ。

先述のように本論では会話分析の対象となる発話の集まりである「指標発話連鎖会話群」をデータベースと位置づけた。このデータベースを作成する過程で「会議録コーパス」はその元となる1次データということが出来る。また「指標発話連鎖会話群」(データベース)が縮約された発話レコードのみ掲載しているのに対して、会議録コーパスは全ての発話レコードを掲載している。データベースに載っていないデータにも必要に応じて随時アクセスすることができるために必要な存在である。

*日付	行番号	ターン用氏	%氏名	発言内容
2007年11月16日	1	古谷	古谷	皆さんこんばんは。この図書館交流センターの設計者に選んでいただきまして本当に光栄に思っています。実は、この間の29日のプレゼンテーションの日は15分間ということで、厳しく時間内に終わるようにと言われたものですから、少し舌足らずなところもあったと思うのですが今日は5分余計に時間をいただきましたので私の考えましたことをお話しようと思います。
2007年11月16日	2		古谷	私自身は先ほどご紹介いただきましたが古谷誠幸と申しまして、このナスカー級建築事務所の代表をしております。また共同代表をしております八木佐千子、それから今回のプロジェクトを担当します、所員の荒木、それから杉下という2名。合計4名で今日はこち
2007年11月16日	3			(プロジェクターで画面を指しながら説明)
2007年11月16日	4		古谷	それでは改めて設計案のご説明を申し上げます。私、この仕事の要綱を頂いた時に、それまでも小布施は大好きなところで何回も来たことはあるですね。宮本忠長先生が学校の大先輩であることもありまして、たびたび邪魔をしておりました。で、ここに図書館というお話で、さてどこに造るのだろうと見たところ、駅の直近の距離のところにありまして、これは良い場所だなと思いました。ですが、小布施の町という思い浮かべると街なかの一番とは少し違う位置にある。そこがこのプロジェクトを考え始め

2007年11月16日	38		古谷	最後になりましたけれども、一つの建築を創りあげるということは、こうやって皆さんと協働する機会が生まれますし、しかも住民の皆さんだけではなく、役場の皆さん、そして我々専門家といったものが、それこそ、みんなの知恵を出し合いますと、1+1+1が3でなくて、5や10になるような、そういう場所になると思います。これから先長い付き合いになると思いますけれども、ぜひよろ
	39			
2007年11月16日	40		教育長	どうもありがとうございました。それでは、貴重な時間ですので、早速質疑応答に入りたいと思います。質問がありましたらどうぞ。
	41			
2007年11月16日	42	女性A	女性A	私の気がついた所で教えてください。いくつかあるのですが、子育てのために他の施設との連携という事もありまして、そうすると今だとエンゼルランドセンター、千年樹とこれから始まる図書館での子育てということをどう繋げていくのかという時に、やはりそこは人が繋げていくのだと思うのです。
2007年11月16日	43		女性A	

■ 図 2-2-1 会議録コーパスの体裁

会議録のデータ情報は基本的に、時間の流れと発話者と発話内容とに分類できるはずである。ソフトウェアで読み込むためには、これらの情報が認識できるようになっていることが必須条件となるが、時間と日付をどのように入力するか、「発話内容」をどのような単位で区切って入力するのか、それにしたがって「発話者」はどのように入力するかという点が合理的に設定されなければならない。

とくに本論の技法では「ターン」(次の順番交代が来るまでの発話区間)が算定できるような体裁が必要となるため、発話内容を「ターン」の単位で入力すべきかどうかという問題も生じる。

またデータベースから随時振り返ることができるように、発話レコードに統一のIDを設定する必要がある。

②会議録コーパスの作成手順

以上のような諸課題を踏まえて、当該技法では以下のような作成手順を考案した。

すなわち本論では図 2-2-1 のように、表頭に「日付」、「行番号」、「ターン用氏名」、「氏名」、「発話内容」を置いてソフトウェアで認識できるようにした^{注19}。

また発話内容の区切り方については、話者交替が起きるまで(「ターン」)の単位で整理することも

¹⁸ これはあくまでも会議録を電子記録化したものであって、以降の分析で用いられるデータベースとは別ものである。

¹⁹ なお本論で使用するテキストマイニングソフトを使用するには、日付の前に「*」を、氏名の前に「%」を表頭に示す必要がある。さらにファイルを CSV 形式で保存しておく必要がある。詳しくは第9章で述べる。

考えられるが、後に切片化した時に不都合とならないようできるだけ最小単位の文章で区分して整理しておくことも必要となるので、本論では、質問、応答など、言語行為をひとまとめでした単位（いわゆる XU1 方式^{注20}）で整理することとした。

そして、「ターン用氏名」列（図 2-2-1 参照）には、ターンに該当しないものは空欄にし、同一人物の「発話内容」が複数ある場合は 1 ターンとして数えるように最上行のみ氏名を記入するようにすることとした。

また、発話レコードの ID については、基本的に各会議のコーパスについて行番号を昇順で付すこととし、日付と行番号を以て ID を認識できるようにした^{注21}。

③既往研究から援用した技法・知見

会議録コーパスは、ありのままに記録した会話記録に相当する。既往研究としては第 1 章で述べたように、近年はテキストデータとして公開されることが増えている。ここではどこで発話を 1 レコードとするのか、が問題となっている。発話行為のひとまとまりをどこまでとするか、については諸説・諸定義づけがあるが、当該技法では前述のとおりいわゆる「XU1」を援用し、分析者が最も自然と思われるところで区切ることにした。

これは、前述のように後に不都合とならないようできるだけ最小単位の文章で整理して必要があることと、また区切りの判断に時間を掛けることで作業効率を低下させないためである。

なお、前述のように時期の分節を行う際と、またリーダーシップ構造図を作成する際に必要となる「ターン」（次の順番交代が来るまでの発話区間）の概念については、会話分析から援用したものであり、これをコーパスに情報として盛り込んだのは当該技法の特徴である。

「ターン(turn)」とは、もともとシェグロフの「ターン・テイキング組織(turn taking organization)^{注22}」(Schegloff,E.A.ほか,1974)に初見され、ゴフマンの著書(『FORMS OF TALK』,E・Goffman,1981,p-23)の中にも見られ、質問や応答など話者交替が起こるまでの一人の話者が発話した区間を定義する用語となった。

ただし、シェグロフを始めとする社会学者の会話分析で対象にするのは日常会話であることから、話者交代が非常に短く、重なり合いも多いことを前提とした定義となっている。その意味で、本論で扱う会議の場合は会話分析のターンの定義とは馴染まないことが多く^{注23}、したがって本論では単に話者交代が起こるまでを 1 つのターン単位とした^{注24}。

²⁰ 「認定者が最も自然と思われるところで区切るのがよい」とされるセグメント境界の認定方法(坊農,2009,p-100)。しかし概念的援用であって、「XU1」の厳密な定義に倣うものではない。

²¹ ただしこれはあくまでも基本的な考え方であって、使い勝手によって若干の応用を行うことも可能である。詳細は第 9 章に述べる。

²² 「順番交替システム」とも訳される。

²³ 会話分析から援用したのはむしろ、次に説明する「連鎖的な組織」や「修復」の概念である。

²⁴ シェグロフが提唱する会話分析のターンの単位は TCU (ターン構成ユニット) という概念で定義するが、認定するには職人芸を要するので、多くの場合、IPU (間休止単位)、IU (韻律単位)、CU (節単位)、SU (スラッシュ単位) などの簡便な手法もとられている (坊農,2009)。しかし本論では、会議を扱っており、話者交代も分かりやすいことから、これらの定義は用いず、単に話者交代が起こるまでを 1 単位とした。

第2項 時期の分節化

①当該技法における時期の分節化の役割

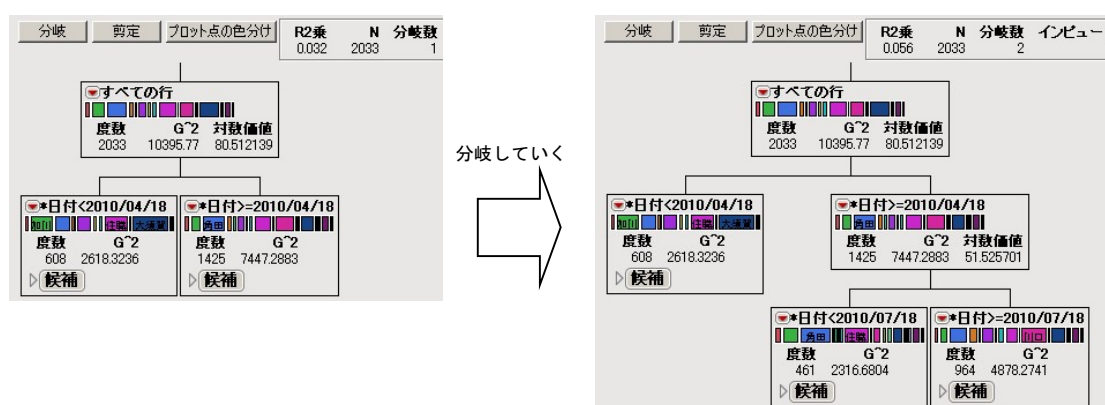
前述のように会議録コーパスを相対的に同質なグループに、かつ継時的に分ける「時期の分節化」を行う。すなわち当該技法では各成員の発話行為の出現率すなわち「ターン割合^{注25}」の構成の大きな変化点によって会議録を分節化することとした。「ターン割合」の変化は何らかの討議環境の変化を示していると考えられることから、各時期分節は各々固有の討議環境を有していると考えられる。よって「時期の分節化」は、「指標発話^{注26}」を相対的に同質な討議環境から抽出するために行われる。

また、「ターン割合」の大きい成員は討議をリードしていた成員であると考えられることから、「リーダーシップ構造図」を作成する工程にも用いられる。

この分節化による会議録全体の構造的把握^{注27}は、同時に以降の「頻出単語」、「指標発話」の抽出・選定及び「指標発話連鎖会話群」を決定づけるものであり、その意味で本論の技法の中でも最も要衝に位置づけられる。

②時期の分節化工程の手順

全成員のターン割合の変化点から、時期の分節の切れ目を導く。本論では（ターン割合の変化点で時期区分を算定する操作を）決定木分析^{注28}を用いて判別する技法を提示する^{注29}。



■図 2-2-2 決定木分析による時期の分節化

具体的には、目的変数を会議録コーパスの「ターン用氏名」、説明変数を「日付」に設定して、決定木分析を行う。すなわち「ターン用氏名」の出現率が統計量として大きな変化を生じるときに、「日付」による分岐点が算定される^{注30}。

この決定木によって、「ターン割合」の構成の大きな変化点^{注31}がどこ(の日付)にあるのかが分かるの

²⁵ 単位時期区分における全成員の発話度数を分母とした当該成員の発話度数。

²⁶ 前述のように会話分析の対象となる発話のデータベースのことを「指標発話連鎖会話群」と呼び、その連鎖の元となる発話を「指標発話」と呼ぶ。

²⁷ 或る種のリーダーシップ構造ないしコミュニケーション構造を把握するものである。

²⁸ 決定木分析にもいくつかの技法があるが、本論ではSAS社製品のJMPに搭載されている決定木分析「パーティション」を用いる。

²⁹ 当該技法では、基本的に小集団のリーダーシップ構造の変化は、小集団が初期、発展期、成熟期へと成長・発展していくことや、討議テーマの変わり目といった、何らかの討議環境の変化によってもたらされると考えている。そこで時期分節は継時的に設定される必要があり、このような当該技法の枠組みの中で、本論では決定木分析（パーティション）による時期分節を行うこととした。

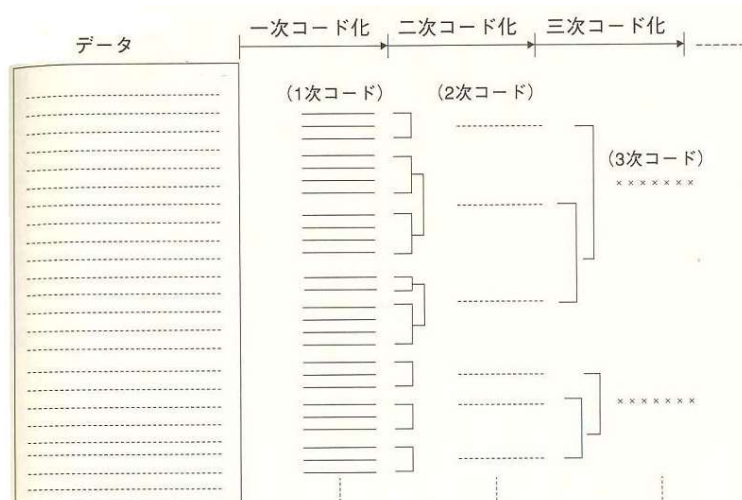
³⁰ 説明変数を「行番号」にしても同様の結果が見られた。当該技法では変化点が日付を跨がないようにするために「日付」を説明変数にとる。

³¹ 発話者の出現率の統計量の変化の大きい箇所をさす。詳細は第9章で述べる。

で、その情報に従って、会議録の時期的な分節を決める。

③既往研究との関連

時期の分節化は、会議録コーパスを相対的に同質なグループに、かつ継時的に分けるプロセスである。第1章で述べたように内容分析やグラウンデッド・セオリーでも同様の工程を伴う。本論の技法は（以降の「頻出単語」、「指標発話」の抽出・選定及び「指標発話連鎖会話群」の抽出過程も含めて）内容分析における（母集団からの）サンプリングやグラウンデッド・セオリーのコーディング（カテゴリー）化と類似している。ただし継時的な変化に着目して時期を区分する点に当該技法の特徴（ちが）がある。



■図 2-2-3 グラウンデッド・セオリーのコーディング・イメージ：出典（木下, 2007）

また既往研究では、発話量をもって討議の活性化度合いを測ろうとした試みもあるが多くない^{注32}。その理由は発話量の元となる単位が実際は設定しづらいからである。

本論では会議録コーパスのレコード単位を発話の自然な切れ目（いわゆる「XU1」^{注33}）で区切ることとした。ただし、図 2-2-1 を見て分かるように、会議の場合では1人の人物がまとめて複数の発話を行う場合（中には数十分も話し続ける場合も）があり、そのようにまとめて発話した人が「発話行為数の多い人」と計測されてしまう。これは会議を「占有した人」または「支配した人」と言うことはできるが、必ずしも「リードした人」とは言えない^{注34}ので誤った分析結果を与えてしまう。

そこで本論は、会議録コーパスのレコード単位とは別に発話量を計測するための単位（ターン）を設けて、使い分けることにした。さらに「ターン」の単位を狭義の会話分析における定義ではなく、単に話者交代が起こるまでの区間とした工夫点については前述したとおりである。

また、既往研究の中で会議の中で影響量を強く与えた「言説」を探し、その内容の変化を計測しようとする試みが「内容分析」において盛んに行われている^{注35}。本論では「会議をリードした人」と目標の共有化過程と対立の解消過程との関係を見ることに目的があり、「言説」を残した人物は必ずしも「会議をリードした人」には当たらないことから、この方法を時期の分節化には用いないが、後の切片化された発話間の談話分析において援用することとした。

³² 曾根ほか,2000,「都市計画決定の合意形成過程に関する研究」,土木学会第55回年次学術講演会,では、発話量として年次毎の「延べ発言回数」を計測しているなどの例が見られる。「ターン」を単位として計測しようとした試みもあるが、前述のように単位についての定義が難しく試行錯誤の段階にある。

³³ 再掲。「認定者が最も自然と思われるところで区切るのがよい」とされるセグメント境界の認定方法。(坊農,2009,p-100)

³⁴ 青井,1972によれば狭義の「リーダーシップ」とは、その影響力が追従者によって自発的に承認されている点にある。

³⁵ ただし、言説を生んだ相互行為については対象にしない。

第3項 指標発話候補の抽出と指標発話の選定

①当該技法における指標発話の役割

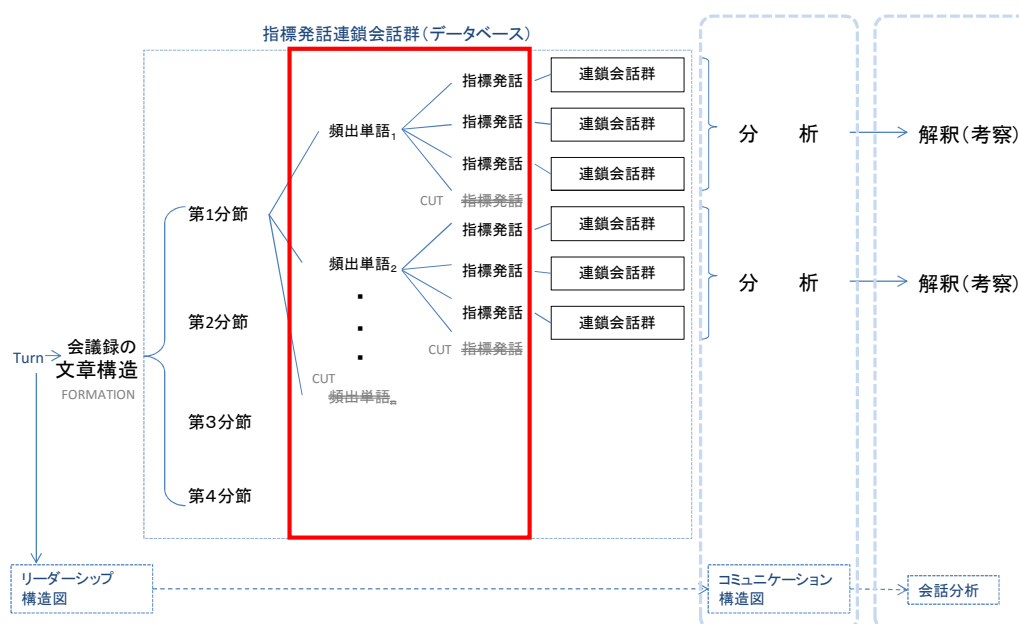
前述のとおり「指標発話」とは、最終的に会話分析する際に対象となる発話のデータベース「指標発話連鎖会話群」の連鎖の元となる発話である。

まずは、各時期分節の「ターン割合」上位者の発話（まずはターン割合1位者の発話から）のうち頻出単語を含む発話を抽出していく^{注36}（これを「指標発話候補」と呼ぶ。）。

{指標発話候補} = {当該時期分節のターン割合 n 位者の発話} ∩ {当該時期分節の頻出単語を含む発話}
n=1 から見ていく。

■図2-2-4 指標発話候補の定義

次に、その中から討議テーマ・争点や討議過程を表している発話を選定する^{注37}こととし、その選定後を「指標発話」と呼ぶこととした。したがって、「指標発話」は図2-2-5に示すように各時期分節の「頻出単語」から導出されたものであると同時に、「指標発話連鎖会話群」を導出するためにある。



■図2-2-5 当該技法における指標発話の位置づけ

②指標発話候補抽出及び指標発話選定の手順

②-1 指標発話候補抽出の手順

（ア）時期分節毎のターン割合上位者の把握

先の「時期の分節化」工程において、同時に各時期分節におけるターン割合上位者は明らかになっている。本論ではまずターン割合1位者の発話から、次の「頻出単語」を含む「指標発話候補」を抽出していく^{注38}。

（イ）時期分節毎の頻出単語の把握

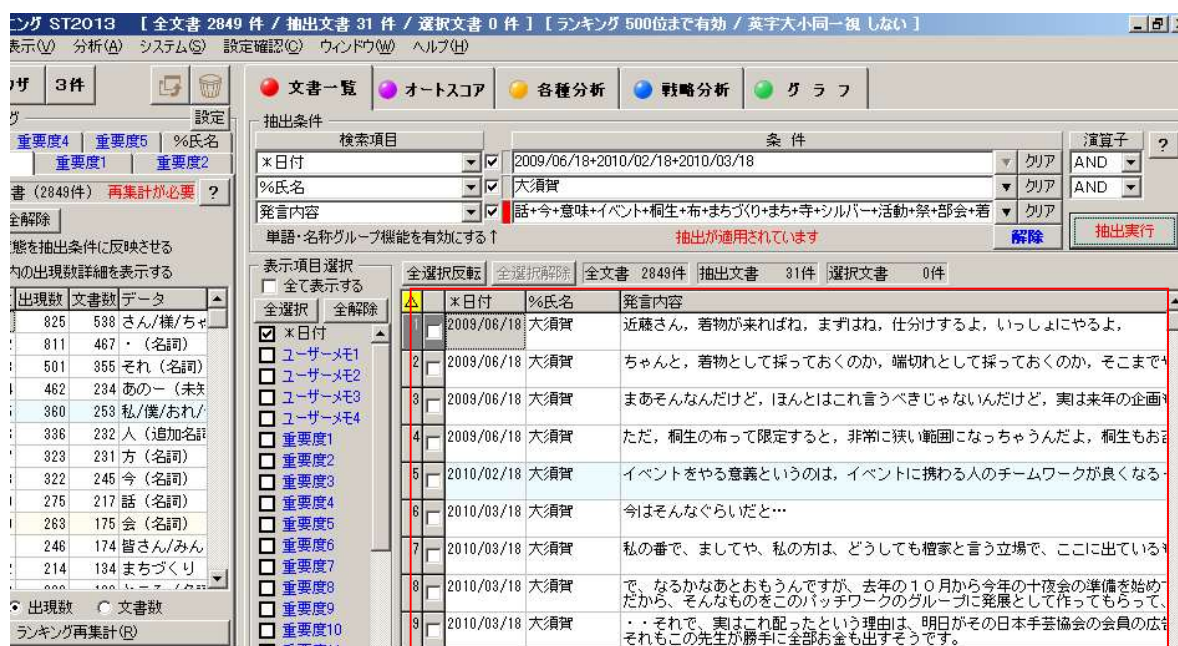
先の「時期の分節化」によって定めた時期分節毎に、頻出する名詞を検索する。

³⁶ 当該技法の中でここまでがコンピューター・ソフトウェアを用いて行われる作業工程である。

³⁷ 前項の工程までは機械的に行っていたが、ここは分析者がはじめて文章を読んで判断することになる。この工程で省除される「指標発話候補」及びその元となった「頻出単語」がある。なお具体的な判断基準については後述する。

³⁸ ターン割合1位者の発話に「頻出単語」の大半がない場合に、ターン割合2位以下の成員の発話を対象にする。

する発話を検索し抽出する^{注44}。



■図 2-2-7 テキストマイニングソフトによるターン割合上位者の頻出単語を含む発話の検索

②-2 指標発話候補の整理と指標発話選定の手順

前述のように「指標発話」は「指標発話連鎖会話群」を導出する「指標 (index)」となる発話であり、それゆえに会話分析の対象となる会話群を直接決定づける発話となる。

本論は、目標の共有化過程と対立の解消過程を見ることに目的があるので、「指標発話」ないし「指標発話連鎖会話群」において、賛成もしくは反対の意思が明確に表れていない発話は対象にしても有為でない。そこで実際に（前後も含め）発話内容を読んで確認する。この工程を次の工程（指標発話連鎖会話群の抽出）との関連も含めて図 2-2-8 のフローに表した^{注45}。

まずは、前工程で抽出していた「指標発話候補」を読むことにより、「頻出単語（第一水準）」が発話の中でどのような意味を果たしているかが明らかになり、実際に討議テーマとなっていたかどうか分かってくるので、その（単語が）時期区分の討議テーマとして有為な意味を果たしていないと判断された場合、（その単語を含む）「指標発話候補」を（候補から）取り下げる^{注46}。この結果、「指標発話候補」が整理されると同時に、結果的に有為と判断された「頻出単語」も決定する^{注47}。そしてこのようにして残った「指標発話候補」を一つ一つ読みながら討議テーマとして有為な発話だけに絞り込んでいく^{注48}。

このように「指標発話の選定」は、まず頻出単語自体を篩にかける作業（第二水準の選定作業）から始まり、次に一つの頻出単語から検索された複数の発話について、（そのうちどれが当該時期分節の討議テーマを含む発話なのかという視点で）発話を篩い落とすといった二つの工程を持っている。そ

44 「指標発話候補」とは、このようにテキストマイニングソフトで検索してから、次の工程で「指標発話」が選定されるまでの間の発話レコードを言う。

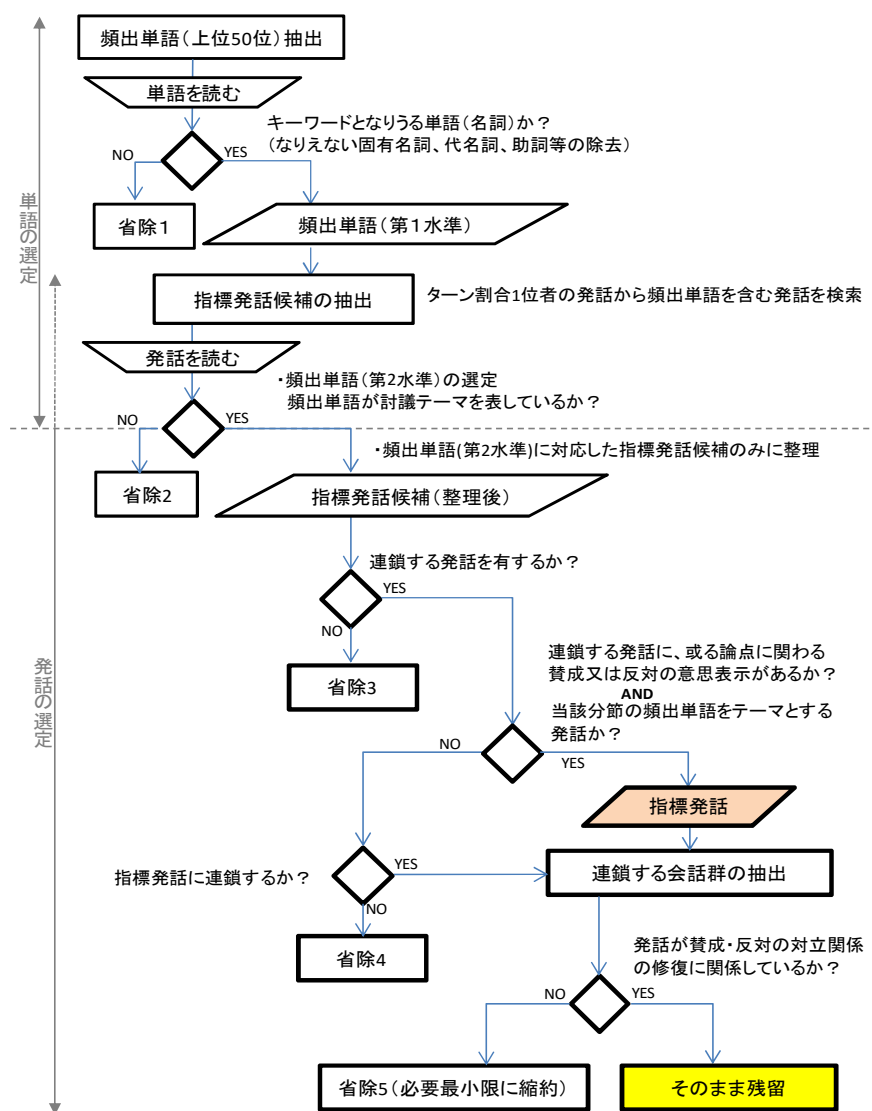
45 ただし、図中の「連鎖」や「修復」の意味については第 4 項で述べる。

46 すなわち「単語」が討議テーマを表しているかどうかという評価に従い「発話」を省除する。この工程を本論では「指標発話候補の整理」という。

47 これを本論では「第 2 水準の指標発話」という。

48 この工程を本論では「指標発話の選定」という。

して、この結果絞り込まれた発話が「指標発話」となる。



■図 2-2-8 「指標発話」の選定及び連鎖会話群の抽出フロー

(ア) 頻出単語自体を篩にかける

具体的には、頻出単語毎にそれを含む発話を読んでいくと、ほとんどの場合、一つの頻出単語に複数の発話が発見される。その一つ一つの発話ごとに「討議テーマとして有為な単語か」という視点で読み、合致している発話があれば、その発話を「指標発話候補」に残す^{注49}。

これは分析者の判断に委ねることになるので、判断の基準を以下のように設定した。すなわち単語が以下のいずれの不適合条件^{注50}にもく当たらない場合は「頻出単語（第二水準）」と判定し、その単語を含む発話を「指標発話候補」に残すこととした。換言すれば、いずれの発話も（頻出単語が）以下のいずれかに該当する場合は、その「頻出単語」を「頻出単語（第2水準）」から取り下げることとした^{注51}（図 2-2-8 省除 2）。

（i）各時期分節の討議テーマとして用いられていない。

まず「指標発話候補の抽出」時点でターン割合 1 位者の発話の中に検出されなかった単語、又は

49 あくまでもここでは単語を吟味しているが、発話を読んでいることに注意されたい。

50 いわゆる消去法による選別を行うためである。

51 すなわち討議テーマのキーワードとなりうる「頻出単語」ではなかったと判断したことになる。

テキストマイニングソフトの特性に由来するもの^{注52}も含め、その単語が討議テーマ（目標表現や争点）として用いられていない可能性が高い場合^{注53}。

(ii) その単語を含む発話に何らかの賛成・反対を有していない

「頻出単語」を含む語句が主語や目的語ないし述語の一部になっている場合、「指標発話候補」を読んだだけでは、いわゆる常用句として（または派生的な話題のなかで）使用されているのか、討議テーマとして使用されているかの判断が難しいことがある^{注54}。その場合は、発話の中に何らかの肯定的ないし否定的意思が存在しない^{注55}ことを以て、常用句（ないし派生的話題）として使用されていると判断する。

■表 2-2-1 第 1 水準の頻出単語のうち削除された単語とその理由の例（桐生事例より引用）

時期区分	第 1 水準のうち削除された単語	使用例	理由
第 1 分節	話	いい話だね、今の話でいくとさ	討議テーマとして用いられていない。
	今	今ここに参加させていただいて今年の…、今日は…	討議テーマとして用いられていない。
	意味	ある意味で…、そういう意味では	討議テーマとして用いられていない。
	桐生	桐生にも…、桐生はね…	何らかの賛成・反対を有していない。
	まち/町	この町で…、まちの…、まちを…	何らかの賛成・反対を有していない。
	活動	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
	部会	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
第 2 分節	桐生	桐生の…、桐生地域の…	何らかの賛成・反対を有していない。
第 3 分節	会	かんのんまちづくりの会、会を…	何らかの賛成・反対を有していない。
	今	今…、今後…、今日…	討議テーマとして用いられていない。
	お願い	…よろしくお願いします。	討議テーマとして用いられていない。
	まち/町/街	まちの…、どこのまちも…	何らかの賛成・反対を有していない。
	企画	…企画、企画したり…、企画推進	何らかの賛成・反対を有していない。
第 4 分節	時/時間	何時だ、10 時ごろとか…	討議テーマとして用いられていない。

*は「指標発話候補」の抽出過程ですでに判明したものである。

(イ) 発話を篩い分ける

次に、同じ頻出単語につき複数の「指標発話候補」が検出されている場合、その一つ一つの発話が「指標発話」として相応しいかどうかを判定する。

まず前述の工程（ア）で、一つの頻出単語を含む複数の発話のうち「頻出単語」が討議テーマを表していると判定されれば、それを含む発話を「指標発話候補」として整理することとした。一方で、その頻出単語を含むいずれかの発話が、上述の(i)、(ii)に該当する場合は、「指標発話候補」から省除の対象となる。

次に、改めて前後の発話も含めて読んで以下のような基準で「指標発話」に絞り込む。これについても分析者の判断に委ねることになるので、判断の基準を設定した。すなわち以下の不適格条件のい

⁵² ソフトウェアが「類語」として見なした単語であって、だが実際にはターン割合 1 位者の発話の中に存在しない又は 1 度しか現れないケース等。詳細は第 9 章で述べる。

⁵³ いわゆる常用句の一部を構成している場合や、派生的な話題で登場しただけであって討議テーマとなっていない場合。

⁵⁴ 例えば「会」、「桐生」など、主語や目的語として使われていて、同じ頻出単語が他の時期分節にも頻出している場合には、いわゆる常用句の一部を構成しているだけであって討議テーマとなっていない可能性がある。しかし、発話の内容からだけで判断するのは難しい場合は、賛成・反対の意思の有無で判断する。

⁵⁵ ここでは対立構造の有無までは判別しない。

ずれにも＜該当しない＞発話は「指標発話」と判定する（該当する場合は省除する）こととした。

（iii）前後に連鎖^{注56}する発話を有していない。（同図省除3参照）

一つの「頻出単語」を含む複数の発話について、或る発話については連鎖する発話を有していない場合が考えられる。そのような発話は「指標発話」になりえないので、省除する^{注57}。

（iv）連鎖する発話に、賛成・反対の意思表示がない。（同図省除4参照）

連鎖する発話に、或る論点に関わる賛成・反対の明白な意思表示が見られない場合^{注58}。

（v）他の頻出単語をテーマとした発話内容となっている。（同図省除4参照）

他の時期分節の別の「頻出単語」が論点になっている場合。

同じ時期分節の別の「頻出単語」が論点になっている場合。

発話番号	年月日	発話者	発話内容	頻出単語	
18	2009/6/18	大須賀	近藤さん、着物が来ればね。まずはね、仕分けするよ、いっしょにやるよ。	着物	
20	2009/6/18	大須賀	ちゃんと、着物として採っておくのか、端切れとして採っておくのか、そこまでやるよ。	着物	
37	2009/6/18	大須賀	まあそんなんだけど、ほんとにこれ言うべきじゃないんだけど、実は来年の企画も僕は考えていたんだよ、今年はあんまりやるつもりなかったんだけど、来年は、あの……パッチワーク展をやるつもりでいるのよ、10月18日、お十夜にね、それは、もうパッチワークのグループに話してあるのよ、ただし、桐生の布を使ったものじゃないとだめだよって、えー、パッチワーク展を来年はやるつもりでいるんだ、自分勝手にね、そうすると、これも多少縁があるかなっていう気がするけどね。	布	
65	2009/6/18	大須賀	ただ、桐生の布って限定すると、非常に狭い範囲になっちゃうんだよ、桐生もお召しとか、いろんなもの作ってたけど、	布	
3	2010/2/18	大須賀	イベントをやる意義というのは、イベントに携わる人のチームワークが良くなるってこと、昨年の11月にやったように、ああいうチームワークが必要なんだよ、	イベント	
34	2010/3/18	大須賀	私の番で、ましてや、私の方は、どうしても植家と言う立場で、ここに出ているものですか、イベントという、浄蓮寺の植家さんに少しでも寺に来てもらうようにしなくてはいいかという意識が太さ強いものでして、今年の十夜会はずっと10月16日でもいいんですか？第3土曜日が16日なんですよ。	イベント	
40	2010/3/18	大須賀	…それで、実はこれ配ったという理由は、明日がその日本手芸協会の会員の広告に、この催しのことを掲載したいという要望があるんです。それもお金がからまないでいいからということです。我々はお金がからまないでいいからということです。で、これが、10月の十夜会についてのこのプリントを見ていただければという気がいたします。次にガーデニングについてなんです、ちょっと私の考え方は、皆さんと若干違っているかと思うんですが、何回かガーデニングをやったんですが、非常に原価率が高かった。土の準備、それから苗の準備、で、1回あたりの費用で10万円ぐらしかかっていたのではないかと思います。次回やるとすれば、もっと原価率を下げる必要が僕はあると思います。それと花を配ったんですが、果たして、6丁目・巴町でいいのかと、非常に僕は疑問に思います。というのは、普段、まちづくりにも出てこないようなところに人のところに着いてたって、価値がないような気もするし、逆にいうと、まちづくりに出てこないんだから、水くぐらばやればよ、それがまちづくりの最低の何というのかな？みちづれだ、考えがあっても出来ると思うんですが、いずれにせよ、ガーデニングについては、ちょっと本町1・2丁目で行っているような自分で朝晩の種を撒いてやる、そういうふうに行った方がいいんじゃないかなと、私は思っております。それとまた去年3月6日に桐生町立で400人というところで参加したんですが、あれも非常に我々としてはお金をかけずに何もしないで、あれだけの宣伝が出来たというのが、浄蓮寺を宣伝する意味で、非常に良かったかと思っております。桐生の週刊誌で、33観音の募集が出ていますが、また違う意味で、桐生市民も浄蓮寺の33観音について認識するような僕はイメージを持っております。イベントについては、そんなに手間をかけないでやれたらいいなあと思っております。皆さん、よろしく。	イベント	まちづくり
123	2010/3/18	大須賀	イベント部会の、さっき、ほら、川口さんが言ってたじゃない、だから、シルバーの中のイベントって言った方がいいかもしれないよね？	イベント	シルバー
309	2010/3/18	大須賀	何かちょっとこれやるでしょう？ひな祭り…	祭り	
320	2010/3/18	大須賀	で、今度の4月、桐生はね、4月4日がひな祭りなんです。これは凄く売りになると思います。	祭り	
374	2010/3/18	大須賀	真壁の写真を見てちよつと思っただけ。必ず、人形の周りに古い着物を陳列してあるんです。	着物	
482	2010/3/18	大須賀	イベント関係なので、6月の6丁目のフリーマーケット…	イベント	

※指標発話のセルを赤く塗る。表中のように同じ頻出単語でも内容の違いによって複数の指標発話が選定されてよい。

■図 2-2-9 指標発話選定後の表記例

③既往研究との関連

このように「時期の分節化」、「頻出単語」の抽出を経て「指標発話候補」を抽出する工程は、会議録コーパスの中から重要な発話を絞り込む「計量テキスト分析」の技法であると言える。前述のように内容分析やグラウンデッド・セオリーでも独特の絞り込みを行い、カテゴリー毎の代表的な発話を選ぶ点では類似しているが、本論の技法はまず継時的な変化量に従って（「いつ」と「いつ」ではなく）いつからいつまでというカテゴリー化を行っている点に特徴（ちがい）がある^{注59}。

56 連鎖とは「話し手」と「受け手」のような関係で繋がることを意味する。詳細は第4項で述べる。

57 一つの頻出単語に複数の発話が検索される場合があるので、このような状況も起こりうる。

58 各分節の討議内容を表す代表的な発話を「指標発話」とするのであるから、連鎖する発話に賛成・反対の明白な意思表示がない「指標発話候補」は「指標発話」に選定する必要がない。また本来ならば、省除2(ii)の時点で行えばよい「判断」かもしれないが、その時点で判断するとなると作業の効率が著しく損なわれるため、この時点で行う。

59 内容分析では母数集団と統計学的な代表性を持ったサンプリングを行う。グラウンデッド・セオリーではコーディングやカテゴリーの概念化で分類していく。樋口(2015,p-16)は「グラウンデッド・セオリーの考え方がより直接的に計量テキスト分析に取り入れられている」と述べる。近年、CAQDAS(computer-assisted analysis of qualitative data)など、グラウンデッド・セオリー・アプローチをソフトウェアで行う研究も盛んに行われており (Seale,2000)、国内では川端,2001が詳しい。しかし現時点においても継時的なカテゴリー化は行われていない。

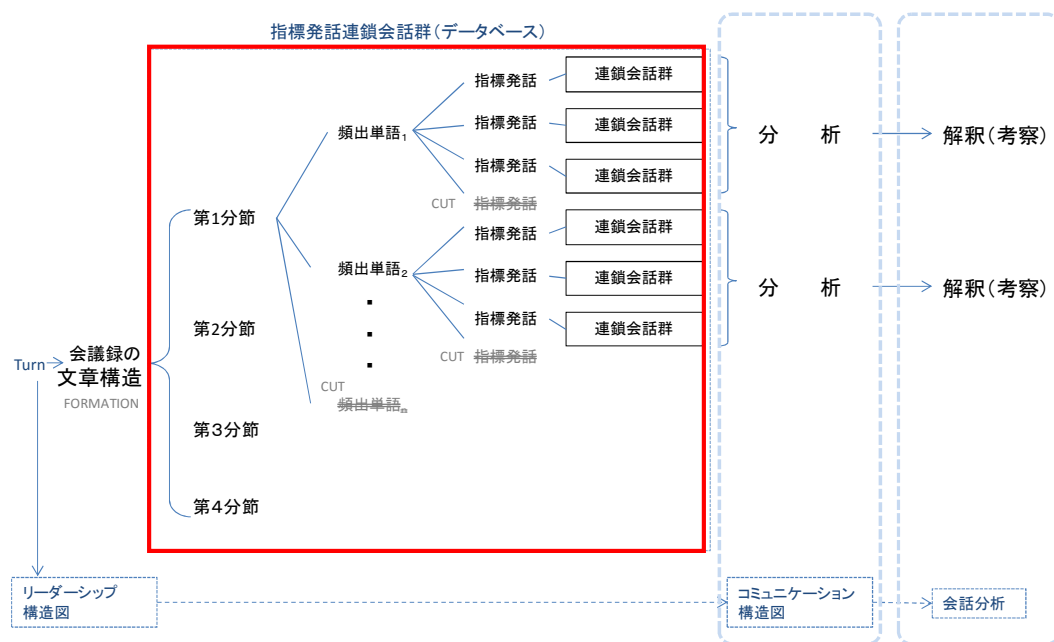
第4項 指標発話連鎖会話群の抽出

①当該技法における指標発話連鎖会話群の役割

「指標発話連鎖会話群」は、次の「コミュニケーション構造図」作成及びその先の「会話（談話）分析」で分析対象となる（テキストデータの）データベースとなる。

同時に「指標発話連鎖会話群」は、各「指標発話」とそれに連鎖^{注60}する発話が「連続するひとまとまりの発話はどこからどこまでなのか」を示している。

そして、必要に応じてその元となっている「指標発話」や「頻出単語」に遡ることができるように、「指標発話」と「頻出単語」を包含しており、分節された時期ごとの「頻出単語」と、それを含むターン割合上位者^{注61}の発話「指標発話」と、それに連鎖する会話群「指標発話連鎖会話群」の3つの情報が盛り込まれている。



■図 2-2-10 当該技法におけるデータベースの位置づけ

②指標発話連鎖会話群の抽出手順

前項で述べたように「指標発話」の選定時に前後に連鎖する発話を読むことから、「指標発話連鎖会話群」の抽出作業は、実際はすでに「指標発話」の選定から始まっている部分もあるが、ここでは、「指標発話候補」の一つ一つの連鎖（前後に繋がる発話）を調べ、ひとまとまりの会話群がどこからどこまでかを選定する作業になる。

この「ひとまとまり」の選定にあたっては、本論では最終的に会話分析を行うことに配慮して次のような基準を設けて行うことが効果的と考えた。

（ア）前への遡り基準

前に連鎖する発話は、「F-S 連鎖（話し手と受け手の連鎖）」^{注62}の第1成分（F）に相当する「質問」、

⁶⁰ 発話を基本的に「話し手」と「受け手」に分けた場合、どちらかに該当する発話のことを「連鎖する発話」という。（また、どちらかに該当しない場合でも互いに何らかのトラブル源を解決したいという了解志向的なやりとりの場合も該当する。）

⁶¹ 本論では例外を除いて第1位者。（桐生事例の一部で第2位者の発話も使用した。）

⁶² 会話分析ではターン・テーク（順番交代）の中に、話し手と受け手の基本的な相互行為パターンがあると考えてお

■表 2-2-2 F-S 連鎖の組み合わせ例

また「F-S連鎖」が見受けられないもしくは疑わしい場合であっても、互いに何らかのトラブル源^{注64}の「修復」^{注65}を試みようとしているやりとりがある場合は「トラブル源」に相当する発話が現われるまで遡る。

後に連鎖する発話は、「F-S 連鎖」の第 2 成分 (S) に相当する「返答」、「受諾／拒否」、「同意／不同意」等が現われるまで、又は「修復」連鎖にある場合は修復が完了するまで^{注66} 記入していく。

※発話内容の先頭列に「指標発話」を記入し^{注67}、右に向かって「前」、「後」と交互に、発話を記入するようになっている。

り、そのうち表 2-2-2 のような相互行為パターンを「F—S 連鎖」または「隣接ペア」と呼ぶ。なおこの F,S は First, Second のイニシャルであり、第一成分、第二成分の略である。

65 会話分析では、何らかの問題（トラブル源）を含んでいるため、そのまま会話を続けられない時に行われる行為の連鎖を「修復」の連鎖という。そのトラブル源を特定する行為を「修復の開始」という。そしてそれに対して修復を実行する行為を「修復の操作」という。また「修復の操作」によって互いの了解が得られた場合「修復の完了」という。「修復」は互いに了解を志向する中で、会話の順番交替システムが一時的に乱れた時に、それに対処するために行われるものである。しかしながらその認定には職人芸を必要とし、多くの場合専門家間での議論を要する。本論の目的は会話分析を行うための簡便なデータ縮約技法に重きを置いていることから、狭義の会話分析における「修復」と一致するか否かの真偽については問わない。また後章で各事例の会話分析例を紹介するが、その真偽によって本論の結論を左右するものではない。

⁶⁷ index として見やすく整理するためである。

(ウ) 同じ話題を繰り返す場合やとりとめもなく話題が変化していく場合

前後に連鎖する発話を遡ると、同じ話題を何度も繰り返すパターンや、とりとめもなく話題が変化していくパターンに遭遇する場合がある。このようなケースでは「F-S 連鎖」や「修復の連鎖」が見えにくくなっている。またすべて拾うとなると大変な作業になることがあるので、以下のような基準で対処することとした^{注68}。

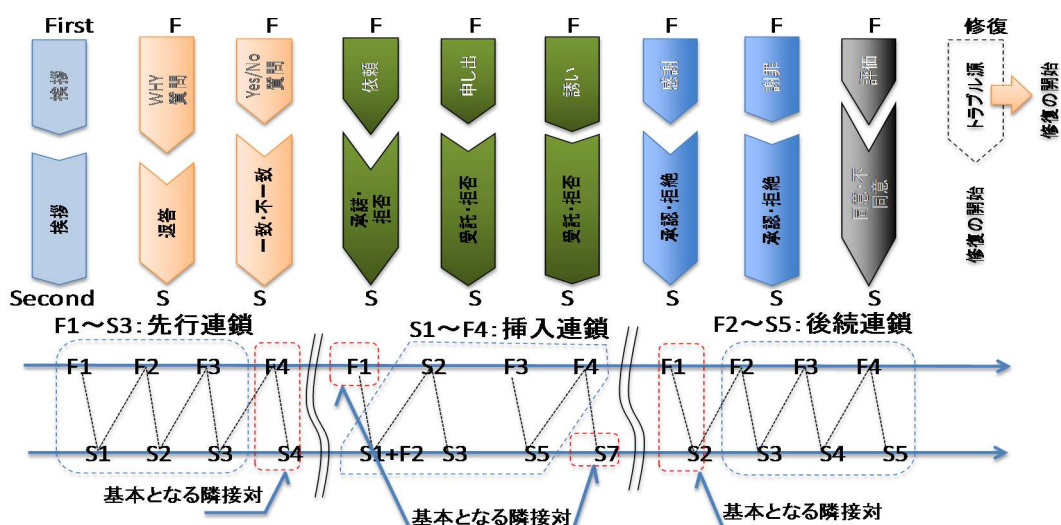
すなわち、大きな意味を持った第1成分 (F) と第2成分 (S) の間に、階層的にその下の小さな意味を持った多くの F-S 連鎖が挿入されている場合は、基本的に肯定ないし否定的意味が繋がる範囲で最小限の「F-S 連鎖」にまとめることとする。

また、「修復の開始」をしてもなかなか「修復の操作」に至らない場合や、「修復の操作」をしてもなかなか修復が完了せず、延々と「修復の操作」が続く場合は、争点の対立関係がある場合には忠実に拾い、争点の対立関係がない場合には「トラブル源」と「修復の開始」と「修復の操作」の3つにまとめることとする。

③既往研究から援用した技法・知見

上述の「F-S 連鎖」や「修復の連鎖」は会話分析から援用した概念である。そのうち前者は、「連鎖」を表 2-2-2 のように、「第1成分 (First)」と「第2成分 (Second)」に分解した組み合わせと考える。

会話分析では基本的にこの「F-S 連鎖」に着眼しながら分析を行うので、本論でも最終的に会話分析を行うことからデータベースにおいてもそれに配慮して整理することが効果的と考えた。



■図 2-2-12 会話分析における「連鎖」とは

また「修復」^{注69}も連鎖の一つで、前の発話者の語句の中に何らかの問題（トラブル源）を含んでいるため、そのまま会話を続けられない時に行われる行為であり、互いに了解を志向する中で、会話の順番交替システムが一時的に乱れ、それに対処するために行われる一連の連鎖であると考えられている。本論では意見対立の解消過程を分析する際に、この概念を援用して「修復連鎖」に着眼しながら分析を行うことから、データベースにおいてもそれに配慮して整理することが効果的と考えた。

⁶⁸ 詳細な基準は第9章で述べる。

⁶⁹ 「発話、聞き取り、理解に関するトラブルの修復」(サックス、シュグロフ、ジェファソン著、西坂訳、2010、p-18 脚注)の「修復」を指す。

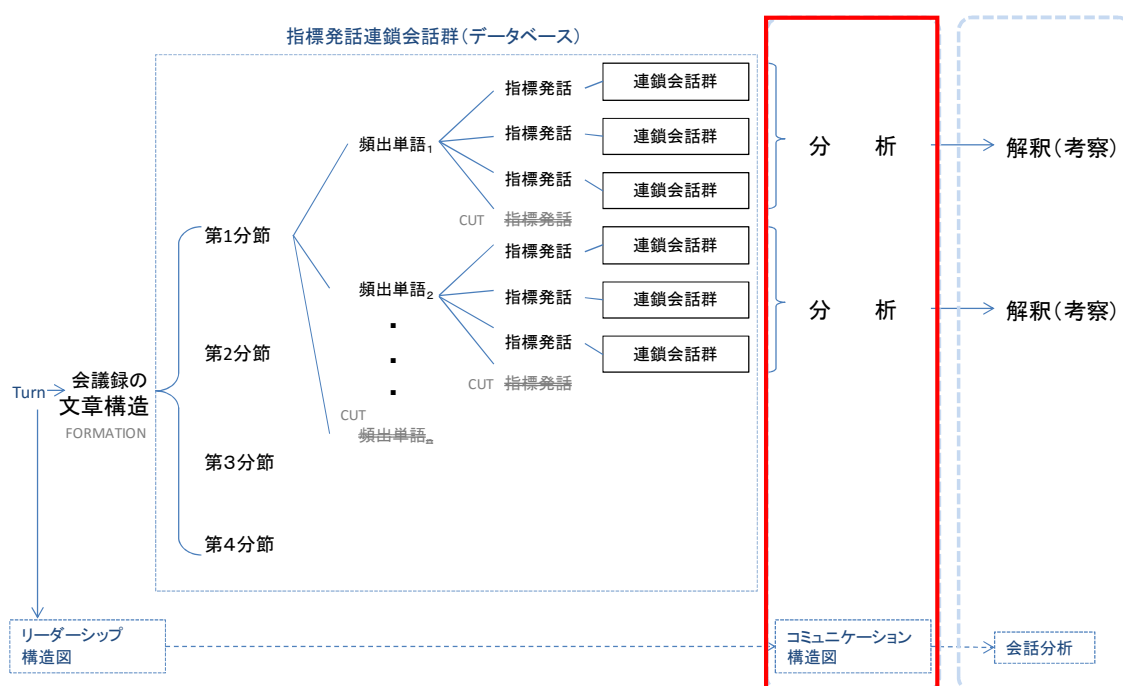
第5項 コミュニケーション構造図の作成

①当該技法におけるコミュニケーション構造図の役割

「コミュニケーション構造図」は、前工程で整理されたデータベースの各発話を主体ごとに「賛成」・「反対」・「どちらでもない」に分別して、賛成・反対のパターンが一目できるように図化したもので、次の「会話分析」を行う対象箇所を選定しやすくするために作図されるものである。

本論では最終的に目標の共有過程や意見対立の解消過程を分析する。目標表現に誰が同調したのか、誰と誰が意見対立し誰の介入によって了解に至ったのか、といった討議過程を見出すために、まず発話間の肯定・否定関係を分かりやすく可視化しておくことが効果的だと考えた。

すなわち、この図を通して、いつ誰が誰に話したのか、そしてそれは肯定的だったのか否定的だったのかという情報のみを記号として可視化することで、賛成・反対のパターン、あるいはその構造的特徴⁷⁰を見やすくする。



■図 2-2-13 当該技法におけるコミュニケーション構造図の位置づけ

②コミュニケーション構造図作成の手順

ここでは発話のやり取りのパターン、すなわち誰がいつ発話したか、その内容が肯定的か否定的か、誰に対して行われたか、といった情報が分かればよい。

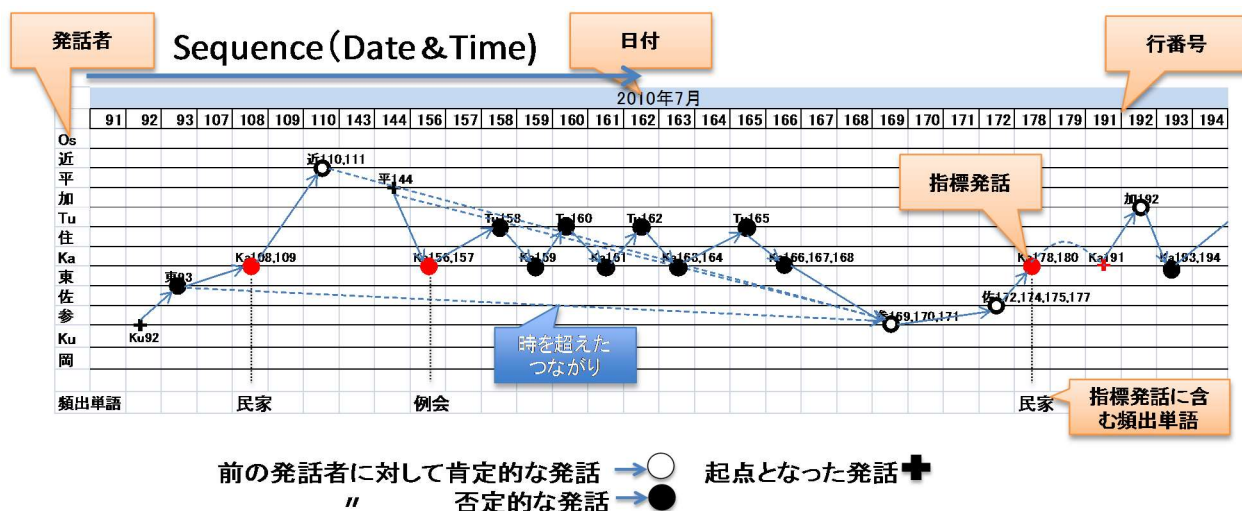
本論で提示する技法では「指標発話連鎖会話群」に記入された発話を図 2-2-14 に示すように、発話相手に対して「肯定的（pros）であったか」・「否定的（cons）であったか」に分類して時間軸上に並べていく⁷¹。起点となった発話や、肯定とも否定とも言えない発話は十字で表す。また、矢印で発話の順番を示し、その際、「F-S 連鎖」や「修復連鎖」のように（会話分析の）連鎖に相当するものは実線で結び、それ以外の＜意味＞の繋がりにから時を超えて関係を結ぶ場合は破線で結ぶ⁷²。

⁷⁰ 賛成・反対の相互行為がどのように編成されているか。

⁷¹ この技法はオリジナルであり、2016 年 2 月「計画行政」39(1)に初めて公開された。発話者の並べ方など、詳細は第 9 章で述べる。

⁷² 会議では、必ずしも直前の発話者に対するのみならず、遡って過去の発話者に対して意見ないし質問することが普通に

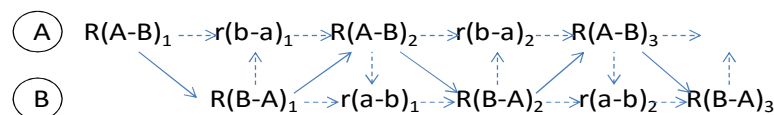
また同一人物の言い直しや補足に該当する発話も（前の発話と）破線で結ぶ⁷³。



■図 2-2-14 「コミュニケーション構造図」の作成例

③既往研究から援用した技法・知見

青井（1972）によれば、対話を通じて次第に相手の出方とそれに対する期待から自分の次の行動を起こすような志向が生じ相互作用のパターンが生成してくると言う⁷⁴。



※小文字は大文字で書いた相手方の行動に対する「期待」、実践の矢印は行動、破線は意識内の動きを示す。

■図 2-2-15 相互作用のパターンの生成／青井和夫, 1972, 『集団・組織・リーダーシップ』より

これによれば発話行為は相手の出方を予測して、または相手に対する期待から行われていることになる。したがって基本的に発話行為は前の発話者に対して肯定的か否定的か、あるいは次の発話者の期待に対して肯定的か否定的か、で分類できることになる。

上述の「肯定的 (pros) であったか」・「否定的 (cons) であったか」に分類して時間軸上に並べていく考え方は、このような社会学の小集団論の知見から着想したものである。

また、本論の「コミュニケーション構造」は、グループワーク論におけるアセスメント技法から援用した概念でもある。すなわちグループワーク論におけるアセスメント技法ではこれまで様々なアセスメント項目が提示されてきているが、本論ではその一つとして、「コミュニケーション構造⁷⁵」をアセスメントする考え方を援用した。

行われる。一方、日常会話を対象とする会話分析でも、例えば「挿入連鎖」がある場合は、時を超えて連鎖関係を捉えることもある。それでも会議自体を遡るような大きく時を超えるような発話同士を連鎖と見ることは通常しないので破線で結ぶ。その意味において、実線は会話分析の行為の連鎖を指し、破線は談話分析の意味的繋がりを指すと説明できる。

⁷³ なお、線の重なりから見えにくくなる場合は適宜曲線で表現する。

⁷⁴ 会話分析も同様な立場に立った学問領域である。例えばシェグロフが「話者移行適格場 (TRP)」という概念を展開していることから分かる。

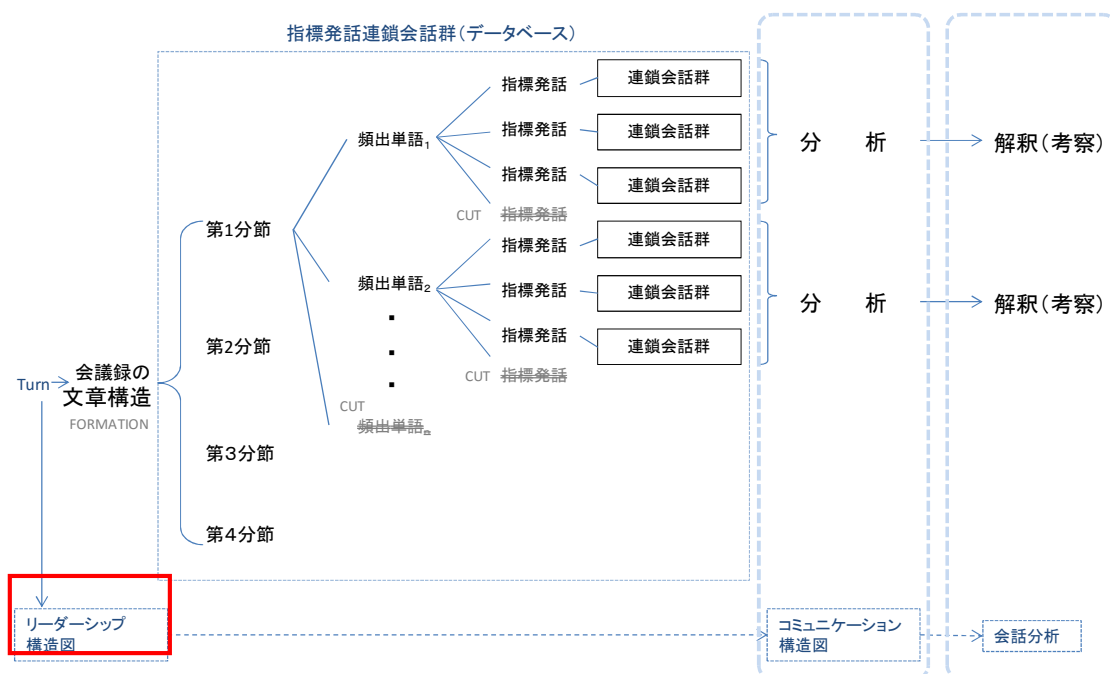
⁷⁵ グループワーク論では、「コミュニケーション構造」として、誰が誰と何をよく話すか、意見と応答、質問と応答、肯定的応答と否定的応答など (Garvin, 1987, p. 204) に着目する。さらに「コミュニケーション構造」と「摩擦と問題解決の仕方」は、グループ状態の変化を把握するのに最も注視すべきと言及されている。(Garvin, 1987, p. 204, p. 205.)

第6項 リーダーシップ構造図の作成

①当該技法におけるリーダーシップ構造図の役割

「リーダーシップ構造図」は、前述の時期の分節化で示した決定木と基本的に同じ情報を用い、各成員のステークホルダーとしての立場の違いを重みづけ^{注76}して「立体散布図」^{注77}に図示したものである^{注78}。この図を以て、各成員のターン割合の推移が一覧できる。

前述のように「ターン」は、「質問と応答」のように前の発話者の何かに対応して次の発話者が発話する相互行為を表しているので、ターン割合が大きいことはそれだけ「会議をリードした^{注79}」、すなわち「リーダー」であったと考えることができる。よってこれが「リーダーシップ」の推移の一覧図であると言える。リーダーシップは何らかの討議環境の変化やテーマの変化によって変容すると考えられることから、討議環境の変化やテーマの変化を分析する上で有効である。その情報が、会話分析を行う過程で何に注視すべきかを示唆してくれると考えられるので、会話分析を行う際に活用することとした。



■図 2-2-16 当該技法におけるリーダーシップ構造図の位置づけ

②リーダーシップ構造図作成の手順

基本的に会議録コーパスから各成員のターン割合を算出し、X 軸に時間軸、Y 軸にターン割合、Z 軸に各成員を与えれば、立体散布図を作成することはできるが、本論ではさらに重みづけを図中で表したいので、コンピューター・ソフトウェア「JMP」^{注80}を用いて作図することとした。

具体的には図 2-3-17 上段のように「Y.列」（X 軸、Y 軸、Z 軸）に「成員（member）」、「ターン割

⁷⁶ 例えば、小集団の役付や土地・建物・事業等の利害関係者か否か等で数段階に分ける。ケーススタディ毎に設定する。

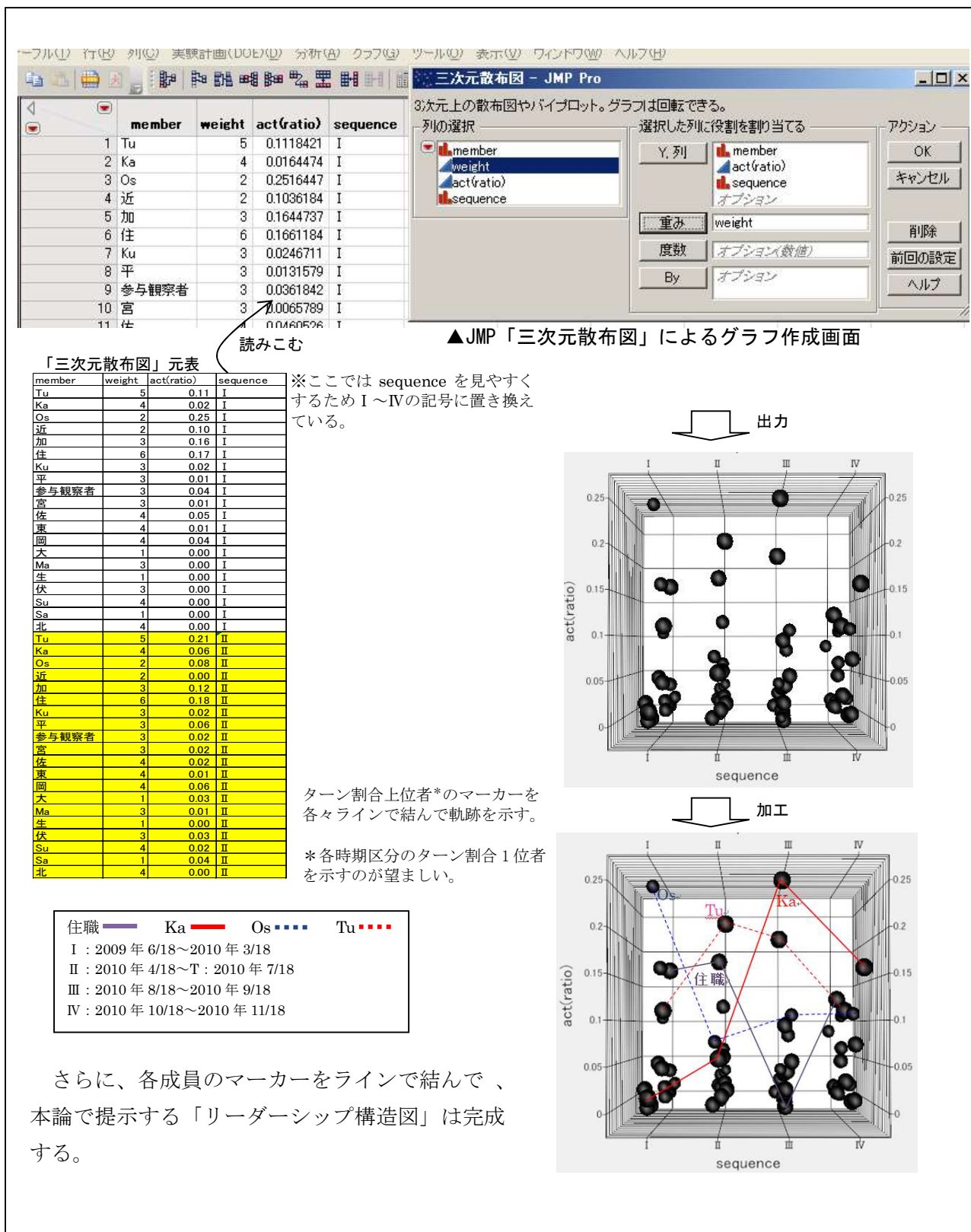
⁷⁷ X 軸、Y 軸、Z 軸の 3 次元で表される散布図。

⁷⁸ ターン数から一義的に導かれるので、前述してきた「指標発話連鎖会話群」、「コミュニケーション構造図」、「会話分析シート」よりも先に作成可能である。

⁷⁹ リードとは、広義において複数の個人を一定の目標に一致して貢献せしめる作用であるから、影響力（influentially）とは異なる。また狭義においては、強制力を伴う「支配」や「ヘッドシップ」とも異なる（青井,1972,p-303-304）。

⁸⁰ SAS 社製品「JMP」のグラフ作成機能「三次元散布図」を用いて作成する。これによれば重みづけは球体の大きさで表される。

合 (act ratio)」、「時期分節 (sequence)」を、「重さ」に「重みづけ (weight)」を指定し実行すると、三次元散布図が出力される。(図 2-3-17 出力後のグラフ)



■ 図 2-3-17 「三次元散布図」からリーダーシップ構造図の作成までの手順

③既往研究から援用した技法・知見

グループワーク論におけるアセスメント技法はこれまで様々なアセスメント項目が提示されてきているが、本論では前項の「コミュニケーション構造」と「リーダーシップ構造」に着目した。

グループワーク論では、「グループ構造」と「グループ過程」の二つの側面から、「グループ構造」が専門家の介入（働きかけ、話しかけ）によってどのような「グループ過程」を経過し結果へと至ったのか、といった一連のアセスメントを行うことになっている。

Garvinによれば①グループ構造（group structure）、と②グループ過程（group process）は^{注81}、それぞれ以下のように細分化され整理されている^{注82}。（Garvin,1987,p-92,p-113～115）

■表 2-2-3 グループ構造とグループ過程

①グループ構造	②グループ過程
・ コミュニケーション構造	・ 目標の決定の仕方
・ ソシオメトリックな構造	・ 目標に向かっての遂行の仕方
・ 力の構造	・ 役割の分化の仕方
・ リーダーシップの構造	・ コミュニケーションの相互行為
・ 役割の構造	・ 摩擦と問題解決の仕方
	・ 価値と規範（ノルマ）
	・ 感情

つまり、これには、「グループ過程」においてグループ状態の変化を捉えながら、その機能が「グループ構造」にどのように影響を与え、そして「グループ構造」自体もどう変わって行くのか、次なる介入の計画や効果を予測するために小集団の状況を見る、といった考え方が前提にある。

グループワーク論での「リーダー」は、どの成員が任意に責任を持って課題を扱う努力をしているか（大塚,1986,,p-137）、グループの目標決定や目標達成、あるいはグループの緊張緩和や協力意識を高めることに誰が最も貢献したか（Garvin,1987,p-204）などに注視する。これらは質的分析を以て把握される内容であり、以降の会話分析・談話分析で明らかにされることである。

本論の「リーダーシップ構造図」は、リーダーがどこで誰に変遷したかを追跡し可視化したものであり、その変遷の理由（それは最終的な会話分析・談話分析で明らかにされる。）を探るために用いられるものであり、グループワーク論の「グループ構造」と「グループ過程」の基本的考え方を援用したものである。ただし作図方法についてはオリジナルであり^{注83}、この分析に資することを目的に本論で開発したものである。

その意味で、第 2 項の「時期の分節化」で紹介した決定木もリーダーの変遷を表す一つの「リーダーシップ構造図」である。本項で述べる「リーダーシップ構造図」はそれを三次元散布図で表したものである。

81 ここでいう「構造」と「過程」とは、前者が比較的变化しにくいもので、後者が変化しやすいものという捉え方、あるいは後者が前者をならしめるための機能的側面という捉え方が基本的にある。この視点はグループワーク論のみならず 20c 後半の社会システム論や構造主義や現象学的アプローチに影響を受けた評価の枠組み（構造－過程－結果）に見られるものである。

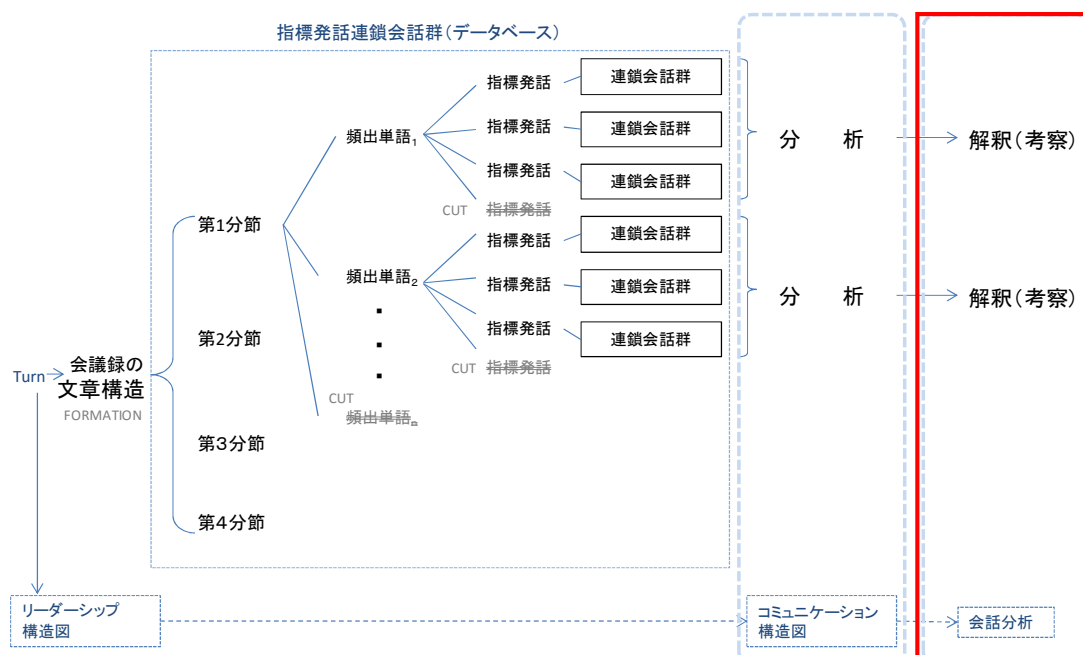
82 「リーダーシップ構造」は「コミュニケーション構造」とともに「グループ構造」のアセスメント要素である。さらにガーヴィンによれば（すべてではないが）これらの要素は measurement や evaluation にも登場してくる。たとえば「グループ構造」の「コミュニケーション構造」、「ソシオメトリックな構造」、「力の構造」について言えば、「終結期」においても measurement の要素としても登場している。

83 例えば成員間の親和性を測定する計量社会学的技法として「個の言動を数える」方法が紹介されてきた。「個の言動」の数え方としては、或る成員に対する発言だけを数える方法はこれまでであったが、本論のような成員全体のターン数や割合を算定する方法はなかった。

第7項 会話分析

①当該技法における会話分析の役割

会話分析は、発話内容から「目標の共有過程」と「意見対立の解消過程」を解釈するために行われる。この分析を行うためには、対象（切片化された発話）を選定することが必要であるが、すでに「指標発話連鎖会話群」において切片化された発話のデータベースがあり、さらに「コミュニケーション構造図」において「話し手（発話の動作主）」と「受け手（動作主の相手）」のパターンの構造的特徴が示されている。よって、これらの情報から分析箇所を選ぶと同時に、「コミュニケーションの相互行為」、「摩擦と問題解決の仕方」、「目標の決定の仕方」、「成員のグループ圧力」に着眼しながら「目標の共有過程」と「意見対立の解消過程」を分析する。

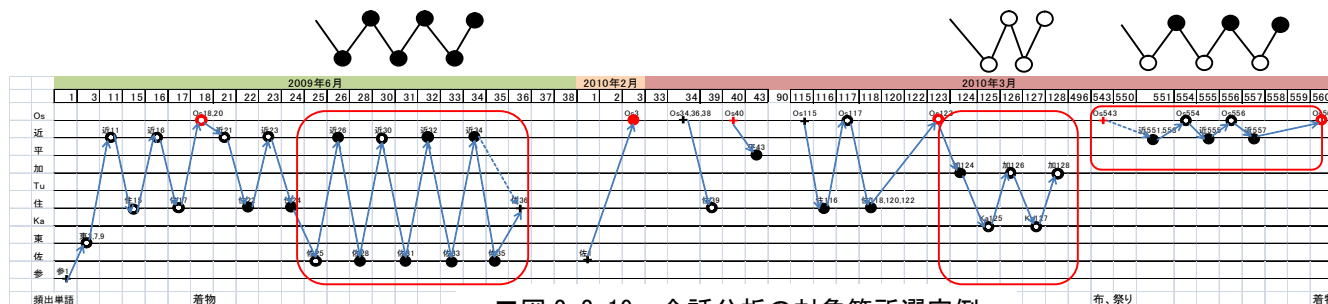


■図 2-2-18 当該技法における会話分析の位置づけ

②会話分析の手順

（ア）分析個所の特定

前述のように、この分析を行うために、会話分析を行うべき個所（目標の共有過程と意見対立の解消過程が存在する個所）を選定する。具体的には、「コミュニケーション構造図」において前述のような構造的特徴を持った箇所を選定する。



■図 2-2-19 会話分析の対象箇所選定例

（イ）会話分析シートの作成

前述のように「誰が誰に何をなぜ話したのか」が分かるように「F-S連鎖」や「修復連鎖」、また

当該会話群は文脈的に（談話分析から）どのように解説できるのか、も記述できるよう欄を設けた^{注84}「会話分析シート」を作成し、会話分析を行う。

■表 2-2-4 会話分析シートの作成例

「指標発話連鎖会話群」からの転記					
行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
21	近	値段が分からないっていうんだったら、値付けしてあげるわよ、私が、それ	F1: 申出		【布祭りを実施するか否か】 最初に「近」から積極的な協力意思が示されたが、「住職」が否定的な言説を示した機に乗じて「佐」が否定的発話を投げかけ、「近」との対立関係を生じている。最後は「住職」が「（やれるだけのことを）やってみたらどうか」と、事態を収束している。
22	住職	だけど、最初からはそんなこと全然出来ないよ、	S1: f1に対する否定		
23	近	発想だよな	f2: 申し開き		
24	住職	面白そうではあるんだけど、どうもぜんぜんぴんと来ないんだよ、	s2: f2に対する否定	修復開始	
25	佐	最初、なんとなくBさんからその話が出てきたときに、それってここがやる仕事かっていう気がしたんだよ、	f3: s2への同意		
26	近	仕事じゃないですよ、ここは、まちづくりの会じゃないですか、	s3: f3への不同意		
27		(さえぎるように)			
28	佐	だまって、ちょっと聞いていってよ、あなたの理想っていうかさ、なんとなくそれは分かる、分かるけれども、それって俺たちがやる仕事なのかって今でもわかんない、。(中略)、おれたちがっていうと、なんか雲をつかむような	f4: s3への評価		
29		(うんうんと相打ちをうちながら)			
30	近	なんでも最初はそうですよ、だいじょうぶですよ、できますよ、	s4: f4への同意 f5: 誘い	修復操作	
31	佐	だったらだよ、おれがもしあなただったら、それをやるための策っていうの、ね、自分で誰でもいいから口説いて、一緒にやろうって言う人を・・・それさっき個人でやれって言った人がいるって聞いたけど、それ まるつきしオレも同じだよ、	s5: f5に対する拒否 f6: 提案		
32	近	一人じゃ出来ませんよ、仕事、商売してますから、	s6: f6に対する拒否		
33	佐	できないでしょ、出来ないから、俺たちにやれっていうのは違うと思うんだよ、	s7: f6に対する拒否 f8: 評価		
34	近	そうですね、今まで話してきたのが何のためか、分からなくなってきた。「じゃ、やめますか、みなさん」って言って、じゃあやめましかってこと？どうなんですかね、	s8: f8に対する不同意		
35	佐	やめた方がいいと思うよ、オレは、とてもじゃないけど無理だよ、(略)、	f9: 評価		
36	住職	言ってることは分かるし、あなたの言いたいことも分かる、ただ、11月3日にそれをぶつけるのはまだ無理だろうと思うんだよ、俺の感覚で言うと、集めるだけをまずやってみたらどうなんだろうと思うのね、今年は、集めるだけ集めて、来たらそれじゃやりましょうっていうのを11月3日にやって、実績が出てからやるなら、それなら分かるんだよ、まずは集めてみるだけやってみたらどうかなと簡単に思うよね、	s9: f9に対する同意		

具体的には図のように、「修復」行為があったのか、当該「指標発話連鎖会話群」は文脈的に（談話分析から）どのように解説できるのか、なども記述できるよう欄を設けることとした。

(i) 「会話分析による F-S 連鎖」の記入方法

基本的に誰の誰に対する発話なのかが分かるように記入する^{注85}。なお同一発話でも前の発話者に対する第2成分と、新たに自分の意見を述べる第1成分が混ざっていることがあるので、その場合は分けて記述する（表 2-2-4 中 31,33 を参照）。

(ii) 「修復連鎖」の記入方法

前述のように、「何らかの問題（トラブル源）を含んでいるため、そのまま会話を続けられない時

⁸⁴ 従来のソーシャルワークないしグループワーク論で用いられてきた「プロセスレコード」に倣ったものである。

⁸⁵ 何を第1成分（F）とし第2成分（S）とするか、またその内容（申し出なのか、評価なのか等）については解釈する者に委ねられており、何を以て解釈したのかという根拠が示されればよい。より重要なのは「F-S連鎖」の組（誰の誰に対する発話なのか）が確認されることである。ただしこれすらも実際には確定できないことがある。

に行われる行為」に連鎖する一連の発話を「修復連鎖」という。そのトラブル源を特定する行為を「修復の開始」という。そしてそれに対して修復を実行する行為を「修復の操作」という。具体的には以下のような基準で判断し、該当する場合には（会話分析シートに）記入する。

a. 「修復の開始」は以下の各点を満たすものとする。

- ・了解志向性：互いに了解を志向する対話の中で生じていること。
- ・順番交替の乱れ：第1成分の後に第2成分が来るべきなのに来ていないなど、F-S連鎖が一時的に乱れた状況を以て生じていること。
- ・トラブル源の特定：トラブル源は何かを特定するために行われた発話であること。

b. 「修復の操作」は以下の各点を満たすものとする。

- ・「修復の開始」の後に生じていること。
- ・トラブル源に対処するために行われた発話であること⁸⁶（互いに了解を志向する対話の中で）。

c. 「修復の完了」は、修復連鎖に関係した者の中で了解が見られる時、記入する⁸⁷。

(iii) 「談話分析による意味的繋がり」の記入方法

前述のように、当該「指標発話連鎖会話群」を文脈的にどのように解説できるのかを記述する⁸⁸。

具体的には、各「指標発話連鎖会話群」は基本的に或る論点について討議されており、その論点は「頻出単語」に依拠しているはずなので、当該会話群においてその頻出単語がどのように論じられているのかが分かるよう簡単に解説する。

③既往研究から援用した技法・知見

前述したようにグループワーク論では、様々な評価（アセスメント）項目が提示され（表 2-2-3 参照）、その要素が紹介されてきたが、前述したように本論では評価（アセスメント）項目として、「グループ構造」からは「コミュニケーション構造」と「リーダーシップ構造」を、「グループ過程」からは「コミュニケーションの相互行為」、「摩擦と問題解決の仕方」、「目標の決定の仕方」、「価値と規範」をアセスメントすることとした。

すなわちグループワーク論では「グループ過程」の諸要素を次のように解説している。

(i) 「コミュニケーションの相互行為」

各成員の役割分担と関連した会話パターンの変化（Garvin,1987,p-116）に着目する。

(ii) 「摩擦と問題解決の仕方」

緊張を生じさせる行為を抑制してグループを持続させようとするものとして成員の中から生まれる相互行為（Garvin,1987,p-117）に着目する。

(iii) 「目標の決定の仕方」

誰かが自分の期待している目標表現をしたか、グループ自体が目標を設定したか（大塚,1986,p-137 : Garvin,1987,p-104）、目標が個人の満足を満たしたか（Garvin,1987,p-225）などに着目する。

(iv) 「価値と規範」

⁸⁶ 「訂正」はその一つでしかないが、圧倒的に多いとされる。

⁸⁷ 多くの場合「修復の操作」が「自己修復」として行われた時に「修復の完了」となるが、いつまでも完了しないこともある。それは、「他者修復」によって行われた場合、ほとんどの場合その後に「自己修復」が来るまで「修復の操作」が繰り返されるからである。これを「自己修復の優先性」という。

⁸⁸ 会話分析は基本的に「会話分析シート」の中だけの情報で成立する解釈を行うものなので、それを補うために「コミュニケーション構造図」や「指標発話連鎖会話群」全体から知りうる情報を以て、各発話行為に込められた（隠された）「意味」の解釈を行う。ただし詳細は本論に展開するのであって、ここ（「会話分析シート」の記入欄）では概略的に記述するだけである。

成員のグループ圧力に対する反応とはいかなるものか（大塚,1986,p-136 : Garvin,1987,p-204）に着目する。

これらの解説を参考にして本論では、まず会話分析の「F-S 連鎖」や「修復連鎖」の概念をも援用して、次のように分析することにした。

（i）「コミュニケーションの相互行為」

「F-S 連鎖」の軌跡を追跡することで⁸⁹「コミュニケーションの相互行為」で着眼する「会話パターンの変化」を把握する。

（ii）「摩擦と問題解決の仕方」

「修復連鎖」に着目することによって、前項の「摩擦と問題解決の仕方」で着眼する「緊張を生じさせる行為を抑制してグループを持続させようとするものとして成員の中から生まれる相互行為」を吟味する。

（iii）「目標の決定の仕方」

連鎖関係の中身（F の期待に応じた S）を見ることで「目標の決定の仕方」で着眼する「誰かが自分の＜期待＞している目標表現をしたか」を把握する。

（iv）「価値と規範」

「同調」とは、或る成員の言動や意思を他の成員が＜期待＞する方向に変化させることであり、成員を同調させるよう働く力が「グループ圧力」であるから、「価値と規範」で着眼する「成員のグループ圧力に対する反応とはいかなるものか」を把握する際に、「F-S 連鎖」関係が「同調」によるものかどうかを吟味する。

また、一方で、「談話分析（discourse analysis）」で対象にする「言説（discourse）」は伝統的に隠された＜意味＞⁹⁰に着目することから文境界の時や場所を超えた広い視野で見ることが可能である⁹¹。したがって、本論では回を超えて成員らのアイデンティティを反映した、あるいは形成したような（その意味で影響力のあった）発話を「言説」と呼ぶことにした⁹²。

そして表 2-2-5 の「目標の決定の仕方」で着眼する「目標が個人の満足を満たしたか」を解釈する際に、その目標表現が「言説」となりえていたかどうかに着眼して分析することとした。

■表 2-2-5 グループワーク論におけるアセス項目と会話分析技法の対応

グループワーク論におけるアセスメント項目		会話（談話）分析における分析技法
（ウ）コミュニケーションの相互行為	会話パターンの変化	「F-S 連鎖」の軌跡を追跡。
（エ）摩擦と問題解決の仕方	緊張を抑制する相互行為	「修復連鎖」を吟味。
（オ）目標の決定の仕方	誰かの期待した目標表現か	「F-S 連鎖」の F の期待に応えた S か、を吟味。
	個人の満足を満たしたか	「言説」となりえたか、を見る。 （談話分析）
（カ）価値と規範	成員のグループ圧力	「F-S 連鎖」関係が「同調」か、を吟味。

⁸⁹ 前述の「ターンテイキング組織」の考え方のように、シェグロフは「連鎖的な組織」の「F-S 連鎖」を把握するにおいて、基本的に直近の発話から見ていく傾向があり、それゆえに「話者移行適格場（TRP）」という概念も紹介しているが、本論のような会議の場では必ずしも直近の発話に「F-S 連鎖」があるとは言えないなど、特殊なケースに当たる。

⁹⁰ 「出来事の特定のヴァージョンを生み出す一群の意味、メタファー、表象、イメージ、等々」（ヴィヴィアン・バー著、田中訳,2002,p-74）

⁹¹ その理由で、複数の発話文の隠された意味を解釈する場合には、「会話分析」ではなく「談話分析」と呼ぶことが適切である。「会話分析」でそれができないわけではないが、ほとんど行われてこなかった。本論は、会話に現れていない背景（コンテクスト）を注視するので、会話分析の知見を活かした談話分析を行う立場であると言うことができる。ただし「談話分析」にも十分な定義はない（ヴィヴィアン・バー著、田中訳,2002,p-74）。

⁹² したがって厳密に言えば、社会構築主義者が用いる「言説」ではなく、伝統的に内容分析（contents analysis）で用いられてきた「言説」に近い。

第3節 当該技法の有効性・妥当性についての評価の考え方

前述したように当該技法は、データの縮約過程と分析過程に大きく分けられる。このうち、前者については、実際にどの程度縮約化ができたのかといった性能に関わる評価と、縮約で残ったデータで充分だったと言えるか（省除したデータに分析結果に大きな影響を及ぼすような重要なデータはなかったか）、という有効性・妥当性についての検証的評価が求められる。

すなわち後者については、次のような検証的評価が求められると考えられる。

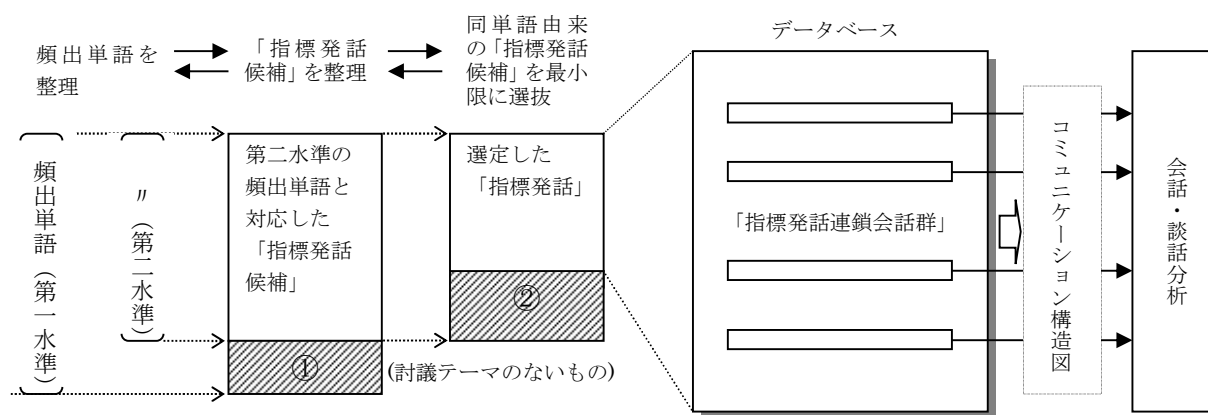
「会議録コーパス」作成から「指標発話連鎖会話群」抽出までのデータ縮約過程で、まず時期の分節化を行い、時期分節毎にコンピューターソフトによる機械的な検索で「頻出単語」を抽出している。そしてこの「頻出単語」を含む発話を読んで「頻出単語」と「指標発話候補」を整理している（下図①）。さらにこれらの発話の前後の発話を読んで「指標発話候補」から「指標発話」への絞り込みをしている（下図②）。

まず、最初の時期の分節化によって、抽出される「頻出単語」も変わってくるのだから、この分節化が妥当であったかどうかを評価しなくてはならない。

次にこれの過程で省除された発話に重要な発話がなかったと言えるのか、すなわち換言すれば、「指標発話連鎖会話群」に残った発話だけで当該会議の討議テーマを（偏りなく）網羅していると言えるのか、といったデータ（サンプル）の有効性が評価されなくてはならない。

またさらに、「指標発話連鎖会話群」を記号化した「コミュニケーション構造図」は次の会話分析を行う対象箇所を決めることになる。その意味で、「コミュニケーション構造図」から会話分析対象箇所を適切に選択していると言えるのか、という選択の妥当性についての評価が必要となる。

よって、第3章から5章までのケーススタディを対象に、次のような手順で当該技法の有効性・妥当性について評価してみることとした（第7章で示す）。



■ 図 2-3-1 当該技法の縮約化過程

第1項 テーマ網羅性についての検証

①時期の分節化の妥当性（会議録コーパスから時期を分節化するまで）

時期の分節化については前述したように「決定木分析」という情報学的な論理性を以て分節化している⁹³。またその結果が会議における各成員の参加の仕方の変化と一致していると考えられることも説明したが、あくまでもモデルであり、情報学的な論理を用いて分岐点を推測している

⁹³ 「尤度比カイ2乗」、「対数価値」、「R二乗」の各値も算出しており統計学的にも説明責任を果たすことは可能である。

に過ぎないことから、分節化した時期が、実際に当該小集団の外形的な変化（討議環境の変化、体制的な見直しの時期等）と符合しているかどうかを確認する。

また会議録全体を読んで、分節化した時期が討議テーマの変遷と整合しながら説明できるかどうかを確認する。テーマの変遷と符合していれば、時期分節毎に抽出された「頻出単語」（それは当該時期のテーマを表象するものとして抽出されたのだから）の妥当性も肯定的に評価できるからである。

②抽出及び選定したデータのテーマ網羅性（指標発話連鎖会話群まで）

「指標発話候補」、「指標発話」、「指標発話連鎖会話群」のそれぞれが、当該時期の小集団の討議テーマをどれくらい網羅しているかについて、会議録全体を読んでテーマ（とにかく話題と考えられそうな事項）を全てリストアップし^{注94}、その結果と照応する^{注95}。

その照応の結果、討議されたテーマについては最終的に「指標発話連鎖会話群」に漏れなく含まれていることが確認できれば、会話（談話）分析の対象（サンプル）に偏りがなかったと言えるからである。

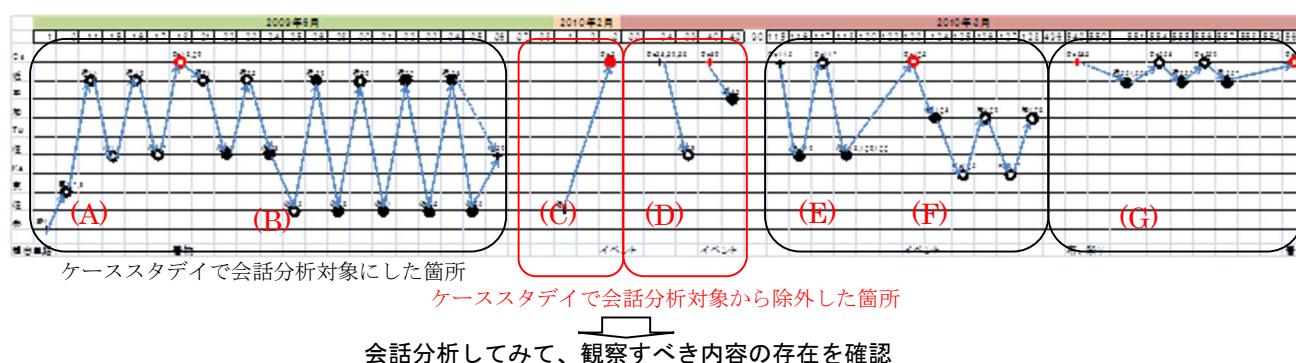
第2項 選択の妥当性についての検証

基本的に「指標発話連鎖会話群」のデータはすべて「コミュニケーション構造図」に転記することになっている。

「コミュニケーション構造図」を作成する段階で、賛成・反対の構造的特徴を有する会話群と、有しない会話群とに選別され、前者が会話分析対象箇所選ばれる。

第7章では、第3章から5章までの各ケーススタディで分析対象から除外した（構造的特徴を有しない）会話群を会話・談話分析して見て、「目標の共有過程」ないし「意見対立の解消」過程において観察すべき内容が含まれていなかったかどうかを確認する^{注96}。

もし観察すべき内容が含まれていないことが確認できれば、会話分析対象箇所の選定が妥当であったと言えるからである。



■図 2-3-2 コミュニケーション構造図における会話分析対象箇所と非対象箇所

94 リストアップに当たっては、（意見のやりとりを伴う）討議が行われていたかどうかに関わらず、何らかの形（例えば、当時の会議録の項目として掲載されている場合や、当時のまちづくりニュースで紹介されている内容等）で話題に上がっていたと考えられるものを全てピックアップした。

95 また補足的に当時の成員にインタビューも行う。

96 かつ、前者（特徴を有する会話群）が、構造的特徴から或る程度視覚的に推定しうることを確認する。

第4節 当該技法の適用限界

前述したように、当該技法はそもそも会議録のデータ情報として、「時間の流れ」と「発話者」と「発話内容」がそれぞれ対応して認識できることが前提条件となる。

「時間の流れ」については、会議の日付と、その中での発話の順番が認識できなくてはならない。また「発話者」については、各発話が誰のものなのかを（匿名でも記号でも構わないが）特定できることが条件となる。さらに「発話内容」については、短く要約したものではなく、なるべくありのままに認識できることが条件となる。

したがって、例えば、発話の順番を無視した要約的な会議録や、発話者が特定できないように記述されている会議録には適用できない。ただし、会議を録音した音声データ（ビデオデータ）があれば、その情報から会議録コーパスを作成することができる⁹⁷。

第5節 小括

本論が提示する技法は、最終局面で会話（談話）分析のような記述的方法で、小集団の結束に寄与した目標表現がどのように発現し共有され、またどのように対立を生み解消されたのか、といった過程を分析するが、その前に会議録を縮約する。

当該技法は「内容分析」のようなコーディングやサンプリングをしない代わりに、「ターン割合」の変化で継時的に分節化（層化）し、各分節（層）から頻出度の高い単語を選び、その単語を含む「指標発話」とその繋がりを持った「指標発話連鎖会話群」を抽出する。

ありのままに会話を書き起こした会議録コーパスから、ある代表的な指標発話ないしその連鎖会話群をもって会議録を再構成するという外形だけみれば「グラウンデッド・セオリー」に類似している。

ただし、最初に「ターン割合」の変化から継時的に分節化することと、「ターン割合」第1位者の発話から「指標発話」を選ぶことは、発話の相互行為の構造を壊さないように、かつ最終的に会話分析で対象となる相互行為を適切に抽出することに配慮しているからであり、この点が「グラウンデッド・セオリー」のような「再構成」とは本質的に異なり、むしろ（対話構造を壊さないまま）「縮約」している点に特徴がある。

またいずれにしても当該技法を全体的に見れば、最終的に重要な発話に接触するための「テキストマイニング」を行っていると言ってよい。

ただし、コンピューターソフトで行う部分と手作業で行う部分があり、後者については客観的な作業手順と判断基準が必要となる。そこで「頻出単語」を（最終的に「第2水準」に）選定する過程と「指標発話」を選定する過程は、図2-2-8に示したようにフローを作成した。

「指標発話」からそれに繋がる「指標発話連鎖会話群」を選定する作業は、実際のところ次のステージの「コミュニケーション構造図」の作成や会話分析を行う作業と連動しており、発話の中身を吟味していく過程で（「指標発話」自体も）最終的に定まる。

ここで必要となる判断の元となるのは会話分析の「連鎖」という概念である。これについては第2

⁹⁷ 本論で扱う3つの事例についても、それぞれ音声データ（ビデオデータ）が存在したので会議録コーパスを作成することが可能となった。桐生事例については、ありのままに記録した全文筆記型の会議録が公開されているが、当時のコンサルタントと筆者が音声データから書き起こしたものである。小布施事例についても全文筆記型の会議録が公開されているが、ほとんどは発話者が特定できないようになっていたので、当時撮影したビデオデータから筆者が全発話（の発話者）を確認し、会議録コーパスを作成した。真野事例については、当時の音声データのみが存在していたので、始めから終わりまで筆者が書き起こして会議録コーパスを作成した。

節第 4 項で説明した。また、会話（談話）分析を行う段階になって、何を解釈するのかの判断の元になるのがグループワーク論のアセスメント項目であり、これについては第 2 節第 6 項及び第 7 項と表 2-2-5 で説明した。

そして当該技法の有効性・妥当性についての評価の考え方と手順については第 3 節で説明した。すなわち、データの縮約化過程については、縮約の性能と、縮約によって残ったデータが討議テーマを網羅していて偏っていないことを確認する。また分析対象とする発話の選定過程については、省除された発話が分析結果に大きな影響を与えていないことを以て、選定が妥当であったことを確認する。

以上のような手順を用いて実際に第 3 章から第 6 章までのケーススタディを行い、第 7 章で当該技法の検証的評価を行う⁹⁸。

＜第 2 章の参考文献＞

i 引用及び脚注で示した文献

- ・青井和夫, 1972, 『集団・組織・リーダーシップ』, 培風館
- ・ヴィヴィアン・バー, 田中訳, 2002, 「社会構築主義への招待」, 川島書店
- ・大塚達雄, 1986, 「グループワーク論」, ミネルヴァ書房
- ・カール・ロジャーズ, 畠瀬監修, 加藤・東口訳, 2007, 「ロジャーズのカウンセリング（個人セラピー）の実際」, コスモライブラリー
- ・川端亮, 2001, 「コンピューターを用いた自由回答のコーディング」『社会情報』10(1), p-135-48
- ・サックス、シュグロフ、ジェファソン, 西坂訳, 2010, 「会話論文基本論文集」, 世界思想社
- ・島田昭仁・小泉秀樹, 2016, 「小布施町図書館の空間利用に関わる討議過程の研究－利用者相互の意向調整はどのようにしてなされたか－」, 計画行政 39(1)
- ・大黒屋, 2002, 「意味と自己言及－シュッツとルーマンの「意味」概念の比較考察－」『ソシオロジカル・ペーパーズ』vol. 11, p-42-50
- ・坊農真弓・高梨克也, 人工知能学会編, 2009, 『多人数インタラクションの分析手法』, オーム社
- ・Charles D Garvin, 1987, ” *CONTEMPORARY GROUP WORK* ” , Prentice Hall
- ・Sacks, H., Schegloff, E. A. and Jefferson, G. : A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation, *Language*, Vol. 50, No. 4, pp. 696-735, 1974
- ・Seale, 2000, Clive Using Computers to Analyse Qualitative Date, In: *Doing Qualitative Research: a practical handbook*, ed. By David Silverman

ii その他の文献

- ・串田秀也, 2006, 『相互行為秩序と会話分析－「話し手」と「共-成員性」をめぐる参加の組織化』, 世界思想社
- ・ケネス・J・ガーゲン著, 東村訳, 『あなたへの社会構成主義』, ナカニシヤ出版
- ・千田義光, 2004, 『現象学の基礎』, 放送大学教育振興会
- ・ユルゲン・ハーバーマス著, 河上ほか訳, 2006, 『コミュニケーション的行為の理論（上・中・下）』, 未来社

⁹⁸ ただし、評価は本研究のために行ったものであり、本論の提示する当該技法はこの評価工程を必ずしも含むものではない。

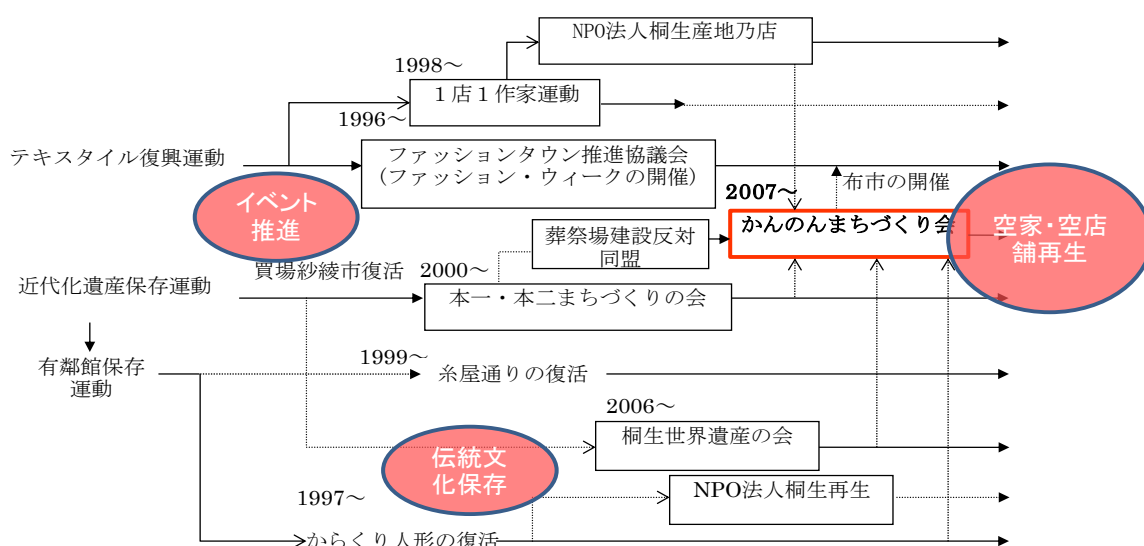
年に結成された「本一・本二まちづくりの会」の代表で、北川紘一郎もその役員であったが、後に脱退し、2006年頃から鋸屋根工場の保全を掲げた世界遺産推進運動^{注6}を始める。

このほかに、たとえば大西康之らが、本町1丁目から6丁目の手織りの復活をテーマにした「1店1作家運動」^{注7}を始め、本町6丁目商店街振興組合の当時会長であった角田晃嗣と協力し2001年に本町6丁目に「桐生産地乃店」^{注8}を構え、2002年には全国本町活性化シンポジウムの誘致を実現するが、この時「本一・本二まちづくりの会」は参加を見送った。さらに「桐生産地乃店」の運営母体となったNPO団体から主力となっていた成員が離脱し新たなNPO団体を結成する。

こうした状況の中で、本町6丁目に江戸時代から座す浄運寺の住職が「本一・本二まちづくりの会」代表の森、「桐生世界遺産の会」代表の北川、「本町6丁目商店街振興組合」会長の角田に呼び掛けて2007年に「かんのんまちづくりの会」というまちづくり小集団を結成した。

■表 3-2-1 桐生市のまちづくり住民運動の変遷と担い手

まちづくりイベント	リーダー格	所属ないし職業	備考
1990年代半ば～矢野倉庫群保存運動	森山	森山亨：桐生地域地場産業振興センター専務理事	森山(後に離脱)
1995年～ファッション・ウィークの開催 1998年～1店1作家運動	森山、大西 角田(亘)、 新井、荒島	大西康之：元市議会議員 角田亘：NPO法人桐生産地乃店 新井淳一・荒島スミ子：ファッションデザイナー	森山(後に離脱) 角田(後に離脱) 新井(後に離脱)
1997年～からくり人形の復活	山鹿	山鹿英助：郷土資料展示ホール調査協力委員長、 桐生からくり人形研究会(後に保存会に改名)	—
1999年～糸屋通りの復活	岡部	岡部信一郎：市議会議員、糸ヤ通り友の会会長	—
2000年～本一・本二まちづくりの会設立	森、北川、	森寿作：昭和初期の織物会社を代表する名家 北川紘一郎：昭和初期の織物会社を代表する名家	北川(後に離脱)
2006年～本町1,2丁目重伝建推進	北川	2007年「桐生世界遺産の会」設立し会長。	—
2001年～買場紗綾市の復活	森、島崎	森(同上)、島崎英三(島崎商店)	—
2001年～桐生産地乃店開設 2002年. 全国本町活性化シンポジウム開催	大西、小林 角田(晃)、 角田(亘)	大西(同上)、小林宏光(小林織物) 角田晃嗣：本町6丁目商店街振興組合理事長 角田亘：NPO法人桐生産地乃店→除名 →2008年にNPO法人桐生再生の設立へ	後に大西・小林と 角田亘とで分裂 本一・本二不参加
2001～2003年 葬祭場反対期成同盟	大西、住職 角田(晃)	大西(同上)、住職(浄運寺住職)、角田晃嗣(同上)	—



■図 3-2-2 桐生市のまちづくり運動の系譜

6 エリアで区切ることに関し市内に散在する産業遺産を保全する活動を開始。2007年に「桐生世界遺産の会」結成。

7 地元のデザイナー作品を中心市街地内の協力店に配置する運動

8 本町六丁目の空き店舗を活用した地場産のアンテナショップでNPOが運営。2011年に撤退。

第2項 対象とする小集団の特徴

浄運寺の住職は「かんのんまちづくりの会」を結成する以前に同じ本町6丁目で「葬祭場反対期成同盟」^{注9}を立ち上げている。

これは本町6丁目の大規模店舗跡に進出しようとした葬祭場に対して反対する住民運動に支えられて結成されたまちづくり小集団である。住民の反対運動が起きた原因の一つは、その大規模店舗跡地の活用をめぐる国交省がすでに調査を開始し^{注10}、土地の所有者と市や商店街住民と協議して活用案を作り上げた矢先に、事前に市や住民側に連絡もなく土地の所有者から一方的に葬祭場の進出計画が発表されたからであった。^{注11}

本町6丁目商店街振興組合も1990年代半ばから歴史的建造物の保全・活用をテーマにした様々な連鎖的運動が始まっていた中で浄運寺を核とした町並みづくりを将来像に掲げていたことから、葬祭場という建造物が町並みに調和しないという理由で反対した。

反対期成同盟は、土地利用の対案を掲げて土地所有者が委託した建設会社と2年間にわたり交渉を続け、建物の高さ、壁面のセットバックと敷地内緑化、色彩の指定等を条件に和解し^{注12}、2004年に葬祭場建設が竣工されると同時に解散したが、その時に商店街振興組合と住民と寺が一つのテーブルで協議したことを契機に、将来のまちづくりを自分たちで考え、変えていかなければならないという危機感から住民主体のまちづくり協議会の必要性が自然と生まれ、「かんのんまちづくりの会」の結成に至った。

その理念は、本町1丁目から6丁目までが協力して歴史的な町並みを保全・活用していかななくてはならないという明確なものがあつたが、何を手掛けるのかといった具体的目標については特に定めず、参加者の討議による成り行き任せといったオープンエンドな形をとった。

当会は2007年6月に結成し、3年間は寺の住職が自前でコンサルタントを雇い^{注13}、そのコンサルタントを座長として討議する形態をとった。

筆者は葬祭場反対期成同盟の時からアクションリサーチを行っていた経緯から、当会に対しても初期は参与観察者（一人の成員）として参加したが、4年目にコンサルタントの契約が終わると同時に住民側からの要請で以降部会のリーダー兼コーディネーターとして（新体制下で）関わることとなる。

当会の結成時は、本町1・2丁目から6丁目まで盛んに行われていたイベントを中心に活動を考える成員がいた一方で、同時に本町1・2丁目で盛んに行われていた古民家再生を活動の中心と考える成員もあり、会の目標をオープンエンドにしたこともあって、会のテーマは変動的であった。

2007年から最初の2年間はいわば試験走行期間にあたり、3年目が反省の時期、4年目が本格運転開始時期にあたり、会の目標をイベント中心とするか古民家再生を中心とするかで意見が対立し、紆余曲折し、やがて古民家再生を中心と決するに至った期間に当たることから、2009年度から2010年

⁹ 本町6丁目のイセヤデパート跡地への葬祭場（メモリアルド）建設への反対運動団体。2001年から活動していたが結成したのは2003年。

¹⁰ イセヤデパート跡地を対象に、低・未利用地臨時緊急調査（1999年度、国土交通省土地水資源局）が実施された。

¹¹ 筆者はこれに成員の一人として参加し活動しながら観察を行うアクションリサーチの立場で関わった。

¹² 高さや色彩について協議したほか、壁看板を掲げる壁面は十分にセットバックし植栽を豊かにすること、道路側の事務所は商店街の賑わい演出に配慮すること、表通りに花輪を掲げないこと、霊柩車のアクセスを裏通りからにすること、ピーク時に対応可能な十分な駐車場を確保すること等が条件となった。

¹³ 当初は角田（晃）の自邸のリノベーションを目的としたことから角田が（株）都市学研究所（加川邦明）を雇う話となっていたが、角田邸に限らず古民家を再生することを前提に住職が雇うこととなった。

度の会議録に注視し、討議においてどのように意見が対立し、どのように解消され、一つの共有目標へ了解されるに至ったのかを明らかにすることとした。

■コンバージョンされた鋸屋根工場・古民家等の分布



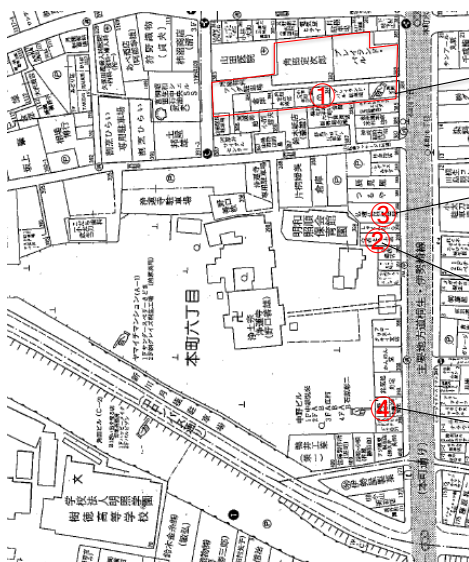
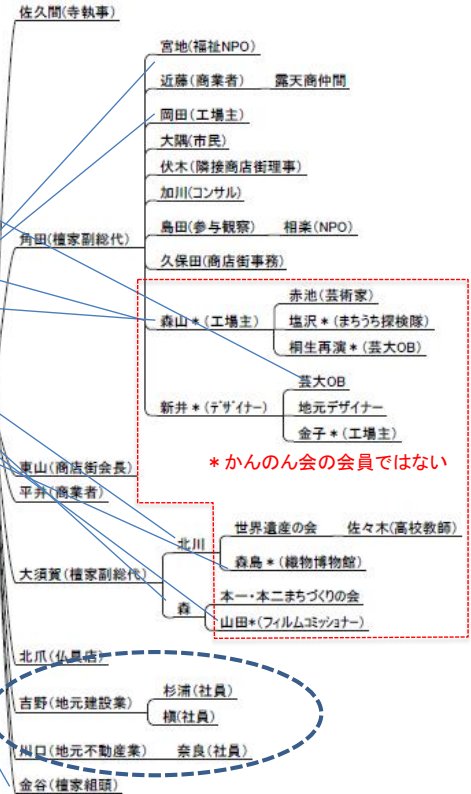
鋸屋根工場 ● その他 ● 調査当時構想中の物件 ●

※再生された物件の権利者のほとんどが檀家コミュニティに関係している。

■図 3-2-3 桐生市の古民家（倉庫・工場）再生とかんのんまちづくりの会の会員との関係

■かんのんまちづくり会の人間関係

▼1列目までが檀家ないし寺の関係者。



プラスアンカー(2015年3月開業)
パン職人を育てるコミュニティ
カフェ

プラット(2013年3月開業)
職人と住民をつなぐ店

ROOSTER(2012年3月開業)
ソムリエ起業家の店

まちなかTV(2014年3月開業)
映像起業家の店

※図中の番号は構想に着手した順序

2010年4月に住職から旧今西邸の構想着手が提示され、「職の提供」をテーマとした2年間の検討と準備を経て2011年度末に実現化、その後、2012年度に「プラット」、2013年度に「まちなかTV」、2014年度に「プラスアンカー」の構想と実現化を果たす。

■図 3-2-4 討議の成果：桐生市の古民家（倉庫・工場）再生実績

以降、第2章で示した技法を用いて分析を行う。

■表 3-2-2 当会の主な会員

member		
会員名	略記号	役職
角田	Tu	会長
川口	Ka	古民家再生 部会長
大須賀	Os	司会、イベント 部会長
-	近	
加川	加	コンサルタント
住職	住	会主
-	Ku	事務局
-	平	
参与観察者	参	コーディネーター/ 2010年6月～
宮地	宮	副会長
-	佐	執事
東山	東	副会長
-	岡	
-	大	
-	Ma	
-	生	
-	伏	
杉浦	Su	副会長
-	Sa	
北爪	北	

※「略記号」は会議録コーパスで使用した ID
また役付のない会員名は本論では「-」で示す。

第3節 当該技法の適用

第1項では「かんのんまちづくりの会」の約1年半にわたる会議録のテキストデータを読み解くため、まずは会議録の構造を把握するべく、ターン割合上位者の出現率の変遷から分節化した。

そして、分節ごとの「頻出単語」を抽出し、「指標発話（候補）」を検索・選定し、さらに「指標発話連鎖会話群」を抽出し、リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の状況を把握した。

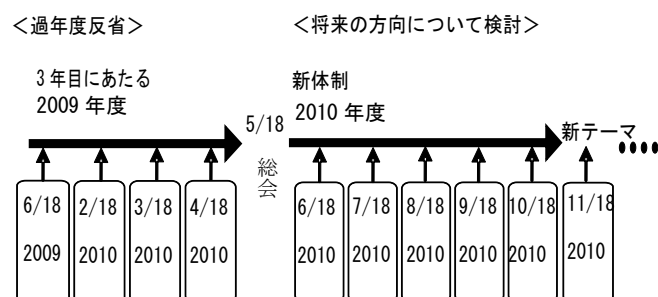
また第2項ではそれらの各工程で発話データがどのくらい縮約できたのかを整理した。

また第3項では会話分析を行い、小集団の分裂の危機を孕むような意見対立がどのように生み出され解消されたのか、といった過程を吟味した。またそれをふまえて、専門家やその他の成員が果たした役割についても考察した。

第1項 データ縮約化と分析対象箇所の絞り込みの工程

①会議録コーパスの作成

先述のように、2007年6月に設立した当会は3年目に反省を行い、4年目以降の見直しを行う予定になっていたことから、その3年目と4年目を対象とすることとした。すなわち、会の目標をイベント中心とするか古民家再生を中心とするかで意見が対立し、紆余曲折し、やがて古民家再生を中心と決するに至った2009年度（2009年6月）から2010年度（2010年11月）までの会議録を分析対象とし^{注1}、計10回分の会議録から会議録コーパスを作成した^{注2}。



■図 3-3-1 分析対象とした会議

②時期的分節化

まず会議録コーパスを決定木分析「パーティション」^{注3}を使用して、ターン割合の変遷を見ると下図のようになった。

図 3-3-2 のように「パーティション」では最初の分析（第1分岐）でまず2010年4月18日を境に2つのタイプ（以下「A型」と「B型」と名付ける。）に分類している。

B型は、更に分析（第2分岐）を行うと、ターン割合が「角田」のほかに「住職」が多いものと「川口」が多いもの（以下「B-1型」、「B-2型」と名付ける。）に分かれる。

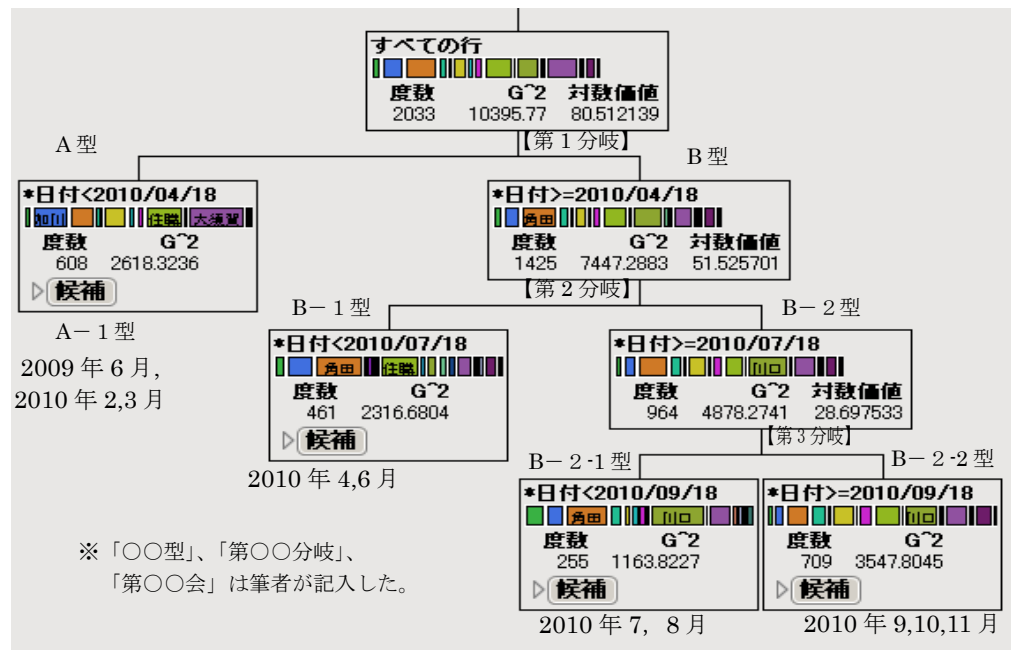
B-2型は、更に分析（第3分岐）を行うとターン割合が「角田」が多い（「川口」に次いで2位）ものと、少ないもの（以下前者を「B-2-1型」、後者を「B-2-2型」と名付ける。）に分かれる。

こうして全体の会議を見るとターン割合の変化にともなって図 3-3-2 のような構造になっていることが分かる。

¹ 定例会は毎月18日に1回あり、会期が6月から翌年5月までで、5月が総会（会計監査）にあたる。また1月の新年会と12月の忘年会ではほとんど討議を行わない。ここでは過年度の反省が行われた2009年6月定例会と、新組織体制のあり方について討議された2010年2月、3月、4月、6月、7月、8月、9月、10月、11月の定例会を分析対象とすることとした。

² この時点で2,332データ（発話レコード）数であった。

³ JMPとはSAS社が開発したソフト。「パーティション」とは同社独自のアルゴリズムを用いた決定木分析。x軸を時間にy軸を発話者のターン度数に設定して分析すると、ターン割合の変遷を解析する。（詳しくは補論「手順書」参照。）



■図 3-3-2 JMP パーティションによる決定木

‘09年6月,’10年2,3月 → ‘10年4,6月 → ‘10年7,8月 → ‘10年9,10,11月

A型 → B-1型 → B-2-1型 → B-2-2型

■図 3-3-3 ターン割合の変化に伴う会議の構造／パーティション分析結果より

このとおり、決定木分析からは 2009 年 6 月～2010 年 3 月、2010 年 4 月～6 月、2010 年 7 月～8 月、2010 年 9 月～11 月の 4 つの時期区分に分類することができた。実際に各時期のターン割合上位（ここでは 1 位と 2 位）者の構成状況とその割合を見ると右表のようになる。

ここにおいてターン割合上位者の構成状況の変化と時期区分が一致していることが確認できる結果となった。

③ 指標発話（候補）の抽出と選定

次に各時期の頻出単語を手掛かりに「指標発話」を検索する。

「指標発話」は、ターン割合 1 位者^{注5}の発話と、時期分節毎の頻出単語とのクロス検索により導かれる。このうち前者については、前述のとおり時期の分節化の過程で明らかになっている（表 3-3-1 参照）。

③-1 頻出単語の選定

「指標発話候補」を抽出するキーワードとなる「頻出単語」については、前述のとおりコンピューターソフトを用い「名詞」を抽出することになっているが、実際にその単語が使われている発話を見て文脈から判別し不要なものを取り除く（いわゆる「ケバとり」）作業が必要となる。それらの結果を表

■表 3-3-1 時期区分とターン割合の変化との確認

※記号は人物名を表す^{注4}。

会議録年月日	ターン割合	ターン数
2009 年 6/18	1 位:Os 2 5 %	153/608
2010 年 2/18	2 位:住職 1 7 %	101/608
2010 年 3/18		
2010 年 4/18	1 位:Tu 2 1 %	99/461
2010 年 6/18	2 位:住職 1 8 %	82/461
2010 年 7/18	1 位:Ka 2 5 %	64/255
2010 年 8/18	2 位:Tu 2 0 %	50/255
2010 年 9/18	1 位:Ka 1 6 %	111/709
2010 年 10/18	2 位:住職 1 3 %	91/709
2010 年 11/18		

⁴ Os：大須賀（副会長）、Tu：角田（会長）、Ka：川口（古民家再生部会部会長）、住職：浄運寺住職。

⁵ 本論で「指標発話」は基本的に 1 位者の発話から見ることにしている。

したものが表 3-3-2 である。表中の「第 1 水準」に記載される単語が、コンピューターソフトで頻出単語を上位から 50 位まで抽出し、そのうち固有名詞や代名詞、助詞、等を除いたものである。

第 1 水準の単語がその時期区分の討議テーマとして有為な意味を果たしていない場合⁶、その頻出単語を含む発話を「指標発話候補」から取り除き整理する。結果として残った頻出単語が「頻出単語（第 2 水準）」である。結果的に第 1 水準から第 2 水準までの過程で取り除かれた単語とその理由については表 3-3-3 に示す。すなわち「話」や「今」、など（当該発話では）テーマとして意味を持たない単語や、「活動」のようにターン割合 1 位者の発話に登場しない単語は当該時期区分の討議テーマを表すのに有為でない可能性が高い。また「桐生」や「話」のように主語や目的語の一部になっている単語は、その発話の中に賛成・反対の意思がない（いわゆる常用句として用いられている）ことから討議テーマを表すのに有為でない可能性が高い。

■表 3-3-2 頻出単語

	第 1 水準	第 2 水準
第 1 分節	話 今 意味 イベント 桐生 布 まちづくり まち/町 寺 お寺 シルバー 活動 祭り 部会 着物	イベント 布 祭り 着物 まちづくり シルバー 寺
第 2 分節	まちづくり 桐生 部会 世界遺産 団体 末広 民家 歴史 商店街	まちづくり 部会 末広 民家 歴史 商店街
第 3 分節	会 今 民家 まちづくり 部会 再生 お願い まち/町/街 イベント 例会 企画	民家 まちづくり 部会 再生 イベント 例会
第 4 分節	部会 例会 時 時間 まちづくり 民家 研究 プロジェクト 寺	部会 例会 まちづくり 民家 研究 プロジェクト 寺

※第 1 水準の赤字部分は実際の発話を見た際に有為な意味として使われていないことが判ったものである。これらを取り除いたものが第 2 水準である。

■表 3-3-3 第 1 水準の頻出単語のうち削除された単語とその理由

時期	省除された指標発話候補	省除された頻出単語	使用例	理由
第 1 分節	81, 119, 246	話	その話、話しくちや、	討議テーマとして用いられていない。
	8, 36, 298, 304, 634	今	今は、今年、今日、今度、今回	討議テーマとして用いられていない。
		意味	…意味で、	討議テーマとして用いられていない。
	659	桐生	桐生建設さん、	何らかの賛成・反対を有していない。
	618	まち/町	このまちで、	何らかの賛成・反対を有していない。
		活動	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
第 2 分節		部会	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
	4 月-82, 286, 288	桐生	桐生に、桐生の、桐生で	何らかの賛成・反対を有していない。
		団体	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
第 3 分節		世界遺産	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
	7 月-20, 8 月-45, 74, 96, 110, 188, 202	会	会社、かんのん会、総会、研究会	何らかの賛成・反対を有していない。
	7 月-74, 8 月-26, 49, 99, 121, 139, 180	今	今、今まで、今回、今の	討議テーマとして用いられていない。
	7 月-14, 238, 8 月-20, 69,	お願い	お願いします、お願いできれば	討議テーマとして用いられていない。
		まち/町/街	—	第 1 位発話者の発話に存在しない。*
第 4 分節	8 月-9	企画	企画さえまちがえなければ	何らかの賛成・反対を有していない。
	8 月-49, 110	時/時間	このご時世、…の時は	討議テーマとして用いられていない。

*は「指標発話候補」の抽出過程ですでに判明したものである。

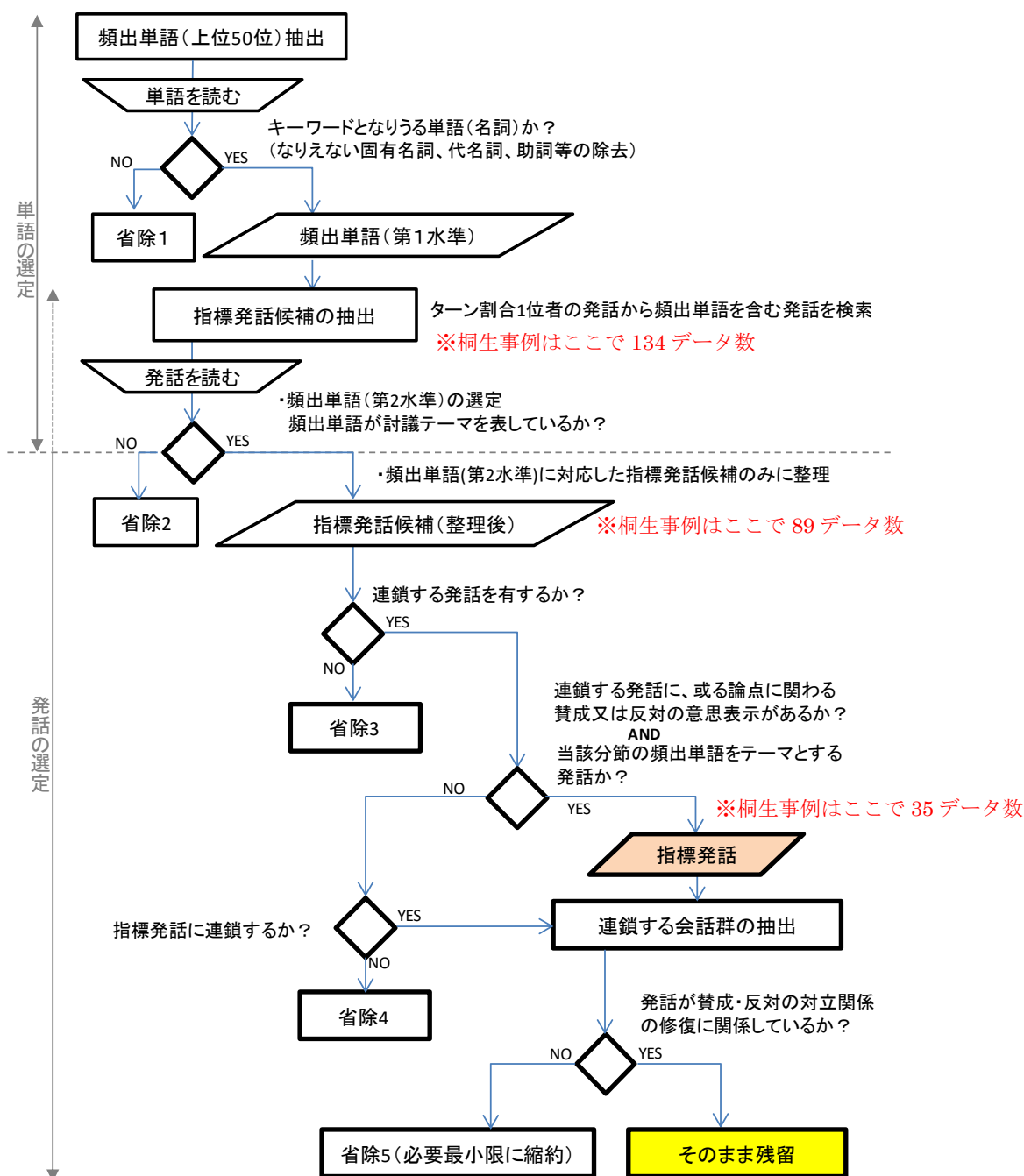
⁶ その単語は常用句または派生的話題の中で用いられている場合。具体的な判断基準については第 2 章を参照。

③-2 指標発話候補の抽出

まず「頻出単語（第1水準）」が定まったとき、（ターン割合1位者の発話から）同時に「指標発話候補」を抽出し、134データ（発話レコード）数となった⁷。そして「頻出単語（第2水準）」の選定を行い、それに対応する「指標発話候補」を整理したところ89データ数となった。

③-3 指標発話の選定

「指標発話」は、図3-3-3のフローに示すような基準で「指標発話候補」から（連鎖する発話を読みながら）発話レベルで省除していった結果残った発話であり、34データ数となった。



■図 3-3-3 (再掲) 指標発話及び連鎖会話群の選定フロー

⁷ 具体的には、表 3-3-4、3-3-6、3-3-8、3-3-10 に示す。

以下、「指標発話候補」から「頻出単語（第二水準）」の選定を経て「指標発話」に選定された過程を、省除した理由（図 3-3-3 の省除番号）とともに示すこととする。

最初に第 1 分節（2009 年 6 月,2010 年 2 月,3 月）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表（3-3-4）を示す。次に、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示したのが表 3-3-5 である。

■表 3-3-4 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第 1 分節

日付	コーパス 行番号	発話者	発話内容
2009/6/18	18	Os	近藤さん、 着物 が来ればね、まずはね、仕分けするよ、いっしょにやるよ、
2009/6/18	20	Os	ちゃんと、 着物 として採っておくのか、端切れとして採っておくのか、そこまでやるよ、
2009/6/18	37	Os	まあそんなんだけど、ほんとにはこれ言うべきじゃないんだけど、実は来年の企画も僕は考えていたんだよ、今年はあんまりやるつもりなかったんだけど、来年は、あの…パッチワーク展をやるつもりでいるのよ、10月18日、お十夜にね、それは、もうパッチワークのグループに話してあるのよ、ただし、桐生の 布 を使ったものじゃないとだめだよって、えー、パッチワーク展を来年はやるつもりでいるんだ、自分勝手にね、そうすると、これも多少縁があるかなっていう気がするけどね、
2009/6/18	65	Os	ただ、桐生の 布 って限定すると、非常に狭い範囲になっちゃうんだよ、桐生もお召しとか、いろんなもの作ってたけど、
2010/2/18	3	Os	イベント をやる意義というのは、 イベント に携わる人のチームワークが良くなるってこと、昨年の11月にやったように、ああいうチームワークが必要なんだよ、
2010/3/18	8	Os	今 はそんなぐらいいけど…
2010/3/18	34	Os	私の着で、ましてや、私の方は、どうしても檀家と言う立場で、ここに出ているものですから、 イベント という、浄蓮寺の檀家さんに少しでも 寺 に来てもらうようにしないでいかんという意識が大変強いものでして、今年の十夜会はず10月16日でもいいんですか？第3土曜日が16日なんですよ。
2010/3/18	36	Os	で、なるかなあとおうんですが、去年の10月から 今年 の十夜会の準備を始めてまして、パッチワーク展をやるうじやないかという、準備をしてまして、お坊さんの身につけるものというのは、昔からどちらかというと、パッチワークで出来ているものが非常に多いですね。だから、そんなものをこのパッチワークのグループに発展として作ってもらって、10月16日の日にこの和順会館の4階で陳列というか、皆さんに見に来てもらいたいなと思っています。このパッチワーク・キルト展に関しては、我々が手伝うという項目もほとんどない進行…
2010/3/18	40	Os	…それで、実はこれ配ったという理由は、明日がその日本手芸協会の会員の広告に、この催しのことを掲載したいという要望があるんです。それもこの先生が勝手に全部お金も出すそうです。我々はお金がかからないでいいからということ。で、これが、10月の十夜会についてのこのプリントを見ていただければという気がいたします。次にガーデニングについてなんですが、ちょっと私の考え方は、皆さんと若干違っているかと思うんですが、何回かガーデニングをやったんですが、非常に原価率が高かった。土の単価、それから苗の単価、で、1回あたりの費用で10万円ぐらいかかっていたのではないかなと思います。次回やるとすれば、もっと原価率を下げる必要が僕はあると思います。それと花を配ったんですが、果たして、6丁目・巴町でいいのかと、非常に僕は疑問に思います。というのは、普段、 まちづくり にも出てこないようなところに人のところに置いてたって、価値がないような気もするし、逆にいうと、 まちづくり に出てこないんだから、水くれないはやれよ、それが まちづくり の最低の何というのかな？みちづれだという、考えがあっても出来ると思うんですが、いずれにせよ、ガーデニングについては、ちょっと本町1・2丁目で行っているような自分で朝顔の種を撒いてやる、そういうふうにして行った方がいいんじゃないかなと、私は思っております。それとたまたま今回3月6日に桐生町立で400年ということで参加したんですが、あれも非常に我々としてはお金をかけずに何もしないで、あれだけの宣伝が出来たというのが、浄蓮寺を宣伝する 意味 で、非常に良かったかと思っています。 桐生 の週刊誌で、33観音の募集が出ていますが、また違う 意味 で、 桐生 市民も浄蓮寺の33観音について認識するような僕はイメージを持っております。 イベント については、そんなに手間をかけないでやれたらいいなあと思っております。皆さん、よろしく。
2010/3/18	81	Os	同じ…ね。
2010/3/18	119	Os	いいや、もうやめよう、この 話 …
2010/3/18	123	Os	駄目？ちゃんと真剣に 話 しなくちゃ…（笑）
2010/3/18	123	Os	イベント 部会、さっき、ほら、川口さんが言ってたじゃない。だから、 シルバー の中の イベント って言った方がいいかもしれないよね？
2010/3/18	148	Os	あ、そうなんだ。で、土地は全部、じゃ、 お寺 の…
2010/3/18	158	Os	林さんのところもお 寺 さんですか？
2010/3/18	246	Os	はい。
2010/3/18	298	Os	だから、その 話 はまた考えることにしようよ。
2010/3/18	298	Os	今日 説明させようかと思ったんだけど…
2010/3/18	304	Os	そう、 今度 の4月のサヤ市にこれの大型バージョンで写真のパネルを30枚以上陳列する予定になっています。
2010/3/18	309	Os	何かちょっとこれやるでしょう？ひな 祭り …
2010/3/18	320	Os	で、今度の4月、桐生はね。4月4日がひな 祭り なんです。これは凄いい売りになると思います。
2010/3/18	342	Os	とりあえず 今年 は先駆けするわけよ。
2010/3/18	374	Os	真壁の写真を見てちょっと思うけど。必ず、人形の周りに古い 着物 を陳列してあるんです。
2010/3/18	482	Os	イベント 関係なので、6月の6丁目のフリーマーケット…
2010/3/18	497	Os	いや、またね。山門の前で、何か イベント をやろうと思っているんです。それはまた梅田のこのカナイ君とそれからイトウヤのコーヒーそれから群大のジャズ研に声をかけてあそこ山門の下でジャズをやろうかなと思っているんです。
2010/3/18	500	Os	あと、天気、雨ね。これ、決まり。だから、山門の下だから、野菜とコーヒーとジャズぐらいならいいだろうと、ついでに少し残っている何と言うのかな？ 布 を売ればいいかなと思って、それで、まあ、群大生の弁当ぐらいそこで稼げればいいかなあと思っています。それと3月6日に山門の下でやった結果としては、4、200円残ったと。アルバイト料を払って、それから皆にご飯を食べさせてやって、残りが4、200円と、良かったなあという感じですね。
2010/3/18	543	Os	どうしよかなって、ここで、とりあえず、僕の方は 布祭り パート2という形で…
2010/3/18	560	Os	だから、さっきから準備とこの次は、和装の 着物 とかそういうのを売ろうと思っている…
2010/3/18	562	Os	着物 と帯…
2010/3/18	568	Os	着物 と、要するに、和装と洋装を分けた。前は和装は出なかった…
2010/3/18	618	Os	だからね。色々ね。この まち で反省すべきことはいっぱいある。例えば、業者が出たけど、彼ら先に帰っちゃった。テントを片付けないで、そういうこともあるし…
2010/3/18	634	Os	いや、だから、僕は 今回 11月はちょっと離れてみようかと思っています。10月の十夜会はまだ別だから…
2010/3/18	659	Os	尚、引き続き、 桐生 建設さんの方で、お酒をいただいておりますので、それを飲みながら色々とお話をして行きたいと思います。

	指標発話	
	指標発話候補の整理過程で省除された発話	

※発話の中での「頻出単語」を赤字で示す。

■表 3-3-5 第 1 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図3-3-3	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第1	2009年6月 2010年2月 2010年3月	イベント	2月 3	指標発話		●
			3月 34	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			3月 40	指標発話		●
			3月 123	指標発話		●
			3月 482	省除5	497に続く前方連鎖→497に集約	
			3月 497	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		布	6月 37	省除3	連鎖していない。	
			6月 65	省除4	例外的に、筆者(参与観察者)が対立構造を構成しているので除外した。	
			3月 500	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			3月 543	指標発話		●
		祭り	3月 309	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			3月 320	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			3月 543		「布祭り」にて、布をテーマにした発話→布へ	●
		着物	6月 18	指標発話		●
			6月 20	指標発話	※18と一連の発話にて結合	●
			3月 374	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			3月 560	指標発話		●
			3月 562	省除5	560までの会話群の後方連鎖→～560に集約	
			3月 568	省除5	同上	
		まちづくり	3月 40		内容的に「イベント」→「イベント」	●
		シルバー	3月 123		内容的に「イベント」→「イベント」	●
		寺	3月 34		内容的に「イベント」→「イベント」	
			3月 148	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			3月 158	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	

※選定した「指標発話」はセルを赤に、それ以外で「指標発話連鎖会話群」に含まれる発話は黄色に着色した。
 なお「選定・省除理由」の欄の各記号は図 3-3-3 及び補論「手順書」参照。(以降表 3-3-11 まで各表共通)

2010/4/18	286	住職	いわゆる社長になったんですけども、うーん、欧米視察へ行ってきた、あの、いわゆるイギリスの、うーん、何て言うんですか、織物だの、そういうね、…の工場を見て、綿織物の、それで発想したらしいんだ、あの、うーん、何だっけな、グラスゴーじゃなくて、どっか、内陸に大工場があったんだって、で、あ、それで桐生でもできるんだ、そういうことで三井とも協力して、三井と佐羽家が協力して日本織物会社っていうのはできたんです。その後三井は手引いちゃったんですけどね。
2010/4/18	288	住職	ああ、それも、だから、ちょっと関係があるんだけどね、三井家の最初のほうの方は、三井家の、あの一、三井、三菱の、三井家の一番、何て言うんですか、あの、今の体制になる最初が、うーん、江戸時代の初期ぐらいに起こってるんですね。で、その、えー、初代の方のご兄弟が桐生に、婿に来たんです、桜井家…、で、えー、まあ、ちょうど桐生のまちおこしの最中で、そのときに、あの一、桜井で、まあ、婿さんに入って子どもができた。で、その、ご長男だか、二男が、その、本家が耐えちやいそうになったんで戻ったんだ、戻された。で、桐生で生まれて、その、親御さんは浄運寺檀家になって、浄運寺の墓地に入ってるんだけど、その方が二代目の当主になる、桐生からいったら、そういう関係です。で、後に、その、いろいろ本によると、えー、三井と佐羽はライバルだってね、それでちょっとけんかしたり、いろんなことがあったりね。それで、あの一、鐘紡ってのがありますね、鐘淵紡績、あそこは佐羽家の別邸があったとこなんです。で、佐羽家と三井で協力して鐘紡をつくったわけですね。で、反対にそれは、何か佐羽が三井に取られちゃった。そんなことが本に出てますけど、この本を後で、…からお話しします。
2010/4/18	337	住職	古民家は5時から。
2010/4/18	350	住職	ですから他の部会も、いちおう、まあ用がある月は、なんていうんですか、偶数月に…やりたいと。とくにあの、ガーデニングなんかは、その…来月なんかはもう間に合いませんから、18日の午前中ということで、特にご案内は出ませんが、いちおう10時頃、みなさんには来られる方は出て頂ければ、と。
2010/6/18	1	住職	…両方で情報を共有しながらですね、ぜひそういうふうな方向で、場合によっては、その、末広町商店街組合にもご協力いただきながらやったほうがいいとおもうので、とりあえず今日は現状を皆さんに見て頂いて、そういうふうによったわけなんです、杉浦さんがそのへんも頭に置いておいていただきながら、場合によったらそういうときはお二人にも出て頂いて…ということで委員会を進めたらどうかと思うんですけど、どうですか。
2010/6/18	62	住職	古民家再生部会は…

	指標発話	
	指標発話候補の整理過程で省除された発話	

※第2分節は、Tuの発話に頻出単語の多くが現れなかったので、ターン割合2位の住職の発話によって補完することとした。

■表 3-3-7 第2分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話		選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
					図3-3-3	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第2	2010年4月 2010年6月	まちづくり	4月	1	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月	5	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月	104	指標発話		●
			4月	343	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		部会	4月	350	指標発話		●
			6月	62	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月	156	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		末広	4月	95	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月	99	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月	1	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		民家	4月	132	指標発話		●
			4月	336	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月	337	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月	62		「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「部会」に集約	
		歴史	4月	115	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月	277	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月	280	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月	54	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		商店街	6月	1		「末広商店街」にて→「末広」	

次に第3分節（2010年7月,8月）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載した表（3-3-8）を示す。さらに、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示した表（3-3-9）を示す。

■表 3-3-8 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第3分節

日付	コーパス 行番号	発話者	発話内容
2010/7/18	14	Ka	では、簡単に紹介というか、あの店舗設計をやってるんですが、あの画家でもあり、絵をすごいやって、であの、生方さんと30年以上付き合いがあるんですけど、あの、民俗学っていうんですか、あの、奈良とか京都とか、私も引きづり回されてですね、あの、その辺の文化・歴史をやりにながら、あと、イオンなんかも相当、ああいうショップ、都内の飲食・・・というか美術史のね、そのへんちょっと、じゃあ お願い します。 前橋の方です。
2010/7/18	20	Ka	会社名も「みかづき店舗設計事務所」ってかわいい名前なのでよろしくお願ひします。
2010/7/18	68	Ka	・・・何人かの方が古 民家再生部会 に入りたいということなんですけど、どうても専門的な部分もあるもんですから・・・そうじゃなくて「住み続けたい まちづくり 」を掘り下げていくというのもあるんじゃないかと・・・今日 5時 からやってるんですけど、もうそろそろ終わっていった方が進むんじゃないかなというのが、・・・一言ご提案させていただきます。
2010/7/18	69	Ka	企画推進のところでも、おかふくさん、まあ、たまたま出ますけど、じゃあ案はいいんだけど、ちょっと具体的な話で申し訳ないですけど、銀行はどうするんだと、テナントはどうやって連れてくるんだと、たとえばどうやってテナントを育成していくかってこと、いまさらアッシュミタいに発信みたいなこと、発信かけて地域に貢献してもらわないといけないし、そういうこともやっぱり・・・絵だけ投げかけるのもまちづくりなんですけど、そこそこその落としこみってのが大事ですから、その落とし込みするチームとですね、育成班とを分けていかないと、まあ空論をとうしているみたいな感じになってしまうんで、まあ幅広く参加してもらえようような形になっていきたいな、ってのが古 民家再生 の方の事情であります。
2010/7/18	70	Ka	それからちょっと話が・・・もうひとつあれなんですけど、さっきの冒頭で少し出てた 世界遺産 とかと結局・・・ええと、佐々木先生との関係というのも開拓していく余地あるんじゃないのかなと・・・今のままだと全部が古 民家再生 に入ってきてちゃうんで、ちょっと、ぐちゃぐちゃになってきちゃう・・・一つ一つはいいことなんですけど、整理しないとかぐちゃぐちゃになってしまうんで・・・みなさんが参加しやすいような形に変えていかないと、って思ったもんですから。 以上です。
2010/7/18	72	Ka	会長ね、古 民家再生 もね、専門的なことは専門的なことで一部でやって、育成とか地域貢献とかやっていかないといけないんで、・・・お店にしても、地域貢献、こうしてもらいたいとか、知識がある程度幅広くメンバーの方を決めさせていただきたい、つてのがあるんですよ、専門的なのはごく一部で。
2010/7/18	74	Ka	今は、2、3人の建築経験者を中心としてやっているということ、それぞれのあれがある方が、発揮していただいて、かなり任せて運営していきたいなっていうところがあるんです。
2010/7/18	75	Ka	われわれ古 民家再生 でも、2、3人で打ち合わせしても、やっぱり、全体の総意をとらないといけないし、役員会の了解も取らないといけないし、で、結構大変、っていうかほかのことが多いんですよ。
2010/7/18	76	Ka	だから、古 民家再生 ってことで委ねていただいて、観音会らしい活動をしていきたいなと。 だから、専門にこだわらずに、ちょっといろいろ協力してもらえばって。
2010/7/18	108	Ka	東山さんが言われた・・・まあ、ことは実感として、動いていて、古 民家再生 の中でも、どう考えるのかっていうと、ただガーデニングやるのとはちがってくんですよ。 ただ貼り付けられると、こなすっていう形になって、古 民家再生 の中でも入ってくると・・・。
2010/7/18	109	Ka	だから、後で話そうかと思っていたんですけど、古 民家再生 も、どこに・・・今、3つ絞りがあるんです・・・一つは、その一、案件が上がってきたところをこなしていくのか、途中から出てきたワークショップ、プロがきていろんなコンサルティングで結論出すんだか、あとは、もう一つ佐々木先生の方で・・・これもちょっと、やはり、性質が違うんでね、それと組むんだか、だから今、4つくらいに・・・ここをどう絞っていくかってことで、・・・できれば「住み続けたい まちづくり 」ってことで、基本原則の中で、今までやってきた イベント とどう絡めていくかって話になると・・・なんとなく古 民家再生 班と イベント 班っていうくりの中ね、ある程度分かれるのはしょうがないとは思うんだけど、なんかやっぱいいね。
2010/7/18	112	Ka	さっき言った、ちょっと修正していきたいのは、・・・景観の中で、建築の話が出るだけで、それまでのメンバーで行けるんですよ。 住み続けたい まちづくり っていうのは。
2010/7/18	113	Ka	部分的に局面で出るだけ、だから、古 民家再生 を少し、建築・不動産の位置づけを出しすぎちゃって、行っちゃったなって感じね、我々のほうで反省があって、もうちょっと、この「育成事業」の中でも・・・古 民家 の中でもないゆるる 再生 事業ですから、いろいろあるんですよ。 もうちょっと中を整理して参加しやすくやっていけたらって、いうふうにな・・・。
2010/7/18	121	Ka	さっきの 再生 っていうのは、ちょっとやるよね、なんか、やっぱり・・・を引っ張られて、いろんなことをやって、絞らないとね、ちょっとね、またポイントがずれちゃうのかなって気がするんですよ。
2010/7/18	156	Ka	一回ここで投げかけがあったわけで、正直言って、例会の在り方ですよ。 今、平井さんが言ったのは、できれば古 民家再生部会 の研究室に来てもらってやっていただきたい。 ここで投げかけられても、参与観察者さんから投げかけられても、いつも投げかけられても、次、どうやって生かしていくかってことになるわけです。
2010/7/18	157	Ka	だから、その辺も含めて、 例会 の在り方というものを・・・ 投げかけられる、投げかけられる、で、我々は1週間に1回集まって、・・・というよりも、もうちょっと詰めた話をしていきたいんです。
2010/7/18	163	Ka	それまで、コミュニケーション 部会 っていうので、少し羅列されているあれを、少し厚くさせていただいて、幅広くやって、分けてやっていかないと・・・。
2010/7/18	166	Ka	出てきてもらって、で言えば、少し分けて、今回新しい体制で中の形ですね、・・・応募してもらおうと、・・・いうこと。
2010/7/18	167	Ka	今は、アイデア、と、実行と、育成と、班が分かれるんですね・・・。
2010/7/18	168	Ka	で、出てもらうのはいいんですけど、 例会 の中ね、・・・協議会はいいんですけど・・・。
2010/7/18	180	Ka	もう一度「古 民家再生部会 」を整理すると、・・・その、住み続けたい まちづくり という、もともと根源的な考え方、・・・あとは、ワンストップというのができた、・・・これ、やる、やらないは別として意見としてできた、あとは、今回、佐々木先生のほうの鑑系のもでできたということで、これも全部やるっていうのじゃなくて、少し、その一、少し整理して、まあ、「住み続けたい まちづくり 」が本丸なんだろうけども、もう一回、古 民家再生部会 、少し分けてですね、で、・・・御呈示できれば思うんですよ。
2010/7/18	191	Ka	それも踏まえてもう一回考え直したいと思うんですけど、私が考える「住み続けたい まちづくり 」っていうのは、古 民家再生 に入っているといくなくてもいいんですけど、3年間やってきたんですけど、メンバーが語り合う場がなかったと思うんですよ。
2010/7/18	193	Ka	3年間やるなかでの総括、を含めてね、この古 民家再生部会 でやろうかなって、私思ったんですよ。 あまり、そういうデータをとるといことではなくて・・・あまりそういうデータ論とか入って行っちゃうと、・・・。
2010/7/18	238	Ka	いや、 お願い します、まだ・・・
2010/8/18	9	Ka	我々が管理頂いたもの、メインの所にこういうものがちらばってもらわないと。 企画 さえまちがえなければ化けますよ。 っていうか、ほかにもいいですよ。
2010/8/18	20	Ka	小諸さんとか、今までやってきたもの（イベント）を全部一度見せてもらいたい。 そういう資料を見せて頂く中で、うん、 お願い できれば・・・。 次回ね。
2010/8/18	26	Ka	みんな、トラックレコードっていうか、 今 までやってきたことを話し合いながら、だんだん岡福福がめざすべき点っていうのを絞り抜いていこうと思うんですよ。 だから、たぶん図面でばんばん引いていっていうアプローチじゃないと思うんですよ。
2010/8/18	45	Ka	だから別枠でどうするかというプラン、それをかんのん 会 の川口さんの方で、目の前で出入りが悪いとか生じて、そのへんも全部承知の上で借りるからっていう話で、だから逆に言えば、それはそれでね、宮地さんが使わないとしたら、何か別に買すとか、それはいいわけなんですか。
2010/8/18	49	Ka	・・・わたらせライフも宮地さんの対応でやってるんだけど、結局、宮地さんもあと10年先は、川口君、オレが一線で作ってるか分からないって話なんですよな。 それで、 今 人材を、その、今宮地さんをサポートしている人が何人かいるわけです。 それは、宮地内閣じゃないんだけど、私が万が一、宮地さんが言ったのは、私が万が一あったときに、じゃ理事長としてやるっていうんじゃないんですよって。 みんなその、財務、サポートするメンバーなんですよって、そうすると今の30代の子、を10年かけて育てて、40代になったときに万が一自分の氏名が終わったときにやるって話しに行ったとき、で、今こういう ご時世 なんで、あの一、いこう宮地さんからすると、言い方悪いんだけど1年待たせて言い方をする訳なんですよ。 ・・・方向性で言うなら、それでこういう ご時世 なんで、・・・いっぱい落ち込みがあるってわけなんですよ。 お互いにツノダさんのとこ、付き合いも長いですし、浄蓮寺さんの檀家同士なんで、ツノダさん最優先に考えていきたいんだけど、ただ、いつまでも待てるわけにも、組織でないかないんで、あと1年くらいついていううらだたら、GOなんだけど、っていうとこになると、人・もの・金の問題があるから、あと半年くらいの中には、いきなりアバードから入ってわけじゃないですからね、そういうことは言っておいてくれて言われました、ずばり。
2010/8/18	69	Ka	一番の大仕事だから、よろしく お願い します。
2010/8/18	74	Ka	総会 やるはずだったんですけど、大須賀さんのお父さんが亡くなって・・・。
2010/8/18	77	Ka	みなさん、古 民家再生部会 に入りたい。 各論だけだと参加しづらい。 まちづくり っていうか大局的な部分を含めてやることも必要なんじゃないかな。
2010/8/18	78	Ka	例会 のあり方も変えていったらどうか。

2010/8/18	89	Ka	部会以外で集めちゃうかもしれないんで。いつも案件の話ばかりして、なんか中心の話がなかったような感じがしてましたし、私も部長でしが降格って言う形で・・・(笑)
2010/8/18	94	Ka	案件は案件でやりますよ。 古民家再生、共益という中で まちづくり ってということで、私も連れてきたいんですけど、受け皿がなくて・・・。
2010/8/18	96	Ka	研究会の中で歴史をやりたいという人がいたら、歴史班ということで、その人に班長っていうことでもないんですけど、なんかリーダーになってもらってやってほしいし、もっと、路地にやりたいとか、いろんなことで興味もってくるんで、そういうのが少し、なんか分科会じゃないですけど、そのへん・・・分かれた方が良くなくなって気がしてるんですよ。
2010/8/18	99	Ka	そういうことになると、私含めてできないんですよ。 だからぜひ、今回・・・。 私も見直しながら勉強していきたいと。 私なんか内閣でいうと行政仕分けチームみたいな話で、それもやんなきゃなんないんですけどもね。
2010/8/18	110	Ka	あとはね、もし研究会の方がメインになっていったときに、岡田さんなんか研究会じゃないですか、ただ、岡福プロジェクトの時は当事者だから、一つ、招集させて頂いてっていうのはありますけど、もしかしら、研究会が基本で、我々の推進、出させてもらって、推進なんかもしかしら個別で進めていくっていう話かなあって思ってるんですよ。
2010/8/18	121	Ka	今まで儀式張っていたような気がしますね。
2010/8/18	139	Ka	今、案件はこなしているんですけど、もう少し、この辺はどうなんですか、みたいに・・・、こういう視点が・・・共益とか、そう言われると、そうか正しかったんだみたいに思うし・・・。
2010/8/18	141	Ka	あと、この前連れてきた、2、30分ですけど、相楽さん、彼女と話しても、ね、いろいろなるほどなっているんで、じゃあぜひ、かんのん会をプラントホームみたいに活用して良いんですか、みたいに、結構勉強になること多いんですね。
2010/8/18	180	Ka	具体的な段取りからすると、来月の9月がいちおう、それまでに役員会をやりますけど、総意をやる形になるんですよ。 確認作業を。 だから、来月は今のスタイルで行って、具体的には以降のことですよな。 オープン的にっていうか、・・・。 次回はあり方についての話が・・・。
2010/8/18	188	Ka	佐々木先生、っていうかあちらのグループは、かんのん会にどういう要望っていうか期待しているんですか。
2010/8/18	202	Ka	話が広がってくるのは良いんですけど、たぶん、出るとすぐ、かんのん会自体に期待が・・・いて、ただいて話を聞いて、じゃなくて意見は求められると思うんですよ。

	指標発話	
	指標発話候補の整理過程で省除された発話	

■表 3-3-9 第3分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図3-3-3	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第3	2010年7月 2010年8月	民家	7月 68 指標発話	70まで一つのターン		●
			7月 69 指標発話			●
			7月 70 指標発話			●
			7月 72 残留	70以降の連鎖の一部		●
			7月 75 指標発話			●
			7月 76 指標発話	75と同一ターン		●
			7月 108 指標発話			●
			7月 109 指標発話	108と同一ターン		●
			7月 113 省除4	112と同一ターン→112		
			7月 156	内容的に「例会の在り方」→「例会」		●
			7月 180 指標発話			●
			7月 191 指標発話			●
			7月 193 残留	191以降の連鎖の一部		●
			8月 77 指標発話			●
			8月 94 残留	89からの一連の連鎖		●
		まちづくり	7月 112 省除4	賛成・反対の意思表示がない。		
			7月 180	内容的に古民家再生部会がテーマ→民家		●
			7月 191	内容的に古民家再生部会がテーマ→民家		●
			8月 89	内容的に古民家再生部会がテーマ→民家		●
		部会	7月 68	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
			7月 156	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
			7月 163 省除4	賛成・反対の意思表示がない。		
			7月 180	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
			7月 193	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
			8月 77	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
			8月 89 指標発話			●
			7月 156 指標発話			●
		例会	7月 157 指標発話	156と同一ターン		●
			7月 168 残留	156からの連鎖の一部		●
			8月 78 指標発話	77と同一ターン		●
		再生	7月 68～193	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
			7月 121 省除5	108,109の後方連鎖で、最小限にまとめる。		
			8月 77～94	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「民家」に集約		●
		イベント	7月 109	内容的に古民家再生部会がテーマ→民家		●

※赤い記号が指標発話を表す。

次に第4分節（2010年9月,10月,11月）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表（3-3-10）を示す。さらに、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示した表（3-3-11）を示す。

■表 3-3-10 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第4分節

日付	コーパス 行番号	発話者	発話内容
2010/9/18	25	Ka	じゃあ、古民家の方から。 ...
2010/9/18	26	Ka	いちおう3年間やってきまして、活動の幅も広がってきたもんですから、ちょっとこの、マンモスっていうか大きい組織になってきたんで、もう一回、えー、二つに分けたほうがいいんじゃないかっていうご意見をいただいでですね、えー、基本的には今までで古民家、まあいつかあの、案件で進んでいるものも、進み始めているものもあるもんですから、そちらのほうをいちおうプロジェクトっていいですか、企画室の方に、で、こちらの方は月一回っていうと全然もう間に合わない、今、週一くらいのペースで打ち合わせしなくちゃいけないってあるんですけど、ちょっと、それは普段の部会、例会とは別にですね、今後締め切り等もあるもんですから、...それで、古民家の本丸っていいいいますか、えー、やっぱりあの、かんのん会の一番のキーワードであります「住み続けたいまちづくり」っていうのを、やっぱり中心的にですね、据えて...ここで新しいかたとか、あの一、入りやすい、なおかつ、もう一回「住み続けたいまちづくり」、これを一つ中軸として、少し専門的に進めていかなきゃならない、...もう一回、古民家を見つめなおして、いろいろな方々が参加して、そんなから、っていう二つにできれば、分けていただいた方がいいという形で、いちおうこういう形にさせていただきます。
2010/9/18	28	Ka	あとはあの推進の方は杉浦さんということだね、はい。 こちらのほうも分けていかない。 それで、逆に言いますと、少し附け加え言いますと、少し私の方がプロジェクトに集中するっていう形で、分けさせていただいたんですけど。 ...（しばらく間。何かを配っている。）
2010/9/18	31	Ka	それで、あとあとまた今日の例会であの。 ...（しばらく間。何かを配っている。）あとあとですね、例会とか部会の在り方とか話し合いとかがあると思うんですけど、古民家再生で、ちょっと先にお話しておくことが有るんで、今までは毎月5時からってことで、古民家再生部会、7時から例会ってことだったんですが、あの、プロジェクトの企画と推進の方はもうちょっと、それは関係なく随時、やらせていただいて、メンバーだけで、ちょっと、させていただきますと思います。 間に合わないもんですから。 あとあの、こちらの、「住み続けたいまちづくり」ってのは、毎月、部会って形だね。 あの一、進めたいかなと思います。 またあとでこれはコピーさせていただきます。 ...（しばらく間。何かを配っている。）
2010/9/18	36	Ka	あと、あの7番と6番のですね、えと7番が角田邸、6番が旧今西豆腐店と、...こちらは今、プロジェクトが進みましてですね、ただあの一、えー、報告したいんですけど、地権者とか、さきほど色々先ほど加川先生の方から上がっていた個人情報も出て来るもんですから、あの、ちょっと報告はね、控えさせてもらって。 それで今、おかげさまで走り始めた、という形で、あの一、いちおう年内、をめぐって一つの報告、来年なりに、...の報告ができたかなと思います。
2010/9/18	193	Ka	先ほど申し上げたとおり、コミュニケーション部会はある程度皆さんのご協力をいただきたいと思うんですが、古民家再生の...今、久保田さんが説明してくれた「古民家再生とは」というのがありますよね。 それを勉強会という形でやっていくというなかで、先ほど申し上げたように、プロジェクトの方は随時やっていきますので、あの一、この、今回の本会で、あれですよね。 研究会の方を、と例会と部会の在り方というのに、そろそろ話を...
2010/9/18	197	Ka	ではもう一回整理をね。 あの、プロジェクトの方は随時やりますので、私、ちょっと提案なんですけど、例会の方ね、例会は確認作業ってことにしてもらって、部会のこの「住み続けたいまちづくり」っていうのを毎月、例えば1時間とか2時間とかやって、最後まとめて例会みたいなの、スタイルの方がいいんじゃないかって思っているんですよ。 で、今回、部会をやっていたときに、今月は例会でしたら部会でしたら、こー何回も聞かれて、なおかつ自分もちょうとこんがらがっちゃうと思うんですよ。 それなんで、むしろ、...部会は毎月やるような形で、例会を2カ月に1回、短くコンパクトにしてやるのかな、っていうほうが、やっぱり逐例会、部会よりも、みんなでいろいろね、ちょっと、もうちょっと若干...な進行の仕方に変えてですね、やっていくほうがいいんじゃないかな。 もう一つは時間なんですけど、あの7時から始まるってしたい2時間で9時って形で、なにへんの場合はもうちょっと遅くからとか、6時ごろからでもいいですよみたいな話もあるもんですから、そのへんの時間なんかもういろいろ、会長、意見出していただければ。
2010/9/18	199	Ka	それほもう、部会は...抜きにしてください。
2010/9/18	201	Ka	この研究会の部会の話です。
2010/9/18	229	Ka	もともと、あの一...例会が2カ月に一回ということになっていて、それはそれでいいと思うんですけど、今まで意外とちょっと、専門的な打ち合わせしたりとか、こういう、この色々バラバラだったのが、そういうのは各自でどんどんやっていただく、いただかないと、やっぱり尻決めの部分もあるんで、うちはあの一、毎月、住み続けたいまちづくり研究会ってとこで、全員ここに入って、あの一、こんなか、あの一、いろいろ... 住み続けたいまちづくりっていう位置づけは、さきほどちょっと、こちらの図がありましたんで、なにも古民家再生だけがその一、住み続けたいまちづくりではないのかなと。
2010/9/18	233	Ka	それを部会にして、それをちょっと、みんなでいろいろ勉強したりとか、いろいろ意見言いつて、...主力とする。 そして、そのあと2カ月に1回、例会、もともと、今年は例会は2カ月に1回ってことになってたんで、例会ってのはちょっと、共通の...というのがあるもんですから、それを例会で部会の後に付け加えてやる月も2カ月に1回ありますという方が、全員が動き出せるんじゃないか、っていう提案なんですよね。 はい、そういうことです。
2010/9/18	235	Ka	7時からだと6時半からだと、それも...
2010/9/18	236	Ka	それとコミュニケーションのあれは、みなさん随時やっていく。 だから、さっき近藤さんが言われたコミュニケーションの方も、部会の中で、あの一、18日でやるのもいいし、その前でも...
2010/9/18	242	Ka	今までで例会で...ひとことお願いしなくても、もうちょっとスタートから、住み続けたいまちづくり、テーマは幅広いと思います、それを自由にいろいろ、3か月4カ月連続でやるってのもあるでしょうし、いろいろ、...テーマもある、そういう形の、もう一回、全員参加っていう形をちょっと、やるんが、もう一回3年間やるのがいいかなと思って提案させていただきました。
2010/9/18	250	Ka	2カ月に一回例会をやるってだけの話だったんですよ、最初は。 それをもうちょっと2カ月ってのは変わらないんですけど、例会中心にこう、正直言って時間が長いわけですよ。
2010/9/18	265	Ka	それに、糸へんにすることとか、いろいろ書いてありますよね。 「ほか」って書いてありますんで、この中にいろいろなテーマが出て来ると思うんですよ。 ただ、今、プロジェクトの推進からすると、岡福亭とかもお願いしますと。 研究材料にね。 テーマとしてってことですね。
2010/9/18	277	Ka	最初の例会で、部会っていうのをちょっと自由なところを増やしていったらどうかって考えるっていう提案なんですよ。 まあ、今、参与観察者先生、参与観察者が言ってくれたように、まあ、ちょっとやっぱり、年間のキーワードとしてのテーマも...材料も、例えば3、40分やって、そのあとちょっと、今、大隅さんが言われた1時間くらい。 で、例会はほんとにもう、2カ月に1回でつけ足してわけじゃないんですけど、確認事項ってことで、できるだけそういう毎月、そういう、まあ、あの一、自由闊達な、ほんとに車座的な形がそろそろ。 会も成熟してきて、...あとはちょっと、専門的なのはもう別で、どんだん...していったほうがよろしいんじゃないかな、って思いますよね。
2010/9/18	279	Ka	部会です。 （笑い）
2010/9/18	281	Ka	だから例会は...まで、だいたい、30分、まあ参与観察者さんとのね、また打ち合わせ...、30分テーマで話して、あとは1時間くらい、だから1時間半くらいでいいんじゃないかなと思うんですよ。
2010/9/18	286	Ka	部会の話です。
2010/9/18	301	Ka	基本的に、5時からって...したので、あれば部会っていうよりもプロジェクト推進室...なんで、住み続けたいまちづくりの部会ってことで今度、部会、ってことで捉えてもらっていいと思うんですけど。 5時からってのは...で、7時からいつも例会は始まってますけど7時からいいの、6時半なのか、一番いい時間でいいんだと思うんですよ。
2010/9/18	303	Ka	研究会にしますか？
2010/9/18	316	Ka	例会ってのは後に付けるんですよ。

2010/9/18	357	Ka	逆にあの一、私なんかね近くにいるから案が出て来るんですけど、2カ月に1回来てるだけだと、こういうにしてもらいたいって、ある程度難しいと思うんですよ。今は無理だと思うんです。次回からの研究会でいろいろ出て来ると思うんです。うまく、先生と向き合うといういろいろ出て来ると思うんですよ。今いわれるとちょっとね。
2010/10/18	74	Ka	じゃ、私良いですか。(フセギさんが)大丈夫って顔してるんですけど、あの、フセギワールドに持って行かれちゃうとあれなんで、ね。前回、まあ、参与観察者さんが考えていることもあると思うんですが、参与観察者さんとの前回の話の中で、その、 まちづくり やるときに、その、ま、部屋を例えば、賃貸で定住を連れてくるとか、あと、例えばさっきショゴと、えー、アッシュは特例でと、その分析もしたほうがいいと思うんですよ。なぜ、うまくいったか。それは置いておいて、一番 まちづくり の中で決定的なのは、この前、参与観察者さんと話したんですけど、「雇用」の問題、いわゆる、住むのは良いんだけど、その仕事がないわけ、そこが一番きつい訳なんですよ、そこでなんか、表現をする、起業する人もいますし、NPOでやっていく人もいますし、工房でやるものもあるし、この前、相楽さんと話したときも、たとえばそれが、農業って切り口もあるでしょうし、ですから、ただ単に建物のハード的な部分じゃなくて、やっぱりその、雇用に、の問題、それが結びつかないとか…。
2010/10/18	96	Ka	それを、こんなやり方でも良いんだっていう、一つの指針、引き継ぎたい人が、志も含めてね、それを総合的に古 民家 再生の方で、 まちづくり を。
2010/10/18	128	Ka	フセギくんは…ずっと彼も 研究 してやってるんで、…あれなんだけど、桐生の場合、掛井五郎さんから始まって…それはそれで良いんだけど…発信してもらっても良いし、桐生にとどまってくれても良いし…そういうのみんなの会の一つのテーマかなってきがするんですよ。…
2010/10/18	160	Ka	先ほど お寺 の仕組みが分からないっていう話があったけど、もっと言えば、商店街の仕組みが分からないでしょ…
2010/11/18	28	Ka	企業情報になっちゃうんで、これはちょっと…してもらいたいんだけど、まあ、その、〇〇さんで、募集なりして、100名以上、2日間で、来たっていう、その応募っていうのは、〇〇の 時給 でいくらっていう、…いわゆる技術を、ふつうは学校で、専門学校でお金を払ってまで、…、少なくともまがりなりに、その、5万でも6万でも、もらっていただけるっていう、そういう…基本的なところっていうのが、20代、30代っていうところに出てきているっていう、まあ一つの事例で、…それで何年やるってのは分かりませんが、修行して…。
2010/11/18	46	Ka	…私が18年前に、当時「 起業 」って言葉なかったんですけど、…意外とネットビジネスが、…気軽に進めて、被害が少ないうちに終わっちゃうっていう、…ただ、昨日のニュースなんか見ると、50%新卒が切ってるわけですから、で、住職が言ったような流れに。それだったら…と思うわけですよ。
2010/11/18	79	Ka	企業情報になっちゃうんで、これはちょっと…してもらいたいんだけど、まあ、その、スタイルブレッドさんで、募集なりして、100名以上、2日間で、来たっていう、その応募っていうのは、パンの 時給 でいくらっていう、…いわゆる技術を、ふつうは学校で、専門学校でお金を払ってまで、…、少なくともまがりなりに、その、5万でも6万でも、もらっていただけるっていう、そういう…基本的なところっていうのが、20代、30代っていうところに出てきているっていう、まあ一つの事例で、…それで何年やるってのは分かりませんが、修行して…。
2010/11/18	148	Ka	我々サービス産業はないんですけど、やっぱり農業と林業、これも住職のご専門なんですけど、やっぱり国からの費用も少なくなるんで、ほんとに維持するのも山、大変なんで、そのへんも黒保根になると林業と農業がね、統括して出てきますけど、けっこうこれは、我々どうしても まちづくり ってのは市街地ってありますけど、まわりから結局かなりこう、水攻めじゃないですけどやられてきてしまうんで、けっこう深いって言えばね、大事なことだと思います。
2010/11/18	197	Ka	ちょっといいですか、あの一、最後そのことで、横さんの話を聞いて思いついたんですけど、さっき、たまたまスタイルブレッドとかアッシュとか、事業的な話なんで、ちょっとそれは、 まちづくり の会と、ちょっとまた違うっていうことで一度置きまして、住職の指摘のね、そのとおりだと思いますけど、例えば今、その、マッチングしても決まらないんですよ。決まらないから、例えば今言ったような筋骨きでいうと、その、一つはその、東山さんと、万が一、商店街に後継者がいないって時に、来てもらって、いわゆる「 店子 」を作るってことですよ。大家さんが店子を。技術を育成して逆に、設備から何から仕入れルート、まあ物品、販売ルート、全部あるわけですから、今度、店子を育てたら、店子に借りてもらいたいな。いうのも、中には、発信してないからあれですけど、手が挙がってくる、なかなか人の問題なんでね、マッチング難しいですけど、中には続けていてももらいたい店もあると思うんで、いいマッチングがあればね、って思いますがね。それ、けっこうかんのん会では、取り組みやすいのかなと。
2010/11/18	258	Ka	おっしゃることはね、すごくよくわかるんですよ。…(笑い)…でもね、川越じゃなくて、布の桐生でしょ、だから私がさっき言ったのは、だから、その川越だとか前橋とかいいんだけど、他から来てやってっていうのが、もうちょっとね、 時間 かかるかもしれないけども、それに關してはね、…ずっと思っていたんですよ。
2010/11/18	323	Ka	さっきの近藤さんに誤解なく…趣旨を伝えたいと。まあ頑張られて、近藤さんといわゆる外部からの人っていうことに、例えば深化させて、とりあえずこの一、 部会 で分かれてるんで、… 例会 のテーマとして少しずつ布市のこと本格的にやるのであれば、あの一、近藤さんといろんな桐生の素材ってあると思うんですけども、それを1年かけて来年のその、ほんとにやっていくなり、もうちょっと、こう、きっちり計画だててやってもらいたいな、っていう趣旨で申し上げました。

	指標発話		
	指標発話候補の整理過程で省除された発話		

■表 3-3-11 第4分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話		選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
					図3-3-3	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第4	2009年9月 2010年10月 2010年11月	部会	9月	31		内容的に古民家再生部会がテーマ→民家	
			9月	193	省除5	197の前方連鎖で賛成・反対がない。基底となる196－197にまとめる。(①－2)	
			9月	197	指標発話		●
			9月	199	省除4	196－197の後方連鎖で対立関係を表していない。(①－B-a)	
			9月	201	省除4	196－197の後方連鎖で対立関係を表していない。(①－B-a)	
			9月	233	指標発話		●
			9月	236	省除4	230-233の後方連鎖で対立関係を表していない。(①－B-a)	
			9月	279	残留	249-250の後方連鎖	●
			9月	286	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			9月	301	残留	278-279の後方連鎖	●
			11月	323	指標発話		●
		例会	9月	250	指標発話		●
			9月	277	指標発話		●
			9月	281	省除4	278-279の後方連鎖で対立関係を表していない。(①－B-a)	
			9月	301		内容的に「部会」がテーマ→部会	
			9月	316	省除4	278-279の後方連鎖で対立関係を表していない。(①－B-a)	
			11月	323	省除5	頻出度上位の「部会」に集約	
			まちづくり	9月	26		内容的に古民家再生部会がテーマ→民家
		9月		31		内容的に古民家再生部会がテーマ→民家	
		9月		197		内容的に「部会」がテーマ→部会	●
		9月		229	指標発話		●
		9月		301		内容的に「部会」がテーマ→部会	
		10月		74	指標発話		●
		10月		96	指標発話		●
		11月		148	省除4	196以降の前方連鎖で対立関係を表していない。(①－B-a)	
		民家	11月	197	指標発話		●
			9月	25	指標発話		●
			9月	26	指標発話		●
			9月	31	省除5	25,26の後方連鎖で賛成・反対がない。基底となる24－25,26にまとめる。(①－2)	
			9月	193		内容的に「部会」がテーマ→部会	
			9月	229		「住みよいまちづくり企画研究室」にて→まちづくり	●
			10月	96		頻出度上位の「まちづくり」に集約	●
		研究	9月	193		内容的に「部会」がテーマ→部会	
			9月	201		内容的に「部会」がテーマ→部会	
			9月	229		内容的に「まちづくり」がテーマ→まちづくり	●
			9月	265		内容的に「プロジェクト」がテーマ→プロジェクト	
			9月	303	残留	301の後方連鎖	●
			9月	357	省除3	連鎖がない	
			10月	128	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		プロジェクト	9月	28	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			9月	36	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			9月	265	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		寺	10月	160	省除4	「寺」がこの発話のテーマではない。	

なお、「ひとまとまり」の区切り方については第2章で示した「前への遡り基準」と「後への遡り基準」に則って行う。結果は次のようになった（巻末資料参照）。

[illegible]

■ 第1分節における指標発話連鎖会話群（表3-3-12第1行最終列のつづき）

(20)pre-dialog of(18)	(21)following-dialog of(19)	(22)pre-dialog of(20)	(23)following-dialog of(21)	(24)pre-dialog of(22)	(25)following-dialog of(23)	(26)pre-dialog of(24)	(27)following-dialog of(25)	(28)pre-dialog of(26)	(29)following-dialog of(27)
	返32: 一人だけ出ますよん、仕事先売して下さる?		返33: できないでよ。出来ないから、俺だけにやっつけていいのさと思うんだ。		返34: そうですね、今まで話し合ってきたのだから分かるかなって感じしちゃうんですけど、やっぱりおっしゃるとおりかなって思ってます。でもおっしゃってどうでしょうかね。		佐35: やめたいがいとおもうしそれはできないけどと無理だもそれ、僕はそれを聞いていいならどうなるか知らないうちに僕の口は僕のようになてできると思う。それは、		佐36: 覚えていることは分かんし、あの日の思い出に思い当たるた。11月3日にそれをするのをほめた後、僕が僕と想うんだ。僕の感覚で言うところを12月をずらすっていうなら、12月より先、去年は来るのが僕に素直からそれよりも早いというて、11月3日によって、僕達が出てからた、あんなに心動いたことなかった。

■表 3-3-13 第3・第4分節における指標発話連鎖会話群（その1）

[illegible]

■ 第3・第4分節における指標発話連鎖会話群（表3-3-13最終列のつづき）

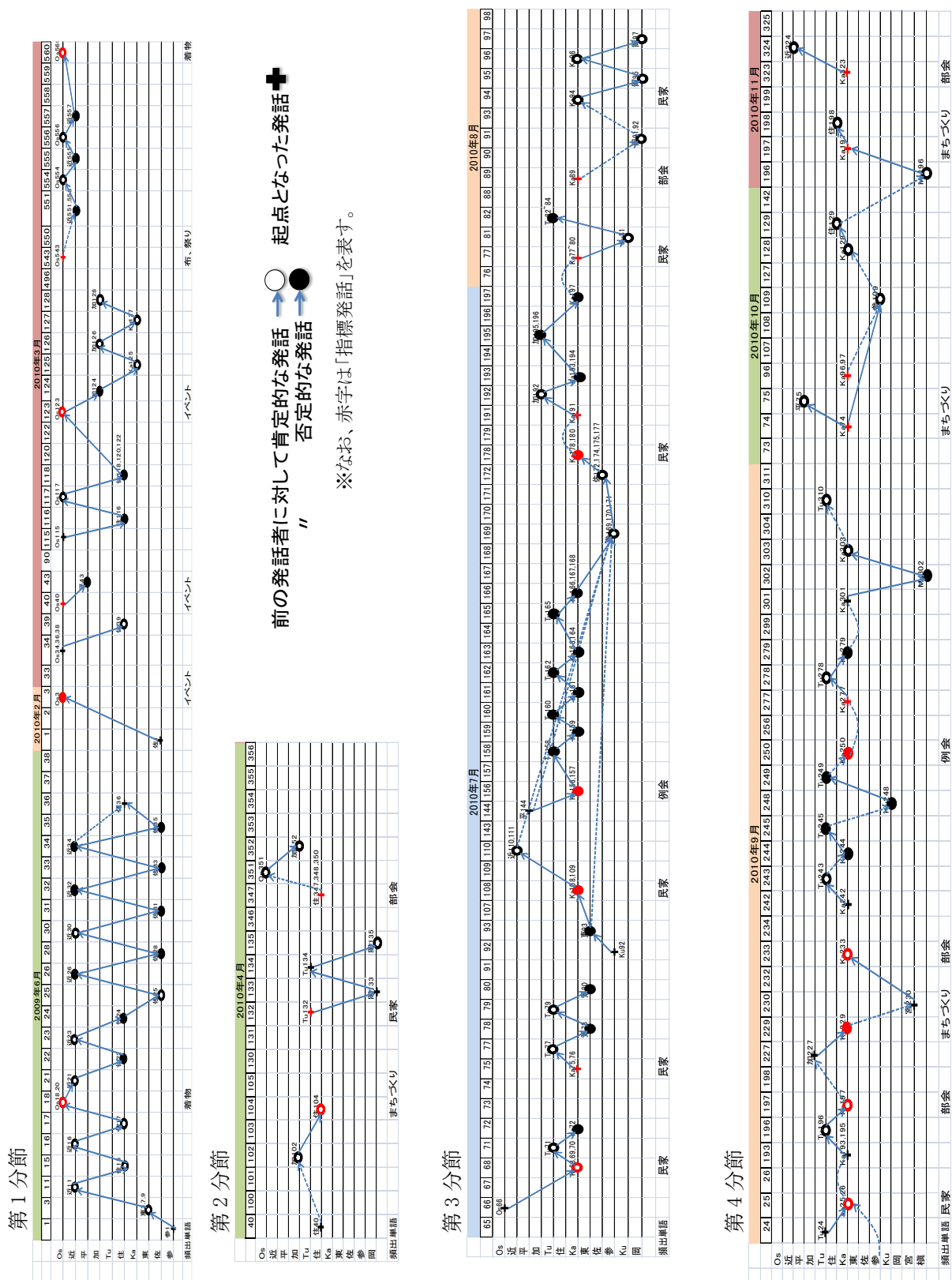
[illegible]

■ 第3分節における指標発話連鎖会話群（表 3-3-13 最終列のつづき）

(19):following-daialog of (17)	(20):pre-daalog of(18)	(21):following-daialog of (19)	(22):pre-daalog of(20)	(23):following-daialog of (21)	(24):pre-daalog of(22)
	Tu158: 結める前に、色々な事例を持って、こういうあれが、意見が出てきて、じゃあどういふ・・・部会を・・・		Ka156:一回ここで投げかけがあったわけで、正直言って、 例会 の在り方ですよ。今、ヒライさんが言ったのは、できれば 古民家再生部会 の研究室に来てもらってやっていただきたい。ここで投げかけられても、いつも投げかけられても、次、どうやって生かしていいかってことになるわけです。 Ka157:だから、その辺も含めて、 例会 の在り方というものを……。投げかけられる、投げかけられる、で、我々は1週間に1回集まって、・・・というよりも、もうちょっと詰めた話をしていきたいんです。		平144: 古民家のあれで、あれは成功してるなと思うんですよ。でも、もうちょっと、人が集まるとか、もうちょっと地域に、路地裏に・・・たとえばフリマじゃないけど、もうちょっと、今の状態は2軒の建物だけで終わっちゃってるじゃないですか。あれは、商売がうまくいっているって見ただけで・・・

⑤コミュニケーション構造図の作成

前工程で抽出した「指標発話連鎖会話群」を第2章に示した手順で、賛成（Pro.）・反対（Con.）の記号に変えて示した。結果を以下に示す。



■図 3-3-4 全コミュニケーション構造図

⑥リーダーシップ構造図の作成

まず「かんのんまちづくりの会」の会員について表 3-3-14 に示す。この表は「かんのんまちづくりの会」の定例会、2009 年 6 月～2010 年 11 月までに各会員^{注8}が発話した状況（ターン数）を示したものである。

■表 3-3-14 かんのんまちづくりの会及びその前段組織に参加した会員とターン数

member	action/sequence										
	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	
Tu	0	2	66	87	12	28	22	60	9	10	
Ka	0	1	9	26	1	25	39	36	33	42	
Os	8	1	144	26	9	27	0	46	0	30	
近	12	4	47	0	0	9	1	40	12	23	
加	3	7	90	45	9	13	8	11	9	16	
住	15	4	82	64	18	0	0	36	29	26	
Ku	0	0	15	7	1	11	3	32	15	5	
平	0	0	8	27	1	5	0	25	16	20	
参与観察者	6	2	14	2	6	7	1	8	9	29	
宮	0	3	1	11	0	0	0	12	0	3	
佐	8	3	17	4	3	8	1	2	0	4	
東	6	0	0	5	0	7	0	0	8	0	
岡	0	0	26	25	1	3	21	6	3	10	
大	0	0	0	14	0	0	0	8	0	0	
Ma	0	1	1	1	2	1	5	2	1	5	
生	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
伏	1	0	0	5	7	1	4	2	1	4	
Su	0	0	1	4	5	0	0	0	3	1	
Sa	0	0	0	16	4	1	0	0	3	3	
北	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	
北川	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	
武藤	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	
タイムス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
奈良	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
不明	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	
ターン数合計	59	28	521	372	89	150	105	327	151	231	

O : 2009 年 6/18 P : 2010 年 2/18 Q : 2010 年 3/18 R : 2010 年 4/18 S : 2010 年 6/18 T : 2010 年 7/18 U : 2010 年 8/18
V : 2010 年 9/18 W : 2010 年 10/18 X : 2010 年 11/18

このうち表中「Tu」、「加」、「住」、「参与観察者」、「佐」、「北」は当会の発起人あるいは前段組織^{注9}からの会員である。

また、それ以外の当会の役員、「Ka」、「Os」、「宮」、「東」、「Su」も相対的に大きな発言力があると思われる。

そもそも各会員には発言力の違いに背景があることから、会員の「リーダーシップ構造図」を図示する際に、「前組織から関わる」、「現組織の役員」、「区域内に不動産がある」、「区域内で営業している」、「区域内事業に利害がある」等の条件を有する特定の会員には重みを付けて図示することとした。

一方で表中「北川」^{注10}、「武藤」^{注11}、「タイムス」^{注12}、

■表 3-3-15 当該会員の重みづけ

member	weight_item						weight
	中核的要員	区域内に不動産がある	区域内で営業している	区域内事業に利害がある	現組織の役員	前組織から関わる	
Tu	1	1			1	1	5
Ka	1			1	1		4
Os	1				1		2
近	1		1				2
加	1				1	1	3
住	1	1	1	1	1	1	6
Ku	1		1		1		3
平	1	1	1				3
参与観察者	1				1	1	3
宮	1			1	1		3
佐	1			1	1	1	4
東	1	1	1		1		4
岡	1	1	1	1			4
大	1						1
Ma	1		1	1			3
生	1						1
伏	1	1	1				3
Su	1		1	1	1		4
Sa	1						1
北	1	1	1			1	4
北川							0
武藤							0
タイムス							0
奈良							0
不明							0

8 「Tu」=角田、「Ka」=川口、「Os」=大須賀、「近」=近藤、「加」=加川、「住」=住職、「Ku」=久保田、「平」=平井、「参与観察者」=筆者、「宮」=宮地、「佐」=佐久間、「東」=東山、「岡」=岡田、「大」=「大隅」、「Ma」=槇、「生」=生方、「伏」=伏木、「Su」=杉浦、「Sa」=相楽、「北」=北爪。以後、文中及び表中は略記号を用いる。

9 2003 年に結成された「本町通り葬祭場反対期成同盟」

10 桐生世界遺産の会代表

「奈良」^{注13}は、それぞれの立場からアドホックに招かれた成員であり、ターン数からも分かるように限られた会議しか参加していないので重みづけを0とした^{注14}。

図 3-3-5 は縦軸に発話者のターン割合（各時期分節における全ターン回数における当該発話者のターン回数：表 3-3-14 参照）をとり、横軸に第 1 分節から第 4 分節までをとっている。

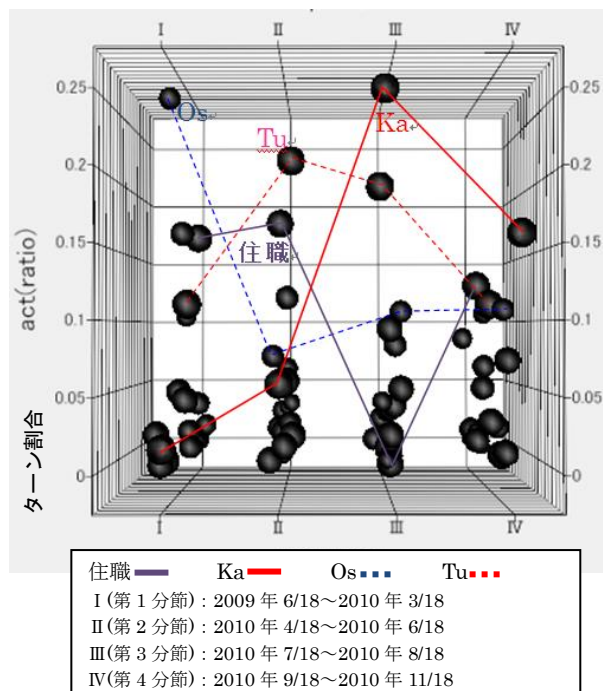
また球の大きさは前述のような発言力の重みづけを表したものであり、大きいほど重いことを表している。また、奥行き方向は成員の数を表している。

当会の発起人の代表である「住」は最も大きい球で、会長である「Tu」がそれに準じている。また、会の役職に就いているが区域内に不動産を持たない「Ka」^{注15}は中間的大きさの球で表現されている。

時点 I（第 1 分節）に上部にあるのが住職であり、以後時点 II（第 2 分節）まで上位にある。この時期に同様に上位に位置していたのが「Os」^{注16}と「Tu」^{注17}であり、「Tu」は会長であったため全回を通して一定の発話行為を行っている。

一方、後半にかけて Ka のターン数が増えている。とくに III（第 3 分節）の時点で Ka の割合が圧倒的に多い。よって全体的に見れば、前半では住職と Os と Tu が、後半では Ka の割合が大きい。これは、前半は住職と Os と Tu の 3 人が積極的にリードし、後半から Ka が積極的にリードしていたことを表している。

このようなリーダーシップ構造の変遷は、テーマの変化や環境の変化によって変容が生じた結果と考えられることから、各時期分節において何らかのテーマの変化や環境の変化があったものと考えられる。それが意見対立の解消や目標の共有過程と関係しているのかどうか、上図のような状況を参考にしながら第 3 項で分析する。



■図 3-3-5 リーダーシップ構造図

■表 3-3-16 各成員のターン割合

	成員	Tu	Ka	Os	近	加	住	Ku	平	参与観察者	宮	佐	東	岡	大	Ma	生	伏	Su	Sa	北	その他
第1分節	ターン数	68	10	153	63	100	101	15	8	22	4	28	6	26	0	2	0	1	1	0	0	0
	ターン割合	11%	2%	25%	10%	16%	17%	2%	1%	4%	1%	5%	1%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
第2分節	ターン数	99	27	35	0	54	82	8	28	8	11	7	5	26	14	3	0	12	9	20	1	12
	ターン割合	21%	6%	8%	0%	12%	18%	2%	6%	2%	2%	2%	1%	6%	3%	1%	0%	3%	2%	4%	0%	3%
第3分節	ターン数	50	64	27	10	21	0	14	5	8	0	9	7	24	0	6	3	5	0	1	0	1
	ターン割合	20%	25%	11%	4%	8%	0%	5%	2%	3%	0%	4%	3%	9%	0%	2%	1%	2%	0%	0%	0%	0%
第4分節	ターン数	79	111	76	75	36	91	52	61	46	15	6	8	19	8	8	0	7	4	6	1	0
	ターン割合	11%	16%	11%	11%	5%	13%	7%	9%	6%	2%	1%	1%	3%	1%	1%	0%	1%	1%	1%	0%	0%

11 隣接する商店街「末広商店街振興組合」会長

12 地元新聞「桐生タイムス」の記者

13 Ka と同じ会社に属する。

14 すなわち、リーダーシップ構造図からは排除する（図示しない）。

15 地元不動産業の経営者。浄運寺の資産として有する店舗や住宅の管理を担う。当会では古民家再生の実務を担う。

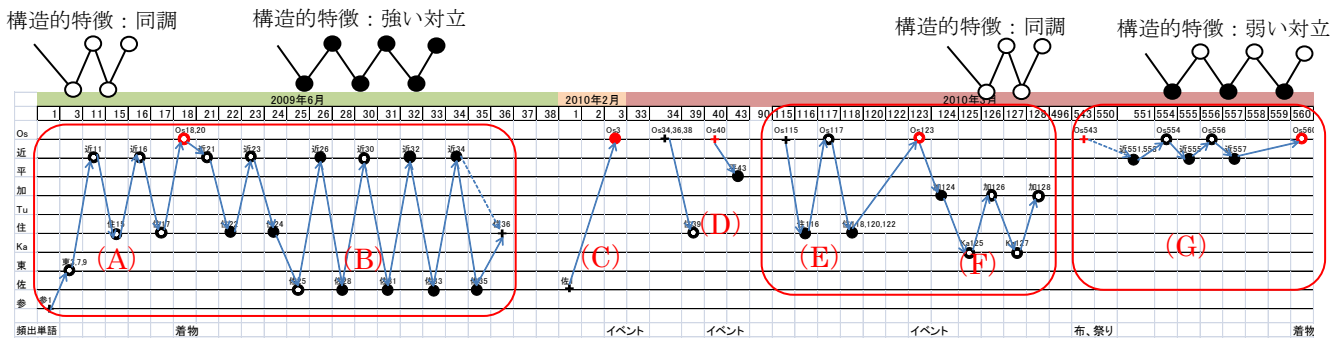
16 浄運寺檀家の副総代。当会の草創期は司会を務めていた。

17 浄運寺檀家の総代。2012年5月まで当会の会長を務める。

⑦会話分析シートの作成

⑦-1 第1分節

まず第1分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。本技法ではコミュニケーション構造図の構造的特徴から「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」を見当づけることとしている。図3-3-6の枠内がそれに該当し、意見の対立構造や「同調」^{注18}構造が見られたため選定した。



■図3-3-6 第1分節のコミュニケーション構造図における構造的特徴

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表3-3-17 第1分節(A)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
1	参	これを集めてきたときに、桐生にはどんな着物があるのか実際に興味がわくものだと思うんですよ。だから、集まってきた中で、これはすばらしいと思ったものは、写真に撮って...素人が撮る写真ではなくて、ちゃんとしたカメラマンに頼んで写真を撮って、こういうものがありましたよと...ということをごどこで雑誌的に公表するというか、ばらまく、そういうことをやっていくべきだろうと思うんですね。実際に、武藤さんが梅田のうほうで集められたときもすごくいい銘仙がありましたでしょ。ただ、銘仙は桐生のもではないからあれですけども、すばらしいですよ、デザイン、もう外国人が見たら目が飛び出るくらい斬新なデザインのものがあつたり。ただ銘仙だということで、じゃあ、お召して、桐生で、どんなものが出てくるのか、本当に興味津々なところがあるんですね。実際にそれができたら、写真に撮ってあれしましうよ、アーカイブというか、記録に残して、で、公表しましうよ、そうすると、見た人が、ああこんなりすごいものがあつたんだということで、つながっていく可能性があるんじゃないかと。	F:提案		【着物ミュージアムの提案】 「参」から着物をアーカイブに残す提案があり、「東」と「近」がそれを同意で受けている。「近」はさらに同様の企画構想を以前「着物ミュージアム」と呼んでいたエピソードへ展開し、「住職」が賛同し、その具体化に向けて「Os」が協力の意思を示している。
3,7,9	東	いい話だね、ちょっといいですか、このあいだちょっと小林さんのところに行ったんだけど、小林さんのところに2階に古着がいっぱいあるんですよ、で、そこいじゃまで、それでなんとか、あそこの2階をかたづけようということで、いったんだけど、そのほかにどこに、っていったら、繊維試験場っていうのが相生にあるんだけど、そこの蔵に、預かれないやつをぜんぶいっぱいあるんですよ、それが片付けられない、そう、それが、小林さんと、きもの小沢先生と...3人で片付けたんだけど、片付けられないくらいいっぱいある、それが、ほんとお宝って思うやつが、そういう無造作にあるんですよ、だから、そういうのを、本当にそういうなんか、...ね。	S:Fに対する同意 f2:提案		
11	近	それで、当初は着物ミュージアムをつくるっていう発想があつたでしょ、着物ミュージアムって発想はすごく大きなことなのに、誰も見向きもしないし考えてもみなかったでしょ、結局、私はいろんな人に言ったけど、「それはね、近藤さん、一人でやったほうがいいのかもしない、」なんて、...ほんとに、えっっていう感じですよ、ね。	s2:f2に対する同意 f3:評価		
15	住	どこでも、博物館ってのがあつて、たしかに桐生にはそういった博物館があつてもいいのかなと思うよ、それはね。	s3:f3に対する同意		
16	近	だから、それを箱物でどうするかじゃなくて、切れっ端で写真を撮ってファイルして、ね、分類して、過去のをきちっと見せるだけのすばらしい財産があるのに、誰もそういうことしない、	f4:提案		
17	住	それは、見せ方によってはものすごく観光資源になるよ、ね。	s4:f4に対する同意		
18, 20	Os	近藤さん、着物が来ればね、まずはね、仕分けするよ、いっしょにやるよ、ちゃんと、着物として採っておくのか、端切れとして採っておくのか、そこまでやるよ、	s5:f4に対する同意		

※F,S連鎖における大文字は親となる（基底の）連鎖で、小文字は子となる（派生の）連鎖。（以下各表共通）

18 相手の次の発話に期待するような発話、あるいは前の相手の期待に沿うような発話

■表 3-3-18 第1分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
21	近	値段が分からないっていうんだっら、値付けしてあげるわよ、私が、それまでにちゃんと写真とったりだとか・・・うーん、ほんとにね、	F1: 申出		【布祭りを実施するか否か】最初に「近」から積極的な協力意思が示されたが、「住職」が否定的な言説を示した機に乗じて「佐」が否定的な発話を投げかけ、「近」との対立関係を生じている。最後は「住職」が「(やれるだけのことを)やってみたらどうか」と、事態を収束している。
22	住職	だけど、最初からはそんなこと全然出来ないよ、	f2: 評価	修復開始	
23	近	発想だよ	s1: 評価に対する申し開き		
24	住職	面白そうではあるんだけど、どうもぜんぜんぴんと来ないんだよ、	f3: 評価		
25	佐	最初、なんとなくBさんからその話が出てきたときに、それってここがやる仕事かっていう気がしたんだよ、	s2: f3への同意 f4: 評価		
26	近	仕事じゃないですよ、ここは、まちづくりの会じゃないですか、	s3: f4への不同意		
27		(さえぎるように)			
28	佐	だまって、ちょっと聞いていってよ、あなたの理想っていうかさ、なんとなくそれは分かる、分かるけれども、それって俺たちがやる仕事なのかって今でもわかんない、(中略)、おれたちがっていうと、なんか雲をつかむような、	f5: 評価		
29		(うんうんと相打ちをうちながら)			
30	近	なんでも最初はそうですね、だいじょうぶですよ、できますよ、	s4: f5への同意 f6: 誘い	修復操作	
31	佐	だったらだよ、おれがもしあなただったら、それをやるための策っていうの、ね、自分で誰でもいいから口説いて、一緒にやろうって言う人を・・・それさっき個人でやれて言った人がいるって聞いたけど、それ まるつきオレも同じだよ、	s5: f6に対する拒否 f7: 提案		
32	近	一人じゃ出来ませんよ、仕事、商売してますから、	s6: f7に対する拒否		
33	佐	できないでしょ、出来ないから、俺たちにやれっていうのは違うと思うんだよ、	f8: 評価		
34	近	そうですね、今まで話してきたのが何のためか、分からなくなってきた。「じゃ、やめますか、みなさん」って言って、じゃあやめますかってこと？どうなんですかね、	s7: f8に対する不同意		
35	佐	やめた方がいいと思うよ、オレは、とてもじゃないけど無理だよ、(略)、	f9: 評価		
36	住職	言ってることは分かるし、あなたの言いたいことも分かる、ただ、11月3日にそれをぶつけるのはまだ無理だろうと思うんだよ、俺の感覚で言うと、集めるだけをまずやってみたらどうなんだろうと思うのね、今年は、集めるだけ集めて、来たらそれじゃやりましょうっていうのを11月3日にやって、実績が出てからやるなら、それなら分かるんだよ、まずは集めてみるだけやってみたらどうかなと簡単に思うよ、	s8: f9に対する同意		

■表 3-3-19 第1分節(E)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
115	Os	お盆にやった方がいいんじゃない？	F: 提案		【ガーデニングイベントの実施時期】「Os」は個人的に担当を付けて実施すべきと発話し、「住職」はイベント部会で討議して進めるべきと発話している。
116	住職	だけど、でも、また、そんなことやってね。手間かかって大変だよ。	S: Fに対する不同意		
117	Os	佐久間さんにやってもらって、担当で…(笑)	f2: Sに対する評価		
118	住職	駄目だよ、そんなのは…	s2: f2に対する不同意 f3: 依頼		
120		だから、そういうことは会議で詰めればいいじゃない、そういうイベントみたいで…			
122		駄目ですか？そういうイベント…			

■表 3-3-20 第 1 分節 (F) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
123	Os	イベント部会の、さっき、ほら、川口さんが言ってたじゃない。だから、シルバーの中のイベントって言った方がいいかもしれないよね？	F: 質問		【イベント部会の位置づけ】 「Os」は古民家再生部会(シルバー)で討議すべきと発話し、「加」はイベント部会で討議すべきと発話している。ここにガーデニングをイベント部会の案件としたくない「Os」の基本的考え方を見ることができる。
124	加	そういう意味じゃない…そういう意味じゃないよね？	S: Fに対する回答(No) f2: 質問		
125	Ka	だから、今日5時から来た人が大体主力がシルバーで、それ以外のというか、それがイベントという大枠のあれですよね？	s2: f2に対する回答		
126	加	大枠でね。	f3: s2に対する確認		
127	Ka	そう、だから、シルバーをもっと部会を分けていかないとちょっと進まないわけですよね？	s3: f3に対する回答		
128	加	そうですね？	t: s3に対する同意		

■表 3-3-21 第 1 分節 (G) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
543	Os	どうしよかなって、ここで、とりあえず、僕の方は布祭りパート2という形で…	f1: 申出		【余った布の所在をめぐって】 前回の布祭りでは余った布の所在が不明になっていることについて「Os」が「近」から訴追されている。
551 553	近	大須賀さんのところの倉庫に入っていたあのたくさんの布は一体どうなるんですか？ いや、いや、化繊とか山ほどあったでしょう？	F2: 質問	修復開始	
554	Os	うん。化繊は、この間の時に全部売った…	s1: F2に対する回答		
555	近	もうないの？ あれ、全部？	f3: s1に対する質問		
556	Os	別だよ。	s2: f3に対する回答		
557	近	まだあるでしょう？	f4: s2に対する質問		
560	Os	だから、さっきから準備とこの次は、和装の着物とかそういうのを売ろうと思っている…	s3: f4に対する回答		

(A)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 3-3-17 である。表に示したとおり、「参」(…記録に残して、で、公表しましょうよ)と「東」(いい話だね)、「近」(…過去のをきちっと見せる…)と住職(ものすごく観光資源になるよね)の同調関係が見られる。最後に Os から「いっしょにやるよ」と、協力の意思表示が見られる。

(B)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 3-3-18 であり、((A)の最後の Os の発話に続いて、)最初に「近」から積極的な協力意思が示されたが、「住職,22」(…そんなこと全然できないよ)と否定的な発話を示し、その機に乗じて「佐,25」(それってここがやる仕事か…)と否定的な発話が続きざまに投げかけられ、「近」との対立関係を生じている。最後は「住職」が「(やれるだけのことを)やってみたらどうか」と、事態を収束している^{注19}。

19 この期間でのターン割合 1 位者である Os の発話に着目してみると、2009 年 6 月に「布市」というイベントに関しての一連の発話が多く見られる。「布市」の担当者の一人である Os ともう一人の担当者「近」とのやり取りが確認できる。このやり取りから見えるのは両者の協調的態度(あるいはイベントに対する肯定的態度)である。しかし後の発話を読むと、住職(表中は「住」と記載。)の否定的な発話が生じ、そこから事務局の「佐」との意見対立に発展し、最終的に住職がそれを調整し収束していることが分かった。このように、この期間はイベント「布市」を行うか否かという争点について話し合った期間であることが分かる。

(E)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-19 であり、「Os」は個人的に担当を付けて実施すべきと発話し、「住職」はイベント部会で討議して進めるべきと発話している。両者の基本的考え方の違いが見られる。

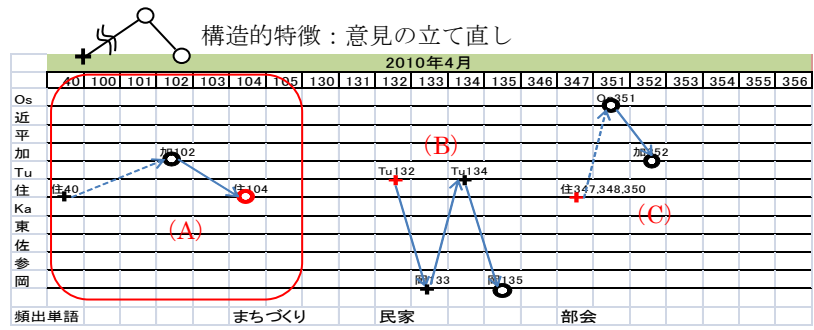
(F)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-20 であり、「Os」は古民家再生部会（シルバー）で討議すべきと発話し、「加」はイベント部会で討議すべきと発話していると同時に「Ka」に同調を催促している。ここにガーデニングをイベント部会の案件としたくない「Os」の基本的考え方を見ることができ、{加,Ka}との対立構造を見ることができる。

(G)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-21 であり、「Os」から 2 回目の布祭りの申出が示されたが、前回の布祭りで余った布の所在が不明になっていることについて「近」から疑義が上がっている。「Os」も応えるが、満足のいく回答が得られないため、「近」から訴追されており、弱い対立関係を示している。

以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち意見の対立構造や同調構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

⑦-2 第2分節

次に第2分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。図3-3-7の枠内がそれに該当し、或る目標表現が討議の過程で横道にそれた末に、再度立て直すような意見が発現し目標表現が繰り返されるような「立て直し」構造が見られたため選定した。



■図 3-3-7 第2分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表 3-3-22 第2分節(A)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
40	住職	それですね、せっかくだから、あの一、私さっき出てないんでありますが、その、町中空き家、空き地、活用...とか、よう、まあ、じ、事業なるかと思いますが、前からずっと申し上げてます、その、えー、今西が、あの一、...それ、そこで、ぜひですね、あの一、何かこう、皆さんでいいプランを考えていただいて、え、何か一つモデルケースにね、あの一、あの、何て言うんですか、チャレンジをしていただいたらどうか。ま、そういうふうと思います。...あの、6月の、ま、5月18日がかえってちょっと大変なんで、6月の18日、皆さん5時に集まりますよね、確か。で、えー、ここ6月になると日が延びますから、このときに5時に集まって見せてもらおうと、まあ、あの、そのお店をね、えー、で、佐久間さん、そういう、まあ、私が行ってからの間に連絡取ってもらって、あの、おうちの中を見させてもらって、ま、予定では、あの一、たぶん、な、お盆すぎぐらいまで、9月ごろまでお使いになる予定のようですので、ここを確かめてみませんかと思いますが、まあ、あの一、そうするとちょうど、ま、6月ぐらいに見ていただいて、何カ月かで、まあ、空いてすぐ何かできればなおいいですけど、そうじゃなくても、まあ、えー、今年、ことし中ぐらいにですね、何かこう、方策とか、方向が見えればありがたいなと。それからもう一カ所、あの一、...すぐ喜んでそういう状態になるというところがもう1件ございます。ですから、その2件を、え、ぜひ見ていただいて、何かこう、皆さんのイメージとかですね、活用の、こう、何て言うんですかね、そんなモデルプランになればな一ということ、まあ、あの、取りあえずその、さっき1年、あるいは1年ちょっとぐらいはそのまんまの状況でもしょうがないというふうに思っておりますので、え、その先、例えば5月というプランがあってもいいと思うし、あの、皆さんでそのへんは、あの、ひとつモデルプランとしてお考えをいただきたい。そんなふうに思ってます。よろしく願い。	F:提案		【旧今西邸再生をまちづくりのモデルケースに】旧今西邸をモデルケースとして来年の5月にオープンする目途で、1年間その再生構想・計画を討議したらどうか、という目標表現が「住職」から出されている。これに対して「加」が同意を示している。
102	加	私も、さっき住職がモデルって言われたけど、ほんとにね、あの一、空き地も多いし、空き家も多いし、これをね、あの一、どうすんにすんだと、あの一、あの一、ここで例えば収益を上げるっていうかたちでなくてもね、例えばその空き地を一次的に何か使うとか、何かして、その、うまーくこの地域に貢献できるようなね、活用を。	S:Fに対する同意		
104	住職	まあ、あの一、住み続けられるまちづくりっていうので、一つの、この会のテーマでもありますから、あの、そういう意味では、あの一、何て言うんですか、やはり、ただ住んでるだけじゃなくて、暮らすためには、...、収益が上がるとか、ま、収益目的ばかりだけでも駄目なんだけど、まあ、あの一、少し、何て言うんですか、あの一、ああいったところからなるというようなね、そういう、みんなでそれを支え合ったり、理解、共通理解がないと、それ、町は支えられないわけですよ。ですから、そんな共通認識もね、つくってかなくちゃならないということだとも思う。で、だいたいいいんかな、こっちのほうは。	f2:Sに対する評価		

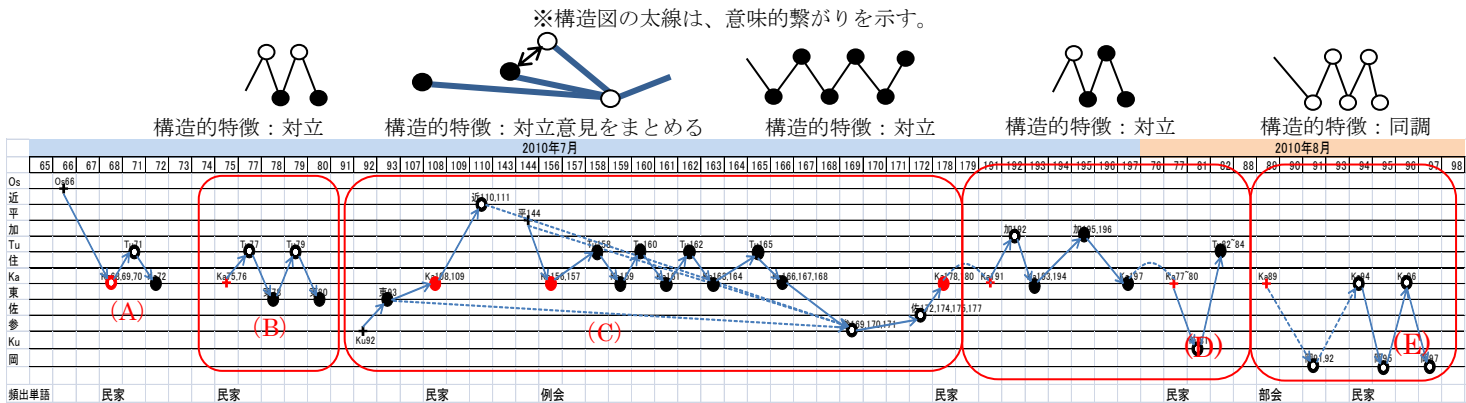
(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-22 である。表に示したとおり、旧今西邸をモデルケースとして来年の 5 月にオープンする目途で、1 年間その再生構想・計画を討議したらどうか、という目標表現が住職から出されている。これに対して数十の発話レコードを超えて「加」が住職の目標表現を反復し、住職もそれに同調している。このことが「旧今西邸をモデルケースにすること」を全体化させたと考えられる^{注20}。

以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち目標表現の立て直し構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

²⁰ この期間での Tu と住職の発話に着目してみると、Tu が「オカフクさんのところが…起爆剤になる」(Tu132)と岡田邸を次年度の会の古民家再生の検討案件として具体的に示しており、住職は「今西（邸の再生）が、・・・ぜひですね、何かこう、皆さんでいいプランを考えていただいて、・・・一つのモデルケースにね」(住 40)と、旧今西邸を次年度の会の古民家再生の検討案件として具体的に示していることが分かるが、「Tu,132」には賛成・反対の意思を持った連鎖がない（特に「岡田,133」の応答が肯定的とも否定的とも言えない曖昧な応答となっている）ため、分析対象箇所から外している。

⑦-3 第3分節

次に第3分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。図3-3-8の枠内がそれに該当し、意見の対立構造や意見のまとめ上げ構造や同調構造が見られたため選定した。



■図 3-3-8 第3分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表 3-3-23 第3分節(B)の発話内容の会話(談話)分析シート

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がりが
75,76	Ka	われわれ古民家再生でも、2、3人で打ち合わせしても、やっぱり、全体の総意をとらないといけないし、役員会の了解も取らないといけないし、で、結構大変、っていうかほかのことが多いんですよ。 だから、古民家再生ってことで委ねていただいて、観音会らしい活動をしていきたいなと。だから、専門にこだわらずに、ちょっとしたいろいろ協力してもらえばなって。	F: 申出		【イベントをめぐって】
77	Tu	今のお話のとおりなんですけども、これをまた、建物ばかりじゃなくて、これに付随した福祉とか、なんかってことも、...支えあうとか、そういうお年寄りについての部会に、まあ、範囲がうんと広いもんですから、なかなか区切りができなくて、今この、部会でも、どういうふうな方向付けをしていこうかということで知恵を出していくところでございますんで、そういう中にみなさん、ぜひ入っていただいてディスカッションしたり、あの、そこで色々な役割を担っていただければ、まあありがたいと思っていますんで、...今言った専門的なことは、この中のごく一部の部分的なことと考えていただきたいと思います。	f2: Fに対する評価 f3: 依頼		「Ka」から古民家再生の専門部会を全体と切り離して限定した成員のみで討議させてほしいという申出があり、「Tu」もそれを補足したが、「東」からイベントの数が多すぎるという批判とともに会の活動を絞るべきという提案が出され、「Tu」と対立関係を生じている。
78	東	えーと、この会がいったい何を目的で進んでいるのか、ちょっと分からないんで...あの、やっぱり多すぎるんですよ、こんだけのメンバーで、(黒板に書いてあること)これ全部やろうとしたら無理じゃないかって私は思うんですね...で、確かに川口さんの言ったとおり、やっぱり、これ絞ってですね、みんなの手を集中して、これをやっていく、ってなことじゃないと、これ全部ばらばらで、1人づつ、じゃあ、これこれっていつて、...これ、どう考えても進みづらいつてかね、なかなか不可能じゃないかと思うんで、もうちょっと、こう...うん、これだつてのを絞って...	f4: 提案		なお、「東」は単にイベントの数が多すぎることを批判しているのではなく、古民家再生のみ専門部会で検討し、あとのイベントは一人ずつ担当者をつければよいという事務局側の基本的な考え方に対して疑義を投げていることが分かる。
79	Tu	今ね、おっしゃるとおり、...だけど今までやってきた活動をとりあえず書いて、これをたたき台に、みなさんにいろんな意見を出していただいて、これをどうしたいか、どうしていくかってことを議論したいと思うんですよ。これはまだ全然決まったものでもないし...ちょっとこの、今までの、こういうことやって、みなさんがどこに、あれ、やるかっていう、イメージが...あると分かっていたらねんじやないかってことで、ほんとにね、全部これをやったらね、何人いたって全然足りないんですよ、できっこないんですよ、ええ。だから、これ見てね、確かに多いなって感じたんですよ、...だから、総花的にいろんなことを手掛けてきたっていうことを分かっていたらいいんで、これからどういう方向でやっていくのかっていう...	s1: f4に対する同意		
80	東	だけど、どんどん、こうやって広がっているじゃないですか、...だから、ちょっとやっぱりそのへん、で、こう、まとめるようなやりかたでやっていかないと...やっぱり中途半端になって、どんどんこう...そのへんが。	f5: s1に対する提案		

■表 3-3-24 第3分節(C)の発話内容の会話(談話)分析シート

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
92	Ku	あの一、東山さんがさっき言った、もっと絞ったら…具体的にこういふうに、つてのがあったんですか。	f1: Yes/No質問		【例会・部会の在り方】冒頭で「東」「近」「平」「Tu」は古民家再生を全員で討議していきたいという考え方を示している。それを「参」が一つにまとめて「Ka」に提示しているが、7月の会議では「Ka」は最後までそれに同意していない。なお7月の会議で、「佐」は「参169-171」に対して賛同を示すとともに、これを機に以前の2009年6月の会議で「近」に反対した意見を「けれどもさ…」と修復している。(会議を超えた修復の操作を行っている。)
93	東	案はないんだけどね、…全体的にやはり考えて、古民家を集中的にやるとか、…その下にガーデニングがあるんですけども、ただ、やるんだったら、徹底的にやってもらって、あの、何か、年に2回だけ集まって植えているんじゃ面白くないような気もするんで…	s1: f1に対する回答(No) f2: 依頼		
108 109	Ka	東山さんが言われた…ただガーデニングやるのとはちがって…古民家再生も、…古民家再生班とイベント班っていうくりの中でね、ある程度分かれるのはしょうがないと…	s2: f2に対する不承諾		
110, 111	近	でも、「住み続けたいまちづくり」の一環ですよ。着物・布市やるにしてもジャズやるにしても、研修行くにしても、ですよ。だから、意外と軸はぶれていないと…	f3: f2に対する評価		
144	平	…あれは成功してるなと思うんですよ。でも、もうちょっと、人が集まるとか、もうちょっと地域に、…2軒の建物だけで終わっちゃってるんじゃないですか。あれは、商売がうまくいっているなって見ただけで…。	f4: s2に対する評価		
156, 157	Ka	…正直言って、例会の在り方ですよ。今、ヒライさんが言ったのは、できれば古民家再生部会の研究室に来てもらってやっていただきたい。ここで投げかけられても、…次、どうやって生かしていってかことになるわけです。	f5: f4に対する評価		
158	Tu	詰める前に、色々な事例を持って、こういうあれが、意見が出てきて、じゃあどういう…部会を…	s3: f5に対する不同意		
159	Ka	詰まってきましたよね。	f6: s3に対する評価		
160	Tu	古民家再生部会、そのものが必要だっていうのが…。	s4: f6に対する不同意		
161	Ka	もう少し絞ってもらった方がいいと思うんですよ。意見は、みんなあると思うんですよ。でも最後、総論的に言われても、やっぱり…それが繋がっていかないんでね。	f7: s4に対する評価		
162	Tu	だから、どうやって繋げていくか…つてのが、方向付けの話し合いじゃないかと。	s5: f7に対する不同意		
163 164	Ka	それまで、コミュニケーション部会っていうので、少し羅列されているあれを、少し厚くさせていただいて、幅広くやって、分けてやっていかないと…。 その一、宿題と意見ばかりだと、なかなか…フラストレーションがたまって行っちゃうと思うんですよ。	f8: s5に対する評価		
165	Tu	で、そういうことも考えている人もいるわけだから、そういう人には出てきてもらって…	f9: f8に対する評価		
166 167 168	Ka	出てきてもらって、で言えば、少し分けて、今回新しい体制つて中の形ですね、…応募してもらって、…いうこと。 今のは、アイデア、と、実行と、育成と、班が分かれるんですね…。 で、出てもらうのはいいんですけど、例会の中でね、…協議会がいいんですけど…。	s6: f9に対する不同意		
169 170 171	参	…多くの皆さんが古民家再生の部会に前から興味を持っているんですよ。それが今まで、古民家再生部会がなんかちょっと、閉じた空間だったんではと。…コミュニケーション部会というのは、…要はそれはアウトリーチ活動、…アウトリーチなので、それは軸足ではないです。だから、軸足は何かと言われたら、みんな古民家再生、じゃないのになって。	s7: f2,f3,f9に対する同意 F10: 提案	Kaに対する修復の開始	
172 174 175 177	佐	それでいいとおれも思うよ。で、コミュニケーション部会の中に、いろんなものを書いてある。で、あれはさ、さっき新理事長(東山さん)が心配していたみたいになさ、本当にできるのになってみたいなのもがもともとあって、もう少し縮めたらどうですかってことは、最初から、私は言っていた。だけど、けれどもさ、あの部分は、もっといっぱいあってもいいじゃないのかな。その中で、できるものを、できるときにやればいいんであって…。で、軸足があそこにあるつてのは、おれ、確かにそうだと思う。	S8: F10に対する同意 f11: 評価		
178 180	Ka	そここのところ、やっぱり問題を立て直して…。 …その、住み続けたいまちづくりという…ワンストップというのがでてきた、…もう一回、古民家再生部会、少し分けてですね、で、…	S9: f11に対する不同意 f12: 申出		

■表 3-3-25 第3分節(D)の発話内容の会話(談話)分析シート

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
191	Ka	それも踏まえてもう一回考え直したいと思うんですけど、それも踏まえてもう一回考え直したいと思うんですけど、私が考える「住み続けたいまちづくり」というのは、古民家再生に入っているだけでもいいんですが、3年間やってきたんですけど、メンバーが語り合う場がなかったと思うんですよ。	F:評価		【例会・部会の在り方】 「Ka」と「加」との間で、3年間の評価の違いに関する対立関係が見られる。 8月会議になって「Ka」が再提案を行ったが、今度はそれに対して「Tu」が方向を見失ったと否定的な言説を残している。
192	加	そのとおり。で、僕が言いたかったのは反省会、評価するってことがなかったんだよ。なにかしらあると、全部ぼくにやってって・・・ちがうんだよ。	f2:Fに対する評価		
193 194	Ka	3年間やるなかでの総括、を含めてね、この古民家再生部会でやろうかになって、私思ったんですよ。あまり、そういうデーターをとるということではなくて・・・あまりそういうデーター論とか入って行っちゃうと、・・・住み続けたいまちづくりの場合は、もう、いろいろOから語って、・・・この3年間で色々気づいたことあると思うんですよ、・・・メンバーで、あの一、出してもらっていう・・・ことでもいいかなって思ってたんですよ。この、古民家再生でやる場合は。	s1:f2に対する不同意		
195 196	加	データーが・・・ってことはね、あの一、基本的に・・・新聞とかで、ああしたい、こうしたいとか、大事なことなんですけど、我々が感じたデーターっていうのをとらなかなきゃいけない・・・そういう意味で言っているんです。特に福祉関係は、これから大事な方向何で、高齢者だけでなく若い・・・も大事なんです・・・そういうルールを引いてきたつもりなんですけど、そうやって線をひかれちゃうと、・・・。	f3:s1に対する評価		
197	Ka	それをやるために、もう一回集まってるね、・・・やっぱり、こなす、こなすっていうあれだけじゃなくて・・・。	s2:f3に対する不同意		
77～ 80	Ka	みなさん、古民家再生部会に入りたい。例会のあり方も変えていったらどうか。 補助金をとって、こなすための作業も大変だったんですよ。ノルマみたいになっちゃうんで。 たたき台をつくってきたんで、ちょっと・・・。各論だけだと参加しづらい。まちづくりっていう大局的な部分を含めてやるところも必要なんじゃないかな。	F13:提案		
81	Ku	じゃあ、会長から。	s10:F13に対する同意 f14:依頼		
82～ 84	Tu	ほんとに何をして良いか分からない。本当は今日通すはずだったんですけど・・・。最終的には来月の例会にはね。	S11:f14に対する拒否		

■表 3-3-26 第3分節(E)の発話内容の会話(談話)分析シート

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
89	Ka	部会以外で集めちゃうかもしれないんで。いつも案件の話ばかりしていて、なんか中心の話がなかったような感じがしてましたし、私も部会長でしたが降格っていう形で・・・(笑)	f1:評価		【研究会の提案】 「Ka」より研究会の提案に至った経緯が述べられ、「岡」も同調している。
91,9 2	岡	けっこう、プロジェクトですか、結構多くなってくると思うしちょうど今、過渡期ですね。	s1:f1に対する賛同 f2:評価		
94	Ka	案件は案件でやりますよ。古民家再生、共益という中でのもちづくりということで、私も連れてきたいんですけど、受け皿がなくて・・・。	f3:s1に対する評価		
95	岡	結構入れてくれて言う人いるんですよ。ちょっと待ってくれて言うんですけど。	s2:f3に対する賛同		
96	Ka	研究会の中で歴史をやりたいという人がいたら、歴史班ということで、その人に班長ということでもないんですけど、なんかリーダーになってもらってやってもいいし、もっと、路地にやりたいとか、いろんなことで興味もってくるんで、そういうのが少し、なんか分科会じゃないですけど、そのへん・・・分かれた方が良くなくなって気がしてるんですよ。	F4:提案		
97	岡	大学で言うゼミですね。	f5:f4に対する評価		

(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-23 であり、「Ka」から古民家再生の専門部会を全体と切り離して限定した成員のみで討議させてほしいという申出があり、「Tu」もそれを補足した^{注21}が、「東」からイベントの数が多すぎるという批判^{注22}とともに会の活動を絞るべきという提案が出され、「Tu」と対立関係を生じている。

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-24 であり、冒頭で「東」、「近」、「平」、「Tu」は古民家再生を全員で討議していきたいという考え方を示している^{注23}。

そしてそれを「参」が一つにまとめて「Ka」に提示しているが、7月の会議では「Ka」は最後までそれに同意していない（不同意を示している）ことが分かる。

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-25 であり、「Ka」と「加」との間に、3年間の評価の違いに関する対立関係が見られる。8月会議になって「Ka」が再提案を行ったが、今度はそれに対して「Tu」が「方向を見失った」と否定的言説を残している。ここにおいて Ka と {加,Tu}間の対立構造を示している可能性がある^{注24}。

(E)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 3-3-26 であり、「Ka」より研究会の提案に至った経緯が述べられ、「岡」も同調していることが確認できる。

以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち意見の対立構造や意見のまとめ上げ構造や同調構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

²¹ 「古民家再生部会」を分けたいといった提案が Ka から挙がっていることが確認できる。この件についての Ka の発言に着目すると、「何人かの方が古民家再生部会に入りたいということなんですけど、どうしても専門的な部分もあるもんですから」と述べていることから、この時点での Ka の発言は、この「古民家再生部会」は限られたメンバーだけで進めていき、何か別の場で全員参加で話し合いたいという考えを示している。このことから、この期間は、部会を編成するなかでの「古民家再生部会」について、それを限られたメンバーで話し合っていく場とするか全員で話し合う場とするか、を争点にして話し合った期間であることが分かる。またその後の(C)の箇所以降では、この争点について Ka と Tu の間で意見対立に発展したことが分かる。

²² 「東」は単にイベントの数が多すぎることを批判しているのではなく、古民家再生のみ専門部会で検討し、あとのイベントは一人ずつ担当者をつければよいという事務局側の基本的な考え方に対して疑義を投じていることが分かる。

²³ 「佐」も「参 169-171」に対して賛同を示すとともに、これを機に以前の 2009 年 6 月の会議で「近」に反対した意見を「けれどもさ・・・」と修復している。（会議を超えた修復の操作を行っている。）。

²⁴ ここでは「Tu」の否定的言説が意見対立を表すものなのか、また両者（「加」対「Ka」、「Tu」対「Ka」）の意見対立が同根より生じているのかどうかは分からないが、後に全体を通して分析する中で分かってくる可能性があるので、分析対象として残しておくべきと判断した。

⑦-4 第4分節

次に第4分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。図3-3-9の枠内がそれに該当し、意見対立の構造や、反対意見が転向して了解に至る構造や目標表現を集約して共有化を図ろうとする構造が見られたため選定した。

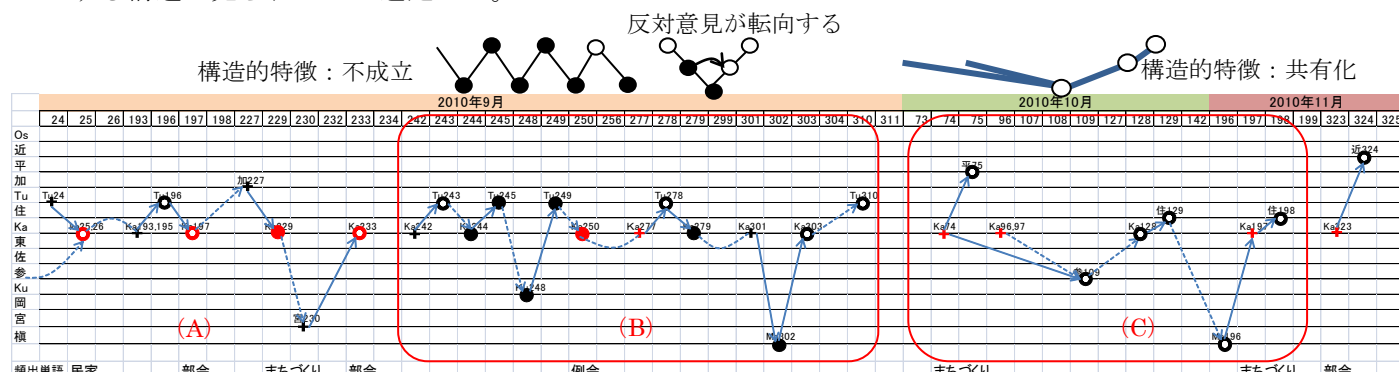


図3-3-9 第4分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表3-3-27 第4分節(B)の発話内容の会話(談話)分析シート

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
242	Ka	今まで定例会で・・・ひとこと願いますってものを、もうちょっとスタートから、住み続けたいまちづくり、テーマは幅広いと思います、それを自由にいろいろ、3か月4か月連続でやるってのもあるでしょうし、いろいろ、・・・テーマもある、そういう形の、もう一回、全員参加っていう形をちょっと、やるんが、もう一回3年間やるのがいいのかなと思って提案させていただきました。	F: 提案		【部会・例会の位置づけ】 「Ka」から提案を切り出したが、「Tu」が誤解しているのに気づき修復を開始する。「Ku」も修復を開始するが、「Tu」はなかなか修復を操作できない。「Ma」から「Ka」に言葉の訂正要請があり、これを契機に「Tu」は修復の操作を完了することができた。
243	Tu	だから、例会で、全員参加で、2カ月に1回で、今のあまりこだわらない、あの、フリーターキング。	f2: Fに対する評価		
244	Ka	あの一、毎月フリーターキングでいいと思っているんですよ。	f3: f2に対する評価	修復開始	
245 247	Tu	だからね、部会と例会ってのがね、なんかこんがらがっちゃってね。どういあれなんだか、性格的なあれがね、分かんないわけ。そういうことを、2カ月に一回の会のときに、いろいろ言いあってもらってもいいわけでしょ。こういう。	f4: f3に対する評価	修復開始	
248	Ku	それを毎月、がっつりやろうという話です・・・。	f5: f4に対する評価		
249	Tu	がっつりやる、毎月。 だから、部会と例会ってのがね、どうもあれじゃないかな？	f6: f5に対する質問		
250	Ka	2カ月に一回例会をやるってだけの話だったんですよ、最初は。それをもうちょっと2カ月ってのは変わらないんですけど、例会中心にこう、正直言って時間が長いわけですよ。	s1: f6に対する回答		
277	Ka	最初の例会で、部会っていうのをもっと自由なところを増やしていってどうかって考えるっていう提案なんですよ。まあ、今、「参」先生、「参」さんが言ってくれたように、まあ、ちょっとやっぱり、年間のキーワードとしてのテーマも・・・材料も、例えば3、40分やって、そのあとちょっと、今、大隅さんが言われた1時間くらい。で、例会はほんとにもう、2カ月に1回でつけ足してわけじゃないんですけど、確認事項ってことで、できるだけそういう毎月、そういう、まあ、あの一、自由闊達な、ほんとに車座的な形がそろそろ。会も成熟してきて、・・・あとはちょっと、専門的なのはもう別で、どんどん・・・していったほうがよしいんじゃないかな、って思いますよね。	f7: 提案(Fの後方拡張)		
278	Tu	わかりましたか。じゃあ、そんなことで。あと、時間帯なんですけども、始める時間ってのは、まあ今までは例会7時から9時っていうんですけども、そのへんはどうですか？ 集まる具合、前に少し6時半にした方がいいとか、何か具体的な例が、なんか出て来るんだしたら。だいたい、例会ってのはだいたい1時間半くらいだと思うんですよね。内容は。	f8: 依頼		
279	Ka	部会です。(笑い)	f9: f8に対する評価	修復開始	
301	Ka	基本的に、5時からのもって・・・したので、あれば部会っていうよりもプロジェクト推進室・・・なんで、住み続けたいまちづくりの部会ってことで今度、部会、ってことで捉えてもらっていいと思うんですけど、5時からのもってのは・・・で、7時からいつも例会は始まっていますけど7時からでいいのか、6時半なのか、一番いい時間でいいんだと思うんですよね。	f10: 提案		修復開始
302	Ma	部会って言い方しないで、・・・	f11: f10に対する評価	修復開始	
303	Ka	研究会にしますか？	s2: f11に対する回答	修復操作	
310	Tu	それが今度、「住み続けたいまちづくり研究会」になるわけか。そういうこと・・・。	f12: s2に対する評価	修復操作	

■表 3-3-28 第 4 分節 (C) の発話内容の会話(談話)分析シート

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
10月	74 Ka	じゃ、私良いですか。・・・一番まちづくりの中で決定的なのは、「雇用」の問題、いわゆる、住むのは良いんだけど、その仕事がないわけ、・・・農業って切り口もあるでしょうし、ですから、ただ単に建物のハード的な部分じゃなくて、やっぱりその、雇用に、の問題、それが結びつかないと	f1: 評価		
	75 平	おれもそう思うね。	s1: f1に対する同意		
	96 Ka	それを、こんなやり方でも良いんだっていう、一つの指針、・・・総合的に古民家再生の方で、・・・っていうのもなかなか遠大なテーマかなって・・・	F2: 提案		
	109 参	雇用の問題ってのは、あの、大きいっていうのは確かだと思うんで、それについて・・・しばらく・・・	s2: F2に対する同意 f3: 提案		
	128 Ka	・・発信してもらっても良いし、桐生にとどまってくれても良いし・・・そういうのかんのん会の一つのテーマかなってきがするんですよ。・・・	f3: F2の後方拡張		
	129 住	もうからなくても住み続けられなきゃだめなんだよね・・・そういう意味では、仕事というか雇用というのがなくちゃならないってことだよ。	S3: f3に対する同意		
11月	196 Ma	あと今日の話を聞いてて、やはり、あの一場所をただ提供するだけじゃだめだと、やっぱり、勤める場所、そういうものも探してやらないと。やっぱり一つ、・・・例えばさっき私思ったんですが、あのー、空いてる畑や、やっとやってるような畑っていっぱいうちの近所にも、うちは相生なんですけど、このあとどうするのかなあと。例えばかんのん会のそばの空いている建物で、住んで、ここから自転車通ってあそこ行って、畑を作って、本当に新鮮なものをまたそういうところで、って筋書きまで、例えば。まあ、これは一つの例ですけどね。そういうとこまでの筋書きがあって、具体的にやりたい人いませんかってところまでいかないと、ただ、ここに空いている場所があります、ここに畑があります、だけじゃだめで、やはり、こう、そのときに具体的に先ほどの話だと、家賃どのくらいでとか、このくらいのも・・・、そういう具体的の物語を作ってやったほうが、何かまちづくりとの・・・そういうのをかんのん会がサポートしてあげる。ちょっとおおまかですが、前回の話の付け加えです。	f4: 提案		【新たな目標表現「雇用」】 10月の会議で「Ka」から「・・・雇用の問題、それが結びつかない」と目標表現があり、それに対して「平」、「Tu」、「参」の同調を経て、最後に「住職」が賛同し共有化が進行する。 11月の会議になって「Ka」の提案が「Ma」によって具体化される。それに触発され「Ka」、「住職」も続けて具体的な目標表現を行う。
	197 Ka	ちょっといいですか、あのー、最後そのことで、榎さんの話を聞いて思っていたんですけど、さっき、たまたまスタイルブレッドとかアツシュとか、事業的な話なんで、ちょっとそれは、まちづくりの会と、ちょっとまた違うってことで一度置きまして、住職の指摘のね、そのとおりだと思いますけど、例えば今、その、マッチングしても決まらないんですよ。決まらないから、例えば今言ったような筋書きでいうと、その、一つはその、東山さんと、万が一、商店街に後継者がいないって時に、来てもらって、いわゆる「店子」を作るってことですよ。大家さんが店子を。技術を育成して逆に、設備から何から仕入れルート、まあ物品、販売ルート、全部あるわけですから、今度、店子を育てたら、店子に借りてもらうみたいな。いうのも、中には、発信してないからあれですけど、手が挙がってくる、なかなか人の問題なんでね、マッチング難しいですけど、中には続けていってもらいたい店もあると思うんで、いいマッチングがあればね、って思いますけどね。それ、けっこうかんのん会では、取り組みやすいのかなと。	f5: f4に対する評価		
	198 住職	それでいうと、このあいだ、なんたつけ・・・出前講座って、なんか、・・・ケーブルテレビで、なんか、・・・前日も言った・・・、そのいわゆるB1グルメ、桐生で言うとなんか、まあ、・・・ソースかつ丼で、ひもかわのうどん、3番は・・・シウマイ、そんなこと言ってたよ、それで来年DC(ディスプレイーション・キャンペーン)じゃないですか。で、例えば、どこかの空いているところへ、3つが寄っちゃえば、なんか少し、そう意味じゃ、その・・・ができたり、そういう雇用が、作れる可能性があるじゃないですか。例えばね。そのような発想をしながら、なんかやれば、そのできないことはないんだけど、それじゃ誰がやって、どこでやるかって、あとはその、家賃がどうだって、そういう話になってくるけども、まあ、アイデアを出せば、いろんなことができるんじゃないかなって気がしますよね。	f6: f5に対する評価		

(B)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 3-3-27 であり、「Ka」から「Ka,242」(…全員参加っていう形をちょっと、やる…)と提案を切り出したが、「Tu」が誤解しているのに気づき、トラブル源^{注25}を現示する。「Tu」も「Tu,245,247」(性格的なあれがね、分かんないわけ)と、トラブル源^{注26}の現示を開始するが、279 まで「Tu」は「Ka」からずっとトラブル源を現示されている。これが「Tu」と「Ka」,(ないし「Ku」)間の対立構造を表している。

この箇所について、会話(談話)分析からは、「例会」と「部会」の言葉の誤解によるすれ違いであって、意見の対立ではないことが分かった。しかしながら、前述にもたびたび散見されるように「例会」と「部会」をめぐるいわゆる「言葉探し」が長期間続いている^{注27}ことが、何らかの構造的特徴となっている。

また 279 以降は「Ma (楨)」が直前の「Ka」の発話に対して「部会って言い方しないで」と訂正を要請し、「Ka」が言い直したところ、「Tu」が「それが今度、住み続けたいまちづくり研究会になるわけか。」と理解に達している。部会・例会をめぐる「Tu」の一連の誤解が解消された「気づき」の過程として重要な個所であることが分かった。

(C)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 3-3-28 であり、10 月の会議で「Ka」から「…雇用の問題、それが結びつかないと。」と目標表現があり、それに対して「平」、「Tu」、「参」の同調を経て、最後に「住職」が賛同し共有化が進行する。11 月の会議になって「Ka」の提案が「Ma (楨)」によって具体化される。それに触発され「Ka」、「住職」も続けて具体的な目標表現を行う。このように目標表現が集約されて共有化に至った過程と見ることができる^{注28}。

以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち意見対立の構造や、反対意見が転向することで了解(気づき)に至る構造や、目標表現を集約して共有化を図ろうとする構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

²⁵ Tu が例会をフリートーキングの場であると理解していること。

²⁶ Ka の説明する例会と部会の定義が分かりにくいこと。

²⁷ 図 3-3-7 (第 2 分節) の(C)から、図 3-3-9 (第 4 分節) の(A)、そして(B)と続いている。

²⁸ まず、部会編成案について Ka から「古民家再生部会」をさらに「住み続けたいまちづくり企画・研究室」という全員で話し合う場と、専門家と利害関係者のみで話し合っていくプロジェクトチームの 2 つに編成したいといった提案が挙げられていることが確認できる。これについての Ka の発言に着目すると、「プロジェクトの企画と推進の方はもうちょっと、それらとは関係なく随時、やらせていただいて・・・」(Ka31)と述べており、プロジェクトチームの方は限られたメンバーで粛々で行っていくといった考えの現れが伺える。一方、10 月の Ka の発言に着目すると、全員で話し合う場で「雇用の問題、いわゆる、住むのはいいんだけど、その仕事がないわけ。そこが一番きつい・・・ただ単にハード的な部分じゃなくて、やっぱり雇用の問題と結び付かないと解決しない。・・・古民家再生部会のテーマとするところに職の提供がある。」(表 3-3-28/Ka74)とも発言しており、新たなテーマの提示が見られる。このことから、この期間は、古民家再生部会をさらに 2 つに分けることが決定し、全員で話し合う場としての「住み続けたいまちづくり企画・研究室」が始まったなかで、「雇用の問題」ないし「職の提供」という新しいテーマが提示され、それについて話し合った期間であることが分かる。

第2項 データ縮約の結果

まず、会議録コーパス、(指標発話を抽出する) テキストマイニング結果、指標発話連鎖会話群、コミュニケーション構造図、会話(談話)分析の各ステージにおけるデータ数を下表に示す。

■表 3-3-29 桐生市事例の各ステージにおけるデータ数

	会議録コーパス ①	テキストマイニング (指標発話) ②	指標発話連鎖会話群 ③	コミュニケーション 構造図 ④	会話分析シート
桐生市 事例	2,332 データ数 (2,033 ターン)	134 データ数 (選定後 35)	127 データ数	127 データ数	39 データ数

先述のように、2009 年度(2009 年 6 月)から 2010 年度(2010 年 11 月)までの会議録を分析対象とし、計 10 回分の会議録から会議録コーパスを作成したところ 2,332 データ数であった。

そして、ターン割合構成の変化から 4 つの時期区分に分類することができ、この時点で全部で 2,033 ターンとなった。

さらに、それらの時期区分ごとに、ターン割合が最も大きかった 1 位の発話者、及び各時期の頻出単語を調べ、この発話者の発話の中で頻出単語を含む発話(指標発話候補)を検索したところ、134 データ数となった。

そして、同じ頻出単語を含む「指標発話候補」が複数検索されたので手順(第 2 章.指標発話選定フロー参照)に従って代表的な「指標発話」に選定したところ 35 データ数となった^{注29}。

次にこの選定後の「指標発話」の前後に連鎖する発話を調べ「指標発話連鎖会話群」を作成すると 127 データ数となった。

さらに指標発話連鎖会話群の会話群を賛成・反対に分けて並べコミュニケーション構造図を作成した。指標発話連鎖会話群の中には複数の指標発話に連鎖しているため重複して入力されている発話がある。これらはコミュニケーション構造図では 1 つのポイントとして表される。データ(ここではポイント)数は変化せず 127 データ数となった。

最後にコミュニケーション構造図から会話分析を行うにふさわしい(特徴的な構造を呈する)個所を選出し、会話分析シートを作成したところ 39 データ数となった。

²⁹ 「指標発話候補」を「第 2 水準」の頻出単語で整理したところ 89 データ数となり、さらに代表的な発話「指標発話」に選定したところ 35 データ数となった。

第3項 分析の成果

前項で「コミュニケーション構造図」が、いくつかの構造的特徴を示しており、それが「意見対立の解消」過程を説明するものとして観察すべき個所を現示できていることを検証した。

ここでは、その現示した個所を対象にした会話（談話）分析を行う。

①リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の照合から分かること

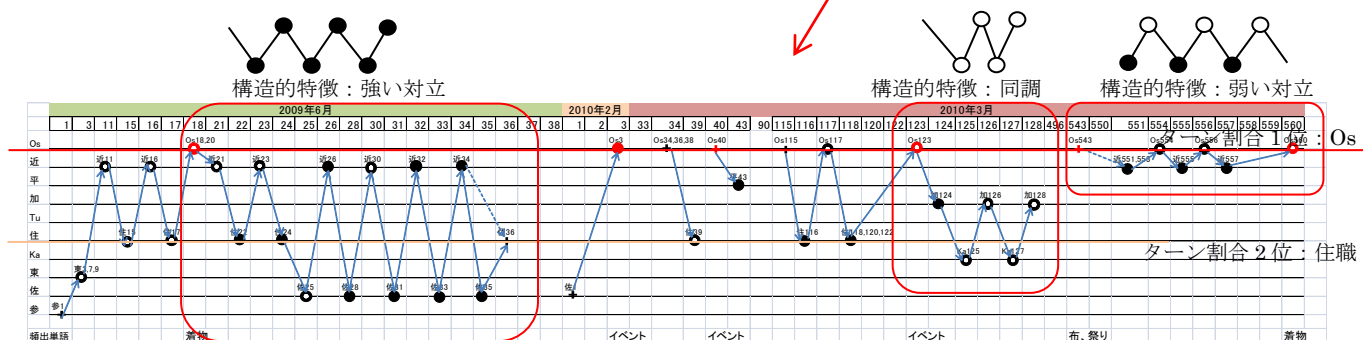
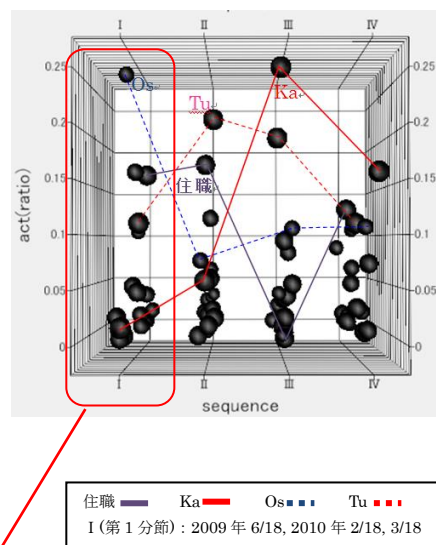
まず前段にて「リーダーシップ構造」^{注1}の観点から「コミュニケーション構造図」の構造的特徴を観察し、その後で実際にどのような発話内容なのか吟味することとする。

すなわち、「リーダーシップ構造図」から把握されるリーダーシップの変容は「コミュニケーション構造図」や実際の発話内容からどのように解釈できるのか、以下に第1分節から示していきたい。

①-1 第1分節の2つの構造図の比較を通して分かること

「コミュニケーション構造図」からは前半「近」と「佐」との意見対立が見られる。また後半には「加」と「Ka」との同調や、「Os」と「近」との弱い対立が見られる。そしてそれらのいずれにも「Os」が絡んでいることが分かる。さらに住職も（最後の「Os」と「近」とのやり取りを除いて）ほとんどに絡んでいることが分かる。

「リーダーシップ構造図」からは、それを裏付けるように住職と「Os」のターン割が多いことが分かる。とくに第1分節では住職のターン割合が高いのは、「近」と「佐」の意見対立の発端部分に関係していると同時に両者の調整役を果たそうとしたことが原因であろうことがコミュニケーション構造図から洞察できる。



■図3-3-10 第1分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) リーダーシップ（住職）の調整の失敗

実際に当該個所の発話内容を見てみると（表3-3-17, 3-3-18参照）、会の発起人である住職は、最初は「近」の意見を尊重する方向性を示すにもかかわらず途中（22）から「近」に否定的方向性を示し、「近」に対する「佐」の対立の引き金をつくっている。この対立を「住36」で収斂させたが、自らトラブル源を明示し自ら解決する形となっており、「近」と「佐」との争点を残したままとなった。

¹ 本論では、各分節のターン割合の上位者を（討議をリードした）リーダーシップと見立て、その変遷過程が各集団固有の構造的特徴を表すと考え、「リーダーシップ構造図」として表す。（図の詳細な作成方法は、補論「手順書」参照）

(ii) リーダーシップ (Os) の調整の失敗

一方、司会進行役であり調整役を果たそうとした「Os,20」は、「近,21」からは同調されたが、「住,22」によって否定されている。また「Os,123」も「加,124」によって否定され、「Os,543」も「近,551,553」によっても否定されている。「Os」はイベントの布まつり（布市）の開催に積極的で、「近」に同調していたが、最後には余った布をめぐって「近」から疑義を懸けられている。また「Os」はこの時期、イベント部会の会長であったがイベントのガーデニングには消極的で、「Os,123：古民家再生部会（話中では「シルバー」と呼んでいる）で扱ったらどうか」と発話した。これに対し、「加」からは「Os」の意図が解釈できないことから否定されると同時に「Ka」にも同調を求められている。

このように「Os」はトラブル源を発生しているとともに、前半の「近」と「佐」の意見対立においても後半の「近」との弱い意見対立においても調整（意見対立の解消）を果たせていない。

(iii) 次のリーダーシップ交替の原因

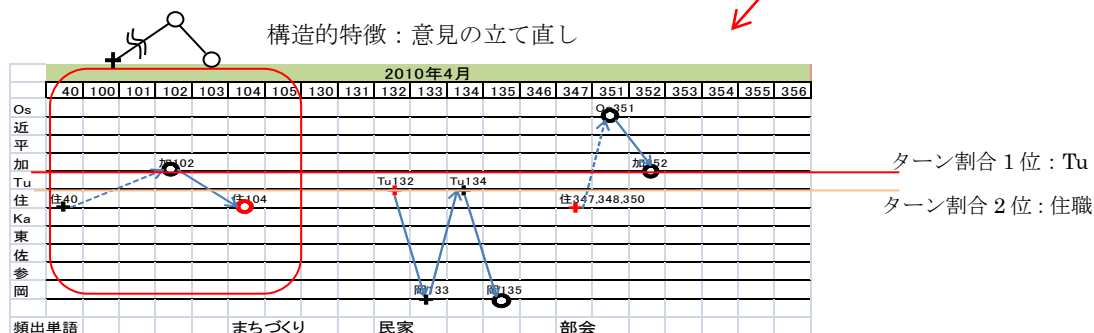
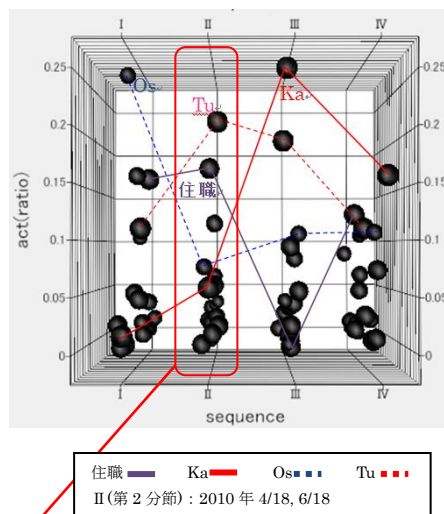
住職も「Os」も自らトラブル源を生み出し、争点を解消できていない。それを調整すべき司会進行役の「Os」はこの時期ターン割合 1 位者であったが、以上のような調整の失敗が原因で次の分節で（ターン割合 1 位者）が「Tu」へ交替する契機（潮目）をつくった可能性を示唆していると考えられる。

①ー２ 第2分節の2つの構造図との比較を通して分かること

「コミュニケーション構造図」からは前半、「意見の立て直し」が見られる。しかしそれ以降、目標表現の共有過程や意見対立及びその解消などの目立った構造が見られない。

一方、「リーダーシップ構造」からは「Tu」と住職のターン割合が多いだけでなく全体的にもターン数が多く（表 3-3-14 参照）、活発な意見交換が行われたことを窺わせる。

このことから、活発な意見交換であったが内容的には争点を含むものではなかったことを示している。また「コミュニケーション構造図」の前半の特徴に現れているように、構造的にはシンプルに見えるが、実は「住,40」から「加,102」まで跳んでいるのは、賛成とも反対ともつかない意見のやり取りが長く続いていたことを示している。



■図 3-3-11 第2分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) リーダーシップ（住職・会長 Tu）の目標表現の共有化の失敗

この時期に2つの大きな目標表現が提示され、それぞれの発話者がターン割合のトップとなっていることは、討議をリードしようとした成員が目標表現を行ったことを示している。

実際に当該個所の発話内容を見てみると（表 3-3-22 参照）、会の発起人である住職は「住,40」で「(旧今西邸の再生を) ひとつモデルプランとしてお考えをいただきたい。」と会の方向性を打ち出す行為を果たしていることが分かるが、その目標表現を引き出した「加,102」までの間が長いことから司会進行役（Tu）が機能を十分に果たしていないことが分かる。

また、会長「Tu,132」（表 3-3-6 参照）は、「オカフクさんのところが民家活用できたら起爆剤になるんじゃないか」と、住職に次いで目標表現を行った個所であるが、その後がほとんど討議に発展していない。また、「住,350」（表 3-3-6 参照）で住職が例会・部会の日程を提案しているが、この承認依頼を行ったのは「Os」で承認を行ったのは「加」となっており、「Tu」は承認依頼にも承認にも関わっていない（表 3-3-12 又は巻末資料参照）。

(ii) 次のリーダーシップ交替の原因

前述のように（ターン数から）活発な意見交換が行われ、ターン割合からは「Tu」が1位であったにもかかわらず、「Tu」が司会進行を十分に果たしておらず、全体的にも討議が成立していない²。このことが、次の第3分節以降のリーダーシップの交替の原因になったことを洞察させる。

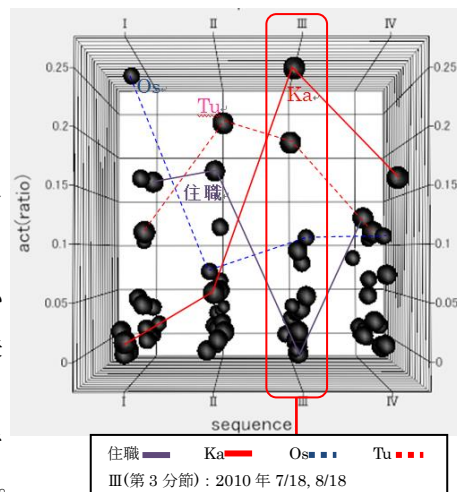
² このことは、Tu が数多くの発話を行ったが、争点を生み出していない、あるいは争点を生み出さないような進行を故意に行ったことを示していると考えられる。

①-3 第3分節の2つの構造図との比較を通して分かること

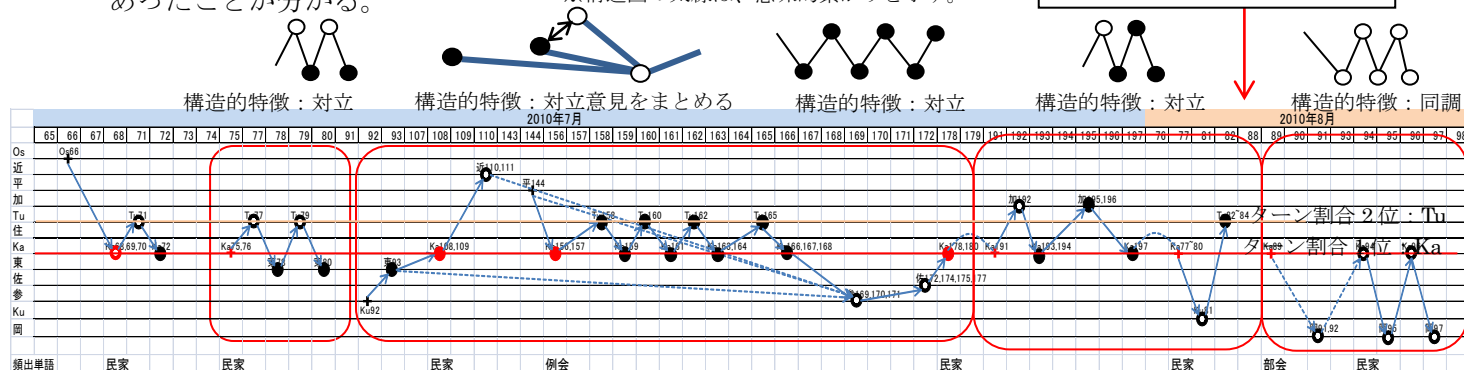
「コミュニケーション構造図」から前半は「Ka」と「Tu」、「Tu」と「東」との意見対立が、後半は「Ka」と「加」との意見対立、「Ka」と「岡」の同調が見られる。

一方、「リーダーシップ構造図」からは「Ka」と「Tu」のターン割合の高さが目立つが、以外の成員は全体的にターン割合が少ない。

これはこの時期の発話数が相対的に少なく（表 3-3-14 参照）、かつ{Ka,Tu}が非常に活発に発話していたことを示している。その意味で成員を巻き込んだ活発な意見交換がなかったとも言えるが、「コミュニケーション構造図」からは、内容的に多くの争点を含むものであったことが分かる。



※構造図の太線は、意味的繋がりを示す。



■ 図 3-3-12 第3分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) 会長 Tu と Ka の対立と孤立化

実際に当該個所の発話内容を見てみると（表 3-3-23,24,25,26 参照）、まず前半「Ka,75,76」で、「古民家再生ってことで委ねていただいて」とあるように古民家再生は専門的な成員によるプロジェクトチームに一括させてほしいと主張しているのに対して、「Tu,158」はプロジェクトチームで詰める前に全体で討議させてほしいと主張し、対立している。やがてこのやり取りは「参与観察者」と「佐」によって集約され再提案されるが「Ka,178,180」に拒否されている。

この争点は後半になっても残り、「Tu,82~84」は「何をして良いか分からない。」と方向性を見失ったままで終わっている。その後、「Ka」と「岡」との同調的な対話が続くが、ここに争点はなく、解決を積み残したままでの感想のやり取りに終始している。前の第2分節でのターン割合1位者「Tu」と対立し、新たな1位者となった「Ka」であるが、ここにその孤独な立ち位置が窺える。また1位を譲った「Tu」も五里霧中のような状況となったことが窺われる。

(ii) Tu から Ka へのリーダーシップの交替

「Ka」は古民家再生部会の長である。ターン割合の推移をみる限りそれまであまり目立たなかったが、この第3分節に至って急に積極的に発話し、討議をリードしようとしているのは、争点が古民家再生部会の本質に関わっているからであることが分かる。

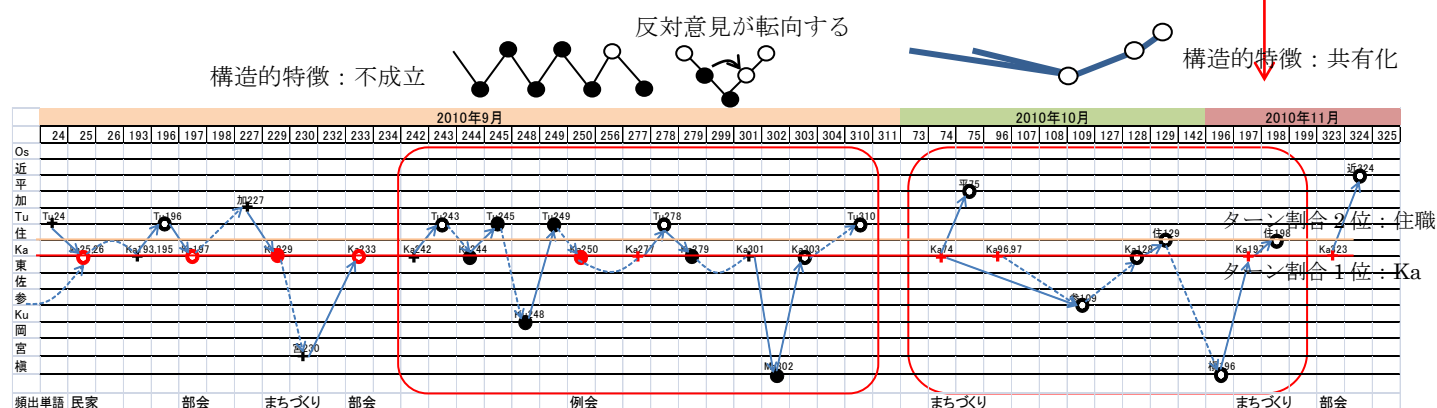
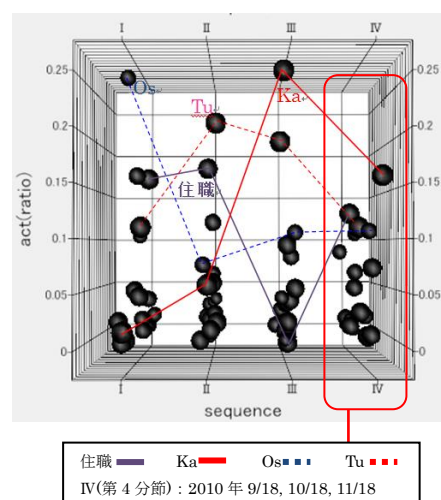
それまでは会の発起人の住職や司会進行役の「Os」や会長の「Tu」が討議をリードしようとしていたが、ここから争点の当事者が討議をリードする構造へ変化したことを示している。よって、「調整」ではなく主体的な問題解決へ模索し始めたことを示唆するものであり、会の方向性において大きな変化が訪れることを予感させる。

①-4 第4分節の2つの構造図との比較を通して分かること

「コミュニケーション構造図」からは中盤、「Ka」と「Tu」の対立構造（了解の不成立）が、後半は意見（目標表現）の共有化が見られる。また後半の「共有化」には「Ka」だけでなく「住職」も絡んでいることが分かる。

「リーダーシップ構造図」からは「住職」と「Ka」の発話割合の高さが目立つ。これは、後半の「共有化」において両者が積極的に関わったことを示している。

この時期の発話数は相対的に多く（表 3-3-14 参照）、発話割合も偏っていないことから、その意味で成員を巻き込んだ活発な意見交換があったと言え、「コミュニケーション構造図」からも、内容的に争点を含むものであったと同時に討議の結果、意見の共有化に至ったことが分かる。



■図 3-3-13 第4分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) Kaの目標表現に対するTuの了解

実際に当該個所の発話内容を見てみると（表 3-3-27,28 参照）、中盤の「Ka」と「Tu」の意見対立は、第3分節から積み残してきた争点（「古民家再生部会を専門家だけの討議の場にするかどうか」）から発したものであることが分かる。「Ka」はそれに先だって、古民家再生部会を全員で話し合う「研究会」と専門家だけで話し合う「プロジェクト推進室」に分けて提示したのだが、当初その趣旨を理解できなかった「Tu」と意見対立が続いた。しかし、「Ma,302」によって「Ka」が言い直したところ「Tu,310」において理解を示し終わっている。

(ii) Kaの目標表現の全体共有化

また後半では、「Ka」が自ら全体（研究会）で討議するテーマを提示し、それに（「参与観察者」と）住職が賛同を示すことで、全体のテーマとして共有化されたことが分かる。

このようにして第4分節でターニング割合1位者が「Ka」であるのは、新しい古民家再生部会についての目標表現を行っているからであると言える。

第3分節で「Ka」がターニング割合1位者になって以来予感された、新たな会の方向性がここに示されたと考えられる。

②意見対立の発生と展開の実態

以上、2つの構造図の比較から、各分節でのリーダーシップは対立構造を解消するための何らかの調整を果たす、あるいは果たそうとした行為の主体であることが分かった。

ここでは、具体的にどのように調整機能を果たしたのか、その過程を会話（談話）分析によって明らかにする。

②-1 イベントをめぐる争点对立（第1分節において）

まず前①-1において、{「近」,「Os」}対{住職,「佐」}で対立構造があり、住職が調整を果たそうとしたことを提示したので、住職の発話を中心に「近」や「佐」にも注視して分析することとする。

（i）リーダーシップ（住職）の非了解志向的行為について

「住,22」は、「近,21」の積極的な目標表現に水を差しているのみならず、「住,24」はかなり辛辣な表現となっていて、「近,23」をトラブル源として顕現化しようとする住職の強い意思が感じられる³。そして一般的にはトラブル源に示した発話者自身がそのトラブルを修復するまで控えるような態度表明をするはず⁴だが、「佐,25」が畳みかけるように「近」を訴追しているので、結局「近」は「自己修復」を果たせていない。

やがて「近」と「佐」の対立が深まり、「近,34：じゃ、やめますか、みなさん」、「佐,35：やめたほうがいいと思うよ」のように「布まつり」が廃案になりかけた時、「住,36：言ってることは分かるし、あなたの言いたいことも分かる」と調整に乗り出している。

結局、トラブル源を現示した成員「住職」が自ら修復している。これは、トラブル源とされた成員「近」は了解していないことになるので、その意味で非了解志向的な行為だと言える。

（ii）「佐」の非了解志向的行為について

「住,22：最初からそんなこと全然出来ないよ。」に対して「近,23：発想だよ」は、会議録を読むと、データ・アーカイブスで（バーチャルな）着物ミュージアムをつくるという趣旨の話（以降「着物ミュージアム構想」と略す。）をしていたことから、「発想次第で手をかけずにできる。」という意味と「発想したばかりでまだ構想段階にある。」という意味の両方ないし、いずれかを意味していたと思われる。それに対して「住,24：ぜんぜんぴんとこないんだよ」は、「理想論であって現実味が欠ける。」という意味にとれる。その機に乗じて「佐,25：ここがやる仕事かって…」は、「ここ（当会）がやるべき仕事か否か」（以降「やるべき論」と略す。）という争点を持ちこんでいる。これに対して「近,26：仕事じゃないですよ…」は、「仕事としてではなく当会の主催するイベントとして提案している。」と答えているように解釈できる。またそれに対して「佐,28：おれたちがやる仕事なのかって、…なんか雲をつかむような」は、「やるべき論」と「理想論と現実論」とを併せている。会議録（佐,28）を読むと「佐」は「…会がそれつくるとしたら、ほかのことやってられないってことは分かる。織物組合が情熱燃やしてそういうこと始めたというんなら分かるけど、」と考えていたことが分かる。

それに対して「近,30：何でも最初はそうですよね、…できますよ。」は、「理想論と現実論」の争点に対して「何でも最初は理想論に見えるが、やっていくうちに現実論に変わって行くものだ。」と

³ ただし、文脈的に見て唐突であることから、何らかの成果志向的意図が事前にあったことが考えられる。すなわち初めから「住,36」のような結論を用意していた可能性がある。

⁴ シェグロフはこれを「自己訂正の優先性」という。（会話分析基本論集、西坂訳、2010,p-208-210）

答えているように解釈できる。

会話分析でいう「修復」とは発話者相互の間に在る問題点を顕現化し、このまま進行してほしくないという意思の表れであると同時に、互いを了解したいという意思の表れである。その意味で「近」は幾度となく修復を操作しようとしているが、「佐,31,33,35」は互いの了解を目指したのではなく、＜相手が了解するかどうかに関わらず＞「着物ミュージアム構想」^{注5}を廃案にしたい意思を表したものと言える。

その意味で住職と「佐」は非了解志向的な行為を行っており、その類似性から、事前に両者間で何らかの情報のやり取りがあったことが洞察できる^{注6}。

(再掲) 表 3-3-18 第1分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
21	近	値段が分からないっていうんだったら、値付けしてあげるわよ、私が、それまでにちゃんと写真とったりとか……うーん、ほんとにね。	F1: 申出		【布祭りを実施するか否か】 最初に「近」から積極的な協力意思が示されたが、「住職」が否定的な言説を示した機に乗じて「佐」が否定的発話を投げかけ、「近」との対立関係を生じている。最後は「住職」が「(やれるだけのことを)やってみたらどうか」と、事態を収束している。
22	住職	だけど、最初からはそんなこと全然出来ないよ。	f2: 評価	修復開始	
23	近	発想だよな	s1: 評価に対する申し開き		
24	住職	面白そうではあるんだけど、どうもぜんぜんびんと来ないんだよ。	f3: 評価		
25	佐	最初、なんとなくBさんからその話が出てきたときに、それってここがやる仕事かっていう気がしたんだよ。	s2: f3への同意 f4: 評価		
26	近	仕事じゃないですよ、ここは、まちづくりの会じゃないですか。	s3: f4への不同意		
27		(さえぎるように)			
28	佐	だまって、ちょっと聞いてよ、あなたの理想っていうか、さきさんとくそれは分かる、分かるけれども、それって俺たちがやる仕事なのかって今でもわかんない。(中略)、おれたちがっていうと、なんか雲をつかむような。	f5: 評価		
29		(うんうんと相打ちをうちながら)			
30	近	なんでも最初はそうですよ、だいたいようぶですよ、できますよ。	s4: f5への同意 f6: 誘い	修復操作	
31	佐	だったらだよ、おれがもしあなただったら、それをやるための策っていうの、ね、自分で誰でもいいから口説いて、一緒にやろうって言う人を……それさっき個人でやれて言った人がいるって聞いたけど、それ、まるっきしオレも同じだよ。	s5: f6に対する拒否 f7: 提案		
32	近	一人じゃ出来ませんよ、仕事、商売してますから。	s6: f7に対する拒否		
33	佐	できないでしょ、出来ないから、俺たちにやれっていうのは違うと思うんだよ。	f8: 評価		
34	近	そうですかね、今まで話してきたのが何のためか、分からなくなってきた。「じゃ、やめますか、みなさん」って言って、じゃあやめますかってこと？どうなんですかね。	s7: f8に対する不同意		
35	佐	やめた方がいいと思うよ、オレは、とてもじゃないけど無理だよ。(略)。	f9: 評価		
36	住職	言ってることは分かるし、あなたの言いたいことも分かる、ただ、11月3日にそれをぶつけるのはまだ無理だろうと思うんだよ、俺の感覚で言うと、集めるだけ集めて、やってみたらどうなんだろうと思うのね、今年は、集めるだけ集めて、来たからそれじゃやりましようっていうのを11月3日にやって、実績が出てからやるなら、それなら分かるんだよ、まずは集めてみるだけやってみたらどうかと簡単に思うよな。	s8: f9に対する同意		

⁵ 「近」が構想している「布まつり」のこと。

⁶ この会議終了後、「近」が退室してから「佐」は「俺の仕事になりそうだったから振ってやったよ。あ、あせいでいいした。」と(残った成員に)話している。他の箇所(住,118,120,122)でも住職は当会を立ち上げたことによって執事「佐」に負担が多大にかからないよう気遣いを示している。「佐」日常的に住職と会って話をしていることから、住職は「佐」の思いを事前に察知していた可能性がある。そのように考えると「住 22,24」の唐突性が容易に理解できる。

②-2 二人のリーダーKa・Tuの対立はどのように解消されたか（第4分節において）

まず前①-4において、「Ka」と「Tu」で対立があり、「Ma」が介入したことで「Tu」が了解に至ったことを提示したので、「Ma」の発話に注視して分析して見ることとする。

(i) 「Ma」の代弁的発話行為

「Ma,302」は、「Ka」に対して、「住み続けたいまちづくり企画・研究室」のことを「部会」と称したままで議論を進めてほしくないという意思のみならず、「Ka」に対する「Tu」の代弁機能⁷を果たしていることが分かる。これに対して「Ka」は、「Ka,303」に見られるように「研究会」に変更して応じているので、「Ma」の調整の試みは実現されたと言える。

また「Ma」はもともと「Ka」,「Tu」と同じ「まちなかシルバー支援住宅部会」にいたことから、「Ka」・「Tu」と同じサブグループの成員であったと言える⁸が、基本的に（対立の当事者ではない）第三者的立場の成員であったことは注目に値する。

(ii) 言葉探しをめぐる対立は解消した

ここでの「Ka」と「Tu」の対立は上述のように解消したが、「言葉探し」をめぐる過程を表したものであって、何かの争点をめぐる賛成・反対のパターンとは異質である。

（再掲）表 3-3-27 第4分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF.S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
242	Ka	今まで定例会で・・・ひとことお願いしますってものを、もうちょっとスタートから、住み続けたいまちづくり、テーマは幅広いと思います、それを自由にいろいろ、3か月4カ月連続でやるってのもあるでしょうし、いろいろ、・・・テーマもある、そういう形の、もう一回、全員参加っていう形をちょっと、やるんが、もう一回3年間やるのがいいのかなと思って提案させていただきました。	F: 提案		【部会・例会の位置づけ】 「Ka」から提案を切り出したが、「Tu」が誤解しているのに気づき修復を開始する。「Ku」も修復を開始するが、「Tu」はなかなか修復を操作できない。「Ma」から「Ka」に言葉の訂正要請があり、これを契機に「Tu」は修復の操作を完了することができた。
243	Tu	だから、例会で、全員参加で、2カ月に1回で、今のあまりこだわらない、あの、フリーミーティング。	f2: Fに対する評価		
244	Ka	あの一、毎月フリーミーティングでいいと思っているんですよ。	f3: f2に対する評価	修復開始	
245 247	Tu	だからね、部会と例会ってのがね、なんかこんがらがっちゃってね。どういうあれなんだか、性格的なあれがね、分かんないわけ。そういうことを、2カ月に一回の会のときに、いろいろ言いあってもらってもいいわけでしょう。こういう。	f4: f3に対する評価	修復開始	
248	Ku	それを毎月、がっつりやろうという話です・・・。	f5: f4に対する評価		
249	Tu	がっつりやる、毎月。 だから、部会と例会ってのがね、どうもあれじゃないかな？	f6: f5に対する質問		
250	Ka	2カ月に一回例会をやるってだけの話だったんですよ、最初は。それをもうちょっと2カ月ってのは変じゃないんですけど、例会中心にこう、正直言って時間が長いわけですよ。	s1: f6に対する回答		
277	Ka	最初の例会で、部会っていうのをもっと自由なところを増やしていってどうかって考えるっていう提案なんですよ。まあ、今、「参」先生、「参」さんが言ってくれたように、まあ、ちょっとやつぱり、年間のキーワードとしてのテーマも・・・材料も、例えば3、40分やって、そのあとちょっと、今、大隅さんが言われた1時間くらい。で、例会はほんとにもう、2カ月に1回でつけ足してわけじゃないんですけど、確認事項ってことで、できるだけそういう毎月、そういう、まあ、あの一、自由闊達な、ほんとに車座的な形がそろそろ。会も成熟してきて、・・・あとはちょっと、専門的なのはもう別で、どんどん・・・していったほうがよろしいんじゃないかな、って思いますよね。	f7: 提案(Fの後方拡張)		
278	Tu	わかりましたか。じゃあ、そんなことで。あと、時間帯なんですけども、始める時間帯では、まあ今までは例会7時から9時っていうんですけども、そのへんはどうですか？ 集まる具合、前に少し6時半にした方がいいとか、何か具体的な例が、なんか出て来るんだしたら。だいたい、例会ってのはだいたい1時間半くらいだと思うんですよ。内容は。	f8: 依頼		
279	Ka	部会です。(笑い)	f9: f8に対する評価	修復開始	
301	Ka	基本的に、5時からのもって・・・したので、あれば部会っていうよりもプロジェクト推進室・・・なんで、住み続けたいまちづくりの部会ってことで今度、部会、ってことで捉えてもらっていいと思うんですけど、5時からのもってのは・・・で、7時からいつも例会は始まっていますけど7時からいいのか、6時半なのか、一番いい時間でいいんだと思うんですよ。	f10: 提案		
302	Ma	部会って言い方しないで、・・・	f11: f10に対する評価	修復開始	
303	Ka	研究会にしますか？	s2: f11に対する回答	修復操作	
310	Tu	それが今度、「住み続けたいまちづくり研究会」になるわけか。そういうこと・・・。	f12: s2に対する評価	修復操作	

⁷ 本論では「何らかの理由で理解してもらいたい（あげたい）他者のために、その他者の立場に立って説明・補足する、あるいは言い換え・翻訳する行為」を代弁的発話行為、もしくは代弁機能という（第6章参照）。

⁸ 「Ma」は地元ゼネコンの役員で、「Ka」は寺の資産を管理する不動産業の経営者。

③目標表現の共有過程

以上、何らかの対立構造に対して調整を果たす、あるいは果たそうとした行為を見てきた。

ここでは、成員から挙げられた何らかの目標表現がどのような過程で生み出され了解されていったのか、会にとって有効な目標表現となった「言説^{注9}」を探ること（談話分析）によって明らかにする。

③-1 イベントを開催するか否かの争点に関わる「佐」の態度表明の転向が与えた影響

まず、第1分節の2009年6月での「近」と「佐」の意見対立で示されたように、「佐」は「着物ミュージアム構想」を廃案にしようと思うあまり「第1回布まつり」の開催に反対した。

2010年3月での「佐,1」には「…イベントでまちづくりはできない…」という言説もあることから（表3-3-12 又は巻末資料参照）、「佐」はイベントを開催すること自体にも否定的であったと考えられる。

しかしながら第3分節の2010年7月での「佐,172~177: …もっといっぱいあってもいいんじゃないかな…」に示されているようにイベント開催に対して積極的な態度表明が見られる。

すなわち、回を超えて「佐」の態度表明が逆転したことを意味し、2009年6月では非了解志向的だった彼の言動が2010年7月においては了解志向的に変化していることを意味している。

この変化の背景には、この1年間の中で行われたイベントを通して、寺の執事「佐」が心配していたような義務的な負担はなく、「できるときに、できるものをやればいい」という会の性格を感じてきたからであると洞察できる。そうした彼の印象（実感）が、「参,169~171」によって肯定されたため、確信に変わったのが「佐,172~177」であると解釈できる。

最も消極的であった「佐」がここで強い積極的な発話に転向したことで、「イベント」を開催していくという目標は会全体に共有化されたと言える。

③-2 古民家再生を全員で話し合うか否かの争点に関わる「Ka」の修正が与えた影響

まず、古民家再生部会で扱う案件を会全体で話し合う方向性を始めに打ち出したのは、第2分節（2010.4~2010.6）の住職の発話（住,40: 次年度のテーマとして古民家再生の発議をしていること）である。そして、これに深い影響を与えたのは、①第1分節における「第1回布まつり」を争点にした「近」と「佐」の対立と、②「ガーデニング」に対する「Os,117,123」の発話行為、及び③「第2回布まつり」をめぐる「近」と「Os」のやり取りであったと考えられる。

すなわち、①では「布まつり」に対する「佐」の強い消極的態度を、②では「ガーデニング」に対する「Os」の消極的態度を、③では「布まつり」に対する「Os」と「近」の弱い対立構造^{注10}を住職が見て判断したと考えることができる。

次に、第3分節で「Ka」も「Ka,89: いつも案件の話ばかりして…」と発話しているように、多様な発議を討議したいからだと解釈できるが、「68,69,70: 落とし込みをするチームと…分けていかないと」とも発話しているように（表3-3-8 参照）、専門性のあるテーマについては平等に討議できないと考えていたことも分かる。「Ka」が古民家再生部会の在り方について盛んに発話している背景には、「Ka」が古民家再生に全員が係ることに非同意を示したかった意図があると言える。

⁹ 本論では、時間と空間を超えて、成員のアイデンティティを反映した、あるいは形成した、その意味で影響力のあった発話のことを「言説」と呼ぶこととした。

¹⁰ 「Os,543~560」の不審な言動を訴追した「近」とのやり取り。

つまり、「古民家再生部会」に「研究会（住み続けたいまちづくり企画・研究室）」を設けることになった背景には、古民家再生を全体のテーマとしたい住職の意向（目標表現）に対して、単純にそうすることができないと考えた「Ka」が改めた目標表現（解決策ないし代替案）であったと解釈することができる。

しかしこの目標表現はなかなか了解されなかった^{注11}。すなわち第3分節で「東」が「Tu」と対立しているが、「Tu」は「Ka」の目標表現を会長として代理しているだけなので、「東」対「Ka」の対立の代理を表している。またその時は「Ka」の目標表現を代理していた「Tu」自体が、代理不能になり「Ka」と対立を起こす（2010年7月,92～168）。この時「東」だけでなく「近」や「平」も「Ka」に対して反対している。

そして、それらの反対意見をまとめたのが「参,169,170,171」であり、これに「佐,172」も同調したが「Ka」はこの時了解しなかった。

そして「Ka」なりの代替案を提示したのが第4分節「Ka,25,26,242」である（表3-3-10参照）。すなわち「Ka」が「古民家再生部会」を全員討議の場とする「住み続けたいまちづくり企画・研究室」と「プロジェクト推進室」の二つに分けた。すなわち回を超えて、「参,169,170,171」と「佐,172」に対する了解と修正案が示されたのである。

しかしながら、「Tu」が「部会」のイメージをかつての「まちなかシルバー支援住宅部会」から引き離すことができず「Ka」との間に齟齬を生じ、「Ma」の介入によって「気づき」が生じることで「Tu」の了解が達成され、一連の目標表現は共有化されるに至る。

③-3 職の提供を古民家再生部会のテーマに発議したKaの動機

先述のとおりKaは10月にその全員参加の場で、「（古民家再生部会のテーマに）雇用の問題が結びつかないと」という発言を行っている。

その言葉の意味は、「古民家再生事業を実現化していくためにはそこに住む人の職を提供できるまでのパッケージ化されたサービスを提供しなくてはならない」という意味であり^{注12}、このように、建物再生の計画構想段階からテナントの職について話し合うスタイルになったのは、2010年10月に「職の提供」を古民家再生部会のテーマとしてからであるが、では、そもそもKaが「職の提供」を提議した理由は何なのか。

第4分節（2010.9～2010.11）における「Ka」の2010年10月の「古民家再生部会のテーマとするところに職の提供がある。」という趣旨の発言を行ったのは、古民家再生を全員で話し合う場となった「住み続けたいまちづくり企画・研究室」でのことであり、「Ka」がこのテーマなら古民家再生に全員が係ることができると考えたからであると理解される。すなわち、先の住職の提案に対する「Ka」の解決策ないし代替案の実現化策（相互行為の産物）であったと解釈できる^{注13}。

11 了解されなかった理由は、それまでの古民家再生部会（まちなかシルバー支援住宅部会）が限定された成員で非公開で行われていたからであり、「Ka」が今後もより独立した形で行おうとしたことに因る。

12 2010年10月定例会会議録におけるKaの係る発言から。このとき（2010年10月）にKaが提議したことによって、この直後から、実際に「職の提供」をパッケージ化したプロジェクトが始まり、その一つ一つが「ROOSTER」「プラット」として実を結んでいる。

13 「職」という言葉の初見は2010年4月「参,300：職を提供できるかっていうところをやっぱり考えてあげないと…」であり、Kaはここから引用している。なお、同じ時期に東京の女子大学から会に研修生が来ており、9月に桐生に住みたいということになった。Kaは、日常業務としてただ単に物件を貸すというのではなく、再生したい案件となっている古民家（旧今西邸）を貸し、その女学生の職を会の成員みなで探していくなかで、彼女も古民家再生の主体の一つとなっても

④各成員が果たした役割

④－１ 反対意見のまとめあげとトラブル源の顕現化

先述のように第3分節での「参, 169, 170, 171」は「Ka」に対する反対意見をまとめあげた行為であると同時に、「Ka」に対してトラブル源が何であるのかを提示した行為である。

すなわち、「Ka, 75, 76: …古民家再生ってことで委ねていただいて…」とあるように「古民家再生部会」を今後も限定された成員で非公開で行っていく意思を表明したことに対して、多数の成員が疑義や批判を挙げているのは、「…それが今まで、古民家再生部会がなんかちょっと、閉じた空間だったんじゃないかと」という理由であるということを提示している。

この行為に対してその場では（Kaによる）修復の操作が行われなかったが、次々回の9月において古民家再生部会を二つに分けて全員で討議する場を提示したことから、回を超えて修復の操作が行われたことになる。

そしてトラブル源を顕現化した「参与観察者」はこの後、以前のコンサルタントが担っていた^{注14}コーディネーターの後継を要望され、「住み続けたいまちづくり企画・研究室」の座長に推薦された^{注15}ことから考えると、「参, 169, 170, 171」はその後の会の組織改編を生み出す「言説」となったと言える。また反対意見をまとめあげた行為に着目すると「東」や「近」や「平」そして「Tu」の代弁機能^{注16}を果たしたと言える。

④－２ 孤立させない代弁機能を果たせなかったリーダーシップ

前述のように「佐, 25: ここがやる仕事かって…」は、「やるべき論」という争点を持ちこんでいる。これに対して「近, 26: 仕事じゃないですよ…」の「仕事」は何を意味しているのだろうか。前述のように、「仕事としてではなく当会の主催するイベントとして提案している。」と解釈できるが、ここに「近」の生業が古着リサイクル・ショップであることを加味して考えると、「自分の生業（私的利益追求）の延長ではなく、まちづくり（公共）のために提案している。」と解釈できる。

先述のように「佐 25, 28」の「仕事」は「俺たちがやるべき」という、いわば「マター」という意味で語られている。このように談話分析を行ってみると両者の「仕事」の語用の違いが明白だが、実際その場にいた住職も会長「Tu」も司会進行役「Os」もそのギャップ^{注17}を埋める作業をしていない。

先述のように「佐」は2010年7月においては了解志向的に変化しており、「布まつり」を開催していくという目標は会全体に共有化されたにもかかわらず、2010年11月の実施を最後に以後「布まつり」は実施されなかった。「Ka, 323」から分かるように、この11月の「布まつり」には多くの批判が寄せられた^{注18}。実態として「近」の生業の延長と一線を画することができなくなったからである。会議録を読むとそのことは「近」自身も分かっていたようであるが、孤立に至っている。

らうことが重要だと考えたことが背景にある。（この事柄は筆者が参与観察を通して知り得た情報であり、会議録の情報ではない。）

¹⁴ 任期切れで退任した。

¹⁵ 推薦したのは「Ka」である。

¹⁶ 本論では、何らかの理由で理解してもらいたい（あげたい）他者のために、その他者の立場に立って説明・補足する、あるいは言い換えたり翻訳したりする行為を「代弁機能」ないし「代弁的発話行為」と呼ぶことにした。

¹⁷ 現場で両者の対話を聞いているだけではギャップの存在自体に気がつかないことがある。

¹⁸ 「Os」が参加せず「近」が単独で企画・運営することとなり、その結果「近」が生業の知り合いの業者を呼んで実施したことに対して。

もし、2009年6月の会議において、「近」に代わって、生業の延長として実施しても問題ないのではないか^{注19}ということを誰かが相互に確認し全体に共有化できたならば「近」を孤立させずに済んだかもしれない^{注20}。

その意味で、住職ないしその他のリーダーシップ（会長：Tu、司会進行役：Os、コンサルタント：加）は、十分な代弁機能を果たしていなかったと言える。同時にそのことが、本質的な争点を共有化できず了解過程を経ることができなかった原因であると言える。

④-3 専門家の役割

（i）コンサルタントの権威主義的な目標表現の立て直し

先述のように第2分節の「加,102」は、「住,40」の目標表現を立て直した行為である。すなわち、「住,40」で古民家再生の大きな目標表現が出されたにもかかわらず以後話が多岐にわたってしまい論点として定まらなくなってしまったので、「加,102」は論点を戻そうとした。

ただし会議録を読むと、この会議は会設立4年目以降の会の組織や活動をどうするかという計画構想を「加」が発表する場となっており、話を多岐に分散したのも「加」であることが分かった。

すなわち様々な項目についての目標表現を羅列するだけで、個々の案件について討議を深めることはしていない。古民家再生部会についても「加,29」で「古民家の再生部会でございますが、…5時から皆さん集まっています」と、全体で討議する案を提示しているが、そのことを論点として討議を展開しようとしていない。よって「住,40」はそれを受けて具体的な目標表現を行ったことになる^{注21}。

以上のように、コンサルタントである「加」が案の提示を行い、住職がそれを追確認するという意味を持った同調パターンが見られる。「加,102」はそのパターンを利用した目標表現の立て直し行為であったと言える。この点に、目標を討議によって共有化するのではなく住職の権威で共有化しようとするコンサルタント（と住職）の「権威主義的パーソナリティ」^{注22}が観察される。

（ii）代弁的発話行為の企ての失敗

先述のように第1分節の3月、「Os」はイベント部会の会長であったがイベントのガーデニングには消極的で、「Os,123：古民家再生部会で扱ったらどうか」と発話したことに対し、「加」は「Os」に否定すると同時に「Ka」に「同調^{注23}」を求めている。

この「加」の行為は、Osに対してトラブル源を提示し、「Ka」に「代弁的発話行為」を求めていると言える。しかし、結果的にOsが了解に至っていないことから、「Ka」は十分な「代弁機能」を

¹⁹ 視点を変えて「古民家再生部会」について見れば、すでに地元のゼネコンや不動産業の経営者が生業の延長として取り組んでいたことなので、生業の延長として会に関わることはタブーではなかったと言える。

²⁰ 実際に「佐」はそのことについて反対しているのではなく、負担が自分に回ってくことに反対しただけであった。

²¹ ただし、住職は「加,102」で提示された「(必ずしも)収益を上げるというかたちでなくても」という理念を（「住,104」で）受けているが、「…だいたいいいかな、こっちのほうは。」と討議に展開することを抑制し終止符を打ちたいという示唆を含んだ表現で終わっている。

²² ここでは、権威主義の視座構造を受け入れやすい人々のパーソナリティの構造を言う。（「権威主義的パーソナリティ」、田中ほか訳,1981,青木書店）

²³ 或る成員の言動をグループや他の成員が期待する方向に変化させることを「同調」といい、成員を同調させるよう働く力のことを「同調圧力」又は「グループ圧力」という。（「チームワークの心理学」、高橋美保訳,2014,東京大学出版会）「同調」には、意思に反して同調する「外面的同調」と、了解に基づき積極的（主体的）に同調する「内面的同調」があり（橋本・斉藤,1969,「同調行動の類型と実験的研究」,日本心理学会大会第33回発表論文集 p-438）、ここでは「外面的同調」であることが窺われる。

果たせなかったことが分かる。

④－４ リーダーシップとして、会としての同調圧力

先述したように 2009 年 6 月では、複数の成員で肯定的にやりとりされていた「着物ミュージアム構想」を（そこで形成されていた同調圧力を打ち消すかのよう）に住職が「住,24：…ぜんぜんぴんと来ないんだよ」と否定した。

類似したやりとりが第 4 分節の「Ka,74」～「住,198」に見られる。ここでは「職の提供」を全員で討議するという案が出ている（一般的に考えて、まちづくり協議会として扱うには範疇を超えたテーマである）が、住職は（2010 年 10 月及び 11 月で）肯定的な発話を行っており、2009 年 6 月の時とは異なる姿勢を示している。

すなわち（第 4 分節の）「住,129」は、前半のリーダーシップを果たした住職が、「Ka」の「代弁機能」を果たすことで、「Ka」がその他の成員から了解を得られることを期待した行為だと解釈できる。

ここではリーダーシップが住職から「Ka」に代わっていた。その「Ka」の目標表現に対して同調することを期待すべき討議環境があったことを示唆している。

実際に（第 4 分節の）「Ma,196」の内容が積極的かつ自律的に展開された内容であることから判断すると、「受動的な同調」を期待する討議環境ではなかった^{注24}と言える。

また「Ma,196」は、「Ka,74」の目標表現を具体的に解題した初めての目標表現であり、次の創造的な「Ka,197」の発話を生み出している^{注25}。

このようにして、当初は賛成・反対の厳しい対立が存在した組織であっても、吟味と納得を含む相互行為を働きかけるようなリーダーシップの代弁的発話行為が会全体の「内面的同調圧力」を活性化し、創造性豊かな目標表現を生み出すことが可能であることを明らかにすることができた。

²⁴ すなわち意思に反して行う同調でも、またいわゆる「バンドワゴン」効果のような無意識な同調でもないので「外面的同調」ではないことが窺える。

²⁵ 「Ka,197」は「言説」であると言えるが、その元となった「Ma,196」も「言説」といってよい。

第4節 小括

第1節で述べたように、まちづくりの小集団の中での意見の相違が集団の分裂を引き起こしている桐生市の住民運動に対して、その原因が各運動の協議の場における討議構造にあるのではないかと考え、果たしてそれがどのような構造であるのかを分析するために当会を事例として選んだ。

そして第2節で述べたように、設立から3年目が反省の時期、4年目が本格運転開始時期にあたり、会の目標をイベント中心とするか古民家再生を中心とするかで意見が対立し、紆余曲折し、やがて古民家再生を中心と決するに至った期間に当たる2009年度から2010年度の会議録に注視することとし、討議においてどのように意見が対立し、どのように解消され、一つの共有目標へ了解されるに至ったのかを明らかにすべく第3節で当該技法の適用を行うこととした。

第3節ではまず、当該技法（第2章の手順）に従って、会議録コーパスの作成、時期の分節化、指標発話（候補）の抽出と選定、指標発話連鎖会話群の抽出、を行った。

後半では、当該技法の適用の結果分かったこと、すなわちリーダーシップ構造、コミュニケーション構造、会話・談話分析から解釈できることを整理した。

すなわちまず、リーダーシップが交替していく中で、リーダーシップ（住職、Os、Tu）が意見対立の調整や目標の共有化に失敗したことが契機となって次のリーダーシップに代わっていく過程を説明した。またその中で「Tu」と「Ka」に（部会か研究会かといった）「言葉探し」のような意見対立が生じたこと、そして最終的には第三者「Ma」の介入によって「気づき」を経て了解に至ったことを明らかにした。

なお意見対立の解消過程については、リーダーシップ（住職、Os、Tu、加）の「近」に対する代弁的発話行為が十分に果たせず、非了解志向的な修復の企てを行ったことで、「近」を孤立化させたことも説明した。

このように「言葉探し」のようなやり取りで最終的に「気づき」に至ることはあっても、争点についてのやり取りで了解に至ることがないことを確認した。とくに「佐」と「近」の意見対立を会話分析したところ、「近」に「自己訂正の優先性」を与えず他者（住職）によって修復が操作される希な現象を確認した。

しかしながら一方で、「近」に対しては非了解志向的だった住職が、回を超えて「Ka」に対しては了解志向的な発話者へと変化したことを説明した。また、それによって「Ma」のような「内面的同調」を示すような発話生まれ、またその討議環境（同調圧力）中から「Ka」の創造性豊かな目標表現が生まれたことを確認した。

なお目標の共有過程については、当初はイベントに反対であった「佐」が回を超えて賛成に転じたことによって、（イベントを回の目標の一つとすることについての）共有化に至ったことや、古民家再生を限定された成員で討議することに固執していた「Ka」が回を超えて（古民家再生を会全体で討議することに）修正したことによって、共有化に至ったことを説明した。

また、最終的な会の目標に繋がった「Ka」の言説「（古民家再生部会のテーマに）雇用の問題が結びつかないと…」は、初期において争点となっていたテーマ（布まつり等のイベントを会の目標とするべきかどうか）から繋がる討議の結果であることが分かった。

すなわち、「イベントではなく古民家再生に会の軸足を置くべき」という成員の多くの意見を受け、しかしそのことが（古民家再生を限定された成員で討議することに固執していた）「Ka」の意思を刺激

し、やがて古民家再生のテーマを（ハードではなくソフトの）「職の提供」としてはどうかという（代替案としての）目標表現を生み出し、（古民家再生に会の軸足を置くべきと考えていた成員の）了解を得るという過程によって共有化された目標であったことを把握することができた。

また桐生事例では、争点をめぐる意見対立ではトラブル原因者に修復させようせず、他者（＝修復の開始者＝トラブル源を顕現化した者）によって修復を操作して収束させるという（自己訂正の優先性に反する）行為が見られた。これは会話分析では一般法則にはない本事例独自の特徴であり、桐生事例の特殊性を説明するものとして提示可能な結果となった。

そして、これらの知見は、どこで誰が重要な発話²⁶を行ったのかというデータがなければ分かりえなかったものである。

当該技法ではそのデータに該当するのが「指標発話連鎖会話群」であり、さらに 2 次加工した「コミュニケーション構造図」や「会話分析シート」である。それら（とくにビジュアライズした構造図・シート）があることによって、現象が（分析者のみならず他者にも）共有化され、他者に対して説明可能なものとなった。そしてそのように膨大な会話データを発話の順番や言説の位置を崩さずに縮約ならしめたのは当該技法の適切な縮約技法にあった。

<第 3 章の参考文献>

- ・『桐生市都市計画マスタープラン』,1999,桐生市
- ・小林一好,2001,『桐生市 80 年』,あかぎ出版
- ・島田昭仁・小泉秀樹,2007,「まちづくり運動の連帯における共同態の発見とその応用可能性－小布施町と桐生市のまちづくり運動の比較を通して－」,都市計画論文集,no.42-3,p-319-324
- ・島田昭仁・小泉秀樹,2013,「まちづくり小集団の討議過程の分析手法に関する研究について－桐生市における「かんのんまちづくりの会」の会議録におけるターンの変化に着目して」,都市計画論文集,Vol.48,no.3,p-249-254

²⁶ 例えば、反対意見のまとめ上げ、対立意見の了解に重要な役割を果たした言説など。

第4章 小布施町の「図書館建設運営委員会」への適用

第1節 地域選定の視点

小布施町は、ボランティアな地元企業ないし住民が全町民的なまちづくり運動を進めている事例として著名である。

筆者は、まちづくりの住民運動が相互になかなか連帯できないでいる桐生市と比較するため小布施町を研究対象とすることとし、プレ調査として 2005 年から「ア・ラ・小布施」の運営するガイドセンターのカウンターでの職員と住民との会話のやり取りを観察し、2007 年からは住民主体の協議会への参与観察を始めた。

2007 年から町営図書館の建て替えを公募町民による協議会形式で計画段階から議論し建設後も町民による協議会形式で運営していくため「図書館建設運営委員会」^{注1}が設立されたほか、2008 年から町の新機軸を協議する「まちづくり委員会」^{注2}が 2 年間組織され（2010 年 3 月で期限となっても継続）された。

筆者は、後者の「まちづくり委員会」について全会議に参加し部会についても可能な限り参加して参与観察を行ったが、いずれの会議でも争点をめぐって紛糾する場面を経験することがなかった。

一方、「図書館建設運営委員会」については筆者は部分的な参加であったが、町役場が残していた録音・録画データを後日再生して見たところ、争点をめぐって紛糾しそれを克服して意向調整を行う場面が少なからずあったことを確認することができた。

まちづくり小集団の中での意見の相違が集団の分裂を引き起こしている桐生市の住民運動に対して、小布施町の場合はどのようにして分裂の危機を克服しているのかを分析すべく、本論では「図書館建設運営委員会」をケーススタディとして選択することとした。

第2節 対象となる地域とまちづくり小集団の特徴

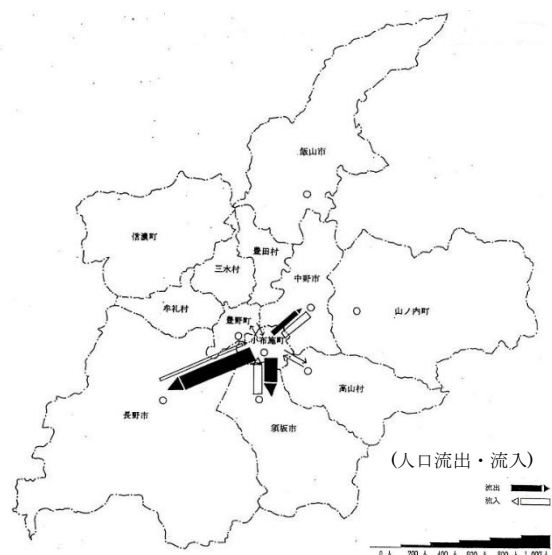
第1項 対象地域の特徴

長野県小布施町は、南の長野市、須坂市、北の中野市への人口流出が大きいにもかかわらず、未だに合併せず約 1 万 3 千人の人口のまま町制を保っている自治体である。

1976 年に北斎館が建設された後、1982 年から周辺の土地の交換分合による修景事業が始まり、1994 年にはこの事業で建設されたガイドセンターを拠点として、第 3 セクターのまちづくり会社「株式会社ア・ラ・小布施」（以下、ア・ラ・小布施と略す。）が設立された。

これを契機に 1998 年には国際北斎会議開催、2000 年には国際音楽祭開催など様々な連鎖的運動が後続した。

表 4-2-1 にそれらのイベントと主要な担い手を示す。



出典 小布施町都市計画基礎調査報告書(2000)

■図 4-2-1 小布施町の位置と人口流出入

¹ 小布施町図書館（現名称「まちとしょテラソ」）建設運営委員会。2007 年 8 月に行われた意見交換会、同年 9 月に行われた図書館建設全体会議を受けて同年 11 月に設立。下部組織として「建設部会」、「運営部会」、「電算部会」の 3 部会を編成し、部会で挙がった意見を全体会（建設運営委員会）で討議する形を取った。

² 公募により委員を組成。下部組織として「交流部会」「ハイウェイ・ミュージアム部会」「福祉部会」「環境部会」を編成し、討議内容は各部会に任された。下部組織の部会まで含めると平均して月に 1、2 回は会議が開かれた。

1976 年の北斎館建設から一貫して主要な担い手関わってきたことが分かる。

■表 4-2-1 小布施町のまちづくりイベントと担い手

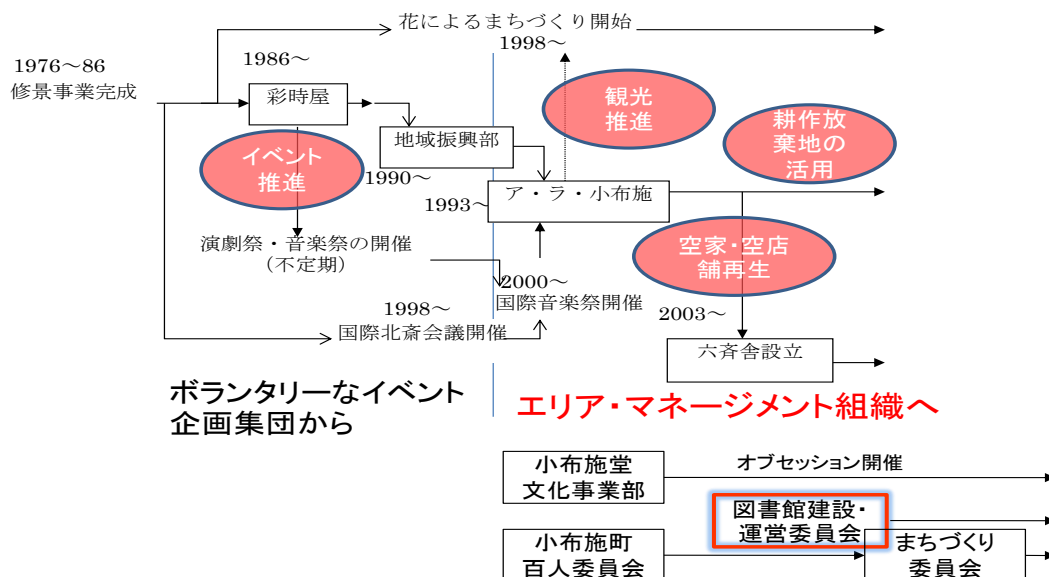
まちづくりイベント	主な担い手 (リーダー格)	所属	備考
1976 年～ 北斎館建設 1982 年～ 周辺の修景事業	市村(郁) 唐沢	町長 政策秘書→生活環境課長→経済課長→総務課長 ↓	市村(郁)町長時代
1986 年～ 新生病院の改革支援	唐沢 内坂 関	助役→町長→新生病院理事長 新生病院院長 新生病院総務課長	町長兼任 唐沢町長時代 内坂院長時代
1989 年～ 花による町おこし	善財	修景地区の衣料店経営者	
1994 年 ア・ラ小布施設立	市村(良)	小布施堂副社長→(株)ア・ラ小布施社長	
1998 年 国際北斎会議開催	市村(次) セーラ	小布施堂・市村酒造社長 小布施堂取締役→小布施堂副社長	現在も社長 現在は退任
2000 年 国際音楽祭開催	市村(良) 関	(株)ア・ラ小布施社長 新生病院総務課長→(株)ア・ラ小布施部長	
2003 年 六斎舎設立	市村(良) 関	(株)ア・ラ小布施社長 (株)ア・ラ小布施部長	その後 2007 年町長選挙 で当選し現在 2 期目。 その後 2009 年町議選で 当選

(表中の人名省略)

小布施町のまちづくり協議会は、すでにこのア・ラ・小布施にその実態を見ることができるが、その原点は北斎館周辺の修景事業の第 1 期が終わった 1980 年代末にさかのぼることができる。

すなわち、地元企業「小布施堂」の副社長であった市村(良)は、修景街区のみならず町全体を活性化するため、若者を集めた任意団体「彩時屋」を結成し、音楽祭や演劇等のイベントを次々に企画して実行していった。やがてその活動が小布施町商工会を動かし、商工会内部に「彩時屋」グループを中核にした 35 人程度の「地域振興部」を結成することになった。

この「地域振興部」は商工会内部にありながら、商工会外部の人材も積極的に組み入れ、町に政策提言を行うなど、従来の商工会の規格を超えた活動を行った。やがてその地域振興部の中で、まちづくり会社の設立が提案され、1993 年 1 月に設立決定となり、同年 9 月には町に対して出資を要請し、100 万円ながら議会で承認され、第三セクターとして歩み出すこととなったのである。



■図 4-2-2 小布施町のまちづくり運動の系譜

こうして「彩時屋」グループの構成員は商工会「地域振興部」を経て、第三セクター「ア・ラ・小布施」設立に至った。

「ア・ラ・小布施」が設立されてから、それまで断続的に行われていた音楽祭や地域間交流は定期的に行われるようになり、また駅舎の空き店舗を鉄道会社から借り受けコミュニティースペース（六斎舎）として運営する活動や耕作放棄地の活用にも着手することとなった。

「ア・ラ・小布施」の社長、市村(良)が町長となってから彼は「彩時屋」から「ア・ラ・小布施」に至るボランティアな町民と行政との協働方式を、町の施策の新機軸の取り決めや運営にも積極的に応用しようとした。

第2項 対象とする小集団の特徴

「図書館建設運営委員会」（及びその前段の「意見交換会」や「図書館建設全体会議」も含めて）は彼が町長として最初に手掛けたその一つで、町営図書館を建設するにあたって住民の意見を反映させるため、約2年間討議を続けた。

当該図書館は、まちづくり交付金を活用して交流センターとしての機能を有した新たな概念の図書館を建設する構想から生まれた。竣工後の図書館長は公募で選ばれ、設計案もコンペ形式で選ばれた。

新しい交流機能を設計に盛り込むにあたっては、旧図書館の利用者や職員と、新たな図書館が想定する利用者層との間で、空間の取り合いをめぐるニーズが対立することが予め予想された。

委員会の委員は公募で集められたので前者と後者³が混在していた。そのような状況下で委員会での利害の対立は、そのまま竣工後の利用者にとっての利害の対立を予見する形で討議の場に現れた。さらに設計者側⁴は基本的に館内を仕切らない方針を掲げたので、空間利用の利害の対立は空間の取り合いとなっていっそう顕著に表面化された。

にもかかわらず当該図書館は2009年7月に開館して以降、「最小限の間仕切りにとどめ、それぞれの場所をタイムシェアリングすることで」（古谷ほか,2012）⁵、「利用者相互の自律的な調整が行われている」（氏原,2013）⁶と、利用状況は内外から評価され、2011年にLibrary of the Year 2011、2012年に第28回日本図書館協会建築賞、第22回日本建築美術工芸協会 AACA 賞を受賞するなど、ここ数年注目を浴びている。

ここでいう現在の「利用者」は、まさに図書館建設運営委員会では対立する多様な利害関係者の一人一人であった。設計者はコンペの段階では交流センターとしての機能を有した新たな概念の図書館を建設する構想を掲げていた。このような状況の中で、どのように意向調整が行われ分裂の危機を克服したのか。本論は約1年半に及ぶ委員会の会議録⁷の会話（談話）分析から明らかにすべく、以降、

³後者には、設計者、公募で選ばれた館長、新たな図書館が想定する新たな利用者である子連れの若いお母さん達が入る。

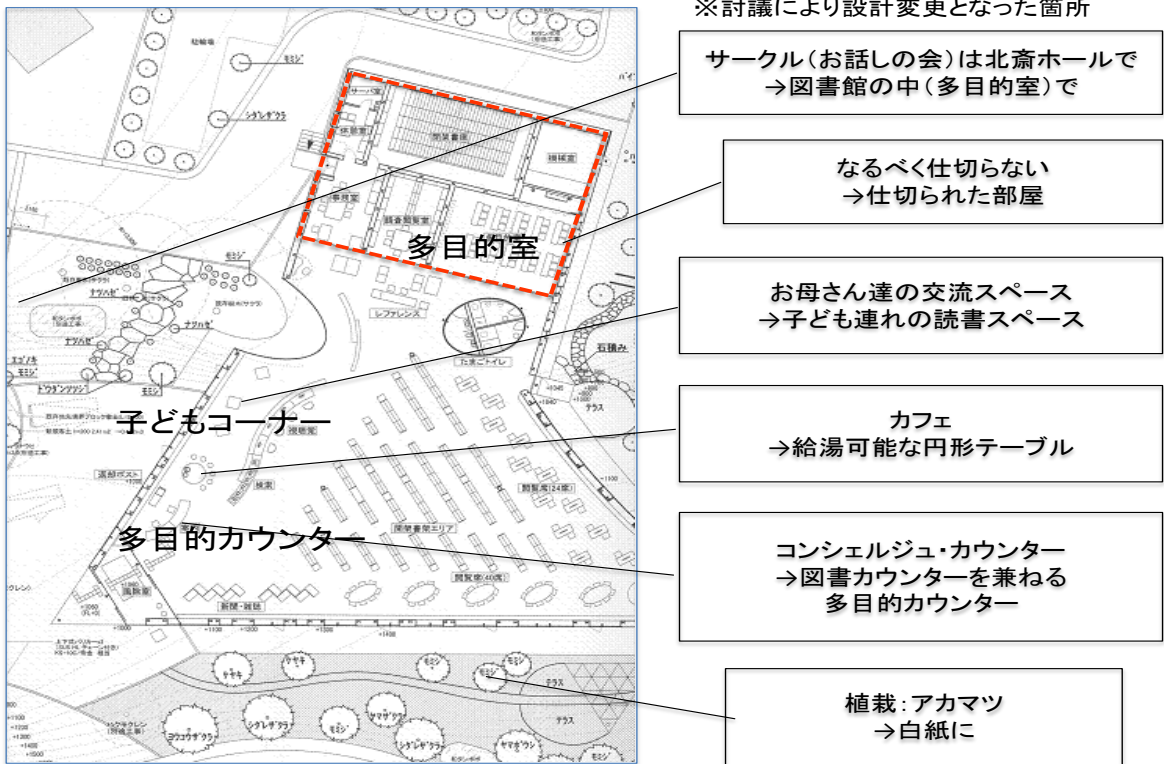
⁴コンペ審査の結果、住民参加形式の設計経験を持つ早稲田大学古谷誠章教授およびその妻と共同代表を務める設計事務所「NASCA」が設計者となる。

⁵古谷誠章ほか,2012「小布施町立図書館：まちとしょテラス(北陸)」,『Selected Architectural Designs 127(630)』,126～127

⁶氏原茂将,2013「まちとしょテラスで未来の図書館を考えてみた」『マガジン航』<http://www.dotbook.jp/magazine-k/2013/05/> (参照 2013-5-17)

⁷ここでは会議の音声をありのまま書き起こした文章による記録のことを指し、一般的な議事録とは区別する意味で「会議録」とした。具体的には URL <http://machitoshoterrasow.com/pg802.html> で公開している建設運営委員会議事録を資料として用いた。当委員会は第16回まで続いたが、建物の「しつらえ」に関し討議されたのは13回までであった。会議録がなかった第3, 5回と、ワークショップだった7回は分析対象から外した。また公開されている会議録と録画ビデオを照合したところビデオの内容と一部異なっていた（書き起こしが十分でなかった）9回も分析対象から外した。

第2章で示した技法を用いて分析を行う。



■図 4-2-3 図書館建設運営委員会の討議の成果

■表 4-2-2 当委員会の主な成員

成員名	略記号	備考(役付等)
事務局	事務局	
町長	町長	幹事会
古谷	古谷	ナスカ一級建築士事務所代表 早稲田大教授
八木	設計Y	ナスカ一級建築士事務所共同代表
教育長	幹事会	幹事会
小山(洋)	KYM	幹事会,電算副部長
石崎	IZ	建設副部長
富岡	参事	幹事会
推進幹	推進幹	幹事会
花井	館長	新館長
川向	川向	設計コンペ委員長, 東京理科大学教授
内坂	US	幹事会
木下	KIN	幹事会,委員長
-	事務局K	司書
池田	女性IK	建設部会長
-	女性A	お話しの会
-	女性B	
-	女性C	お話しの会
-	女性D	お話しの会
-	女性E	
-	女性F	
-	女性G	
-	女性H	
-	女性I	
-	女性J	
-	女性K	
-	女性N	
-	女性O	
-	女性P	
-	女性Q	
-	女性R	

佐藤	女性S	幹事会
-	女性YS	
-	女性IY	
-	女性IM	
小林(正)	女性KM	運営部会長
-	女性TY	お話しの会
小林(男)	KB	幹事会
-	男性A	
小山	KY	運営副部長
-	男性D	
-	AM	
-	男性N	
-	KI	
-	DVI	
-	TM	
-	TI	
-	FH	
-	MZ	
吉田	男性Y	電算部会長
-	男性T	
-	AH	外部専門家
-	HR	
-	学生	
-	県協	長野県図書館協会
-	早シス	早稲田システム開発株
-	IK	
-	杉下	ナスカ一級建築士事務所
-	SE	

※「略記号」は会議録コーパスで使用した ID
また役付のない成員名は本論では「-」で示す。

第3節 当該技法の適用

本節第1項では小布施町「図書館建設運営委員会」の約1年半にわたる会議録のテキストデータを読み解くため、まずは会議録の構造を把握するべく、全体の中での討議テーマの変遷をターン割合上位者の出現率の変遷から分節化した。

そして、分節ごとの「頻出単語」を抽出し、「指標発話」を検索・選定し、さらに「指標発話連鎖会話群」を抽出し、リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の状況を把握した。

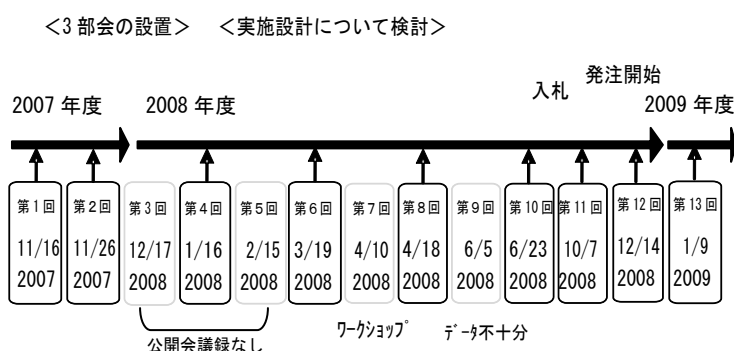
また第2項ではそれらの各工程で発話データがどのくらい縮約できたのかを整理した。

また第3項では会話分析を行い、小集団の分裂の危機を孕むような意見対立がどのように生み出され解消されたのか、といった過程を吟味する。また、それをふまえて、専門家やその他の成員が果たした役割についても考察する。

第1項 データ縮約化と分析対象箇所の絞り込みの工程

①会議録コーパスの作成

先述のように2009年7月に開館した小布施町町営図書館について、その「しつらえ」や「使い方」が議題にテーマとして挙がっていたのは2007年11月16日（第1回委員会）から2009年1月9日（第13回委員会）までの会議であり^{注1}、そのうち第3,5,7,9回を除いた^{注2}9回分の会議録から会議録コーパスを作成した。



■図 4-3-1 分析対象とした会議

②時期的分節化

まず会議録コーパスをコンピューターソフト「JMP」のアプリケーション「パーティション」^{注3}を使用して、ターン割合の変遷を見ると下図のようになった。

図 4-3-2 のように「パーティション」では最初の分析（第1分岐）でまず2008年12月14日を境に2つのタイプ（以下「A型」と「B型」と名付ける。）に分類可能なことを示す。

A型は更に分析（第2分岐）を行うと、ターン割合が「KIN」（委員長の記号）が多いものと「古谷」が多いもの（以下「A-1型」、「A-2型」と名付ける。）に分かれる。

A-2型は更に分析（第3分岐）を行うとターン割合が「IZ」が多いものと「男 Y」（電算部会長の記号）が多いもの（以下「A-2-1型」、「A-2-2型」と名付ける。）に分かれる。

こうして全体の会議を見るとターン割合の変化にともなって以下のような構造になっていることが分かる。

¹ 最初は16回委員会まで分析したが、その結果14回以降は「しつらえ」や「使い方」について討議されていないことが判ったので、ここでは対象外とする。

² 3,4,5回は公開されている議事録がなかった。第4回のみビデオから会議録を作成した。第7回は模型ワークショップにあたり、討議がほとんどなかったので対象から外した。第9回は公開されている議事録があったがビデオと照合したところ書き起こしが不十分であることが判明したので対象外とした。

³ JMPとはSAS社が開発したソフト。「パーティション」とは同社独自のアルゴリズムを用いた決定木分析。x軸を時間にy軸を発話者のターン度数に設定して分析すると、ターン割合の変遷を解析する。（詳しくは補論「手順書」参照。）

③指標発話（候補）の抽出と選定

次に各時期の頻出単語を手掛かりに「指標発話」を検索する。

「指標発話」は、ターン割合 1 位者^{注5}の発話と、時期分節毎の頻出単語とのクロス検索により導かれる。このうち前者については、前述のとおり時期の分節化の過程で明らかになっている（表 4-3-1）。

③-1 頻出単語の選定

「指標発話候補」を抽出するキーワードとなる「頻出単語」については、前述のとおりコンピューターソフトを用い「名詞」を抽出することになっているが、他の品詞として使われて混在してくる場合があり、また討議テーマを表すに有為な意味を持たない場合があるので、実際にその単語が使われている発話を見て文脈から判別し不要なものを取り除く（いわゆる「ケバとり」）作業が必要となる。それらの結果を表したものが下表である。

■表 4-3-2 頻出単語

時期区分	第 1 水準	第 2 水準
第 1, 2 回	図書館 交流 子ども 運営 北斎ホール 緑 お話 カフェ エントランス/入り口/入口 役場 トイレ 風 (…ふう)	交流 子ども 運営 北斎ホール カフェ 入り口 役場 トイレ 風 (かぜ)
第 4, 6, 8 回	エントランス/入り口/入口カウンター コーナー 図書館 子ども 風 (…ふう) 本 本棚 家具 雪	エントランス/入り口/入口 カウ ンター コーナー 子ども 本棚 家具 雪 風 (かぜ)
第 10, 11 回	屋根 木 図書館 風 (…ふう) お話 床 運営 カーペ ット 赤松	屋根 木 床 運営 カーペット 赤松 風 (かぜ)
第 12, 13 回	図書館 情報/データ本 町民/住民/市民/地元 運営 選 書 予算 発信 職員 資料	情報/データ 町民 運営 選書 予算 発信 職員 資料

※第 1 水準の赤字部分は、当該単語が指標発話候補の中で討議テーマを表す有為な単語ではないことが分かったものである。これらを取り除いたものが第 2 水準である

表中の「第 1 水準」に記載される単語が、コンピューターソフトで頻出単語を上位から 50 位まで抽出し、そのうち固有名詞や代名詞、助詞、等を除いたものである。

第 2 章で述べたコンピューターソフトを用いて行われる過程とは、ターン割合 1 位者の全発話の中でこの第 1 水準の単語を含む発話をリストアップするまでの過程をさす。

そして検索された発話を一つ一つ見ていった結果、第 1 水準の単語がその時期区分の討議テーマとして有為な意味を果たしていない^{注6}場合、頻出単語から取り除き、残ったのが「第 2 水準」である。

結果的に第 1 水準から第 2 水準までの過程で取り除かれた単語とその理由について表 4-3-3 に示す。

すなわち「図書館」や「という風（ふう）に」など他の時期区分にも登場する単語や、「お話し（については…）」のように主部・述部の定例句として登場する単語は、当該時期区分の討議テーマを表すにはほとんど有為でないと言える。

⁵ 本論で「指標発話」は基本的にはまず 1 位者の発話を見る。ここに頻出単語の大半があれば 2 位以下の発話は見ない。

⁶ その単語は常用句または派生的話題の中で用いられている場合。具体的な判断基準については第 2 章を参照。

■表 4-3-3 第 1 水準の頻出単語のうち削除された単語とその理由

時期	省除された 指標発話候補	省除された 頻出単語	使用例	理由
第 1, 2 回	263,	図書館	この図書館をどんな図書館にしてい くのか…	定例句
		緑	—	第 1 位者の発話に出 て来ない*
	281,	お話	話し合い、今のお話しについては…	定例句
	393,416,	風（ふう）	風土的に…日本に合っている、 という風（ふう）に…	定例句,形容動詞。
第 4, 6, 8 回	1 月-165,	図書館	せっかく図書館の中の…	定例句
	3 月 -198,208,,220,256,2 70,319,335,337,376	風（ふう）	という風（ふう）に、どういう風（ふう） に、こういう風（ふう）に	定例句,形容動詞。
	1 月-165, 3 月-198,337,	本	基本的に、本当に、本館と…、	定例句。本としての意 味を有していない。
第 10, 11 回		図書館	上記と同じ	進行上の定例句
	6 月-71,10 月 -189,201,	風（ふう）	上記と同じ	定例句,形容動詞
	6 月-27,89	お話	上記と同じ	進行上の定例句
第 12, 13 回	12 月 -10,48,59,63,130,1 月-180,253	図書館	上記と同じ	進行上の定例句
	12 月-130,	本	上記と同じ	定例句と混在。また何 らかの賛成・反対を有 していない。

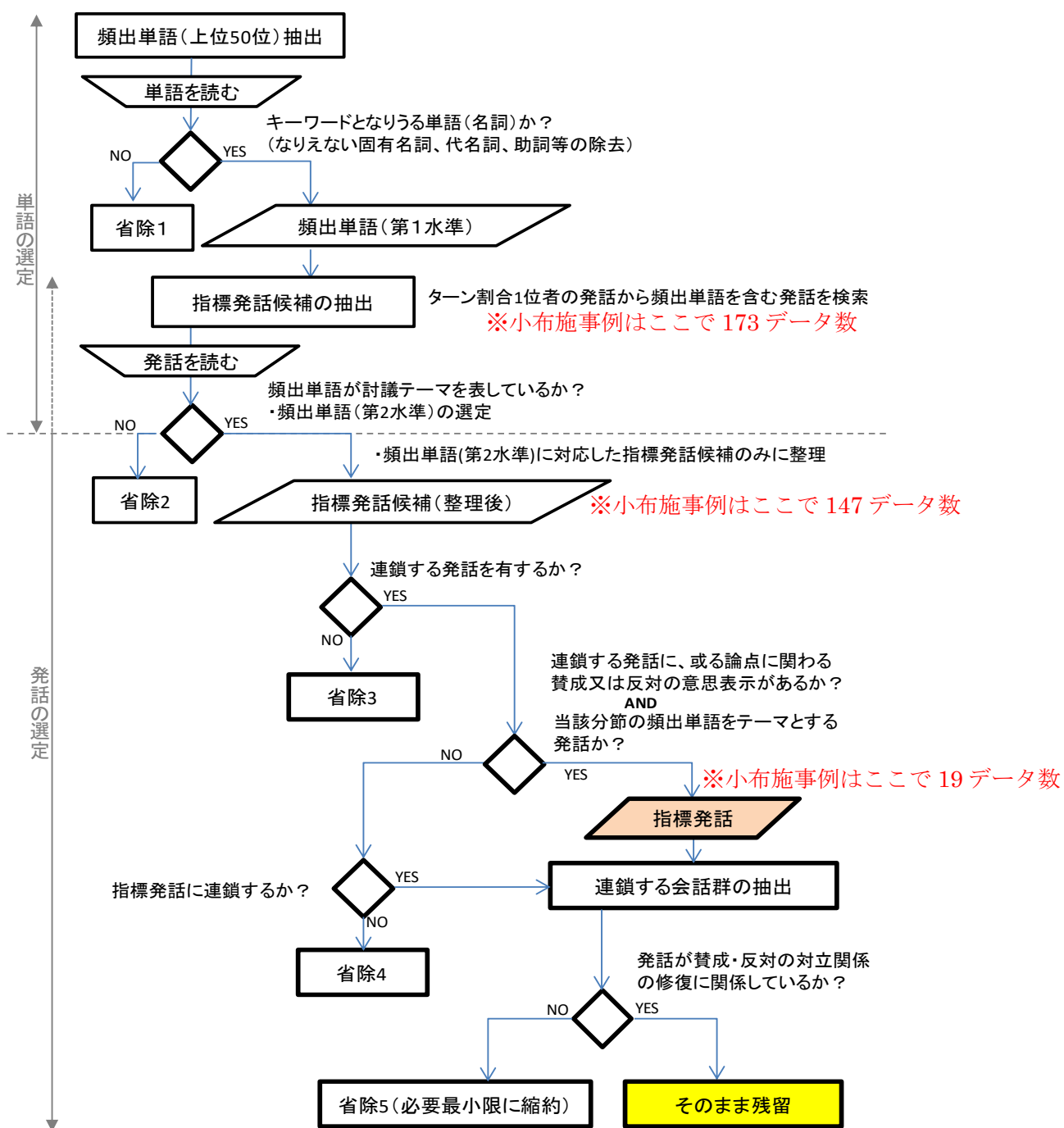
*は「指標発話候補」の抽出過程ですでに判明したものである。

③-2 指標発話候補の抽出

まず「頻出単語（第1水準）」が定まったとき、（ターン割合1位者の発話から）同時に「指標発話候補」を抽出し、173データ（発話レコード）数となった⁷。そして「頻出単語（第2水準）」の選定を行い、それに対応する「指標発話候補」を整理したところ147データ数となった。

③-3 指標発話の選定

「指標発話」は、図4-3-4のフローに示すような基準で「指標発話候補」から（連鎖する発話を読みながら）発話レベルで省除していった結果残った発話であり、19データ数となった。



■ 図4-3-4 (再掲) 指標発話の選定フロー

⁷ 具体的には、表4-3-4、4-3-6、4-3-8、4-3-10に示す。

以下、「指標発話候補」から「頻出単語（第二水準）」の選定を経て「指標発話」に選定された過程を、省除した理由（図 4-3-4 の省除番号）とともに示すこととする。

最初に第 1 分節（2007 年 11 月 26 日,2009 年 1 月 16 日,3 月 19 日）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表 4-3-4 である。さらに、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示したのが表 4-3-5 である。

次に第 2 分節（2010 年 4 月,6 月）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載した表 4-3-6 に示す。さらに、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示した表 4-3-7 を示す。

次に第 3 分節（2010 年 7 月,8 月）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載した表 4-3-8 を示す。さらに、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示した表 4-3-9 に示す。

次に第 4 分節（2010 年 9 月,10 月,11 月）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表 4-3-10 である。さらに、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示した表 4-3-11 に示す。

■表 4-3-4 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第1分節

日付	コーパス行番号	発話者	発話内容
2007/11/16	132	委員長	それで設計者ということで町民の外にもって、ありますが、先生と皆さんと随時議論しながら意見交換するということで、基本構想にもご尽力いただいた職員のプロジェクトチームの方に事務局として全体会・部会の全体の指揮方向の取りまとめや、記録などの補助をして頂くということで、職員のプロジェクトチームの皆さんを中心に、 役場職員 の皆さんには建設部会・ 運営部会 ・電算化部会の各部会に3人ぐらい担当者になっていただき書記役・事務局役などをして頂いたらどうか考えています。
2007/11/16	150	委員長	それでは部会の協議なのですが、 入り口 で、建設・ 運営 ・電算化というように分かれて頂いていますので、その皆さんで円陣を組むような形になって、話し合いを始めて頂きたいと思います。
2007/11/26	263	委員長	今のご提案というのは、この 図書館 をどんな 図書館 にしていけるのかという、一番理念の部分、あり方についてのお話であると思うのですが、それについてのご意見でも良いですし、関連してのご意見でも良いですけれどもご意見ありますか？
2007/11/26	265	委員長	交流センター という名前は補助金をいただくためのものが一つあるということ、一つは交付金という問題を離れて、本来の 図書館 機能を大事にしながらも 交流 の拠点としてこの 図書館 を位置付けたいという理念の表れでもあると思うので両方の面が 交流センター というカッコ付きの中には、込められていると私は考えているのですが、 補助金 についての 交流センター の条件については池田推進幹お答えいただいてよろしいですか。
2007/11/26	269	委員長	先ほどの委員さんが、お聞きになりたいのは、最低限 交流センター として認められるためには何がなければならぬのかといったような、そういう決まっていることだと思うのですが、そういったものはないのですか？
2007/11/26	278	委員長	交流 の部分なるべく認めていただくというのは、 図書館 の書棚が並んでいる部分も 交流センター の補助金の対象として認めてもらうようなことで…、そうすれば 図書館 機能を減らすということではないということですね、一番今微妙な所で苦慮されているところなんです。
2007/11/26	281	委員長	ありがとうございます、今の貴重なご提案も含めて、重点課題項目の2番のところで、今のような話をしていきたいと思いますが、今 お話 については後でも出ると思いますけれども…、館長なにか？
2007/11/26	287	委員長	ありがとうございます、古谷先生にこの間お話をいただいた時に、館長が言ったことと同じなのですが、設計者として空間を設計する立場では「パラダイス」という言葉を使われて、この時間帯はキッズ（ 子ども ）パラダイスの時間ということにして、 子ども 達がいくら声を出しても良いというような時間で、空間で分けるだけじゃなくて時間で分けるというような発想を持ち込むことで、同じ限られた1000㎡という空間を有効に使えるのではないかなというお話をされていたのでお伝えします。
2007/11/26	306	委員長	では、重点課題の1として、 北斎ホール とどう一体化するのかという課題があります、 図書館 の一部の役割を担う視点から繋げてはどうかという意見があります、 北斎ホール の講習室、ステージ、ホール、町民サロン、それらを繋げ、リニューアルする事で、 北斎ホール を 図書館 の一部と位置付ける事ができるのではないのかという考え方で、課題として、旧幼稚園の今ある遊戯室は、現在軽運動室として使われているのです。これが壊されて、新しい 図書館 が建つのですが、軽運動室として使っている太極拳、エアロビクス等のサークルが気軽に使っていたホールが、これによってなくなってしまおうという状況があり、追い出されてしまうこと心配しているグループがいくつかあります。そういう課題もあります、それをどうするかは、私達、 図書館 建設運営委員会が考える事ではないのかも知れないけれど、一応一つの課題としてあることを認識しておいてください。
2007/11/26	307	委員長	北斎ホール と繋げるという事はかなり技術的なことでありますので、現在、古谷先生の方ではどのようにお考えなのかと、設計事務所の方八木さんにお伺いしたいと思っています。
2007/11/26	317	委員長	メリット、デメリットについてですが、メリットとして 図書館 の一部として 北斎ホール があれば良いのではないかと、2階に和室があり、その奥には会議室があり、 図書館 の一部としてそれを使うようにして、もし渡り廊下があれば、一回外に出て、入らなくてはいけなくてすけど、渡り廊下をつけるだけでスペースがというのは…
2007/11/26	326	委員長	2番目として今と繋がる部分があるのですが、 カフェ ・飲食コーナーのあり方について、人が居てコーヒーを出してくれる カフェ 、喫茶店のようなものというような案もあれば、自動販売機だけを置くという案もあります。ゴミの問題や本を汚してしまうのではないかなという問題がありますが、それがあからといって、 カフェ は要らないという発想ではなく、 あり方としてどんな物があるのかという、そういう事についてご要望何かありますか？
2007/11/26	329	委員長	他に カフェ に付いてはどうでしょうか？どうぞ。
2007/11/26	337	委員長	ありがとうございます、特に カフェ については意見ありますか？
2007/11/26	342	委員長	はい、ありがとうございます、今の意見で、1階で 北斎ホール と繋ぐという事を言ったのですが、 北斎ホール の2階と繋ぐ事が出来ないかという話があります、 図書館 の1階の 入り口 の所だけエレベーターか階段で2階にして、2階の畳の部屋に繋げて貰った方が有機的に使えるのではないかと、道具を入れるスペースという場所はかなりいろいろな道具があり、子どもは本当に目が離せない危ない所なので、1階の道具倉庫と繋げるのはかなり危険という意見が出てきています。
2007/11/26	372	委員長	ありがとうございます、 風 除けの玄関というのは…という質問も良いです。
2007/11/26	378	委員長	関連して、植栽のことも出てきているので4番目に移ります、この間、この植木に付いて、目隠しになって 子ども さんの防犯上よくないというご意見、要望が出ました、それに対して先生の方では、充分配慮して、樹木を選んだり、本数を選んだりして植えたいのご返答でした、また、夜は何も木がないよりある方が明かりがその木に反射されて、明かりの部分が増え防犯上はかえってよいとお返事もありました、以上を踏まえて、落ち葉の対策や雪囲いとか、誰が管理するのかというような課題は当然出てくるものなのですが、何かご意見ありますか？
2007/11/26	393	委員長	次は、床についてなのですが、5番と6番が関連しますので一緒に意見交換します、床暖房がどうしても欲しいという意見が結構出ているという事と、床の素材はどうするのかという事、床暖房と床材はどんな物がいいか、絨毯、カーペット、フローリング、畳などという課題が出ています、また、解決できない部分が、土足で入れるようにするのか、靴を脱ぐようにするのか、一部そのようにするのかという問題、また、ここに書いてある靴を脱いで上がるのが 風 土的に冒儀的にも日本に合っているのか、それに従った方が良いのかという事とか、でも欧米化しているという事はどうするのか。
2007/11/26	410	委員長	7番の構造についても話が及んでいますので、それらまで含めていかでしようか、今の話ですと、例えば 子ども のコーナーを設定して、そこを土足ではない上足や裸足でも良いという分け方の意見が多い気がします。
2007/11/26	416	委員長	ということは、その見本の靴が置いてある中は、靴を脱いで入るよう要望している訳ですけど、皆が従ってできるルールで分けるという 風 にしますか？それとも一部は土足で良いのではないかと。
2007/11/26	445	委員長	やはり 入り口 のすぐ傍から入れると言うのが一番大事なことだと思いますので、ここに確保できればいいなと思います。
2007/11/26	447	委員長	また、段差が1.5mなのでエレベーターは必要なのかなという話もありました、先程、 北斎ホール と繋げるという時エレベーターの話がでしたが、車椅子で来た人が低い場所から1.5m登るよりも、エレベーターを使い上に行くとか2階に行けるみたいなのが出来ないのかなという話は出ています、どちらにしても、車椅子の方の車は、近くに停めるという案が出ていたので検討頂く方向でお願いしたいと思っています。
2007/11/26	451	委員長	縦列はバックも必要ですし、身障者の方に縦列をさせるというのは、かなり無茶という気がします、 子ども も歩いていますし、
2007/11/26	456	委員長	15番まで議論をしたいのですが、9時になってしまうので、今回は11番の トイレ のあり方のところで 話し 合いたいと思っています、PC等は、これから議論していく時間があると思いますので、2つだけ議論したいと思います。
2007/11/26	457	委員長	10番の音の問題と、 交流 、タイムシェアリングについて、 交流 のどんな音が考えられるか、その周辺環境は、空間で分けるか時間での分け方も可能か、利用者の移動距離との関連をふまえて分断、利用者の移動距離の関連とは、利用者が 図書館 という本がある場所から離れてしまうということで、例えば公民館の部屋を多目的ルームの代わりに使えようという案があった時に、やはり 図書館 の活動としては本の囲まれた中で、例えば 子ども 達に読み聞かせをしたいとか、そういう意味だということです、これについても今までかなり意見が出ていたと思うのですが、多目的ルームとの関係もありますので。
2007/11/26	464	委員長	ありがとうございます、繰り返になるかと思うのですが、団体・グループ毎の要望を 図書館 の司書に伝えることに加えて、今事務局で言われた、自分はこういうことがしたいという、個人の意見でも良いので、でも特別、多目的ルームは要らなくて 動青ホール に繋げてもらえれば、 北斎ホール の畳の部屋で良いですよという意見もあって良いと思うので出来るだけ早く、今週中に各グループの代表の方に出してもらい、今日来ていないグループの方には司書から直接連絡して意見を寄せてまとめていただくということではどうですか。

	指標発話			
	指標発話候補の整理過程で省除された発話			

※発話内容の頻出単語を赤字で示す。（以後表 4-3-10 まで共通）

■表 4-3-5 第 1 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図4-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第1	1, 2回	交流	265 指標発話		①-B-a : 264とのペア。	●
			269 省除5		①-2 : 基底となる264-265にまとめる。	
			278 省除5		①-2 : 基底となる264-265にまとめる。	
			457		「交流」では連鎖していない。→「子ども」	
		子ども	287 指標発話		①-B-a : 286とのペア。	●
			378 省除4		植栽がテーマとなっており代表性がない。	
			410 省除4		土足か素足かというテーマとなっており代表性がない。	
			451 省除4		駐車場がテーマとなっており代表性がない。	
			457 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる286-287にまとめる。	
		北斎ホール	306 指標発話		①-B-a : 63とのペア。	●
			307 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる63-306にまとめる。	
			317 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる63-306にまとめる。	
			342 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる63-306にまとめる。	
			447 省除4		駐車場がテーマとなっており代表性がない。	
			464 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる63-306にまとめる。	
		カフェ	326 指標発話		①-B-a : 330とのペア。	●
			329 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる326-330にまとめる。	
			337 省除5		後方拡張で①-2 : 基底となる326-330にまとめる。	
		運営	132 省除3		連鎖がない	
			150 省除3		連鎖がない	
		入り口	445 省除3		連鎖がない	
		トイレ	456 省除3		連鎖がない	
		風	372 省除3		連鎖がない	

※選定した「指標発話」はセルを赤に、それ以外で「指標発話連鎖会話群」に含まれる発話は黄色に着色した。

なお「選定・省除理由」の欄の各記号は図 4-3-4 及び補論「手順書」参照。(以降表 4-3-11 まで各表共通)

■表 4-3-6 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第2分節

日付	コーパス行番号	発話者	発話内容
2008/1/16	17	古谷	で、家具、備品に関しては若干それからずれたところ来んですけども、やはりそれと同じような形式でみなさんとこう相談しながら埋めていこうとしますんで、あの建築本体よりは若干後ろ気味にいくと思いますが、後記で出てくるという話になります。 でえ、たしかにご指摘はすごく重要でしてね、分科会に分かれているとそれぞれのなかのことはいいとして、われわれはそれぞれ一問一答してるんですが、こちらをたてようとするあたりがたなくなったりとか相互関係がありますよね。 ですから実はこの建築に係るところはもうやはりこの1月2月という時点で各部会からもご意見をいただかないといけないのかなという気がします。 これはあの、見積書に近い形になりますんでね。 あの実際の見積もってるのは建設をして下さる業者が作るんですけど、我々設計者が作る予算書というのはそれに相応するものです。 この予算で見積もりが出てくるはずである、という根拠、これだからいくらで、この金額でしかるべきだという見積書をつくるのが予算書と言われています。
2008/1/16	24	古谷	で、そのときにまあ砂ぼこりの対策の問題なんですけど、これはもともと図書館で先ほども言いましたようにここに本箱を入れようかと思っていました。 ずっと窓際ところに本箱が入ってきて、そこから取り出した本が読めるようにと考えているんですが、それを考えるといずれにしてもある高さまではあって、そしてどの高さから窓をあけるかによって、この砂埃をどのようにコントロールするか…いずれにしても、えーと、どっちにしろ床のすれすれまで上げようとか…ある高さから上にあげようと、砂ぼこりの、50cm上がってれば入ってこないのか、あるいは90cm上がってないって入ってこないのか、そのへんのことは微妙なところなんですけども、あとは、あのー、どのくらい舞上がって入ってくるかにもよるんですが。 もしかしたらあんまり変わらないんじゃないかなと。 まあ、風を入れたりするときは開けるんですけど、それ以外はあいていないとすると少々開けたり閉めたり、そのことでは変わらないんじゃないかなというふうには思ってますね。 まあ、砂埃も一つの大事な要因ですが、北斎ホールのつながりを考えさせたいうえで、床の高さを決めた方がいいんじゃないかなと。
2008/1/16	43	古谷	そうです。 もちろん真ん中に エントランス が入ったときには、ここまではある程度の高さまでにしか下げられないので、 エントランス がこちになればそれはどんどん下げていくことができる、まあその違いはある。
2008/1/16	66	古谷	とくにその一、 エントランス をどこにもってきたいということに議論したくないなと思うんですが。
2008/1/16	69	古谷	正確に言うとならね3案3様なんですよ。 もう一度ご説明しますが、G案がもとに一番近い案なんですけども、ここにサービスカウンターがあって、その奥に作業室等々のバックヤードがあって、 閉架図書 ともつながっていると、いうサービス カウンター からバックヤードに関してはほぼ理想的な関係でできていると。 唯一 エントランス が遠いかなと。 エントランス はおそらくこちら側にある、ただ私の設計ではここからここまで見通しがつくように、 エントランス で何が起きているかは、お一人ここに座っていれば、 エントランス で起きていることも裏で何が起きているかもいちは見えるようにということで作りました。 ただし、その時に今までの習慣があって、今の図書館の運営の仕方があって、ぱっと声をかけるということが、今までもされてきたんだと、それがしたいなというお話があって、それをするとしたら、ここに カウンター を設けていいかという話になる。 そうすると全部バックヤードをここに置いたままだことに持つてくることになる。 でそして、それでもここに置いた方がいいですかって申し上げたところ、前回KMさんからですよ、…古谷さんならなんとかなるんじゃないでしょうかって言われて、間々としてるんだけどなんかうまくいかなくて、…それで考えた策が2つ、あたりまえなんですけど2つの方法があって、ここに カウンター だけがあつたんじゃないか今の話とは裏腹に、ここに一人専用の方がいいないと結局成立しません。 プラス1人必要になってきます。 だから、こちら側と引き離されているのは考えにくいと。 それで実は一番極端な例が、それじゃあ 木はこっちに置いてまんまエントランス をこの周りに引っ張り込んだらどうかと、それが一つの解決策。 だから…あまり変わっていないように見えるかもしれないけど実は エントランス との関係は、 エントランス があって、 カウンター があって、その後ろのバックヤードに繋がる。 今のお話だけを見れば、ここに エントランス を持ってくると繋がりは良くなる。 ただ外からやってくるお客さんのことを考えてみると、こちらからでもここに入れたものがずっと入ったところの先にある。 とくに小学校のところから学校帰りに寄ろうかなという子どもは、ずっと回り込んでオーバー…。 やっぱり エントランス の位置としてはこの周り…。 そこで考え方としては、じゃあもう一つ、これが中間の案なんですけど、 エントランス をここに置いておき、 バックヤード はこちらからこちらに行く時のこちら側に置いて、なんとかが カウンター をこのへんにつけて、両方の中間のような位置でどうしようという…というのがこの案。 僕はこれならなんとかですね。それでもここに座つちゃうとこちらのことは見えなくなるみたいで、この位置もあまり第2 カウンター としてはよくないなと思いますけども、それでもまあなんか、運営できるんじゃないかと。 ただ唯一、この案で、なんていうか、もったいないと思うのが、うまくいかないと思うのがこの 桜の木を囲った中庭 のモノ、ところ、このへんに部屋の中に光を取り入れるだけじゃなくて、この付近というのは比較的高低が…って床までたぶりまどが来ているんですね。 その近くに子どもさんたちが集まり込んでもいいように、そういう子どもたちのコーナーを作っておきたいなと思っているところなんです、ここは。 なんで、そこにカウンターが来てしまっで、しかもそこを…で、こちに行ったりこちに行ったりする人がいるっていうのは、…ここの中では一番チャタリングな場所なんだけど、そのところが子どもたちじゃなくて一般の人の動線になっちゃうっていうのが一つの問題。 というのが今の私の今んとこ…。
2008/1/16	70	古谷	それでもう一度戻るんですけども、ご意見を伺いたんですが、私はこのタイプの案を相変わらずお勧めしてるんですけども、実はそれにはこういうこともあるんです。 もちろん今までのご経験があるので、えーと、入り口はいつすぐのところまで カウンター があるのがなんとなくいいなあと思われている気持は分かっているつもりなんですけど逆に、こちから先、観光客の人たちにも利用してもらいたいんです。 あるいは気兼ねなく、割合気軽にこの中に入ってもらいたいんです。 ていうことを交流センターとして考えることになるとですね、入口の外に カウンター を構えられと、もう入らないで…ます。 つまり入口入ってきて、あのー、すぐのところに カウンター 、これだと…として使われているときはいいんですけど、これ情報センターで小布施のための、…ひとまず書庫もあって、…情報得てから行ってもらうじゃないか、そのためには観光客も含めて気兼ねにまず、一歩この建物中に踏み込んでもらいたい。 …ときがあるんですけど、その時はこのぐらいのところに置いてくれた方が比較的…ぱんとこちらへオープンに使えるといいかなと。 それで少し騒がしすぎるというのであれば、だんだんここにいたてを立てて、こちらのゾーンとの間の緩衝を立てるようにすることは十分できるんで、ここはしつらえ直すことが比較的容易な場所ですね。 観光客が多くなるシーズンはそれなりのやり方にして、そうじゃないときは減らすというようなことができます。 そういう実はオープンスペースとして使われていた方がいいんじゃないかなというのが私の提案なんです。 あのー、これは図書館の専門の方もいらしゃるので、その方と意見が違っちゃう可能性があるんですけど、私になりに感じてる部分なんで、入ってすぐに カウンター があるっていうのは…むしろ…あまり構えているという受付ではなくて、まず自由に入れる空間というものを、もっとオープンな カウンター がていうタイプの方が明らかに寄せ付けると私は思っています。 もしくは統計を取ったわけではないが、分かんないんですけど、でも感覚的には…。 それでも、…中まで入ってくださって…ですね。 あの小布施で交流センターと両方の機能を兼ねようとした場合には、あまりこれに近いところで監視しないほうがいいんじゃないかなって気持ちがあるんですよ。まあ、それは皆さんの意見を聞いてから決めたいと思います。
2008/1/16	72	古谷	今、 エントランス のことですか？
2008/1/16	74	古谷	カウンター のどこですか。 えーと、この カウンター のところは、3、5くらい。 あんまり厳密に決めていないんですけど、そんなに低くするつもりはありませんが、ここが一番高いんですね、ここであつたこの一番真ん中のところが一番高いんで、周りは比較的その3、5mから3、3mくらい。
2008/1/16	76	古谷	ええ、ここにいたとき、ここに カウンター があるということはずぐに分かる。
2008/1/16	80	古谷	あまり一問一答でなくて、みなさんからご意見出た方がいいと思うんですけど、今お話をうたんで一つご紹介したいことがありまして、ぼく、この図書館は、その一、図書館であると同時に交流センターでもある。 そうすると声掛けだけじゃなくて、まあ、実はそこでなんというかなしファレンスとまでは言わないけども、なにかこの町どうなってるのていうことが聞けたりする、というのが、ちょっと気取った言い方をすると、コンシェルジュ、ホテルで言うところ、なんでもそこで聞いてみるのができるようなところが、その近くの手前のところにあるといいなと。 ただそれがもとの図書館の カウンター を兼ねてしまいますと、ただ厳めしくなってしまうだけで、そういうものが入ってくるあたりで、たとえば今おっしゃった プチカウンター というもの、デスク一つでもいいですからそういうものがあって、そこで対応できるってことは十分できるんじゃないかと。

2008/1/16	81	古谷	それと今日実はこそっと館長さんだけに渡したはずの資料だったんですけど、コピーして配ってくださってるんですけども、それで一番最後のところにあの一あとからめくっていたければヨークシャープレイスハウス、ああこれですね、最初のやつは違う、ちょっとページめくっていただく2ページ目のところに、その、あの一、明日を想像するアートマネージメント云々と、記事の中に・・・にヨークシャープレイスハウスが書いてあると思うんですが、これは実は、アートマネージメントという経営のことかと思ってしまってますが、どういことかというです、この一、劇場は実は、普通公共の劇場というのは、お客さんが入ってくるメイン エントランス と裏方でスタッフが入ってくる裏口が分かれてるんです。でお客様は前から、そしてスタッフは裏側から入るんですね。それでスタッフの会議場なんかもみんな後ろに、お客さんのロビーになって・・・ているはずなんです、この劇場はですね、実はこれがね、ないんです。もう一言言う、裏側を・・・1頁裏側をめくっていただいて左側の「また」で始まる文章を読んでいただくのと分かるんですが、この劇場の経営方針を知る上で欠かせないことがある。それはウエストヨークシャーハウスの出入り口は、劇場正面の エントランス しかない。いわゆる楽屋口はあるにはあるが劇場の方針としてそこは封印されている。俳優も劇場スタッフも観客も日常訪れる市民とともに一つの出入り口を利用する。関係づくりをあらゆる機会をとらえて行おうというマーケティングポイントがここにはある、と書いてありますけども、これらの結果としてこのプレイハウスは地域社会の・・・を獲得している。・・・これまで裏方は裏方できれいに・・・これらの・・・お客様と興業者側と分かれてない、そのことによって・・・ありますよって。そこでその一、スタッフたちがあるいは俳優たちがコーヒー飲んだりしているというのは、昔からの劇場の・・・あそこはハシの場であって、舞台の上ではじめて出会うという・・・これから考える劇場というのは・・・ないで、この図書館交流センターといわれるものがあり裏がなくてもいいんじゃないかと。と、むしろ、さっきあの一、自由に使えるといった、この空間です、この空間でそういう方々の相談なんかでもして、今の・・・ カウンター というのもあり カウンター という顔をしないで、・・・場合によったらそこにくるスタッフの方も町民の方も同じテーブルに並んで腰かけていろいろ・・・聞けたりするような、そういう表・裏がないような空間にしたい、そういうふうにはできないかと。
2008/1/16	83	古谷	これもいくつか考え方が出てくるんだと思うんですけど、盗難防止ゲートということですけど、ようするにセンサーがついてて、あのツツヤなんかの 入口 についているようなものですね。それを簡単に・・・というのが結構あって、 僕はやっぱり・・・なしでいくべきであらう 。ただ蔵書がかなりあって、・・・重要性があって別の次元で管理すべきだと思いますが、GPSそのものは付ける必要がないと。その分、空間性とかですね、スタッフの気みたいなのでも、ゆるやかに目配りができればいい。それは実は、で、僕は 本 に関して言えば・・・情報コーナーを兼ねているようなところに関して言えば実は持っている例はタロットと貸出専用のモノをどうやって区別するのは一つテーマとしてあって、それは 家具 、・・・このものは自由にお持ちください・・・悪意がなく持って行っちゃう可能性がある。その次に悪意があって持って行っちゃう分については、たいがい何をやっても盗んで行かれちゃうと思うんで、もう悪意を持って出ていける方に関しては僕はやっぱり、・・・會員みたいにいづもここに座っていらしゃり人となんとなく目があってしまうような、そういう状態にして、悪意を持ってなにか、あの一・・・ということとかかね、いずれにしても緩やかに互いに見守っているという、會員の一人が誰か見張っているという状態じゃない、そういう仕掛けづくりで対応していけばいいんじゃないかと、パソコンです、パソコンはですね、やっぱり館内にそういうコンピューター類というのは高度なもので、その場にいれば触れる・・・つまり、そういう悪さだけじゃなくて、動かないということもありまして、そういう意味でサービス カウンター から最寄りのところにあるといいかな、あまりこつこのほうにあるとは思わない。ただ、いずれにしてもパソコンはかなりの割合で・・・持ってこれる方は持ってきて作業される方が増えていると思う。・・・館内で検索することもありますからまったくゼロじゃないですけども、ややパソコンを普及させる・・・よりも・・・ある程度は・・・そのためには公共・・・。
2008/1/16	90	古谷	それは管理をどうしていくかっていうこととちょっと関係するかもしれませんが。僕もちょっとこの、えーつと、E案のように北に寄せたときには、小学生用は＝西を＝開けないと駄目かもしれないというふうに思ってます。・・・ただ、そこも 風除室 をうなしらえをして全部つくっていくと、まあ、面積がそれはだけ＝食われてくる。＝。まあ、 風除室 ができてくると、やっぱりそれだけ死角になるところやなんかが増えてくると。そうすると、その一、両方2つ開けた状態でそれをやるという運営を、おー、それをよしとするか。あー、やっぱり 出入口 は1つにして。もちろん、非常用、避難用にはいくつかの、非常のときにはく聞き取り不能>、あの一、普段は 出入口 を1カ所とかに決めておいたほうが、まあ、普通は管理がしやすいというか、この辺をどうするかというところになると思います
2008/1/16	101	古谷	カウンター 、ああ、じゃ、 入り口 。
2008/1/16	105	古谷	先ほどご提案があった、あの一、例えば、その一、 プチカウンター 、ここに入り口があって、こちら辺に コンシェルジュカウンター があって、で、ここにメイン、これは 本 をシェアリングされたり、中のこの・・・したりするときに使う カウンター という感じで、二段構えなんです。
2008/1/16	111	古谷	やっぱり カウンター って、やっぱり後ろが壁で。まっ、比較的カウンターの後ろは壁で、さらにその後ろにバックヤードがあるとやりやすいんですね。というのは、後ろが ガラス だと。
2008/1/16	113	古谷	見るんですけども、やっぱり背後が、背後が、こ、壁の後ろのほうがりやすい、いわゆるちゃんとした カウンター
2008/1/16	128	古谷	今考えてる範囲ではですね、 エントランスホール とか、トイレの位置とか、えー、閉架書庫の位置とか、そういうものはほとんど、まあ、簡単には変えられないと思っていただけたほうがいいと思います。で、あの、全体の空間性、これはこういう形としてあって、で、そうそう頻繁には変えられないのが書架ですね。閉架書庫、書架をどういうふうに並べようと思うと、これはそうそう簡単には変えられないと思います。ただし、その残りのスペース、つまりこういう空間ですね。これ、まあ、幅が10メートルくらいあるでしょう。その、10メートル弱かもしれないけど、こういう残りのスペースのしつらえに関しては、比較的短いバンので変えることもできる。それはまあ簡単に言えば、書くだけで、できるものであります。で、僕は、これから先、図書館はだんだんだんだんだん様変わりしていくと思いますけども、この場所ですと、出入口、出入口の位置を変えなければならぬというような変更というのは多分、そんなには起こらないと思うんですよ。多かれ少なかれ、この場所に位置を占めていて、何か小学校との関係が続いている以上は、まあ比較的それが続く。小学校自体がなくなることだってあるから、そこまで考えれば、突然何が起こるかわかりませんけど、でも、この役場のこの前の広場との関係からいって、この、この、あの一、フィールドの選択が、将来何かそれがすごい大きな障害になってしまうようなことは、まずないだろうということは思ってます。で、その範囲内でここを取り替えていくんですけども、取り替えていくのは、もちろん、そういった 家具 とか副のレベルのものにとらえてます。で、例えば視聴覚コーナーのプースの話を後から出てくるとありますが、これも、あの、前回にもお話ししましたけれども、これまでは各家庭にそういう機材が整っていないことは、図書館が唯一のそういう場所でしたけども、それらが各家庭に普及されていくにしたがって、今度は逆に、個人視聴のプースじゃなくて、何人かで同じものを見て話し合うとか、あるいは行ってすぐ話し合わないまでも、あるものをみんなで見て楽しむというようなものが、逆に図書館に求められてくる。これは確信してるんですね。つまり、それがその、今までの、「本を読みなさい、本を読みなさい」だけじゃなくて、本を読むということはもうちょっと幅の広がりがあることで、そういうものを鑑賞する機会というふうなものが、あの一、少子化の中で自分の中で味わえないようなことがここでも味わえるようになる。あるいは独居高齢者の方も増えてくるかもしれないけど、おたくていくらのテレビでも何でも見られるかもしれないけど、「ここでみんなと見るのが楽しみたいよ」っていうような、何かそういう催しが出てくるかもしれない。そういうのために、あの、例えば、その、えー、視聴覚の個人プースをあんまり硬く固めて最初のうちにつくってしまうと、未来永劫その形式が変わらないけど、多分それはだから機材とかそういうので対応していって、需要が減ってきたのに伴ってそれが減らしていけるような、そういう柔軟性を持てたほうがいい。で、それはね、あんまり大きなこの空間の中で、出入口がどこだトイレがどこだということまでは、あまり、そこまでつくり変えなくても大抵のことはできると思うんですよ。で、いざとなれば、これは本棚、本箱だって配置は変えられます。あの、集密書架は変えられないというか、この集密書架の位置をここで決めたら、ここにもここにも持つてけるようにはなりません。・・・全然違います。でも、普通のこの、この程度の開架の種類であれば、例えばこちらが雑誌、こちら側に配置したのが、それは10年の単位を考えます。でも、まとめてはやりませうけど。
2008/1/16	143	古谷	えーと、今までにちょっとそのプログラムがインプットされてなかったものですから、今ちょっと初めて考えたんですけど、これ、これをだから、開架書庫の、開架の一部がそれに相当するっていうふうで考えていくか、あるいは閉架の一部がそれに相当するっていうふうで考えていくのか。それによってだいぶ雰囲気が違うものができるとですね。それで、その一、閉架の一部であれば、僕は、まあ、極端な例を言えば、まあ、この場合で言えば、その、そういう特別に許可をとってそういうことをされる方に関しては、あの一、ご案内して、閉架書庫の中に、ここまで入っていただけないという。閉架書庫にもグレードをいくつか決めて、第1室までは入っていただいてもいいというふうなやり方で、さっきの2万冊みたいな部分と、そういう対応の仕方もあるのかなと。そして作業する、その今、作業室といわれるところを、會員の方の作業と兼用できるのか、あるいはそれと分けて、その、半分半分が何かにして、會員が専業作業室と、研究個室として使える部屋に分けるか。なんかさういう、つまり開架のゾーンの中の一角のレイアウトとして、あの一、対応するというのがあります。ただし、これはかなり閉ざされている。それで、ただ僕、最初の、よくここが見えてておっしゃったから、実は、たかだか、出てくるのは数千冊のことかなと思ったんです。数千冊の中の一部分が、その一、ここは、その一、不貸出、つまり貸し出しができない コーナー というのを開架のところににつけて、で、それを持ってきちんと落ち着いて、あの一、研究ができるというところが、例えばこの多目的室と言っているようなところが、ある程度予約しておけば、ある時間はそのうちの一部、これがまた区分できるようにってあるかどうかという問題もありますけど、そこを占有しても構わないという使い方もある。どっちのほうに近いですか。
2008/1/16	149	古谷	あの一、僕は何か一般論としては、確かに、それ、開架の一部にしてくよりは、開架の、おー、一部のところにそういう圖書の コーナー があって、そして、そ、そのものは貸し出せませんというサインは、印がついてるとしても、そういう コーナー が カウンター に近いところにあると、そして多目的室が作業室の一部か、どちらかを、まあ、作業内容に応じて借りて、で、そこにその一、あの一、そのスペースを貸しだしを上げて、研究に没頭していただけないというふうにやるほうがやりやすいかなと。そのために専用の場所をまたとすると、結局限られた中で、そのために占められて、それ以外には使えない場所がやっぱりまた増えちゃう。だから、どちらかに間借りしたほうがいいんじゃないかと。
2008/1/16	151	古谷	それが度合いに応じて、 本 にそれはその、貴重で、あの一、あれなものは、やっぱり開架の側に間借りした部分に置いて、そして、ある程度、その、サービス カウンター に近いところのね、近いところの本棚に置いて。あるいは、うーん、一番僕はやりたくないけど、一番あれなのは、そのガラスの、あの一、ふたのついた書庫をいくつか用意して、注文に応じて、あの一、鍵を開け、か、あの一、かけて、あの一、開けてあげるというやり方のものをつくって、
2008/1/16	165	古谷	ここ、じゃあどうですか、多目的室が、あの一、この 本 館とのこの空間との仕切りがガラスになっていて、もちろん閉めたいときには何かの方法で、ブラインドなり何なりで閉められるんですけど、普段は開けとくとガラスのスクリーンになっていると。ここで・・・できる。そして多目的室の、ある壁一面は、その今の書庫になっていて、書架になって、本棚になっていて、郷土資料とかそういうものが収まっている一面の壁がある。で、何にも、多目的室の、別のことに使っていないときは、今言ったような形で、開架室の、まあ、準開架の書庫としても使える、場合によっては、何かそこを使いたいというときはわざわざ予約していただかなきゃいけないんですけど、その一、あの一、多目的にそれこそ使うこともできるっていうふうにして、何か郷土資料が並んで・・・。多目的室も何もない無味乾燥な部屋よりは、せつかく 図書館 の中の多目的室だから郷土資料ぐらい並んでたほうが。直接関係なくても。多目的室でやる活動と関係なくてもそれが並んでるというのは悪くないと思うんですけど。

2008/1/16	185	古谷	はい。 あのー、この 桜の周り に関しては、ほかのさっき言ったところとちよつと違って、あの、グラウンド側とかと違って、この 本棚 はありません。 そして床まで、あのー、窓にして、下から上まで眺められるようにしておきたいというふうに思ってます。
2008/1/16	187	古谷	ですから、まあ、これに添った形でぐるりと カウンター が来ちゃうとちよつとつらいなと思ってます。
2008/3/19	196	古谷	普段ここから人が出入りするとは思っていません。そういう何か行事や企画の時には、ここを開けるとこちら辺とこうスムーズに出て行ける扉を作りました。もうひとつここに。従来ここに 出入り口 があるといいなと。逆に言うとも全部戸締りされて最後に、館の方が閉めて行く扉をどれにするかという考えがあるんですが、ひとつはあれという考え方もありますけど、もうひとつはここにつけた通用口ですね。通用口がここにありまして、こちら側に館員の方の休憩室。あるいはサーバールーム。ここが所謂事務作業を行う作業室。これが時と場合によってはボランティアの方もお使い頂くことが出来るかも知れませんが、普通は図書館の受け入れでとか、 本 の修理でとか、ダンボールに入ったまま開いたままにしておくとか、表ではちょっとやりにくい作業をする部屋がここです。そして、これは前から調整済みの貴重な資料をここに置いて、それに基づいた研究作業がグループで行われる研究室みたいな所で机が入ります。これが 前々から出ている多目的室 。半分に分けて2つの部屋でも使えるようになっています。今、この模型では窓を省略していますが、ここにもここにも窓を開けようと思っています。まだ、窓の形が完全に決まっていなくて今日は省略しますが、ここにも、あそこにも、窓は開けます。ここは 閉架図書 で、今、かたまりで書いていますけれど、こういう 風 に集密型の書架をここに置いて、40,000冊。これは空調などに使う機械。それから、この部分はここで使う椅子などをしまうための収納。まあ、この 為 だけじゃなくて色々使えます。
2008/3/19	198	古谷	これですけど、これご要望があるということでさつとカーテンを引き、授乳かなんかをするのに使える所なんですけど、私どもの考え方は割合一般的な考え方もありますが、ここに多目的のお手洗いを作って、そこで、着替えとかオムツ交換その他諸々の事に対応出来るように、という 風 に考えているんです。 けれども、「お手洗いの中でそういうのをするのはどうも…」 」というお話があって、ここにつきました。 ただ、これは皆さんが考えるようなお手洗いの雰囲気にはならないようなつもりで 本 当に気持ちのいい部屋みたいになるように今、設計しているんですけど、それとどちらでもお使い頂けるという事になると思います。
2008/3/19	208	古谷	はい。 完全に素通しのガラスにするか、実は、気配は見えているけど、中は完全に見えるようにするかどうかはまた相談しようと思っています。 今、僕のイメージでは、この模型はこちらから写真撮った時に完全に見えるように全部透明に出来ているんですけど、実は二重の、ガラスでもなくて、ポリカーボネートと言って馬が蹴飛ばしても割れない、競馬のパドックのこの所に使っている非常に軽量の板があるんです。 中空の板になっていて、向こうで人の気配はして何か使っているという事は分かるんですけど、直接あからさまには見えない。 光は通すけれど、直接視線は合わない、そういう材料でするのがいいのではないかと。 さらに加えて全く暗くしたいと。 どうしても必要ならば、もう一度遮光の 為 のカーテンが必要かという 風 に考えております。
2008/3/19	212	古谷	これは程々の遮音性くらいにしか考えていません。よほどこちら側に迷惑になるような音が出るような事をやる何かを鑑賞するとしますよね。そうしたら時間を考えて頂くかもしくはある程度以上になった時は北斎ホールをお使い頂くかそれはケース・バイ・ケースで。ただこの全体会で何回も申し上げましたけどいつもいつも、全く違う人達が同時に違うことが出来るように好きな事が出来るようにと考えるとどンドン重装備になっていってお金も掛かるし不自由だし、そこは少し柔軟に「じゃあ時間を分けて考えよう」とか「何曜日この時には お子さん たちが大声をあげてもいい」とかあるいはその逆も。というような運用をして頂くずっとと経済的に使えると思います。だから音が一寸も漏れちゃいけないというような事はし難いと思います。
2008/3/19	213	古谷	せっかくですから、どうして2案じゃなくてこっちの模型を作った方の1案がお勧めかという事をちょっと申し上げます。元からここに 子どもさんのコーナー があるのがいいなあと思ってたんですが、まず、目が行き届きやすい場所にあるというのが、トイレにも近いし、何かがあってもすぐ対応できる所にあるという事がひとつですね。大通りですから、比較的他のお客さんが静かに読んでいる所の近くではないという事があるのである程度お子さんたちが声を出してたり、お行儀が悪くてもそれほど気にならないという事もあります。それと今度使われる日常の時間帯ですが、ご高齢の方、大人の方、もちろん夜に來られる方もいらっしゃいますけど、割合日中の利用が多い世代になりますね。そういう方々にとっては、この南側の大人の読書 コーナー というののひとつは新しいかなと言う 風 に思っています。もちろんどうして日当たりのいい所が 子ども じゃないんだらうという事も何回も言われているんですが、それでも、この場合には直射日光が中にさんさんと差し込むようでは具合が悪いので、ここは庇が出ております。夏場の日差しはもちろんですが、冬場の日差しもある程度までは届きません。 本 当に窓際の所までになると思います。で、そうすると人間の目っていうのは一番明るいのとは逆に…窓際の一線は明るくなるのですが、ちょっと入った所は暗がりに感じちゃうんですね。それに比べるとここは、一日中木に当たった光が入り込んでくれますから、直射日光は差し込まないんですが割合安定した明かりで、一日中明るさを楽しめる場所になる。逆に言うこの 桜 はよほど強いライトアップでもしない限り、夜になるとここはやっぱり暗い場所になってきます。だからここに比較的夜までお使いになるような大人の コーナー を設けるよりは、日中の時間帯の方が多しと考えられる子どもの方が合理的だなと思って僕はここをご提案しているんです。それと、この二つの辺が静かな状態で一応キープできますので。
2008/3/19	216	古谷	それはどういう運営方針にするかによります。私が最初に提案した時はサービス カウンター がここに集中した時には、近くでお茶も沸かしてコーヒーも飲めるようにして、この コーナー に限ってはいつても皆さんが本を読むのにくたびれたら、ここを集まってきてここでお茶を飲んだらどうですかというのでした。ですが、今それが少し失われたつづります。事務の機能も兼ねてお湯が沸かされたり、そういう機能をここに集約していたのですが…休憩室の中には館員の方のがありますけれどこちらには本場に簡易な給排水を設けておいて、これは 本 当に館の運営方針ですが、お客さんに一杯お茶を出して差し上げるような感じにしようと言うのであればやれなくはない、という状態を今考えました。
2008/3/19	220	古谷	あの、もし、今のような割合限定的なお仲間が来てそういう 風 にお茶を飲みながら話しましょって事でしたら、やっぱり僕は最初に考えたここにこういう場所を作っておくのがいいと思います。 このボランティアが作業に使う事も出来るテーブルをさっき話しましたが、全体ではどう 風 にするかは別として、この辺りではお茶飲んでも構わないという、そういうルールへの作り方もあると思うんですね。
2008/3/19	222	古谷	自動販売機をこの中に置くというのは考えものかなと思いますね。というのは、そういうのがあると、ある人がここから飲んでいって飲んでると、皆飲みたくなって、皆どこへも持って行きたくなってしまうので。ちょっと手を掛けてポットから何かしないとお茶やコーヒーが入らないのもののじゃないと。手軽な自動販売機をこの中に置いてしましますと、どこでも飲んでいい事になってしまうような気がします。そうじゃないと飲みたいくない人が断りにくい感じになっていんですけど。色んな方がいらっしゃると思うんですよ。仲間であつたり、ボランティアであつたり、館の運営そのものに関わっていらっしゃるような人達が、お茶を飲みながら相談をする。ひとつは、この作業室の中ならば、何をして頂いても、例えば、ある時はサンドイッチ食べながら相談する事も出来ます。もしかしら、この辺りは、一般の人は、セルフですぐ自分でお茶飲んでいいですよって事。もし、管理運営方法でそれでいいこうって事になれば、事前にそういう場所を作りしておくというのは悪いことじゃないと思います。で、やたらそれがめっちゃくちやにならないようにここにサービス カウンター があるので、皆が勝手に使って使いつぱしになるというのは防げることかなと思います。
2008/3/19	256	古谷	ただ、LANケーブルに関して言えば、いずれ軽量化の方に進む。 これは無線LANでもいい訳だから。 最後まで必要なのは電源なんですけれども、そういう意味では、電源は何かと必要な訳で、何をどうするにしても、そうするとある単位で電源は供給しておく。電源のケーブルはフラットタイプにする事は今の段階では出来ませんから、そうするとやっぱりどこか床に取り出し口があって、日頃そういうのがそこら辺に出ていて邪魔にならないように出来るだけ 本 箱の下にそれが入り込んで隠れているようにするのが良いんじゃないかという 風 に思ってますよ。
2008/3/19	270	古谷	これはここにこういう 風 に屋根が掛かりますんで、ここからボンと抜いてこの平たい屋根の上に置く事になるんじゃないかと、今は考えております。 三角の屋根はこういう形で掛かりますよね？そうすると、ここ、真上に抜くと三角ではない所に出る計算です。
2008/3/19	272	古谷	それも工事が必要なんです。ですから、普通の人が筆筒を動かすようにはいきません。 本棚 は動きますけど、動かしたらその暖房の 為 の排気口は別のもので作り直すなり…。
2008/3/19	278	古谷	後はその 本棚 の改変っていうのがどのくらいの現実味があつて何十年後なのか、20年後なのか、そしてそれが増えていくのか。 僕は増える方向はないと思いますけど。 むしろ、紙のそういうものは減っていく方向になるので、ある程度撤去するとか、そういう事になろうかと思うんですけど、撤去した時に今の配線や空調の出口があつたすすれば、その時にそれに代わるもの。 例えば、ベンチみたいなものでその吹き出し口を作るとか、そういった事で大概は…これはでたためにすぐ変わるって考え難いと思うんですね。 本棚 の量が大きく増えるかもしれないと思うけど、大きく減るかあるいは半分くらいで済むようになるとか、そういう事じゃないかだと思います。
2008/3/19	280	古谷	これは、無しには出来ないと思います。 物の道理として、周りで吹いてここで吸うか、ここで吹いて周りで吸うかしないかと周りが均一になっていかないと、真ん中がいないって事は絶対無いんですよ。それを 本棚 に組み込むのいいか、それと関係なくこう所に出すのいいかは、さっき八木が言った通り検討中です。 専門の方で。
2008/3/19	286	古谷	一応考えています。これは実は町長さんからも言われて、将来こちら側がかなり全面的な顔になった時にどうなるかという事で。 僕はここに 入り口 を作るつもりはないんですけど、ここどうしても閉鎖的なものが必要で、将来こっちがなくなったからといって、この機能を全部ここに持っていったというのはいないと思うんですね。空間的広がりが景色になるので。そうするとどの み ち 図書館 として必要になるある程度、箱の部分があるとして、ここにあって、そして両側に人が入ってきて、自然に導けるようになると思っています。 その時の事もあってここにひとつ口を作っておけばこちら辺を少し模様替えるところももうひとつの 入り口 になります。それと、さっき言った、模型では省略していますが、引き戸を入れておこうかと思っているんですが、この引き戸で開けるこの部分もしかしら、将来は出入りをするときに、これまた多少の工事を必要としますけど、ここからも、人が入れるようにすると。それで、この窓をなんて僕が決めたかねというかと言うと、裏の窓だったら気楽に決めるんですが裏にないかと思っていいるので、これが外から見てもかわいらしくて小布施に合った何かいい窓にしたいなと思って悪戦苦闘しているんです。そこから後で光がぽつともれたりしている状態もそれが景色になるような、そういうものになりたいと思っています。
2008/3/19	307	古谷	ありません。 むしろ使われ方のイメージにあわせて 家具 をそれぞれに作って、それを使い道に応じて使い分けてもらって。
2008/3/19	311	古谷	実はA案B案でも建築の部分は変わりません。 それから、今密かに考えているのはA案でもB案でも同じ 家具 を場所を変えるだけで出来るようにということです。

2008/3/19	313	古谷	<p>たった一つだけ、子供のコーナーだけ床を土足禁止の床にするっていう事だけは、建築的には違うんですね。</p> <p>あのA案見ていただければここに作ってあったこういう本棚をB案の本棚をここにくっつけば、これにもなるし、っていうくらいの程度のもなんです。このこれをここに並べてこれをここに並べれば、という程度のもので、実はもう少し進んでいったら本当にそこに場所がなんとか出来てきます。そうしたらこっちが本当にこれでいいかな、どうかってやる事は出来るんですよ。</p>
2008/3/19	317	古谷	<p>散々色々皆様からのご要望を取り入れた中で、A案でもB案でも家具の置き方だけで変えられる程度の家はないかって考えたのが今日の案なんですよ。その間にどうしてもこれは出来ないし、それはやっぱり向いてないって思ったのが、ここにこういう風に入り口のカウンターを作るのは、どうやってもなかなか上手くいかないと、それは今の案にはなっていません。でもこうやってみたら、このカウンターのさっきのお湯の問題だけはありますけど、こっちの方が、ここに何かあった方がいいというのなら、これらはただ置いてあるだけです、ここに何かを増設する事は何でもないと。</p>
2008/3/19	319	古谷	<p>あの、丸いもの好きなんですけど、でも、全部丸いものだけで出来ると少しへきへきしてくるので、やっぱり、丸いものと四角い物が上手く組み合わさっているといんですよ。</p> <p>直線的なものとカーブしたもの。</p> <p>直線的だけで出来ていると堅苦しいし、丸だけで出来ているとくにかくにや気持ち悪い。</p> <p>気持ち悪いだけじゃなくて、カーブしているといい事はこういう風にみんなの顔が見えるとか、あるいは、お互い近くだけ違う事出来るとか、そういういい事もありますが、良くない事がひとつあります。</p> <p>それはどういう事かっていうと、例えば、ダンボール、カート、台車、何かそういう種類のもの、今世の中には四角い物がいっぱいある訳でして、それが近くに来そうな所に丸いものがあると置きにくい。</p> <p>これが最初から四角いのは、ここに何か四角いカートだかそういうものやちよつとしたこういうキャスターつきのラックだとか、そういうようなものが、必要に応じてここに置かれるだろうと。</p> <p>現にポランディアの方のテーブルも四角いテーブルを並べました。</p> <p>丸いテーブルってジョイントできないんですよ。</p> <p>よく、コーヒージョップやなんかでグループだと丸いの繋げるけど、この間にきた時気持ち悪いじゃない。</p> <p>四角い方が都合のいいものもあるんですよ。</p> <p>そして、僕は多分この周りは四角い物が結構出てくるんじゃないかなと思って今は四角くしてあります。</p>
2008/3/19	333	古谷	<p>AIにするかBにするかは、さっき言ったように家具だけで解決できる所はまだもう少しばらく。</p> <p>いつ頃かは、家具を作るまで大丈夫なんですよけど。</p> <p>まあ、実際には家具も含めて発注するので、建築の一部なんですよけどある種のは…。</p> <p>ですけどAかBかっていうので同じ家具でここに置くかあっちに置くかという問題で済むのであれば。</p>
2008/3/19	335	古谷	<p>それはやはり最後に実施設計までたまた確認して頂きたい。</p> <p>ただ、今までもそういう風に使いたいというご希望を伺って、その中でこういう風に使おうって風にお決めたんなら、そこから先は少し任せて頂かないと。</p> <p>皆さんにこれ引き戸にしましょうかどうしましょうかと、全部一々聞いて設計することはちょっと難しいんですよ。</p> <p>出来上がったものをもちろんご説明します。</p> <p>設計最後までこれでいいですかって風にまとめて。</p>
2008/3/19	337	古谷	<p>実際には、今日の段階でこの大きな箱、中がこんな風になるこの箱はこれでいいなということを決めて頂ければ次にこれについて実施設計をします。</p> <p>ここにある何センチの扉が入って、扉が開くというようなことも全部決まります。</p> <p>それが出来上がった時に実施設計が一応まとまるんで、本当にそれでそのまま見積もりをする前に、やはりみなさんに一度見て頂く機会を。</p> <p>それでその時に今日よりもっと時間をとって細かい所をいっぱいご説明しなければなりません。</p> <p>それをした所で確認して頂くことになると思います。</p>
2008/3/19	341	古谷	<p>まだ今、ちょっと基本段階なので分かりませんけれども、まず基本が木造ではこの形、空間はできないので鉄骨で作ることになります。</p> <p>ただ、その他諸々の製品の中に、例えば本棚・家具それから間仕切り、あるいはこういう所のスクリーンのいくつかこれらに木を使うのなら、僕は使いたいと思っています。</p> <p>ですから木材という意味ではある程度使える部分がありますから、それはできるだけ県産のものを使っていきたい。</p> <p>それ以外でも県内で造られている部品だとか、製品だとか、そういうものは出来るだけ調達していきたいというふうに思っています。</p> <p>あるいはこういうのあるぞと、こういう物造っているメーカーが長野県にあるんだというのを知り合いや何かで情報があれば教えて頂くって、それが機能的に合理的に使うのに合っていれば対応することが出来ると。</p>
2008/3/19	358	古谷	<p>しいて言えば、先ほど家具のこんな使い方が出来ますというご説明しましたが、ここに置いてある家具はこんなことにも使いたいっていうようなことがあれば、その使われ方のイメージをぜひ出して頂ければ。</p> <p>全部盛り込めるかどうか分からないけども、やるものは取り込んで行きたいと思いますので。</p> <p>家具を私ならこんな風に使いたいけどというのをぜひお聞かせ頂きたい。</p>
2008/3/19	371	古谷	<p>本棚の端っかに置いてあるベンチみたいな蓋をあげて？それは読まない、読んだ雑誌を？</p>
2008/3/19	374	古谷	<p>どうもありがとうございます。色々気が付かなかったことも含まれてしましても参考になると思います。一つ一つここでコメントしていくと言う感じではないんですけども、どうもやはりみなさんの話を伺っていると、全体の論調としては子どもコーナーは元の所にあってもいいんじゃないけれども、たまには大人も使った方がいいんだがな、という感じだったでしょうか。強くこの三角の所に子どもコーナーを持っていった方がいいよという意見は比較的少なかったと聞きましたけれど、前からこれも申し上げていることですが、年がら年中子どもが子どもコーナーにいつもはまりつ放して、いつも騒音立てていて、それでいつも静かなところで本を読む人は迷惑している。そういう事はまず無いと思うんですよ。使われている時間帯が違ってきたりするし、これも復讐になりすめけれど、いつもは子どももほとんどに気がついてもいいし、だけどもあるときは全部を使って子どものためのイベントをする日が、ひと月に1度かふた月に1度くらいあってもいい。その日はちよつとお子さんの声が響いていから、来る人は我慢してくださうねとか、あるいは予め分かっているならその日は子どももいると思って来てくださいというような、そういう柔軟な使い方をしてもいいんじゃないかと思う。そうすると、子どもコーナーも靴を脱いで上られるコーナーだから、大人の方たちがその上に座り込んでいる日っていうのが逆にあっていいし、いつも行ったおばあちゃんたちが占領してしまってたってなつたらずいけれども、あるときには大人がそこで金に使って下さっているのがあっていい。それは、割合上手にお子さんが来やすい時間を狙ってそういうことを企画して頂ければ全然問題なく出来るんじゃないかと思う。普段はそうは言ってもなんとなく、この小布施の図書館は、ここは高校生でここは何となくっていい風じゃなくて、どこにでもどの年代の人がいててもよく、大人の中に子供が混じって読んでも、子供の中に一緒に高齢の方が入ってそこで一緒に読んで、読んでいる事で自然に、この話知っているっていうような会話の糸口になるくらいの方がよくて、年代別になんとなく呼んでいますけど、その通りにその年代の人がきちんと座っているって言うようじゃないイメージをぜひ作って頂きたいなという風に思う。たまには誰かが占領して、普段は比較的若者男女が混ざって、混ざっているからそなたまたま居合わせた大人の方に、読み聞かせの会じやないんだけれど、読んで聞かせてもらえることもあった。あるいは、中には紙芝居を得意になってしゃべってくれるおじいちゃんなんかがいてくれるとよくて。そうするとあのおじいちゃんが来たときには紙芝居読んでももらえるみたいな感じのことが、自然にできてるような図書館になるんじゃないかなと思う。それから、ここでもあちからでも出た話で、楕円形のテーブルと、そのヤングアダルトと一般のコーナーですが、確かに会話ってみたいと会話の弾みそうなものを南側に持ってくるという説もあると思います。これ十分検討に値する。つまり、その所だけA案とB案を入れ替えたようなものですか。これはありうることだと思います。この時に机の使い方を例えば仮にヤングアダルトと言っているから、こっちが大人でそっちが学生みたいなに見えているんだけど、大人の方でもきちんと何か広げて、何かの分野の勉強をされることがあるかもしれないし、あるときは大きな机に伸び伸びと大っぱに広げて何かをやりたいこともあるかも知れないし。どこかでこの大きなテーブルは人がいない時であればここに新聞大さき広げていると気持ちよさそうだって言うのがありましたけれども、そういうことも十分あるような気がするんですけど、これからちよつと帰って考えますけど、もしかしらるの楕円形のテーブルを南側に並べておいて、割合平日の午前中から大人が少し少ない時なんかも、その所の日はどういうか明るい空間なのでヤングアダルトと言いが大人も、そこで午前中は新聞広げて読んでいらっしゃる方が大勢いるなっていうようなことはそれでいいかも知れないような気がする。ですからタスクライフつきの割合きちんと勉強できる感じのものを東側に持ってくるというのはい理あるような気もしてきました。それから最後の方でそちらからいくつかの発表が出てあのベンチの所の蓋を開けて、そこに雑誌のバックナンバーやなんか入れたらいいんじゃないかという、これも運用で出来るような気がする。ただちよつと気をつけなさいといけないのが、そういうのばばつとなんか入れられるような物があると、変なものを入れてしまうことあつて、開けてみたらゴミが入っていたとかかなりかねないのでその辺をどうするかということがあります。それから多目的室の収納の扉はその通りに今仮に倉庫風に描いてありますけれども、ちよつと身が薄くなってきましたから、ばばたと開けられる折戸のような扉にして、さっきこちらで伺っていたら、多目的室では例えば作業系のワークショップをした時に、手が洗えたり絵の具が洗えたりする流しがあった方が便利かもしれないというお話があったので、もしかするとその多目的室の倉庫のバタバタと開けた中に一箇所くらい流しが入っているようなそういう仕組みもあろうなという風に思っています。ですからこれは、物入れ関係についてはもうちよつと細かい、さっきの傘立てもそうだけれど、その傘立ては多分風除室のあたりに出すことになると思う。いつも出ているもかつこい傘立てが出来るかどうかと、ということなんです。そこにまた汚い傘が置きたばしになりたりする場合もあるので、それをどうするかというのはちよつと考えるものですが、でも必要なものですかと考えるとと思います。それから返却用のブックポストも同じ、今の所は開閉…例えば、一つの方法としては風除室の内側の方の扉を鍵を掛けておくけれども外側の扉は開くようになっていて、その風除室の所に返却用のポストを出しておくというやり方もあるかなと思っています。それも含めて玄關回りのことを考えていく</p>
2008/3/19	376	古谷	<p>先ほどあちからお答えしたんですけども、いずれにしても基本設計ですからこれから開取りが決まっただけですので、これは実際には、窓枠はどんな大きさで、どんなガラスを入れて、どんな風にするかっていうのが実施設計、あるいは構造的に計算すると柱の太さが20cmでいいのか25cmになるとか、あるいは設備の暖房の方式はこれでもいいのか、吹き出し口はこれでもいいのかっていうのが実施設計に入ります。</p> <p>結構専門的には忙しい期間に入るんですけどそれはまた一通りまとまった所でこのように設計をまとめようと思ますっていうふうに皆さんにご報告できると思います。</p> <p>そうするとこのドアの開きが中開きでどのような大きさなのかって言うのが一応全部お答えできるような状態にまとまりますので、5月頃くらいに時期にそういう物をまとめようと思っていて、5月の全体会の時にご確認を頂くようなスケジュールを組んでおります。</p> <p>そのようによろしくおねがいします。</p>
2008/3/19	378	古谷	<p>はい、これは今私が思っていたのはプロポーザルの時からあんまり変わっていないんですけど、基本的には奥行き深い図書館になるもんですから、中に入った光を出るだけ奥にバウンドしていくような、白っぽい色を基調とした内部空間を造ろうと考えています。</p> <p>ただし魅力があるのて考えているのは、一つは小布施ならではのことがあつて、土足でも気にならないって言うために前にもお話ししたけれど室内のクランクに床にぜひ木煉瓦を敷きたいと思っているのが一つあります。</p> <p>木煉瓦を外部で使うと大変手が掛かるとよくご存知だと思うんですけども、室内において土足の所に使うと非常に気持ちのいい環境に、しかも雨風が当たらないので基本的に長持ちします。</p> <p>それと全体白い空間ですけどもこの木の風合というか床前面に広がっていて、その中に本棚やなんか基本的にパネルやなんかにも木材のパネルが混ざっていると、全体は白だけれどただ白くて冷たい感じにならずに済むんじゃないか、その白と木の風合が混ざったような感じにしたいと僕は考えています。</p>

2008/4/19	398	古谷	それからコンシェルジュ カウンター のところにきて、皆さんのご意見は、先程の経緯では端折りでしたが、長い議論の末サービス カウンター とコンシェルジュ カウンター が一対のサービス業務を行うことになりました。… カウンター そのものは、位置を再編する、或いはコンシェルジュ カウンター を充実するというようなことも脱んで改変可能にしておいてほしいというご意見が出ております。…給水給湯設備は、お茶ぐらい沸かせる設備をここに作っておこうとされていて、元々私の提案でもあります。普通の人があまりいたずらできないような、 カウンター に仕込む形で作ろうと思います。…奥のサービス カウンター には、…また授乳コーナーを、先々月からご要求がありました。…児童コーナーですが、…この模型は、ひと繋がりになっていますが、分割されていますし移動可能です。児童書側から見たとき、ひと繋がりになっている棚がパーテーションになり、視聴覚ブースの方と仕切りになっている。…視聴コーナーには、たっぷり背もたれのある椅子を考えています…事務室ですが、…奥の休憩室の部分にはIHクッキングヒーター、給水給湯設備、シンクをつけることになっています。多目的室は…その他、多目的室内にプロジェクター…
2008/4/19	401	古谷	説明いたしましたが、壁材は窓のところで関連しておりまして、3点の窓になるところは構造的に必要な柱があり、当然窓として必要なガラス窓、 風 をいれるために開ける扉の部分があります。そういったものを何種類か混ぜ合わせながら壁面を構成しようというのが今の考え方ですが、ガラス戸のところ以外の内装の壁に関しては殆ど白く、あまり目障りにならないものでいこうと思います。
2008/4/19	402	古谷	床と天井に少し木を感じるものを使い本体そのものの壁は塗装し比較的白い壁にしたい。本棚の本体は普通スチールでできているのですけれど、 本棚 のパネルを木にしようと思っています。そうすると内装の背景の壁となる部分は白い方が手前にある木を使った 本棚 が映えますし、全部が木ばかりになると打ち消し合ってしまうとか、山小屋みたいになる可能性もある。今の僕の考え方としては壁になるところは比較的白いプレーンな壁。そして床と天井に少し木を感じるものを入れて、あと、 本棚 にというふう考えます。
2008/4/19	416	古谷	先ほどの僕の答えになりますが、それをやろうとすると全体をならしたスロープにしないとならなくて、1／8というのは押して押せない坂ではないです。 雪 のときは、ちよっと…。
2008/4/19	427	古谷	屋根の 雪 は基本的には落とさない方向で考えているのですが、。底の落下点のところには、万が一何かが落ちて、支障のないような外構上の配慮をしています。
2008/4/19	437	古谷	今私が思うには、北斎ホールとの間の部分の動線は補助ですね。メインの 入口 をごちらにしましたので、ここをどうしても通り抜けられるようにしなくてはならないというのは、 雪 の積もっている期間だけで、365日通すようにするかどうかはよくお考えいただいた方がよいと思います。ただ、 雪 がない時には充分通り抜ける事が出来ます。 雪 が積もったままにしておいても支障がある動線ではないですね。今考えているのは、屋根全体に積もった 雪 は基本的には落とさないという方向で考えています。
2008/4/19	439	古谷	雪 を落とさないということですが、でも、落ちてくる可能性はあります。ただ、この時に、落下した時に危険がないように、この辺りに関してはニクロム線でニクロムヒーターを入れると、そういう物が必要になってくると思うのですが、それは全部に入れる必要はない。
2008/4/19	440	古谷	と言うのは、 雪 の降っている時に、この駐車場も含めてですが、 雪 が降っても支障がない外構計画にしようと考えています。 雪 が落ちるかも知れませんが、溜まっても構わないと言う建物の外壁側の諸事も含めて、 雪 が降っても支障がないように考えています。一方、どんなに降っても 雪 が絶対溜まらないようにしているのはこの 入り口 の所です。
2008/4/19	453	古谷	一応現在の案は、細かいところは説明してませんが、大きな方向性は出ているので、スロープの方が除 雪 しやすいとか、いろいろな長一短ありますが、この場合は西側の階段はどかが相応しいかなとか、ご意見ご要望があれば伺いたいと思います。
2008/4/19	470	古谷	ありがとうございます。模型をもう少し見て頂くと分かりやすいかと思うのですが、壁面そのものの書架はないのですが、窓際の二辺は腰の所は全部 本棚 です。
2008/4/19	471	古谷	そして、背の高い 本棚 は、中央の三角でまとめてあり、低い 本棚 は外回りにあります。それから、窓に近い方の 本棚 も低い 本棚 で、上は抜けるような 本棚 です。 本棚 のものは、 本 が入ってしまえば塞がりますが、閉鎖のない形の向こうが抜けて見えるような 本棚 で出来るだけ構成しようと考えています。
2008/4/19	472	古谷	それから、児童 コーナー ですが奥にサービス カウンター があります。そして授乳 コーナー もあり、先ほどの湯沸しをもう少し給湯室くらいの装備にするかは、よく検討いただければと思うのですが、哺乳瓶を洗ったり、お湯沸かししたりする コーナー がここにあります。
2008/4/19	473	古谷	奥にサービス カウンター があり、視聴覚 カウンター が手前に、そして エントランス 近くにコンシェルジュ カウンター があるのですが、ここから見ると確かにガラスはありますし、児童 コーナー は比較的丸見えなのですよ。どちらからも透明に見えますので。後は出入口をもう少し広げるとか、このS字の距離をもう少し広げるとか、微調整はあるかと思いますが、今思っているよりはよは大変、皆がよく見える場所です。外に雪もなく人が通っている時期は尚更よく見えるようになっているはずですよ。
2008/4/19	475	古谷	児童 コーナー の 棚 はあまり背の高いものではなく、立っていると中がある程度覗ける高さになります。基本的に、机の高さです。
2008/4/19	476	古谷	それから、視聴覚 コーナー ではヘッドフォンをしているので近くで多少声が出て大丈夫なのですよ。視聴覚を利用される皆さんは本当に見たい時には、ヘッドフォンをすれば良いので大丈夫。それから、 子ども の声はこの辺に広がっていて、立って歩く人たちが 子ども たちが居るという気配は感じる。
2008/4/19	490	古谷	パターン2の時は窓辺の 棚 を利用して、児童 コーナー の児童書の数を確保しました。
2008/4/19	492	古谷	建築の部分に関しては、ほぼ決定ですね。 家具 はまだ良いのですが。
2008/4/19	494	古谷	そうですね。まとめて頂いた方が私はやりやすいですね。印象として 子どもコーナー はもとはといえば全部部屋を閉めて、全部間仕切りがあるイメージからスタートしているのです。それでそうではなくて、もう少し開いて、全体の中にあり、 子ども が居ない時は大人も使え方が良いのではないかなというような議論も段々されてきて、これは全然違う例なのですが、間仕切りで仕切るのではなく、家具とか、本棚とかそういうもので柔らく仕切って 子ども さんの コーナー をつくるのはどうですか？という提案が、ここに来ている。あとは、程度の問題ですから、本は何冊収まるようにしなければいけなくて、靴を脱ぐ範囲はどの位までが理想かというのは皆さんで考えて頂ければと思います。実は「靴脱ぐ範囲は」というのは建築工事で、 家具 ではないのですが、その程度の変更はいくらでもできます。
2008/4/19	496	古谷	そうですね。今まで何ヶ月か掛けて何通りの 家具 配置をして、 本 の冊数とテーブルの座席数も、それなりに討議してきた成果が今のところに集約していますから、これをテーブル席を減らしてまで、 本棚 の数を増やすべきなのかどうかということは、いくらでも議論して頂いて良いのですが、今の所までに来たのにもそれなりの経緯があるということで、よく皆さんでお話し頂ければと思います。

	指標発話			
	指標発話候補の整理過程で省除された発話			

■表 4-3-7 第 2 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図4-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第2	4, 6, 8回	エントランス	43 省除5	前方拡張で①-2	: 基底となる68-69にまとめる。	
			66 省除5	前方拡張で①-2	: 基底となる68-69にまとめる。	
			69 指標発話	①-B-a	: 68とのペア。	●
			72 省除5	実はカウンターのことなので、74にまとめる。		
			81 省除5	挿入拡張で①-2	: 基底となる105-106にまとめる。	
			83 省除4	防犯がテーマなので代表性がない。		
			90 省除5	後方拡張で①-B-a	: 基底となる68-69にまとめる。	
			101 省除5	後方拡張で①-B-a	: 基底となる68-69にまとめる。	
			128 省除5	後方拡張で①-2	: 基底となる68-69にまとめる。	
			196 残留	児童コーナーの前方拡張で①-2	: 基底となる211-213にまとめる。	●
			286 省除5	後方拡張で①-2	: 基底となる68-69にまとめる。	
			437 省除4.5	テーマ「雪」→省除4、テーマ「木・植栽」→省除5		
			440 省除4.5	テーマ「雪」→省除4、テーマ「木・植栽」→省除5		
			473	テーマが児童コーナーにて→コーナー		
		カウンター	69	エントランスがテーマなので。		
			70 省除5	前方拡張で①-B-a	: 基底となる105-106にまとめる。	
			74 省除5	前方拡張で①-2	: 基底となる105-106にまとめる。	
			76 省除5	前方拡張で①-B-a	: 基底となる105-106にまとめる。	
			80 省除5	前方拡張で①-B-a	: 基底となる105-106にまとめる。	
			81	→エントランス		
			83	→エントランス		
			101	カウンターの連鎖に繋がっているがエントランスがテーマ。		
			105 指標発話	①-B-a	: 106とのペア。	●
			111 省除5	後方拡張で①-B-a	: 基底となる105-106にまとめる。	
			113 省除5	後方拡張で①-B-a	: 基底となる105-106にまとめる。	
			149	コーナーがテーマなので。→コーナー		
			151 省除4	閉架がテーマなので代表性がない。		
			187 省除4	桜の回りのことなので代表性がない。		
			216	児童コーナーがテーマなので。→コーナー		
		コーナー	222 省除5	カフェがテーマだが児童コーナーの連鎖に繋がっている。		
			317 省除4	家具がテーマなので代表性がない。		
			398 指標発話	後方拡張で①-B-a	: 105→106→362から連鎖。	●
			472	児童コーナーがテーマにて。→コーナー		
			473	児童コーナーがテーマにて。→コーナー		
			143 省除4	閉架がテーマなので代表性がない。		
			149 省除4	閉架がテーマなので代表性がない。		
			213 指標発話	①-B-a	: 211とのペア。	●
			216 残留	①-A	: 227→238→241→398と連鎖。	●
			313 省除4	土足厳禁ないし本棚のテーマとなっており代表性がない。		
		子ども	374 指標発話	意味的に8回の463以降の前方拡張になっている。		●
			472 残留	→473		●
			473 残留	①-A	: 474→478→479→494と連鎖。	●
			212 指標発話	213と同じターン		●
			213	「子どもコーナー」につき「コーナー」と同じ。		●
		本棚	374	「子どもコーナー」につき「コーナー」と同じ。		●
			476 省除4	視聴覚コーナーがテーマなので代表性がない。		
			494 指標発話	①-A	: 472以降の連鎖	●
		家具	185 省除3	連鎖がない		
			272 省除3	連鎖がない		
			280 省除3	連鎖がない		
			371 省除3	連鎖がない		
			402 省除3	連鎖がない		
			470 省除3	連鎖がない		
			471 省除3	連鎖がない		
			475 省除3	連鎖がない		
			490 省除3	連鎖がない		
		雪	496 省除3	連鎖がない		
			17 省除3	連鎖がない		
			83	テーマ「カウンター」にて→「カウンター」		
			307 省除3	連鎖がない		
			311 省除3	連鎖がない		
			317 省除3	連鎖がない		
			333 省除3	連鎖がない		
			341 省除3	連鎖がない		
			358 省除3	連鎖がない		
		風	492 省除3	連鎖がない		
			496 省除3	連鎖がない		
			427 省除4	屋根・外構がテーマになっており代表性がない		
			437	テーマ「入り口」にて→「エントランス」		
			439 省除4	屋根・外構がテーマになっており代表性がない		
			440	テーマ「入り口」にて→「エントランス」		
			453 省除4	入り口がテーマになっており代表性がない		
			24 省除3	連鎖がない		
			90	テーマ「入り口」にて→「エントランス」		
			378 省除3	連鎖がない		
			401 省除3	連鎖がない		

■表 4-3-8 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第3分節

日付	コーパス行番号	発話者	発話内容
2008/6/23	11	古谷	<p>今日はそれを皆さんに逐一お話ししている時間はきつたないので、重要な部分をピックアップしてご報告したいと思いますが、その中に仕上げ表というが入っています。今まで説明の途中でいくつか断片的にはご報告してきましたが、金額を決定する上でこの仕上げ表というのとはとても大事なことになりますが、そのあたりからご報告したいと思います。その前に、実際の建築の設計図面にはその前に非常に細かに仕様書というのがついていて、これは例えば鉄を使う、例えば木を使う、例えばコウクリンを使うとしたりという等級のものをどういふように使わなければならないかということと細々と決めるものなんですけれども、この小布地の図書館の為に特別に選んでいる材料に関しては特別に指定します。それ以外の、一般的な部分は全部、国土交通省の建築工事標準仕様書と呼ばれるものに則って作ることにしております。これは国土交通省が、官公庁施設を発注する上で参考にして、これは金属屋根はこうでなければならないけど、防水はこうでなければならないとか、コンピューターこうでなければならない、コンピューターを打つための型枠はこうでなければならない、鉄骨ならこうい等級でなければならないという、こまごと決まっているんですけれども、基本的には今回の工事もそれに則ってやらうというのがこの最初の3ページで書いてあります。そしてそれが終わるとこの仕上げ表が出てくるんですけども、まず、外部の仕上げ、外部は前にお話していた屋根そのもの是不思議なお山のような屋根をしてるんですけども、これはこの小布地の町の景観風情という、景観の条例の趣旨に則ってこの建築物を周囲の環境と調和するように考えようとお話してきました。その中で、周りを山々に囲まれた敷地の風を上手に合わせて、まるでその山の頂きのようなシルエットを採用しております。一方でこれも緑地返しになりますけれど、大型の建物に単純な構造の瓦屋根を敷きかかっていることが、いくつかの点において必ずしも合理的でない説明をしてきましたが、その代わりに金属屋根材料を、こまごま用いています。これ、大きな瓦屋根を載せるのが合理的でないのはですね、この図書館という大きな空間を作るのに、この設計のコンセプトはできるだけ中に立つ柱を減らすと、というのは中に柱や壁がたくさん入っている建物ですと、将来の使い勝手に支障をきたしてしまふ。そこで、中の空間一帯がりにしておいて、できるだけ柱の本数を少なくするとい、実際3本しか立っていないです。真ん中に、この廊りにはもちろん立っている、3本の柱だけで支えるようにする為に、互いに重量物の屋根では第1に構造的に負担が大きい、それから、この大きなままとりに架けるためにはかなりの屋根勾配を必要としますので、もう少し少なかな勾配でかけられるというように考えて、全体を鉄骨造、そして、鉄骨造の普通の計算方法で許される最大の柱の距離、12メートルですが、12メートルの間隔で立つ鉄骨造の柱によって支えよう、というつもりであります。そしてその上に瓦に代わる金属板なんですけれども、当初最も、予算を許せば最もいいと思うのはチタンだとご報告しました。チタンは風合いも美しい瓦のような風合いが出せます。軽量で、耐久性が強いということでも最もお勧めなんですけれども、同時に価格もかなり高いということと、一番安くした時は、鉄板にガリバリウム処理をしたガリバリウム鋼板だというお話をしました。ところが、実際に計算してみますと、チタンの金額を入れるのはちょっと、それだけで、屋根だけちょっとオーバーだったんですけども、鉄板にしてしまえば、耐久性の問題等のほうが建築物の屋根のデザインもそうですが、性能も、というよりも、ものすごく重要な意味を持っていますので、屋根をそこまで落とすことはできないと思います。その中間の素材、それがあればです、ステンレスの上に鉛鉛も使った。鉛鉛メッキステンレス鋼板、と呼ばれるものにしていうふうに思っています。これは、ステンレスといえどもはご承知のように非常に錆びにくい金属でありまして、強度もかなり強い。そういう意味で耐久性においてはステンレスといえどもは問題ないんですけども、そのまま、生板で使いますと、びかかちかちかというように、或いは強い強い色合いの中では似つかわぬような金属板の表情になってしまいますので、表面に亜鉛の処理をします。この亜鉛の処理をしてあるのは、ヨーロッパなんかだとイブツの屋根でも多く見られます。日本でもですね、かつて亜鉛で造られてるものは幾つかございまして、表面がちょっと専門的になりますが、空気に触れることで安定さびのよくなるものを作っている。そういう性質を持っています、それがその風合いをうみだす。これは普通鉄板は一番最初きれいだけれど、段々みずほしくなるんですけど、亜鉛の屋根の場合にはこの表面が空気に触れていられるうちに古びてはいくんですけれども、それが落ちていく感じに変色するという性質を持っています、それがほくは気に入るんでるんですけども、この、ステンレスの上に亜鉛のつった亜鉛板でこれを貫こうというふうに思っております。</p>
2008/6/23	12	古谷	<p>それから、この三角の部分は今模型にもあります、3つのパターンでできています。一つは文字通りガラスの、もう一つはそちらから見ると少し黒っぽいところですが、この黒っぽい色をうしろから、扉を開けて通風を入れることができる部分、それからもう一つが白く見える部分の3種類でできているんですけども、その白く見えているところには実は構造体の柱が入っているんです。構造体の柱を現れるために、今はこのような、乳白になるようなガラス、そういうものを使おうと思いましたが、これは構造体だからといって完全に重い壁にしてしまふのではなくて、できればこうし、光が透き通るようなそういう壁面においておきたい。いうふうにおもいますが、今、乳白になるガラス、それから、黒く見えていこうことは後ろに木の板の裏が入ってしまふ、扉を開けるとして通風を得るようになってあります。後ろを空けて通風を得るんですけども、通風と同時に蚊も入ってきますから、蚊帳を張りたい、要するに網戸を張りたいんですけど、そこで、網戸を保護する上でパンデングメタルと称する穴あきのアルミニウムの板をそこに張ろうとしています。それもし、やべりルバー色のこれくらいに色になるんですけれども、そういう色の方の網いたものと、網戸のネットを重ね合わせたものが表面に出ていまして、で、後ろ側に木の扉を開けると風を通すことができる。そうすると、都合、表が3色、ガラスのところ、それから乳白の半透明の白ガラスのところ、それから今のアルミ色のところで、比較的白っぽい壁になりますけれども、その白っぽい壁の3色で構成しよう、というふうにご考えています。</p>
2008/6/23	13	古谷	<p>それから次にですね、この後ろの四角い箱の部分ですけれども、この四角い箱の部分は元は、できれば左官の漆喰の蔵の壁のようなものにしたというふうにお話してきたんです。今でもこの漆喰の四角い雰囲気、表情を出したいと思っているのは変わらないんですが、これはいつだけ欠点がありまして、それは、これ自体が先程申しましたように、鉄骨造ですべてあります。で、鉄骨造でできた上に、ボードを張ってその上に左官屋さん漆喰で仕上げてもらうと長い年月の中ではここからかなひ割れが入らないともないない、といううらと相性の問題があります。それで、一時こちらをコンクリート道にするとか、そういう方法も検討はしたんですけども、構造としてコンクリートと鉄が混ざると、それも計算が少し複雑になるのと、それから費用もかかる、混ぜておいて分です。はい、いわゆる工事の種類が増えていくということ、費用もかかるという判断もありまして、鉄板にこだわらずに、そのときにこの塗りの漆喰壁にする、今ははびがけに入らないという文句になっているところもあるんですけども、長い年月のなかでやはり保証できるかという不安があるんです。今は、今の設計では厚い鉄板で、6ミリの、厚い鉄板で後ろの壁のところを造ろうと。ただ、表面の仕上げはですね、やはりこの漆喰の白壁のようなつや消しの白い塗装を施そう、なにか違うかという、鉄板というのには1枚ですけれども、1枚で全部溶接すればできるんですけど、分厚い鉄板になるもので、6ミリの鉄板ですと難し目の線の線が、そこに少し少い少い入ってしまうんですけども、そういう意味で完全な白壁と少し違うんですが、風合いは白の漆喰のような風合いを出します。それから併せてこの模型に、そこに少し少い少い穴を開けてあるんですけども、これは前から出したい多目的室、この辺にある、この事務室、休憩室がありまして、そこに採光や通風を取る為に穴を開けようということ、今一旦、鉄板にこれをあけて、それと開けると開けるということ、設計のデザインをまため込んでみてもいい、その形はこうですね。皆さんお目にかけ前に事前に町長さんにごういって皆さんにご報告しようと思いましたが、この意の形はもう少し何かならないかということでも宿題としてきましてですね。今日ちょっと間に合っていないんですけども、今宿題を考えております。今この意、今ここに開いた米粒みたいな意はこのままじゃどうも・・・となって、今考えているのはまだ宿題の途中なんですけれども、今いろいろと検討しているところですが、もう少し大きめの窓の窓なんかをですね。中心としたものをなにか作りまして、今度町長さんにも、皆さんにもお目にかけようと思っているところなんです。今日はこれ、彼の姿だと思って下さい、もう少し多目的室や、ここに対して開口部が開いて、そして町長さんのご注文はですね、なんとなくこれの小布地のイデティティを表現するような意をつけないかという・・・非常に難しい宿題をこの間にいただいているんですけども、今頭を悩ましてるところで、小布地を表現できるような雰囲気をもって、且つ機能的な壁面を考えるようにと今言われているところであります。</p>
2008/6/23	14	古谷	<p>それから、今度は内部に入ります、内部空間に入りますと、まず天井がございまして、この天井の部分は、実は前から木の雰囲気のある天井を作りたいとお話してきました。ところが実際に、法規的にはこの建物の場合には全くの木ではいけなくて、難燃材料としての燃えにくい材料を使うことが義務付けられています。そこで木材もそういう不燃処理をしたような、或いは難燃処理をしたようなものがありまして、それはちょっと選択の幅は狭まるんですけども、そういう難燃処理をした木材の中から、実際には側面が合板になったものになるんですけども、この6センチの幅のもの、厚さ1.8センチの・・・これよりは倍ほど厚みはございまして、6センチの幅のものをずうっとこのすり鉢上になった天井にスノコのように流して張ろうとしています。今、表現がよくなるんじゃないんですけども、それで、スノコのような意味は、実際にはこの図書館の中でさまざまな人の声や音が出ますから、吸音を創りたい、で6センチの板と6センチの隙間、6センチの板と6センチの隙間、交互に張って、そこにはガラスクロスという不燃の布が張ってありますから奥は見えないんですけども、スノコが張られている隙間のところで吸音性能をとうとう思っております。そういう形の少し白染めをした木質の天井をずうっとこういふふうにご流そう。</p>
2008/6/23	15	古谷	<p>一方床ですが、床も当初、いろいろな木質の床とかそういうものを考えたんですけども、全体の金額のバランスの中で調節していく中で、ここは天井はずうと見えてくるんでかなり重要なポイントなところと思って今床を残しました。・・・床に關しましては色はそれほどこれに決まらずに色はいろいろありますが、このタイプのカーペット、それで、タイルカーペットと称しまして、50センチ幅のすり鉢にう切り捨てていって敷き詰めてい形式のものですが、これ、いのは汚れたりした時、そこだけ取り替えることができます。というタイプのもの、非常に一般的なものなんです。こうしたいタイプのカーペットにしようという最終的には思いますが、というのは、これは話の途中でできた木材が木材の敷けないあととか、或いは木のフローリングの板が・・・か、いろいろ検討してまいったんですけども、実際には今この全館の空調が床を重くして、床の方から吹き出す冷暖房の形式を採用しています。これも込がありまして、この大きな空間全体的に暖めたり冷やったりすると非常に不経済なので、人のいる高さに近いところを主に冷暖房するという方式を採用しようとして、その時に・・・この木材のようない床の構成が難しいということ、正直、その上のメンテナンスの問題もありまして、全体の床の中の床については比較的通常のものになりますけれども、カーペットを敷いて・・・というふうにした、その代わりの中に出てくる部分には、さきの室内から見ますと、普通の扉は全部木質の扉になっている、そういうもの、割合かなり多いような、或いは・・・あまり黄色っぽい、或いは茶色っぽいのは合わないと思うんですが、少し白っぽい木にしようとしてるんですけども、もう、割合自然の風合いの木の扉なんかを、という扉とか、そういうところに使っていて、目に見えるところは扉、天井なんかは木、木質のやさしい雰囲気があるって、足元はさきさきのカーペットという形式にしようと思います。</p>
2008/6/23	16	古谷	<p>更に本棚ですが、今本棚ではですね、本棚の質は強度のこともありまして、ある種の合板を使う必要があるんですが、本棚自体はスチール、鉄でできている。ですが、本棚の側面の板がありまして、その側面の板をそれこそいう木質でやるという手がなければいけないんですけども、今ここには少し愛嬌がある感じに・・・中、中木の風合いが多少あるんですけども、表面はメラミン化粧板といって、これは汚れでも中性洗剤や中性拭き取れるタイプのものなんです。そういう種類のもを側板に使って、本棚自体をちょっと可愛らしくしようという意味合いでこの材料を現在使っています。</p>
2008/6/23	17	古谷	<p>それ以外ですね、今の組み合わせは基本的に閲覧室全体にありまして、そして多目的室とか、事務室とかそのあたりまでは似たような仕様がありますが、この天井がつくこのあたりで、このあたりについてはさきのこの、木の天井は多分あります。こちら側はこの部屋と同じですが、前面吸音板という吸音効果に優れた材料で張ろう。それから奥の閉塞書庫や、もっとマイナーな部屋に関しては床もカーペットはよくリノウムといふ(不)明シート。これに近い、これに近い、これに近い・・・これみたいなものをあまりお客さん、普通入らない部屋に關しては使おうと思っております。</p>
2008/6/23	18	古谷	<p>トイレは、トイレ自体はこの中に入りますと、基本的には塗装で仕上がっています、で、床はリノウムで仕上げようとしています。リノウムはこれよりはちょっといい、いすれにしてもシートで構造的に材料になります。</p>

2008/6/23	21	古谷	立面図のようになっていて、先程の 屋根 の部分は亜鉛メッキのステンレス、そしてここに、ここが3つの構成になっていると申しましたけれども、要するにさっきのパンチングメタルのうしろで扉が開くところというのは実際にはこれだけの数があります。これだけ場合によっては窓を開けて通風を取り入れることができる場所がありますし、そして色分けが不十分ですけど、こういう所がガラス、そして実際景色が見えてる。これは模型の方がわかりやすいですが、というところの構成で出来上がっています、そしてこの窓は今検討中なのですいません、もう少し・・・配慮中、
2008/6/23	22	古谷	断面図はこのようになるんですけども、絵に描いてみるとこういう形になるんですが、これ、いろんなところで切ってるもんですから、変な格好に見えるかもしれませんが、基本的には種やかなこういう山なりの形になりまして、ここに二股になっているような柱が画いてありますが、この柱はこの模型で作ったような状態で、一つの柱から合計6本の腕が出て、そしてそれがこの 屋根 の主要な梁を支えている、梁自体は下に入った人から見えることはありませんけれども、中に梁が架かっていてそれを掴まえてという形になります、で、一つ一つは一種、 木 のような、建物の中に生えている樹 木 のようなデザインになっている、
2008/6/23	23	古谷	上を少し拡大しますと 床 に断面がここに画いてありますように、コンクリートの下の構造物に対して、二重になっているところがあります、ここがそこから空気を送り込んでですね、窓際の方から、主に窓際の本棚の下から冷暖房を吹き出す、という、二重床、
2008/6/23	24	古谷	それからですね、 屋根 ですけれども、この 屋根 はですね、実は二重になっていて、さっきの亜鉛メッキステンレス鋼板の 屋根 が一番の表にあります、その 屋根 の下に、もちろん下地の骨が入るんですが、実際の屋根を閉ざしている板は更にその下にありまして、その上に断熱材があります、そうすると 屋根 の中の、さっきの鉄板のすぐ裏の所は常に外気温と全く同じ気温となるように設計されています、で、ここから入った空気がこの中を通り抜けて、通り抜けるような設計、そうすることで屋根面の上に積もった雪を、落とさないで全部ためておく設計なんです、溜っておいだ雪がそのあとツララとかスガモレとか悪さをするのはですね、結局建物の中の温度が伝わって、内側から溶かしていつに起こるもんですから、これは表面の雪のすぐ下を外気温と同じに保つ、通称コールド ルーフ という言い方があるんですけども、 屋根 を冷たい時に冷たいものにしておくことで、建物の中に暖まっている熱を積もった雪に伝えないという工法を、最終的には採用することになっています、これも寒冷地の様々な建物を研究している研究所、それから地元の皆さんにヒアリングした結果、どうも、ここでは雪を積んだままにしておいて、そして 屋根 の積もった雪を建物の中の方からの熱で溶かさないという方法が最良ということに結論に至りまして、それによってツララや或いはスガモレとかを防止しようということになりました、
2008/6/23	25	古谷	窓のところのクローズアップを・・・これで見えただけとわかりやすいんですけども、図面ですらあれですが、単なる窓ガラスの部分、それから外に網戸とパンチングの入った板の扉で開く部分、そして中に構造体が含まれていてそれが囲まれていて厚い壁になっている部分という3つのパターンがあることがわかります、これが中にパツと開けて、外に網戸を残して中に開けてあげることで 通風 を確保しようとするものです、これ、背の高さで扉を開けることができるように計算してあります、この構造体が入っている部分は包んでありますけれども、こちらとこちらをできれば半透明の状態で作りました、構造体が入ってるんだけど不透明な壁にはしない、というデザインを今は考えています、
2008/6/23	27	古谷	それから後ろ、これが多目的室でありまして、前から お話 しておりましたが、多目的室、それから調査閲覧室、事務室の前は半透明なふすまで全部仕切って、どこでも開けられるようにしようと思っておりますが、その多目的室の中を半分に間仕切って使うこともできますし、一体として使うこともできますし、それから一部に収納スペースが付随しておりますが、この中に流しが入っている状態です、真ん中の部分は調査閲覧室、本棚がありまして手前に閲覧テーブルがあります、それから一番左端のところが事務室兼作業室、これは館員の方が管理される場所になります、そこを通過して、奥の開架書庫に到達することができます、開架書庫は手動の収蔵型の書庫、さらにここが通用口になります、通用口の向こう側の方に職員の方の休憩室、さらにサーバー室が奥についているという関係になります、
2008/6/23	28	古谷	一番最後に外構に関してお話しします、外構というのは、建物本体がここにありますが、その周辺の部分をどのように仕上げるかということになるんですが、大まかに言って、北斎ホールと面しているこの通り抜けの部分、この通り抜けの部分は前から お話 していますが、ここところ、車椅子の方の駐車場できるだけ近くに止まることのできる駐車場兼ねていますので、ここに関しては透水性のアスファルト舗装というもので、アスファルト舗装ではあるんですが、降った雨がそのまま染み込むような、そういう舗装を考えています、一方、後ろ側、裏側には専ら、機械室の点検メンテナンスというような時に使う通路になるので、これも現在は通常のアスファルト舗装で一応考えていたんですが、これも実はこの間町長さんと事前にご説明した時に、場合によってはこれも透水性の舗装の方がいいのではないかとというご意見もありましたので、現在これは両方考え合わせていこうと思います、桜の 木 の周りはもちろん水が染み込むようなツリーサークル、この庭に関しては砂利敷きで押し上げよう、いうふうに考えています、
2008/6/23	33	古谷	それ以外の土のところは 植樹 を施しまして、緑の中にある図書館を創り上げようとしています、それでですね、桜3本はここに、この間詳細に枝の寸法も測りまして、これが当たらないように設計をしておりますが、前にお話がありましたけれども、ここにある ヒマヤスギ に関しては今建物に当たる位置にあります、そこでこの ヒマヤスギ に関しましてはどこか近くのところに移植をさせていただけないかということをお願いしているわけですが、今私が考えるにはですね、(20秒)今ヒマヤスギここへんに立っているわけですが、この ヒマヤスギ をですね、この位置に・・・この校舎のこの辺のもうちょっと手前の所に持っていっていただけたらいいのではないかなあというふうに考えているんですが、これ小学校の方のお考えもありますので、ちょっと協議をしていただけたらいいというふうに思います、この今、らせん階段があって廊下の突き当たりの扉がついているこのあたりがあるんですけど、ここにこの 木 を植えてあげますと、向こうの廊下を通っているときに、廊下の突き当たりの窓の前にも緑が見えるようになりますのでいいんじゃないかということ、なんとなく今この校舎が見えすぎてたんですけど、 木 が一本立つと、それだけで校庭の一角のシンボル 樹 にもなるんじゃないかとぼけは思ってるんですが、これ小学校側のお考えもいただきたいと思います、
2008/6/23	34	古谷	最後に二この植物なんですけれども、前にこちらでご提案したかと思うんですが、ぼくがいつも相談をしている、非常にユニークな庭師の方がいてですね、協働している庭師さんいるんですけども、彼がこの敷地やこのあたりの風景見て一番最初に提案して、ここにはこういう方がいいんじゃないかといってくれたのが実は アカマツ の群落を作るのがこの建物には似合うと思うんです、私もこの界限でほんとに少くなくちゃってあるんですけども、 アカマツ が松川沿いにあるんですけども、そういう群落がここに出来ればいいなと思って、実際にはこの アカマツ をどこから調達すればいいんだという問題があります、それで、庭師の三浦さん、彼は近在の山などで、移植可能な群落ごと移植可能なところがあれば、それが一番良いんじゃないかと、つまり、図書館が目通りのところでは幹のりになって視界を遮らず、そして上に梢ができて下に木陰の空間を創ります、それからこの、小布施の扇状地の川沿い、川に至る扇状地のかつてのひとつの風景であるそこに、 アカマツ の群落があるという状態をここに作るのでもマツすると思うんですけど・・・という提案ももらっているんですけども、その後、いろいろ調べてみましたところ、この近辺でものすごく アカマツ の群落が激減しておりまして、いま アカマツ の群落をそのまま調達可能なところがあるかどうかというの、まあ、あまりなさそうだという結論に今は達しつつあるんですが、例えばどこか、ほんとには小布施の町内であるのが一番いいんですけども、どこかにそういう最適な場所があれば、それを移してくる、或いはもうそれを切り倒して開発しちゃうようなところがあるとなれば、そういうのをいたれば一番いいんじゃないかと思うんですが、いささかそれは苦慮しているところですが、ぼくはなぜ アカマツ がいいかと思っているかというと、ここは純然たる日本庭園みたいなものを作ってそれが似合う感じのものでなくて、そこでここはなんかちょっと山の木が、山の中の 木 のようのがここに生えているという状態にしたいなあと思うんですね、で、 アカマツ がほんとにいいんだけれども、 アカマツ がどうしてもダメであれば、それ以外にも山の 木 というのはいくらもあるんでありまして、通常の植木の、市場で入手可能な樹種というのがあります、それは例えばハンの 木 とか、花の 木 とか、或いはナナカマドとか、メグスリノキとか、わりあい山に普通に生えてる 木 をですね、植木屋さんで買えるタイプの木があるの、どうしてもアカマツがダメだったらまあでも、そういう山の 木 で、群落を創るという感じで造りたいなあというふうに思います、現在はそれもとりあえず実施設計とりまぐる上で、予算としてはある種の金額でここに上記してですね、今後はまた少し調達可能な樹木、それからこの場所にふさわしい樹木というの皆さんにご相談しながら最終的には決めていきたいと思います、まあ、言えるのは日本庭園のように造り込むわけではなくて、なんとなぐ山の木の雰囲気ができる、林の雰囲気ができるといういいなと思っています、ちょっと長くなってしまっていて、あっとついたりこっぴどいちゃいました、以上で、とりあえずご説明しました、
2008/6/23	39	古谷	まずは、先程設備のご説明をまだしませんでしたけれども、基本的にはガスを熱源とした、人間の居住域のところを中心とする冷暖房という方式を最終的には採用しました、それは一つには全部電気で行われている方法もあるんですけども、それに対して維持管理費、それから光熱費等のランニングコスト考え合わせたと、最も省コスト的になるということでこの方式を利用しております、一方雨水利用、それから太陽光利用、共に専門家と協議したんですが、正直申しますと、この建物の1,000平米の規模ですとね、雨水利用が有効に作用するほどスケールのメリットが出ていないというところで、デモンストレーションとしてやることはできるんですけども、雨水利用というのををしますというところで見せることはできるけど、この 屋根 の集水で或いは敷地内の集水で充分な中水活用だとか、樹木の散水設備にまわすというのはいささかスケールが小さくてですね、それにかかると初期のインシヤルコストの部分もあるもんですから、それは見合わないのではないかと、ここで、現在は採用に至っておりません、それから太陽光の方も実は同じでありまして、ここで考えられる太陽光発電が、このインシヤルに比してそれに有効に永く活用できるかという、これ専門家に相談したところ、いずれもこの規模ではまたまったことはできなくて、これもまた見本として教育効果という意味で使うことはできるんですけども、それ以上の効果を発揮しないのではないかと、これは今は見送っているという状態です、特に太陽光に関しては今後例えば、モジュールにしても、いずれ価格が下がってくるという可能性もございます、それから雨水の方は雨水そのものを溜めて貯留して、散水に使うというほど水量が出ないもんですから、使わないんですけども、先程ご説明したようにこの敷地に降った雨をですね、できるだけここから排出せずにこの敷地に浸透させる外構を選ぶことで、できるだけ自然に雨水が利用されているという状態に動めようかなあというふうに思っているのが現状なんですけど、
2008/6/23	48	古谷	今はまずはですね、主として二このことになるんですけども、ここにアプローチしてくるこの外構、役場の方から来るところ、一応透水性のアスファルト舗装にしようと思っています、ですから車をここに停められて、この間を歩いて入っていくという分には靴の裏にそれほど大きな泥はついてないというふうに想定しているんですが実は先程説明を少し省略しました、エントランスの 風除室 の範囲内ですけれども、その間だけは 木 れんがを使用しています、ですから、そこで外から入ってきて傘量んで、いきなり カーペット に乗る前にワンクッション、鞋レングの部分をこの部分です、この部分だけは鞋れんががゾーンがあって、舗装路を歩いてきて、そこを歩いて、ちょっとマットを置くことにはなると思うんですが、そこまで一応基本的には、普通なら取れる、ただまあ、お子さん達がですね、グラウンドの方から走ってきて、入ってくるというのはこれはありえない話じゃないので、それを完全に舗装だけで完全に取れりゃと思わないで、鞋れんが敷きの中間領域のところにそれなりの靴拭きマットを備品としては整備していただく必要があらうかと思えます、

2008/6/23	39	古谷	<p>まずは、先程設備のご説明をまだしませんでしたけれども、基本的にはガスを熱源とした、人間の居住域のところを中心とする冷暖房という方式を最終的には採用しました。それは一つには全部電気で行われている方法もあるんですけども、それに対して維持管理費、それから光熱費等のランニングコストを抑え合わせた上で、最も省コストになるということでこの方式を利用しております。一方雨水利用、それから太陽光利用、共に専門家と協議したんですが、正直申しますと、この建物の1,000平米の規模ですとね。雨水利用が有効に作用するほどスケールのメリットが出ていないということで、デモンストレーションとしてやることはできるんだけれども、雨水利用というものをしてもすまじいことで見せることはできるけど、この屋根の集水で或いは敷地内の集水で充分な中水活用だと、樹木の散水設備にまわすというのはいささかスケールが小さくてですね。それにかかる初期のインシャルコストの部分もあるもんで、それは見合わないのではないかと、ということ、現在は採用に至っておりません。それから太陽光の方も実は同じでありまして、ここで考えられる太陽光発電が、このインシャルに比べてそれに有効に永く活用できるかという、これ専門家に相談したところ、いずれもこの規模ではまともなことはできなくて、これもまた見本として教育効果という意味で使うことはできるんだけれども、それ以上の効果を発揮しないのではないかと、ということで現在は今見送っているという状態です。特に太陽光に関しては今後例えば、モジュールにしても、いずれ価格が下がってくるという可能性もございます。それから雨水の方は雨水そのものを溜めて貯留して、散水に使うというほど水量が出ないもんで、使わないんですけども、先程ご説明したようにこの敷地に降った雨をですね、できるだけここから排出せずこの敷地に浸透させる外構を選ぶことで、できるだけ自然に雨水が利用されているという状態に動もうかなあというふうに思っているのが現状なんですけど、</p>
2008/6/23	48	古谷	<p>今はまずはですね、主としてこのことになんですけども、ここにアプローチしてくるこの外構、役場の方から来るところ、一応透水性のアスファルト舗装にしようと思っています。ですから車をここに停められて、この間を歩いて入ってきているという分には靴の裏にそれほど大きな泥はついてないというふうに想定しているんですが実は先程説明を少し省略しました。エントランスの風除室の範囲内でですけども、その間だけは木れんがを使用しています。ですから、そこで外から入ってきて、傘畳んで、いきなりカーペットに乗る前にフワッジョン、巻インガの部分でこの部分です。この部分だけは木れんがゾーンがあって、舗装路を歩いてきて、そこを歩いて、ちょっとマットを置くことにはなると思うんですが、そこででーん基本的には、普通なら取れる、ただまあ、お子さん達ですね、グラウンドの方から走ってきて、入ってくるというのはこれはありえない話じゃないので、それを完全に舗装だけで完全に取れると思わないで、木れんが敷きの中間領域のところにそれなりの靴拭きマットを備品としては整備していただく必要があらうかと思います。</p>
2008/6/23	54	古谷	<p>それなりの広さの風除室があります。その前に軒庇がありますので、傘を畳むのは館内の外で、そして風除室まで入ったところであら、傘類も全部そこで中へ持ち込まないようにはできますから、よほどのことがない限りカウンターの上にまで水や何か持ち込まれることはない、体についているものがあるかと、多少ないとはいえないんですが、ひどく直接、雨のところから傘畳んでいきなり入るようではないと思います。</p>
2008/6/23	62	古谷	カーペット ？
	64	古谷	<p>えっと、屋根の方はですね、さっきのコールドルーフ側100mm、この内側の、もう一つ上のところにも100mm、合計200mm入ってます。それで、この下の方のグラスウールには同時に吸音の性能にも使われるものなんですけど、断熱材は100mm、100mmで、合計200mm入っているとこなんですけど、まあ、今考えているところでは、このあたりで何か問題が起こると言う事はなきないと思います。この、床の角のところ、引き出しのところ、…今、これに詳細ちゃんと言き込まれてない様なんですけど、えっと、立ち上がりなんです。一般的な部分は、これが窓があって、ここに本棚がついてるんですね。2段ここにあって、その本棚があって、その本棚と床の隙間から、さっきの温風が出てくるようになっています。この中をこう伝わって、さっきのところから出るように設計してみました。これさっきのなんですけど、そういう工になっております、この面のガラスは基本的には、ペアガラスを使っています。それ自体が結露するとは、まず、考えてみなくても、ま、それでも、枠組みとかですね。そういう所に、全くないとは言えない、全くないとは言えない結露はここの本棚の向こう側のサッシの下の枠のところで受けて、あの、本棚のほうとか、カーペットのどこか、そういう所に出て来ないように、ここで処理を、枠のところで処理しようとして、ですから、一般のこの部分に関しては、万が一、基本的には無いと思ってますけど、万が一、何かの拍子で、中でよほど大勢の方がいらしたらとか、なんか、そういう事で生じたとしたら、こちら側の本棚やカーペットに染みくようなことは無い、ただしですね、ここです。ここ、この、えっと、桜の木の側だけは、実は本棚がなくて床までいてるところがあります。実際は、あの、これも、ペアガラスで出来てましてカーペットが直に置いていますので、割合、接近した様子がそこにある、こも、同じように、枠組みが結露したようになりますと、ガラス面はまず無いと思いますが、もし、結露したとしても、それほどの結露受ける所まで、アルミの型財で、なんというんですか、その溝っていうか、溝みたいなものを、作っておいてですね、その、範囲内で溜まってこちら側には出て来ないように、充分な量のそれを作っておこうと思います。</p>
2008/6/23	71	古谷	<p>耐震性に関してはこれはあの、元々ですね、1981年に新しい新耐震設計法って言うのが出来まして、もう、25年以上前ですが、その後の耐震シンセキケイホウ以降の耐震基準で作られた建物は、基本的には阪神淡路級でも、あるいは、あれを相当上回るものでも、壊れてはいないんですけど、壊れないという点に言われているんですけど、ですから、これも、普通に構造計算しますと、何か偽装とかすれば別ですけど、きちんと計算すれば、これももう、取りあえず、今、想定している耐震強度上は問題ないと思います。ただ、この建物の場合それを上回る要求が出てまして、係数で言うと、1.25倍って言うんですけど、1.25倍って言うのは単純に、1.25倍強いって意味とは違うんですけど、よほどの事があっても、もちろんその、人命に影響を与えるような、壊れ方はいらないで、よほどの大地震が来たとしても、その後、これが使えなくなるほど、壊れない、どうか亀裂が入って何かが起こるかもしれませんが、それは直せるというの、1.25の趣旨なんですね。設備やなんかの、1つて言うのはですね。人命に危害が加わるような壊れ方はいないというだけで、場合によっては壊れ方とすれば使えなくなっちゃったりするわけなんですけれども、これはその1.25とあって、基本的な修復をすれば、元通り使え続けられるって言われている、その上に、1.5って言うのがあって、それは役場の庁舎なんかに対応するんですが、その、どんな事があっても、そのまま耐え続けていられるっていうようなラングがあるんですけど、そこまでやるのはちょっと、これ、防災の基地にはなりませんので、必要ないって事で、多少の亀裂が入っても修復可能なこの1.25というグレードにしております。まあ、平屋ですから、比較的利益な建物ではある。</p>
2008/6/23	76	古谷	<p>これここ、模型上一見平らなんですけど、2つの幕があって、そこに向かってかすかに勾配がつくようになってます。それでここに、こっちはコールドルーフになってませんが、っていうのは金属板にはなってなくてですね。ここは通常のアスファルトシートの防水でつくろうと思っています。断熱材はもちろん入ってます。ですがあの、普通、例のスガモレやなんか起こすのは金属板やなんかの屋根の上に積もった雪が普通に入らなくてない方向で、水が回り込むため起こるんですけど、そういうシート系の防水って基本的に全部密着されてる場合、途中周りが水が流れ込むって事は普通はないですね。ただし、普通、大手メーカーが保障するのは10年なんですけど、こういうシート系の防水で漏水の事故があるっていうのは普通、20年間なんにもしてませんでしたとか、そういう、建物が時々ありまして、それは、まずいんですけど、10年乃至長くても12・3年に一回来て、あれを手入れしてあげれば、このシート系の防水では、コールドルーフにしろなくても、支障は無いと思っています。雪がためて置けるだけ、それが解けても、回り込まない。</p>
2008/6/23	89	古谷	<p>いえいえ、だから、それを踏まえて、12さんからもお話をいただいたので、色々ご相談してですね、一応外構についても色々アドバイスを頂いて、盛り込んであるんですけど、それから、地元の設計に詳しい方にも、意見伺ってはいますので、もう一度確認します。凍結してる時にどうかということですね。</p>
2008/6/23	113	古谷	<p>今は白を基調に白基調なんですけど、白基調の中に四季のやさしい色があって、でて来るように作りたてて思っています。この色の中に建物の部分は、建築の所謂ペンキで塗ったりする部分と、こういう計器のように、素材で色が出てくる部分とあります。それでその、全体のある程度工事が進んだところで、色調をこの材料で、今日はこれ、異なる見本です。『本当にこのカーペットで』『本当にこの板で』というのを現場をある程度踏んだ状況で取り揃えますので、そして皆さんにも見て頂いて、一緒に考えるという機会を作りたいと思います。</p>
2008/6/23	115	古谷	<p>そうですね、想像だけでやるよりは、館がもう少し出来てきて、進捗したそこへんが一番やりやすいですね。それで、あの、実物のサンプルも実際の工事業者が決まれば、本当に使うものが入手できますんで、一応いつかまでのご要望を、受け止める形で僕なりに挨拶をしまして、考えてくれているんですけど、考えようとして、あ、値段は今決めるけど、色はどうやってやるかというのは、比較的自由になるものが多いので、中には違う物があるんですけど、この色だけは特別色で、っていうのと、これはどうかってカーペットなんか特にあるんですけども、でも、まあ、選べる範囲の中で、これでどうだろうというのを皆さんにお目に掛けて、一緒に考えられる、そういうチャンスを作ろうと思います。</p>
2008/6/23	122	古谷	<p>ちょっと、前回私がご説明できなかったんで、ちょっと、多少なりと行き違いがあるかもしれないんですが、私が思っているのは松川沿いとかにあります。わりあい自然な群落の事を思ってますけど、それがその、小布施のかつての、扇状地から、川に至る所のあちこちにあったらうなって推測するんですね。それで、その、本山の山の中はともかくとして、こういうところにも、赤松林があったんじゃないかっていうふうにして、それを復元的に、作れればいいなっていうのが、希望で、実はあの、お庭の中で凄くちゃんとしている松の事を思ってるんじゃないんですね。わりあい、松川のそこへんは今、ぼさっとはえるような、ああいう幹で、6mくらい伸びちゃっている、サイズのような物を想像してるんです。それはあの、図書館の目の高さのところでは、あんまり視界を阻害しないという、幹だけで出来て、上に梢が広がってて感じがいいかなって、それと、わりあい、一番最初の頃に周りを森にしましように言った時、あんまりそれで、視界が塞がるとか、不安感も出てくるってご意見も最初の頃の会にあったもんですから、それもあって、あんまり、目の高さのところにやたら木が茂ってるっていうのはイメージしてない、その時に赤松林が結構雰囲気がいなくなって、その時はそんなものあちこちにあつてですね。どっかでご不要になってるところもあるんじゃないかって思ってたんですけども、その後ホームページとかで、調べて、結構赤松の研究されてる方も地元いらして、あの、非常に感激していると、かつていっぱいあった赤松の群落が、だから今、とってこれる場所なんてないのかも知れないって。</p>
2008/6/23	124	古谷	<p>逆にですね、赤松…赤松林としてきた時には、あの、すみません、少し、電気消してもらえます？ 赤松林としてきた時には、さっきの落葉の時期が一定してるので、色んな、色んな時期に落ちる葉っぱの木に比べますと、以外にあっさり掃除が出来るって言う感じではある。</p>
2008/6/23	128	古谷	赤松 だけつくんですか？
2008/6/23	134	古谷	<p>それはただ、いっぱい、いっぱい、なんですかね、いっぱい書いてあるんですけど、常緑の針葉樹を使いたければ、アスナロシチ、コウヤマキ、(木の名前は多分分かってると思います。)それから、紅葉の広葉樹で高木とすれば、県木の白樺から始まって、シナノキ、ドノキ、コナラ、ミズナラ、ブナ、ハウチエダ、メグスリノキ、もうちょっと小さいので、マンバクヤボウシ、で、低木ではナコウバイカワカスダリかアオモモがいらないかっていう提案は頂いたんですけど、あまりこれを品評会みたいにするのはどうかと思うので、この中から選んで、やるとして、この群生のものにして、彩りに何か違う物が入ってるっていう山の雰囲気、山の林の雰囲気を見現するのがいなくなって思ってるんですけども、ま、こんなでも、ブナノキとか、シナノキとか、メグスリノキとか、あるいは、ここには書いてないけど、例えばナナカマドとか、ちょっと入れるとそれはかわかれないので、良いかも知れないなと思ってるんですけど、それと入るのしやすさ、メンテナンスや世話のしやすさ、それから、そういうことも含めて、検討した方がいいですよってアドバイスを頂きましたんで、それでちょっといくつか案にしてみよう</p>
2008/6/23	158	古谷	<p>ひとつ、先程申し上げました。法規上の内装制限がかかっているっていう建物種類からきてるもので、純然たる木に、なかなか内装はしにくいんですね。で、その扉とかそういうものに關しては、可能性があるので、そこには生かしていこうと思っています。ただ、私のこれは個人的な考え方かもしれませんが、建築の室内のこのところを自然木でつくっていきますと周りの、周りにある景色、っていうのがあんまり対比的に美しく見えないうですね。中は、うちは言っても近代的な建築なので、その柔らかなさや自然の素材は生かしてるけど、僕は、素材はちょっと、少し白く色したして、自然の風合いを少し薄めるというか、少し、コントロールする方が、周りのみどりが際立って見えるっていうのが、わりあいいいもの考え方、やってきました。今回もこの屋根のところ、南米のペーヤではあるんですけど、表面は一応、木材でできてますんで、木材で出来た軒先の先に緑が見えてると、こっちは若干控えめの方が、奥がかえってきれいに見えるんじゃないかなと思っていますけど、それはちょっと、口でうまく説明できない…感覚のバランスの問題なんです、あんまり、山小屋みたいに木で作っちゃうと、外の緑が、なか、あんまり生きないような気がするんですけど…、</p>

2008/10/7	189	古谷	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>そこは最大の苦労した点です。</p> <p>本当は目に見えるほど、こういう黒にやれば良かったかもしれませんが、それでは気が済まなかったものですから、何とか最初からお話しているこの山のような形を維持している範囲でこの鉄骨を真っ直ぐにするというところは、実は設計が非常に複雑な設計になるんですね。</p> <p>それで当初は綺麗にそのまま出来る鉄骨のほうを曲げてもらうという選択をしています。</p> <p>ですが、今回はご覧頂くと分かりますが、一生懸命苦労しながら真っ直ぐなものを繋げる、ということをはこち方向に繋げる時不思議な角度で繋がったりするんですけど、それを基本的にはやりきりました。</p> <p>そして、一番表面の形はそこからこの必要な高さの下駄を履かすような形で外から見ると殆ど変わらなくなっています。</p> <p>それから、中は元々すのこ状の天井みたいなもので透けています。</p> <p>少し隙間が開いているので、中から注意深い方がご覧になると前はすーっとまるく梁がかかっていたんだけど、今度は真っ直ぐになっていると分かるんですけど、それもそのままむき出しにするのではなく、すのこ状の天井のようなものはやっぱり柔らかな形なりにかけようというふうになんとかしています。</p> <p>そういう訳で中からは隙間を覗くと見えていますが、外から見ると、そのイメージは基本的には大きく変わらないつもりでいます。</p> <p>以上です。</p>
2008/10/7	197	古谷	<p>直線にした事で耐震の強度がどうなる事は全くありません。溶接そのものは梁が曲げてあらうとなかろうと、どちらにしろ丁寧に溶接しないと出来ない種類の話で、それが真っ直ぐになったから簡単になる事はあっても難しくなる事はありませんので、それが耐震性の問題になることはありません。元々私が平屋の構造を提案したのも、平屋にするかわり出来るだけ柱のない空間を作り、将来の柔軟性を確保するためなんです。そういったのも、全体的にここを二階建てにして、柔軟性を確保するために柱を抜くと、それだけ構造的には厳しくなっていくので、それに比べたら平屋の方が上に乗せるのは人が乗らない屋根だけですからね。ということで、この建物は耐震的には非常に優れたという建物になります。</p>
2008/10/7	201	古谷	<p>一般的には仰る点があります。</p> <p>やっぱり人手で作るものの方が最近では手間が掛かって手間代が高いというのもあります。</p> <p>土蔵作りとかでしたら元々左官だからいいんだけど、そうじゃないもので表面に左官の下地を作ろうとするとボードを作って、その上に左官を塗るための下地を作っていくまでの、まあまあ手間が掛かるものになるはずなんです。</p> <p>それもあって、当初は、少々厚めの鉄板で作るということを、自分としてはそちらのほうが安くなるとまでは思いませんでしたけれど、どっこいどっこいできるんじゃないかという黒に思いながらやってきたんですが、元の鉄材が急騰しても高い物になってしまったので、ここでは手間が掛かって左官の方がいいんです。</p>
2008/10/7	207	古谷	<p>確かに一番最初にご提案したチタンの屋根を使うと、下は腐ってもチタンだけ残るほど強いんです。</p> <p>けれど、純粋にそこまでの性能は必要かどうか。チタンは確かにいいけれど、屋根の皮一枚はいつまでも残っていて、他は錆びたりするんじゃないかって話に成りかねない。そこで、バランスの問題だと思うんです。ここではフッ素樹脂のガルバリウム鋼板にしたことで、メーカーはもちろん10年は保証します。それ以外に美はその下に防水を止める層が元設計どおり画いてありますけど、普通は10年しか保証しない物を21年保障すると言っています。その素材を中に入れていまして、それと金属板が組み合わさることで、普通はどんな建設会社も屋根屋も10年しか保障しないところを21年に延ばすという材料が入っています。実は、表面材のフッ素樹脂鋼板が、腐らないかといわれたらチタンと比べたら、中が鉄ですからいくらコーティングしていても腐らない訳ではありません。ただ、考え方としては100年間もつ建築というのは100年間全く手も入れず何の修繕もせず、放っておいても100年間びかびかのままでいる建築は、実際にはないんです。日本にも100年以上経っている民家はたくさんありますけど、これはやっぱり適切な維持管理を続けていく事で100年以上持つということなんですね。逆に100年間もつとはどういう事なのか。普通なせ100年経たずに家を壊すか、立て直すかという、それ以上性能、構造がもたないという事ではなくて、その間取りであるとか、天井の高さであるとか、何かが現在の要求に合わなくなってきた、骨はもっているんだけど建替えるというものが圧倒的に多いんです。だから、実際には100年使い続けられる建築というのは、その物理的な性能以上に、さっき申し上げたような、中がいくらでも模様替えできるとか、そういうことの方がずっと大切なものになってくるんです。そこでぼくは表面材はもししたら50年目には張り替えていただいた方がいいかもしれない。20年やそこらで張り替えるとは思いませんが、40年50年で表面は手を入れていただいた方がいい日があるかもしれない。でもこの建物の骨格自体は、小布施のこの場所において、図書館がどんなに電算化しようとか、どういふふうになっていくと、皆さんがここで交流する拠点として使い続けられるとそういうようなものになっていくというつもりで設計したんですね。その意味では、絶対に100年間使い続けられます。それを下手に今の図書館に合わせる為にいっぱい間仕切り等してしまつと、非常に使いにくいものになると思うんです。この場所は恐らく使い続けられると思っています。答えになったようなならないような、半分誤魔化しているように聞えるかもしれませんが、誤魔化しているのではなくて、鉄板自体はもししたら50年くらい経ったら葺き替えたほうがいいかもしれませんが、本当は茅葺きだつて、もっと手前には葺き替える訳ですから、でも、そこまでは手は掛かりません。多分設備、空調系のもや水を使うものは、15年とか最大でも20年で取替えずにはいけないと思います。問題はそういう新陳代謝ができるか、問題はそういう新陳代謝、取り換え工事がうまく出来るようにできているかという事の方です。そういう事をあらかじめ考えてあれば、それを手入れをして頂く事で100年もつという事になります。</p>
2008/10/7	209	古谷	<p>まず、鉄板をそのままにやると昔のトタンみたいな物は表面に亜鉛のメッキがしてあるんですけど、10年やそこら経つといい感じに錆びてきてしまいます。昔よくあった小屋の波型の屋根みたいな、それではとてももたないんで、ガルバリウム鋼板という、表面にガルバリウム樹脂という結晶をくっつけたような種類のものと思つたらいいでしょうか。表面を保護する層がついている鉄板がガルバリウム鋼板です。普通ガルバリウムはブリキみたいな、昔のパケツのような、パケツよりよほどいい。表面に結晶が出来たキラキラした鋼板ですけど、あんな感じに見えるものです。これだけで、20年やそこらは野ざらしにしている問題ありません。ですが、それにさらにフッ素樹脂をコーティングすることでより耐久力を高めたのがこの製品です。中は鉄ですからチタンのようにいくらむきだしにしているでも絶対腐食しない金属ではありません。やっぱり仰るように外の皮膜がはげるかどうかにかかっているんですけど、幸いお鍋らしいです。それから、一番気にするのは大気汚染、高速道路のわきとか大気汚染の濃い工業地帯とか、むしろ薬物という大気中にある汚染物質で腐ったりすることがあるのですが、幸い小布施はそれは無いと思います。ですから、小布施で錆びるようなら、そこら中でその半分の寿命で錆びていることになると思います。基本的には、20年30年は大丈夫ですが、それまで全く見せず放っておかないで、大事に至る前にそろそろ手を施した方がいいかどうかは皆さんが少し気にかけてやって頂けたら、大事に至る前に、例えば30年くらい経つ時にじゃあ、その上にもう一回皮膜コーティングしましょとかか、あるいは5年後に皮膜をするために少しずつお金を貯めましょとか、そういう事は考えて頂きたいと思います。どんな建物でも、全く手をかけずにほったらかしにして腐りもしないというのは無いと思います。</p>
2008/10/7	211	古谷	<p>工場でかけるものだから、そのまま上ではやるのは補修の程度しか出来ないと思います。</p> <p>例えば、台風の時に何かが飛んできて傷ついた所があるとか、そういう程度。</p> <p>ですから、2、30年経って何かやる時はその上にさらにもう一回何かを葺くとか、あるいは全体に別のコーティングをかけるとか、そういう種類の事になると思います。</p> <p>少なくとも今より技術は少なくとも発達しているでしょうから補修材は今あるもの以上の物は出てくると思います。</p>
2008/10/7	225	古谷	<p>大変心苦しいんですけど、スロープ状という感じなんです。</p> <p>ゆつたりした階段が入れてあったのを土をならした状態で今回は終わってしまうという事で、斜面状といったほうがいでしょうか。</p> <p>要するに、小学校の校庭と段差がありますので、今ちょっと駐車場風になって階段がついていますけれど、あの落差を斜めにすーっと撫で付けたような、表面は土で出来ている斜面になります。</p> <p>そこに来年以降、木を植えたりしながら、少しずつ整地していくという構想、別に考えられるようにしておくという状態で、だから、車椅子がうまく通れるスロープが舗装されてできるというのはちょっと違うんですね。</p>
2008/10/7	236	古谷	<p>私から答えられるのは、現状どうなっているかという事です。</p> <p>さっきお示した植栽以外は、すでにそこに生えているもの以外は、今、一本も植える予算が入っていません。</p> <p>元々、そこどのくらい見えていたかという、高木低木合わせて250万円くらいだそうです。</p> <p>周りに少し緑を植えましょと。</p> <p>これも、それで充分かは分かりませんが、年々かけて育てるという事を期待して、そのくらい見えていたのですが、今回の事情でそいつはひっこめました。</p> <p>今そこに生えている木以外は何も植えないで、あの藤棚かけない場所に移し変えますが、それ以外は今は植えるものはないという状態で。</p>
2008/10/7	250	古谷	<p>冒頭にもお話ししましたが、皆さんにご心配お掛けしまして、誠に申し訳ありません。</p> <p>これでやっと、再スタートして工事に入っていくということで、また気持ちを引き締めていきたいと思っています。</p> <p>何しろ、僕は建築はもちろん、設計を固めて、その通り施工して、工事完了して、竣工、引渡しをすれば、それで、任務が達するのかもしれないですけど、他の施設の時にやってきたのですが、できるだけ皆さんと一緒に、これをどういう風に作っていくか考えてきました。</p> <p>でも、ここから先はどういう風に使っていくか、できた暁にはどういふことをしようか、その為にはこんな企画はどうだろう？こんな使い方はできないか？というのを、是非、皆さんと話し合いたいと思うんですね。</p> <p>というのはこれは、皆さんがよく使い道の分かっているテレビとかカメラとか、そういう種類のものではないんです。</p> <p>これは世の中に一個しかないもので、使い方がどこにもここにもあるものではありません。</p> <p>これを、どういう風にうまく使っていくか皆さんで思いついて頂いて、私たちも色々、こういうのはどうしようと言いますけれど、そういう事が積み重なっていくと実際に完成した時に、さあ使うぞ！という感じになれると思うんですね。</p> <p>だから、ここから工事の間が、出来たらどうしよう？こうしよう考える大事な時期になります。</p> <p>もう形が決まっているんだからいいんじゃないかと思わずに、是非、全体会に参加していただいて、これが出来たらこうするぞって、運営する方のモードに切り替えて、どんどん盛り上げていきたいと思っていますので、是非よろしく願います。</p>

	指標発話			
	指標発話候補の整理過程で省除された発話			

■表 4-3-9 第 3 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図4-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第3	10, 11回	屋根	11 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			21 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			22 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			24 指標発話		①-A :74とペア。	●
			39 省除4		自然環境の積極的活用がテーマなので代表性がない。	
			64 省除4		断熱がテーマなので代表性がない。	
			197 省除4		耐震がテーマなので代表性がない。	
			207 指標発話		①-A :206とペア。	●
			209 残留		①-A :206→207→208→と繋がる。	●
		木	12 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			14 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			15 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			16 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			17 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			22		→屋根	
			28 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			33 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			34 指標発話		①-A :118以降の連鎖に繋がる。	●
			48 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			134 残留		①-A 連鎖	●
			158 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			225 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			236 指標発話		①-B-a :235とのペア。	●
		アカマツ	34		→木	●
			122 残留		①-A :118以降の連鎖に繋がる。	●
			124 残留		①-A :118以降の連鎖に繋がる。	●
			128 残留		①-A :118以降の連鎖に繋がる。	●
		床	15		テーマが「木」→「木」	
			17		テーマが「木」→「木」	
			18 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			23 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			64		テーマが「屋根」→「屋根」	
		運営	250 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
		カーペット	15		テーマが「木」→「木」	
			17		テーマが「木」→「木」	
			48		テーマが「木」→「木」	
			62 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			64		テーマが「屋根」→「屋根」	
		風(かぜ)	13 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			25 省除3		連鎖していない。(ターンを形成していない。)	
			48		テーマが「木」→「木」	
			54 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			211 省除4		テーマが「屋根」なので代表性がない。	

■表 4-3-10 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第4分節

日付	コーパス行番号	発話者	発話内容
2008/12/14	10	館長	<p>まず、図書館閉館中の本を借りるということですが、わくわく通信」に書いてあるものしかできないというのが現状です。須坂の図書館さんは以前から小布施町に在り、今度は通勤者も使えるようになったところがある新しいポイントだと思えます。相互貸借では今まで向こうに行かずに借りられましたが、それが、こちらが閉館していますので現状では難しいですね。</p> <p>県立は前から同じだとおっしゃるかもしれませんが、</p> <p>ただ、近隣図書館に挨拶に回り、小布施町立図書館が閉まるので初めて来られる方もいらっしゃるかもしれないということは全部伝えてまいりました。</p> <p>トラブルがないとは言えないまでも減るはずだと踏んでいます。</p> <p>それに合わせて要望があれば対応しなければならぬのかもしれないと思えます。</p> <p>もう一つ、他の図書館がどういふ状況にあるかというは、以前、小平の図書館のことを書きましたが、各館いろいろやっていますし、どここの図書館はこんな感じだよとか、小布施はこんなことできるかなとか、そういうことも紹介していきたいなあと思っています。</p> <p>また、この会議を膨らませていくのと同時に、今「わくわく通信」を準備室で作っていますけれども、皆さんが見てきたよとか、原稿投稿とか、気づいたことを報告していただければそういうのがあっても面白いかなと思いますし「わくわく通信」にどんどん掲載していきたいと思っています。</p> <p>町報もありますが、町報だけではお知らせできない部分もあると思うんです。</p> <p>そういった部分を、ホームページとか、会議とか進捗状況とかももっと頻繁にやっているとと思っていますし、そういうところでもっとわくわくができればいいなあと思っていますので、ぜひよろしく願います。</p>
2008/12/14	42	館長	<p>よろしく願います。</p> <p>運営ビジョン案に入る前に、電算化に向けた作業がどこまでいっているかという事をお話したいと思います。</p> <p>今、倉庫に眠っていた本も手元に持ってきていて、来週から本の掃除を始めます。</p> <p>これは6人の方をお願いしていて、2週間ぐらいかけて汚れた本の掃除をしていきます。</p> <p>それが終われば12月末で閉館しますと、そのあたりからだんだん電算化のための機材を選び込んだり、システム、データ入力などの準備をまいります。</p> <p>年明け早々から本格的にデータ入力を開始するということまで来ています。</p> <p>そこで先程幹事会でも、画面はどうなっているのかなどのご質問いただいたのですが、今開発をどうするのかちょうどこちら司書さんのほうで担当業者とどんだん話を詰めてもらっています。</p> <p>子ども用の画面はどうなるのか、子どもが画面を見たときにどうアプローチしやすいのかということも踏み込んで会議をやっていますので、ぜひ、楽しみにお待ちいただきたいと思えます。</p> <p>また、年明け早々電算化のデータ入力してくださる方を町報などで公募し、町民の皆さんにお手伝いしていただきながらやっていきたいと思えます。</p> <p>皆さんの中でデータ入力にご協力いただける方がありましたら、ぜひご協力ください。</p> <p>電算化について進捗状況は今のところそこまでございいます。</p>
2008/12/14	44	館長	<p>こちらには4つの場、子育ての場、学びの場、交流の場、情報発信の場。</p> <p>その柱となる「交流と創造を楽しむ文化の拠点」は、以前から皆さんが協議されてきて、僕も館長になる前から協議に参加させていただきまして、小布施の図書館が向かうところであろうと思っております。</p> <p>これを基本に、運営の理念をどうするかということを利用者の立場に立て、つまりは町民の方にどういふふうに使われて、どういふふうにやれるのかということを確認にやるということでも運営をしていく。</p> <p>これは曲げられないことだと思えますので、この気持ちをお忘れずに運営していきたいと思えます。</p>
2008/12/14	45	館長	<p>次のページいきます。</p> <p>「わくわく通信」を出していますし「わくわく」というキーワードを1年間僕から皆さんへメッセージとして投げさせていただきました。僕の解釈としては、「交流と創造を楽しむ文化の拠点」というのは、大人のワクワク+子どものワクワク=みんなのワクワクがあって、それが世界とつながっていくのだと思えます。</p> <p>この「世界とつながる」というのは都会も田舎もなく、情報を収集するということが人を育てるということであれば、世界へつながってあたりまえじゃないかというようなことを僕は思っていますので、これからのワクワクというのをやっていきたいと考えています。それから、コンセプトを遂行する。図書館法を十分理解して運営します。</p> <p>図書館づくり学習会で宮下先生にもかなり深く図書館法を教えていただきましたし、みんなで理解を深める。何か困ったことがあれば図書館法にふり返って何ができるのかと考えていながら皆さんの役に立つような運営をしていきたいと思っております。3番目も当初から言っていることですが、貸し本屋、と日本中の図書館がそういうふうにいわれている部分があります。そこからやっぱり脱却しなければいけない。特に僕らは最初に言いました4つの柱を立てているわけですから、どう見ても図書館を基本にした複合施設ではないか…という運営の仕方であれば、これは経営論、言い方は変ですけども、サービスというのは経営をしていくんだという観点を入れていって、お金を儲けるのではないですけども、経営なんだ。皆さんに喜んでもらうのが僕らの対価と同じなんだということをやっていききたいと思えます。</p>
2008/12/14	47	館長	<p>当時から「（交流センター）」というのが話題を呼びまして、いろんなこと言われましたけれども、交流と図書館機能を分けるのではなくて、総て一緒だというふうに、最初の輪の図になりますけれども、全部クロスしているんだということも共有していきたいと思っております。</p> <p>それから図書館というのは、本は本当にすばらしい情報源だと思いますけれども、今の世の中で本だけとか違うものだけじゃなくて、クロスしていかないといいないと思えます。</p> <p>情報が何かと考える時に、本も絶対。</p> <p>そして違うものもあるだろう。</p> <p>知識として、見るもの、聞くものがあると思えますので、そういうこともばくばく意識して運営していきたいと思えます。</p> <p>この下で日本図書館協会の資料をってありますけれども、これも宮下先生に教わりましたように、この解釈としては、図書館は何でもあり、皆がチャレンジする場だというふうに理解しておりますので、これをやっていきたいと思えます。</p>
2008/12/14	48	館長	<p>5ページにいきまして、でその中で小布施はちょっとノスタルジックになるのかもしれませんが、初代公民館長林柳波さんが残した文面です。</p> <p>「公民館は肩のこらない集会所であり、娯楽機関であり、修養機関であります」これは教育委員会発行の「月見草」という本に載っている文章ですけども、これを図書館という言葉に置き換えても全然問題ない。</p> <p>逆にそうであらうと。</p> <p>公民館と図書館と生涯学習をどこで棲み分けていくんだという考えもあるんですけど、これはクロスすれば棲み分けするところも出てくると思えますし、僕らは先人がこういうことを残したということに誇りを持ち、この言葉を大切にしたいと思えます。</p>
2008/12/14	49	館長	<p>6番目。</p> <p>資料的には前後するかもしれませんが、図書館の資料と僕らが持っている小布施の文化資料と企画提案。</p> <p>この中には生涯学習とか聞くものとかいろんなものがある。</p> <p>それを全部ひっくるめて自分たちが何かするというのは、図書館が集う場所である。</p> <p>運営として皆が使うもののハコとしていけるだろう。</p> <p>この矢印の中にワクワクという気持ちがあって、皆で一生懸命ワクワクして回していくと循環型の集う場所ができていくのではないかな。</p> <p>そういう気持ちをどんどん前面に出して皆が企画したり生涯学習をしたり。</p> <p>それは皆さんの役にどのように立つのかなあと、最初の文章ですがそこにふり返っていくのかなあと思っております。</p>
2008/12/14	51	館長	<p>8ページ目にまいります。</p> <p>これは、学びの場というものはどういふふうに解釈しているのかを細かく書いています。</p> <p>皆さんの中に紙が挿んであります。直している時にいっぱい削りすぎてしまい文章になってないところに後になって気づきまして、図書館法をもう一度読み込ませていただきました。</p> <p>こちらのほうを読んでいただければと思えます。</p> <p>そこにも書いてありますように全体に対して、美術品、レコード、フィルム等いろんな情報をただ単に収集するのではなくて公開していく。</p> <p>公開することとは皆さんに使っていただくということですので、ただ単にここに置いてあるから見てくださいねというのはダメだと思っています。</p> <p>これはどう使うのかというのを示していかなければいけないと。</p> <p>これは僕と職員が皆さんと一緒に展示の仕方やどのような見せ方、気づきの仕方を考えていくというのがあろうと思えますので、これも議論の対象にしていいただければと思っております。</p>
2008/12/14	54	館長	<p>10ページ。</p> <p>子育ての場で一番よく言われているのが情報リテラシーだと思えます。</p> <p>特に子ども達。</p> <p>学校が近いということもありますし、どういふふうに子ども達にいい資料を手渡していくかなあと。</p> <p>僕が言うのは変ですけど、マスコミの垂れ流し情報から感わされずに子ども達、また僕たち、皆さんが、思うように情報というものを自分の中に取り入れていって、これはどうなんだとわかるようにしていかなければ。</p> <p>それにはまず資料を提供していかなければいけない。</p> <p>そういうふうにも考えています。</p> <p>それは逆をいえば僕がマスコミにいたから見える部分もあるのではないかとと思っていますし、特に情報リテラシーというのは、十分に気をつけて発信していきたいと考えています。</p> <p>それと選書については先ほど幹事会でもちょっと出ましたが、これはかなり力を入れていかなければいけない。</p> <p>十分な配慮と簡単に書いてしまいましたが、全部のリクエストに答えたいとか、全部の資料を取っていききたいとは思いますが、それは言っても予算はあるし、やっぱり何が必要なのかということを確認にやるためには選書というのはかなり必要だろうと思っております。</p> <p>ここにあるように子育てのタイムシェアリングもやっていきたいと思っております。</p>

2008/12/14	55	館長	<p>11ページ。</p> <p>交流の場ということですが、これは小布施町でもよく言われておりますけれども、町民と町民、町民と町外の方、職員と町民、あらゆるコミュニケーションをどういうふうに活動の場として活用していくか。今回小さなカフェオーナーを作っていたいと思いますので、そこをどう活用するか。ただ単にお茶を飲むだけではなく、そこにコミュニケーションが生まれるためにどのようにやっていけばいいの。いくつか例はここに書いてありますが、これだけではなくて、もっといろいろな方法があるのではないかと思っています。もうひとつはまちづくり委員会で、さっきも言いましたが、交流を考える部会というのがありまして、今日も関係者に何名か来て頂いていますが、図書館が本とか資料がある場所ということだけでなく、集う場所と考えた時に、そこから何を発信していくのだろうかとか、交流していくのだろうかというのがあると思いますので、明日も交流を考える会があって、僕もそこに出席します。そういうふうにとんどん足を運んで、ご意見を聞いてまた考える。自分の立場で考えるという人に来ていただくにもなるのかなと思っています。もうひとつ、見る・読むだけでなく、音というものもある。図書館法にもレコードとか書いてありましたし、こういうことも企画の中に入れていただければと思います。先進的な図書館に行くとか自分達が企画を上げて、そこに一緒にけんめいにという形でやっている所が多いんですよ。誰から企画をもらうのではなくて、自分達からこういう企画がやりたい、というのはどんどんしていかなければいけない。コミュニケーション、ひとつの交流の場につながっていく企画は、予算のある限りやっていただきたいと思っています。</p>
2008/12/14	56	館長	<p>12ページ。</p> <p>情報発信ということですが、これに對しましてはいろんなところで調査したり、いろんな土地へ行って見たりして、やっぱり鴻山文庫はかなり情報発信源になるだろうと。</p> <p>今はしまっておりませんが、やはり何らかの形で見る、触れるは難しいかもしれないですけども、何か形にしていきたい。</p> <p>僕らの小布施にある財産として子ども達にも触れて欲しい。</p> <p>また、それを公開することによって、僕らが知りえなかった研究者の方たちが訪れてくれるかもしれない。</p> <p>こういう情報発信はしていくべきだろうと。</p> <p>それには、本物を見せるのはリスクが大きいのでし、やっぱりデジタルアーカイブとかそういうテクノロジーを使っていくというのがありなのではないかと思っています。</p>
2008/12/14	57	館長	<p>13ページ。</p> <p>そういうことをやっていくためには、どういう現場にすることかということがあると思うんですけども、一応今のところ与えられているのは職員数3名で組み立てていかなくてはならない。ただ3人だけでやるというわけではなく、臨時さんやパートさんがいらっしゃいますので、人件費や予算をいたいて、配置をうまくやっていきたいと思っています。その中でこういうことも考えられるだろうということで、マネージメント・広報、図書管理、企画、レファレンス、選書。特に選書に対しては図書館側だけで決めるのではなく、チームと書きましたが委員会と呼んだほうがいいのかも思いますが、選書チームをつくるべきだと思っています。これは長野市の図書館は毎週やっているとおっしゃっていましたし、それぐらいの気合いが必要なのではないかと思っています。そして情報発信のアーカイブを作る。これは気持ちだけではやれないと思いますのでアーカイブのチームがひとつできればいいなと思っています。そのアーカイブの中には郷土資料も入ってくると思いますが、ぜひ実現したい。例えば獅子舞とか、いろいろなお祭りがありますけれども、そういうものも撮っていかなければいけない。資料として残せる撮り方をし、そして次に使えるように撮っていくには、ある程度やり方があります。今、岐阜の大学や、長野の大学のアーカイブ構想の中にも出ていますが、デジタルアーキビスト、そのスキルが少し必要ではないかというふうに感じましたので、先日、僕、準アーキビストという勉強をしてまいりました。そこからまた新しい資料のまとめ方ができるのではないかと考えておりますので、ぜひ皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。そして、これに対して運営に関わる委員会。今は図書館を建設するためにこういう形で、皆さんに審議していただいておりますが、建てしまつたら終わりではなく、建てからの運営をどう考えていくかということがあると思います。公募も含め、やはりある程度のスキルをもたれる方。あとは中学生と高校生を入れていきたいなあと考えています。いろんなジャンル、いろんな年齢層からご意見をいただいて、選書委員も一緒に考えられども、いろんなことを職員と一緒にやっていただく。そうやって次の図書館を考えていき、チャレンジしていきたいなと思っています。</p>
2008/12/14	59	館長	<p>15ページ。</p> <p>これは例えばの話も入っていますが、配架した時にこれで決まりではない。</p> <p>こういう形もあるんじゃないかなということを書いております。</p> <p>以前、高山市の図書館を見学して来ましたが、児童書も一般書も少しずつ一緒に置いておくというので、大人も子どももひとつの棚を見つ、どこかで感じながら選んでいくという...</p> <p>それでどうするということではないですけども、こういった違ったところで何か発見できる。</p> <p>大人でも絵本や子どもの本を読みますし、総てを分けるのもなあっていうのを、高山市で見てもいいと思います。</p> <p>いろんな意見が出てくることを期待しています。</p>
2008/12/14	62	館長	<p>18ページ。</p> <p>引っ越してしまうと旧図書館、現在の図書館が空きます。</p> <p>その利用法を考えていかなければいけないと思います。</p> <p>僕の考えとしては、郷土の資料を保管する場所として、そこでアーカイブを作ったり、研究をしていけるのではないかと考えています、これも時期がきましたら揉んでもらえればと思います。</p> <p>他の使い方もあればいいと思いますが、できれば図書館に関係あるものに活用していければと考えています。</p>
2008/12/14	63	館長	<p>19ページ。</p> <p>これは先日古谷先生もお話された町じゅう図書館。</p> <p>プロボーザルの時にお話いただいて、僕も賛同しているところであります。</p> <p>コミュニティでそういう図書の展開をしていかなければいけないという要望も何件か来ておりまして、いつも高齢者の方が図書館に行くのはきつから、ちょっとお孫さんたちと集いながら手元に本があるといいなというところもあっています。</p> <p>例えば僕の家は、たまたま大きな倉庫があって空いておりますので、そこにも本を並べれば皆さん少しは集っていただけるのかなあと思っています。</p> <p>ただ暖房がないから冬場はどうかと案案中ですが、閉館中もこういうことは実験的にやっていきたいと思っています。</p>
2008/12/14	64	館長	<p>最後20ページです。</p> <p>新図書館への引越について。</p> <p>引越し業者の力を借りるんですが、やっぱりどこかで引越しも町民の皆さんと一緒にやりたいなという僕の考えがあります。</p> <p>説明するということ意識を持たなくてはいけませんという方々がお時間の許す限りで構いませんのでご協力をお願いします。</p> <p>寄付や寄贈についても今募集をかけていますし、この間東京小布施会でもありましたけれど、ふるさとを離れた方でも図書館のことを考えていらっしゃいますので、ぜひそういう皆さんにそういう話をさせていただけたらと思います。</p> <p>それから、7月にオープニングイベントを開催されるんですかという話をよく聞かれます。</p> <p>それはやりたい、オープニングですからね。</p> <p>このオープニングをやることで次の年の7月がくれば2年目、3年目...となっていくわけですが、そこに必ず何かふり返られる、振り返ってもう一度作り直すこともあるし、また次こうしたいなというところがあっていいと思うんです。</p> <p>毎年7月に自分たちの立ち位置を確認しようという意味でも何かを興じていきたいなあと考えています。</p> <p>ここに書いてありますように紙芝居・絵本のフェスティバルをやったかどうかという。</p> <p>この間、千年樹で、すごく大きな紙芝居を町の方が作られて、すごく評判になっていました。</p> <p>日本中からいろんな方がいらっしゃったそうです。</p> <p>また、目の前がグラウンドですから、そこで古本市ができなかなとか、いろんなアイデアを、僕だけではなくていろんなところからいただいていますので、ぜひこれは何かやらなければいけないと思っています。</p>
2008/12/14	74	館長	<p>やらないのではなくて、こういうことでやっているんではないかという説明。</p> <p>初めて行ったときにたまたま音を出していたら、僕らの趣旨を説明して、こういう風にやりたいからこうなっていますよと。そうじゃない意識で来られた時には、一度説明するという意識を持たなくてはいけませんというふうに思っています。</p> <p>初めて来られた方々には、この図書館はこうなんですって一つの形を出していかなければいけない。</p> <p>強い意志を持って説明できるように、この運営の理論を膨らませていくべきかなと思います。</p> <p>それから、職員数ですが、予算を考えながらですが、僕の中では、僕以外に常時働ける人が6人だと思っています。僕を入れれば7人になります。</p>
2008/12/14	76	館長	<p>カウンターが2つありますね。</p> <p>それから事務室。</p> <p>ただ、それを2-2-2にするのかというところはありますが、一人は配架などに回り、イベントがあるとその分職員の手が取られますから、そう考えると6人で始めてみたらどうかとシュミレーションしてみました。</p>
2008/12/14	78	館長	<p>今、平均85人/日くらいです。</p> <p>これが3倍...300って数字に仮になったとしたらシュミレーションをしています。</p> <p>そこでまた、ボランティアさんにも期待しています。</p> <p>言わなければ動けない人よりは、自分で動いてもらう方がいいので、先ほど触れましたけれど皆で勉強しようっていうのは、そういう事もあります。</p> <p>職員はもちろん勉強しなくちゃいけません、皆さんと共に図書館の動きがどのようなものになっているのかを学びあえると、利用者も分かるんじゃないかと思うんです。</p>

2008/12/14	80	館長	これから議会が始まって、 予算 が決まっていくわけですけど、それにもよりますよね。工夫していかないといけないし、シビアナ話になるともう建物だけでお金を使っている。でも、ここでは箱だけではないんだ。家にはものが必要だ、ということを訴えていきたいと思っています。
2008/12/14	130	館長	それは考えなくてもいいと思うんですよ。名前ですから機能ではない。機能の部分もありますけれども、補助金作するために括弧つけたんだらうとおっしゃる方もいらっしゃいますけれども、最初に言ったように4つの柱から見ると、 図書館 本来持っている機能ですけれども、それで作り上げていくのであればいろんな意見を出し合って決めたほうがいいのではないかなあと。それは 図書館 で落ち着けば 図書館 でもいいと思いますし、そうではなく、茅野市民館なんかは市民館となったように…といろいろあると思うんですよ。僕のアイデアだけでは出てこない部分があると思うので。
2008/12/14	132	館長	選書 委員を決めなければいけないというのがあるんですけど、まず、方法論を皆さんで出していたら、今言ったように公募型だけでいいのか、検討委員だけをそこで決めるのか、いろいろあると思うんですよ。
2009/1/9	168	館長	今までの会議の中で色々9時～18時という意見が出ていたという風に思っております。それを想定して、 図書館 作りをしています、それが決定だとは思っておりませんので、あらゆる利用者の方向性とかあるんじゃないかと思っています。よく、何時まで開いているんだとかという意見を聞くんですが、何時から開いているんですかって言うのはあんまり聞かない。今一度ここで皆さんとそういうことも踏まえながら、意見交換して頂ければいいと思います。ただ、 職員 の働く時間等がありますので、9時～18時を前提においてやりたいと思っているんですね。だから、あらゆる所にとんでいくのではなくて、そこをベースにしながらずらしていくとか、ちょっと違う意見とか、そういう所から入っていくと入りやすいかなと思っております。
2009/1/9	180	館長	去年、小平の 図書館 に行ってきたんですね。夏休みでした。やっぱり、開館時刻前に並んでいましたね、小学生が。10時オープンかな？僕はその10時前に来ていたんだけど、公園があったので、大人たちはその公園で持ってきた本読み直していたし、子供たちは一番になりたいから、並んでいるの。それが結構面白かった。
2009/1/9	214	館長	前回の 運営 ビジョンの中でも少し出たんですが、 図書館 づくり学習会で牛山先生から、 選書 についてという講義があったんですけど、事例とすれば一般公募で決める。後は専門職の人達を何人か入れる。その専門職の人達は、どの専門なのか、お医者さんなのか、学校の先生なのか、教授なのか、保育士なのかとか沢山あると思うんですが、じゃあ、小布施はどうなのかな。今その事例を色々調べている途中ではあるんですが、逆にその、慌てなくちゃいけないけど、もう少し皆さんの意見を頂きながら、どういう所をもって言う風に。
2009/1/9	217	館長	通年に関わってくると僕は思っているんですが、それも逆に皆さんの議論の中にあってもいいと思っています。この勉強会をやったときは、お医者さんと、司書さんとか、そういう感じの人達を集めて、まずボランティアで入って、学校の司書さん、子育て関係者、お医者さん、PTA、中学生、高校生で所まで、後は学識者まで加えられていますけども、どんな人が入れれば 選書 が豊かになるかという所を、みんなでもう少し意見を出し合えばいいのかなと思います。
2009/1/9	219	館長	こら辺をまず 予算 あるかも知れないんですけど、まず、こういう本が欲しいって所から、後は予算を見ながら操作していく方がいんじゃないかなと僕は思うんですよ。やっぱり最初から小さく小さく言うとはみ出せないで、大きいところから入っていかないと、本が選べないかなと思っています。 予算 もそうですけど、 図書館 にこういうのを置いて欲しいというのがあればいいなと思います。多数決ではないですけど、やっぱり、ある程度、こういう 図書館 っていうイメージがあればいいなと思いますけどね。
2009/1/9	227	館長	電算化に関して言うと、今回の電算化で採用しているのは、ウェブ方式なんで、どんな図書があるって、皆さんどこからでも見られると思うんですよ。だから、その 選書 によって、皆さん仰ったようにカラーを出していく。電算化を使えばかなり面白くなっていくだろうなって。今回のシステムからはかなりできるだろうと思っているんですよ。
2009/1/9	233	館長	さっき、時間帯の関係で言うと、サラリーマンの方が利用するんだしたらこたねって話が出ましたね。そうすると、じゃあ、サラリーマンの方がどんな 選書 をするかって言ったら、どうい本があるといのかな。皆さんが自分の職業の中で、こういう本が揃うと…っていうのがあると思うんですよ。特色って言うのはなんとなく分かるんですけど、じゃあ、とリクエストに全部答えていくと、最初に仰ったようなね、 予算 との絡みもあるし、どういった本が並ぶのを想像されるかなって所も入ってくるかなと思うんですよ。それこそ、漫画とかも入ってくるんですよ。
2009/1/9	235	館長	僕が考えているというよりは、皆さんはどういう風なご意見ですかっていう所ですね、町の 予算 を使っているから。
2009/1/9	237	館長	そうですね。それにも、その時だけ決めるんじゃないで、折角、共同でやっているの、それには、前もっての意見が要りますよね。他の所に託すにも、こういう風にやると渡さない。ただ単にこれは小布施っぽいから、小布施これで良いんじゃないかって選ぶのではなく、折角、こういう会を一年くらいかけてやってきている訳ですから、会の中でこういう方向性が出てきたって事で渡して、 選書 委員会なりが出来たらやっていかないと、単なる、渡しましたって言うのは全然違うと思うんですよ。それで、100人くらいの意見を頂いた中でみんなで議論して、次のステップで渡したいと言うのが僕の夢です。
2009/1/9	244	館長	最初の頃、ゲートの話で、ゲートはつけないと決めたように、こちらからこうじゃないかって言うよりは、こういう意見の中で、今も出た、防犯カメラ、今また小さくなっていますが、あるほうが良いとか悪いとかかそういう所から始まって、あるんだしたら何個か。どこどことか、そういうところもまた、議論の対象になってくるんじゃないかと思いますね。特に、その町作り委員会にも防犯がありますし、そういう所に逆にとって帰ってもいい意見って事もありますし、そこら辺が一番 運営 に対して検討して欲しいところかなと思います。
2009/1/9	250	館長	図書館 のこと、 図書館 って言うか、公共 図書館 の中で、 個人情報 って言うのはかなりシビアナな所があって、今仰ったそのとおりなんだけど、その前に、誰が何を読んで何を借りたって所まで、 図書館 ではかなりの 個人情報 を守らなくてはいけないし、だから、そこら辺も調べさせて頂いて、解析度もあるかもしれないし、一度お預かりしてもう一度投げかけていきたいなと思います。
2009/1/9	253	館長	図書館 のこれから、そういう場合もありますのでそういう所まで考えて、実は、安心している訳ではないんですけど、位置的には役場と近いんで、そこら辺でというもまた棚に戻っちゃうんですけど、人が沢山、200人や300人が多くいて、まあ、一番最初の物になりますけどね、人為的な防犯もあるだろうし、それでまた、僕らがじっとしないで館内をうろろするところですよ、防犯になると思います。沢山色々な方法、機材もそうですけど、人の目っていうのも入れていきたいなと。
2009/1/9	256	館長	図書はどうするのって皆さん議論したいって所がありますし、ポストなら 職員 がいて、閉まっているポストもあるだろうし、 職員 がいて夜中でもポストがどこにあるっていろんなパターンがあるんですよ。逆に皆さん利用する立場から、議論していきたいなって本当に思っていますね。じゃあ、ポストはあるって風に捕らえていいんですかね？

	指標発言			
	指標発言候補の整理過程で省除された発言			

■表 4-3-11 第4分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図4-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第4	12, 13回	情報/データ	42 指標発話		①-2 :104まで挿入拡張	●
			44 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			45 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			47 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			51 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			54		選書がテーマになっているので。→選書	
			56 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			57		選書がテーマになっているので。→選書	
		選書	250 指標発話		①-A :242→245→247→249→と繋がる。	●
			54 省除4		賛成・反対の対立構造がない。	
			57 指標発話		①-2 :103が最終的なペア。	●
			132 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			214 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			217 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			227 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			233 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
		職員	51		情報がテーマになっているので。→情報	
			55 省除3		連鎖がない。	
			74 省除3		連鎖がない。	
			76 省除3		連鎖がない。	
			78 省除3		連鎖がない。	
			168 指標発話		①-B-a :174がペア。	●
		町民	256 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			42		テーマが「データ」→「情報/データ」	
		運営	64 省除4		テーマが「引越し」なので代表性がない。	
			42		テーマが「データ」→「情報/データ」	
			44 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			45 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			47 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			49		テーマが「資料」→「資料」	
			57		テーマが「選書」→「選書」	
			74		テーマが「職員」→「職員」	
		予算	214		テーマが「選書」→「選書」	
			244 省除4		テーマが「ゲート」なので代表性がない。	
			55		テーマが「職員」→「職員」	
			74		テーマが「職員」→「職員」	
			80 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			219 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
		発信	233		テーマが「選書」→「選書」	
			235 省除3		連鎖がない。	
			44		「情報発信」にて→「情報」	
		資料	56		「情報発信」にて→「情報」	
			57		「情報発信」にて→「情報」	
			49 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	
			55		テーマが「職員」→「職員」	
			62 省除4		賛成・反対の意思表示がない。	

すでに「指標発話」の選定過程で前後の発話を読んでいるので、ここでは「指標発話」とそれらの前後の発話をくひとまとまりの会話群として区切って>記述する。

■表 4-3-12 第 1 分節における指標発話連鎖会話群

[illegible][illegible]

■表 4-3-13 第2分節における指標発話連鎖会話群

[illegible]

■表 4-3-14 第 2 分節における指標発話連鎖会話群（最終列からのつづき）

[illegible]

■表 4-3-15 第 3 分節における指標発話連鎖会話群

分析年度	該当会議	テーマ/報告上 位者	議定事項	(Stagnation of a man from the first stages of his turn- ing - ending of?)	(Stagnation ending of?)	(Stagnation ending of?)	(Stagnation ending of?)	(Stagnation ending of?)
2009/8/23	第1回分科会	佐藤 孝彦	佐藤 孝彦 参加	中野議員 24 経路からどうなるかという疑問の回答が「コンピューターで いうか」という感じであるので、経路をたどる 方向にもよるものではないかと	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する
				中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する
2009/10/7	第1回分科会	佐藤 孝彦	佐藤 孝彦 参加	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する
				中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する	中野議員 24 ある点で、ある点で、ある点で経路をたどるという感じはコンピューターで でなくてか？という感じとそれと関係する

[illegible]

■表 4-3-16 第 4 分節の指標発話連鎖会話群

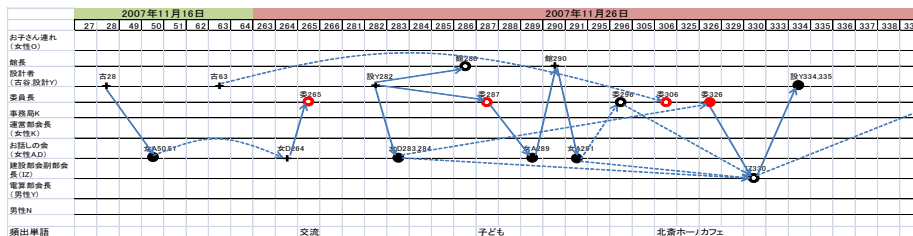
[illegible]

(8)pre-dialog of (8)	(9)following-dialog of (7)	(10)pre-dialog of (8)	(11)following-dialog of (9)	(12)pre-dialog of (10)
<p>13回参事245: ちょっと防犯カメラについて調べてもらえますか？ ・ ・ ・ 最近では公共施設で防犯カメラを付けるというのはいくらでもありますが、防犯の使い方がそのものを、検討していないと、・・・</p>		<p>13回館244: 最初の頃、ゲートの所で、ゲートはつけないと決めたとはいふ。こちらからこうじゃないかって言うよりは、こういう意見の中で、今も出た。防犯カメラ。今また小さくなっていますが、あるほうが良いとか悪いとかかそういうところからすると、あるんだったら何個か、どことどこか、そういうところも。議論の対象になってくるんじゃないかと思います。特に、その町町委員会にも防犯がありますし、そういう所に置いて得ていないと思うって事もありますが、そこら辺が一般運営に対して検討して欲しいところかなと思います。</p>		<p>13回KYM242: 今のセキュリティーに関してです。まず、その防犯の話題はともかくとして、例えばビデオ、そういう防犯カメラ、モニターとかそういうものがあるば。</p>

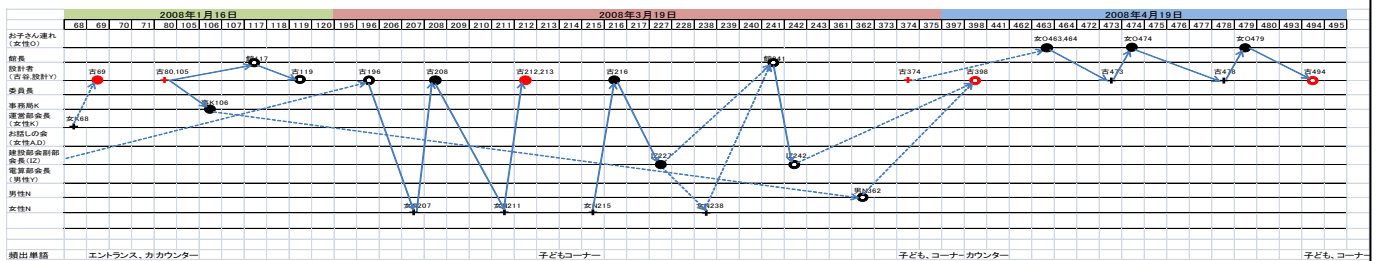
⑤コミュニケーション構造図の作成

前工程で抽出した「指標発話連鎖会話群」を第2章に示した手順で、賛成（Pro.）・反対（Con.）の記号に変えて示した。結果を以下に示す。

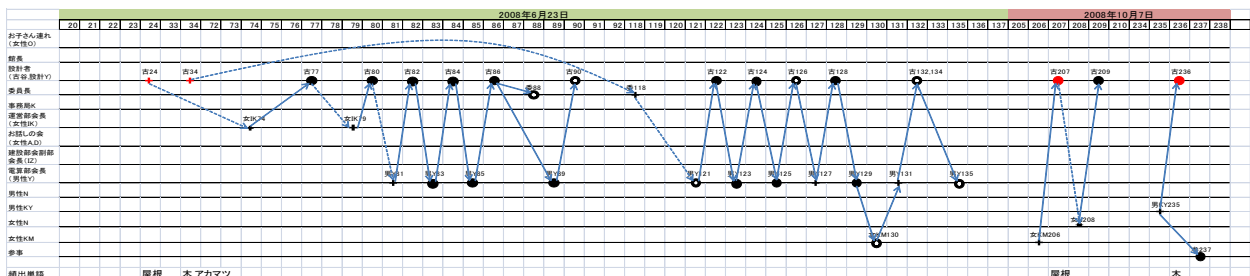
第1分節



第2分節

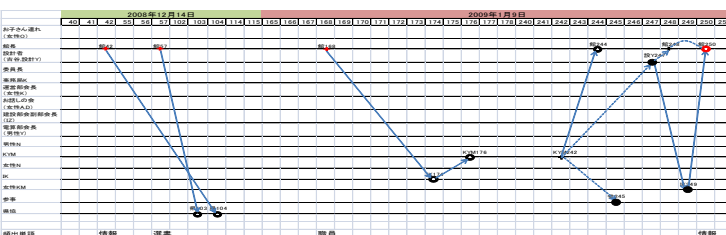


第3分節



前の発話者に対して肯定的な発話 → ○ 起点となった発話 +
 " 否定的な発話 → ●

第4分節



※なお、赤字は「指標発話」を表す。

■図 4-3-5 全コミュニケーション構造図

⑥リーダーシップ構造図の作成

まず「図書館建設運営委員会」の成員について表 4-3-17 に示す。この表は「図書館建設運営委員会」の前段となる「新しい小布施町立図書館基本構想案意見交換会」からの成員の参加状況（が判別できたもの）を示したものである。

■表 4-3-17 図書館建設運営委員会及びその前段組織に参加した成員

[illegible][illegible][illegible]

前段組織に参加した成員の中には「図書館建設運営委員会」から参加しなくなった成員も見られるが、継続して参加している成員も見られる。

このうち「KYM」、「IZ」、「館長」、「KIN」、「女性 IK」、「女性 KM」、「KY」、「男性 Y」は「図書館建設運営委員会」での役員になっている。また役員にはなっていないが、前段組織の幹事会に参加していた「教育長」、「参事」、「推進幹」、「US」、「女性 S」、「KB」もいる。これらの成員は当該委員会の中でも何らかの発言力があると考えられる。また、旧図書館で何らかの活動をしていた成員、新たな図書館に何らかの利害を有する成員、役場内プロジェクトチームに参加している成員らも利害関係者として発言力があると考えられる。

成員のリーダーシップ構造を図示する際に、これら特定の成員には重みづけを付けて図示することとした。

本論でのリーダーシップ分析は、ターン割合を指標にしてターン割合の大きい成員が会議をリードしたと考える。

図 4-3-6 は縦軸に発話者のターン割合（時期分節毎の全ターン回数における当該発話者のターン回数：表 4-3-19 参照）をとり、横軸に 2007 年から 2009 年までの会議が行われた順序をとっている。

また球の大きさは当会の役員かどうか、図書館に利害関係があるかどうか等 5 つの項目から重みづけ^{注8}を行ったものであり、大きいほど重いことを表している。また、奥行き方向は成員の数を表している。

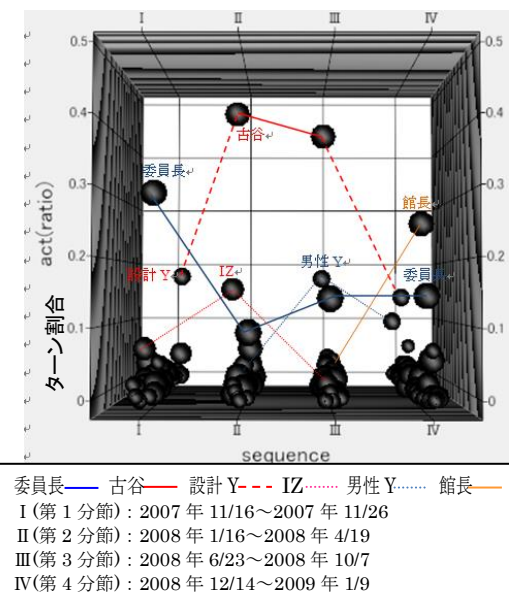
当会の委員長である「KIN」、新図書館長である「館長」及び設計者である「古谷」は最も大きい球で^{注9}、会の役職に就いているが新図書館と利害のない「IZ」^{注10}、「男性 Y」^{注11}等は中間的大きさの球で表現されている。

時期ⅡからⅢ（2008 年 1 月 16 日から 2008 年 10 月 7 日）まで最上部を占めているのが設計者「古谷」であり、この間会議をリードしていたことが分かる。

また時期Ⅰ（2007 年 11 月 16 日から 26 日）までは委員長「KIN」の割合が大きく^{注12}、時期Ⅳ（2008 年 12 月 14

■表 4-3-18 当該委員会成員の重みづけ

member	均等割	weight item					weight
		旧図書館で活動	委員会役員	新図書館に利害がある	町PT	幹事会	
事務局	1				2	2	5
町長	1				2		3
古谷	1		2	2			5
設計Y	1			2			3
教育長	1				2	2	5
KYM	1		2			2	5
IZ	1		2				3
参事	1				2	2	5
推進幹	1				2	2	5
館長	1		2	2			5
川向	1			2			3
US	1					2	3
KIN	1		2			2	5
事務局K	1	2		2			5
女性IK	1		2				3
女性A	1	2		2			5
女性B	1						1
女性C	1	2		2			5
女性D	1	2		2			5
女性E	1						1
女性F	1						1
女性I	1						1
女性J	1						1
女性K	1						1
女性N	1						1
女性G	1						1
女性H	1						1
女性S	1					2	3
女性O	1						1
女性P	1						1
女性Q	1						1
女性R	1						1
女性YS	1						1
女性IV	1						1
女性IM	1						1
女性KM	1		2				3
女性TY	1	2		2			5
KB	1					2	3
男性A	1						1
KY	1		2				3
男性D	1						1
AM	1						1
NY	1						1
KI	1						1
DVI	1						1
TM	1						1
TI	1						1
FH	1						1
MZ	1						1
男性Y	1		2				3
男性T	1						1
AH	1						1
HR	1						1
学生	1						1
県協	1						1
早シス	1						1
IK	1						1
杉下	1						1
SE	1						1



■図 4-3-6 リーダーシップ構造図

8 まず図書館建設運営委員会に参加した成員に一律1点を付け、その他4つの項目に該当する成員に各2点を与えた。
 9 図中は、設計者側の「古谷」と「設計Y」は繋げて表した。
 10 「新しい小布施町立図書館基本構想案意見交換会」から参加し、部会の一つ「建設部会」の副部長となる。設計士。
 11 部会の一つ「電算部会」の部長となる。
 12 2007 年 11 月 26 日の会議では「古谷」が欠席していたことも原因として大きいと考えられる。

日以降)は「館長」の割合が大きい。

それらの中間、すなわち時期ⅡからⅢまでの時点で「古谷」の割合が圧倒的に多いが、より低位では、前半で「IZ」、後半で「男性 Y」の割合が大きい。これは初期に「KIN」、末期に「館長」が積極的にリードしていたことと、中間期で「古谷」と「IZ」、ないし「古谷」と「男性 Y」が活発に発言しながらリードしていたことを表している。

このようなリーダーシップ構造の変遷は、テーマの変化や環境の変化によって変容が生じた結果と考えられることから、各時期分節において何らかのテーマの変化や環境の変化があったものと考えられる。それが意見対立の解消や目標の共有過程と関係しているのかどうか、上図のような状況を参考にしながら第3項で分析する。

■表 4-3-19 各成員のターン割合

		事務局	町長	古谷	設計Y	教育長	KYM	IZ	参事	推進幹	館長	川向	US	司書	KIN	女性JK	SE	女性A	女性B	女性C	女性D	女性E	女性F	女性G	女性H	女性I	女性S	女性K
第1分節	ターン数	2	0	8	36	4	3	14	0	8	3	0	2	3	60	2	9	6	2	1	4	1	2	2	1	2	0	0
	ターン割合	1%	0%	4%	18%	2%	1%	7%	0%	4%	1%	0%	1%	1%	30%	1%	4%	3%	1%	0%	2%	0%	1%	1%	0%	1%	0%	0%
第2分節	ターン数	0	0	173	4	0	4	66	2	4	9	4	1	26	33	12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	9	0
	ターン割合	0%	0%	43%	1%	0%	1%	16%	0%	1%	2%	1%	0%	6%	8%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%
第3分節	ターン数	2	1	62	5	2	0	0	3	0	2	0	0	0	22	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ターン割合	1%	1%	39%	3%	1%	0%	0%	2%	0%	1%	0%	0%	0%	14%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
第4分節	ターン数	1	0	0	13	0	6	0	1	0	33	0	0	0	16	5	0	0	0	0	3	0	0	9	0	0	0	0
	ターン割合	1%	0%	0%	11%	0%	5%	0%	1%	0%	28%	0%	0%	0%	13%	4%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	8%	0%	0%	0%	0%

KB	女性N	女性O	女性P	女性Q	女性R	女性YS	女性IV	女性IM	DVI	KB	女性KM	男性A	KY	AM	NY	KI	女性TY	TM	TI	FH	MZ	男性D	男性Y	男性T	AH	HR	学生	県協	早シス	JK	杉下	
1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	3	2	0	1	1	3	2	2	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	1%	1%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
1	10	9	0	0	0	0	0	0	5	1	8	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	2	9	1	0	7	0	0	0	0	0	0
0%	2%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
0	3	0	0	0	6	0	0	2	2	0	1	0	3	0	0	0	1	4	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0%	2%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	1%	1%	0%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	1%	3%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	3	4	11	0	0
0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%	0%	3%	3%	9%	0%	0%

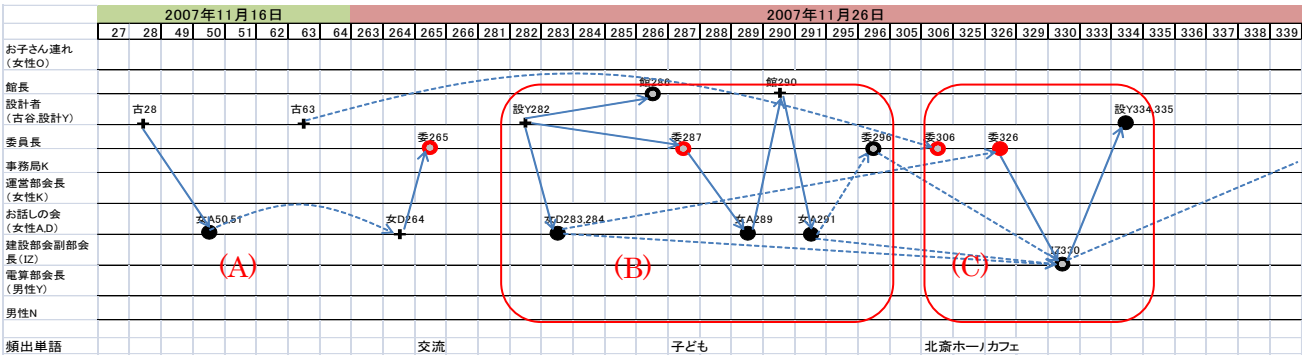
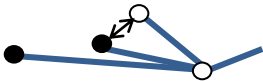
つづき

⑦会話分析シートの作成

⑦-1 第1分節

まず第1分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。本技法ではコミュニケーション構造図の構造的特徴から「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」を見当づけることとしている。図4-3-7の枠内がそれに該当し、複数の対立意見を受けて一つの意見にまとめるような対話構造が見られたため選定した。

構造的特徴：対立意見をまとめる



■図 4-3-7 第1分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に、枠内で示した箇所について、(第2章で示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表 4-3-20 第1分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
282	設計Y	私たちの案は幸いにしてワンルームという提案ですので、 …こんな図面体で全部が交流センターで図書館だと、そうしたものが自然にできるといいなあと…	F: 提案	トラブル源	【タイムシェアリングについて】 設計者と館長は肯定的。 お話しの会(女性D,女性A)は否定的。 委員長は、お話しの会を排除しようとせず、この争点を全体で解消しようと考えている。
283,284	女性D	…カフェのくつろげる所があるのは嬉しいのですが、それによって交流のスペースが少なくなっているようにも思えて、 …おはなし会をする時はちょっと区切ってもらったり、それが終わればもうオープンの状態にしてもらって、いろいろ使えるようなゆったりと交流できるようなところが欲しいなあと… …町民サロンに自動販売機がありますので、カフェはそちらの方で良いと思ったのです。	S: 不同意 f1: 申出	修復開始	
286	館長	…タイムシェアリングしていけば結構解決できるんじゃないかなというふうに僕は思います…	S: Fに対する同意		
287	委員長	2回委員長/287: この時間帯はキッズ(子ども)パラダイスの時間ということにして、子ども達がいくらか声を出しても良いというような時間で…	S: Fに対する同意 f2: 提案		
289	女性A	…ちょっと無理です、なぜなら、例えばおはなし会は子どもたちに合わせて今年度も時間帯を変えたりしてきました、 …やはり保障された空間が欲しいと…	s: f2に対する不同意 f3: 申出		
290	館長	…北斎ホールの学習室も使うとか…全てタイムシェアリングして下さいと言わないですけれども、ある程度の考える余地としてはあるのではないかと…	f4: 依頼		
291	女性A	…図書館から離れた所でこの会をしても、単なるイベントになってしまいます、ですから図書館内にこれができる場所がどうしても欲しいと…	S: f4に対する不同意 f5: 申出		
296	委員長	…そういう今のようなご提案やご要望こそ、これから一年かけて反映させていただいて…	s: f5に対する同意 f6: 提案		

■表 4-3-21 第 1 分節 (C) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
326	委員長	人が居てコーヒーを出してくれるカフェ、喫茶店のようなものというような案もあれば、自動販売機だけを置くという案もあります、・・・カフェは要らないという発想ではなく、あり方としてどんな物があるのかという、	F1: 依頼	修復開始	【多目的ルームの提案について】 IZは女性 D283,284,女性 A291への解決案として提案している。 設計Yがその提案を拒否している。
330	IZ	・・・一つ多目的ルームみたいのを作れば、・・・映画が出来たりだとか、おはなしの会もできるし、・・・ここにカフェみたいのを作ったって結構なのですけどね、	s: F1に対する受諾 F2: 提案	296から繋がる修復の操作	
334,335	設計Y	・・・声が聞こえる所でちょっとお茶くらい飲んで待つという感じで、そのお母さん達が寛げる所でもあるかなと思って・・・多目的ルーム・・・私は気持ちとしては館内のわざと分けない場所だと思います・・・	S: F2に対する不同意		

※F,S連鎖における大文字は親となる（基底の）連鎖で小文字は子となる（派生の）連鎖。（以下各表共通）

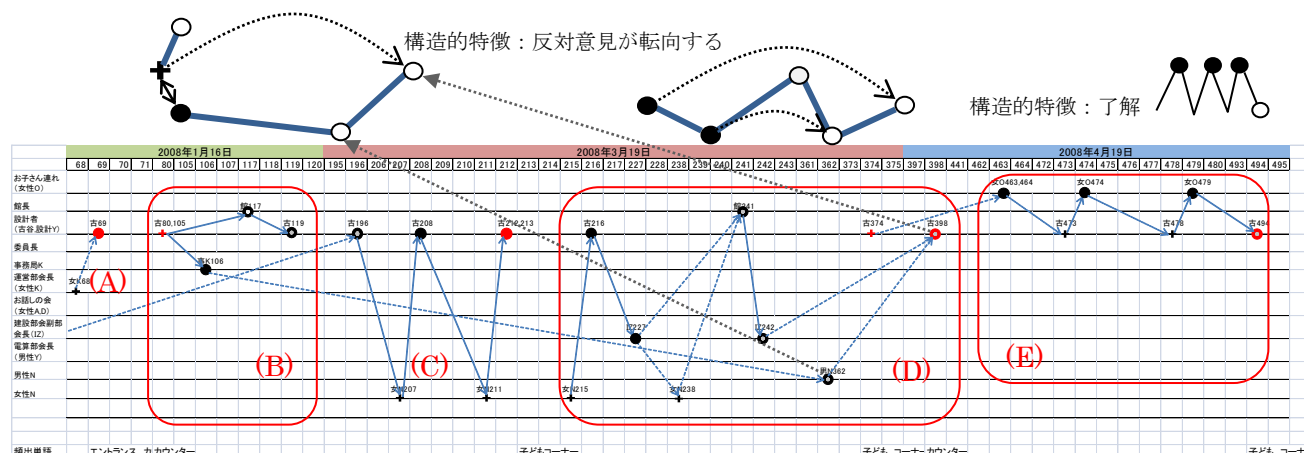
(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 4-3-20 であり、タイムシェアリングに関して設計者と館長は肯定的で、「お話しの会」は否定的といった顕著な対立関係が見られるのみならず、「修復の開始」が見られることから「意見対立の解消」過程（の前半）と見ることができる。

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 4-3-21 であり、「IZ」の「多目的ルーム」の提案は(B)のタイムシェアリングに関する「意見対立の解消」過程から繋がっている（意見の取りまとめ過程である）ことが分かる。「IZ,330」について会話分析シート（表 4-3-21）では「修復の操作」と書いた。これが狭義の「修復の操作」に該当するかどうかは検討を要するが、少なくとも設計者（古谷ないし設計 Y）に代わってトラブル源を解消しようとした行為であると言える。

以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち複数の対立意見を受けて一つの意見にまとめるような対話構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

⑦-2 第2分節

次に第2分節について会話（談話）分析にふさわしい箇所を選定する。図4-3-8の枠内がそれに該当し、反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような構造ないし了解構造が見られたため選定した。



■図4-3-8 第2分節のコミュニケーション構造図における構造的特徴

次に、枠内で示した箇所について、(第2章で示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表4-3-22 第2分節(B)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
105	古谷	こちら辺にコンシェルジュカウンターがあって、で、ここにメイン、これは本をレファレンスされたり、中のこの・・・したりするときに使うカウンターという感じで、二段構えなんです。	f1: 提案	トラブル源	【コンシェルジュカウンターの提案について】 設計者側が異なる提案をした(古谷69の)理由として挙げている。
106	事務局K	…そしたら多分、そのプチカウンターのほうの利用が非常に多くなるんじゃないかと思うので、あの一、結局大騒ぎになってしまうのかなっていう気が...	s1:f1に対する非同意		
117	館長	…僕はそこにいるのかなって想像もしますし、…あの一、新しい感覚じゃないかなと...僕も実際、あの一、ほかの建物、まあ、図書館だけじゃなくて、建物に行ったときに、いきなりエントランスで人に、あの一、見られるのはやだなと。	s2:f1に対する同意		
119	古谷	…花井さんがここにいてくれば、本当、いいねー。	t: s2に対する賛同		
362	男性N	…コンシェルジュカウンターなどについてやはり、これはやって見なければ分からないだろうというのがあって、その辺はやってみて職員の使い勝手に考えてもらいたい。それで職員がやりやすいようにやることで、生き生きと働いてもらって雰囲気の良い図書館になるんじゃないのか...	f2: 提案	修復開始	
398	古谷	…長い議論の末サービスカウンターとコンシェルジュカウンターが一对のサービス業務を行うことになりました。…カウンターそのものは...変更可能にしておいてほしいと...給湯設備は、お茶ぐらい沸かせる設備をここに作っておこうと...	S: f2に対する受諾 f3: 提案	修復操作(完了)	

■表 4-3-23 第 2 分節 (D) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
215	女性N	…来館者が飲物を飲む場所は、こちら辺になる訳ですか？	f1: 質問		【カフェコーナーについて】 カフェコーナーが一度は廃案となりかけたが、館長241によって当初案より縮小されて実現化した過程を示している。
216	古谷	…休憩室の中には館員の方のがありますけれどこちらには本当に簡易な給排水を設けておいて…お客さんに一杯お茶を出して差し上げるような感じでいこうと言うのであればやれなくはない、と…	s:f1に対する回答 (No)	トラブル源	
227	IZ	…今の話は元に戻っているんですね。カフェがなくちゃいけないとか。	f2: 評価	修復開始	
238	女性N	…コーヒーコーナーは設けないでそちらで集約するって決めた訳なんですね。	f3: 質問		
241	館長	…給湯があれば将来的に使えるかも知れない…	f4: 提案		
242	IZ	温泉の休憩室じゃないけど、お湯を沸かしてポットに入れて貸してもいい…	s: f4に対する同意 F: 提案		
398	古谷	…長い議論の末サービスカウンターとコンシェルジュカウンターが一对のサービス業務を行うことになりました。…カウンターそのものは…改変可能にしておいてほしいと…給水給湯設備は、お茶ぐらい沸かせる設備をここに作っておこうと…	S: Fに対する回答	修復操作 (完了)	

■表 4-3-24 第 2 分節 (E) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
374	古谷	子どもの中に一緒に高齢の方が入ってそこで一緒に読んで。…たまたま居合わせた大人の方に…読んで聞かせてもらえることもあったり。	f1: 提案		【児童コーナーについて】 先の古谷213に続いてカウンターからの見通しのよさを説明しているが、女性Oからもっと開放的な方が良いと提案されている。 先の女性Nの遮音性に関する意見とは真逆の提案が町民から出たことに対して設計者は困惑しながらも賛同している。
463,464	女性O	…児童のコーナーですが死角の、見えない部分がとても多いことが気になります。 …仕切りが一つきりで…その裏側が視聴覚コーナー…という事になると視聴覚していらっしゃる方は静かな方が良く、子どもたちはちょっと声上がるというのとも心配でし、…もう少し入り口に近い方が良いなということ。	s: f1に対する不同意 F: 提案		
470-473	古谷	奥にサービスカウンターがあり、視聴覚カウンターが手前に、そしてエントランス近くにコンシェルジュカウンターがあるのですが、ここから見ると確かにガラスはありますし、児童コーナーは比較的丸見えなのですよ。…	f2: 評価		
474	女性O	…スタッフが見守るというそういう場所ではなくて…遊んだりしているのが見える児童コーナーというイメージがあるのですね。…高齢者の方もそれを眺めるとか、ちょっとざわついている声を聞くとか、そういう事がもう少し開放されていた方が良いかなという事です。	s: f2に対する不同意		
478	古谷	あれでも閉じた感じですか。	f4: 質問		
479	女性O	…一続きの棚で区切られてしまいますと、出入りが自由な感じがしないという印象を受けますので…	s: f4に対する回答 (No)		
494	古谷	子どもコーナーはもとはといえば全部部屋を閉めて、全部間仕切りがあるイメージからスタートしているのです。それで、そうではなくて…間仕切りで仕切るのではなく、家具とか、本棚とかそういうもので柔らかに仕切って子どもさんのコーナーをつくるのはどうですか？という提案が、ここに来ています。	t: 賛同		

(B)についての会話 (談話) 分析結果をまとめたものが表 4-3-22 であり、コンシェルジュカウンターの提案に関して設計者と館長は肯定的で、「事務局 K」は否定的といった対立関係が見られるのみならず、修復連鎖が見られる¹³とともに最終的に設計者が修正に応じていることから「意見対立の

¹³ 回を超えた連鎖であり、会話分析の狭義の「修復」の定義には当てはまらない可能性が高い。しかし筆者は会議形式特

解消」過程と見ることができる。

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 4-3-23 であり、「カフェコーナー」の提案は第 1 分節の「多目的ルーム」の提案から繋がるもので、(C)で示したように多目的室（多目的ルームに同じ）については設計に盛り込まれたものの、「カフェコーナー」については IZ227 のように否定的な町民と、女性 N のように肯定的な町民に割れていることが分かる。また修復連鎖が見られるとともに最終的に設計者が修正に応じていることから「意見対立の解消」過程と見ることができる。

(E)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 4-3-24 であり、「児童コーナー」について設計者と「女性 O」の間での「不同意」が見られる。長いやり取りとなっているが顕著な対立構造は見られない。むしろ「女性 O」の発話は、設計者の態度¹⁴であり、基本的に両者の考え方は類似しているため、最終的に設計者（古谷,494）も肯定的発話で結んでいる。

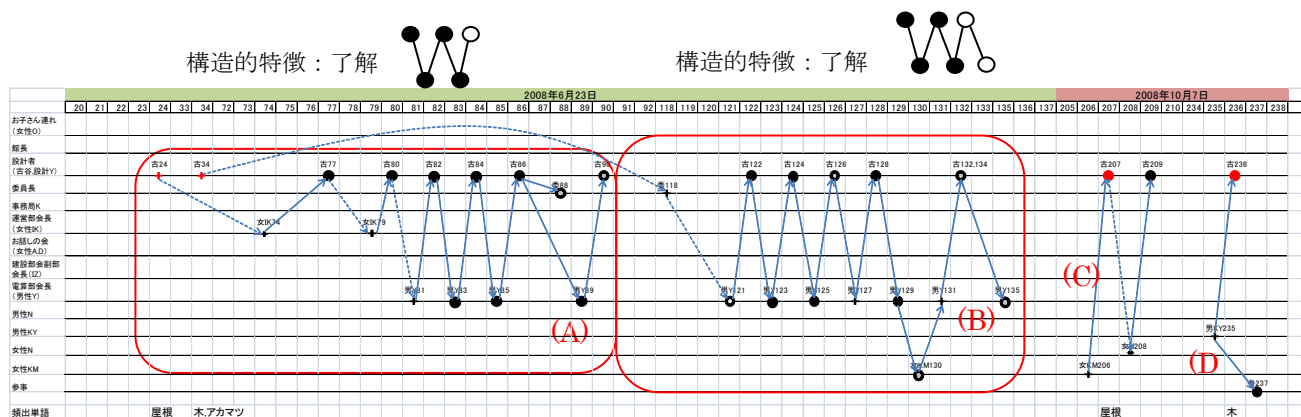
以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような対話構造ないし了解構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

有の現象と捉え、機能的なつながりを重視して「修復」と呼ぶこととする。

¹⁴ 設計者は開放的な空間で柔らかに仕切るべきと提唱している。「女性 O」の発話に見られる基本的態度はこれと同じくする。

⑦-3 第3分節

次に第3分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。図4-3-9の枠内がそれに該当し、反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような対話構造が見られたため選定した。



■図4-3-9 第3分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に、枠内で示した箇所について、(第2章で示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表 4-3-25 第3分節(A)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
24	古谷	垂鉛メッキステンレス鋼板の屋根が・・・コールドルーフという言い方があるんですけども、屋根を冷たい時に冷たいものにしておくことで	f1: 提案		【屋根の凍結問題について】 コールドルーフ構造に関連して、女性IKと男性Yから疑義が出ている。 疑義に対して設計者は不同意を示している。 男性Yと設計者との不同意が続いている。 古谷90から、この問題については会議外でIZから指摘を受けていたことが分かる。
74	女性IK	あの、すみません、多目的室や書庫のこの屋根もコールドルーフになってるんですか？同じ形？色と？それと書庫の・・・	f2: 質問		
77	古谷	・・・こっちはコールドルーフになってませんが、・・・ここは通常のアスファルトシートの防水でつくろうと思っています、断熱材はもちろん入ってます、・・・そういうシート系の防水って基本的に全部密着されてる場合、途中周りから水が流れ込むって事は普通はないですね、た・・・10年乃至長くても12・3年に一回来て、あれを手入れしてあげれば、このシート系の防水では、コールドルーフにしくなくても、支障はないと思っています、・・・	s: f2に対する回答(No)		
79	女性IK	・・・書庫の湿気が良いのかなって思って、	F: 質問		
80	古谷	それは、全く問題ないと思います、水分は回ることもありませんし、断熱はしてあるんで、結露はしない、	S: 回答No		
81	男性Y	さきほど、屋根のすぐ脇の所で、僕砂利だと思ったら、こちらの方だけ吸水アスファルトみたいなのあって、それでその場合ですね、あの水分がですね、冬季浸透してくればいいんですが、凍結すると結局氷面になってしまうんですね、・・・軽井沢なんかに行ってみると屋根のその、合流されたところの、入ってくる下が、広がってその水の染み込みがあるんですが、どうしてかなと思ったら、下が凍っちゃってるから、・・・その実験的なことが果たしてされてるかなって、ちょっと、今思いました、	f3: 評価		
82	古谷	一応ですね、この、この部分にはU字溝が入ってまして、要するに、集水する溝が入ってまして、表面で吸いきれなくなったら、その溝に、流すようになっている、ただ、まあ、冬季は土壌そのものが凍ってる時があって、凍ってる状態で、ま、雨が降ると、いう状況が中間的に起こらないとは言えない訳なんですけど・・・	s: f3に対する不同意 f4: 評価		
83	男性Y	あの、私も、お屋敷に行ったら、溶けない部分と溶ける部分と一緒に、なってそのまま危険地域で柵をするような形になってますね、そういう所があったもんで、今の、合理的には多分難しいんだと思うんですけども、その今の水がどうはけるのとか聞いてなかったんですが、それが効果を発揮してくれたらと思うんですけどね、	s: f4に対する不同意 f5: 評価		
84	古谷	そうですね、今の此方の完全に土なんで、一のままなんですけど、これに関しましてはここが透水性アスファルトになりまして、まあ、その部分に、側溝を入れて、普段は・・・つまり、夏場、夏場に雨が大量に降ると、浸透しても浸透しきれない感じがあるわけですが、それが建物側に来ることを想定して今建物側に来てるんで、これで充分であるかと思うんですが、	s: f5に対する不同意 f6: 評価		
85	男性Y	夏場はそれでいいと思うんですが、私は冬場の溶けてくる冬場の水がどこに流れて行かかっていうこと、予想つかない事がありそうで、どういう排水が屋根の所に、	s: f6に対する不同意 f7: 評価		
86	古谷	基本的には垂れ流しで作るから、周りに来るんですよ、で、周りに染み込ませようとしてるんで、今、ご心配されてる事件が起こる場合もあるんですが、それが、土の方ならともかく、今ここの舗装してある場合なら、特にって事です、よね、	s: f7に対する不同意 f8: 評価		
88	委員長	でも、屋根の軒下が垂直に、壁の方に垂直にもたれてますんで、その真下に、U字溝入れているんですね、ここなんかも良くみると、そういう風になってるんですが、ま、そうすると、一応、真っ直ぐ垂れて、真っ直ぐU字工に入ってくれば、	s: f8に対する同意		
89	男性Y	ただ、その、氷ってやつは、それを避けるために、余ったやつがだんだん蓄積していきますよね、その現象ってやつは、現場などの見た話をしてないと、多分推測だけでは、何が起こるか分からない、色々細かくてすみません、	s: f8に対する不同意 f9: 提案		
90	古谷	いえいえ、だから、それを踏まえて、IZさんからもお話いただいたので、色々ご相談してですね、一応外構についても色々アドバイス頂いて、盛り込んであるんですけど、それから、地元の設計に詳しい方にも、意見伺ってはいますので、もう一度確認します、凍結してる時にどうかということですね、	s: 同意		

■表 4-3-26 第 3 分節 (B) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
34	古谷	10回古谷34: アカマツの群落があるという状態をここに作るのはとてもマッチすると思うんだけど	F: 提案	トラブル源	<p>【植栽のアカマツについて】</p> <p>設計者は植栽に赤松を推している。</p> <p>男性Yは一貫して反対し、設計者との不同意が続く。</p> <p>女性KM130は、設計者に対して自己修復を促す働きをしている。</p> <p>古谷132,134から会議外でIZからも指摘を受けていたことが分かる。</p>
118	委員長	10回KIN118: じゃあ、一旦お戻り下さい。それじゃあ、あの、外の植木とか桜とか、そのあたりの木についてなんですが、前回の全体会の時ですね、建設運営の部会の皆さん中心に、ああと、役場の参事中心に、地元の専門家のご意見も頂きながら、もう少し時間掛けて考えましょうって事で、それから先の特に具体的な動きはなかったようですが、なのでもし、今先生の赤松とかね・・・なので、色んなご提言を受けて何か今の木についておっしゃりたい事あれば、お伝えいただければと思うんですが、Yさん、	f1: 依頼	修復開始	
121	男性Y	10回男性Y121: ...、赤松の扱いという考え方って、先生のお話を聞いてですね、...それにはちょっとあんまり賛同はできなかったっていうかですね、...木の手入れに関しては、相当維持費がかかって来ているんじゃないかと、その考えがちょっと個人的...それで、赤松も、手入れしないと見た目良くなって、あれ、凄く芽が伸び放題になっちゃうとですね、それに対する手入れって言うのは、素人じゃなかなか出来ないんですね、どの程度の赤松の樹形を考えてるのか、ちょっと疑問に思うんですが、	s: f1に対する同意 f2: 評価		
122	古谷	10回古谷122: ...私が思ってるのは松川沿いとかにあります、わりあい自然な群落の事を思ってますで、で、それがその、小布施のかつての、扇状地から、川に至る所のあちこちにあったんだろうなって推測するんですね、...それを復元的に、作れば良いなっていうのが、希望で...それはあの、図書館の目の高さのところで、は、あんまり視界を阻害しないという、...感じがいいかなって、それとわりあい、一番最初の頃に周りを森にしようって言った時、あんまりそれで、視界が塞がる様だと、不安感も出てくるってご意見も最初の頃の会にあったもんですから、...結構赤松の研究されてる方も地元いらしゃって、あの、非常に激減していると...今、とってこれる場所なんてないのかも知れないなって、	s: f2に対する不同意 f3: 評価	修復操作	
123	男性Y	10回男性Y123: それは、専門家がそうおっしゃってるならそうかも知れないけど、私らは山行けばいくらでもあって、で、いくらでも...気もするんで、ちょっと専門家の人は違う赤松だと思ってるのか...	s: f3に対する不同意 f4: 評価		
124	古谷	10回古谷124: 逆にですね、赤松...赤松林としてできた時には、あの、すみません、少し電気消してもらえますか？赤松林としてできた時には、さっきの落葉の時期が一定してるので、色んな、色んな時期に落ちる葉っぱの木に比べますと、以外にあっさり掃除が出来るって言う感じではある、	s: f4に対する不同意 f5: 評価		
125	男性Y	10回男性Y125: ただ、これ、手入れしないでやっているとあの、松川沿いの所みたいな、多分あれ、手入れしてないんじゃないですかね、	s: f5に対する不同意 f6: 質問		
126	古谷	10回古谷126: 手入れして無いと思います、	s: f6に対する回答(Yes)		
127	男性Y	10回男性Y127: ですよね、それはそれなりに風情があるのかもしれないけど、やっぱり、今の時期はそうかと思いますが、凄い、やたらと新芽が出る時期ですよね、その中に結構毛虫が入って、僕もこの頃、自分の所に2、3本あるもんだから見ると、真っ黒いねこのくらいの、5cmくらいの毛虫がバンバンついてるんですね、	f7: 評価		
128	古谷	10回古谷128: 赤松だけつくんですか？	s: f7に対する不同意 f8: 質問		
129	男性Y	10回男性Y129: 赤松ですね、だから、手入れはやっぱりね、	s: f8に対する回答(No) f9: 評価		
130	女性KM	10回女性KM130: 手入れが大変なんだ、	s: f9に対する同意		
131	男性Y	10回男性Y131: 他の広葉樹と違って、虫の住処になっちゃっている場合が、ま、木はどっち道そういことありますんで、ですから、もうちょっとサンプル増やして提案されて頂ければ...	f10: 提案		
132,134	古谷	10回古谷132,134: えっと、石崎さんからはですね、植栽案っていうのを頂きまして、それはただ、いっぱい、いっぱいなんですけど、ね、いっぱい書いてあるんですけど、...入手のしやすさ、メンテナンスや世話のしやすさ、それから、そういうことも含めて、検討した方がいいですよってアドバイスは頂きましたんで、それでちょっといくつか案にしてみようと思います、	s: f10に対する同意	修復操作(完了)	
135	男性Y	10回男性Y135: お願い致します、	t		

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 4-3-25 である。表に示したとおり、屋根の凍結問題に関して「女性 IK」と「男性 Y」から疑義が出されており、とくに「男性 Y」と設計者の対立関係を示しているとともに、最後に「男性 Y」が出した提案に設計者が同意しており「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程または「意見対立の解消」過程と見ることができる。

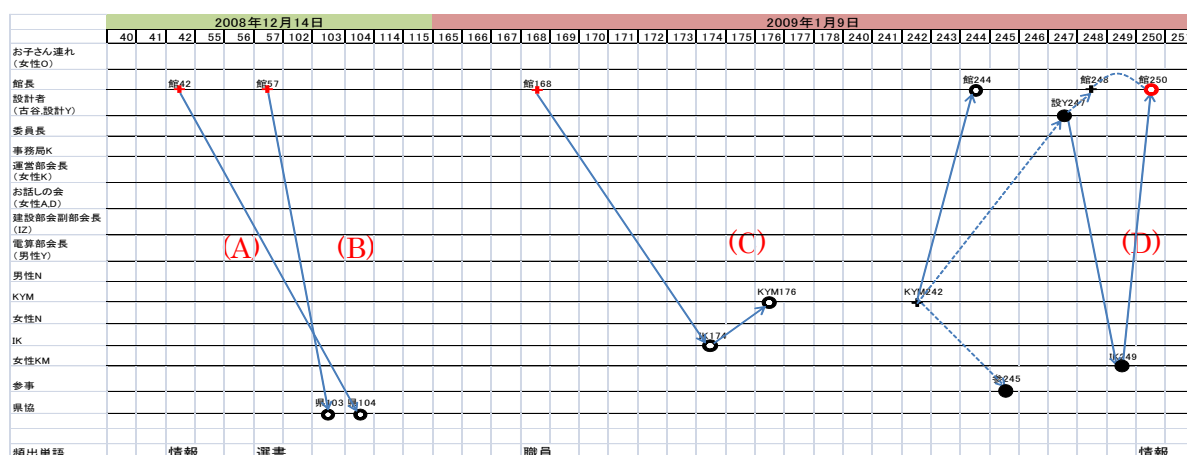
(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 4-3-26 であり、植栽に赤松を推す設計者と、反対する「男性 Y」との対立関係が見られるのみならず、最後に「男性 Y」が出した提案に設計者が同意している^{注15}ことから「意見対立の解消」過程と見ることができる。

以上のことから会話分析箇所として選定した理由、すなわち反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような対話構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

⑦-4 第 4 分節

次に第 4 分節について会話（談話）分析にふさわしい箇所を選定する。

しかし、図 4-3-10 から判るように、「同調」構造^{注16}や「対立」構造、あるいは複数の意見を受けて一つの意見にまとめるような構造や反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような構造が見られないため、本論では選定しないこととした。



■ 図 4-3-10 第 4 分節のコミュニケーション構造図における会話群

15 屋根の凍結問題と同様に、再度検討し直すという提案に同意している。

16 (C)については「同調」構造にも見ることができるが、発話内容を読んで確かめたところ「同調」はなかった。

第2項 データ縮約の結果

まず、会議録コーパス、(指標発話を抽出する) テキストマイニング結果、指標発話連鎖会話群、コミュニケーション構造図、会話(談話)分析の各ステージにおけるデータ数を下表に示す。

■表 4-3-27 小布施町事例の各ステージにおけるデータ数

	会議録コーパス ①	指標発話候補 (指標発話) ②	指標発話連鎖会話 群 ③	コミュニケーション構造図 ④	会話分析シート
小 布 施	1,453 データ数 (966 ターン)	173 データ数 (選定後 19)	101 データ数	92 データ数	53 データ数

先述のように9回分の会議録から会議録コーパスを作成したところ1,453データ数であった。

そして、それらの毎回の会議録の発話者とそのターン割合を算出し、ターン割合順位の変化から第1回と第2回、第4回から第8回、第10回と第11回、第12回と第13回の4つの時期区分に分類することができた。(この時点で全部で966ターンとなった。)

さらに、それらの時期区分ごとに、ターン割合が最も大きかった1位の発話者、及び各時期の頻出単語を調べ、この発話者の発話の中で頻出単語を含む発話(指標発話)を検索したところ、173データ数となった。ここまでがコンピューターソフトを用いたテキストマイニングによる縮約化を示したものである。

そして、同じ頻出単語を含む「指標発話」が複数検索されたので手順(補論.手順書参照)に従って代表的な「指標発話」に選定したところ19データ数となった¹⁷。

次にこの選定後の「指標発話」の前後に連鎖する発話を調べ「指標発話連鎖会話群」を作成すると101データ数となった。さらに「指標発話連鎖会話群」の会話群を賛成・反対に分けて並べコミュニケーション構造図を作成した。「指標発話連鎖会話群」の中には複数の「指標発話」に連鎖しているため重複して入力されている発話がある。これらは「コミュニケーション構造図」では1つのポイントとして表される。また、連鎖の相手方が省略(会話には存在していない)されていてコミュニケーション構造図で示すことができない発話もあったのでデータ(ここではポイント)数は若干減少し92データ数となった。

最後に「コミュニケーション構造図」から会話分析を行うにふさわしい(特徴的な構造を呈する)個所を選出し、テキストデータを抽出したところ53データ数となった。

¹⁷ 「指標発話候補」を「第2水準」の頻出単語で整理したところ147データ数となり、さらに代表的な発話「指標発話」に選定したところ19データ数となった。

第3項 分析の成果

前項で「コミュニケーション構造図」が、いくつかの構造的特徴を示しており、それが「意見対立の解消」過程を説明するものとして観察すべき個所を現示できていることを検証した。

ここでは、その現示した個所を対象にした会話（談話）分析を行う。

①リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の照合から分かること

まず前段にて「リーダーシップ構造」^{注1}の観点から「コミュニケーション構造図」の構造的特徴を観察し、その後で実際にどのような発話内容なのか吟味することとする。

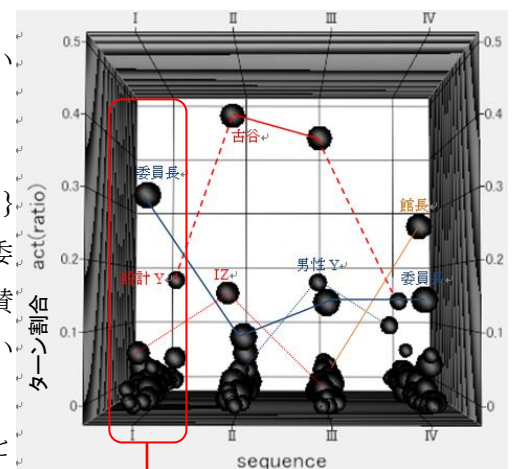
すなわち、「リーダーシップ構造図」から把握されるリーダーシップの変容は「コミュニケーション構造図」や実際の発話内容からどのように解釈できるのか、以下に第1分節から示していきたい。

①-1 第1分節の2つの構造図との比較を通して分かること

「設計 Y,282」から発せられた発話が「女性 D」に反対されている一方で「館長(286)」と「委員長(287)」からは賛成されている。またその「委員長,287」に対して「女性 A」が反対している。

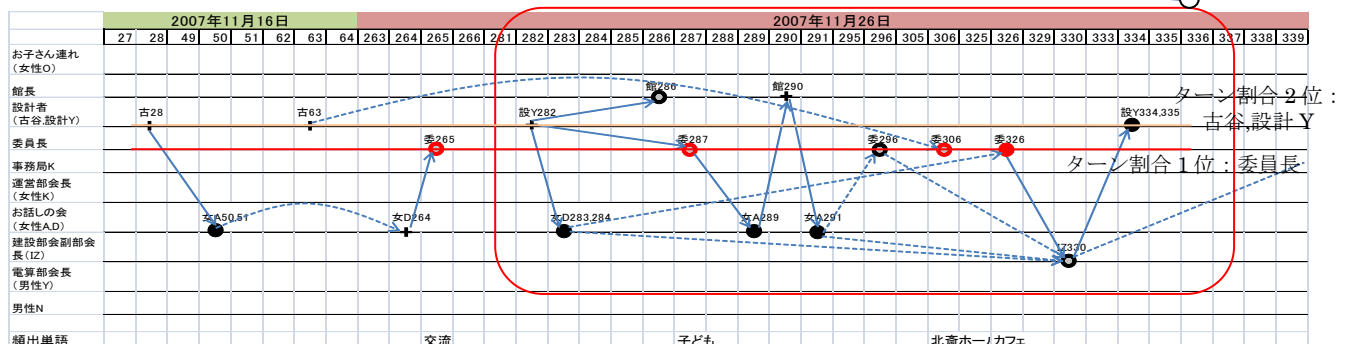
これは{「設計 Y」,「館長」,「委員長」}対{「女性 A」,「女性 D」}で対立構造があることを示している。しかし前グループに属する「委員長」は、「委員長,296」に見られるように後グループに対しても賛成的立場もとっていることから、両者の調整役を果たそうとしていることが分かる。

このことが、第1分節においてターン割合1位者が「委員長」となっている構造を意味していると考えられる。



I (第1分節): 2007年11/16~11/26

構造的特徴: 対立意見をまとめる



■図 4-3-11 第1分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

¹ 本論では、各分節のターン割合の上位者を（討議をリードした）リーダーシップと見立て、その変遷過程が各集団固有の構造的特徴を表すと考え、「リーダーシップ構造図」として表す。（図の詳細な作成方法は、補論「手順書」参照）

同じく調整役を果たそうとした「IZ」の、次の第2分節でターン割合が飛躍的に増え、逆に「委員長」のそれが減っていることを踏まえると、この「IZ,330」に見られる調整行為がリーダーシップ交替の契機（潮目）となったことを意味していると考えられる。

（i）第三者的立場（IZ）による調整に向けた介入

調整役としては、「IZ,330」も調整役を果たそうとしている。

実際に当該個所の発話内容を見てみると（表 4-3-20,21 参照）、「女性 D,283,284」は、交流機能には賛成だがそのことと完全＜ワンルーム化＞は必然的解決方法ではないことを提議し、設計者との間に在る問題点を顕現化する内容となっていることが分かる。そして「IZ,330」はそれを受けて、「多目的ルームみたいな」を作るという解決方法でこの対立を解消してはどうかと設計者側に促している行為となっている。「IZ」は建設部会の副部長であるが、交流機能をめぐる対立の当事者ではなく、その意味で「第三者的立場」の成員であると言える。

（ii）リーダーシップ（委員長）による調整に向けた努力

第2回会議は「古谷」が欠席しているためリーダーシップを「設計 Y」が果たそうとしたと考えられる。「設計 Y」は設計者側の「古谷」の共同代表である。「設計 Y」と町民との間で意見が対立する中で「委員長」もリーダーシップを果たそうとしたと考えられる。しかし「委員長(296)」は「女性 A、D」の意見を尊重する方向性を示すことはできても具体的な解決策を示せないでいる。

（iii）調整の失敗とリーダーシップ交替

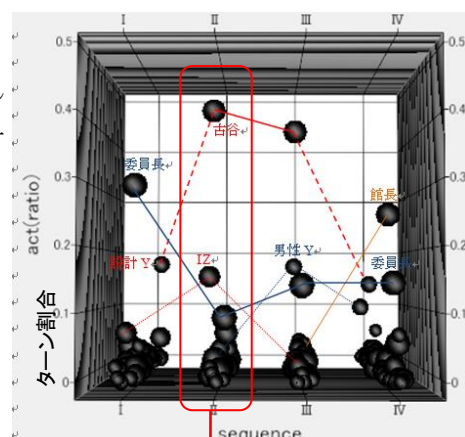
「委員長,326」、「IZ,330」と続いたものの「設計 Y(334,335)」が拒否によって連鎖を終結している。

ただし「IZ(330)」は、設計者側の＜ワンルーム化＞に反対するとともに具体的解決案を提示できている（表 4-3-21 参照）。設計者側にも町民側にも公平でなくてはならない委員長としての立場（から具体的な解決策を示すことは困難であること）を察すれば、「IZ」の行為は委員長にとって、「IZ」に今後のリーダーシップを期待する契機となったであろうことは容易に考察できる。

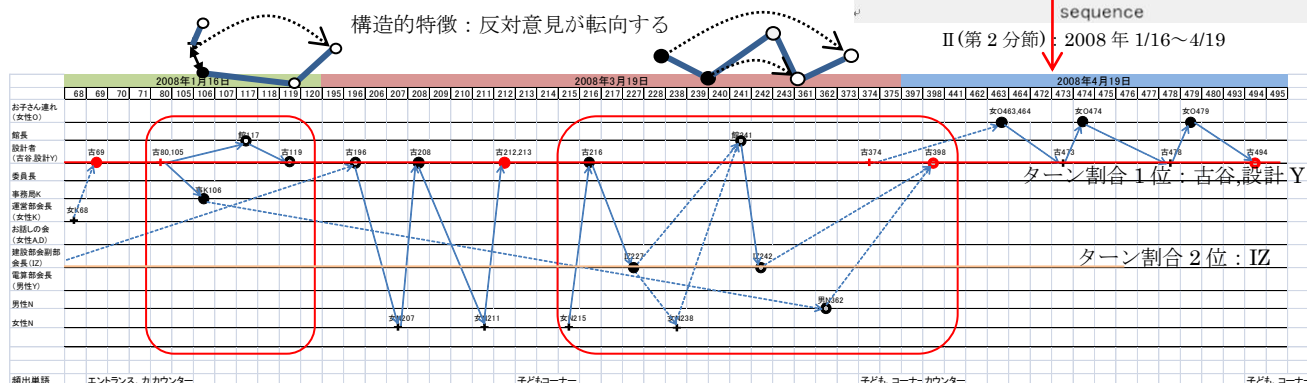
①-2 第2分節の2つの構造図との比較を通して分かること

「古谷,80,105」から発せられた発話が「事務局 K」には反対されている一方で「館長」には賛成されている。その「館長,117」に対してまた「古谷(119)」が賛同している。

これは{「古谷」,「館長」}対「事務局 K」で対立構造があることを示している。



II(第2分節) 2008年1/16~4/19



■図 4-3-12 第2分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) 第三者的立場(男性 N)による調整に向けた介入

回を超えて「男性 N,362」が(コンシェルジュカウンターに反対していた:表 4-3-22 参照)「事務局 K」に賛成的立場をとり、それに対して回を超えて「古谷(398)」も了承的立場をとっていることから、「男性 N(362)」は両者の調整役を果たしたことが分かる。この「男性 N」は当会の役員にも就いておらず、この利害対立とも無関係な成員であることから「第三者的立場」の成員であると言える。

(ii) 設計者と対立する町民の意思を代弁するリーダーシップ(IZ)

「古谷,398」に対するもう一つの発話として「IZ,242」がある。この連鎖を遡ると、「古谷(216)」に対して「IZ (227)」が(「今の話は元に戻っているんですね。」:表 4-3-22 参照:と) 批難していることが分かる。そしてその後「館長(241)」に対して賛成した「IZ,242」に対して、「古谷(398)」も了承的立場に変わっていることから、「館長」と「IZ」は調整を果たしたことが分かる。

3月以降は常に対立構造の片方に「古谷」が存在し、もう片方に様々な町民が発話するといった構造が見られる。このことが第2分節のターン割合1位者が「古谷」であることを意味する。同時に、2位者が「IZ」であることは、なかでも「IZ」がそれら町民の意見を代弁して積極的に発話していたことを表していると考えられる。

「古谷,398」は、カウンターをテーマにした前半(1月16日)と、カフェコーナーをテーマにした後半(3月19日)の両方で見られる。実際に当該個所の発話内容を見てみると、最終的に設計変更していることが分かるが、それを促したのは上述のように「男性 N,362」と「IZ,242」であるが、「IZ(227)」²からは「古谷」に対して忌憚なく批難を行っていることが分かる。ここからも「IZ」がこの時期において会議をリードする役割を意識していたことを察することができる。

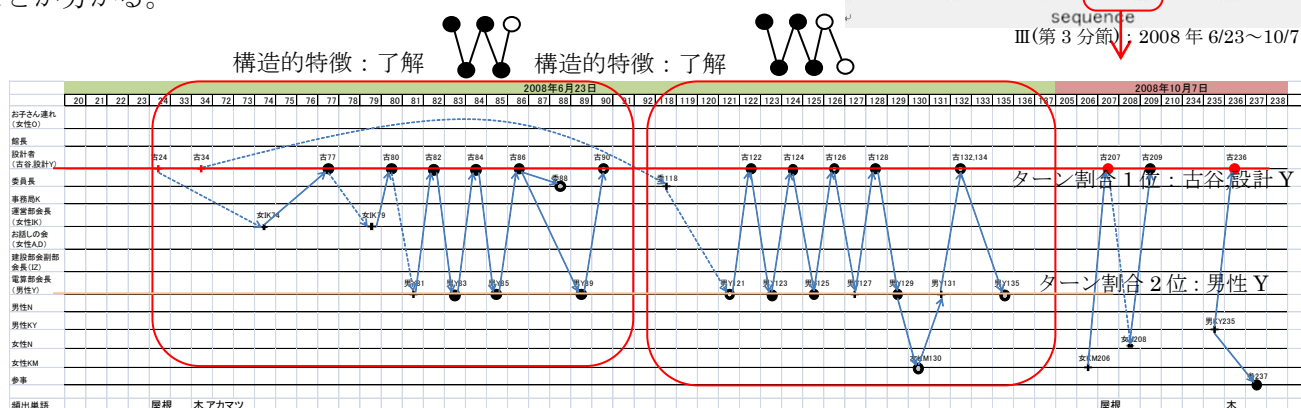
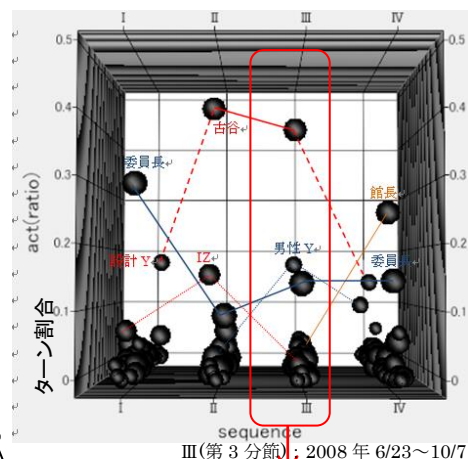
² 「今の話は元に戻っているんですね。」

①-3 第3分節の2つの構造図との比較を通して分かること

「男性 Y,81」から発せられた発話が「古谷,82」で反対され、以後両者の間で「不同意」が続いている。

また「男性 Y,121」から発せられた発話が「古谷 122」で反対され、以後両者の間で「不同意」が続いている。

これは「古谷」対「男性 Y」で対立構造があることを示している。しかし「古谷,90」、「古谷,132,134」に見られるように何らかの合意で終結していることから、両者は討議によって対立構造を解消したことが分かる。



■図 4-3-13 第3分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) リーダーシップ (IZ) の代弁的機能を担った男性 Y

「古谷」との長いやり取りから「男性 Y」が会議をリードする役割を意識していたことを観察することができ、実際に当該個所の発話内容を見てみると、まず「古谷,90」、「古谷,132,134」にも、(男性 Y から指摘された事項を) 会議外で「IZ」から指摘を受けていたエピソードが含まれていることが分かる(表 4-3-25,26 参照)。そしてこの会議には「IZ」は欠席していることを踏まえると、「男性 Y」は「IZ」の代弁者として「古谷」と討議していたと洞察できる。

この時期分節においても設計者(古谷)と住民との対立が続いているが、第1分節や第2分節で積極的に参加していた「館長」や「IZ」はこれら2つの構造図にはほとんど表れていない³。このことが第3分節のターン割合1位が「古谷」で、2位が「男性 Y」であることを意味していると考えられる。

そして「委員長,118」において、(委員長が) テーマを限定し「男性 Y」に意見を求めていることから、「IZ」、「館長」がいない場において「委員長」が「男性 Y」に会議をリードする役割を期待していたことも洞察できる(表 4-3-26 参照)。

(ii) 討議らしい相互行為が見られない第11回会議

前述のように第10回の会議では設計者と争点をもった討議があったものの第11回になると、そこには「IZ」や「館長」や「男性 Y」も参加していたにもかかわらず討議らしい連鎖が見当たらない(コミュニケーション構造図に長い会話の連鎖が登場していない)。

実は、第10回と11回との間に入札の不調があり、大幅なコストダウンに向けた設計変更があったことが分かっている。この外的環境を踏まえると、設計もほぼ固まり、施設機能について討議する時期が過ぎたことが原因であると洞察できる。

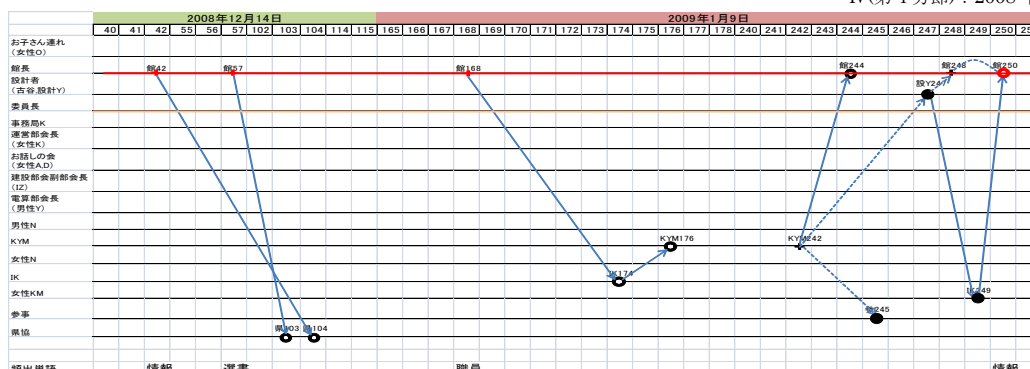
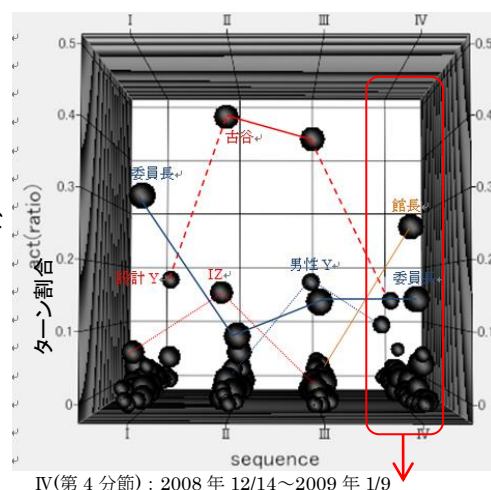
³ 第10回の会議(sequence:T)には両者とも欠席だったことが分かっている。

①-4 第4分節の2つの構造図との比較を通して分かること

前述したとおり、第4分節には顕著な対立構造が見られない。特に第12回（2008年12月）においては「館長」の発話が、或る程度時間がたってから振り返りのように（他者によって）話題にされている状況が確認される。またそれについてもほとんど連鎖がなく終結している状況が分かる。この状況は第13回（2009年1月）に入っても見られる。

（i）館長がリーダーシップとして登場する背景

前述のように対立構造がほとんどないため「指標発話連鎖会話群」からは情報が多く得られない。



ターン割合1位：館長
ターン割合2位：委員長

■図4-3-14 第4分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

そこで会議録に振り返って見てみると、第12回では館長の指針表明を、第13回は設計者側から最終的な家具（本棚と机）の配置の説明を行っていることが分かる。両会議とも「古谷」と「IZ」は参加しておらず、第1分節から第3分節に比べると参加者が減っている⁴ことも原因しているが、前分節の第11回以降、設計がほぼ固まり、施設機能について討議する時期が過ぎたことを容易に洞察することができる。

このようにして第4分節でターン割合1位者が「館長」であるのは、新しい図書館についての様々な目標表現を行っているからであると考えられる。

⁴ 表4-3-17参照。

②意見対立の発生と展開の実態

以上、2つの構造図の比較から、各分節でのリーダーシップは（第4分節を除き）対立構造を解消するための何らかの調整を果たす、あるいは果たそうとした行為の主体であることが分かった。

ここでは、具体的にどのように調整機能を果たしたのか、その過程を会話（談話）分析によって明らかにする。

②-1 タイムシェアリングをめぐる争点对立（第1分節において）

まず前①-1において、{「設計 Y」,「館長」,「委員長」}対{「女性 A」,「女性 D」}で対立構造があり、「委員長」と「IZ」が調整を果たそうとしたことを提示したので、「委員長」と「IZ」の発話に注視して分析して見ることとする。（次頁の表参照）

（i）「委員長」が果たした代弁機能について

「委員長,287」は、「館長,286」に対する同意のみならず、「（お話しの会）に対する「館長」の）代弁機能^{注5}を果たしていることが分かる。そして「館長,286」は「設計 Y,282」の代弁機能を果たしているので、「設計 Y」の代弁機能も果たしている行為だと言える。

また「委員長,296」は、「すぐに結論を出さずに1年間討議してほしい」という意味であることから「館長,290」及び「女性 A,291」双方の代弁機能をも果たしている行為だと言える。

なお「女性 D,283・284」は設計者との間に在る問題点を顕現化し、「このまま進行してほしくない」という意思の表れ^{注6}でもあることから、「委員長,296」は設計者に対して「<すぐに結論を出さずに>お話しの会の提示した問題点にも配慮した設計変更^{注7}をしてほしい」と促す内容にもなっていることが分かる。

さらに「委員長,326」もカフェに対する「古谷」と「館長」の代弁機能を果たしていることが分かるとともに「女性 D,283・284」に対して、「<カフェは要らない>と前提としたまま発話を続けなくてほしい」という意思の表れ^{注8}でもあると言える。

（ii）「IZ」が果たした代弁機能について

「IZ,330」は、「委員長,296」と同様に設計者に設計変更を促すものだが、同時に具体的変更内容まで提示している。その意味では「委員長」や「お話しの会」だけでなく設計者の代弁機能^{注9}も果たしていると言える。

このようにして「IZ」が調整を果たそうとしたが、「設計 Y,334・335」に拒絶されて、結局この時期分節では調整の実現^{注10}はなかった^{注11}。

ただし、ここで「IZ」はもともと対立構造となっている{「設計 Y」,「館長」,「委員長」}側にも{「女性 A」,「女性 D」}側にも属さない第三者的立場にすることが注目に値する。

⁵ 本論では、何らかの理由で理解してもらいたい（あげたい）他者のために、その他者の立場に立って説明・補足する、あるいは言い換えたり翻訳したりする行為を「代弁機能」ないし「代弁的発話行為」と呼ぶことにした。

⁶ 本論ではこのように了解志向のうで相手にトラブル源を提示する発話行為を「修復の開始」と呼ぶことにした。ただし狭義の会話分析で定義する「修復の開始」に当てはまるかどうかは、ここでは問わない。

⁷ 設計者に対して「修復の操作」を促している行為であり、「他者修復」であるように見えるが、設計者側が「修復の操作」を行うまで修復は完了しない。なお本論ではこのような文脈での「設計変更」は「修復の操作」の一つであると考ええる。

⁸ 本論ではこれも「修復の開始」であると考えた。ただし狭義の会話分析で定義する「修復の開始」に当てはまるかどうかは、ここでは問わない。

⁹ 設計者の提唱してきた「カフェコーナー」を多目的ルームで実現するという意味において。

¹⁰ ここでは設計者側が「設計変更」を提示して、「修復の操作」が完了することをさす。

¹¹ 結局この操作の完了は第2分節「古谷 196」で行われる。表 4-3-6 参照。

(再掲) 表 4-3-20 第 1 分節 (B) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
282	設計Y	私たちの案は幸いにしてワンルームという提案ですので、 …こんな図面体で全部が交流センターで図書館だと、そうしたもの が自然にできるといいなあと…	F: 提案	トラブル源	【タイムシェアリングについて】 設計者と館長は肯定的。 お話の会(女性D,女性A)は否定的。 委員長は、お話し の会を排除しようとせず、この争点を 全体で解消しようと考えている。
283,284	女性D	…カフェのくつろげる所があるのは嬉しいのですが、それによ って交流のスペースが少なくなっているようにも思えて、 …おはなし会をする時はちょっと区切ってもらったり、それが 終わればもうオープンの状態にしてもらって、いろいろ使える ようなゆったりと交流できるようなところが欲しいなあと… …町民サロンに自動販売機がありますので、カフェはそち らの方で良いと思ったのです。	S: 不同意 f1: 申出	修復開始	
286	館長	…タイムシェアリングしていけば結構解決できるんじゃない かなというふうに僕は思います…	S: F1に対する同意		
287	委員長	2回委員長/287: この時間帯はキッズ(子ども)パラダイスの時間ということ にして、子ども達がいくらか声を出しても良いというような時 間で…	S: F1に対する同意 f2: 提案		
289	女性A	…ちょっと無理です、なぜなら、例えばおはなし会は子ども たちに合わせて今年度も時間帯を変えたりしてきました、 …やはり保障された空間が欲しいと…	s: f2に対する不同意 f3: 申出		
290	館長	…北斎ホールの学習室も使うとか…全てタイムシェアリン グして下さいと言わないですけれども、ある程度の考える余地 としてはあるのではないかと…	f4: 依頼		
291	女性A	…図書館から離れた所でこの会をしても、単なるイベントに なってしまう、ですから図書館内にこれができる場所 がどうしても欲しいと…	S: f4に対する不同意 f5: 申出		
296	委員長	…そういう今のようなご提案やご要望こそ、これから一年 かけて反映させていただいて…	s: f5に対する同意 f6: 提案		

(再掲) 表 4-3-21 第 1 分節 (C) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
326	委員長	人が居てコーヒーを出してくれるカフェ、喫茶店のようなも のというような案もあれば、自動販売機だけを置くという案 もあります、…カフェは要らないという発想ではなく、あり 方としてどんな物があるのかという、	F1: 依頼	修復開始	【多目的ルームの提案について】 IZは女性 D283,284,女性 A291への解決案 として提案してい る。 設計Yがその提 案を拒否してい る。
330	IZ	…一つ多目的ルームみたいなのを作れば、…映画が出来たり だとか、おはなしの会もできるし、…ここにカフェみたくのを 作ったって結構なのですけれどね、	s: F1に対する受諾 F2: 提案	296から繋がる修復の操作	
334,335	設計Y	…声が聞こえる所でちょっとお茶くらい飲んで待つという感 じで、そのお母さん達が寛げる所でもあるかなと思って… …多目的ルーム…私は気持ちとしては館内のわざと分け ない場所だと思います…	S: F2に対する不同意		

②-2 コンシェルジュカウンター・カフェコーナーをめぐる争点对立（第2分節において）

まず前①-2において、{「古谷」,「館長」}対「事務局 K」で対立構造があり、「男性 N」と「IZ」が調整を果たそうとしたことを提示したので、「男性 N」と「IZ」の発話に注視して分析して見ることとする。

(i) コンシェルジュカウンターを多目的カウンターに改めさせた「男性 N」の代弁的発話行為

「男性 N,362」は、設計者側に対して、コンシェルジュカウンター(プチカウンター)案を前提としたままで議論を進めてほしくないという意思のみならず、前述のとおり「古谷」に対する「事務局 K」の代弁機能を果たしていることが分かる。

これに対して設計者側は、「古谷,398」に見られるように回を超えて(多目的カウンターに)設計変更して応じているので、「男性 N」の調整の試みは実現されたとと言える。

ここで、「男性 N」はもともと対立構造となっている{「古谷」,「館長」}側にも「事務局 K」側にも属さない。また役付もなく新住民の若者であることから、同じ第三者的立場でも、(当会の建設部会の副部会長)「IZ」と比較すると、この成員はさらに第三者的立場の成員であると言え^{注12}、この点が注目に値する。

(再掲) 表 4-3-22 第2分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
105	古谷	こちら辺にコンシェルジュカウンターがあって、で、ここにメイン、これは本をレファレンスされたり、中のこの・・・したりするときに使うカウンターという感じで、二段構えなんです。	f1: 提案	トラブル源	【コンシェルジュカウンターの提案について】 設計者側が異なる提案をした(古谷69の)理由として挙げている。
106	事務局K	…そしたら多分、そのプチカウンターのほうの利用が非常に多くなるんじゃないかと思うので、あの一、結局大騒ぎになってしまうのかなって感じが…	s1:f1に対する非同意		
117	館長	…僕はそこにいるのかなって想像もしますし、…あの一、新しい感覚じゃないかなと…僕も実際、あの一、ほかの建物、まあ、図書館だけでなく、建物に行ったときに、いきなりエントランスで人に、あの一、見られるのはやだなと。	s2:f1に対する同意		
119	古谷	…花井さんがここにいてくれれば、本当、いいねー。	t: s2に対する賛同		
362	男性N	…コンシェルジュカウンターなどについてやはり、これはやって見なければ分からないだろうというのがあって、その辺はやってみて職員の使い勝手に考えてもらいたいと。それで職員がやりやすいようにやることで、生き生きと働いてもらって雰囲気の良い図書館になるんじゃないのか…	f2: 提案	修復開始	
398	古谷	…長い議論の末サービスカウンターとコンシェルジュカウンターが一対のサービス業務を行うことになりました。…カウンターそのものは…変更可能にしておいてほしいと…給水給湯設備は、お茶ぐらい沸かせる設備をここに作っておこうと…	S: f2に対する受諾 f3: 提案	修復操作(完了)	

(ii) カフェコーナーを残す契機となった「IZ」の代弁的発話行為

「IZ,242」は「館長,241」に対する同意のみならず、「女性 N」に対する「館長」の代弁機能を果たしていることが分かる。そして「館長,241」は「古谷,216」の代弁機能を果たしているので、「古谷」の代弁機能を果たしている行為だとも言える。しかし「IZ,227」は「古谷,216」に対してこのまま進行してほしくないという(不同意の)意思を表していた。^{注13}

¹² 表 4-3-40 の「重みづけ」で「IZ」は3点、「男性 N」は1点。小布施堂従業員。

¹³ 「IZ227」の「今の話は戻っているんですね」は「古谷 216」の後半部分に対して向けられている。(表中にない発話も

つまり「IZ(227)」自身も「館長,241」によって「古谷(216)」に対して賛同的立場に変わったとともに「古谷(398)」も「IZ(242)」に対して賛同的立場に変わったと言える。

このように「IZ」が「館長」及び「古谷」の代弁機能を同時に果たすことにより調整を実現化できた過程を把握することができた。

ここでは、それほど顕著な対立構造はないが、発話内容に若干の相違があったのははもとと「女性,N215」と「古谷,216」のやりとりである。このことから見れば、当事者ではない「IZ」と「館長」が調整を図ろうとしたと捉えることができ、やはりここでも第三者的立場の成員の介入による調整行為を見ることができる。

(再掲) 表 4-3-23 第 2 分節 (D) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
215	女性N	…来館者が飲物を飲む場所は、こちら辺になる訳ですか？	f1: 質問		【カフェコーナーについて】 カフェコーナーが一度は廃案となりかけたが、館長241によって当初案より縮小されて実現化した過程を示している。
216	古谷	…休憩室の中には館員の方のがありますけれどこちらには本当に簡易な給排水を設けておいて…お客さんに一杯お茶を出して差し上げるような感じでいこうというのであればやれなくはない、と…	s:f1に対する回答 (No)	トラブル源	
227	IZ	…今の話は元に戻っているんですね。カフェがなくちゃいけないとか。	f2: 評価	修復開始	
238	女性N	…コーヒーコーナーは設けないでそちらで集約するって決めた訳なんですね。	f3: 質問		
241	館長	…給湯があれば将来的に使えるかも知れない…	f4: 提案		
242	IZ	温泉の休憩室じゃないけど、お湯を沸かしてポットに入れて貸してもいい…	s: f4に対する同意 F: 提案		
398	古谷	…長い議論の末サービスカウンターとコンシェルジュカウンターが一対のサービス業務を行うことになりました。…カウンターそのものは…変更可能にしておいてほしいと…給湯設備は、お茶ぐらい沸かせる設備をここに作っておこうと…	S: Fに対する回答	修復操作 (完了)	

②-3 外構 (凍結対策・植栽) をめぐる対立と解消過程 (第 3 分節において)

まず前①-3において「古谷」対「男性 Y」で対立構造があり、やがて討議により合意に達したことを提示したので、「古谷」と「男性 Y」の争点に注視して分析して見ることとする。(次頁、次々頁の表参照)

(i) 争点 (凍結対策) における「男性 Y」による「IZ」の代弁的発話行為

この争点は、第 10 回での「男性 Y,81」のように、地面の凍結が屋根の軒裏に影響を及ぼすことを指摘しており、これに対して「古谷」が反論し、また「男性 Y」が反論するというやり取りが続く。やがて「古谷,90」(「…もう一度確認します、」)と応答して、最終的にはやりとりが収束している。

収束までのやり取りが長く続いたのはそれだけ「男性 Y」が「不同意」を続けたからである。その理由は、「男性 Y,81・83」より、彼の経験に基づく凍結への危機意識が背景にあるようにも見えるが、「古谷,90」から分かるように「IZ」からの指摘が事前にあったことを踏まえると、「IZ」の代弁的発話行為であったと洞察できる。

手掛かりにしなくてはならないが)「古谷」が「女性N」の質問に触発されて、カフェ提供型のカフェコーナーの話題を復活させようとしたことによる。このように何らかの理由で対話の進行をそのまま続けたくないという意味が現われた発話行為を本論では「修復開始」と呼ぶ。

(再掲) 表 4-3-25 第 3 分節 (A) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
24	古谷	垂鉛メッキステンレス鋼板の屋根が・・・コールドルーフという言い方があるんですけども、屋根を冷たい時に冷たいものにしておくことで	f1: 提案		【屋根の凍結問題について】 コールドリーフ構造に関連して、女性IKと男性Yから疑義が出ている。 疑義に対して設計者は不同意を示している。 男性Yと設計者との不同意が続いている。 古谷90から、この問題については会議外でIZから指摘を受けていたことが分かる。
74	女性IK	あの、すみません、多目的室や書庫のとの屋根もコールドルーフになってるんですか？同じ形？色と？それと書庫の・・・	f2: 質問		
77	古谷	・・・こっちはコールドルーフになってませんが、・・・ここは通常のアスファルトシートの防水でつくろうと思っています、断熱材はもちろん入ってます、・・・そういうシート系の防水って基本的に全部密着されてる場合、途中周りから水が流れ込むって事は普通はないですね、た・・・10年乃至長くても12・3年に一回来て、あれを手入れしてあげれば、このシート系の防水では、コールドルーフにしなくても、支障は無いと思っています、・・・	s: f2に対する回答(No)		
79	女性IK	・・・書庫の湿気が良いのかなって思って、	F: 質問		
80	古谷	それは、全く問題ないと思います、水分は回ることもありませんし、断熱はしてあるんで、結露はしない、	S: 回答No		
81	男性Y	さきほど、屋根のすぐ脇の所で、僕砂利だと思ったら、こちらの方だけ吸水アスファルトみたいなものがあって、それでその場合ですね、あの水分がですね、冬季浸透してくれればいいんですが、凍結すると結局氷面になってしまうんですね、・・・軽井沢なんかに行ってみると屋根のその、合流されたところの、入ってくる下が、広がってその水の染み込みがあるんですが、どうしてかなと思ったら、下が凍っちゃってるから、・・・その実験的なことが果たしてされてるかなって、ちょっと、今思いました、	f3: 評価		
82	古谷	一応ですね、この、この部分にはU字溝が入ってまして、要するに、集水する溝が入ってまして、表面で吸いきれなくなったら、その溝に、流すようになっている、ただ、まあ、冬季は土壌そのものが凍ってる時があって、凍ってる状態で、ま、雨が降るという状況が中間的に起こらないとは言えない訳なんですけど・・・	s: f3に対する不同意 f4: 評価		
83	男性Y	あの、私も、お屋頃に行ったら、溶けない部分と溶ける部分と一緒にになってそのまま危険地域で柵をするような形になってますね、そういう所があったもんで、今の、合理的には多分難しいんだと思うんですけども、その今の水がどうはけるのとか聞いてなかったんですが、それが効果を発揮してくれらと思うんですけどね、	s: f4に対する不同意 f5: 評価		
84	古谷	そうですね、今の此方の完全に土なんで、一のままなんですけど、これに関しましてはここが透水性アスファルトになりまして、まあ、その部分に、側溝を入れて、普段は・・・つまり、夏場、夏場に雨が大量に降ると、浸透しても浸透しきれない感じがあるわけですが、それが建物側に来ることを想定して今建物側に来てるんで、これで充分であるかと思うんですが、	s: f5に対する不同意 f6: 評価		
85	男性Y	夏場はそれでいいと思うんですが、私は冬場の溶けてくる冬場の水がどこに流れて行かかっていうこと、予想つかない事がありそうで、どういう排水が屋根の所に、	s: f6に対する不同意 f7: 評価		
86	古谷	基本的には垂れ流しで作るから、周りに来るんですよ、で、周りに染み込ませようとしてるんで、今、ご心配されてる事件が起こる場合もあるんですが、それが、土の方ならともかく、今ここの舗装してある場合なら、特にって事です、	s: f7に対する不同意 f8: 評価		
88	委員長	でも、屋根の軒下が垂直に、壁の方に垂直にもたれてますんで、その真下に、U字溝入れているんですね、ここなんか良くみると、そういう風になってるんですが、ま、そうすると、一応、真っ直ぐ垂れて、真っ直ぐU字工に入ってくれば、	s: f8に対する同意		
89	男性Y	ただ、その、氷ってやつは、それを避けるために、余ったやつがだんだん蓄積していきますよね、その現象ってやつは、現場などの見た話をしないと、多分推測だけでは、何が起こるか分からない、色々細かくてすみません、	s: f8に対する不同意 f9: 提案		
90	古谷	いえいえ、だから、それを踏まえて、IZさんからもお話いただいたので、色々ご相談してですね、一応外構についても色々アドバイス頂いて、盛り込んであるんですけど、それから、地元の設計に詳しい方にも、意見伺ってはいますので、もう一度確認します、凍結してる時にどうかということですね、	s: 同意		

(再掲) 表 4-3-26 第 3 分節 (B) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
34	古谷	10回古谷34: アカマツの群落があるという状態をここに作るのはとてもマッチすると思うんだけど	F: 提案	トラブル源	<p>【植栽のアカマツについて】</p> <p>設計者は植栽に赤松を推している。</p> <p>男性Yは一貫して反対し、設計者との不同意が続く。</p> <p>女性KM130は、設計者に対して自己修復を促す働きをしている。</p> <p>古谷132,134から会議外でIZからも指摘を受けていたことが分かる。</p>
118	委員長	10回KIN118: じゃあ、一旦お戻り下さい。それじゃあ、あの、外の植木とか桜とか、そのあたりの木についてなんですが、前回の全体会の時ですね、建設運営の部会の皆さん中心に、ああと、役場の参事中心に、地元の専門家のご意見も頂きながら、もう少し時間掛けて考えましょうって事で、それから先の特に具体的な動きはなかったようですが、なのでもし、今先生の赤松とかね・・・なので、色んなご提言を受けて何か今の木についておっしゃりたい事あれば、お伝えいただければと思うんですが、Yさん、	f1: 依頼	修復開始	
121	男性Y	10回男性Y121: ...、赤松の扱いという考え方って、先生のお話を聞いてですね、...それにはちょっとあんまり賛同はできなかったっていうかですね、...木の手入れに関しては、相当維持費がかかって来ているんじゃないかと、その考えがちょっと個人的...それで、赤松も、手入れしないと見た目良くなって、あれ、凄く芽が伸び放題になっちゃうとですね、それに対する手入れって言うのは、素人じゃなかなか出来ないんですね、どの程度の赤松の樹形を考えてるのか、ちょっと疑問に思うんですが、	s: f1に対する同意 f2: 評価		
122	古谷	10回古谷122: ...私が思ってるのは松川沿いとかにあります、わりあい自然な群落の事を思ってますで、それがその、小布施の、かつの、扇状地から、川に至る所のあちこちにあったんだろうなって推測するんですね、...それを復元的に、作れば良いなっていうのが、希望で...それはあの、図書館の目の高さのところで、は、あんまり視界を阻害しないという、...感じがいいかなって、それとわりあい、一番最初の頃に周りを森にしようって言った時、あんまりそれで、視界が塞がる様だと、不安感も出てくるってご意見も最初の頃の会にあったもんですから、...結構赤松の研究されてる方も地元いらしゃって、あの、非常に激減していると...今、とってこれる場所なんてないのかも知れないなって、	s: f2に対する不同意 f3: 評価	修復操作	
123	男性Y	10回男性Y123: それは、専門家がそうおっしゃってるならそうかも知れないけど、私らは山行けばいくらでもあって、で、いくらでも...気もするんで、ちょっと専門家の人は違う赤松だと思ってるのか...	s: f3に対する不同意 f4: 評価		
124	古谷	10回古谷124: 逆にですね、赤松...赤松林としてできた時には、あの、すみません、少し電気消してもらえますか？赤松林としてできた時には、さっきの落葉の時期が一定してるので、色んな、色んな時期に落ちる葉っぱの木に比べますと、以外にあっさり掃除が出来るって言う感じではある、	s: f4に対する不同意 f5: 評価		
125	男性Y	10回男性Y125: ただ、これ、手入れしないでやっているとあの、松川沿いの所みたいな、多分あれ、手入れしてないんじゃないですかね、	s: f5に対する不同意 f6: 質問		
126	古谷	10回古谷126: 手入れして無いと思います、	s: f6に対する回答(Yes)		
127	男性Y	10回男性Y127: ですよね、それはそれなりに風情があるのかもしれないけど、やっぱり、今の時期はそうかと思いますが、凄い、やたらと新芽が出る時期ですよね、その中に結構毛虫が入って、僕もこの頃、自分の所に2、3本あるもんだから見ると、真っ黒いねこのくらいの、5cmくらいの毛虫がバンバンついてるんですね、	f7: 評価		
128	古谷	10回古谷128: 赤松だけつくんですか？	s: f7に対する不同意 f8: 質問		
129	男性Y	10回男性Y129: 赤松ですね、だから、手入れはやっぱりね、	s: f8に対する回答(No) f9: 評価		
130	女性KM	10回女性KM130: 手入れが大変なんだ、	s: f9に対する同意		
131	男性Y	10回男性Y131: 他の広葉樹と違って、虫の住処になっちゃっている場合が、ま、木はどっち道そういことありますんで、ですから、もうちょっとサンプル増やして提案されて頂ければ...	f10: 提案		
132,134	古谷	10回古谷132,134: えっと、石崎さんからはですね、植栽案っていうのを頂きまして、それはただ、いっぱい、いっぱいなんですけど、ね、いっぱい書いてあるんですけど、...入手のしやすさ、メンテナンスや世話のしやすさ、それから、そういうことも含めて、検討した方がいいですよってアドバイスは頂きましたんで、それでちょっといくつか案にしてみようと思います、	s: f10に対する同意	修復操作(完了)	
135	男性Y	10回男性Y135: お願い致します、	t		

（ii）争点（植栽のアカマツ）における設計者（古谷）に対する同調圧力

植栽のアカマツに対しては、第10回で「男性Y, 121」と、維持管理面での疑義が申し立てられている。これに対して「古谷」と「男性Y」のやり取りが続く。

設計者側がアカマツを勧めた理由は、「古谷, 122」と説明するが、「男性Y, 123」は地域ならではの事情を説明している。このように設計者側の設計に込める＜思い＞と地元住民の常識との相違が対立の原点にあるが、「男性Y」から「もうちょっとサンプル増やして提案されては」（131）という提案があると、「古谷」が「ちょっといくつか案にしてみようと思います、」（132, 134）と応答して最終的にやりとりが収束している。

収束までのやりとりが長く続いたのは、それだけ「男性Y」と「古谷」が互いに不同意を示し続けたからであるが、途中から「古谷, 128」（「赤松だけにつくんですか？」）とあり、「古谷, 132・134」（「…そういったことも含めて検討した方がいいですよって…」）とあることから最終的に「男性Y」に同調したことが観察できる。

また「女性KM, 130」（「手入れが大変なんだ」）も、設計者側に設計変更を促す「同調圧力」をかけている行為、ないしそれを目的とした行為^{注14}であると解釈できる。

またこの長いやりとりは、（古谷, 34より）トラブル源者となった「古谷」が「自己修復（訂正）」する機会を（男性Yが）担保してあげた行為であると言える。

なお「男性Y」が「不同意」を続けた理由は、「男性Y, 127」より、彼の経験に基づく虫害への危機意識が背景にあるようにも見えるが、「古谷, 132・134」から分かるように「IZ」からの指摘が事前にあったことを踏まえると、「IZ」の代弁的発話行為であったとも洞察できる^{注15}。

③目標表現の共有過程

以上、意見対立の解消過程から、（第4分節を除き）各分節での対立構造を解消するための何らかの調整を果たす、あるいは果たそうとした行為を見てきた。

ここでは、意見対立の解消の結果として、どのような共有目標が生み出され了解されていったのか、各分節横断的にその争点となったテーマを追跡する（談話分析）ことによって明らかにする。

（i）図書館利用団体のために内室を設ける契機になった「IZ」の言説

設計者側は第1回から図書館を基本的にワンルームと捉えて、なるべく仕切らない方針を示していたが、前述のとおりこの争点が出現したのは第2回であり、カフェコーナーの是非の討議のなかで「IZ, 330」という提案が出たとき設計者側はその場では仕切らない方針を示したが、この方針に明確な変化が見られるのは第6回であり、「古谷, 196」と多目的室が登場する（脚注11参照）ことを考えると「IZ, 330」がいわゆる「言説」^{注16}であったと言える（図4-3-11, 12参照）。これにより利用団体の活動場所の担保が全体に共有化されることとなったと理解できる。

（ii）図書館内にカフェコーナーを設ける契機になった「館長」の言説

設計者及び若いお母さん方から交流拠点として重要な機能と位置付けられていたカフェコーナー

¹⁴ 当事者以外の第三者からの調整行為についてなかったかと言えば、直接の介入はなかったにしても「女性KM, 130」に見られるように「手入れが大変なんだ」と問題点を明確化することで設計者側に設計変更を促す行為が見られる。

¹⁵ 表中にはないが、実際に「男性Y」の発話の中にも「男性Y, 119：前回, IZさんの意見があったと思うんですが…」（会議録コーパスより）とある。

¹⁶ ここでは後の討議に参加する成員へ大きな影響を与えた発話という意味で用いる。

と、利用団体が新図書館に求める活動空間とがトレードオフの関係となって表面化したのは前述のとおり第2回であり、この会議のカフェコーナーの是非の討議の中でまず「設計 Y, 334・335」と必要論が述べられている。またカフェコーナーとして多目的室を設けることには否定的であるとともにその理由としてスペースを侵食する（奪う）からと述べている（表 4-3-21 参照）。

この時点では、北斎ホールと新図書館を何らかの方法で繋ぐことを前提としていたのでこのような発言が出されていたと理解される。第2回で「委員長, 326」は館内にカフェコーナーを設ける案も否定していない。しかしその後第6回まではカフェコーナーは「女性 N, 238」から分かるように（決定ではないが）北斎ホールで集約するという前提で話は進められており、第8回では話題に出てこない。

しかし、第10回に示した実施設計では、館内のカフェコーナーが登場する。北斎館とは繋がらないこと、また第6回のプランから多目的室も盛り込まれることとなり利用団体の活動場所が担保されたことを受けて、復活したものと理解できるが、第8回「古谷, 398」の直接のつながりを考えると第6回の「IZ, 242」が元になっており、古谷はこの意見に従ったと考えられる（表 4-3-23 参照）。

そして「IZ, 242」の契機となったのは第6回の「館長, 241」であり、つまり「IZ」自身も「IZ, 227」では否定的な発言をしているが、「館長, 241」によって賛同的発言に変わっている。この点から、「館長, 241」は「言説」であり、この発言行為が行われなかったらカフェコーナーが存在しなかったかもしれない。

（iii）エントランス近くにカウンターを置く契機となった「男性 N」の言説

この争点が表面化したのは第4回～8回であり、第4回で「古谷, 105」と、エントランス近くにコンシェルジュカウンターを置き、サービスカウンターを奥に置くことを提案している（表 4-3-22 参照）。これに対して第6回の会議で「男性 N」から「その辺はやってみて職員の使い勝手に考えてもらいたいと。それで職員がやりやすいようにやることで、生き生きと働いてもらって雰囲気の良い図書館になるんじゃないのか」（362）という発言があった。その後「古谷, 398」とサービスカウンターをコンシェルジュカウンターと一体としてエントランス近くに置くことになったことを考えると、この「男性 N, 362」が「言説」となったと考えられる。

（iv）子どもコーナーを家具で仕切る契機となった「女性 0」の言説

前述のとおりこの問題は、子どもコーナーがカウンターから視認できる位置にあるべきこと（表 4-3-6「第6回古谷 213」参照）、子どもの親が一息つくためのカフェコーナーから視認できる位置にあるべきこと（表 4-3-21「第2回設計 Y, 334・335」参照）から、双方（カウンターとカフェコーナー）と不可分の関係にあったことや、カウンターの位置がエントランスの位置と連動していたこと（表 4-3-13 ないし巻末資料「第4回女性 IK, 68」参照）により不確定であった。

しかし、エントランス、コンシェルジュカウンター、視聴覚カウンター、受付カウンターの位置が概ね収斂したことによって子どもコーナーの位置が確定した。

当初から子どもの声を気にする意見が多く、第8回でも「女性 0, 463・464」といった意見が上がっている一方で、同じ発言者から「女性 0, 474」という発言がある（表 4-3-24 参照）。これを受けて「古谷, 494」は「もとはといえば全部部屋を閉めて、全部間仕切りがあるイメージからスタートしているのです。それでそうではなくて、（中略）、間仕切りで仕切るのではなく、家具とか、本棚とかそういうもので柔らかに仕切って子どもさんのコーナーをつくるのはどうですか？」という提案が、こ

こに來ています。」と整理している。ここでの方針が最後まで踏襲されたことを考えると、この「古谷, 494」が「言説」となったと理解できる。また、「古谷, 494」は「女性 0, 474」の代弁機能を果たしているので「女性 0, 474」も「言説」と同格と言える。さらに、その意味を再帰的に解釈すれば「女性 0, 474」もまた「古谷（設計者側）」の代弁機能を果たそうとしたと考えられる^{注17}。

■（再掲）表 4-3-24 第 2 分節 (E) の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
374	古谷	子どもの中に一緒に高齢の方が入ってそこで一緒に読んで。…たまたま居合わせた大人の方に…読んで聞かせてもらえることもあったり。	f1: 提案		【児童コーナーについて】 先の古谷213に続いてカウンターからの見通しのよさを説明しているが、女性0からもっと開放的な方が良いと提案されている。 先の女性Nの遮音性に関する意見とは真逆の提案が町民から出たことに対して設計者は困惑しながらも賛同している。
463,464	女性0	…児童のコーナーですが死角の、見えない部分がとても多いことが気になります。 …仕切りが一つきりで…その裏側が視聴覚コーナー…という事になると視聴覚していらっしゃる方は静かな方が良く、子どもたちはちょっと声上がるということも心配ですし、…もう少し入り口に近い方が良いなということ。	s: f1に対する不同意 F: 提案		
470-473	古谷	奥にサービスカウンターがあり、視聴覚カウンターが手前に、そしてエントランス近くにコンシェルジュカウンターがあるのですが、ここから見ると確かにガラスはありますし、児童コーナーは比較的丸見えなのですよ。…	f2: 評価		
474	女性0	…スタッフが見守るというそういう場所ではなくて…遊んだりしているのが見える児童コーナーというイメージがあるのですね。…高齢者の方もそれを眺めるとか、ちょっとざわついてる声を聞くとか、そういう事がもう少し開放されていた方が良くないかという事です。	s: f2に対する不同意		
478	古谷	あれでも閉じた感じですか。	f4: 質問		
479	女性0	…一続きの棚で区切られてしまいますと、出入りが自由な感じがしないという印象を受けますので…	s: f4に対する回答(No)		
494	古谷	子どもコーナーはもとはといえば全部部屋を閉めて、全部間仕切りがあるイメージからスタートしているのです。それで、そうではなくて…間仕切りで仕切るのではなく、家具とか、本棚とかそういうもので柔らかに仕切って子どもさんのコーナーをつくるのはどうですか？という提案が、ここに来ています。	t: 賛同		

（ⅴ）全体を貫く「子ども」への配慮を総括した館長の目標表現

前述のとおり植栽における赤松が争点となったのは第 10 回であり（表 4-3-26 参照）、「古谷, 122」と赤松を提案したのに対して、町民から「男性 Y, 131」と反対意見が出され、このテーマについては予算がつかないことになったため第 11 回では登場せず、第 13 回で「参事, 237」とあることから（表 4-3-15 ないし巻末資料参照）、樹種選定については白紙に戻り 1 年後以降の検討課題となったものと理解できる。ただし第 10 回で「古谷, 122」と発言しているように、そもそも植栽に対する設計者側の意図には子どもたちの安全のために暗がりを作らないという意味があったことが分かる。

また子どもコーナーの位置をめぐるカフェコーナーや多目的室が紆余曲折したことを以上記述してきたが、多目的カウンター^{注18}を入口すぐにしつらえたという意図も、カウンターから子どもコーナーが視認できる位置にあることで安全性と騒音抑止を図りたいという＜意味＞と、子どもの親が一息つくための（したがって子どもコーナーに近接する）カフェコーナーが視認できる位置にあ

¹⁷ 事実、「女性 0, 474」の趣旨から言えば、第 1 分節 11 月の「設計 Y, 334, 335：私は気持ちとしては館内のわざと訳ない場所だと思い…」を立て直した発話行為に当たる。また近い発話で見れば、第 2 分節「古谷, 374」の実現化のための提案と解釈することも可能である。

¹⁸ サービスカウンターとコンシェルジュカウンターとが一体となったカウンター。

ることで交流を両立したいという＜意味＞がこめられているということが明らかになった。

以上のように争点となったテーマの背景には「子育て」という根幹的テーマが一貫して流れていたことに気づかされる。

第12回会議において館長が「運営ビジョン案」を発表する。ここで「4つの場, 子育ての場, 学びの場, 交流の場, 情報発信の場…」以前から皆さんが協議されてきまして、…小布施の図書館が向かうところであろうと思っております。…これは曲げられないことだと思いますので、この気持ちを忘れずに運営していきたいと思えます。」(会議録コーパス, 第12回「館長, 44」より抜粋)とあることから、「子育て」というテーマがここで総括されたと言えると同時に、これまで協議をしてきた成員に対する館長の「代弁的発話行為」であったとも言える。

(vi) 自律的調整はどのように了解されたか

数々の賞で評価されたように竣工後の使われ方において「利用者相互の自律的な調整」^{注19}が現実には存在しているとすれば、それは館内でも特に交流機能を担う空間に着目しなくてはならない。

前述のとおりそれに該当するものとして3つの空間、「多目的室」、「カフェコーナー」、「子どもコーナー」が登場しており、それらにおいて＜自律的な調整＞がどのようにして了解されていたのかに着目した。

第1回で設計者側が図書館を基本的にワンルームと捉えて、なるべく仕切らない方針を示していたなかで、利用団体側(お話しの会)は「女性A, 50・51」に見るように活動主体のニーズの違いによる共存の困難さを予見していた。しかしそれは第2回で「女性D, 283・284」の発言に見られるように、オープンなスペースでのタイムシェアリングは不可能だが、多目的室をしつらえてもらえば互いに調整しながら活動の共存は可能だという意識を持っていたということが分かる。

第2回、第4回、第5回の討議を経て第6回に示したプランで多目的室が設計の中に正式に登場する。これによって、「お話しの会」が他の活動と相互に調整して共存する＜自律的な意志＞が尊重されたとともに、空間の取り合いとなっていたカフェコーナーにも復活の機会が生じたことが分かった。

そもそもカフェコーナーについては、第2回で「設計Y, 334・335」と述べているように、カフェコーナーは設計者側にとって、子育てをテーマとした新たな交流センターとして想定する「お子さん連れのお母さん達」のニーズと捉えられていたことが分かる。

しかし先述のとおりカフェコーナーは隣の北斎ホールの自販機で十分であるという意見が大勢となっていた。そこで、お子さん連れのお母さん達の居場所についての討議は「子どもコーナー」に移って行った。^{注20}

「子どもコーナー」の声の問題としてはすでに「お話しの会」から指摘され、「女性A, 289」と述べているように、「お話しの会」は家具による間仕切りでは解消できないと考えていたことが分かる。

しかし、「お話しの会」はそれを交流スペースと同一に捉え、そして交流スペースは多目的室と捉えていたため、多目的室がプランに収まったことで(利用団体側にとっては)声の問題は解消した

¹⁹ 当該図書館は、「最小限の間仕切りにとどめ、それぞれの場所をタイムシェアリングすることであらゆる活動があえて混在するようしつらえられている」(古谷, 2012)。それを氏原(2013)は、「互いに対立しかねないニーズが共存している場所」であり、「利用者相互の自律的な調整が行われている」場所と表現している。

²⁰ 第6回では「IZ」が「お湯を沸かしてポットに入れて貸してもいいじゃない。」(242)と述べているように、カフェコーナーはお子さん連れのお母さん達の(子どもコーナー付近の)給湯設備として話に登場している。

と考えられたと分析できる。

しかし設計者側は「子どもコーナー」を仕切られた多目的室ではなく開放的な空間で再度提示した。したがって、この「子どもコーナー」の声の問題は、新たな利用者層となる「お子さん連れのお母さん達」の意識に転嫁されたと考えられる。

そして前述「女性0」の発言のように、「声の問題」についてはデリケートに心配していることが分かるが、第8回「女性0,474」は、第2回での「女性A」の意見とは対照的に、子どもの「ざわついている声を聞く」といった利用者相互の自律的な調整で見守っていく設計者側の考え方をすでに了解し、家具による間仕切りで声の問題が解消可能だと考えていたことが分かる。

以上のとおり、交流スペースについては、お話しの会（旧図書館の利用団体）は、ある程度遮蔽された（保障された）空間で様々な利用を相互に調整することが可能だと考えていたこと、女性0（新たな利用者層となるお子さん連れのお母さん達）は、仕切りのない空間の中で声の問題を＜自律的に調整できる＞と考えていたこと、が把握できたとともに各々（旧図書館の利用団体と新たな利用者層）の自立的な意思を尊重する形で、前者が多目的室へ、後者がカフェコーナーを含む子どもコーナーへ、しつらえを分化していったことが現在の空間的状况に収斂した過程が明らかになった。その（運営委員会での討議の場で対立する主体の自律的意思が尊重された）ことが、空間利用段階での＜利用者相互による自律的な調整＞へ繋がったと考えられる。

④各成員が果たした役割

(i) トラブル源の顕現化

第4章第2節で述べたように、当該図書館はまちづくり交付金を活用して交流センターとしての機能を有した新たな概念の図書館を建設する構想から生まれた。そして以上見てきたように、新しい交流機能を設計に盛り込もうとする設計者（「古谷」，「設計 Y」）と、旧図書館の利用者や職員（「お話しの会」，「事務局 K」）との間で意見が対立した。

当会議が、はじめに設計者のプレゼンテーションがあり、その後討議というスタイルをとったので、設計者のプレゼンテーションに「トラブル源」があり、成員が「トラブル源」を顕現化するという構造となった。

そしてトラブル源を顕現化するのは、当運営委員会の役員の「IZ」（建設副部長）または「IZ」に代わって「男性 Y」（電算部長）が行っていたことを明らかにした。

(ii) 孤立させない代弁機能

これまでの分析の中で両者間の対立で最も現われたのが設計者と「お話しの会」との対立であり、その際、前者には「館長」と「委員長」が、後者には「IZ」と「委員長」^{注21}が、そして「IZ」に対しては電算部会長の「男性 Y」が、代弁者として機能し、また設計者と「事務局 K」との対立においては前者を「館長」が、後者を「男性 N」が、代弁者として機能し、対立構造のそれぞれを孤立させないようにできた過程を見ることができた。

(iii) 専門家の役割としての設計変更

以上のように「IZ」や「男性 Y」といった運営委員会の役員のみならず、「男性 N」といった第三者までが介入してトラブル原因者に修復させようとする行為を把握できた。そして設計者側は回を超えているが結局それらのほとんどを受け入れていることが分かった。双方の「次の出方に対する期待から自分の行動を起こすような志向」の現れであると言える。

ここでの専門家を設計者とすれば、専門家は争点となる＜トラブル源を提供＞し、それを修復して見せるという役割を果たしたことが分かった。（そのようにして意見がすり合わされていく過程を把握することができた。）

(iv) 会としての同調圧力

先述で挙げた「自律的な調整」が要請された3つの交流空間「多目的室」、「カフェコーナー」、「子どもコーナー」について討議された時期区分、第1分節と第2分節を見ると（図4-3-11,図4-3-12参照）、まず以下のような5つの特徴を指摘することができる。

ア.第1分節では否定的発話（図中黒丸：●）で終わっているが、第2分節では肯定的発話（図中白丸：○）で終わっているのが分かる。とくに設計者側（古谷,設計 Y）の発話が、第1分節では黒丸で終わっているが、第2分節に入ってから徐々に白丸が増えてくるのが分かる。これは設計者側にとっての主張の転向「設計変更」を示すものである。

イ.「非期待応答型」のほとんどが設計者と委員との間で発生している。第6回以降に、設計者による「期待応答型」が増えるが、これらは設計者が多目的室や多目的カウンター等の設計変更を説明している個所にあたる。

ウ. 初期の「非期待応答型」の発話内容には、「2回女 A/289」の「やはり保障された空間が欲し

²¹ 委員長は設計者側にも「お話しの会」側にも代弁している。

い」、「2 回女 D/284」の「カフェはそちらの方で良い」のように、自分自身の要求または空間の取り合いといった性質が共通して見られる。

エ.後半の「期待応答型」の発話内容には、「6 回 IZ/242」の「お湯を沸かしてポットに入れて貸してもいい」、「6 回男 N/362」の「職員の使い勝手で考えてもらいたい」、「8 回女 O/474」の「スタッフが見守るといふそういう場所ではなくて…もっと開放されていた方が良い」のように、それぞれの当事者が自律的に調整すればよいという性質が共通して見られる。

オ.「2 回委員長/296,306」、「2 回 IZ/330」、「6 回 IZ/242」、「6 回男 N/262」のように、或る委員の設計者に対する「非期待応答型」の発話を利害関係のない他の委員が通訳・代弁するような（よって対立委員への「期待応答型」と位置付けられる）発話が見られ、設計者に足りないものを補完（差配）するような提案を含む発話となっている。そして設計者が回を超えてその提案に応えることで各争点は収束している。

これらの連関を解釈すると、まず討議環境の変化が挙げられる。すなわち初期の「空間を取り合おうとする」環境から、「当事者相互が自律的に調整しよう」という環境に変化してきたことが、設計者側に影響を与えたと言える。また設計変更の前に「IZ」や「男性 N」などから設計変更を促す発話行為があつて^{注22}、これに応じたことを示していることから、会としての何らかの「同調圧力（グループ圧力）」が形成されていたと言ってよい^{注23}。

先述した「トラブル源の顕現化」、「孤立させない代弁機能」は、＜相手の次の出方に対する期待から自分の行動を起こす＞行為であり、このような行為が続いたことも同調圧力を生じさせた原因となったと考えられる。

かつ第 8 回「女性 O,494」に見られるように、設計者以上に設計者の＜当事者が自律的に調整しようという＞コンセプトに積極的な発話内容であったことを考えると、受動的な同調ではなかったと言える^{注24}。つまりこの積極的な同調「内面的同調^{注25}」の背景には、第一に「相手の出方とそれに対する期待から自分の次の行為を起こすような」発言が連鎖し始めたこと、第二に、これに応じよう設計者の設計変更（修正）があつたこと、第三に、それによって成員が設計者の計画に足りないものを補完（差配）しようという自律的な調整意思を獲得し得たこと、の 3 点があり、これらが「グループ圧力」を形成し、異なる立場の成員らを「内面的同調」へと導いたと見ることができる。

このようにして、町民主体の協議会の中で、（賛成・反対の対立が予想されているような厳しい条件下でも）専門家と町民との対話を通じて、修正と新提案の提示、吟味と納得を含む相互行為の結果として、成員全体に「同調」を働きかけるような「同調圧力（グループ圧力）」を生み出すことによって、了解に至らしめることが可能であることを示すことができた。

²² グループワーク論では、誰かに差配するなどの積極的発言をグループ圧力発現の指標として着目する（Garvin,1987）とすれば「2 回 IZ/330」、「6 回 IZ/242」、「6 回男 N/262」、「8 回女 O,474」はその「差配」を示す発言と言える。

²³ 或る成員の言動をグループや他の成員が期待する方向に変化させることを「同調」といい、成員を同調させるよう働く力のことを「グループ圧力」ないし「同調圧力」という。（マイケル・A・ウェスト,高橋美保訳,2014）なお、本ケースでは、設計者が会議の外で発注者（行政部局）からの何らかの圧力（働きかけ）を受けて設計変更に及んだものでなかったことは 2011 年 11 月 12 日に行った委員長・館長へのインタビューで確認している。

²⁴ すなわち意思に反して同調するものでも、またいわゆる「バンドワゴン」効果のような無意識な同調でもない。

²⁵ 他者からの情報を自分の意見や判断の妥当性の根拠として受け入れることによる積極的な同調のことを「内面的同調」ともいう。（橋本・斉藤,1969,「同調行動の類型と実験的研究」,『日本心理学会大会第 33 回発表論文集』438）

第4節 小括

第1節で述べたように、小布施町図書館建設運営委員会は、まちづくりの小集団の中での意見の相違が集団の分裂を引き起こしている桐生市の住民運動に対して、どのようにして分裂の危機を克服しているのかを分析するために事例として選んだ。

そして第2節で述べたように、当委員会は新しい交流機能を設計に盛り込むにあたって、旧図書館の利用者や職員と、新たな図書館が想定する利用者層との間で、空間の取り合いをめぐるニーズが対立していた。それにも関わらず、どのように意向調整が行われ分裂の危機を克服したのかを明らかにすべく第3節で当該技法の適用を行うこととした。

第3節ではまず、当該技法（第2章の手順）に従って、会議録コーパスの作成、時期の分節化、指標発話（候補）の抽出と選定、指標発話連鎖会話群の抽出、を行った。

後半では、当該技法の適用の結果分かったこと、すなわちリーダーシップ構造、コミュニケーション構造、会話・談話分析から解釈できることを整理した。

すなわちまず、リーダーシップ（委員長）が意見対立の調整に失敗したことが契機となって次のリーダーシップ（IZ）に交替し、そして「IZ」が不在時に代弁機能を任された「男性 Y」にリーダーシップが交替し、設計が終わりに近づいて争点がなくなってから新しい図書館の目標表現を任された「館長」にリーダーシップが交替した過程を明らかにした

なお意見対立の解消過程については、まず、設計者にトラブル源があり、成員の中から「トラブル源を顕現化」する発言があり、設計者がそれに応じてトラブル源を修復するまで意見対立が続く、といった傾向があることを把握した。そして＜トラブル源を顕現化＞するのは、主として役員のIZ（建設副部長）や男性 Y（電算部長）ほか「男性 N」といった第三者的立場の成員までが行っていたことを把握した。ただし、それは単に＜トラブル源を顕現化＞しているのみならず、意見対立の当事者の代弁機能を果たしていることを明らかにした。

この「第三者的立場」の成員は、意見対立の当事者を「孤立させない」機能を果たしたと同時に、会としての「同調圧力」を高めることに貢献した過程を明らかにした。

とくに、「男性 N」のように会の役付のない第三者的立場の成員であったということは、発話者を公平に受け入れる討議環境が存在したことを示しているとともに、利害関係のない第三者的立場であるからこそ、或る種の「公共」的環境を形成しえたと言える。

同時に、設計者側は結局それらのほとんどを受け入れていることも分かった。設計者側もそれを受け入れていることは、身分対等な公平な立場で参加していることを示唆しているとともに、利害関係のない第三者的立場の意見であるからこそ受け入れやすかったと言える。

そして、専門家を含め各成員が果たした役割については、専門家（設計者）は争点となるトラブル源を提供し、それを修復してみせるという役割を果たしたことが分かった。

また、「館長」、「委員長」も意見対立の当事者を孤立させないよう代弁機能を果たしていることが分かった。

先述した「トラブル源の顕現化」、「孤立させない代弁機能」は、＜相手の次の出方に対する期待から自分の行動を起こす＞行為であり、このような行為が続いたことが受動的ではない「同調圧力」を生じさせた原因となったことを明らかにした。

とくに小布施事例では、この「(積極的) 同調圧力」が形成された過程と、当事者ではない第三者が

介入してトラブル原因者に修復させようとする行為が特徴として見られたが、これは桐生事例では見られなかった特徴であり、桐生事例とのちがいを説明するものとして洞察可能な結果となった。

そして、これらの知見は、どこで誰が重要な発話²⁶を行ったのかというデータがなければ分かりえなかったものである。

当該技法ではそのデータに該当するのが「指標発話連鎖会話群」であり、さらに 2 次加工した「コミュニケーション構造図」や「会話分析シート」である²⁷。それら（とくにビジュアライズした構造図・シート）があることによって、現象が（分析者のみならず他者にも）共有化され、他者に対して説明可能なものとなった。そしてそのように膨大な会話データを発話の順番や言説の位置を崩さずに縮約ならしめたのは当該技法の適切な縮約技法にあった。

<第 4 章の参考文献>

- ・氏原茂将,2013,「まちとしょテラソで未来の図書館を考えてみた」,『マガジン航』,<http://www.dotbook.jp/magazine-k/2013/05/> (参照 2013-5-17)
- ・『小布施町都市計画基礎調査報告書』,2000,小布施町
- ・島田昭仁・小泉秀樹,2007,「まちづくり運動の連帯における共同態の発見とその応用可能性—小布施町と桐生市のまちづくり運動の比較を通して—」,都市計画論文集,no.42-3,p-319-324
- ・橋本仁司・斉藤勇,1969,「同調行動の類型と実験的研究」,『日本心理学会大会第 33 回発表論文集』438
- ・八甫谷邦明,2004,「町並みを形成し、自立を育む小布施風のまちづくり」,『季刊まちづくり』,2,p-4-10,学芸出版社
- ・古谷誠章ほか,2012,「小布施町立図書館：まちとしょテラソ(北陸)」,『Selected Architectural Designs 127(630)』,126～127
- ・マイケル・A・ウェスト,高橋美保訳,2014,『チームワークの心理学』東京大学出版会
- ・Charles D Garvin,1987,"CONTEMPORARY GROUP WORK",Prentice Hall

²⁶ 例えば、反対意見のまとめ上げ、対立意見の了解に重要な役割を果たした言説など。

²⁷ そして必要に応じて会議録コーパスにまで遡って発話を確認することも行った。

第5章 神戸市の「真野まちづくり検討会」への適用

第1節 地域選定の視点

「真野まちづくり推進会」(以降「推進会」と略す。)は、周知のとおり神戸市長田区真野地区における「真野まちづくり協定」を管理運営する母体であり、1980年11月に設立され現在に至っている。

当まちづくり協定は条例によって公定されたしくみを有する初めての事例ということで評価されてきたと同時に、当会を運営する地域住民のガバナンス、とりわけ自治会との巧妙な連帯について注目されてきた。

前章で述べたように筆者はまちづくりの住民運動が相互になかなか連帯できないでいる桐生市と比較するため小布施町を研究対象とすることとしたが、小布施町では約2年間という年限が設定され図書館建設という目的が予め設定された「図書館建設運営委員会」を対象にして分析を行った。

30年以上という長い期間を通して継続して住民運動の連帯が実現できている真野地区を対象にして分析を行った場合、小布施町とはどのような類似点ないし相違点が観察できるのかを確認すべく真野地区を研究対象とすることとした。

このような着眼点に立つとき、既往研究では1965年からの自治会の環境衛生改善運動や公害追放運動における自発的な住民運動にその資質の原点が形成されたと説明される(延藤・宮西 1981: 137-176)と同時に、推進会の準備会的組織にあたる「真野まちづくり検討会」及びその前段組織「真野まちづくり懇談会」(以降「懇談会」と略す。)も含めて、地域住民と自治会が連帯して関わることでできた要因については延藤のほか倉田や今野や広原ほかによって或る程度明らかにされている(倉田 1982: 7-25, 今野 2001: 65-210, 広原 2002: 52-60)。これらはいずれもその要因の一つに1965年から自治会活動をリードした毛利会長^{注1}の資質に焦点をあてる点で共通しているが、延藤や倉田は3人の自治会会長が懇談会から検討会という一つのテーブルについて討議したという経験を共有したことが以降の持続的な住民主体のまちづくりに繋がったと解説している点に筆者は注目した。

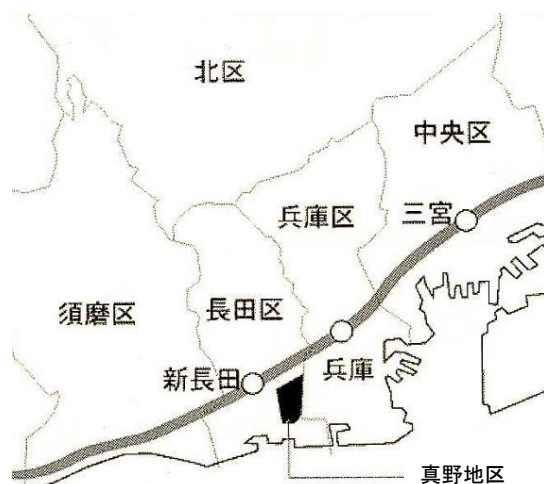
第2節 対象とする地域とまちづくり小集団の特徴

第1項 対象地域の特徴

神戸市は1970年代に台頭した「革新自治体」^{注2}の一つであり、宮崎辰雄市長は1969年から5期20年務めたほか財団法人神戸都市問題研究所の創設にも関わった。

当時神戸市には住環境悪化が顕著に進行した2地区があった。戦後の急激な経済成長の皺寄せを受けて郊外住宅地が無秩序にスプロール化した丸山地区^{注3}と、住宅地の大部分が工場を占める住工混在地域となり環境汚染が著しく進行した真野地区である。

両地区とも住民の環境改善運動が活発であり、宮崎市政



出典 日本最長・真野まちづくり, 2005

■ 図 5-2-1 真野地区の位置

¹ 毛利芳蔵。尻池南部地区自治連合協議会会長(次頁表 5-2-1 参照)。「検討会」の代表の一人となる。

² 1960年代後半から70年代前半にかけて反公害や福祉政策や憲法擁護を掲げ日本共産党、旧日本社会党等の革新勢力が公認ないし推薦した首長が革新的政策を行った地方自治体。

³ 郊外住宅地における住民主体のまちづくり運動の全国的先駆け。1967年に神戸市から近隣住宅地区計画モデル地区に指定され、82年には真野に次いで条例による「まちづくり協議会」に認定された。

は両地区の住民運動を側面から支援した。

どちらかといえば丸山地区が住民運動は先行していたが、結局丸山は革新的なリーダーと消極的な旧有力者層との間で対立したこと（広原 2002：49）を受けて、住民運動の連帯は頓挫した。

その点、真野地区にはすでに 1965 年から神戸市社会福祉協議会を通じてコミュニティ・オーガナイザー（ソーシャルワーカー）^{注4}が地域に入り、住民側のリーダーと接触しながら自治会や様々な小集団といかに連帯させていくかといったコミュニティ・オーガナイズが実践されていた。

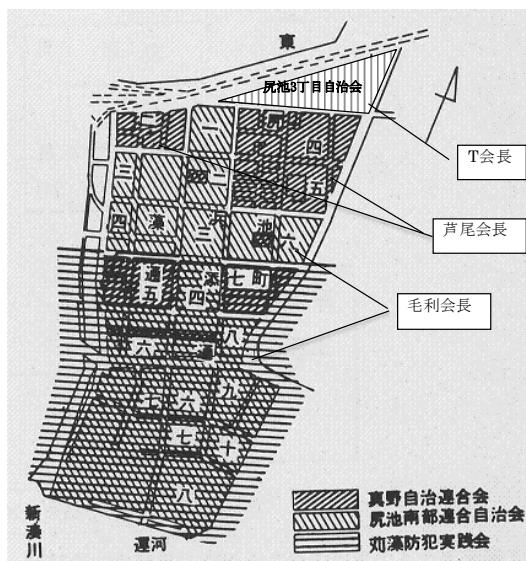
すなわち、1953 年に「東尻池町 8・9・10 丁目自治会」の会長となった毛利芳蔵氏は 1965 年に自治会を「東尻池町 8・9・10 丁目福祉会」に改組したと同時に、1964 年に会長となっていた「荻藻防犯実践会」を同年、環境衛生部をはじめとする 7 つの専門部会制に改組し、神戸市から「小地域福祉推進モデル地区」に指定される。ここから社会福祉協議会のソーシャルワーカーが介入することとなる。そして、1968 年には「尻池南部地区自治連合協議会」の会長になると 1970 年には公害部をはじめとする 4 部会制に改組し、「荻藻防犯実践会」の活動もここに移すこととなる。

この「尻池南部地区自治連合協議会」にはさらに「真野自治連合会」からも 4 カ町が参入するなど活動の勢力範囲は広がっていった。

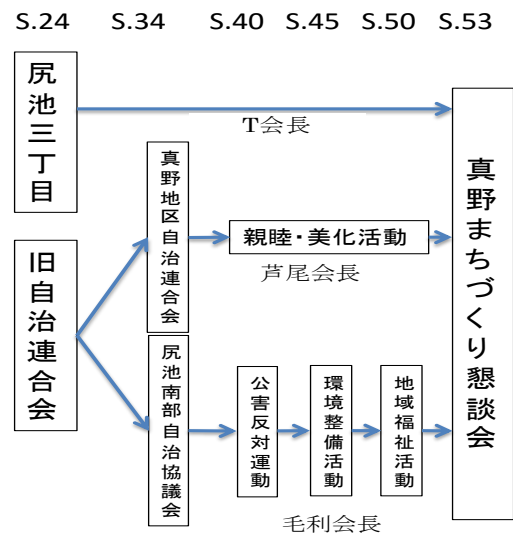
■表 5-2-1 真野地区の自治会の変遷と担い手

自治会	リーダー格	変遷過程	備考
1951 年～ 東尻池町 8・9・10 丁目自治会	毛利	1953 年に会長就任 1965 年「東尻池町 8・9・10 丁目福祉会」に改組	会長は全住民の投票で決定 民主的な組織運営法を実践
1955 年～ 尻池南部地区自治連合会（14 カ町）	A 会長 →毛利 B 会長 →芦尾	分裂→1959 年「尻池南部地区自治連合協議会」 →1968 年に会長就任→1970 年に改組 分裂→1959 年「真野自治連合会」（8 カ町） →1966 年に会長就任	公害部等の 4 専門部会制 4 カ町が尻池南部地区自治連合協議会に移る。
1961 年～ 荻藻防犯実践会（真野学区 6 カ町）	毛利	1964 年に会長就任→1965 年に改組 （神戸市小地域福祉推進モデル地区に指定） →1972 年「荻藻福祉防犯実践会」に改称。以降、 尻池南部地区自治連合協議会の活動と一体化。	環境衛生部等の 7 専門部会制 ソーシャルワーカー介入
1950 年～ 東尻池町 3 丁目自治会	T 会長	連合自治会に組せず単独自治会として存続。	歴史的に最も古い町内会から継承している自治会

（表中の人名省略）



■図 5-2-2 真野地区の自治会賦存状況とまちづくり懇談会結成までの流れ

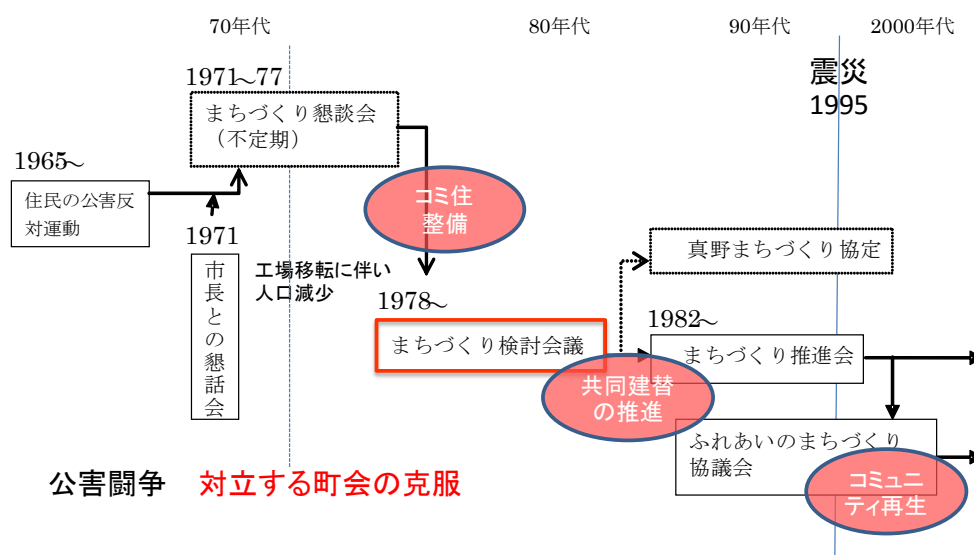


⁴ 当時日本社会福祉大学から坂下達男、府立大阪社会事業短期大学から牧里毎治が専門員として関わっていた。

宮崎市政当時の真野地区には、二つの連合自治会とそれらに属さない単独の自治会（東尻池町 3 丁目自治会）があった。この単独自治会は歴史的に中でも最も古い街区にあり、北に接する国道 2 号ができるまでは小学校区も北側の街区と一緒にあったため、南の連合自治会とは一線を画していた。南の連合自治会はもともと一つの自治連合会であったが、或るイシューのもとで分裂して二つに分かれた経緯^{注5}から、なかなか一つにならない事情があった。

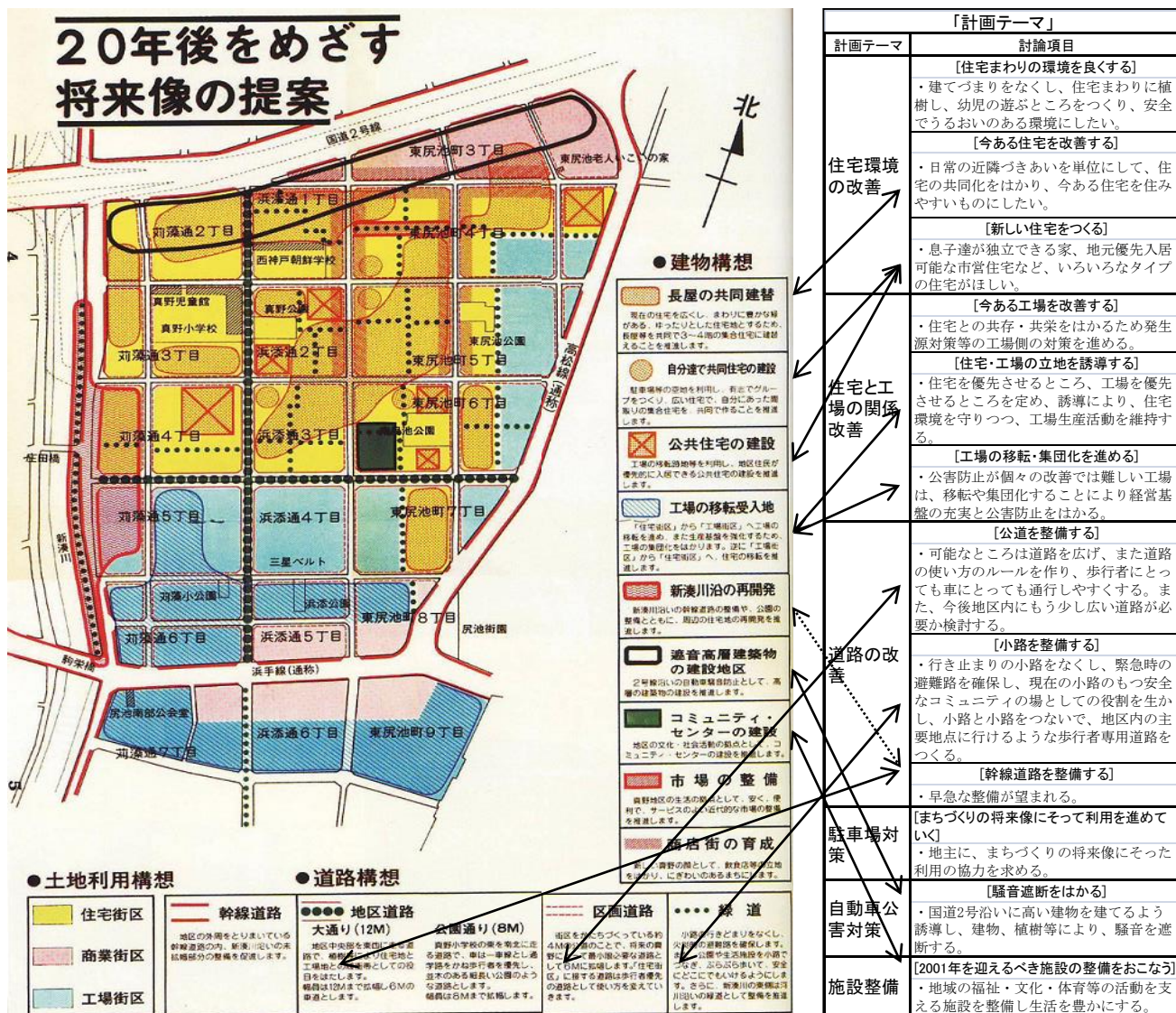
その点、倉田によれば、真野小学校周辺は3つの自治会の塊が飛び地に入り混じった状況が20年余り続いていて、連合自治会の統一へのニーズが元来存在したが、それができない中で各自治会長が懇談会や検討会という一つの討議の場で共通の問題に協力・競争して取り組んだ過程が以降の住民主体のまちづくりに繋がったと分析しており（倉田1982:22）、統合ないし連帯に向けた住民運動の発展的な展開過程に目を向けている。また延藤によれば、懇談会に3人^{注6}が参加することで「計画づくりに対する共通認識と自信が生まれた」（延藤・宮西1981:169）とあり、自治会長らの意識の変化に着目している。

ただし、いずれにしても会議の中で具体的にどのような討議プロセスがあり、3 人の自治会長がどのように意識を変化させていったのかは明らかにされてこなかった。



そこで本研究は検討会及び懇談会の会議の録音テープ^{注7}から書き起こした会議録を使用し、主にこの3人の自治会長及び事務局あるいはその他の成員から当時の重要な会話群を抽出し、上記のような評価視点に立って、討議の場で誰がどのように発言し、自治会の垣根を越えて意見対立を克服し共通の目標や課題に連帯して取り組むようになったのかを分析することにした。

7 宮西悠司氏の許可を得て、氏が録音し保存していた磁気テープ。まちづくり検討会の設立について討議された 1978 年の第 4 回まちづくり懇談会から 79 年の第 2 回検討会及び第 1 回まちづくり学習講座まで再生可能な状況であった。



※第3回検討会の後 1979年5月「真野地区まちづくりニュース第2号」で「計画テーマ」が公表され、これをもとに1980年2月「真野地区まちづくりニュース第4号」で「真野まちづくり構想検討のためのタタキ台」(上図左)が公表された。

■図 5-2-4 当該時期の討議の実績 真野まちづくり構想のタタキ台

■表 5-2-2 当会の主な成員

成員名	略記号	備考	伊藤	伊藤	真野小学校長
芦尾	芦尾	代表,真野自治連合会長	井出	井出	鉄工業
毛利	毛利	代表,尻池南部自治連合協議会長	藤田	藤田	青年会議所
天宅	T会長	副代表,尻池3丁目自治会長	井戸	井戸	鉄工業
池田	委員I	副代表,真野婦人会会長	宮西	宮西	事務局,コンサルタント
平谷	平谷	尻池5丁目自治会	浅井	浅井	事務局,神戸市都市計画局
岸野	岸野	浜添通3丁目自治会	垂水	垂水	事務局,神戸市都市計画局
酒井	酒井	尻池9丁目自治会	島田	島田	学識委員,神戸大
高橋	高橋	苅藻通4丁目自治会	延藤	延藤	学識委員,京都大
沼津	沼津	尻池7丁目自治会	小森	小森	学識委員,神戸商科大
盛岡	盛岡	尻池6丁目自治会	林田	林田	神戸市経済局
魚	魚	苅藻3丁目自治会代理	村上	村上	神戸市経済局
田中	田中	尻池5丁目自治会	小西	小西	長田区役所広報相談課長
田中(女)	田中(女)	真野婦人会	松添	松添	三ツ星ベルト
炭谷	委員S	尻池5丁目自治会	谷	谷	神戸市環境局
清水	清水	尻池3丁目自治会鉄工業	濱田	濱田	神戸市環境局
舟木	舟木	尻池市場会長代理			

※「略記号」は会議録コーパスで使用した ID

以降、第2章で示した技法を用いて分析する。

第3節 当該技法の適用

本節第1項では「真野まちづくり検討会」（及びその前段組織「まちづくり懇談会」）の約1年半にわたる会議録のテキストデータを読み解くため、まずは会議録の構造を把握するべく、全体の中での討議テーマの変遷をターン割合上位者の出現率の変遷から分節化した。

そして、分節ごとの「頻出単語」を抽出し、「指標発話」を検索・選定し、さらに「指標発話連鎖会話群」を抽出し、リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の状況を把握した。

また第2項ではそれらの各工程で発話データがどのくらい縮約できたのかを整理した。

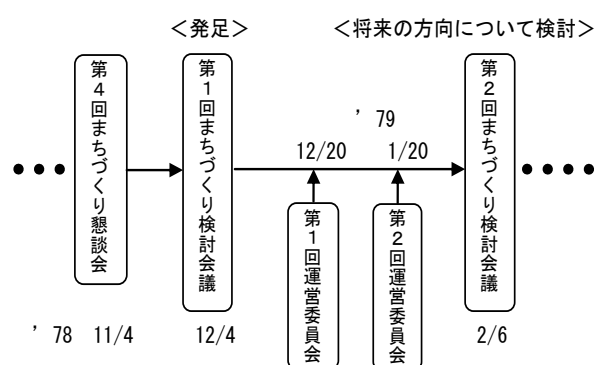
また第3項では会話分析を行い、小集団の分裂の危機を孕むような意見対立がどのように生み出され解消されたのか、といった過程を吟味した。また、それをふまえて専門家やその他の成員が果たした役割についても考察した。

第1項 データ縮約化と分析対象箇所の絞り込みの工程

①会議録コーパスの作成

まず、会議録コーパス、(指標発話を抽出する) テキストマイニング結果、指標発話連鎖会話群、コミュニケーション構造図、会話(談話)分析の各ステージにおけるデータ数を下表に示す。

先述のように1980年11月に設立した推進会の前段組織において、推進会の「まちづくり協定」のもととなる「まちづくり構想」が議題にテーマとして挙がっていたのは1978年11月9日(第4回懇談会)から1980年7月5日(第10回検討会)までの会議であり^{注1}、その「まちづくり構想」のもととなった「計画テーマ」はほとんど1979年2月6日(第2回検討会)までに提示されていたことから、第4回懇談会から第2回検討会までを分析対象とし^{注2}、計5回分の会議録から会議録コーパスを作成した^{注3}。



■図 5-3-1 分析対象とした会議

②時期の分節化

まず会議録コーパスをコンピューターソフト「JMP」のアプリケーション「パーティション」^{注4}を使用して、ターン割合の変遷を見ると下図のようになった。

図 5-3-2 のように「パーティション」では最初の分析(第1分岐)でまず1978年12月20日を境に2つのタイプ(以下「A型」と「B型」と名付ける。)に分類している。

B型は更に分析(第2分岐)を行うと、ターン割合が「毛利」のほかに「垂水」(事務局)が多いも

¹ 第4回懇談会は「検討会」の設立について確認した会議であり、第10回検討会は「まちづくり構想」提案の確認及び「推進会」の設立について確認した会議である。

² 第2回検討会は「将来の方向」について検討した会議であり、その後第3回検討会、第4回検討会を経て1979年5月26日に開催された「まちづくり学習講座」において「計画テーマ」が公開された。この「計画テーマ」は「真野地区まちづくりニュース第4号」で最終的に整理されているが、ほとんどが「将来の方向」と照合でき、その意味でほとんど第2回検討会までに提示されていたと言える。

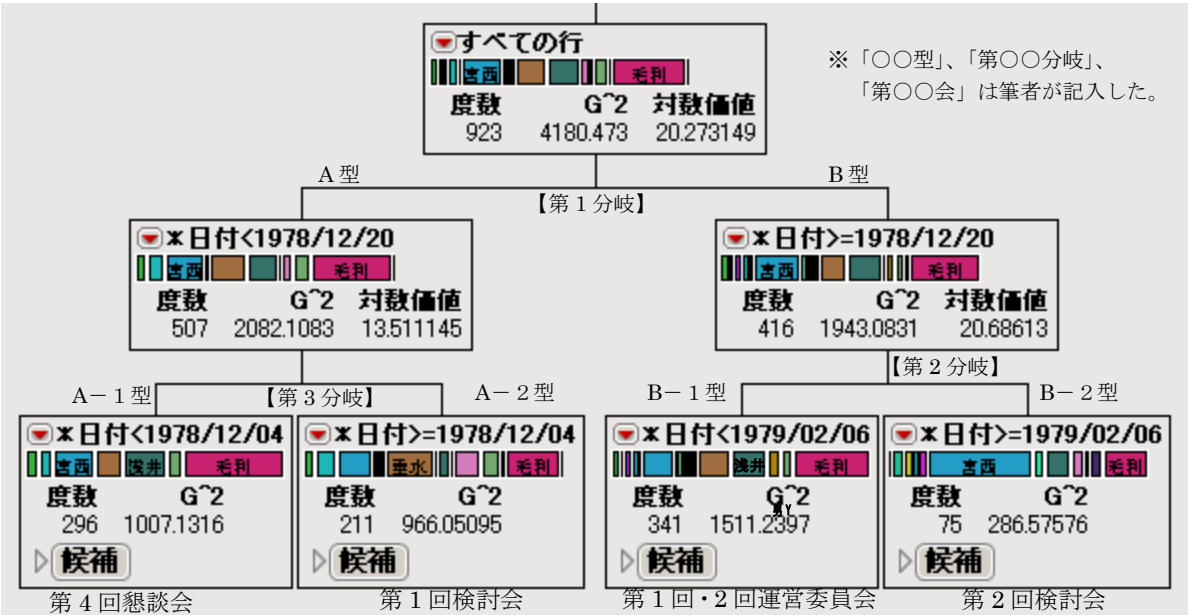
³ この時点で1,112データ(発話レコード)数であった。

⁴ JMPとはSAS社が開発したソフト。「パーティション」とは同社独自のアルゴリズムを用いた決定木分析。x軸を時間にy軸を発話者のターン度数に設定して分析すると、ターン割合の変遷を解析する。「(詳しくは補論「手順書」参照。)

のと「宮西」が突出して（毛利を抜いて1位）多いもの（以下「B－1型」,「B－2型」と名付ける。）に分かれる。

A型は更に分析（第3分岐）を行うとターン割合が「毛利」のほかに「浅井」（と宮西）が多いものと「垂水」（と宮西）が多いもの（以下「A－1型」,「A－2型」と名付ける。）に分かれる。

こうして全体の会議を見るとターン割合の変化にともなって以下のような構造になっていることが分かる。



■図 5-3-2 JMP パーティションによる決定木

第4回懇談会 → 第1回検討会 → 1回,2回運営委員会 → 2回検討会
A－1型 → A－2型 → B－1型 → B－2型

■図 5-3-3 ターン割合の変化に伴う会議の構造／パーティション分析結果より

このとおり、パーティション分析からは第4回懇談会、第1回検討会、第1回と第2回運営委員会、第2回検討会の4つの時期区分に分類することができた。

実際に各時期のターン割合上位（ここでは1位と2位）者の構成状況とその割合を見ると右表のようになる。

ここにおいてターン割合上位者の構成状況の変化と時期区分が一致していることが確認できる結果となった。

■表 5-3-1 時期区分とターン割合の変化との確認

※記号は人物名を表す⁵⁾。

会議録年月日	時期区分		
	該当会議	ターン割合上位者	ターン数
1978 年 11/4	第4回懇談会	1 位：毛利 39%	114/296
		2 位：浅井 17%	51/296
1978 年 12/4	第1回検討会	≡宮西 16%	47/296
		1 位：毛利 21%	45/211
1978 年 12/20	第1回,第2回運営委員会	2 位：垂水 19%	40/211
		1 位：毛利 30%	102/341
1979 年 1/20	第1回,第2回運営委員会	2 位：浅井 14%	49/341
		≡宮西 13%	45/341
1979 年 2/6	第2回検討会	1 位：宮西 41%	31/75
		2 位：毛利 17%	13/75

⁵⁾ 「毛利」：尻池南部地区自治連合協議会の会長。検討会の代表の一人となる。「浅井」,「垂水」：神戸市都市計画局の職員。「宮西」：コンサルタントとして事務局に参加していた宮西悠司氏。

③指標発話（候補）の抽出と選定

次に各時期の頻出単語を手掛かりに「指標発話」を検索する。

「指標発話」は、ターン割合 1 位者^{注6}の発話と、時期分節毎の頻出単語とのクロス検索により導かれる。このうち前者については、前述のとおり時期の分節化の過程で明らかになっている（表 5-3-1）。

③-1 頻出単語の選定

「指標発話候補」を抽出するキーワードとなる「頻出単語」については、前述のとおりコンピューターソフトを用い「名詞」を抽出することになっているが、討議テーマを表すに有為な意味を持たない場合があるので、実際にその単語が使われている発話を見て文脈から判別し不要なものを取り除く（いわゆる「ケバとり」）作業が必要となる。それらの結果を表したものが下表である。

■表 5-3-2 頻出単語

時期区分	第 1 水準	第 2 水準
第 4 回懇談会	工場 道路 地域 住民/地元/区民/地域住民/市民 住宅 計画 用途地域 事業 将来 都市計画	工場 道路 地域 住民/地元 区民 住宅 (都市)計画 用途地域 事業
第 1 回検討会	委員 運営 検討 代表 住民/地元/区民 自治会 お問い合わせ 代表者	委員 運営 検討 代表(者) 住民 自治会
第 1,2 回運営 委員会	人/歩行者 道路 工場 公園 住民/地元/市民/地元住民 委員 生活道路 自治会 施設	人 道路 工場 公園 生活道路 自治会 施設 住民
第 2 回検討会	住宅 市営住宅 運営 委員 工場 地元/住民 商業 道路 子ども 空き家	住宅 市営住宅 運営 委員 工場 商業 道路 子ども

※第 1 水準の赤字部分は、当該単語が指標発話候補の中で討議テーマを表す有為な単語ではないことが分かったものである。これらを取り除いたものが第 2 水準である。

表中の「第 1 水準」に記載される単語が、コンピューターソフトで頻出単語を上位から 50 位まで抽出し、そのうち固有名詞や代名詞、助詞、等を除いたものである。

前小項目で述べた「コンピューターソフトを用いて行われる分析過程」とは、ターン割合 1 位者の全発話の中でこの第 1 水準の単語を含む発話をリストアップするまでの過程をさす。

そして検索された発話を一つ一つ見ていった結果、第 1 水準の単語がその時期区分の討議テーマとして有為な意味を果たしていない場合^{注7}、頻出単語から取り除き、残ったのが「第 2 水準」である。

結果的に第 1 水準から第 2 水準までの過程で取り除かれた単語とその理由については表 5-3-3 に示す。

すなわち「市民」や「区民」など「住民/地元/区民/地域住民/市民」のようにテキストマイニングソフトが類語として設定して検索する単語や、「お問い合わせ」のように（ターン割合 1 位者の発話に）一度だけ登場する単語は当該時期区分の討議テーマを表すのに有為性がない。また「将来」や「区民」などは、発話内容から何らかの賛成や反対の意思を有していないことが判ったため、取り除いた。

⁶ 本論で「指標発話」は基本的に 1 位者の発話から見る。ここに頻出単語の大半があれば 2 位以下の発話は見ない。

⁷ その単語は常用句または派生的話題の中で用いられている場合。具体的な判断基準については第 2 章を参照。

■表 5-3-3 第 1 水準の頻出単語のうち削除された単語とその理由

時期 区分	省除された 指標発話候補	省序された 頻出単語	使用例	理由
第 4 回懇 談会	—	市民	—	ターン割合 1 位「毛利」の発話には出てこない。(テキストマイニングソフトが「住民」の類語として検索した。)*
	135,157	将来	その問題は将来の問題であれ ...	何らかの賛成・反対を有していない。
第 1 回検 討会	—	地元/区民	—	ターン割合 1 位「毛利」の発話には出てこない。(テキストマイニングソフトが「住民」の類語として検索した。)*
	—	お願い	協力をお願いしたいと思います。	ターン割合 1 位「毛利」の発話には一度だけしか出てこない。またこの単語自体は討議テーマを表していない。
第 1, 2 回運 営委 員会	—	歩行者	—	ターン割合 1 位「毛利」の発話には出てこない。(テキストマイニングソフトが「人」の類語として検索した。)*
	—	地元住民	—	上に同じ
	206	市民	集会所言うたら市民局や、	ターン割合 1 位「毛利」の発話には一度だけしか出てこない。また「市民」自体は討議テーマを表していない。
	—	委員	—	ターン割合 1 位「毛利」の発話には出てこない。*
第 2 回検 討会	—	住民	—	ターン割合 1 位「毛利」の発話には出てこない。*
	—	空き家	—	ターン割合 1 位「毛利」の発話には出てこない。*

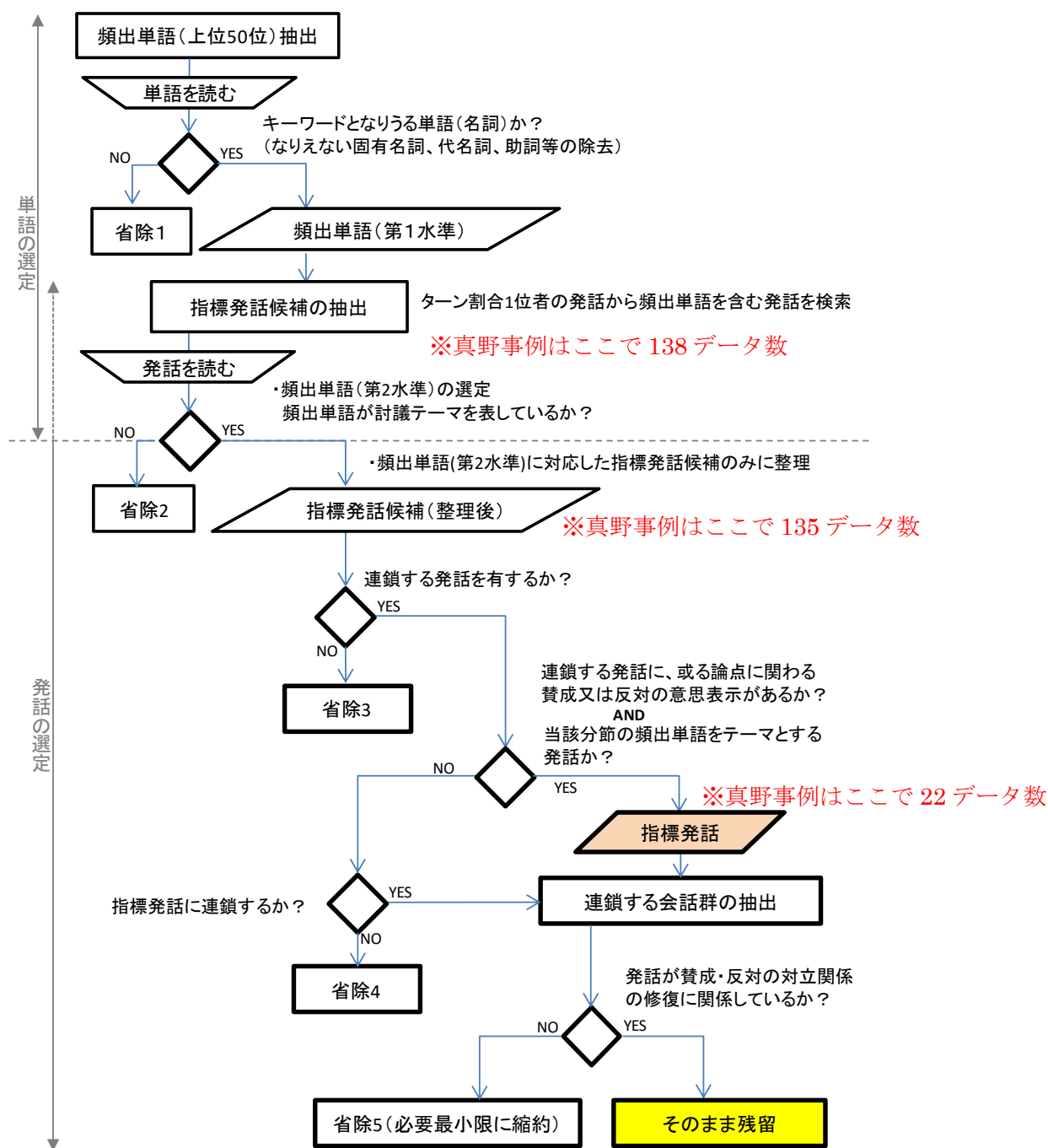
*は「指標発話候補」の抽出過程で判明したものである。

③ー2 指標発話候補の抽出

まず「頻出単語（第1水準）」が定まったとき、（ターン割合1位者の発話から）同時に「指標発話候補」を抽出し、138データ（発話レコード）数となった⁸。そして「頻出単語（第2水準）」の選定を行い、それに対応する「指標発話候補」を整理したところ135データ数となった。

③ー3 指標発話の選定

「指標発話」は、図 5-3-4 のフローに示すような基準で「指標発話候補」から（連鎖する発話を読みながら）発話レベルで省除していった結果残った発話であり、22データ数となった。



■ 図 5-3-4 （再掲）指標発話の選定フロー

⁸ 具体的には、表 5-3-4、5-3-6、5-3-8、5-3-10 に示す。

以下、「指標発話候補」から「頻出単語（第二水準）」の選定を経て「指標発話」に選定された過程を、省除した理由（図 5-3-4 の省除番号）とともに示すこととする。

最初に第 1 分節（第 4 回懇談会）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表 5-3-4 である。次に、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示したのが表 5-3-5 である。

■表 5-3-4 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第 1 分節

日付	コーパス行番号	発話者	発話内容
1978/11/4	1	毛利	今ここで1万5,000円ですからね、聞いたら土地が。そしたら、月にね、6万円あがるいうわけですね。費用も何もかかると。そうすると、1,000万からの家を建ててね、新しくなるけれども、ほんで、それで人に貸して、そんだけあがるかいとね、ここの 地域 のね、あの一、どないする、家賃価格、コストからいったらもらえない。それが一つの、まあ＝買上げ＝あるんですね。
1978/11/4	3	毛利	それとも、あそこもうつぶしてしもうて、アパートでなくモータープールに貸したほうが安いちゃうわけです。で、この地域もやっぱり、車はほとんど夜でも来ますんでね、それにまあ、小さい 工場 があると。小さい 工場 はやね、結局地元の、まあ鉄工所、小さんでも車置く場所もないような、まああの、 町工場 やから、そこらがこう、近くで買っていくと。そのほうが、まああの一、その、やはり()事務費のほうでは＝下がってくる＝という問題が出てくるわけですね。
1978/11/4	4	毛利	それとも一つは、まああの、建てないでくれいうこともあったわけですよ。まあ問題なったやつがな、その、＝ゴングエシ＝の焼跡の。あれはもう阻止しましたからね、()がないっちゃうことで、1カ所は。＝いけ＝が建てられましたよ。1カ所は、あの一、住民が反対で建て()ないと、今、モータープール全部なってしまうんですね。この、モータープールなどは、あれもやかし言われるわけやね。あいう＝コウティニ＝の建築物を建てるとやね、公害の問題、()問題、いろいろ出てくるんでね。そういう点で、住民大会でそこはあかんということになったんも、僕は一つとつらいという現状もあるわけですよ。
1978/11/4	5	毛利	で、もう一つは、あの、われわれとしたら将来のね、まちづくり、まあ今出てますがね、再開発のために空閑土地が必要じゃないかいう気もあるわけでございますからね、空閑土地の。それで、やっぱり空閑土地がなかったらやね、これ、何するっていう＝オオモコ＝ですからね。やはりその、空閑土地の確認で、まあこれもやかまし言うて()してもらいましたし、それから、あの一、尻池四丁目の富士化成でもですね、あれは一応、計画局に買ってもうたと思いますが、いや、あの、都市計画で、まあ、あの、盛況になっとなるわけですよ、あのモータープールもね。あれは()やっぱり将来のまちづくりをね、やっぱり住民として空閑土地が必要でないだろうかって、モータープールしてもうたわけなんですね。そういう点から見るとやね、まあ現状と将来の見通しも立て、どうやるかいう点についての相違がね、まあ多少出てくると思うんですよ。だからまあ、現状はこの通りなんです、モータープールがものすごく多くてやね。それから、言うこともね、ええ、分かります。
1978/11/4	6	毛利	それとまた、あの、 工場 は少なくなったという部分あるんですけども、やはり、あの、 工場 は現実多少出ます。まああの一、かるも保育所の時にですね、あの一、土地を、あの一、鉄工所が買って、それで来たのを、あれ住民大会で、あれ阻止したんですからね。そして、まああの一、梅ヶ番町に移ったんやから。その後まあ、かるも保育園つくってもらったと。
1978/11/4	7	毛利	いろいろまあ、そういう 地域 のね、いろいろこの状態があると、あるんと、それからもう一つ、あの一、わたし一つちょっと引つかかったんですがね、調査の中で。もっとも僕も勉強不十分あったかしらんけれども、あの一この一、この、わたしらのとらえて、この 地域 に、今うち、あの、歴史調査やってますから、この 地域 の。そんな中出てきたのは朝鮮動乱時代からね、やっぱりこの 町工場 がいっぱいに出来た、出てきたいうですね。つまり、1軒の 住宅 を買ってね、買って、そこが 町工場 になり、2階を建てて 工場 になる。隣を1軒ずつ、まだ、あの、やかましさいに近所がやかましい言うたらな、うちもそこ買いますさいに買って、2軒を 工場 にするとかいう 町工場 式のほうがね、朝鮮軍動乱からね、この地域に非常に盛り上がりていったというような、まあ実例が出てきようわけなんですね。
1978/11/4	8	毛利	まああの一、そういう点で、やっぱりあの一、今の言われた、あの一、この 用途地域 の問題、重工業それから工業地帯。
1978/11/4	17	毛利	それとも一つは、僕、あの一、 用途地域 の問題で、まあそういう問題が、あの、うちの地域に、まああの、 工場 と 住宅 の混合、まあ非常に激しかったわけなんですね。そういうことの、なる原因はやな、朝鮮動乱以後、こう、ずーっと 工場 なってきたわけなんですから。やっぱりその時には、あの一、 用途地域 なかったでしょう。
1978/11/4	21	毛利	工業地域にしとったわけでしょう。うちの 地域 全部をね、それからそういうね、 用途地域 のね、まああの、僕は、あの一、 都市計画 、()のためにやってんけど、その点で。というのは、何でね、 地域 住民が知らん間にやね、 用途地域 がある()こしらえとったわけ。 用途地域 をね。これをするからなんぼでもあんな、入ってくるわけ()、ね。するとまた知らん間に、 工場 できた、 工場 できた、 工場 できた、あれどないになった、なんや言ううちにやね、やっぱり非常に、この 地域 が変化したいことはね、やっぱり僕は市行政のね、やっぱりやり方に間違いがあったんかいう意見もあってたわけ、当時ね。僕らが、あの一、この問題取り上げた折りにね。われわれ住民が知らん間にね、どっから知らんけど 用途地域 が決まって、それからそれで、もうポンポンポンポンと変化していったと。そういうふうな、まあ僕らは、あの一、まああの、間違ってるかしらんけど、そういうとらえ方したわけ。それでまあ、反公害闘争にやかまし打ち出したわけですよ。それは行政に責任もありと()出していったわけがね。
1978/11/4	22	毛利	まあ、そこらがまあまあ、何でも出したら()なら、今後どうか言うたらいいことやけんどね、やっぱりそういう点で、あの一、僕は、この前も、あの、お話ししたんですが、用途地域というもののね、設定は非常に重大であるというふうに。重大であるね。それから、用途地域によって、その地域はどないでも変わるんからね、実際。その点では、用途地域については地域住民のね、やっぱり意見をね、大事にふまえながらで用途地域というものをね、かつちり決める必要があんのとちやいますかいうのも、僕ら今でも持つとう意見なんですね。
1978/11/4	23	毛利	そやからそういう、あの一、ここの新用途地域、あの、用途地域できましたね、この前。あれにもうちはこれについて、3,000万の金で3,000人の署名持って反対運動やったわけやからね。で、あんたら勝手に決めておかしいと。まあこれは近畿整備法に基づいて、県がやって市がやたらしいけんどね。やっぱりそこらにね、まあ今は神戸市も、住民主体性、審議した人がおられるんやから、まあだいぶ当時と変わっておるけれどもやね、やっぱりそういう問題がね、地域の、まあ変革()、こういうふうには僕は思うわけなんですね。
1978/11/4	32	毛利	いや、それ、それそやけど、あの、僕はここで、あの一、一応問題点に指摘されておりますんでね、この問題について。なんぼでも、ある程度、まあ僕は、あの一、「重工」の地域の、ある意味もう、この、現実なんですね。それで、()あげても僕は()かな、あの一、一応、人口がまだ1万1,500のと、今は9,000なんぼ出てますからね。
1978/11/4	36	毛利	8,400も出るとのね。やっぱりだいぶ減とうわけですよ。それというのを原因を指摘されましたので、やはりあの一、核家族的な問題と、それから住環境の問題が出てくるけど、住環境の問題があるから、あの一、お話ししたように、嫁さんまでもええ外へ出さんとしやしないと。えー、そういう中で、こは、まああの一、一応、あの一、高齢化してきてはると。で、その中で特に、この一、若い人がここに入ってくるという問題も出てますわね。あの一、単身者が。これがつまりね、この地域の、その木造アパートに主に入り込むんですよ、()のあたり。それが木造アパートの家賃安いんですよ、この地域はね。そうすると一時ここにおって、ある程度、この、働いて、ちょっと金ができればよそに移ると。これはね、あの、現実なんです。そやからここは、あの、よその、まああの一、地域よりも家賃が、あの一、アパートだったら安いと。安いからここに入ってくると。で、そこでまあ会社、まあちょっと行って、多少もうかれば、またよそへ移ると、こういう。

1978/11/4	37	毛利	そやから、アパートのね、ところ、木造アパートの移動は非常に激しいわけなんです。そんで、ほかの面については、僕、そう激しくないと思うんです。あの一、住民のね、今の。それから、木造アパートの場合はやね、ほとんどもう、行っても行っても入れ替わりがあるんやね。そういう点では、あの、若い人の入れ替わりがあるだろうという気はします。しかし、地域全体でそういう問題をね、除外した中においてはね、やはり高齢化しつつあるというのが現実なんですね。
1978/11/4	38	毛利	それでまあ、そこに、われわれがとらえてるのも、あの一、住環境というのがあるんやないかと。それのために、まあ市営住宅を建ててということも、われわれ要求したと思うんですがね。やっぱり層を、住環境の関係から、家族にまあ、なるにしても、地域の中でね、その若いもんをおれるような、あの一、やっぱり住環境が必要だろうという、まあ、ことも言うとうわけなんで。まあ、それは将来の問題としてですね、今言われた、あの一、年齢構成の中身といえ、僕は単独若者はそういう形の人が多いんじゃないかなろうかと、そうふうに、えー、思います。
1978/11/4	39	毛利	それから特に、あの一、まあ工場が減ったのは確かです。遠くへ工場が移転したり、それから、特にあつちへよく移ってもらいましたからね、あの、梅ヶ香町の、あの一、鉄鋼団地。ええ、鉄鋼団地にこの地域の工場、向こうへ、公害が激しいんでね、移してもらうたからね。まああの一、そういう問題も含めて、あの、減ったのは事実です。
1978/11/4	40	毛利	それから、あの一、まあ依然として公害、こう、＝残ったのあるんやけんども、やはりまあ、今言われました、あの、コミュニティーの、やっぱり施設ですね。まあ集会所も含めて。これはこの地域に必要性があるということは事実なんです。将来やっぱり、あの一、コミュニティーセンター的なものは必要だろうということも、とりあえずこの、都市計画道路の()線も、これがちょっと僕、
1978/11/4	44	毛利	ああ、それは、あの、区民会議でこの前出しましたがね。出しましたがね、あの一、＝シンミナトガワ＝の、これ両方でしょう。両方のね、この()かな、港湾賃しとるからね。そのの民家を全部ね、やっぱりあそこをのこしてらって、あそこに、その一、樹木の公園をね、こしらえたらどないかいという意見が、この区民会議で決定してますからね、長田区。
1978/11/4	46	毛利	いや、不法占拠ちやいます。聞いたら港湾が。港湾が地代もうとるわけやね。港湾が、あの一、地代もうとんので、将来はやね、あの一、まああの、60年前、まあ2001年のマスタープランの計画のね、見通して、あそこを全部緑地帯にしてね、公園化する必要があんじやないかというのは、この間の、あの、区民会議で出て、幹事会で決定します、もう。それは、あの、市のほう行くとしますよ。
1978/11/4	53	毛利	とにかく、この道路、道路を、こう、広げる話がね、ありますんで、あの一、それ、それを、ただ書いてるにしか過ぎないんです。それでであと、若干ここで公園の話が残ってるんですね、公園決定してて、購入もまだできてないところがあるということ、
1978/11/4	56	毛利	これは、あの一、区民会議で出て、区民会議の決定でして神戸市に今度、区民会議の決定として神戸市に今度、あの一、出す言うてますからね。
1978/11/4	57	毛利	それともう一つ、あの一、このね、ここで地域で問題なの、これ、これなんです、これ。この点々のあるね。あの一、苅藻六丁目まではね、一応道路をしてますね、安全道路がね。あの一、これは一応、幹線道路の建前、僕はどっとうわけなんですね。そうすると、このへんから区画整理か、これは公団の問題か知りませんけれどもね、ここを、苅藻五丁目から四丁目にかけてちょっと残しとうわけなんですね。
1978/11/4	63	毛利	いやいや、あの一、＝ワングンセン＝道路ちやいませ。あそここの道路だけね。
1978/11/4	87	毛利	ね、道路公園。その下まで道路公園が責任持ってやるんやというような意見聞いた。
1978/11/4	107	毛利	それで、僕はもう一つね、この中でちょっとお聞きしたいんですがね、一応、あの一、この一応、この案の整備法の、まああの、計画的立場からの分析いうのが出ますわね。まあこの中で、一応あの一、まあ用途地域の問題もちょっと出たと思うんですがね、どっかに。
1978/11/4	116	毛利	僕は()でね。えー、まああの、このね、用途地域の変更いうの、出とんわけなんですがね、やっぱりあの、計画的立場からの認識なんですね。で、あの、皆さんのお考えになっておるこの用途地域の変更をね、どこの区域からどうに来て、どうなっているような計画って、動きなんですか。
1978/11/4	126	毛利	それとね、町工場、僕はずっと調査してみたらね、町工場はね、やはりあの一、隣に住宅があってガーガー言われるからやね、むしろ鉄鋼団地してくれつつうね。ほな、そうすると町工場だけがね、どっかのいい＝カブ＝、うちの地域から延びてくるんちゃうよ、今後はね。やっぱり僕らの考えでも、食と住の接近した地域でありたいという考え持つとうからね。そこには、あの一、やっぱり、そこで働くもんもおるだろうし、そこで営業して、その工場から、今言われた喫茶店とかなかなか出てましたがな、そこらがもう、やっぱり生活するために必要だろうという気もあるわけね、地域住民として。
1978/11/4	127	毛利	それから、職と住とね、接近した地域も僕は、あの一、必要やいうこと言うとうわけですよ、前からね。で、それをね、今のようね、家が、住宅があって、隣に工場があって、住宅あって工場あるね、こういう混合地帯がいいんか、その地域内にやね、やっぱり鉄鋼団地的にね、それで住宅は住宅があるけども、まあ範囲決めたらええやないかと。ある一定にはね、そういう町工場ばっかりがね、やっぱりできるようなね。それで、うちうち、同じ地域なんねんから、そらあもう住と、あの一、あれ、接近してますよね。歩いてもう10分から5分で行けんねんからね。やっぱりあの一、接近した場所であつてもね、やっぱり一つの区域を付けていかんとね。そういうようなね、やっぱりあの一、食・住のね、やっぱりあの一、接近した場所であつてもね、やっぱり一つの区域を付けていかんとね。今までのような形にこう、隣でギヤーギヤー言う、文句言う、それ、こう、いつもやり合してるような地域ではどうなんかいいう気がしてますね。
1978/11/4	135	毛利	それがむづかしいのがね、あれでしょう。あのね、やっぱりあの一、現状の中を生かしてもらう一手があるわけでしょう、ね。それと、将来のね、やっぱりこの一、このような、中に混合したようなね、あの一、まあこう、隣り合わせあるわけね。それを精密にするにはどうするかいう問題も出てくるわけですね。
1978/11/4	136	毛利	そうすると、今言われた僕らの構想もね、幹線道路に工場持つていく意見も前から出してたわけですよ、幹線道路ね。それが幹線道路はね、あの一、道路が広いんですよ。そうするとまあ、鉄鋼しても何でもね、やっぱり工場しよつたら、あの、大きい車も出入りするんですよ。そうするとね、あんなん、あんた、3メートル半ぐらいな道路持つてきてこんなんしよつたら危ないしね、工場自体も困るだろうし。せやから、幹線道路、広い周辺にはね、工場を持っていくべしやいう意見、僕ら持つとうわけですね。
1978/11/4	137	毛利	ほいで、その中で僕らの言うのは、それとともにね、鉄鋼団地をね、やっぱりこの一、幹線道路のね、周囲にやっぱり持つていつちやってほしいと。その代わりに、ここではまあ、この場所か知りませんがね、その住宅とやね、やっぱり、その工場とのこの配置、こう、和があるわけですよ。そういうことは地域でまだ話してりやいいわけなんですね。そうすると、あの一、この隣で鉄鋼して工場が2軒ある、こっちのは住宅でガーガー言うて、いつもこう、近所同士でやね、にらみ合いすると。それで、そういうようなことよりむしろ、あの一、僕は住宅は住宅で固めてもらい、そして、この幹線道路にね、やっぱりそういう、あの一、工場を持つていけば、工場自体も品物のトラックの出入りも楽でしょう。そうすることがね、やっぱりこのまづくりだろうと僕は考えるわけなんですね。
1978/11/4	140	毛利	ほんで、もう一つね、僕のね、あの一、心配するのはね、これはあの、この真ん中にね、いつべんあの問題が出たんですよ。僕は反対したんやけど、()あれもあんなん()けど、だいが前に。三つ星チュウタイ＝の前をね、道路を拡張するいう、まあ。
1978/11/4	142	毛利	ああ、その。それで、あの、前でしょう。ああ。ほんで、下をね、準工業にして、上を、まああの、住宅()すると。で、あそこに、まあ大きい道路をするという意見も出とったんですがね、その点について、これもあの、近畿整備法が出とんですよ、僕調べたら。もう＝調べついでる＝、これ、近畿整備法に出とん、ズラツとね。
1978/11/4	143	毛利	それで、そういう点でね、だから、そしたらあれ止めた、苅藻四丁目ほとんどなくなるわけや、住宅はね。それで、ただね、僕らの考え方として、今、あの一、幹線道路がこう、周辺にこう、4つあるわけやね。4つあるわけですね。
1978/11/4	145	毛利	ええ、4つね。だから幹線道路というものをこしらえれば、道路広くなるかわからずね、車が、あの一、どうしても多なんですよ、道路広くするということはね。そうすると、真ん中にあんなんも通してたら排ガスどないかいいうて、自動車のね。今でさえ、自動車排ガスでやかまし言うんだよね。そういう点で、それほどまでね、広い幹線道路がこの、あの、狭い地域に必要なんかいいう気もしたわけ。むしろは、4つは()まわり()が()な、幹線道路は。それでも、その一、幹線道路、現在にある幹線道路をね、生かす方法をね、まづくりの中でできへんかいいう気もあるわけです、＝従来＝。

1978/11/4	146	毛利	病院にはね、また道路自体、こう、多けしちよつたええねん。 やはりそこには自動車か、道路広くなれば、あの一、広くすればするほど自動車の通過が激しくなるんでね、これはもう将来どこでもそうですし、そうすると、自動車が排ガスの問題を今やかましまし言うとう、自動車の排ガスの処置をどうするんか、やっぱりそういう心配もせんならにやいかというので、むしろ今の幹線道路を生かすことで、地域のね、この一、構想を練つたらどないかという気もしようわけです、われわれはね。
1978/11/4	149	毛利	いや、しかしね、あの一、まああの一、この間も、あの一、まあ高速二号線が、まあ今、もめとうわね、今。 ()でね。 それで南進計画いのが出てきたわけやね。 僕は説明せい言うたわけや、南進計画どういふふうに持っていくんかと。 それは湾岸道路に、将来国が湾岸道路＝すめい＝からね、するいうのを一応出しとねんから。 そうすると湾岸道路にね、この接点場所をどこの()で南進、あの一、南進計画いのが出てくるんですやね。 そうした場合にはね、僕は実際見たらね、うちの地区()通られへんわ、そんなもん。 あれ、()やからな。 あれからどういふ()知らんよ、僕はね。
1978/11/4	151	毛利	まあ、それから、この前も南進計画について説明しなさい言うて、あの一、市会議員と県会議員全部呼んでやってんけど、出てきへんねん、ね。 知らん言うてや、市会議員もね。 それで神戸市が、その南進計画、どういふ計画しとね、説明しなさい言うても、あの一、都市計画から何もおまへんのや。 都市計画いっぺん出てきて説明にならんいうから、もう要求出して終わりにやね。
1978/11/4	152	毛利	そやけど、その問題は将来の問題であれ、まあこの問題は、まあこの問題じゃし、その問題が出た折にはね、やっぱりまた住民主体性参加ということ言うとなんねんからやね、事前に市民・住民に相談せん()でけへんことじや思うし。
1978/11/4	154	毛利	うん、恐れもあるということ僕は考えたけど。 まあ、ある面であらう関連性あるいう気もするしやね、関連するいうたら、あの、湊川の問題をどうとらえるかいうことやね。 それが()、湊川の上に、あ一、危険なやね、あの一、こう、上にこう、道路、川の上へ道路こしらえて、あそこ走らすかいうことになってくるやろうし。 まあそこらで、あの、どうせあれは、あの一、湾岸道路いうたら地下道になってたんです。
1978/11/4	157	毛利	それから、その問題についてどうなんいうのも将来の問題だからね。
1978/11/4	159	毛利	それから今、今そういうふうにごちらへおればやね、南進計画ちゅうもん持ってきたも、なんちゅうことすんのって出れるやん。 こういうふう()ええねんで。
1978/11/4	162	毛利	都市計画もちよと頭痛いあるし。
1978/11/4	166	毛利	まあ僕も、都市計画の今のを額面通りにとってね、まだ計画も構想案も出てへんいうふうにとって、これ、まあ進めましようや。
1978/11/4	175	毛利	いや、僕らね、素人でしょ。 素人やから、近畿整備法によってこうやられるとやね、みんながこしらえた通りしてやな、三ツ星チョウタイがあるさかいに、三ツ星チョウタイ、オーケーやさかい、三ツ星チョウタイいうのはやな、え、あの一、企業優先して住民を無視しようような意見がバツと来るさかい、僕ら()、何かして一、ちゅうふうなるやな。
1978/11/4	186	毛利	いや、僕は、新用途地域・・・たんですよ。
1978/11/4	209	毛利	そやから、そういうね、僕はこの前、たしか僕は、あの一、注をつけたもんですから、あの一、僕は、あの一、転がし()とか転がし式は知らないといううな気がしたわけですが、あの、前の時にね。 で、うちの地域では、この、今言われた市街地再開発とか、あの一、区画整理事業というものはね、これは住民が非常に損する問題であるしね。 で、まあ、今言った三宮商店街のように、言われましたように、そこをきれいにして商売が繁盛してもらうかという地域でないわけで、住民が、おる場所ではね。 そうすれば、あの、転がし方式が何やねんかという、僕も意見言うたと思いますね、将来。
1978/11/4	222	毛利	ほな、うちの地域にはようないよ。
1978/11/4	227	毛利	なるほど、そういう意味ですか。 いや、僕はまた、転がし方式だけで聞いたからね。 こんな、大阪で相当大きい地域でやな、こういうね、転がし方式でやりよう・・・たかな。
1978/11/4	233	毛利	うん、そやからまあ、それはね、わずかであってもね、その地域によく、まあ似ておれば、その全体の考え方を、そういう式にしたらどういふことできるわけやからね。
1978/11/4	241	毛利	いや、結構な話で、それでいいですよ。 いや、僕らの考えもね、僕は、あの一、われわれ素人ですよ、実際ね。 ほんで、僕は前から言うんのはね、われわれ住民もね、一応いろいろ、まあ考え方があるんでね、やっぱりそれとね、やっぱり自由してもらわんといかんだろうと。 であるけど、一応、学識経験者とかね、それからこの、専門家の方の知恵を借らんと、われわれ、できんわけですよ。 そういう点ではね、やはりこういうふうにお話する中で、いろいろ矛盾も出てくるし、われわれの考えに間違いもあるだろうし。 いろいろそれをね、こう、お互いに論議して、みんなが寄って、その中でいい方向にすることばね、僕はこれはもう、あの、構想の段階からの住民参加だと思とんとです、わたしはね。 僕は、あの、住民参加いうの、やかましまし言うのはね、構想の段階から住民参加させてくれ言うわけね。 そうするとまあ、そういうところが住民参加だと思て、
1978/11/4	262	毛利	それでね、僕はね、あの一、まあ都市計画が一番大事やと思うんですよ、現実の問題ね。 ()もあって、その一、まあ、予算とかいうよりも問題はね、それはね、行政の中のね、窓口があるんで、横のね、それで討議してもらえばいいと思うんですよ。
1978/11/4	275	毛利	うん、持論ありますからね。 やはり、あの一、まあ連合会長とか、地域の代表であつてもやね、やっぱりこういう問題はね、各個人個人の利害関係に關係するんでね。 これはやっぱり僕らも大事にふまえていかんと思うし。 やっぱり準備委員会的で、この問題が進行していく中であればね、住民代表もたわんならんし、それから、あの一、どないか、あれ、町工場のね、町工場も寄ってもらわんと、企業も寄ってもらわんと困る。 それからまた、営業所も寄ってもらわんといかんしね。 やっぱり住民だけでこの問題を、僕は解決すると思てないし、やっぱり企業から、それから商売しとる人、いろいろ、そうね。
1978/11/4	277	毛利	ああ。 それから、その過程に住民会をこしらえと。 そういうことでええと思います。 もう掘り下げていくとやね、みんな寄ってもらわんとやね、そんなの。
1978/11/4	297	毛利	分かりました。 これが出てきたんで僕も安心したんですよ。 あの一、公害によるものもある＝ね、あの、大気汚染の問題でそういう質問出てますからね。 まあ前の時では、まあ公害問題もやね、なんや、ちょっと言われたことだがね、地域の問題でちょっと言うたけど、まあわれわれは、あの一、あるにはありますね、あの一、公害のね、この問題、迷惑、まあこれに＝ショウカイ＝の意見が出てるんですがね。 やはりわれわれは一応、まあ公害問題の、この反公害闘争というものはね、これは、あの、後追い闘争なんですよ、僕らの考えはね。 それで、その()地域をどう()するかいう、先取りのね、今、段階に来とる気がするわけなんです。 で、まあそういう中で、濃いも薄いも・・・やっぱり・・・やらんといかんわけで、ここに公害、公害の問題もね。 そんな中で、ここに公害問題も出とるもんで、これで了解しましたんで。 このリストは僕は、僕はええと思います、何も。
1978/11/4	312	毛利	ねえ。 あの4つの問題を一応、地元それから学識経験者、
1978/11/4	321	毛利	()とか市街地計画とかね。 これはうちの地域ではちよつと無理やけどね。
1978/11/4	327	毛利	それはあるな。 やっぱり地元やからな、地元。
1978/11/4	340	毛利	やっぱりね、おもしろい都市計画のまとめん中では。
1978/11/4	355	毛利	それも、あの、都市計画がね、行政の一番、あの、主体性を持ってもらうんで、そこはもう横の連絡をとってもらうてね。 これには、まあどの、あの一、課が出てくるか局が出てくるかいうことで進めたらよろしいやん。 こっちは分からんやし。

※発話内容における頻出単語を赤字で示す。(以後表 5-3・10 まで共通)

	指標発話			
	指標発話候補の整理過程で省除された発話			

■表 5-3-5 第 1 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図5-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第1	4回 懇談会	工場、地域、 用途地域、 計画、住宅	3	省除3	連鎖していない。	
			6	省除3	連鎖していない。	
			7	省除3	連鎖していない。	
			17	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			21	指標発話	26とのペア	●
			39	残留	21-26の連鎖の後方拡張	●
			116		内容的に「用途地域」にて→「用途地域」	
			126	省除5	①-B-b1: 131-135,136にまとめる。	
			127	省除5	①-B-b1: 131-135,136にまとめる。	
		道路、工場、 住宅	136	指標発話	131とのペア	●
			137	指標発話	138とのペア	●
		住民/地元	3		テーマが「工場」にて→「工場」	
			4	省除3	連鎖していない。	
			5	省除3	連鎖していない。	
			6		テーマが「工場」にて→「工場」	
			21		テーマが「工場」にて→「工場」	
			22	省除3	連鎖していない。	
			23	省除3	連鎖していない。	
			37	省除3	連鎖していない。	
			126		テーマが「工場」にて→「工場」	
			152	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			175	省除3	連鎖していない。	
			209		テーマが「ころがし事業」にて→「事業」	
			241	指標発話	240とのペア	●
			275	指標発話	垂水261,265,267とのペア	●
			277	残留	①-B-a : 垂水261,265,267からの会話群。275,277を残す。	●
			312	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			327	指標発話	326とのペア	●
		地域	1	省除3	連鎖していない。	
			7		テーマが「工場」にて→「工場」	
			21		テーマが「工場」にて→「工場」	
			32	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			36	省除3	連鎖していない。	
			38	省除3	連鎖していない。	
			40	省除3	連鎖していない。	
			209		テーマが「ころがし事業」にて→「事業」	
			222	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			227	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			233	省除3	連鎖していない。	
			275		テーマが「住民」にて→「住民」	
			297	省除4	内容的に「地域」がこの発話のテーマを表していない。	
			321	省除4	内容的に「地域」がこの発話のテーマを表していない。	
		区民	44	省除4	内容的に「区民」がこの発話のテーマを表していない。	
			46		テーマが「計画」にて→「計画」	
		事業	56	省除4	内容的に「区民」がこの発話のテーマを表していない。	
			209	省除5	①-B-b1: 次の連鎖会話群となる240-241にまとめる。	
		工場	39		テーマが「用途地域」にて→「用途地域」	
		計画	46	省除3	連鎖していない。	
			107	省除3	連鎖していない。	
			116		テーマが「用途地域」にて→「用途地域」	
			149		テーマが「道路」にて→「道路」	
			151	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			159	省除3	連鎖していない。	
			162	省除3	連鎖していない。	
			166	省除3	連鎖していない。	
			262	省除3	連鎖していない。	
			340	省除3	連鎖していない。	
			355	省除4	内容的に「計画」がこの発話のテーマを表していない。	
		道路	53	省除3	連鎖していない。	
			57	省除3	連鎖していない。	
			63	省除3	連鎖していない。	
			87	省除3	連鎖していない。	
			140	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			142	省除3	連鎖していない。	
			143	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			145	省除3	連鎖していない。	
			146	省除3	連鎖していない。	
			149	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			154	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		用途地域	8	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			116	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			186	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	

※選定した「指標発話」はセルを赤に、それ以外で「指標発話連鎖会話群」に含まれる発話は黄色に着色した。
 なお「選定・省除理由」の欄の各記号は図 5-3-4 及び補論「手順書」参照。(以降表 5-3-11 まで各表共通)

次に第2分節（第1回検討会）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表5-3-6である。次に、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示したのが表5-3-7である。

■表5-3-6 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第2分節

日付	コーパス行番号	発話者	発話内容
1978/12/4	49	毛利	ちよつと、あのまあ簡単なというのはいけこうなことで、私も簡単で大賛成ですけど、ただ聞いておきたいのは、 検討委員 とか 運営委員 の任期とか、数ですね、これはまだ何で()か、聞いておきたいんですけど。
1978/12/4	61	毛利	やれば、20年くらいかかんやけどね。 それとも一つね、あいう問題、ちよつと聞きたいんですが、いちおうあの名簿で見せてもらった組織団体の責任者、 代表者 ありますわね、あの一、 検討委員 の、これが 自治会 、各団体、組織において満期がなってまして、変動する場合がありますわね。 そういう場合に個人の名前でその一おすんか、その組織の 代表者 という一つ変えていくんか、そういう点を()しとかんと、個人の名前がはっきり出とんでね。名前で行くか、組織の長の変更、まあ選挙で選出する場合もあるんでね、その場合にどういうもっていくか。
1978/12/4	66	毛利	僕の考えはね、それが、いちおう組織の 代表者 であるということで 委員 にしてもろとるんか、もう一つはいろいろ地域の問題に詳しくから個人として入るとるかという問題になるんです。
1978/12/4	72	毛利	今僕そういう意味でなしにね、ここに 自治会 の 代表者 って、まあまあ会長が出るわけですね。 しかし、選挙がした場合には、自然発生的に 自治会 長が出るのんか、それとも今()にしていて個人の資格で 委員 なのか明確にすることなんです。
1978/12/4	110	毛利	多少ね、不備な点もありますが、今日はねこのくらいにしてまた。 ・・・天宅さんが言われるのはね、 運営委員会 独自のね
1978/12/4	114	毛利	雑則で()だったよね、 運営委員会 ()それを生かして 運営委員会 は 運営委員会 でまた 運営委員 がよってやっぱりそこで検討して何かをこう決定して、あの一雑則っていう形で逃げ道ができるから、これを活用すると、そういうふうにな。
1978/12/4	119	毛利	だから、あの一総会の決定を、あの一 運営委員会 で定め総会にて承認を求める、とか
1978/12/4	120	毛利	そうすればいちおう、 運営委員 まちの総会で()総会で承認となるでしょ。 普通は承認でもいいです。
1978/12/4	142	毛利	そうなるとね、 代表 代理も会社がみなあるからね、・・・会社が() 代表 ・・・
1978/12/4	155	毛利	戸尾さん、()したから()言いおらんちやいますで、これからそういうような・・・()・・・今、天宅さんが言われたことはね、平等の立場を私は尊重してるん()、いちおうみなここに 出た以上みな 委員 ですからね、組織はどうであろうと・・・委員となれば平等の立場でものをいう、これが原則だと思うんですよ、 検討委員会 は。 そういう 委員 の中からあなたが 代表 になってもいいから、 代表 が2名でもよろしいじゃないか、そういうね、いちおう選出してもらって、というのが今の天宅さんの言い分ですね、・・・
1978/12/4	156	毛利	委員 であれば、全部平等の立場で・・・
1978/12/4	199	毛利	それで確認しておきたいんですがね()学識経験者は()ですけどね、その他あと・・・だいたい 委員会 としては・・・代理を認めないことが多いんですけど・・・
1978/12/4	205	毛利	今、戸尾さんからいちおう()問題を提議していただいたんが・・・まあ、いちおうこの 検討委員 ができて、これから学識経験者のみなさま・・・ 住民 の意見を()課題があると思います。 とくに学識経験者の方からは一つ専門的な立場から・・・私たちが死んだ後かもしれないですけど、この 検討会 がある程度次の世代の人に土壌づくりをやって、()レールくらいは責任が・・・その意味では・・・そこで実践活動はどう計画していくかという大きな問題があると思うんですが・・・私は 検討委員会 だけでなしに、もっと本当の利害関係のある 住民 の意見もいろいろ 検討委員 の方も聞いていただいて、この会に意見を・・・おありがたいと思います。 ・・・次の世代のためにやっていたくよう協力をお願いしたいと思います。 ・・・
1978/12/4	227	毛利	それは、ニュース、そう()、ミニニュースいうとったわ、討論された内容・・・いままでの経過なんかをね、いちおうニュースで流すと。 それで、もう一つ、 運営 、今後の 運営 などについて、いうことになるとすね、もっと具体的なね、やっぱり資料に基づいて、やらんといかんと思うんですよ。それから一、ただ()で()と、今後の 運営 どないしまんねいうても出てこんで()、それで、今宮西さんが言われた、一つの今までの資料があるんで、そういう問題を 運営委員会 でみんなに渡るようにしてもらわなんだいけへんで、それを見ながらどうするか検討すると、訂正するなら訂正すると、これでええというならこれでええと、いよいよ、やっぱそのなかで 運営委員会 の意見も出てくるんですよ。できたら 運営委員会 のときまでにね、それ資料、 運営委員会 だけでも配布できたらしてほしいですよ。皆各自が検討して、それを()の 運営委員会 の中で揉んで、また新しい何かがあれば 運営委員会 の中で、あの一発送()の、それは・・・そのままになってしまうんでね、できれば事前にすね、 運営委員会 というののそれを検討すると、また異議があるんやったら異議があると、言えるもんは言えるというような、発送的なもん、根本的なもん、も踏まえてね、あの一、出すように、ということ、でももうたらどうでしょう。
1978/12/4	231	毛利	・・・検討 運営委員会 ができたんやから、 運営委員会 の中でしてもうて、 運営委員会 の中でええか悪いか、よければそれでいいんですよ、異議無しで、そういうやっぱり検討をね、時間を・・・
1978/12/4	248	毛利	僕はね、ちよつとそれはね、宮西さんの反論するけどね、やはりあの一、この問題はね、やっぱりあの一、 住民 の意見はある程度聞かんといかん問題があるんですよ。あの一、 住民 がやっぱり利害関係の人間ですからね。 そうすれば僕がそういう 運営委員会 でね、討論する過程において、それで1回で決まるわけじゃないんだからね、そういうたきだいに基づいて討論をやったりやっていくと、それは各団体が出とるからね、 運営委員会 に。 ()地域に持って帰って、やはり多少 住民 に知らせて、知恵をかって、それで 運営委員会 にまたそれを反映していくと、いうことでないと、・・・
1978/12/4	253	毛利	はねかえしよりね、やっぱり一、行動もっていかんといかんと思うんですよ、だからそういうものを前提にしてね、やはり()一つ一つ実を結ぶような討論でならなければいけないし、それには多少の裏付けも必要になってくるでしよし、それと、 運営委員会 で絵を描いたら、それを描いたばつ餅やと、いう、われ何さらしとんねと、それはまあ計画を実行に移す場合になると思うけどもね、やはり 住民 は知らないのに、おまえら何勝手にこんなこと決めたんやというね、総会が今までに多いからね、その点ではやはり 運営委員 の方は地元を持って帰って、多少のね、やっぱりそういう問題を提案して、 住民 の多少なり意見を聞いて、とか、その中で僕は、やっぱりあの一 運営委員会 がある程度 の運営の方針 を出して、()多少あると思うんですよ()
1978/12/4	256	毛利	その点ではね、・・・あれは非常に今後重要な役割を果たすと思うんです。 やっぱり知らせるといふね。 住民 に()知らせていくという役割があるね。 そういうミニニュースによって 住民 が知って、問題意識を持つという、こういうPRの問題ね、やっぱりミニニュースというのは非常に重要だと。
1978/12/4	276	毛利	ちよつと、浅井さんにちよつと()たいこと・・・おそらく()が80社くらいあるんですよ。 この地に。 80、80くらい鉄工の零細企業ね、あんたらのグループに、ね、そういう問題聞いたわけなんでね、そうすれば、かりに、まあまあ81になるのか71になるのか知りませんが、そういうグループの、あのこの地域、今言われた地域におる人も地域にいない人もおるわけなんでね、この中にね。 そういう場合に、いちおう 運営委員 に入ってもらうとんやからね、いろいろたき台なんか、こう出してもうて、検討する中で、そして 委員 の人が 運営委員 に1人おってるんやからね、その中()あんたんとこのグループもね、・・・集会持ってね、そういう点をやっぱ或る程度説明してね、理解してもらおう、という一つの手段、方法だと思いますけ
1978/12/4	301	毛利	検討 委員 は承諾でなくてね、・・・だから、・・・あの方、結城におつたんか。 ・・・やっぱり持って行って話せんといかんな。 前はね、僕が持って行って話したから出てくれたん・・・

■表 5-3-7 第 2 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図5-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第2	第1回検討会	委員、検討、代表	49	省除5	①-B-b1: 次の連鎖会話群となる71-72にまとめる。	
			61	省除5	①-B-b1: 次の連鎖会話群となる71-72にまとめる。	
			66	省除5	①-B-b1: 次の連鎖会話群となる71-72にまとめる。	
			72	指標発話	71とのペア	●
			142	省除5	①-B-b1: 次の連鎖会話群となる154-155にまとめる。	
			155	指標発話	154とのペア	●
		委員、運営	110	指標発話	99とのペア	●
			114	省除5	①-2: 基底となる99-110にまとめる。	
			119	省除5	①-2: 基底となる99-110にまとめる。	
			120	省除5	①-2: 基底となる99-110にまとめる。	
			227	指標発話	226とのペア	●
			231	残留	②-A: 227からの連鎖会話群	●
		委員、運営、検討、住民	276	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			205	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			248	残留	②-A: 253への連鎖会話群	●
		委員	253	指標発話	②-A: 248からの連鎖会話群	●
			156	指標発話	155と同じターン	●
			199	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		住民	301	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			256	省除4	内容的に「住民」がこの発話のテーマを表していない。	
		自治会	61		テーマが「代表」にて→「委員・代表」	
			72		テーマが「代表」にて→「委員・代表」	●

次に第3分節（第1,2回運営委員会）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表5-3-8である。次に、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示したのが表5-3-9である。

■表 5-3-8 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第3分節

日付	コーパス 番号	発話者	発話内容
1978/12/20	23	毛利	なら、ある程度の検討して・・・えて、・・・遊んでる・・・代表・・・なら学識経験者のけんといけませんしな、この人の会やからいうことだね、
1978/12/20	32	毛利	発行人は
1978/12/20	35	毛利	もう検討委員会ですらいいやないか、検討委員会が責任持つと
1978/12/20	43	毛利	都市計画、出さにならんよ、編集人はね
1978/12/20	86	毛利	そんなら、自治会
1978/12/20	95	毛利	婦人会いっても主人だけね
1978/12/20	97	毛利	自治会にみんな入っとる
1978/12/20	100	毛利	婦人会は婦人会の、やっぱりあの支部長くらいにはね渡しとくさかいね
1978/12/20	119	毛利	地域の人が困るやろな
1978/12/20	137	毛利	まあ市場ん人もおるし、で喫茶店組合もおるし、あと、どないかね、
1978/12/20	141	毛利	で、もう一つはね、工場で住んで工場もってる人も、来てもらうわけですね、だけど、工場だとわては知りまへんというのは困るんでね、そう人も問題意識もってもらわないと、(1)工場おるけど・・・せんはね、まちづくりですさかいな、そういう点では、いろいろ分野と、地域で工場を持って住んでる人、地域に工場置いて帰る人、こういう人もやっぱりもうもらう方がええとちやうの。
1978/12/20	145	毛利	その代わり責任持ってもらわないとね。そやから、この人で夜6時から7時ごろであれば、ちょうど工場()やからね、・・・まだしんどい、いうことだろうから、日によつたら・・・出てくるんだよね、そういつて、それなら土曜日の
1978/12/20	165	毛利	そうすると、働いてる人はね、会社・・・まあ土曜日だったら休みの人が多いからね、僕なんかが()回って、()したら・・・なんだけどもね、難しいね、会社で働いてるいうとね
1978/12/20	169	毛利	役所の人は市民のためやからね
1978/12/20	180	毛利	だから、役所の人は早めに食事して、・・・僕らは1時に来ますから
1978/12/20	206	毛利	そやからね、一番難しいのはね、市がね一本のまるで買えんわけね、はっきりいうてやね、それを次はどう使用するかいうてね、許可違う訳よ、ね、あなたのあれもそうや、後ろの・・・うちに寄ってもらった・・・ここについてはやね、集会所いうたら市民局や、老人憩いしてくれいうたら民生局や、住宅するいうたら住宅局や、それ・・・までにそれ超えなあかんも
1978/12/20	231	毛利	それも住民に知らせてやったほうが、落ち着いてできるいうことやね
1978/12/20	245	毛利	時代だということおまへんがな、そやから区画整理いうものは、住民が一部負担いうことを覚悟しとんとやな、
1979/1/20	11	毛利	それでね、今、天宅さんの言われたのはね、こういう現状の中で、事当たるべしという場合はこういう施設がいると、・・・ことになるということやね。まあ僕もそういう点では賛成なんですよ。それからここね、コミュニティセンターそのものを建設せんといかんというものもあるしね、そこには文化センターであり、青少年、青年の家、憩いの場であり、婦人の会合の場でありね、地域の自治会の活動の場であり、それから慰労センター、必要だろうし、それから本にも書いてだしたんやけどもね、そういう点ではこのコミュニティセンターの中に、三等郵便がひどすぎるやないかとこの地域、ないかの一つも、三等郵便局、そういうのも必要じゃないかと
1979/1/20	13	毛利	え、例えば、コミュニティセンターをやつぱりこしらえて、総合的な、天宅さんが言われたような文化施設が、ね、そやから、その一、その場所に、あの一、憩いの場所が必要で、そしてまた青年の憩いの場所、婦人の文化的向上の場所、地域の自治会の集会所、それから三等郵便局、ね、それから医療センター、そやから今度のまちづくりにはね、僕は健康、かね、医療とかいう問題を無視できない()がある・・・
1979/1/20	15	毛利	いや、いや、それはやね、それはコミュニティセンターができたらね、その中にね、そういう地域の文化施設的なものを
1979/1/20	22	毛利	というのは、その中にはね、住民票と印鑑証明はね、電送で送られるんだからね。この地域では、センターに行けば、そこでできると、役所まで行かんね、遠いとこ、そやから、これ電送で送られるんやからね。そういう施設が今度必要だろうということすな
1979/1/20	24	毛利	ね、長田までいくんじや、老人困るよ
1979/1/20	41	毛利	なんです、公園が
1979/1/20	43	毛利	これは事実やけどね、これは事実やけどね、実際言えばね、今の皆さんの意見で、公園はもういらんと聞けるわけやね、ね、ということは、今の段階ではいらんだらうと、しかし、今のね、今のはっきりいうて、神戸市が出しとるね、一人あたりの平均の、公園の面積から言えば、
1979/1/20	47	毛利	それから、はっきり言うてね、人口から出れば、公園の面積はまた少ないかもしれないかもしれせんよ。神戸市の()ね、新聞に出てましたけどね、何mいるのか、言えばね。要請が出てくるやろ・・・現状ではね、今まで一つもなかった公園がこれだけでけとんやから、まあ満足しとる・・・や、
1979/1/20	50	毛利	あ、あの一、・・・、で将来に向けてね、我々はこのプランの中ではね、やっぱりこういう考えもあるわけでしょう、今、ま、一応、あのこの地域が老齢化して来ていると、ほんで、やばり、若いもんが過疎化して来ると、出てましたわね、これは現実でね、そやからこの若い人が市営住宅なんか来て、住環境変える中で、どめていくというのが我々の目的であらね、そうすれば、子どももようけできるんで、・・・そうする段階では足らんやろと、いう考えがあるわけね、将来に向かったら
1979/1/20	54	毛利	そやから、僕は将来はね、ここまのまちづくりの中ではね、老齢化しておると、それと若いのが、外に出ようとしておると、それをどう引き止めるか、いう問題が市営住宅の問題にもなってきたておるんでね、公営住宅建てと。その中で我々が考えているのは、スーブの冷めないまちづくり、いう考え持っているわけです。スーブの冷めないまちづくり、ね。ということとは、何かがあればね、年寄りが悪かったらやね、一人暮らしはしいたらやね、すぐにね、連絡してこれるというようなね、問題のまちづくりが今後、必要だろうと、毛利さん、スーブの冷めないまちづくり、ってはどういうこっちゃって、言われて・・・
1979/1/20	64	毛利	この捉え方がね、どういう捉え方がね、ちょっと僕はわからんのよね、あなたの言われたとる道路の捉え方がね。道路の捉え方を我々は生活道路と捉えておるわけです。私たちはね、生活道路。ね、それを生活道路と捉えるんか、この地域は、車の道路と捉えるんか、いうところ違うと思うんです。
1979/1/20	71	毛利	僕らはね、生活道路の捉え方を言及してないと思うんですよ
1979/1/20	73	毛利	生活道路いうたら人間優先の道路、人間が楽しく、楽しめながら歩けるような道路というのがね、僕は生活道路だと
1979/1/20	84	毛利	そやから今いうのはね、今、酒井さんの言うた将来性のこと言うわけや。そやから今のようなかでは企業もやね、えらうて、やっていけんと、そやから遠慮なしにやれていけるような場所が必要だろうと、そうするとゲタバキ式団地をこしらえてもらって、下に工場はあって、なるべく広い、車の入る道路、駐車禁止にして、あとは、職と住とは接近というのが出てるんやからね、今までは事業主が、工場でおいといて、帰って、通勤して来たんだんやから、それがやね、工場の2階にその経営主もやね、よそから通うのでなく住みたいと、こういう話だと思ったね、
1979/1/20	93	毛利	そやから、公害の話出たでしよ、公害のね。今、町工場の中で、まあ公害やというのは有機物の公害は出てないわけです、鉄工所なんかではね、ただ出るのは、騒音、振動、ね、それがとくに住宅と隣りなれば、僕はーべん、あの、実際に歩いて・・・
1979/1/20	95	毛利	というのはね、これが普通の工場で、裏の方ならせんわけ、長屋で壁一つでしよ、というのは、壁一つの住宅で隣で旋盤、がりがりやつとつたらやな、病気で寝とつたら、壁の上でいきいきいうからやな、うち苦情が来たことがある。そこは位置変えさせたわけ、旋盤の位置。裏側にしなさいって。裏の方はええわけや。裏は溝があつて道路があるんやからね、多少、空間が。壁一つのところできいきいやられたら今頃、薄い壁一つやからやね、そりや、出るわ、振動もね。そういう配置の問題もあるやんけど、そやけど町工場ではいおうということもないように、安心できるようにゲタバキ団地にしてほしい、っていうのが意見やつたね、そうでんね酒井さんね。
1979/1/20	101	毛利	そやから、現状見たらほとんどそうでしょうや。僕はこれではかかると、あのね、道路の問題だよな、道路を広くするのかどうか、いう問題。

■表 5-3-9 第 3 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図5-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第3	1, 2回 運営委員会	人/市民、工場	1回23	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回32	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回35	省除4	内容的に「人」がこの発話のテーマを表していない。	
			1回95		テーマが「工場」にて→「工場」	
			1回100	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回119	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回137	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回141	指標発話	139,140とのペア	●
			1回145	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回165	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回169	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回180	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			1回206	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			2回24	省除3	連鎖していない。	
			2回43		テーマが「公園」にて→「公園」	
			2回47		テーマが「公園」にて→「公園」	
			2回50	残留	43からの連鎖会話群	●
			2回54	省除3	連鎖していない。	
		施設、自治会	2回11	指標発話	4に対するペア	●
			2回13	残留	4からの連鎖会話群	●
		人/人間、道路、工場	2回73	残留	79～84に先行する連鎖	●
			2回84	指標発話	83に対するペア	●
			2回93	残留	95に先行する連鎖	
		公園	2回95	指標発話	94のペア	●
			2回43	指標発話	44のペア	●
			2回41	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		住民	2回47	残留	43からの連鎖会話群	●
			1回231	省除4	内容的に「住民」がこの発話のテーマを表していない。	
		生活道路	1回245	省除4	内容的に「住民」がこの発話のテーマを表していない。	
			2回64	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			2回71	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		道路	2回73	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			2回101	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		自治会	1回86	省除4	内容的に「自治会」がこの発話のテーマを表していない。	
			1回97	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		施設	2回15	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
			2回22	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	

次に第4分節（第2回検討会）の「指標発話候補」のうち「頻出単語（第二水準）」を含む全発話と、そのうち選定された「指標発話」を掲載したのが表5-3-10である。次に、「指標発話」選定に当たって省除した発話の省除理由を示したのが表5-3-11である。

■表5-3-10 頻出単語（第二水準）を含む指標発話候補と指標発話／第4分節

日付	コーパス 行番号	発話者	発話内容
1979/2/6	2	宮西	それじゃ、あの一、 商業 の話が出てきたんで、えー、誰か 商業 、あの一、代表者というか、えー。
1979/2/6	9	宮西	あの、今の話は、まああの一、先ほどの、まあ 住宅 と 工場 というような話以外に、 商業 と工業のつながりがあるという話だったわけですけど、まあそれ以外に、やはりこう、やはり、 商業 そのものが、やっぱりこう、高齢化によって、その一、まあ地盤沈下していく、＝なりつづめる＝、この新長田なり、まあ神戸が、神戸市が一生懸命力を入れてる副都心ができくることによって、いろんな圧力を、まあ受けていいうと、で、今は便利なところだから、やっぱり 市営住宅 というのを建てて、その一、活性化を図ってほしいというような話なんですね。
1979/2/6	10	宮西	まあ、 住宅 、新しく 住宅 をつくると、 商業 のほうからいうとやはり、その一、新しい 住宅 をつくってほしいというような希望、まあわたしもこの町ん中で、こう、いろいろ歩ってみたら、やっぱりあの一、 市営住宅 の建設を求める、あの一、商店や飲食店、非常に多かったわけ、まあそんな話の裏付けだろうと思うわけですけども。
1979/2/6	24	宮西	だから、まああの一、これ、新しく、 住宅 を新しくつくるといことは、やっぱりその一、こう、必ずしも、まあこれ、 市営住宅 を建設する部分、商店が多いと。だから、 住宅 をつくってほから人間呼んでくるという話じゃなくて、やっぱりその一、この地区に愛着が非常に、持っている人がたくさんいるから、その人たちを、なるべく使用できるような住宅にしていこうと。それが 市営住宅 だったらなお結構だというような、あの一、ことだし、まあやっぱり、あの一、今そういう話は非常に難しいわけです。ただまあ、その難しいのをこういう計画を作って、ワットこう、ぶつけていこうではないかというのが、まあこの将来像をつくる意味だと理解していただけないかなというのが、こう、わたしどもの、こう、気持ちなんですけどね。計画を作るいうたら、そういうことではないだろうかと。
1979/2/6	25	宮西	もう、だから道路をつくるとかね、そういうことじゃなくて、なんかこう、やっぱりみんなの願いをこう、どっかにぶつけていくと。今、おそく市営住宅ってのはもう、特定()なんで非常に難しいわけです。おそく、だからこう、このまいつたら10年で解決するかどうか分らないという感じがするわけですけど、まあそれでもまあ、いろんなこう、最近、抜け道が、抜け道というか、()法の抜け道じゃなくて、いろんな制度としてそういうのが考えられてきてますし、まああの一、今、小森先生がおっしゃった特定入居、まあ地元の人、その、市営住宅を望んで、で、持ってきたら、ここに、あの一、再開発のために、その、立ちのきなきやいない人を、ここにに入れていこうというような話も、まあ最近では、あの一、若干考えられてきてますし、まあそういうことを勉強しながら、なんかこう、まああそ無理な話を、まあ僕は行司役いうか、行司役いうたら怒られてしまうんですけども、まあ、そういうことを、やっぱり要求していくということが、なんか計画作りじゃないかなという感じがするわけですね。
1979/2/6	42	宮西	市営住宅だけじゃなくて、やっぱり住宅のこう、なんか、例えば大きさとかね、例えば家族何人で住むのかと、その一、親子だけで住むのか、おじいさんも一緒に住むのかで、こう、住宅の大きさが変わってくるわけだし。または若い人が住むのか、または、その一、まあ幼稚園に行くような子どもが住むのかというような形で、住宅の大きさっていうのは当然変わってくるわけで、そうい、その一、住宅を、たくさんやっぱり、()ほしいというようなことが、やっぱりこう、住宅を新しくつくるといところに、こう、込められてるんじゃないだろうかという感じがするんですけどね。まあ、問題としては、まあもったくさん、こう、出てくるだろうと思うんですけども、でもまあ、やっぱりこう、市営住宅つくれというのは、こう、非常にこう、ひらめきやすい話なんで。
1979/2/6	44	宮西	その一、 住宅 の問題、どう解決するかということになったら、当然そういう話も。
1979/2/6	47	宮西	あの一まあ、今日、いろいろ議論をしたわけですけども、まあちよつと、9時ちよつと前ぐらいになってきまして、で、まあ、 運営委員会 からの何かもう一つ、こう、提案があるとか、そういう話がありますので、あの一、どうしますかね。
1979/2/6	48	宮西	今日こに、まああの一、こんな話をさつと並べただけで、これだけいろんな話が出てくるということなんで、ほんととは、その一、今日何が問題かというのを決めたかったわけですけども、どうもまだそこまで行ってないという感じがするわけです。
1979/2/6	52	宮西	で、まあ、ほんととはまあ、だいたいまあこんなもんだろうと言った、まあこんなもんなんですけども、まあ、しかしまあ、やっぱりこう、みんなで決めていくという、こう、話もありますから、もし、あの一、このへんの話をもう一回、あの一、 運営委員会 に持ち帰って、その一、今日の雰囲気 運営委員会 の人たちがどう理解したかということで、で、まあ、 運営委員会 で、提案したやつが、このまま進んでいいのか悪いのかというのを、その一、今日これ、()少し保留にさしてもらおうということはどうでしょうか。
1979/2/6	56	宮西	それ、 運営委員会 で引き取りますか。
1979/2/6	58	宮西	それは、あの一、ほんとはなんかこう、こういうふうな話をさつとこう、修正していくという話が、どうも今日出てきたみたいな感じがするわけですけども、そういうふうな話を一回、 運営委員会 の中で、あの一、引き取る、ということではいいですか。
1979/2/6	65	宮西	まあ、あの一その一、まあ今、僕引き取るという話をたんですけども、その一、まあ一つはこういう課題、まあ今日、この課題がどうのこうのという話が出てなくて、まあ全体こももともとなんか深めていかないと、もうちょっと広い視野に立たなきゃいけないというような話だったんだろと思うんですね。全体の、あの一、雰囲気としては、そういうことで、あの一、ひとは、これをさつと詰めていくというお話を、その、 運営委員会 で一任してもらって、で、もつと詰めていくと。しかしまあ、課題はもうこんなもんだろうということで、あの一、それは承してもらえるかどうか、そのへんはどうですか。
1979/2/6	66	宮西	どうですか。こう、なんかこういう、まあ今日初めてなので、こういう議論をしたわけで、今まではお互いの、なんかあの一、手続きみたいな話だったんですけども。まあ、今日みたいな話をやっぱりもう一回持って、その一、例えば今日議論、今日はだいたい住宅の話とか、まあこのへんの話に、あの一、過ぎたわけですけども、その一、もう一回やっぱりこういう会議を持って、それで、この一、検討会議を持って、もうちょっと、例えば 道路 の話、もう大事な問題抜けるわけ、そういう話をみんなで議論するということですか。それと、それをもう一回、あの一、 運営委員会 にまともという格好で指示するか。それとも、もう次、こつこの話をしようではないかということ、どちらか、ちょっと今日、決めてほしいという感じがするんですけどね。まああの一、今日出た話を、あの一、 運営委員会 で次整理するいう話は、あの一、当然引き受けなきゃいけない話だろうと思うんですけども。
1979/2/6	80	宮西	一年間いうね、あの、タイムリミットをとにかく仰せつかるわけで、その一、それをどう 運営 していくかというのを一生懸命考えてるわけで。
1979/2/6	81	宮西	まああの一、じゃあそういう意味で今の話は、まあ今日は、あの一、ほんとどのが話が、なんか 住宅 をめぐる話というのがに終始したんで、まあこれについては、あの一、 運営委員会 で今日の話は整理して、もう一回、なんか整理したやつを検討に出し、それで次はまあ、それをどう解決するかという方向でいこうではないかというのを確認するということが、もう一つは、あの一まあ、ちょっと土地利用の問題、あの一 住宅 と 工場 の問題なり、または、その一、商店の問題なりというのは、先ほど 住宅 の話が結構してしまつたんで、まだ議論し尽くされてないということ、または 道路 の問題、または駐車場をこれからどうしていくのかという問題、それに自動車公害の問題、それに施設の問題、まだこう、抜けております。だからこのへんはもう一回ぐら、あの一、こういう場を持って議論をするということに、するということではよろしゅうございますか。まあ、今日の話をとにかく、
1979/2/6	84	宮西	だからとりあえず、なんか、まあ今日、皆さんお話ししてお分かりだろうと思うんですけども、必ずしもこういう問題ってのは、その、手順良く、こう、トントントントン進んでいく話じゃなくて、こう、いろいろ関係出てきますし、あつち行つたりこつち行つたりと。で、こういう問題を、あの一、ここの議論してたら 住宅 の問題行し、この 住宅 の問題ってのはこつち行っちゃうしということ、で、いろいろあの一、相互関係あるんだと、あつたんだということだけ、なんか確認できた、非常になんか、今日の成果あつたんじゃないかという感じがするわけです。それはもう、なんか、計画論を担当としては非常になんか、今日の話、あの一、おもしろかったし、あの一、なんかこう、こういう場が、なんかできたというのは、非常になんかこう、実感としてまちづくり、もう進んでるんだと。
1979/2/6	92	宮西	一応、なんか、今日は提案したのは、こういう計画作りの手順というのはこういう形で行きましょと。それでまあ、こう、何が問題だったら、こう、こういう形で議論してって、固めていって、それで、あ、ほんとにこの場で議論するのは、こういうこの部分、第4段階なんだということだけ、あの一、今日確認していただけたら、非常にこう、なんか、 運営委員会 から提案する話としては成果あつたということだと思います。
1979/2/6	97	宮西	ちよつと、あのね、あの一、＝毛利＝さんね、ちょっと、僕の理解の範囲で申し訳ないんですけども、あの一、今毛利さん言ったのは、やっぱり地場産業が問題だということだろうと思うんですね。で、まあ、それを、まあこの中には住宅と工場()しかないわけで、工業が問題だという話を()スッポ抜けていただろうと思うんで、だから、仮にまあ、工場の問題をどうするのかと、もう工場そのもの、営業の問題なり、その一、成り立ち、()いきの問題をどうするかということ、で、それをどう解決するかという話がある、その一、例えば、今、あの一、毛利さんから話あったように、その一、どう、その、今あの一、どう理解していかうかという話に、こう、つながっていくわけで、で、おそくこう、どう解決するかという時には、例えば住宅の問題ではここにおられる、その一、＝エンドウ＝先生とか、まあ工場の問題では小森先生とか、まあその、土地利用の問題では、その一、島田先生とかいう先生に、ある時はこう、講義をね、してもらって、まあ、真野地区がこういうところで、で、今はその、住宅がこういう問題、今まで、こう、理解するところだという形でレクチャーしてもらうと。で、工場の問題についてはこうだいう形でレクチャーしてもらって、で、その中で、その一、どう解決するかという話をみんなで、その、考える素地をつくっていかなくないかないうたろうと思うんですね。＝共通の基盤＝みたいなものをつくっていかなくないかないうたろうと思うんですね。
1979/2/6	108	宮西	ああ、そうだ。あつ、ちよつと待ってください。もう一つ、あの一、 運営委員会 から報告するのを忘れてました。
1979/2/6	110	宮西	で、今回この 運営委員会 から、その、検討会議について、まあこういう形で進んでいってるんだという報告を、やはりすべきじゃないだろうかということで、あの一、次の第2号、まあこれ創刊号なんですけども、第2号として、まあその、こんなに細かくどこまで表現できるか分からないんですけども、第2号としては、あの一、こういう手順でいきますよと。で、こうい、何が問題かというやつを 運営委員会 で、その一、検討して、まあ固まってきましたよと、で、あの一、検討会議で現在こういうところまで進んでますよというのを、あの一、皆さんに報告する必要があるんじゃないだろうかということで、第2号を出したいと思うんですけども、よろしゅうございますか。
1979/2/6	113	宮西	あの一、それと、もう一つ、あの一、この新聞を発行するの、事務局が担当してるわけですけども、なかなか言葉づかいとかいろんな意味で、あの一、問題ありますし、えーその一、地元の方から編集委員を一人選んでほしいと、これはもう事務局からお願いだったわけですね。で、 運営委員会 の委員さんの中から一人ということ、あの一、＝サカイ＝さん、あの一、が選出されたわけです。そういうことで、サカイさんが 運営委員 の中から、その一、このまちづくりニュースの編集委員になったということをご承認していただきたいと思いますけど、よろしゅうございますか。
1979/2/6	116	宮西	それじゃ、あの一、そういう、まあ今日の最後に、このニュースの成果をご報告しまして、えー、一応滞りなく済みましたので、今日の検討 委員会 はこれで、あの一、お開きにしたいと思ひます。どうも皆さん、ありがとうございました。

■表 5-3-11 第 4 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に含まれる発話
				図5-3-4	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第4	第2回検討会	住宅、市営住宅、工場、商業、道路	9	省除5	25の前方連鎖	
			10	省除5	25の前方連鎖	
			24	省除5	25の前方連鎖	
			25	指標発話	23のペア	●
			97	指標発話	93,94のペア	●
		子ども、住宅、市営住宅	42	指標発話	40,41のペア	●
		住宅、工場、道路、運営委員会	81	指標発話	82のペア	●
		商業	2	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	
		住宅	44	省除3	連鎖していない。	
			84	省除3	連鎖していない。	
			47	省除3	連鎖していない。	
		運営、委員	48	省除3	連鎖していない。	
			52	省除3	連鎖していない。	
			56	省除3	連鎖していない。	
			58	省除3	連鎖していない。	
			66	省除3	連鎖していない。	
			92	省除3	連鎖していない。	
			108	省除3	連鎖していない。	
			110	省除3	連鎖していない。	
			113	省除3	連鎖していない。	
		運営	80	指標発話	81と同じターン	●
		委員	116	省除3	連鎖していない。	
		道路	65	省除4	連鎖する発話に賛成・反対の意思表示がない。	

④指標発話連鎖会話群の抽出

すでに「指標発話」の選定過程で前後の発話を読んでいるので、ここでは「指標発話」とそれらの前後の発話をくひとまとまりの会話群として区切って>記述する。

なお、「ひとまとまり」の区切り方については第 2 章で示した「前への遡り基準」と「後への遡り基準」に則って行う。結果は次のようになった（巻末資料参照）。

■表 5-3-12 第 1 分節における指標発話連鎖会話群

分節番号	該当会議	提出事項	(1)Dialog of a man of the first degree of the turn ratio	(2)pre-dialog of (1)	(3)following dialog of (1)	(4)pre-dialog of (2)	(5)following dialog of (3)	(6)pre-dialog of (4)
第1分節	第4回懇談会 1978年 11月4日	工場 道路 地域 住民 /地元 /区 民/地域 住民/市民 民生住宅 計 画 用途地区 都市事業 将来 都市 計画	毛利11: 都市計画のためにやってんけども、・・・申請・・・用途 地域をね。これをすかめかなほまであった。入ってく わけが、ね。するまじ知らん間に、工場であつた。工場 であつた。工場であつた。あれだとなつた。なんや言ううち にやね、やっぱり是非で、この地域が変化しといふことは なね、やっぱり僕は市行政の、やっぱりやり方に関連 いがあったんかいと思ひもつてたわけ、・・・			戸尾28: 「やっぱりね、やはり歴史が・・・ようにな。(X)長田を見たつ ね、やはり()ヨコワフンがなってる。現在こういうことかなつ てないと思うたがね、やっぱり者、長田もね。それなら、自分 のことだけやって考えたええという人ばかりしかなく、この地域 には昔は多かった。この地域のことを考えていい。	毛利27: まあ、それはあるやらね。	
			毛利126: やっぱり工場としての、あの、大きい車を出し入れるさ です。そうすると、あんなもん、あんまり、3メートル半 ぐらいな道維持しててまんさんしたら危ないから、こゝろ 工場の壁と段差だしし。せやから、静態設備、高い橋、高 架橋はね、工場を持っていきたいいう意見、僕らは賛成す うわけですな。	毛利135:あれがむかつきのいがね、あれでしょう、あのね。 やっぱりあの、機軸の中を生かしてもう一手があるわ けでしょう。それで、持参のね、やっぱり一のね、このよ うな、中に建設したくなね。あのー、まあ、譲り合わせ があるわけね、それを密着にするにはどうするか問題も 出てるわけですね。		T131:あのね、うちのほうはね、民営が本部のとこで すがね、そいでまあ、神戸市がね、どこかに指定した 神匠には、まあ東工業地帯になつて、商業の街はまあ そろそろたててあげな、そのへん()もあって、市の 特産品にいてはいね、もう、大きい工場はのていしも うて、でも、まあ、二階建て建ちますからね、あと、こ んどはう商業に変化してる、で、そういう背景のこ は、まあ補助金もあるやまと思うんですが、それが、それが ここはまあ、用途変更は難しいかと思ひますね。		宮西130: だからあのー、こういうなんか、いくつか考え 方、土地利用の考え方のはあると思うんです ね。で、こういうことを考えるなら、用途地域というものを 考えていくことが必要なのかもしれない。ただ、そのころ、こ から、ああ、まあであるとしたら、なんかこれいろいろの では、用途地域が有効であるものでは、だからいろいろ、細かくモザイク状の、前で、用途地域が設定で きるかどうかについては、これはちょっと疑問が残るんです けどね。それ、都市計画、どう判断するのか。
			毛利137: いつもこう、近所同士でやね、にらみ合いますと、そん で、そういうようなことになりまして、あのー、僕は住宅は 住宅で置てもいいし、そして、この幹線道路のね、やつ おかしきやう、あのー、工場を持ってけば、工場製品も 品物のトラックの出入りも楽ですしよ。そうすることが な、やっぱりここにまちづくりだろうとは僕は考えるわけで なでね。		T138: やっぱり、そのミナマでん＝な、住宅問題とか工場問題 を解決したら、おのずから道路の問題は、解決すりゃいいい かと思ひますね、その地域のね。			
			毛利241: 僕の周囲からの住民参加だと思ってます、わたし はね。 僕は、ね、住民参加の、やまし言うのがね、積極的 の範囲から住民参加してくれようかね。 そうするとまあ、そういうところが住民参加だとして、	宮西240: それで、まあそういうことで、この、まあ懇談会 を、まあ今年度、そういうふうにごう、進めてきたら、われわれ もなんか、その、既成事実だいたいなくて、既成事 実で何がなるのかというのはありますけれども、やっぱ その辺りの性格はごめんとして、で、そこへ、その前に じゃあ、それを具体化するんだけど、この事業というのが位置 づけられて、そこで出てくるいろいろな形で、具体的に産業 文化と、今とかが近い土地があると、あの土地をど う利用するのがいい話があるんだ、だからそういうことで、な んかここ見てみて、あのー、そういう話がね、みんなと できたら、われわれもなんか、仕事やらない気がする。		毛利209: それから、そういうね、...うちの地域では、この、今 置かれた町並みを再開発とか、あのー、近隣関係事業 ぶんのものは、これは住民が主体になる問題は ありません。で、まあ、今の三宮商店街のように、置 かれたところ、そこをきれいに完成させたいという ものからという地域ではないけれど、住民が、おもしろ さな、そうですね、あの、既成方式が何やねんか という、僕は重要思うと思ひますね、両側。		
			毛利275: 「・・・多摩川会長とか、地域の代表でありますね。 やっぱりこの質問はね、各個人個人の利害関係に 関係するものでね。・・・僕も大勢にもよく思えていないこと やう、やっぱり多摩川委員会の、この問題が進行してい く中であればぬ、・・・町工場も・・・企業も・・・営業所も 持っているみたいやんね。つまり住民だけでこの 問題を、僕は解決すると思っております、・・・」	毛利269.271.273: 準備中ですので、・・・・・・ 「・・・僕であればぬ、・・・で、でないです。」	T276: 今の過程ですね。		毛利277: ああ、それから、その過程に住民会をこなされること、 そういったことだと思います。もう少し詳しく聞いてい やね、みんな答えてもらわないとね、そんなの。	
			毛利327: それはあるな。 やっぱり地元やらからな、地元。	須井326: あんまり過ぎませんかと、あのー、そういう、で、あれで、保役 せんがね、入っていたらいいから、もうほ。		宮西320: (:行旅がおこぞんだったのくらい求めてて)		

[illegible]

■表 5-3-13 第2分節における指標発話連鎖会話群（その1）

[illegible]

(7):following-dialog of (5)	(8):pre-dialog of (8)	(9):following-dialog of (7)	(10):pre-dialog of(8)	(11):following-dialog of (9)	(12):pre-dialog of(10)
<p>清水89: ・・・言わせていただきますと、・・・まあ、おうち委員長さんがついていたのが・・・だ。これ、必ずしも自治会長の仕事権を持って書かれているということでもない・・・各町の事情を考慮ながら、・・・引継ぎして、必ずしも自治会の方で選出していたらどうかと思いますけど、いかがでしょう。</p>		<p>毛利90: いや、それで結構です。</p>			
	<p>T147: たまたまね、最初の重要が事務局からね、出た言い方が悪いんですよ。なぜかというね、自治会連合会長というもうた、これ原稿の箇所ですがね。そやからねこれほね、この書きぶり言葉を使わずに、</p> <p>T149: 連合会長の発言でなんかなしにね、わしも毛利さんも委員になって、一委員として、調査は悪いとして、たまたま選出はそういうふうになるけど、一委員の中から役員もなるような時分だね、やってもらて、内心はそう思う気持ちはありますけど、それ思いおつたらまた反応があるで、やからそういう・・・そのうえで会長の人事選びなり、・・・</p>		<p>S143: そんなとありまへんが・・・</p>		
<p>毛利923: ・・・検討運営委員会がでたんやから、運営委員会の中でもしても、運営委員会の中ですええ悪いよ、よければそれでいいんですよ、異議無しで、そういうやっぱり検討を、時間を・・・</p>		<p>戸尾932: ・・・考えると同じ・・・基本的・・・もんで・・・実は早い・・・</p>		<p>毛利923: やっぱり地域に・・・言わんともつわりませんのでね・・・</p>	
	<p>S249: 運営委員会からして、その、広聴することは非常にいいことである、公開性も、住民の声を聴き取るということにはほんと大事だと僕は思ってます。</p>		<p>毛利948: 僕ほね、ちよっとそれほね、宮西さんの反響するけどね、やほあのー、この問題ほね、やほひんたのー、住民の意見はある程度関かんといん問題があるんですよ、あー、一住民がやっぱ利害関係のある人でもね、そすすばあやからいう運営委員会ね、討議する過程において、それで1個で決まるわけじゃないんだから、そううたきいいとこについて討議をやっぱりやると、それは各町が出るといからね、運営委員会に、(1)地域を持って来てて、やほ(2)多少住民に知らせして、知照されて、それで運営委員会にまたそれを反映してと、(1)と(2)とが、・・・</p>		<p>宮西947: で、それがね、ちよっと、私焦っているのは時間の問題なわけです。たとえば、その年かね、その年の時期があるんば、住民と連携しながら、例えばこの検討運営委員会、住民会議をもって、それでやっていければいいですけども、それかどうい問題があるわけですね、考(1)ってやれば案とづあっていいわけですね、だから、だいたい、まあ、案とづあっていいわけですね、一つの問題やるだけで、そんなに、一つの問題だけやらないで、やれば12月、13月に3回やっていわけですね、やればそのぐらいの期間がないと、やっぱだいたい3回で、やっぱ2回としらね、やっぱいいわけ、ある程度、期間はやっぱりない方がいいしないうた、その辺の問題は、やっぱり待って、でおおてそのへんの取り組みから、あのうの時期かなうた、こてで検討した二、三をそんなに見て、こてう</p>

■表 5-3-14 第2分節における指標発話連鎖会話群（つづき）

(13):following-dialog of (11)	(14):pre-daalog of(12)	(15):following-daialog of (13)	(16):pre-daalog of(14)	(17):following-daialog of (15)	(18):pre-daalog of(16)
	<p>池井 140：…そしたらちよっと、運営委員、代表代理までを全部を言うて、そしてどうかという感じで進めましょ。</p>		<p>5137,138,139: それやったら自治会の延長になってしまいますもん、そういうふうにしたら自治会とか、そういうものを超越して、あれするために、その一層を定めて市の乃とかたは組織図で、分けるもやっつたら、それはもう自治会独自のあれでやっつたらい、いやいや、(1)それは僕個人の意見であって、ご検討願いたいと思います。</p>		<p>奥水 130: それでは、代表でございませうけども、代表の場合、副1名というのがあるんですけども、この後継の場合、二つ運営会もございませうので、えーそういう点を踏まえてまして、尾屋会長として尾屋会長に代襲していただくかどうかと考えておきます。</p>
<p>戸尾 236: そういうものはね、やはり部分的にね、部分的に起こることで、やはりアウトラインが、こうてやつがね、青森が、それはやつばし一発ないと</p>		<p>T237: 戸尾さん、宮西さんのアウトラインはね、たきたがいは、みんなも思ってたからよく、できるもん、あれを、あれを…やっでもらって、…みんなで検討して、…</p>		<p>5238: そう、…宮西先生がこしらえられたもの、が、いやいや、いかにと…、…だからそれはもう委員会は…まあでも、先生がこしらえたのね、あれは…その、検討会議の資料であって、…</p>	

(19):following-dialog of (17)	(20):pre-dialog of(18)	(21):following-dialog of (19)	(22):pre-dialog of(20)	(23):following-dialog of (21)	(24):pre-dialog of(22)	(25):following-dialog of (23)	(26):pre-dialog of(24)	(27):following-dialog of (25)	(28):pre-dialog of(26)	(29):following-dialog of (27)
声尾23: ...私も...宮西さんの決めるって書いて ません...		S240: いや、代表ね。代表の()でしたらね...そ れがやられたらええっていうような。聞こまじ らん		声尾24: いいいや、そんなことないよ。		S242: それは言葉の問題も分かります せんども、私をいふように聞 こえたからあら、代表は..		声尾24: いいいや..		S243: ううん、ごめん。なんかおきかしくないわ。やっぱにー、よく 分からないと。やなんの議題してるのかとか、全体の中でま づかりたって、いろんな話をあわせて、考慮してものば すの。まあぶくのこの話でもいいんだと。例えばいっせ いの話をしようかと。いったら、自分の話、どういう話を するんだと、いろいろ話したいんだけど、やっぱできないわけだ。 だからその代官さんは、いろいろあるから、まづぶつてるのは、賢 明なのかもしれないけどでもそこもあっていいわってね。 それで、その中で今日はこの部分の話しようかと、いこうと して、いろいろ話せば結構でいいとあるんですけどもあれでね、 それから、そろそろ形をつけていて、それで、いろいろう るで、あかめがその形の中にある。ここはもう

■表 5-3-15 第 3 分節における指標発話連鎖会話群

分節番号	該当会議	顔出単語	(1)Dialogs of a man of the first degree of the turn ratio	(2):pre-dialog of (1)	(3):following dialog of (1)	(4):pre-dialog of (2)	(5):following dialog of (3)
第3分節	第1回運営委員会 1978年 12月20 日		毛利第1回141: だけど、工場だとなでは知りませんというは困るんでね、そうも問題意識ももらわないと、・・・地域で工場を持つてなんど人、地域に工場置いてる人、こうい人もやっぱりもうた方がええとちゃうの。	女性第1回139,140: 井出さんがね、別に井出さんが出にくかったら、井出さんと(1)の人を運出したらならないですの？ あの方、こちらにお住まないでよ、無理やと思うんですわ、仕事しまて家に帰ってやらね、帰ってからまた出てくる訳にはいへんし、やっぱり地域に工場もって、地域に住んでいも人やつたら、夜いづても、ばつと仕事終わって、出やすいけどな。	女性第1回142: それ、でへんで言うると	毛利第1回143: じや、もう一回話し合えばよろしいやないかい、	
			毛利第2回11: それでね、今、天竜さんの言われたのはね、こういう現状の中で、事当たるとい場合はこういう施設がある、・・・僕もそういう点では賛成なんです、それからここね、コミュニティセンター・・・文化センターであり、青少年、青年の家、憩いの場であり、婦人の会食の場でありね、地域の自治会の活動の場であり、それから慰労センター、・・・三等郵便局、そういうのも必要じゃないかと	1第2回4: そのほかにねー、これは全部そのとおりですけど、各地区ともそうですけどもね、やっぱり各地区とも望んでいることなんですけど、やっぱり文化情懷的なね、施設が、また・・・そういう機能が多いんですけど、特にこの地区にはないということがね	重水第2回12: 今、何言われました？ちよっと、書いてきますわ、	毛利第2回13: え、例えば、コミュニティセンターを・・・総合的なね、天竜さんが言われたような文化施設が、・・・その場所に、あの一、憩いの場所が必要で、そしてまた青年の憩いの場所、婦人の文化的向上の場所、地域の自治会の集会所、それから三等郵便局、ね、それから医療センター、それから今度のまちづくりにはね、僕は健康、かね、医療とかいう問題を無視できない(1)がある・・・	
		人/歩行者 道路 公園 住民/地元/市民/地元住民 委員 生活 道路 自治 施設	毛利第2回43: 今の皆さんの意見で、公園はもういらんと聞いているわけやね、ね、どうとよは、今の段階ではいらんだらうと、しかし、今のね、今のほつきりうで神戸市が出したら、一人あたりの平均の公園の面積から言えば、		1第2回44: この意味はね、おそらく我々住家もそうなんです、大公園はいらんと、しかし小公園まあ、小公園ね、各地域で小さいやつはほしんです、大公園はもう・・・		毛利第2回47: それから、はっきり言うてね、人口から出れば、公園の面積はまた少ないかもしれない、神戸市の(1)ね、新聞に出てましたけど、何mものか、言えばね、要請が出てくるや、・・・現状ではね、今まで一つもなかった公園がこれだけたくさんから、まあ満足したる・・・や、
	第2回運営委員会 1979年1 月20日		毛利第2回84: ・・・今、酒井さんの言うた将来性のこと言うたわけや、・・・グタバキ式団地をこしらえてもらって、下に工場はあって、なるべ広い、車の入る道路、駐車禁止にして、あとは、職と住とは接近というのが出てくるんやからね、今までは事業主が、工場でおいて、帰って、通勤して来たあんなやから、それがやね、工場の2階にその倉庫までもやね、よそから運ぶのてなく住みたいと、こういう話だと思ったね、	若者A第2回83: だからね、今の、道路が狭くてね、(1)する時に、後ろに道路がなくなると、これは問題なんです、問題やけど、どう解決するかという話の時にね、道路を広げるほうかええのか、どつかまてもらうのがええか、って話が出てくるわけです。今はなんかつと、ちよっとなんか、(1)と、でっでっで出てもらうで、		重水第2回92: そのへんは十分議論せんとあきまへん、いろいろ	
			毛利第2回95: ・・・隣で健康、がりがりやつたらやな、病気で寝たら、頭の上でいまいいうやらやな、うき喜びが来たことがある、そこは位置変えさせたわけ、健康の位置、健康にならなくて、・・・健康がなくて道路があるんやからね、多少、空間が、・・・そういう配置の問題もあるやんけど、・・・安心で暮るよう(1)グタバキ(式団地)にほしい、っていうのが意見やったね、そうでんね酒井さんね、	若者A第2回92: 工場の先行きが不安いうのは、道路の話もあるし、やっぱ公害の問題もあるし、それからなんかつと事業拡張したいという、拡張スペースがないとか、そのへんのお話が出てくるんやかなと思いますけど、	若者A第2回96: この話やたら、なんやちよっと配置変えとかな、なんや、小手先のことではだめだいうお話・・・	重水第2回98,102: 先に現状出した方がええね、将来像はもうちよっと議論して、それは、せまい、とか現状を出してもうたらどうか、最初は	

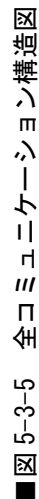
(6):pre-dialog of (4)	(7):following-dialog of (5)	(8):pre-dialog of (6)	(9):following-dialog of (7)	(10):pre-dialog of (8)
	重水第2回16: 医療・・・？		毛利第2回17: 医療センター・・・医療センターね、	
	宮西第2回49: 将来、将来といふかな、・・・2001年にはやっぱり足らんのではないかと、いう・・・そういう意味ですね、毛利さんが言われたの		毛利第2回50: あ、あのー、・・・、で将来に向けてね、我々はこのプランの中ではね、やっぱりこういう考えもあるわけでしょう、今、ま、一応、あのこの地域が老齢化して来ていると、ほんで、やっぱり、若いもんが過剰化して来ると、出て来たわね、これは現実でね、それからこの若い人が市営住宅なんか来て、住環境変える中で、どめていいうのが我々の目的であるからね、そうすれば、子どももようけできるんで、・・・そうする段階では足らんやろ、という考えがあるわけね、将来に向かったら	
毛利第2回80: そやからね、酒井さん、この前あんなの見てもうたけど、あ、あのー、まじめの中ではない、いいう、今のうちの寄組の職工がね、今の現状のままで一応営業していらんだと、いうことを、出てましたわね、その中で、やはりグタバキ式な、やっぱり団地をこの地域でして、自動車のほう入りやすいようにして、で、で、下に敷工で、上に住宅をもっていく、という方針を出してほしい、いいうに僕は受えてるんだよね、グタバキね、そやから、将来、		酒井第2回77,79: という事が・・・それでまあ、ちよっと停めて貰って・・・警察貼られたと、それで、客商売で・・・ような意見出されて、それでやっぱりあのー、まとまったとこへね、こう、・・・一應ええ、ええでしょう、それ、ま、でね、運送なんかも一人一人、地域、いろいろやからね、金額割割ってでへんわね、それで、そういう面も必要やな、って、意見出されとてね、		毛利第2回73: 生活道路という人間優先の道路、人間が楽しく、楽にのびのび歩けるような道路というのね、僕は生活道路だと
	毛利第2回103: いや、現状をね・・・			

■表 5-3-16 第 4 分節における指標発話連鎖会話群

分節番号	該当会議	頻出単語	(1)Dialogs of a man of the first degree of the turn ratio	(2):pre-dialog of (1)	(3):following dialog of (1)	(4):pre-dialog of (2)	(5):following dialog of (3)
第4分節	#####	住宅 市営 住宅 運営 委員 工場 地元/住 民商業 道 路 子ども 空き家	宮西25: もう、だから道路をつくらねか、そういうことじゃなくて、・・・今、おそらく市営住宅ってのはもう、特定入居なんでも非常に難しいわけです。おそらく、だからこう、このままいったら10年で解決するかどうかわからないという感じがするわけですけど、まあそれでもまあ、・・・まあ・・・まあそう無理な話を・・・まあ、そういうことを、やっぱり要求していくということが、なんか計画作りしやないかなという感じがするわけです。	S23: 人、人を、これ、こう見てるとね、総体的にすべてこう、人を増やすというふうなね。人、人を増やせば、こう、まちづくりができるっていうふうな、その、なんでもか、そういうふうなこまかに引っかけたりする、これね。・・・そうじゃなくてね、今の小森さんのご意見はすごく賛成です。その、真野の魅力っていうんですかね、新しい魅力、これが欲しいですね。	橋田27.29: ちょっと今の話でいうと、関係するんですけどね、とにかく地元優先ということや、住宅だけじゃなくてですね、()の外側の()の話で工場のアパートに入ればしんどいっていうことから、やっぱりこう、と、特定入居、そういうことを、やっぱり()で、工場アパートにも対策をするように。	毛利20: うん、小森さんの言う通りやね、これから市営住宅するんだったら、地域のもん、優先的に入れるよう、()地域も出そう思うとるよな。それがなかったらね、あの一、しただって何もならんですよ。	芦尾30: そういうのはね、先ほど、一応あの方がね、あの、言われたようにやね、仮にまあ、息子が出ていんど、じゃそういう場合に、その息子だけが今度卒業でやね、手配うんだったら、結局彼らと、子どもが2人、3人で来た場合には、それは向こうにおるわけですね。それがやはり、こちらに住居あれば、その人たちがみんなここにるとと、そしたら、その若い人が、購買力が前より多いわけですね。今、先生がおっしゃったように、だから、年寄りばかりやったらなんぼ物売りいったって、()買ひしまへん、やはりそういうとこ、若い人のほうが購買力もね、()
			宮西42: 市営住宅だけじゃなくて、やっぱり住宅のころ、なんか、例えば大ききとかね、例えば家族何人で住むのか、その一、親子だけで住むのか、おじいさんも一緒に住むのかで、こう、住宅の大きさが変わってくるわけだし。	橋本40.41: だから、なんか、僕はあれですけど、地元のやっぱり()若い人は、例えばそりや市営住宅入りたかも分らないし、ある人は、あの一、お父さんと息子ということで、ね、自分の家をどっかで、このロープ住宅みたいいうんかね、昔さんでお金を出し合って共同で建てようってやり方ありますし、だから、分譲もあります賃貸もありますいう、ただ、その場合やっぱりいろいろ考え出さないと、それとも、自分の民間、あの一、＝長屋＝でしたらそういう建て替えをつくらね。今、市営住宅の話出ましたけど、ほかにいろいろあるんではないかとはい、いっぺんそれは見直し()、いっぺんいろいろい。			
			宮西81: 今日は、あの一、ほとんどの話が、なんか住宅をめぐる話というのに終始したんで、まあこれについては、あの一、運営委員会今日の話は整理して、もう一回、なんか整理したやつを検討会議に出して、それで次はまあ、それをどう解決するかという方向でいいではないかということを確認するということ、でもう一つは、あの一、まあ、ちょっと土地利用の問題、・・・中略・・・または道路の問題、または駐車場をこれからどうしていくのかという問題、それに自動車公害の問題、それに施設の問題、まだこう、抜けております。	宮西80: 一年間いうね、あの、タイムリミットをどこかに叩きつけてるわけで、その一、それをどう運営していくのかというのを一生懸命考えてるわけで。	浅井82: いや、だから、住宅についても多少また、やってもいいというわけね。	毛利77: なにか行政側でてるんじゃないや？何か意図おまへんか？	宮西83: はい、それは、あの一、いいいということ。
			宮西97: 今毛利さん言ったのは、やっぱり地場産業が問題だということだろうと思うんですね、・・・工場の問題をどうするかと、もう工場そのもの、産業の問題なり、その一、成り立ち、・・・どう理解していくのかという話に、こう、つながっていくわけで、で、おそらく、どう解決するかという時には、例えば住宅の問題ではここにおられる、その一、＝エンドウ＝先生とか、まあ工場の問題では小森先生とか、まあその、土地利用の問題では、その一、島田先生とかっていう先生に、ある時はこう、議論をね、してもらって、・・・共通の基盤みたいなものをづくっていかなきゃいけないだろうと思うんですね。	毛利93.94: それから宮西さん、もう一つね、これの議論を深めてほしいのはね、この地域のね、やっぱりわれわれは、あの、地場産業をね、やっぱり発展させる()気があるわけですよ、やっぱり地域の繁栄のためにはね、だからここで、地場産業とはどこに()かね、やっぱり今後問題出てくると思うわね、僕はやっぱり、地場産業は発展したらわんと地域が発展せんいう考えもあるんでね、では、この地区の地場産業いうらどういう種類かい、これもまた先生方のご質問にも()			

(6):pre-dialog of (4)	(7):following-dialog of (5)	(8):pre-dialog of (6)
小森17.18.19: あの一、わたしは、この、今の市営住宅ならあんまり賛成じゃないんですね、・・・こここの小学校の卒業生を先にとれと、入居させると、そこまでいかなければ、とても難しいと思いますね、・・・今までみたいに、遠くへんば土地の安いとこに市営住宅建てて、これでおしまいってごさいますというんじやなくて、やはり、その一、今までのまちを破壊しないような形で、しかも、いい質の住宅を供給するというふうな、考え方変えてもらわないと困るあな。	宮西32: ()とさですね、やっぱり人口を増やすということじゃなくて、やっぱり若い人をどう呼び戻すかという話がやっぱり、一つ、テーマとして出てきそうな感じがしますね。	
浅井71.76: 今から、あの、3つの全部をしてからというのは()して、できとるもんは進めていっていいと、進んだものはいい、行ってもええと、いう真意でいえますようにか、あんまりこだわらなくても、なんかいいような気がしますね。		延藤68: 住宅についてはね、今日どう解決するかという方向が、こう、出てきてるような感じ()、だから例えば、小森先生おっしゃったように、地元優先型の()共同建て替えはほんとうに皆さんのかとかね、そのへんはどう解決するかという、こう、課題が、()住宅についてはそういう方向に議論を進めることとして、あっち側のほうのね、いろんな問題というものはね、もう少し、

前工程で抽出した「指標発話連鎖会話群」を第2章に示した手順で、賛成（Pro.）・反対（Con.）の記号に変えて示した。結果を以下に示す。



⑥リーダーシップ構造図の作成

まず第4回懇談会～第2回検討会に参加した成員^{注9}について表5-3-17に示す。

■表5-3-17 第4回懇談会～第2回検討会に参加した成員とターン数

member	第4回懇談会	第1回検討会	第1回運営委員会	第2回運営委員会	第2回検討会
1 芦尾	16	18	7	0	2
2 毛利	114	45	78	24	13
3 T会長	19	16	10	6	1
4 委員I	0	0	15	1	0
5 平谷	0	0	0	0	0
6 岸野	0	0	1	2	0
7 酒井	0	1	2	4	0
8 高橋	0	0	1	0	0
9 沼津	0	3	14	0	0
10 盛岡	0	0	0	0	0
11 魚	0	0	0	0	0
12 田中	0	0	0	0	0
13 田中(女)	0	2	0	0	0
14 委員S	0	24	0	0	4
15 清水	0	1	0	0	0
16 舟木	0	1	2	0	0
17 伊藤(校長)	0	0	0	0	0
18 井出	0	0	0	0	0
19 藤田	0	0	0	0	0
20 井戸	0	0	0	0	0
21 宮西	47	29	33	12	31
22 浅井	51	12	38	11	8
23 垂水	32	40	32	12	0
24 島田	0	1	0	0	4
25 延藤	0	1	0	0	2
26 小森	0	2	0	0	3
27 林田	0	0	0	0	0
28 村上	0	1	0	0	0
29 小西	0	1	0	0	0
30 松添	0	0	0	0	0
31 谷	0	0	0	0	0
32 濱田	0	1	0	0	0
33 ウラベ	0	0	0	0	2
A(女性)	0	0	6	4	0
B(男性)	0	0	2	0	0
若者A	0	0	0	9	0
事務局	0	2	0	0	0
C(男性)	0	0	0	0	1
橋本?	0	0	0	0	4
不明	17	10	13	2	0
合計	296	211	254	87	75

※着色が各回の委員を表す。なお「A(女性)」以下の段は誰(1～33のいずれか)の発話なのか確証がとれないことを示す。

「検討会」の前段組織「懇談会」に参加した成員(表5-3-18中「発起人」)はすべて、継続して「検討会」及び「運営委員会」に参加していると同時に役員になっている。

このうち「芦尾」、「毛利」は連合自治会会長であり、「検討会」の代表になっている。また「懇談会」には参加していないが、「平谷」、「岸野」、「酒井」、「井出」、「藤田」、「井戸」は「運営委員会」の委員となっている。これらの成員は「検討会」の中でも何らかの発言力があると考えられる。

成員のリーダーシップ構造を図示する際に、これら特定の成員には重みづけを付けて図示することとした。

本論でのリーダーシップ構造分析は、ターン割合を指標にしてターン割合の大きい成員が会議をリードしたと考える。図5-3-6は縦軸に発話者のターン割合(当日の会議における全ターン回数における当該発話者のターン回数:表5-3-17参照)をとり、横軸に時期、第1分節から第4分節までの会議が行

⁹ これらの時期の会議の磁気テープから判明した事実に基づいて作成。ただしこれ以降の会議で委員は若干変化していることが「日本最長・真野まちづくり」2005,p-91より分かる。また、表中33番以降の成員は、磁気テープの音声から個人を特定できず、33番までの成員と重なっている可能性もあるので分析から外すこととした。

われた順序をとっている。

また球の大きさは当会の発起人かどうか、役員（運営委員）かどうか等 5 つの項目から重みづけ^{注10}を行ったものであり、大きいほど重いことを表している。また、奥行き方向は成員の数を表している。

当会の代表である「芦尾」、「毛利」、は最も大きい球で、事務局の「宮西」^{注11}、「浅井」、「垂水」^{注12}等は中間的大きさの球で表現されている。

第 1 分節（Ⅰ）から第 3 分節（Ⅲ）まで最上部を占めているのが「毛利」であり、この間会議をリードしていたことが分かる。

また、第 4 分節（Ⅳ）は「宮西」の割合が大きい。

また、事務局（浅井、垂水）はいずれの時期も一貫してトップ（ターン割合 1 位者）の下あたりに位置しており、住民側のリーダーシップに一步譲っている様子が窺える。

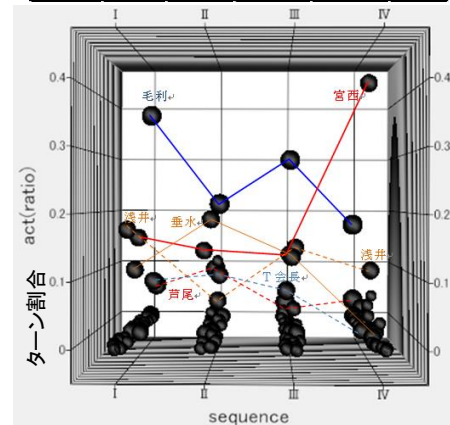
また、もう一人の代表「芦尾」は、「毛利」とは対照的にターン割合が低い。

これらの、ターン割合を具体的に示したのが表 5-3-19 である。

このようなリーダーシップ構造の変遷は、テーマの変化や環境の変化によって変容が生じた結果と考えられることから、各時期分節において何らかのテーマの変化や環境の変化があったものと考えられる。それが意見対立の解消や目標の共有過程と関係しているのかどうか、右図のような状況を参考にしながら第 3 項で分析する。

■表 5-3-18 当該委員会成員の重みづけ

	発起人	連合自治会長	運営委員	検討委員	weight
芦尾	2	2	2	1	7
毛利	2	2	2	1	7
T会長	2		2	1	5
委員I	2		2	1	5
平谷			2	1	3
岸野			2	1	3
酒井			2	1	3
高橋				1	1
沼津				1	1
盛岡				1	1
魚				1	1
田中				1	1
田中(女)				1	1
委員S				1	1
清水				1	1
舟木				1	1
伊藤				1	1
井出			2	1	3
藤田			2	1	3
井戸			2	1	3
宮西			2	1	3
浅井			2	1	3
垂水			2	1	3
島田				1	1
延藤				1	1
小森				1	1
林田				1	1
村上				1	1
小西				1	1
松添				1	1
谷				1	1
濱田				1	1



毛利 — 宮西 — 浅井 — 垂水 — 芦尾 — T会長 —
Ⅰ(第 1 分節): 1978 年 11/4 Ⅱ(第 2 分節): 1978 年 12/4
Ⅲ(第 3 分節): 1978 年 12/20~1979 年 1/20
Ⅳ(第 4 分節): 1979 年 2/6

■表 5-3-19 各成員のターン割合

		芦尾	毛利	天宅	池田	平谷	岸野	酒井	高橋	沼津	盛岡	魚	田中	田中(女)	炭谷	清水	舟木	伊藤
Ⅰ	第1分節	5%	39%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
Ⅱ	第2分節	9%	21%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	1%	11%	0%	0%	0%
Ⅲ	第3分節	2%	30%	5%	5%	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%
Ⅳ	第4分節	3%	17%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	0%

井出	藤田	井戸	宮西	浅井	垂水	島田	延藤	小森	林田	村上	小西	松添	谷	濱田	ウラベ
0%	0%	0%	16%	17%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
0%	0%	0%	14%	6%	19%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
0%	0%	0%	13%	14%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
0%	0%	0%	41%	11%	0%	5%	3%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%

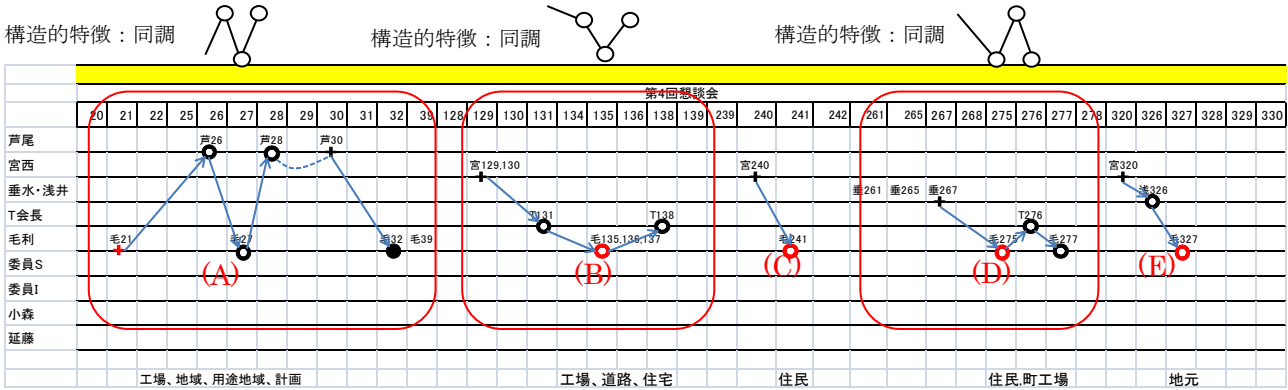
10 まずは図書館建設運営委員会に参加した成員に一律 1 点を付け、その他 4 つの項目に該当する成員に各 2 点を与えた。
11 コンサルタントの宮西悠司氏。
12 事務局には神戸市都市計画局都市計画部から概ね「浅井」と「垂水」の 2 人が参加した。

⑦会話分析シートの作成

⑦-1 第1分節

まず第1分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。本技法ではコミュニケーション構造図の構造的特徴から「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」を見当づけることとしている。図5-3-7の枠内がそれに該当し、相手の次の発話に期待するような発話ないし相手の期待に沿うような発話、すなわち「同調」構造が見られたため選定した。

※赤い記号が指標発話を表す。



■図 5-3-7 第1分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表 5-3-20 第1分節(A)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
21	毛利	都市計画、のためにやってんだけどね、・・・中略・・・用途地域をね。これをするからなんぼでもあんた、入ってくるわけ、ね。するとまた知らん間に、工場できた、工場できた、工場できた、あれどないになった、なんや言ううちにやね、やっぱり非常に、この地域が変化したいことはね、やっぱり僕は市行政のね、やっぱりやり方に間違いがあったんかい意見もってたわけ、・・・	F: 評価		【工場、用途地域】毛利は住民の知らない間に「工業地域」に指定された問題点を指摘している。芦尾は同調しているようだが、テーマが噛み合っていないので、毛利がテーマを用途地域に戻そうとしている。
26	芦尾	() やっぱしね、やはり歴史が・・・ようにな、() の長田で見たってね、やはり() = 港湾 = がなくなってね、現在こういうことしかなくてないと言うとったがね、やっぱし昔、長田もね、それはな、自分のことだけやって考えたらええという人ばっかしがな、この地域には昔は多かった。この地域のことを考えてない。	S: Fに対する同意 f2: 評価		
27	毛利	まあ、それはあるやろね。	s2: f2に対する同意		
28	芦尾	そういうこと、そういうこと。それが一番です。だからわれわれはね、今こうしたらええやとかあしたらええやと、今あんたの言うようにやな、そんな、あの一その一、駐車場とか = まあ利益なり =、家建てるより、金() のがええと、そういうような人間ばっかし集まってきたら、いつまでたったってな、この地域はね、	t: s2に対する同意		
30	芦尾	やはり、() などで市の方にな。この隣の地図をね、() ちょうどこれ、() こう、十文字になって、地図でいうたら、あの、道になってますわ、これ。これと、どの道かをね、広うしてもらわんとか、建物() 建てん、そうしてもらたらね、() きれいに置いてもらうとかね、そこらの特徴をね、ちょっと考えてね、それでまあ、ここらの地域の人にやね、いつでもこう、協力してもらうようにな、PRしてやね、言ってやったらね、そしたら誰でも() 今までこう() われわれやったかな、いつまでたったってね、このままじゃようならんですよ。まあ、わたしは思うんやけれどな。	f3: 提案	トラブル源	
32,39	毛利	いや、それ、そらそうやけどね、その、僕はここで、あの、一応問題点に指摘されておりますんでね、この問題についてもね。なんぼでも、ある程度、まあ僕は、あの一、「重工」の地域の、ある意味もう、この、現実なんです。それで、() あげて僕らは() かな、あの、一応、人口がまだ1万1,500のと、今は9,000なんぼ出てますからね。 それから特に、あの一、まあ工場が減ったのは確かです。遠くへ工場が移転したり、それから、特にあっちへよく移ってもらいましたからね、あの、梅ヶ香町の、あの一、鉄鋼団地。ええ、鉄鋼団地にこの地域の工場、向こうへ、公害が激しいんでね、移してもらうたからね。まああの一、そういう問題も含めて、あの、減ったのは事実です。	s3: f3に対する不同意	修復開始(トラブル源の顕在化)	

※F,S連鎖における大文字は親となる(基底の)連鎖で、小文字は子となる(派生の)連鎖。(以下各表共通)

■表 5-3-21 第 1 分節 (B) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
129, 130	宮西	で、もう一つは、例えばこういう絵に、こういう絵を、あの一、イメージしてるのは、街区ごとの純化。その一、これ100メートルの中で、もう工場がほとんどのところはもう工場にしておいて、それで、そうじゃない、住宅が主なところ、例えばあの一、東尻池の、え一、三、四、五、五丁目、五丁目の、あの一、真ん中のあたり、あの一、へんはもう、なんかもう住宅が主だと。だから、あそこはもう住宅だけにしておいて、というような話が、その、街区ごとの純化。それで今度、地区として、例えばもう、こっから南側は、全部工業にしておいて。で、こっちに全部住宅集めておいてという話が、地区としての考え方。で、もう一つ、今度、その土地利用には、やっぱり道路との絡みがありますんでね。工場に入る、工場として利用するにはやっぱり大きなトラックが入らないと、なかなか使いづらいという話があるんで、その街区としての純化ということになると、もう、こう、真野地区の場合は周辺に太い道路があるんで、もうその太い道路を利用でき、工場、利用したらいいじゃないかと。で、細い道路は中で住宅で利用しようじゃないかという話がこれで、あの一、() が、その、住宅にして、中を、その一、工場で使うという話もあるだろうと。だからあの一、こういうなんか、いくつか考え方、土地利用の考え方ってのはあると思うんですね。で、こういうことを考えながら、用途地域というものを考えていくことができるだろうと。ただ、その一、こっから、ああ、まあできるとしたら、なんかこれぐらいの話でね、用途地域で対応できるってのは。だからこういう、細かいモザイク状のね、形で、用途地域が設定できるかどうかってのは、これはちょっと疑問あるんですけどね。それ、都市計画、どう判断するの	F: 評価		【道路、工場】 毛利は用地地域変更は難しくても住宅と工場を分けることが必要と主張している。 具体的提案として幹線道路沿道に工場を移転する案を挙げている。 T会長はそれに賛成するとともに、住宅と工場の分離が自ずから道路問題の解消につながると述べ、課題の優先順位を確認している。
131	T会長	あのね、うちのほうはね、尻池が本部のどこですがね、そいでまあ、神戸市がね、とにかく指定した時には、まあ準工業地帯になって、現実の姿はまあそうやったんですがね、その一、() もらって。で、現在の時点においてはね、もう、大きい工場はのいてしもうて、で、まあ、一、二町工場ありますけどね、ほとんどはもう商業に変化しとる。で、そういう現実のそこは、まあ援助面もあるやろと思うんですがね、そういうことはまあ、用途変更は難しいやと思いますわね。	S: F に対する同意 f2: 評価		
135, 136	毛利	それがむつかしいのがね、あれでしょう。あのね、やっぱりあの一、現状の中を生かしてもらって一手があるわけでしょう、ね。それと、将来のね、やっぱりこの一、このような、中に混合したようなね、あの一、まあこう、隣り合わせあるわけね。それを精密にするにはどうするかという問題も出てくるわけですね。やっぱり工場しよったら、あの一、大きい車も出入りするんですよ。そうするとね、あんなん、あんた、3メートル半ぐらいな道路持ってきてこんなんしよったら危ないしね、工場自体も困るだろうし。せやから、幹線道路、広い周辺にはね、工場を持っていくべしやいう意見、僕ら持とうわけですね。	s2: f2 に対する同意 f3: 評価		
137	毛利	ほいで、その中で僕らの言うのは、それとともにね、鉄鋼団地をね、やっぱりこの一、幹線道路のね、周囲にやっぱり持っていったらいいと。その代わりに、ここではまあ、この場所が知りませんがね、その住宅とやね、やっぱり、その工場とのこの配置、こう、和があるわけですね。そういうことは地域でまだ話してりやいいわけなんやね。そうすると、あの一、この隣で鉄鋼して工場が2軒ある、こっちは住宅でガーガー言うて、いつもこう、近所同士でやね、にらみ合いすると。それで、そういうようなことよりむしろ、あの一、僕は住宅は住宅で固めてもらい、そして、この幹線道路にね、やっぱりそういう、あの一、工場を持っていけば、工場自体も品物のトラックの出入りも楽でしょう。そうすることがね、やっぱりここのまちづくりだろうと僕は考えるわけなんやね。	f3: 提案		
138	T会長	やっぱり、その＝なんでん＝な、住宅問題とか工場問題を解決したら、おのずから道路の問題はね、解決すんじゃないかと思えますわね、その地域のね。	s3: f3 に対する同意		

■表 5-3-22 第 1 分節 (D) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
261 265 267	垂水	・・・地元と言われた場合でもね、これはいろんな階層の方おられるわけですね。それを代表するものがあるのかっていうですね、だから、そのへんのね、懇談会のつくり方をこう、・・・行政の中でもね、・・・各局もあるし、・・・これ非常に、まああの一、まあ難しい問題ですけど、これ、何かの方法、確かにね、今後考えていかないかん。・・・だからまあ、準備会的な・・・やっというて、ちょっとこれ慎重に、僕もね、検討していったほうがいいと思うんですね。・・・	F: 提案		【住民】 垂水から住民の代表性についての問題が挙がっている。 毛利は、自治会だけでなく、住民だけでなく、町工場も含めた住民会を設けて討議していくべきだと述べている。 垂水も毛利も「代表性(民主主義)」では太刀打ちできないことを認識していることが分かる。
275	毛利	・・・まあ連合会長とか、地域の代表であってもやね、やっぱりこういう問題はね、各個人個人の利害関係に関係するんでね。・・・僕らも大事にふまえていかなと思うし。やっぱり準備委員会的で、この問題が進行していく中であればね、・・・町工場も・・・企業も・・・営業所も寄ってもらわんといかんしね。やっぱり住民だけでこの問題を、僕は解決すると思うてないし、・・・	S: F に対する同意 f2: 評価		
276	T 会長	今、その過程ですわね。	s2: f2 に対する同意		
277	毛利	ああ。それから、その過程に住民会をこしらえろと。そういうことでええと思います。もう掘り下げていくとやね、みんな寄ってもらわんとやね、そんなの。	t: s2 に対する同意 f3: 提案		

(A) についての会話 (談話) 分析結果をまとめたものが表 5-3-20 である。表に示したとおり、「芦尾」と「毛利」の同調関係が見られるが、最後に毛利から「そらそうやけどね」と、その前の「芦尾」に対する何らかの修復の開始が見られる。

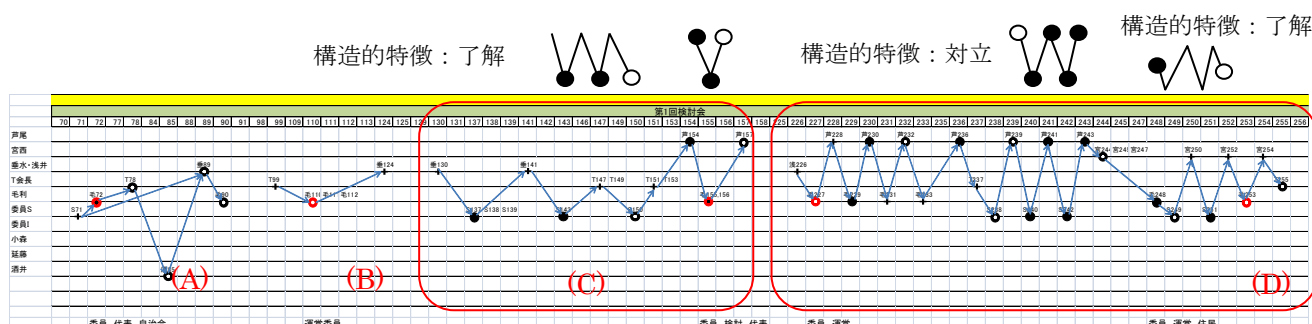
(B) についての会話 (談話) 分析結果をまとめたものが表 5-3-21 であり、「毛利」と「T 会長」の同調関係が見られるのみならず、「毛利 137」の目標表現に「T 会長」が同調したことによって「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程を見ることができる。

(D) についての会話 (談話) 分析結果をまとめたものが表 5-3-22 であり、「毛利」と「T 会長」の同調関係が見られるのみならず、「毛利 275」の目標表現に「T 会長」が同調したことによって「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程を見ることができる。

以上のことから、会話分析対象箇所として選定した理由、すなわち「同調」構造が、会話分析からも確認できると同時に、意見対立の修復や目標の共有過程も含んでいることが分かる結果となった。

⑦-2 第2分節

次に第2分節について会話（談話）分析にふさわしい箇所を選定する。図5-3-8の枠内がそれに該当し、反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような了解構造が見られたため選定した。



■図5-3-8 第2分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表5-3-23 第2分節(C)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF, S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
130	垂水	それでは、代表でございますけども、代表の場合、副1名というのがあるんですけども、この地区の場合、二つ連合会もございますので、えーそういう点を勘案しまして芦尾会長そして毛利会長に代表していただいたらどうかと考えております。	F: 提案	トラブル源	【代表の決め方】 先ほど了解が見られなかった委員Sから再び疑義が提示されている。そこでT会長が、代表の選出方法の提案をして、委員Sは了解した。しかし一方で、芦尾から疑義が提示され、今度は毛利がT会長の代弁し修復を果たしている。
137 138 139	委員S	それやったら自治会の延長になってまいりますもん、そういうふうにしたら。自治会とか、そういうものを超越して、あれするために、その一、諸先生とか市の方とかまたは諸団体の方が...それを自治会がそうなるからいうて、分けるんやったら、それはもう自治会独自のあれでやったらいい。いやいや、()それは僕個人の意見であって、ご検討願いたいと思います。	f1: Fに対する評価と提案	修復開始(トラブル源提示)	
140	浅井	...そしたらちよつと、運営委員、代表代理までを全部を言うて、そしてどうかという感じで進めましょか。	f2: 提案		
141	垂水	あの一まあ全部が全部案をもっている訳じゃないんですけど、あの一代表代理、()難しい名前で恐縮なんですけど、まあ副代表といってますけど、あの一とりえあず私、事務局と言いますか、地元にいる関係で、これまで呼びかけ人になっていただきました方がおられますが、...をまあ...あととまでご面倒いただくという意味で、副代表、代表代理と言いますか、これ天宅さんと池田さん、これはまあ人数決めておりませんので...そのへんはとくに決めておりませんが、少なくともお二人はこれまでのいきさつもありますので代表代理になっていただきたいと思います。	f3: 提案		
143	委員S	そんなことありまへんがな...	s2: f3に対する不同意		
147 149	T会長	たまたまね、最前の言葉が事務局からね、出た言い方が悪いんですよ。なぜかというね、両自治連合会長というもうたら、これ派閥の論理ですが。そやからねもうこれはね、この場合はそういう言葉を使わずに連合会長の発言やなんかなしにね、わしも毛利さんも委員になって、一委員として、肩書きは置いて、たまたま選出はそういうふうにするけど...委員の中から役員を選ぶというような格好だね。やってもらって、内心はそういう含みはありますけど、それをいいおつたらまた反発があるので、そやからそういう...そのうえで会社の人を選ぶなり、...	f4: Fに対する評価と提案		
150	委員S	同感、同感。	s3: f4に対する同意		
151 153	T会長	頭決まって、...両連合会長がやれなに言いおったならね、また反発がこりますわ。ここに来たら一塊の委員と、肩書きはのけにしろもうてね、...またひっくりかえってしまつたらまずいやさかいね、私の希望です。	f5: 評価	トラブル源	
154	芦尾	ちよつと、...今、()連合会長だから、自治会長だからね、そういう意味のね、今まで答弁の仕方とか、あと質問の仕方とかしたことないと思うんです。	f6: 評価	修復開始(トラブル源提示)	
155 156	毛利	芦尾さん...今、天宅さんが言われたことはね、...委員となれば平等の立場でものをいう、これが原則だと思うんですよ、検討委員会は。そういう委員の中からどなたが代表になってもいいから、代表が2名でもよろしいじゃないか、そういうね、いちおう選出してもらって、というのが今の天宅さんの言い分ですね、...	s4: f5に対する承諾 f7: 提案	151の修復操作	
157	芦尾	あたりまえです。	s5: f7に対する同意		
159	垂水	...ご提案したのもまあ、そういう趣旨でございますけども、もう一度申し上げますと、代表としてまあ芦尾。毛利両委員、それからあの一、あとの呼びかけ人でございました天宅委員と池田委員に代表代理、という提案をさせていただいたわけです。あの一ほかに、どうでしょうか。	s6: f7に対する同意	130の修復操作	

■表 5-3-24 第 2 分節 (D) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
226	浅井	一つだけちょっと提案、やはりね、なるだけこう地元の方々に知って頂くと、第1回()ね、こういう検討会やっていうことで、まあ我々よく、まあ…ミニニュースみたいな、ニュース版ですね、そういうのを作って()ね()で、今回もですね、やったんだというものを知らせるという、そういうミニニュースみたいなものをつくる、それを検討会議が発行すると、というようなことがやっぱり()ではないかと…	F: 提案		<p>【運営委員会でのタタキ台の扱い】</p> <p>芦尾はタタキ台を宮西に一任するような発言をしたために、毛利、T会長、委員Sから非難を受けている。</p> <p>芦尾は何度も修復を試みるが、なかなか完了させてもらえない。</p> <p>そこで宮西が、トラブル源を改めて提示し、自らが非難的となる。</p> <p>今度は宮西が修復を試み、最後には完了する。</p> <p>同時にこの過程で争点が明確になり、新たな行動提案が毛利やT会長から出されている。</p>
227	毛利	ただ…今後の運営どないしまんねいうても出てこんで…中略…一つの今までの資料があるんで、そういう問題を運営委員会でみんなに渡るようにしてもらわなんだいけまへんで、それを見ながらどうするか検討すると、…中略…やっぱそのなかで運営委員会の意見も出てくるんですよ。	S: Fに対する同意 f2: 提案		
228	芦尾	しかしね、宮西さんの前に()していただいたやつね、あれあんたも細かい、よう調べて、あれは絶対活かすかししょうないもの…あれを()ずしてね、そろそろ我々に聞くよりか、あんたが、こうしたら一番早う真野地区はようなるわいというやつをあんたちょっと描いてみて下さいよ。	s2: f2に対する同意 f3: 依頼	トラブル源	
229	毛利	あのね、それは間違いや、あのね、実はアレは宮西さん1人に任せたっていうのもあるんでね	s3: f3に対する不同意 f4: 評価	修復開始(トラブル源顕示)	
230	芦尾	いやいやいや…	s4: f4に対する不同意		
231	毛利	…検討運営委員会ができたんやから、運営委員会の中でしてもうて、運営委員会の中でええか悪いか、よければそれでいいんですよ、異議無しで、そういうやっぱり検討をね、時間を…	f5: 提案		
232	芦尾	…考えてること同じ…基本的に…もんで…実は早い…	s5: f5に対する同意	修復の操作	
233	毛利	やっぱり地域に…言わんともっとわかりませんのでね…	f6: 評価		
236	芦尾	そういうものはね、やはり部分的にね、部分的に起こってくることで、やはりアウトラインが、こうってやつがね、青焼きが、それはやっぱし一発ないと	s5:f6に対する不同意	修復の操作 トラブル源	
237	T会長	芦尾さん、宮西さんのアウトラインはね、たたきだいは、あんたも見とったやろうけど、できとるん。あれを、あれを…やってもらって、…みんなで検討して、…	f7: 提案	修復開始(トラブル源顕示)	
238	委員S	そう…、宮西先生がこしらえられたもの、がいいか、いいからと、…だったらそれはもう委員会は…まあでも、先生がこしらえたのはね、あれは—その、検討会議の資料であって、…	s6: f7に対する同意 f8: 評価		
239	芦尾	…私も…宮西さんので決めるって言ってませんで…	s7: f8に対する同意	修復の操作	
240	委員S	いや、代表のね、代表の()でしたらね、…それでやったらええっていうような、聞こえましたもん	f8: s7に対する評価		
241	芦尾	いやいや、そんなことないよ	s8: f8に対する不同意		
242	委員S	それは言葉の問題かも分かりませんけども、私もそういうふうに聞こえたからね、あつ、代表は…	f9: s8に対する評価		
243	芦尾	いやいや…	s9: f9に対する不同意		
244 245	宮西	ようは、この一、なんかたたき台がないとね、やっぱりこー、よく分からないと。今なんの議論しているのかという、全体の中でまちづくりたって、いろんな話があるわけで、今話しているのはどこの、まちづくりのどこの話をしているんだと、例えばじゃあ住宅の話をしようかと、いったら、住宅の話、どういう住宅の話をするんかと、いうたたき台がないと、やっぱりできないわけで、ただそのたたき台は、いちおうなんか、まちづくりってのは、真野地区のまちづくりってのはこんなもんやないかと、いちおう描いたと、で、その中で今日はこの部分の話をしようかと、いうことで、いちおうたたき台は僕はできとると思っているわけですね。それから、そういう形でぶつけていって、それで、いろいろこう揉んで、それでその場のなんかこう、一つの成案いうか、それを作っていくと、でそれをそこでどう議論してきたか、いうのを今度は総会にかけて、それでいいかどうか、いうやつを決めていくと、でそれを今度はみんなに分かるように文章化していくなり、みんなに知らせていくと、いうことがやっぱり、全体の流れだろうと思うわけです。で、その中で一つ気になっているのが、()で出た話なんですけど、あの一、住民の意向をどこまでくみ取るのか、	f10: s9に対する評価 s10: f3に対する同意		

247	宮西	で、それがね、ちょっと、私危惧しているのは時間の問題なわけです。たとえば、その5年とかね、そのくらいの時間があるならば、住民と接触しながら、例えばこの検討委員会が、住民会議をもって、それでやっていけばいいですけども、それはかなり時間がかかるわけです。今()入って19集落とつきあっているわけです。だから、だいたいまあ、最近農家でも、もう晩しか集まってくれないんで、で19集落つきあうと1ヶ月かかわるわけです、一つの問題やるだけで、そんな、一つの問題だけじゃやないから、やっぱり2年、3年もこう掛かっていくわけですね。やっぱりそのくらいの時間がないと、やっぱりできない話で、ちゃんとやろうとしたらね。できないわけ。ある程度、限度はつけないといけないんじゃないかと、その辺の限度は、やっぱり持って、で、おそらくそのへんの睨みがあるから、あのそのPR技術というか、ここで検討したニュースをみんなに流していこうという、どうも浅井さんのには・・・その辺の	f11: 評価	トラブル源	
248	毛利	僕はね、ちょっとそれはね、宮西さんの反論するけどね、やはりあの一、この問題はね、やっぱりあの一、住民の意見はある程度聞かんといかん問題があるんですよ。あの一、住民がやっぱり利害関係の人間ですからね。そうすれば僕がそういう運営委員会でね、討議する過程において、それで1回で決まるわけじゃないんだからね、そういうたたきだいに基づいて討議をやっぱりやっていくと、それは各団体が出とるからね、運営委員会に。()地域に持って帰って、やはり多少住民に知らせ、知恵をかって、それで運営委員会にまたそれを反映していくと、いうことでないと、・・・	s11: f11 に対する不同意	修復開始(トラブル源顕示)	
249	委員 S	運営委員会からしてね、その、広報することは非常によいことである、と同時にね、住民のアレを聞き取るということもっと大事だと僕は思うんです。	f12: s11 に対する評価		
250	宮西	でね、それはその、例えば僕が非常に危惧しているのはね、僕が回らないといかんのか、ということを危惧しているわけで、	f13: f12 に対する評価	修復の操作	
251	委員 S	とんでもない・・・	s12: f13 に対する不同意		
252	宮西	で、それをね、そうじゃなくて、やっぱり、あの一、今自治会の代表でこう集まって、()ると。やっぱりあの一、その代表者の方がここで議論したやつ、これはどうも持って帰ってみんなと議論して帰ってこないものがしゃべれないというような話については、やっぱり持って帰って、ちゃんと話して、それで、こーいちおう、その、その地域の意味としてはねかえるものがあつたら、非常にスムーズにいくんじゃないかと、それは思うんですよ。ただ、	f14: 提案	修復の操作	
253	毛利	やはり住民は知らないのに、おまえら何勝手にこんなこと決めたんやというね、総会が今までに多いからね、その点ではやはり運営委員の方は地元を持って帰って、多少のね、やっぱりそういう問題を提案して、住民の多少なり意見を聞いて、	s13: f14 に対する同意	修復完了	
254	宮西	あの一、さっき僕もちらっと言ったんですけども、提案づくりの場であると、で誰に提案するのか、いう話があるんですね。それをやっぱり皆さんに考えて欲しいと思うわけです。でね、やっぱり提案の場であると、で、おそらく市役所にも申すと、いう検討会議じゃなくて、やっぱり一番大事なものは、住民にここで議論している話を理解してもらい、住民といっしょに議論し()とりあげていくと、・・・それが一番いいだろうと思います。そういう意味でその一、これまではなかなかその一、住民にうまいこと、住民っていうか、みんなに代表者がうまいことものを伝えられなかったもどかしさはあったんだと思うんですけど、それはやります、と、提案できるようなものは、みんなに語れるようなやつは作ります、と。で、だからそれに関しては、いちおうみんなに期限諮って、()てほしいと。この運営委員会じゃない場に。そうすればなんか非常に面白い、あの一討議の場になるのかなと。そうすれば、なんかこー自分で作っているという実感が生まれてくるんじゃないかと思っています。	f15: 提案		
255	T会長	まあご承知のようにね、今住民という話も出てますけど、住民以外のね、やっぱり家主とか地主とか()ばいかんものもありますよね。・・・やっぱりまあ、今宮西さんが言われたようにね、やりやすいことからね、重点的に、やっぱり・・・検討会にかけて、そして、ある程度の時期を見越して、ざっと()浸透せにやしようがないですね。	s14: f15 に対する同意		

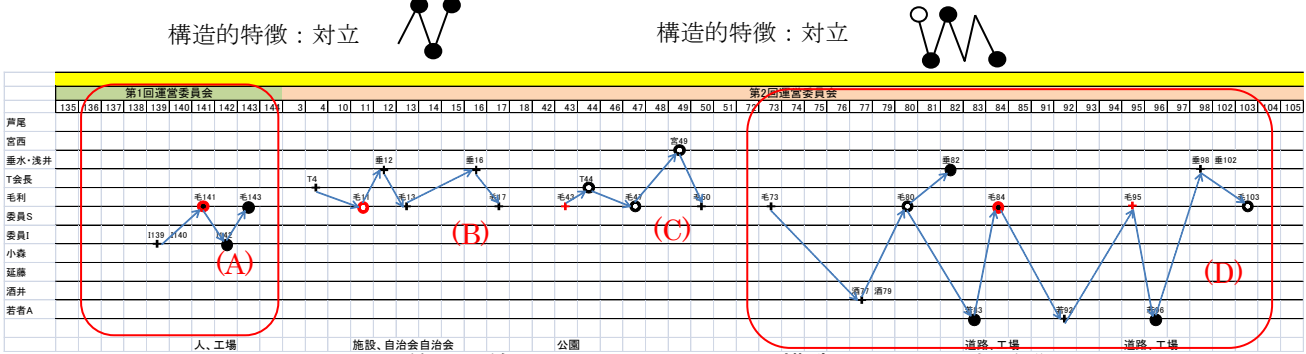
(C)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 5-3-23 であり、「委員 S」が代表の決め方について疑義を挙げており、そこから修復の連鎖とともに「意見対立の解消」過程が見られる。

(D)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 5-3-24 であり、「毛利 229」が「タタキ台」の取り扱いについて疑義を挙げており、そこから修復の連鎖とともに「意見対立の解消」過程が見られる。

以上のことから、会話分析対象箇所として選定した理由、すなわち反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような了解構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

⑦-3 第3分節

次に第3分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。図5-3-9の枠内がそれに該当し、意見の対立構造が見られたため選定した。



■図5-3-9 第3分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、（第2章にて示した）手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表5-3-25 第3分節(A)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
1-139, 1-140	委員I	井出さんがね、別に井出さんが出にくかったら、井出さんと()の人を選出したらどないですか？ あの方、こちらにお住まいないでしょ、無理やと思うんですわ、仕事しまつて家に帰ってやからな。帰ってからまた出てくる訳にかへんし、やっぱり地域に工場もって、地域に住んでいる人やったら、夜いうても、ぱっと仕事終わって、出やすいけどな。	F: 提案		【町工場を委員に入れるか】 毛利は民主主義の観点から入れるべきだと執拗に主張している。委員I(婦人会)は、町工場は住民ではないので誘うのは無理だと述べている。
1-141	毛利	だけど、工場だとわては知りまへんというのは困るんでね、そう人も問題意識もってもらわないと、...中略...地域で工場を持って住んどる人、地域に工場置いて帰る人、こういう人らもやっぱよってもらう方がええとちゃうの。	S: Fに対するh 不同意		
1-142	委員I	それ、できへんで言うてる	f2: Sに対する評価		
1-143	毛利	じゃ、もう一回話し合えばよろしいやないかい。	s2: f2に対する不同意		

■表 5-3-26 第 3 分節(D)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
73	毛利	生活道路いうたら人間優先の道路、人間が楽しく、楽しめながら歩けるような道路というのがね、僕は生活道路だと	F: 評価		【道路と工場の問題】 毛利は工場団地のように工場をまとめることが道路問題の解消につながるかと説明している。 若者Aは道路は個別に討議したいと述べている。 毛利の発言の中にゲタバキ式工場団地という将来像が含まれていたため、垂水（事務局）からも指摘され、まずは現状を討議したいと修復が開始された。 毛利はゲタバキ案が地元の工場主から出ており、それが現状であると主張するが、なかなか修復が完了しない。
77 79	酒井	という形が・・・それでまあ、ちょっと停めて買ってくるかと・・・警察貼られたと、それで、客商売で・・・ような意見出されてね。それでやっぱりあの一、まとまっとこへね、こう、・・・一番ええ、ええでしようね、それ、までね、道路なんかも一人一人、地域、いろいろやからね、全部総意かってできへんしね、それで、そういう面も必要やな一、って。意見出されとてね。	s1: Fに対する同意		
80	毛利	そやからね、酒井さん、この前あんたの見てもうたけど、あの一、まとめの中ではね、いちおう、今のお宅らの零細の鉄工所がね、今の現状のままだは一応営業しにいらんだと、いうことを、出ましたわね。その中で、やはりゲタバキ式なね、やっぱり団地をこの地域でしてもらって、自動車のほう入りやすいようにしてもうて、で、下に鉄工で、上に住宅をもっていく、という方針を出してほしい、いうように僕は捉えているんだよね、ゲタバキね、そやから、将来の、	f2: 提案	トラブル源	
82	垂水	そのへんは十分議論せんとかきまへんな、いろいろね	f3: f2に対する評価	修復開始(トラブル源提示)	
83	若者A	だからね、今の、道路が狭くてね、()する時に、後ろに道路がつながる、これは問題なんですか。問題やけど、どう解決するかという話の時にね、道路を広げるほうがええのか、どっかまとまってもらうのがええか、って話が出てくるわけです。今はなんかちよっと、ちよっとなんか、()とこ、でっでっでっでっ出してもうたで。	s2: f2に対する不同意		
84	毛利	・・・今、酒井さんの言うた将来性のこと言うたわけや。・・・ゲタバキ式団地をこしらえてもらって、下に工場はあって、なるべく広い、車の入る道路、駐車禁止にして、あとは、職と住は接近というのが出てるんやからね、今までは事業主が、工場でおいて、帰って、通勤して来おったんやから、それがやね、工場の2階にその経営主もやね、よそから通うのではなく住みたいと、こういう話だと思ったね、	f4: f3,s2に対する評価	修復操作	
92	若者A	工場の先行きが不安いうのは、道路の話もあるし、やっぱ公害の問題もあるし、それからなんかやっぱり事業拡張したいという、拡張スペースがないとか、そのへんのお話が抜けてるんちゃうかな思いますけどね。	f5: f4に対する評価		
95	毛利	・・・隣で旋盤、がりがりやとつたらやな、病気で寝とつたら、頭の上できいきいうからやな、うち苦情が来たことがある。そこは位置変えさせたわけ、旋盤の位置。裏側にしなさいって。・・・裏は溝があって道路があるんやからね、多少、空間が。・・・そういう配置の問題もあるやんけど、・・・安心できるようにゲタバキ団地にしてほしい、っていうのが意見やったね、そうでんね酒井さんね。	f6: f5に対する評価	修復操作	
96	若者A	この話やつたら、なんやちよっと配置変えるとか、なんや、小手先のことでだめだというお話・・・	s3: f6に対する不同意		
98 102	垂水	先に現状出した方がええね。将来像はもうちよっと議論してそれは、せまい、とか現状を出してもうたらどうかな、最初は	f7: 評価		
103	毛利	いや、現状をね・・・	s4: f7に対する同意	修復操作	


(A)についての会話(談話)分析結果をまとめたものが表 5-3-25 である。表に示したとおり、「井出さん」の選出に関して「委員 I」と「毛利」の対立関係を示している。

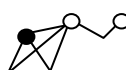
(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 5-3-26 であり、「毛利」と「若者 A」の意見対立が見られ、修復連鎖も見られる。

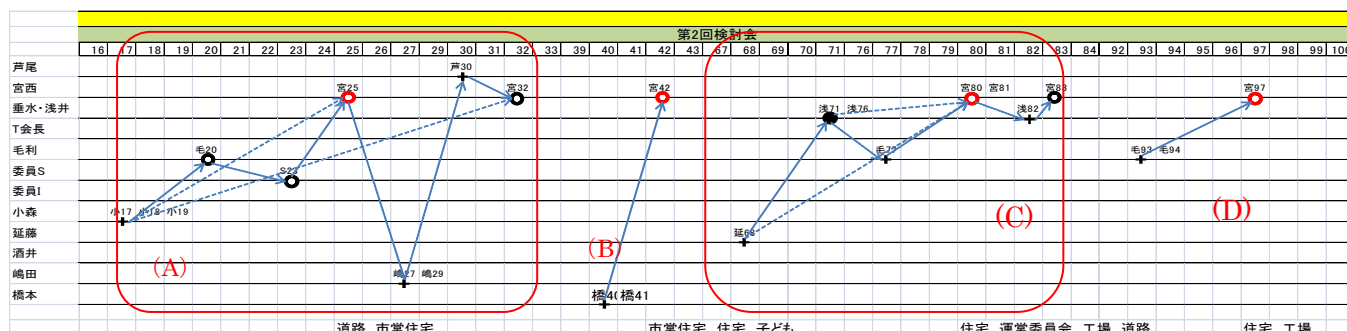
以上のことから、会話分析対象箇所として選定した理由、すなわち意見の対立構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

⑦-4 第4分節

次に第3分節について会話（談話）分析にふさわしい個所を選定する。図5-3-10の枠内がそれに該当し、様々な意見の共有化（まとめ上げ）構造が見られたため選定した。

構造的特徴：共有化 

構造的特徴：共有化 



■図5-3-10 第4分節のコミュニケーション構造図における会話群

次に枠内で示した箇所について、(第2章にて示した) 手順に則って「会話分析シート」を作成した。

■表5-3-27 第4分節(A)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
17 18 19	小森	あの一、わたしは、この、今の市営住宅ならあんまり賛成じゃないんですよ。... ここの小学校の卒業生を先にとれと、入居させると。そこまでいかなければ、とても難しいと思いますね。...今までみたいに、遠くへんびな土地の安いとこに市営住宅建てて、これでおしまいでございますというじゃなくて、やはり、その一、今までのまちを破壊しないような形で、しかも、いい質の住宅を供給するというふうに、考え方変えてもらわないと困るなあ。	F: 評価		【地元優先型市営住宅の提案】 小森から提案され、毛利や委員Sから賞賛を受けている。 宮西は、難問だがテーマとすることを断言した。 人口を増やすことを目標にした一つのオプションであるという位置付けに整理した。
20	毛利	うん、小森さんの言う通りやね。これから市営住宅するんだったら、地域のもん、優先的に入れるよう、() 地域も出そう思うとるよな。それがなかったらね、あの一、したって何もならんですよ。	S: Fに対する同意		
23	委員S	人、人を、これ、こう見てるとね、総体的にすべてこう、人を増やすというふうなね、人、人を増やせば、こう、まちづくりができるっていうふうな、その、なんてか、そういうふうなごまかしに引っかかりそうです、これね。...そうじゃなくてね、今の小森さんのご意見はすごく賛成です。その、真野の魅力っていうんですかね、新しい魅力、これが欲しいですね。	s2: Fに対する同意		
25	宮西	もう、だから道路をつくるとかね、そういうことじゃなくて、...今、おそらく市営住宅ってのはもう、特定入居なんで非常に難しいわけです。おそらく、だからこう、このままいったら10年で解決するかどうか分からないという感じがするわけですけど、まあそれでもまあ、...まあ...まあそう無理な話を...まあ、そういうことをこう、やっぱり要求していくということが、なんか計画作りじゃないかなという感じがするわけです。	f2: F,S,s2に対する評価		
27 29	嶋田	ちょっと今の話でいうと、関係するんですけどね、とにかく地元優先ということや、住宅だけじゃなくて、() の外側の() の話で工場のアパートに入ればしんどいってことですから、やっぱりこう、と、特定入居、そういうことを、やっぱりこう() で、工場アパートにも対策をするように。	f3: 提案		
30	芦尾	そういうのはね、先ほど、一応あの方がね、あの、言われたようにやね、仮にまあ、息子が出ていくと。じゃそういう場合に、その息子だけが今度店来てやね、手伝うんだったら、結局彼らと、子どもが2人、3人できた場合には、それは向こうにおるわけですね。それがやはり、こちらに住居あれば、その人たちがみんなここにおると。そしたら、その若い人が、購買力が前より多いわけですね、今、先生がおっしゃったように。だから、年寄りばかりやたらなんぼ物売りいったって、() 買いしまへん。やはりそういうと、若い人のほうが購買力もね、()	f4: 評価		
32	宮西	() どうですね。やっぱり人口を増やすということじゃなくて、やっぱり若い人をどう呼び戻すかという話がやっぱり、一つ、テーマとして出てきそうな感じがしますね。	f5: f3,f4に対する評価		

■表 5-3-28 第 4 分節 (C) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F, S 連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
68	延藤	住宅についてはね、今日どう解決するかという方向が、こう、出てきてるような感じ()、だから例えば、小森先生おっしゃったように、地元優先型の() 共同建て替えはほんとうにできんのかとかね、そのへんはどう解決するかという、こう、課題が、() 住宅についてはそういう方向に議論を進めることにして、あっち側のほうのね、いろんな問題というものはね、もう少し、	F: 評価		【地元優先型についての今後の扱い方】 延藤はひとまず置いて、別のテーマを議論しようと提案したが、浅井は地元優先型についても議論を続けてよいと目標表現している。
71 76	浅井	今から、あの、3つの全部をしてからというのは()して、できとるもんは進めていっていいと。 進んだものはよい、行ってもええと、いう具合でいきましょうか。あんまりこだわらなくても、なんかいいような気がしますね。	S: F に対する 不同意		
77	毛利	なにか行政慌ててるんじゃない？何か意図おまへんか？	f2: 質問	修復開始	
80 81	宮西	一年間いうね、あの、タイムリミットをとにかく仰せつかつてるわけで、その一、それをどう運営していこうかいうのを一生懸命考えてるわけで。 今日は、あの一、ほとんどの話が、なんか住宅をめぐる話というのに終始したんで、まあこれについては、あの一、運営委員会で今日の話は整理して、もう一回、なんか整理したやつを検討会議に出して、それで次はまあ、それをどう解決するかという方向でいこうではないかということを確認することと、 で、もう一つは、あの一まあ、ちょっと土地利用の問題、・・・中略・・・または道路の問題、または駐車場をこれからどうしていくのかという問題、それに自動車公害の問題、それに施設の問題、まだこう、抜けております。	s2: f2 に対する 回答		
82	浅井	いや、だから、住宅についても多少また、やってもいいというわけね。	f3: s2 に対する 評価	修復操作	
83	宮西	はい。それは、あの一、いいということで。	s3: f3 に対する 同意		

(A)についての会話 (談話) 分析結果をまとめたものが表 5-3-27 である。表に示したとおり、地元優先型市営住宅に関して「小森」から提案が出され、「宮西 32」がそれを受けて全体的な目標として掲げることを宣言している。よって「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程であると言える。

(C)についての会話 (談話) 分析結果をまとめたものが表 5-3-28 であり、討議テーマについて「延藤」から住宅^{注13}以外のテーマも討議しようと案が挙がっているが、「浅井」からは継続して討議しても良いといった意見が出されている。これに対して「毛利」が何らかのトラブル源を感じて修復を開始している。顕著な意見対立は見られないが、「宮西 80・81」が「浅井 71・76」と「毛利 77」の両者の意見をまとめて収斂させようとしている。(A)と連続した「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程であると言える。

以上のことから、会話分析対象箇所として選定した理由、すなわち様々な意見の共有化構造が、会話分析からも確認できる結果となった。

13 ここでは地元優先型市営住宅を主に指している。

第2項 データ縮約の結果

まず、会議録コーパス、(指標発話を抽出する) テキストマイニング結果、指標発話連鎖会話群、コミュニケーション構造図、会話(談話)分析の各ステージにおけるデータ数を下表に示す。

■表 5-3-29 真野地区事例の各ステージにおけるデータ数

	会議録コーパス ①	指標発話候補 (指標発話) ②	指標発話連鎖会話群 ③	コミュニケーション構造図 ④	会話分析シート
真野事例	1,112 データ数 (923 ターン)	138 データ数 (選定後 22)	117 データ数	107 データ数	49 データ数

先述のように 1978 年 11 月 9 日(第 4 回懇談会)から 1979 年 2 月 6 日(第 2 回検討会)までを分析対象とした計 5 回分の会議録から会議録コーパスを作成したところ 1,112 データ数であった。

そして、ターン割合の構成の変化から 4 つの時期区分に分類することができ、この時点で全部で 923 ターンとなった。

さらに、それらの時期区分ごとに、ターン割合が最も大きかった 1 位の発話者、及び各時期の頻出単語を調べ、この発話者の発話の中で頻出単語を含む発話(指標発話)を検索したところ、138 データ数となった。

そして、同じ頻出単語を含む「指標発話」が複数検索されたので手順(補論.手順書参照)に従って代表的な「指標発話」に選定したところ 22 データ数となった¹⁴。

次にこの選定後の「指標発話」の前後に連鎖する発話を調べ「指標発話連鎖会話群」を作成すると 117 データ数となった。さらに指標発話連鎖会話群の会話群を賛成・反対に分けて並べコミュニケーション構造図を作成した。指標発話連鎖会話群の中には複数の指標発話に連鎖しているため重複して入力されている発話がある。これらはコミュニケーション構造図では 1 つのポイントとして表される。また、連鎖の相手方が省略(会話には存在していない)されていてコミュニケーション構造図で示すことができない発話もあったのでデータ(ここではポイント)数は若干減少し 107 データ数となった。

最後にコミュニケーション構造図から会話分析を行うにふさわしい(特徴的な構造を呈する)個所を選出し、テキストデータを抽出したところ 49 データ数となった。

¹⁴ 「指標発話候補」を「第 2 水準」の頻出単語で整理したところ 135 データ数となり、さらに代表的な発話「指標発話」に選定したところ 22 データ数となった。

第3項 分析の成果

前項で「コミュニケーション構造図」が、いくつかの構造的特徴を示しており、それが「目標表現の共有」過程や「意見対立の解消」過程を説明するものとして観察すべき個所を現示できていることを検証した。ここでは、その現示した個所を対象にした会話（談話）分析を行う。

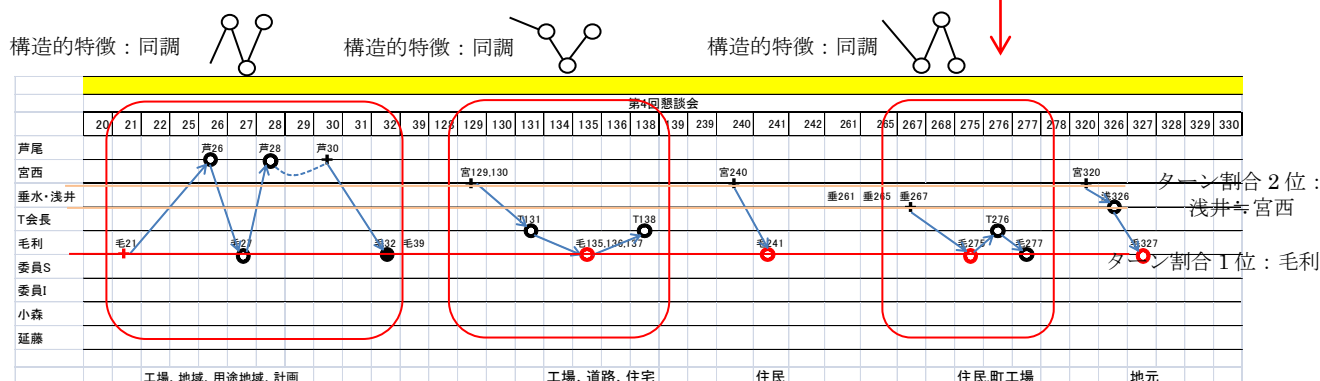
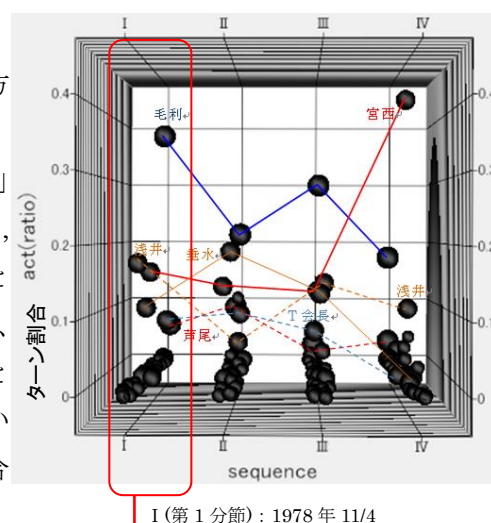
①リーダーシップ構造とコミュニケーション構造の照合から分かること

まず前段にて「リーダーシップ構造」^{注1}の観点から「コミュニケーション構造図」の構造的特徴を観察し、その後で実際にどのような発話内容なのか吟味することとする。

すなわち、「リーダーシップ構造図」から把握されるリーダーシップの変容は「コミュニケーション構造図」や実際の発話内容からどのように解釈できるのか、以下に第1分節から示していきたい。

①-1 第1分節の2つの構造図との比較を通して分かること

「毛利」から発せられた発話が「T会長」に肯定されている一方で「毛利」もまた「T会長」や「宮西」や「浅井」に肯定的であり、同調構造を示している。ただし、「芦尾,30」の発話に対して「毛利」が反対している。これは{「毛利」、「T会長」、「芦尾」、「宮西」、「浅井」}の同調構造の中で「芦尾」だけ浮いている（異質な存在として相互認識されている）ことを示唆している。ただし「芦尾」も、「芦尾,26・28」に見られるように「毛利」に対して同調的態度をとっていることから、みな「毛利」を中心に討議を進めようとしていることが分かる。そしてこのことが、第1分節においてターン割合1位者が「毛利」となっている構造を意味していると考えられる。



■ 図5-3-11 第1分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) 芦尾のリーダーシップからの後退

「芦尾」は「毛利」と並ぶ自治会連合会の代表であり「検討会」の共同代表である。この第4回懇談会は、リーダーシップを「芦尾」が（住民側の二人のリーダーシップが会をリードすることが望ましいと考えられるので「毛利」とともに）果たそうとしたと考えられる。しかし前半で「芦尾,30」に対して「毛利」から反対意見を出され、同調構造から外れた存在となってしまった。

このことが、以後「芦尾」がリーダーシップから後退する契機となったと考えられる。

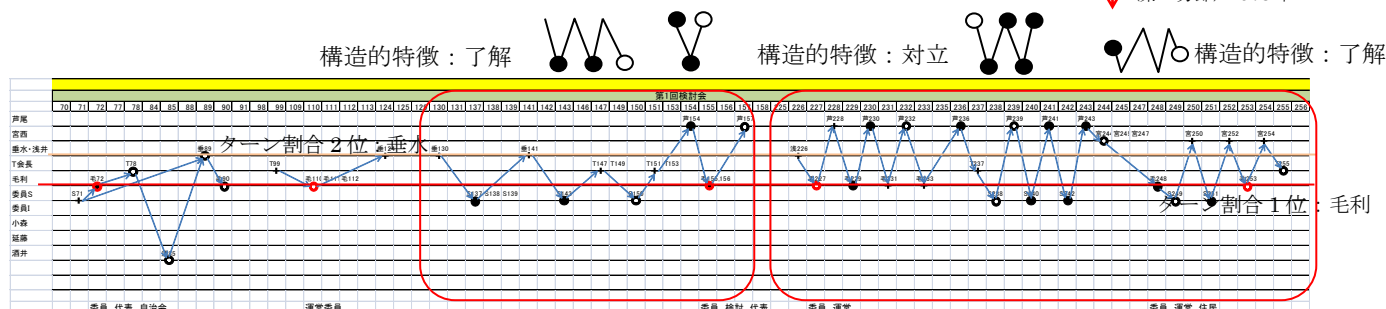
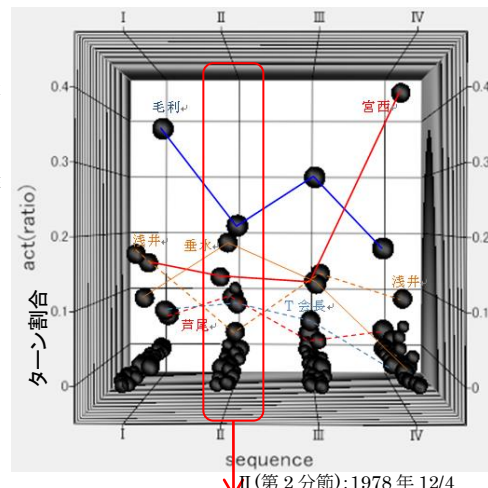
¹ 本論では、各分節のターン割合の上位者を（討議をリードした）リーダーシップと見立て、その変遷過程が各集団固有の構造的特徴を表すと考え、「リーダーシップ構造図」として表す。（図の詳細な作成方法は、補論「手順書」参照）

(ii) ターン割合 2 位に事務局がいる背景

「芦尾」がこれ以降リードから一歩引いてしまったため、事務局の「浅井」、「垂水」、「宮西」がその分リーダーシップを担うようになったと解釈できる。このことが、ターン割合 2 位を結果的に「浅井」、「宮西」にしたと考えられる。

①-2 第 2 分節の 2 つの構造図との比較を通して分かること

第 1 分節で示唆された「芦尾」の＜浮いた存在＞が第 2 分節で摩擦となって表れている。「芦尾,228」から発せられた発話が「毛利」に反対され、しばらく賛成・反対のやり取りが続く。またそれが「委員 S」との賛成・反対のやり取りに展開している。しかし「宮西 250・252・254」が介入し、「毛利」や「T 会長」は賛成的立場に収斂している^{注2}ことから、「宮西」が両者の調整役を果たしたと言える。ターン割合 2 位者が「垂水」であるのは、司会進行役であったことの反映であると考えられるが、その下に「宮西」が来ている^{注3}のは、その調整役を果たしたことを反映したものと考えられる。



■図 5-3-12 第 2 分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) 芦尾に対する反対意見が与えた影響

「毛利」は「垂水」、「T 会長」、「宮西」に同調する発話が目立つとともに、「芦尾」に対する反対意見も行っている。

「芦尾」に関係する賛成・反対のやり取りは中盤と後半の 2 か所見られ、前者は「代表の決め方」について^{注4}、後者は「タタキ台」の取り扱いについて^{注5}争点となったものだが、このこと（とくに後者は意見対立が長く続いたことから）がいっそう「芦尾」を＜浮いた存在＞にしてしまったと洞察できる。

(ii) リーダーシップ（毛利）の真正の印象づけ

中盤の「委員 S」や「T 会長」に対して反対意見を述べた「芦尾」へ対して、反対意見を述べた「毛利,155・156」。これは、「毛利」が「芦尾」を諷めた形に見える。そしてこれに対して毛利は「了解」

² しかし、ここでは「委員 S」の了解が見られない。このことが次の分節での意見対立に展開する。

³ リーダーシップ構造図中で「毛利」と重なるようにあるのが「垂水」だが、その下に凡例「宮西」のラインが来ていることを確認できる。

⁴ 検討会の代表を自治会連合会の会長にすることについて懸念する「委員 S」と「T 会長」に対して、「芦尾」が「自治会連合会長として発言したことは一度もない」と不満を漏らしたことに発する。

⁵ 懇談会の際に「宮西」が中心に作成した「まちづくり構想検討のためのタタキ台」をまた「宮西」に描いてもらって住民に見せたいという「芦尾」と、すでにある「タタキ台」をそのまま運営委員会で検討材料に使いたいという「毛利」との争点。

していることから「毛利」の忠言に従った形になっている。

また後半には「芦尾」と「毛利,委員 S,T 会長」との間で意見対立が生じている。

その意味で第 2 分節は、リーダーシップ（が芦尾ではなく毛利であること）の真正を位置付けた契機となったことを意味していると考えられる。

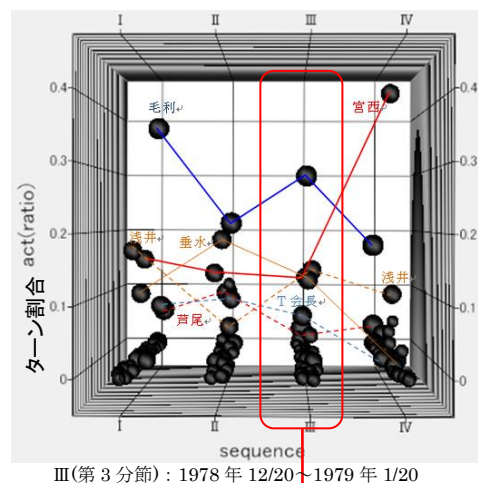
①-3 第 3 分節の 2 つの構造図との比較を通して分かること

前半に「委員 I」から発せられた発話が「毛利」に反対され、以後両者の間で短いが「不同意」のやり取りが見られる。

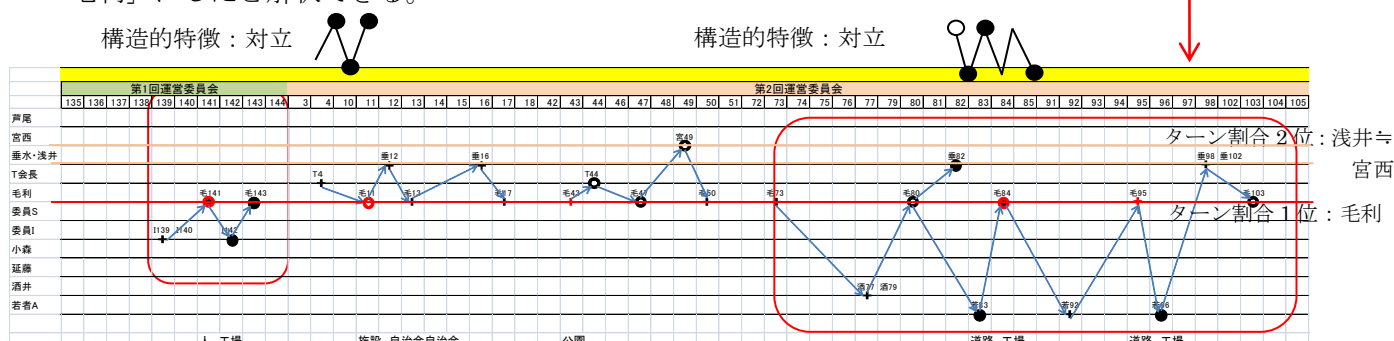
また後半に「若者 A」から発せられた発話が「毛利」に反対され、以後両者の間で「不同意」が続いている。

前者のやり取りも長期化せず、後者のやり取りも「垂水」の介入によって終結していることから、対立構造が深まった状況ではないことが分かるが、いずれにしてもこれは第 3 分節になって「毛利」と忌憚なくなんらかの意見を主張した者が現われたことが分かる。

このような発話傾向がこの時期のターン割合 1 位を依然として「毛利」にしたと解釈できる。



III(第 3 分節): 1978 年 12/20~1979 年 1/20



■図 5-3-13 第 3 分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) 毛利の積極的なリーダーシップ

実際に当該個所の発話内容を見てみると、まず前段の意見対立では「毛利,141」が（住民ではない）工場主を運営委員に入れるべきと主張している^{注6}ことが分かり、後段の意見対立では、道路と工場の問題を解決するものとして「ゲタバキ式工場団地」の整備を提唱している^{注7}個所であることが分かる。

一方、赤枠（会話分析対象箇所）には選定していないが、「毛利」が「T 会長」と依然として同調していたことが見られる。このことから第 3 分節では、「毛利」が「T 会長」とともに会議をリードし、反対意見に対しても忌憚なく意見を主張していたことが分かる。

(ii) リーダーシップ交代の契機

一方で、「毛利,80」（ゲタバキ式工場団地の整備の提唱）に対しては「垂水,82」（そのへんは十分議論せんとあきまへんな）、「垂水,98」（先に現状を出したほうがええね）と、話題を転化しようとしていることも分かる。このことから、具体的な目標表現を行う「毛利」と、それを抑制しようとする事務局

6 住民ではない工場主は運営委員に誘っても出席してくれないと考える「委員 I」に対して、自分で交渉してまで出席させる意思があることを「毛利」が主張している。「毛利」の徹底した地域民主主義の考え方を表す個所の一つである。

7 道路の問題は道路をどうするかという問題として考えたいとする「若者 A」に対して、道路の問題は工場移転と併せて考えると解決すると「毛利」が主張している。地域の根本問題は住居系と工業系の土地利用の分離にあると考える「毛利」の基本理念を表す個所の一つである。

との間に＜温度差＞を見ることができる。また「垂水,98」は、「若者 A」と「毛利」との意見対立が続く中で「垂水」が介入し、それに対して「毛利」が了解していることから、事務局が仲裁を図ったことになる。

これらのことが、次の第2回検討会（第4分節）で、「毛利」がリーダーシップから後退する契機となったと洞察できる。

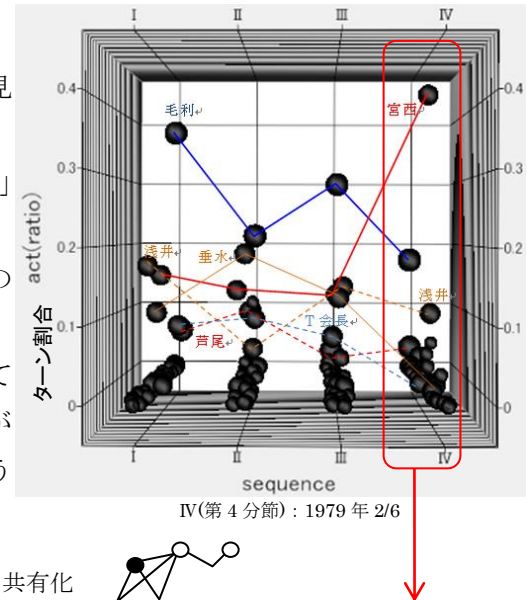
①-4 第4分節の2つの構造図との比較を通して分かること

前述したとおり、第4分節ではリーダーシップの大きな変化が見られる。

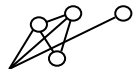
それまで常にターン割合1位であった「毛利」が変わって「宮西」が1位となる。

コミュニケーション構造図から分かるように、いずれも会話群の最後が「宮西」の賛成的発話で終わっている。

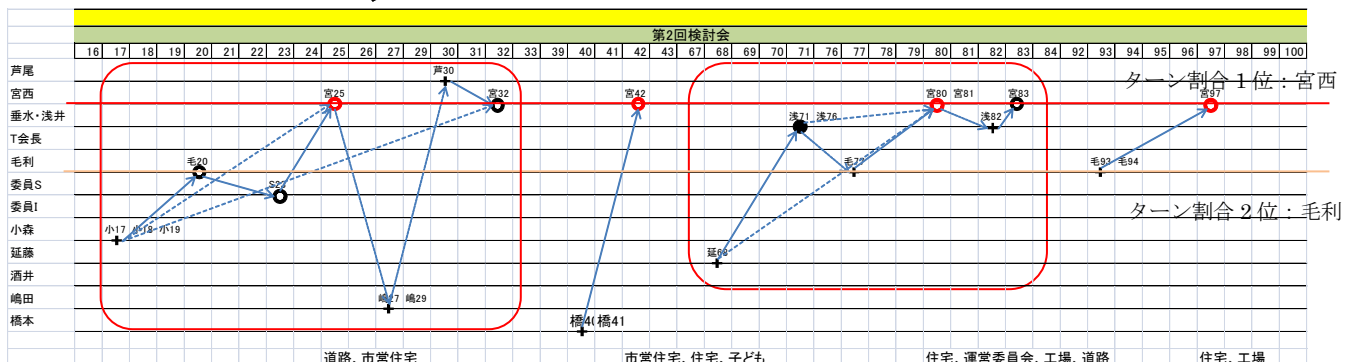
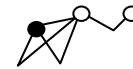
これは、「宮西」が各発話を受けて肯定的にまとめたことを示している。（とくに枠内で囲った部分に現れているような、複数の発話が最終的に「宮西」に集まっている構造は、複数の発話をまとめようとした「宮西」の意思を反映していると考えられる。）



構造的特徴：共有化



構造的特徴：共有化



■図 5-3-14 第4分節のコミュニケーション構造図とリーダーシップ構造図の比較

(i) 目標の共有化に介入する宮西の積極的なリーダーシップ

具体的に会議録を見てみると、前段は「小森」が地元優先型市営住宅を提案したことを受けて「宮西」がそれを会全体の目標に位置づけようとした箇所である。

後段は、住宅を継続して討議してよいとする「浅井」と、それに対して何らかの懐疑を抱いた「毛利」の両者に対して、「宮西」が（別のテーマについても討議するというので）目標をまとめた個所である。

両箇所とも「宮西」が積極的に目標の共有過程に関わろうとしていたことを示している。「宮西」を含め事務局はそれまで、意見対立の解消に向けて介入する役割を多く果たしてきたが、この第4分節では、特定の成員間での対立構造はもはや見られず、「宮西」は目標表現の共有化に尽力していることを見ることができる。

(ii) 意見対立の解消から目標の共有化への変化

このようにして第4分節でターン割合1位者が「宮西」に変化したのは、討議自体の位置づけが第4

回懇談会から第2回運営委員会までの中で、様々な対立構造が顕現化し調整されたことを経験して、新たな目標の共有過程に進化したことを反映したものであると解釈できる。

②意見対立の発生と展開の実態

以上、2つの構造図の比較から、各分節でのリーダーシップは対立構造を解消するための何らかの調整を果たそうとした行為、又は目標表現を共有化しようとした行為の主体であることが分かった。

ここでは、具体的にどのように調整機能を果たしたのか、その過程を会話（談話）分析によって明らかにする。

具体的には①-2において、「委員 S」と「垂水」の間と、{「毛利」,「委員 S」}と「芦尾」の間で対立構造があり、「毛利」と「宮西」が調整を果たそうとした点を提示したので、それぞれ「毛利」（表 5-3-20 参照）と「宮西」の発話（表 5-3-21 参照）に注視して分析して見ることとする。

②-1 代表の決め方をめぐる意見対立の解消に寄与した代弁的発話行為（第2分節において）

「毛利,155・156」（今、天宅さん^{注8}が言われたことはね・・・）は、「芦尾 154」に対する異議申立（忠言）のみならず、「T 会長,147・149,151・153」の代弁機能^{注9}を果たしていることが分かる。そして「T 会長,147・149」（・・・事務局からね、出た言い方が悪いんですよ・・・）は「委員 S,137・138・139,143」の代弁機能を果たしているので、「毛利,155・156」は「委員 S」の代弁機能をも果たしている行為だと解釈できる。

また「T 会長,147・149」（・・・肩書きは置いといて・・・）は、「垂水,130・141」の代弁機能を果たしている行為だとも言えることから、「毛利,155・156」は最初に対立した「垂水」と「委員 S」双方の代弁機能も果たしている行為だと解釈できる。

②-2 タタキ台の使い道をめぐる意見対立の解消に寄与した代弁的発話行為（第2分節において）

「宮西,244・245・247」は、「芦尾,228」の代弁機能を果たすものである。「毛利,248」に反対されているが、最終的には「毛利,253」で賛成されている。その意味では「毛利」や「委員 S」の「芦尾」に対する批判を「宮西」が変わりに受けて、その修復を果たしたという代弁機能^{注10}も果たしている。

すなわち、宮西氏が「住民の意向をどこまでくみ取るか」という争点に改めることで「毛利,248」のように毛利を相手に討議を交わすことになり、訴追的を芦尾会長から自身に変えただけでなく「この検討委員会が、住民会議をもって、それでやっていけばいいですけども、それはかなり時間がかかるわけです…（宮西,247）」「僕が非常に危惧しているのはね、僕が回らないといかんのか、ということ…（宮西,250）」と争点の書き換えに成功している。

それだけでなく、「これまでは…住民っていうか、みんなに代表者がうまいことものを伝えられなかった…（宮西,254）」と反駁し返すことで「T 会長」から「やっぱりまあ、今宮西さんが言われたようにね、…ある程度の時期を見越して、ざっと（）浸透せにゃ」^{注11}と、自省的な目標表現を引き出している^{注12}。

⁸ T 会長のこと。

⁹ 本論では、何らかの理由で理解してもらいたい（あげたい）他者のために、その他者の立場に立って説明・補足する、あるいは言い換えたり翻訳したりする行為を「代弁機能」ないし「代弁的発話行為」と呼ぶことにした。

¹⁰ 「芦尾」を単に弁護したという意味だけでなく、批判的になったという点において。

¹¹ 発話内の「（）」は、聞き取りができなくて不明な個所を示す。

¹² この発話の前に「毛利 253」があり、「T 会長 255」はこれを言い換えたものではあるが、「宮西 254」の「住民っていうか、みんなに」を受けて、自治会だけでなく家主や地主にも説明していかなくてはならないと、提案したものである。

ここで「宮西」はもともと対立構造となっている{「毛利」,「委員 S」}と「芦尾」の修復を果たしたのみならず、争点を深化したことで新たな目標表現の共有化を果たしたのであり、注目に値する。

(再掲) 表 5-3-23 第 2 分節 (C) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
130	垂水	それでは、代表でございますけども、代表の場合、副 1 名というのがあるんですけども、この地区の場合、二つ連合会もございますので、えーそういう点を勧業しまして芦尾会長そして毛利会長に代表していただけたらどうかと考えております。	F: 提案	トラブル源	【代表の決め方】 先ほど了解が見られなかった委員 S から再び疑義が提示されている。そこで T 会長が、代表の選出方法の提案をして、委員 S は了解した。しかし一方で、芦尾から疑義が提示され、今度は毛利が T 会長の代弁し修復を果たしている。
137 138 139	委員 S	それやったら自治会の延長になってまいりますもん、そういうふうにしたら。自治会とか、そういうものを超越して、あれするために、その一、諸先生とか市の方とかまたは諸団体の方が・・・それを自治会がそうなるからいうて、分けるんやったら、それはもう自治会独自のあれでやっただけいい。いやいや、()それは僕個人の意見であって、ご検討願いたいと思います。	f1: F に対する評価と提案	修復開始 (トラブル源顕示)	
140	浅井	・・・そしたらちよっと、運営委員、代表代理までを全部を言うて、そしてどうかという感じで進めましょか。	f2: 提案		
141	垂水	あの一まあ全部が全部案をもっている訳じゃないんですけど、あの一代表代理、() 難しい名前で恐縮なんですけど、まあ副代表といってますけど、あの一とりあえず私、事務局と言いますか、地元にいる関係で、これまで呼びかけ人になっていただきました方がおられますが、・・・をまあ・・・あとあとまでご面倒いただくという意味で、副代表、代表代理といいますが、これ天宅さんと池田さん、これはまあ人数決めておりませんので・・・そのへんはとくに決めておりませんが、少なくともお二人はこれまでのいきさつもありますので代表代理になっていただきたいと思います。	f3: 提案		
143	委員 S	そんなことありまへんがな・・・	s2: f3 に対する不同意		
147 149	T 会長	たまたまね、最前の言葉が事務局からね、出た言い方が悪いんですよ。なぜかというね、両自治連合会長というもたら、これ派閥の論理ですが。そやからねもうこれはね、この場合はそういう言葉を使わずに連合会長の発言やなんかなしにね、わしも毛利さんも委員になって、一委員として、肩書きは置いといて、たまたま選出はそういうふうにするけど・・・委員の中から役員を選ぶというような格好でね。やってもらって、内心はそういう含みはありますけど、それをいいおつたらまた反発があるので、そやからそういう・・・そのうえで会社の人を選ぶなり、・・・	f4: F に対する評価と提案		
150	委員 S	同感、同感。	s3: f4 に対する同意		
151 153	T 会長	頭決まって、・・・両連合会長がやれなに言いおつたらね、また反発がおこりますわ。ここに来たら一塊の委員と、肩書きはのけにしろもうてね、・・・またひっくりかえってしまったらまずいやさかいね、私の希望です。	f5: 評価	トラブル源	
154	芦尾	ちよっと、・・・今、() 連合会長だから、自治会長だからね、そういう意味のね、今まで答弁の仕方とか、あと質問の仕方とかしたことないと思うんですけど	f6: 評価	修復開始 (トラブル源顕示)	
155 156	毛利	芦尾さん・・・今、天宅さんが言われたことはね、・・・委員となれば平等の立場でものをいう、これが原則だと思うんですよ、検討委員会は。そういう委員の中からどなたが代表になってもいいから、代表が 2 名でもよろしいじゃないか、そういうね、いちおう選出してもらって、というのが今の天宅さんの言い分ですね、・・・	s4: f5 に対する承諾 f7: 提案	151 の修復操作	
157	芦尾	あたりまえです。	s5: f7 に対する同意		
159	垂水	・・・ご提案したのもまあ、そういう趣旨でございますけども、もう一度申し上げますと、代表としてまあ芦尾。毛利両委員、それからあの一、あとの呼びかけ人でございました天宅委員と池田委員に代表代理、という提案をさせていただいたわけです。あの一ほかに、どうでしょうか。	s6: f7 に対する同意	130 の修復操作	

(再掲) 表 5-3-24 第 2 分節(D)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
226	浅井	一つだけちょっと提案、やはりね、なるだけこう地元の方々に知って頂くと、第1回()ね、こういう検討会やっていうことで、まあ我々よく、まあ…ミニニュースみたいな、ニュース版ですね、そういうのを作って()ね()で、今回もですね、やったんだというものを知らせるとい、そういうミニニュースみたいなものをつくる、それを検討会議が発行すると、というようなことがやっぱり()ではないかと…	F: 提案		<p>【運営委員会でのタキ台の扱い】</p> <p>芦尾はタキ台を宮西に一任するような発言をしたために、毛利、T会長、委員Sから非難を受けている。芦尾は何度も修復を試みるが、なかなか完了させてもらえない。そこで宮西が、トラブル源を改めて提示し、自らが非難の的となる。今度は宮西が修復を試み、最後には完了する。同時にこの過程で争点が明確になり、新たな行動提案が毛利やT会長から出されている。</p>
227	毛利	ただ…今後の運営どないしまんねいうても出てこんで…中略…一つの今までの資料があるんで、そういう問題を運営委員会でみんなに渡るようにしてもらわなんだいけまへんで、それを見ながらどうするか検討すると、…中略…やっぱそのなかで運営委員会の意見も出てくるんですよ。	S: Fに対する同意 f2: 提案		
228	芦尾	しかしね、宮西さんの前に()していただいたやつね、あれあんたも細かい、よう調べて、あれは絶対活かすかししょうないもの…あれを()ずしてね、そらもう我々に聞くよりか、あんたが、こうしたら一番早う真野地区はようなるわいというやつをあんたちょっと描いてみて下さいよ。	s2: f2に対する同意 f3: 依頼	トラブル源	
229	毛利	あのね、それは間違いや、あのね、実はアレは宮西さん1人に任せたっていうのもあるんでね	s3: f3に対する不同意 f4: 評価	修復開始(トラブル源顕示)	
230	芦尾	いやいやいや…	s4: f4に対する不同意		
231	毛利	…検討運営委員会ができたんやから、運営委員会の中でしてもうて、運営委員会の中でええか悪いか、よければそれでいいんですよ、異議無しで、そういうやっぱり検討をね、時間を…	f5: 提案		
232	芦尾	…考えてること同じ…基本的に…もんで…実は早い…	s5: f5に対する同意	修復の操作	
233	毛利	やっぱり地域に…言わんともっとわかりませんのでね…	f6: 評価		
236	芦尾	そういうものはね、やはり部分的にね、部分的に起こってくることで、やはりアウトラインが、こうってやつがね、青焼きが、それはやっぱり一発ないと	s5:f6に対する不同意	修復の操作 トラブル源	
237	T会長	芦尾さん、宮西さんのアウトラインはね、たたきだい、あんたも見とったやろうけど、できとるん。あれを、あれを…やってもらって、…みんなで検討して、…	f7: 提案	修復開始(トラブル源顕示)	
238	委員S	そう…、宮西先生がこしらえられたもの、がいいか、いいからと、…だったらそれはもう委員会は…まあでも、先生がこしらえたのはね、あれは一その、検討会議の資料であって、…	s6: f7に対する同意 f8: 評価		
239	芦尾	…私も…宮西さんので決めるって言ってませんで…	s7: f8に対する同意	修復の操作	
240	委員S	いや、代表のね、代表の()でしたらね、…それでやったらええっていうような、聞こえましたもん	f8: s7に対する評価		
241	芦尾	いやいや、そんなことないよ	s8: f8に対する不同意		
242	委員S	それは言葉の問題かも分かりませんけども、私もそういうふうに聞こえたからね、あつ、代表は…	f9: s8に対する評価		
243	芦尾	いやいや…	s9: f9に対する不同意		
244 245	宮西	ようは、この一、なんかたたき台がないとね、やっぱりこ一、よく分からないと。今なんの議論しているのかという、全体の中でまちづくりたつて、いろんな話があるわけで、今話しているのはどこの、まちづくりのどこの話をしているんだと、例えばじゃあ住宅の話しようかと、いったら、住宅の話、どういう住宅の話をするんかと、いうたたき台がないと、やっぱりできないわけで、ただそのたたき台は、いちおうなんか、まちづくりってのは、真野地区のまちづくりってのはこんなもんやないかと、いちおう描いたと、で、その中で今日はこの部分の話しようかと、いうことで、いちおうたたき台は僕はできとると思ってるわけですね。それから、そういう形でぶつけていって、それで、いろいろこう揉んで、それでその場のなんかこう、一つの成案というか、それを作っていくと、でそれをそこでどういう議論してきたか、いうのを今度は総会にかけて、それでいいかどうか、いうやつを決めていくと、でそれを今度はみんなに分かるように文章化していきなり、みんなに知らせていくと、いうことがやっぱり、全体の流れだろうと思うわけです。で、その中で一つ気になっているのが、()で出た話なんですけど、あの一、住民の意向をどこまでくみ取るのか、	f10: s9に対する評価 s10: f3に対する同意		

247	宮西	で、それがね、ちょっと、私危惧しているのは時間の問題なわけです。たとえば、その5年とかね、そのくらいの時間があるならば、住民と接触しながら、例えばこの検討委員会が、住民会議をもって、それでやっていけばいいですけども、それはかなり時間がかかるわけです。今()入って19集落とつきあっているわけです。だから、だいたいまあ、最近農家でも、もう晚しか集まってくれないんで、で19集落つきあうと1ヶ月かかわるわけです、一つの問題やるだけで、そんな、一つの問題だけじゃやないから、やっぱり2年、3年もこう掛かっていくわけですね。やっぱりそのくらいの時間がないと、やっぱりできない話で、ちゃんとやろうとしたらね。できないわけ。ある程度、限度はつけないといけないんじゃないかと、その辺の限度は、やっぱり持って、で、おそらくそのへんの睨みがあるから、あのそのPR技術というか、ここで検討したニュースをみんなに流していこうという、どうも浅井さんの的には・・・その辺の	f11: 評価	トラブル源	
248	毛利	僕はね、ちょっとそれはね、宮西さんの反論するけどね、やはりあの一、この問題はね、やっぱりあの一、住民の意見はある程度聞かんといかん問題があるんですよ。あの一、住民がやっぱり利害関係の人間ですからね。そうすれば僕がそういう運営委員会でね、討議する過程において、それで1回で決まるわけじゃないんだからね、そういうたきだいに基づいて討議をやったりやっていくと、それは各団体が出るとからね、運営委員会に。()地域に持って帰って、やはり多少住民に知らせ、知恵をかって、それで運営委員会にまたそれを反映していくと、いうことでないと、・・・	s11: f11 に対する不同意	修復開始(トラブル源顕示)	
249	委員 S	運営委員会からしてね、その、広報することは非常によいことである、と同時にね、住民のアレを聞き取るということももっと大事だと僕は思うんです。	f12: s11 に対する評価		
250	宮西	でね、それはその、例えば僕が非常に危惧しているのはね、僕が回らないといかんのか、ということをや危惧しているわけで、	f13: f12 に対する評価	修復の操作	
251	委員 S	とんでもない・・・	s12: f13 に対する不同意		
252	宮西	で、それをね、そうじゃなくて、やっぱり、あの一、今自治会の代表でこう集まって、()ると。やっぱりあの一、その代表者の方がここで議論したやつ、これはどうも持って帰ってみんなと議論して帰ってこないものがしゃべれないなというような話については、やっぱり持って帰って、ちゃんと話して、それで、こーいちおう、その、その地域の意思としてはねかえるものがあつたら、非常にスムーズにいくんじゃないかと、それは思うんですよ。ただ、	f14: 提案	修復の操作	
253	毛利	やはり住民は知らないのに、おまえら何勝手にこんなこと決めたんやというね、総会が今までに多いからね、その点ではやはり運営委員の方は地元を持って帰って、多少のね、やっぱりそういう問題を提案して、住民の多少なり意見を聞いて、	s13: f14 に対する同意	修復完了	
254	宮西	あの一、さっき僕もちらつと言ったんですけども、提案づくりの場であると、で誰に提案するのか、いう話があるんですね。それをやっぱり皆さんに考えて欲しいと思うわけです。でね、やっぱり提案の場であると、で、おそらく市役所にももの申すと、いう検討会議じゃなくて、やっぱり一番大事なのは、住民にここで議論している話を理解してもらい、住民といっしょに議論し()とりあげていくと、・・・それが一番いいだろうと思います。そういう意味でその一、これまではなかなかその一、住民にうまいこと、住民っていうか、みんなに代表者がうまいことものを伝えられなかったもどかしさはあつたんだと思うんですけど、それはやります、と、提案できるようなものは、みんなに語れるようなやつは作ります、と。で、だからそれに関しては、いちおうみんなに期限諮って、()てほしいと。この運営委員会じゃない場に。そうすればなんか非常に面白い、あの一討議の場になるのかなと。そうすれば、なんかこー自分で作っているという実感が生まれてくるんじゃないかと思えます。	f15: 提案		
255	T会長	まあご承知のようにね、今住民という話も出ますけど、住民以外のね、やっぱり家主とか地主とか()ばいかんものもありますよね。・・・やっぱりまあ、今宮西さんが言われたようにね、やりやすいことからね、重点的に、やっぱり・・・検討会にかけて、そして、ある程度の時期を見越して、ざっと()浸透せにやしようがないですね。	s14: f15 に対する同意		

③ 目標表現の共有過程

具体的には前①－４において、「小森」、「嶋田」、及び「延藤」、「浅井」の目標表現に対して、「宮西」が会全体としての共有化を果たそうとした点を提示したので、「宮西」のそれぞれ前者(表 5-3-27 参照)、後者(表 5-3-28 参照)の発話に注視して分析して見ることとする。

③－１ 「地元優先型市営住宅」案に対する「宮西」の代弁的発話行為（第４分節において）

「宮西,25」は、「小森」の地元優先型市営住宅案^{注13}に対して、(実現化は難しいものの)討議テーマとしていきたいという意味を示したのみならず、事務局に対する「小森」の代弁機能^{注14}を果たしていることが分かる。

また「宮西,32」は、「嶋田」の工場アパート案に対して、その前の「小森」の地元優先型市営住宅案と併せて「若い人をどう呼び戻すか」というテーマに＜書き換えた＞と言える。

ここで、「工場アパート」とは「毛利」が第２回運営委員会で提唱した「ゲタバキ式団地」を指すと思われるが、「芦尾,30」が「先ほど、一応あの方がね、あの、言われたように…」と「小森」の地元優先型市営住宅案も含めて「若い人を呼び戻す」仕掛けづくりと再解釈したことから、「宮西,32」は直前の「芦尾,30」も含め、「小森」、「嶋田」、「毛利」、「芦尾」のそれぞれの目標表現を一つのまとめたものと言える。

③－２ 「住宅を継続テーマにするか」をめぐる「宮西」の代弁的発話行為（第４分節において）

「宮西,80・81」は「浅井,71・76」と「毛利,77」の両方の意見を受けて、「毛利」に対しては「タイムリミットをとにかく仰せつまっているわけで…」と「浅井」に代わって弁明しており、「浅井」に対しては「運営委員会で今日の話は整理して…」と、「毛利」に代わって弁明し、また「道路の問題、または駐車場をこれからどうしていくのかという問題、それに自動車公害の問題、それに施設の問題、まだこう、抜けております…」と、「延藤,68」に代わって弁明していると解釈できる。

これに対して「浅井,82」は「住宅についても多少また、やってもいいというわけね。」と念を押しており、「宮西,83」はこれに対して同意している。つまり「浅井」が「延藤」に対して賛同的立場に変わるよう「延藤」の代弁（補完）を行ったとともに、「毛利」が「浅井」に対して賛同的立場に変わるよう「浅井」の代弁（補完）も行ったと言える。

このように「宮西」が「延藤」及び「浅井」の代弁（補完）機能を同時に果たすことにより、「延藤」及び「浅井」の目標表現を共有して全体化できた過程を把握することができた。

¹³ 第２回検討会の中で「小森」は「地元の人で優先入居…」と発話している。「宮西」は「特定入居」と発話している。

¹⁴ 第２回運営委員会の「垂水,82」（表 5-3-26）から分かるように、事務局側は将来像より前に問題点を討議し合うように異議を調整していた。「小森」の地元優先型市営住宅は将来像（ないし実現化方策）であり、事務局の敬遠する内容であったため、あえて「小森」の弁護をはかったものと解釈できる。

(再掲) 表 5-3-27 第 4 分節 (A) の発話内容

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
17 18 19	小森	あの一、わたしは、この、今のような市営住宅ならあんまり賛成じゃないんですよ。… ここの小学校の卒業生を先にとれと、入居させろと。そこまできなければ、とても難しいと思いますね。…今までみたいに、遠くへんびな土地の安いとこに市営住宅建てて、これでおしまいでございますというじゃなくて、やはり、その一、今までのまちを破壊しないような形で、しかも、いい質の住宅を供給するというふうに、考え方変えてもらわないと困らなあ	F: 評価		【地元優先型市営住宅の提案】 小森から提案され、毛利や委員 S から賞賛を受けている。 宮西は、難問だがテーマとすることを断言した。 人口を増やすことを目標にした一つのオプションであるという位置付けに整理した。
20	毛利	うん、小森さんの言う通りやね。これから市営住宅するんだったら、地域のもん、優先的に入れるよう、() 地域も出そう思うとるよな。それがなかったらね、あの一、したって何もならんですよ。	S: F に対する同意		
23	委員 S	人、人を、これ、こう見てるとね、総体的にすべてこう、人を増やすというふうなね、人、人を増やせば、こう、まちづくりができるっていうふうな、その、なんてか、そういうふうなごまかしに引っかけりそうです、これね。…そうじゃなくてね、今の小森さんのご意見はすごく賛成です。その、真野の魅力っていうんですかね、新しい魅力、これが欲しいですね。	s2: F に対する同意		
25	宮西	もう、だから道路をつつとかな、そういうことじゃなくて、…今、おそらく市営住宅ってのはもう、特定入居なんで非常に難しいわけです。おそらく、だからこう、このままだと 10 年で解決するかどうか分からないという感じがするわけですけど、まあそれでもまあ、…まあ…まあそう無理な話を…まあ、そういうことをこう、やっぱり要求していくということが、なんか計画作りじゃないかなという感じがするわけです。	f2: F,S,s2 に対する評価		
27 29	嶋田	ちょっと今の話でいうと、関係するんですけどね、とにかく地元優先ということや、住宅だけじゃなくて、() の外側の() の話で工場のアパートに入ればしんどいってことですから、やっぱりこう、と、特定入居、そういうことを、やっぱりこう() で、工場アパートにも対策をするように。	f3: 提案		
30	芦尾	そういうのはね、先ほど、一応あの方がね、あの、言われたようにやね、仮にまあ、息子が出ていくと。じゃそういう場合に、その息子だけが今度来てやね、手伝うんだったら、結局彼らと、子どもが 2 人、3 人できた場合には、それは向こうにおるわけですね。それがやはり、こちらに住居あれば、その人たちがみんなここにおると。そしたら、その若い人が、購買力が前より多いわけですね、今、先生がおっしゃったように。だから、年寄りばかりやたらなんぼ物売りいったって、() 買いしまへん。やはりそういうとこ、若い人のほうが購買力もね、()	f4: 評価		
32	宮西	() とうですね。やっぱり人口を増やすということじゃなくて、やっぱり若い人をどう呼び戻すかという話がやっぱり、一つ、テーマとして出てきそうな感じがしますね。	f5: f3,f4 に対する評価		

(再掲) 表 5-3-28 第 4 分節 (C) の発話内容

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
68	延藤	住宅についてはね、今日どう解決するかという方向が、こう、出てきてるような感じ()、だから例えば、小森先生おっしゃったように、地元優先型の() 共同建て替えはほんとうにできるのかとかね、そのへんはどう解決するかという、こう、課題が、() 住宅についてはそういう方向に議論を進めることにして、あっち側のほうのね、いろんな問題というものね、もう少し、	F: 評価		【地元優先型についての今後の扱い方】 延藤はひとまず置いて、別のテーマを議論しようと提案したが、浅井は地元優先型についても討議を続けてよいと目標表現している。
71 76	浅井	今から、あの、3 つの全部をしてからというのは() して、できともんは進めていっていいと。 進んだものはよい、行ってもええと、いう具合でいきましょうか。あんまりこだわらんでも、なんかいいような気がしますね。	S: F に対する不同意		
77	毛利	なにか行政慌ててるんじゃない？何か意図おまへんか？	f2: 質問	修復開始	
80 81	宮西	一年間いうね、あの、タイムリミットをとにかく仰せつかつてるわけで、その一、それをどう運営してこうかいうのを一生懸命考えてるわけで。 今日は、あの一、ほとんどの話が、なんか住宅をめぐる話というのに終始したんで、まあこれについては、あの一、運営委員会で今日の話は整理して、もう一回、なんか整理したやつを検討会議に出して、それで次はまあ、それをどう解決するかという方向でいこうではないかということを確認することと、で、もう一つは、あの一まあ、ちょっと土地利用の問題、…中略…または道路の問題、または駐車場をこれからどうしていくのかという問題、それに自動車公害の問題、それに施設の問題、まだこう、抜けております。	s2: f2 に対する回答		
82	浅井	いや、だから、住宅についても多少また、やってもいいというわけね。	f3: s2 に対する評価	修復操作	
83	宮西	はい。それは、あの一、いいということで。	s3: f3 に対する同意		

④各成員が果たした役割

④－１　トラブルの顕現化

(i) 「芦尾」に対する「毛利」の「トラブル源の顕現化」行為（第１分節において）

第４回懇談会の前半は「毛利」と「芦尾」が同調する傾向を見せていたが、「毛利, 32, 39」で「芦尾」に対する否定的な発話が突然登場する。（表 5-3-20 参照）

この発話行為は、「芦尾, 30」を「トラブル源」として顕現化する行為である。「毛利」は道路の問題はむしろ用途地域（住工の混在化）に課題（住工分離）があることをこれまで述べてきたつもりであったのに、「芦尾」が道路の拡幅を課題として挙げたことに対して、何らかの違和感を覚えたことを反映した行為だと考えられる。「芦尾」の課題認識は間違っているわけではないが、「毛利」にとって二人の自治会連合会長が足並みをそろえて会をリードしていくことが重要であったために、あえて「トラブル源として顕現化」したと考えられる。

道路拡幅と住工分離のどちらを優先するべきかという問題は、実際に第２回検討会まで何度も繰り返し現れる^{注15}。

一方、これに関する目標表現として、表 5-3-21 の「毛利, 137」の「・・・そうすることがね、やっぱりくこのまちづくり>だろうと・・・」に着目したい。

この「毛利, 137」から、毛利会長は工場と対立することを望んでいるのではなく工場との和を目標としているのだという理念を見ることができる。

また表 5-3-25「毛利, 1-141」と述べているように、工場労働者や自営業者の若い世代を地域にとどめたいというのが真意であると分かる。よって、第４回懇談会での住工分離の話や、第２回運営委員会でのゲタバキ式工場団地への工場移転の話（表 5-3-26/毛利, 80）も、そのような理念から生じているのだと考えるべきである。彼には、工場の集団誘導、市営住宅や共同建替の推進、次世代後継者へのルールづくりなど具体的なアイデアがあったが、それらを過去の公害闘争の経緯から工場誘導（移転）案の提唱、次世代の後継者に渡すための住民民主主義的な会の運営の提唱、次世代が地元に残まって住み続けられるような住環境づくりの提唱まで、一貫して繋がった一つの理念からテーマごとに諷示していたことが分かる。

「宮西」も第２回検討会では、表 5-3-27「宮西, 25：道路をつくるとかね、そういうことじゃなくて…」と述べているように、また「宮西, 32：若い人をどう呼び戻すか」を全体の目標に掲げたことから、毛利会長が一貫して示してきた理念を理解していたことが窺われる。「毛利, 32, 39」の発話行為はこのような一貫した理念の端緒である。^{注16}

(ii) 「芦尾」に対する「毛利」の「トラブル源の顕現化」行為（第２分節において）

前述のように、第１回検討会で代表を選出する際に「芦尾」が（表 5-3-23）「芦尾, 154」と苦言を呈した場面については「毛利」が、「毛利, 155」と、「T 会長」の発言の修復を行い、「芦尾」を諭している。

また「芦尾」が（表 5-3-24）「芦尾, 228」と述べた場面では、「毛利」が「毛利, 229」と「芦尾」に異議を申し立てている。

このように第１回検討会では「芦尾」に対する「毛利」の忌憚なき異議申し立てを見ることがで

¹⁵ 特に第３分節で「若者 A」と「毛利」との間での強い対立として現われる。

¹⁶ そのことに「宮西」がいつから気づいていたか分からないが、この時点から着目していた可能性がある。

きると同時に、ここで「芦尾」はトラブル源の発話者とされてしまったことから、以降リーダーシップから後退することになったと考えられる。

なお、そこから生じるトラブルに対して修復を図ろうとする事務局ないし「宮西」の働きかけを見ることができた。第1回運営委員会以降では「芦尾」に対する異議申し立ては見られない。

(iii) 事務局に対する「委員 S」の「トラブル源の顕現化」行為（第2分節において）

第1回検討会の前半で、代表の決め方をめぐって、自治会連合会の会長を代表にするという事務局（「垂水」）の発話を「トラブル源として顕現化」しようとした「委員 S,137・138・139」に着目したい。（表 5-3-23 参照）

真野まちづくり検討会は代表に二つの連合自治会から1名ずつ据え、副代表に単独自治会の会長（T会長）と真野婦人会の会長を据えた。とりわけ一つの組織に（地元の連合自治会から）2名の代表を置くことは珍しいと言えるが、逆に言えば2名の代表を置かざるを得なかった状況があったとも言える。

実際に第1回検討会でまず委員 S が異議を申し立てている（委員 S,137・138・139）。それに対して「T会長,147・149,151」と述べている（表 5-3-23 参照）。

この「T会長」はこの発言より前に「T会長,78：自治会の代表がね…なったほうがね、いろいろとまあ便利なええケースもありますわな…」と述べており、自治会のシステムを活用して情報伝達したほうが住民周知が容易に行くという考えを示していた。そして、「毛利」が「毛利,155」と発言し、事務局も「垂水,159」と述べたことによって結局二つの連合自治会から代表を出すことに収斂している。

ここで「垂水,159」の発話中の「そういう趣旨」とは何か。「芦尾」の属する連合自治会は、もともと8自治会から成立したが、当時までに3自治会が「毛利」の属する連合自治会に移り5自治会に縮小していた。どちらかに加担すれば自治会の勢力図に飛び火する恐れがあった。であるからこそ、「委員 S,137・138・139」のようにもともと連合自治会にとらわれずに代表を選んだほうが良いという意見が出されたと考えられる。

「芦尾」の率いる連合自治会は、勢いは衰えたものの、市場や商店を抱え人口も多く依然として大きな連合自治会であった。分裂した連合自治会を一つにする場として「芦尾」を代表として参加させ、「フォロワーシップ」として機能してくれることが、事務局としてはコミュニティ・オーガナイズ上必要だと判断していたことが「垂水,130」からも分かるが、3人の自治会長{毛利、芦尾、T会長}はそのことを理解していたことが分かる。

しかし「委員 S,137・138・139」の発話行為が「T会長,147・149」を引き出したと言える。

すなわち、もともと「T会長,78」のように住民周知の伝達手段として自治会を活用すべきというのが「T会長」の意見であったと同時に「T会長,166」と述べており、実は身分としてはあくまでも個人の立場で参加しているという意味であったことが分かる。連合自治会長から2人の代表を選ぶという事務局側の意図の作為性には「委員 S」から批判が挙げられたものの、（自治会の総意を代表してではなく）地域住民との情報伝達機能という使命はあるのだという解釈が、「委員 S,137・138・139」から「T会長,166」までの一連のやり取りの中で共有化されたと言える。

ここで再び「垂水,159」の発話中の「そういう趣旨」とは何か、に戻ると、これは「毛利,155」を指していることが分かる。その意味で「毛利,155」は「言説」としての機能を果たしたと言える。

また再び「委員 S」の発話に戻れば、第 2 分節の「委員 S,249」(表 5-3-24 参照)も「毛利,248」の代弁的発話行為であると言える。

(iv) 「毛利」に対する「垂水」の「トラブル源の顕現化」行為 (第 3 分節において)

事務局は、(表 5-3-26)「垂水, 82」から将来像についてはかなり慎重だった経緯が読みとれる。第 2 回運営委員会までは毛利会長がリードしてきたが、この発話行為によって「毛利」はトラブル源の発話者とされてしまったことから、以降リーダーシップトップの座からやや後退することになったと考えられる。(以降第 2 回検討会では宮西氏がリード役に転じる。)

(再掲) 表 5-3-20 第 1 分節 (A) の発話内容

行番	話者	発話内容	会話分析による F, S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
21	毛利	都市計画、のためにやってんけどね、・・・中略・・・用途地域をね。これをするからなんぼでもあんた、入ってくるわけ、ね。するとまた知らん間に、工場できた、工場できた、工場できた、あれどないになった、なんや言ううちにやね、やっぱり非常に、この地域が変化したということはね、やっぱり僕は市行政のね、やっぱりやり方に間違いがあったんかいう意見もってたわけ、・・・	F: 評価		【工場、用途地域】 毛利は住民の知らない間に「工業地域」に指定された問題点を指摘している。 芦尾は同調しているようだが、テーマが噛み合っていないので、毛利がテーマを用途地域に戻そうとしている。
26	芦尾	() やっぱしね、やはり歴史が・・・ようにな、() の長田で見たってね、やはり () = 港湾 = がなってね、現在こういうことしかなってないと言うとったがね、やっぱし昔、長田もね、それはな、自分のことだけやって考えたらええという人ばっかしがな、この地域には昔は多かった。この地域のことを考えてない。	S: F に対する同意 f2: 評価		
27	毛利	まあ、それはあるやろね。	s2: f2 に対する同意		
28	芦尾	そういうこと、そういうこと。それが一番です。だからわれわれはね、今こうしたらええやとかあしたらええやと、今あんたの言うようにやな、そんな、あの一その一、駐車場とか = まあ利益なり =、家建てるより、金 () のがええと、そういうような人間ばっかし集まってきたら、いつまでたったってな、この地域はね、	t: s2 に対する同意		
30	芦尾	やはり、() などで市の方にな。この隣の地図をね、() ちょうどこれ、() こう、十文字になって、地図でいうたら、あの、道になってますわ、これ。これと、どの道かをね、広うしてもらわんとか、建物 () 建てん、そうしてもらたらね、() きれいに置いてもらうとかね、そこらの特徴をね、ちょっと考えてね、それでまあ、ここらの地域の人にやね、いつでもこう、協力してもらうようにな、PR してやね、言ってやったらね、そしたら誰でも () 今までこう () われわれやったかな、いつまでたったってね、このまましたらようならんですよ。まあ、わたしは思うんやけれどな。	f3: 提案	トラブル源	
32,39	毛利	いや、それ、そらそうやけどね、その、僕はここで、あの、一応問題点に指摘されておりますんでね、この問題についてもね。なんぼでも、ある程度、まあ僕は、あの一、「重工」の地域の、ある意味もう、この、現実なんですね。それで、() あげても僕は () かな、あの、一応、人口がまだ 1 万 1,500 のと、今は 9,000 なんぼ出てますからね。 それから特に、あの一、まあ工場が減ったのは確かです。遠くへ工場が移転したり、それから、特にあっちへよく移ってもらいましたからね、あの、梅ヶ香町の、あの一、鉄鋼団地。ええ、鉄鋼団地にこの地域の工場、向こうへ、公害が激しいんでね、移してもらうたからね。まああの一、そういう問題も含めて、あの、減ったのは事実です。	s3: f3 に対する不同意	修復開始(トラブル源の顕現化)	

(再掲) 表 5-3-21 第 1 分節 (B) の発話内容

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
129, 130	宮西	で、もう一つは、例えばこういう絵に、こういう絵を、あの一、イメージしてるのは、街区ごとの純化。その一、これ100メートルの中で、もう工場がほとんどのところはもう工場にしておもう、そこで、そうじゃない、住宅が主なところ、例えばあの一、東尻池の、え一、三、四、五、五丁目、五丁目の、あの一、真ん中のあたり、あのへんはもう、なんかもう住宅が主だと。だから、あすこはもう住宅だけにしておもうというような話が、その、街区ごとの純化。それで今度、地区として、例えばもう、こっから南側は、全部工業にしておもうと。で、こっちに全部住宅集めてしまおうという話が、地区としての考え方。で、もう一つ、今度、その土地利用には、やっぱり道路との絡みがありますんでね。工場に入る、工場として利用するにはやっぱり大きなトラックが入らないと、なかなか使いづらいという話があるんで、その街区としての純化ということになると、もう、こう、真野地区の場合は周辺に太い道路があるんで、もうその太い道路を利用でき、工場、利用したらいいじゃないかと。で、細い道路は中で住宅で利用しようじゃないかという話がこれで、あの一、() が、その、住宅にして、中を、その一、工場で使うという話もあるだろうと。 だからあの一、こういうなんか、いくつか考え方、土地利用の考え方ってのはあると思うんですね。で、こういうことを考えながら、用途地域というものを考えていくことができるだろうと。ただ、その一、こっから、ああ、まあできるとしたら、なんかこれぐらいの話でね、用途地域で対応できるってのは。だからこういう、細かいモザイク状のね、形で、用途地域が設定できるかどうかってのは、これはちょっと疑問あるんですけどね。それ、都市計画、どう判断するのか。	F: 評価		【道路、工場】 毛利は用地 地域 変更は難しくても 住宅と工場を分 けることが必要と 主張している。 具体的提案として 幹線道路沿道 に工場を移転す る案を挙げている。 T会長はそれに 賛成するとともに、 住宅と工場の 分離が自ずから 道路問題の解 消につながると 述べ、課題の優 先順位を確認し ている。
131	T会長	あのね、うちのほうはね、尻池が本部のところですかね、そいでまあ、神戸市がね、とにかく指定してた時には、まあ準工業地帯になって、現実の姿はまあそうやったんですがね、その一、() もらって。で、現在の時点においてはね、もう、大きい工場はのいてしもうて、で、まあ、一、二町工場ありますけどね、ほとんどはもう商業に変化しとる。で、そういう現実のそこは、まあ援助面もあるやろと思うんですがね、そういうところはまあ、用途変更は難しいやと思いますわね。	S: Fに対する 同意 f2: 評価		
135, 136	毛利	それがむつかしいのがね、あれでしょう。あのね、やっぱりあの一、現状の中を生かしてもらう一手があるわけでしょう、ね。それと、将来のね、やっぱりこの一、このような、中に混合したようなね、あの一、まあこう、隣り合わせあるわけね。それを精密にするにはどうするかという問題も出てくるわけですね。やっぱり工場しよったら、あの、大きい車も出入りするんですよ。そうするとね、あんなん、あんた、3メートル半ぐらいな道路持ってきてこんなしよったら危ないしね、工場自体も困るだろうし。せやから、幹線道路、広い周辺にはね、工場を持っていくべしやいう意見、僕ら持とうわけですね。	s2: f2に対す る同意 f3: 評価		
137	毛利	ほいで、その中で僕らの言うのは、それとともにね、鉄鋼団地をね、やっぱりこの一、幹線道路のね、周囲にやっぱ持っていつちやってほしいと。その代わりに、ここはまあ、この場所か知りませんがね、その住宅とやね、やっぱり、その工場とのこの配置、こう、和があるわけですよ。そういうことは地域でまだ話してりやいいわけなんですね。そうすると、あの一、この隣で鉄鋼して工場が2軒ある、こっちは住宅でガーガー言うて、いつもこう、近所同士でやね、にらみ合いますと。そこで、そういうようなことよりむしろ、あの一、僕は住宅は住宅で固めてもらい、そして、この幹線道路にね、やっぱりそういう、あの一、工場を持っていけば、工場自体も品物のトラックの出入りも楽でしょうし。そうすることがね、やっぱりここのまちづくりだろうと僕は考えるわけなんですね。	f3: 提案		
138	T会長	やっぱり、その＝なんでん＝な、住宅問題とか工場問題を解決したら、おのずから道路の問題はね、解決すんじゃないかと思えますわね、その地域のね。	s3: f3に対す る同意		

(再掲) 表 5-3-25 第 3 分節 (A) の発話内容

行番	話者	発話内容	会話分析による F, S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
1-139, 1-140	委員 I	井出さんがね、別に井出さんが出にくかったら、井出さんと()の人を選出したらどないですか？ あの方、こちらにお住まいないでしょ、無理やと思うんですわ、仕事しまつて家に帰ってやからな。帰ってからまた出てくる訳にかへんし、やっぱり地域に工場もって、地域に住んでいる人やったら、夜いうても、ぱっと仕事終わって、出やすいけどな。	F: 提案		【町工場を委員に入れるか】 毛利は民主主義の観点から入れるべきだと執拗に主張している。
1-141	毛利	だけど、工場だとわては知りまへんというのは困るんでね、そう人も問題意識もってもらわないと、・・・中略・・・地域で工場を持って住んどる人、地域に工場置いて帰る人、こういう人らもやっぱりよってもらう方がええとちゃうの。	S: FI に対する h 不同意		委員 I (婦人会) は、町工場は住民ではないので誘うのは無理だと述べている。
1-142	委員 I	それ、できへんで言うとする	f2: S に対する 評価		
1-143	毛利	じゃ、もう一回話し合えばよろしいやないかい。	s2: f2 に対する 不同意		

■表 5-3-30 第 3 分節 (B) の発話内容

行番	話者	発話内容
4	T 会長	そのほかにね一、これは全部そのとおりですけど、各地区ともそうですけどもね、やっぱり各地区とも望んでいることですけど、やっぱり文化情動的なね、施設が、また・・・そういう機能が多いんですけど、特にこの地区にはないということがね
11	毛利	それでね、今、天宅さんの言われたのはね、こういう現状の中で、事当たるべしという場合はこういう施設があると、・・・僕もそういう点では賛成なんです。それからここでね、コミュニティセンター・・・文化センターであり、青少年、青年の家、憩いの場であり、婦人の会合の場でありね、地域の自治会の活動の場であり、それから慰労センター、・・・三等郵便局、そういうのも必要じゃないかと
12	垂水	今、何言われました？ちょっと、書いてきますわ。
13	毛利	え、例えば、コミュニティセンターを・・・総合的なね、天宅さんが言われたような文化施設が、・・・その場所に、あの一、憩いの場所が必要で、そしてまた青年の憩いの場所、婦人の文化的向上の場所、地域の自治会の集合場所、それから三等郵便局、ね、それから医療センター、そやから今度のまちづくりにはね、僕は健康、かね、医療とかいう問題を無視できない()がある・・・
16	垂水	医療・・・？
17	毛利	医療センター・・・医療センターね。

■表 5-3-31 第 3 分節 (C) の発話内容

行番	話者	発話内容
43	毛利	毛利第2回43: 今の皆さんの意見で、公園はもういらんと聞いているわけやね、ね、ということは、今の段階ではいらんだらうと、しかし、今のね、今のはっきりいうて神戸市が出しとるね、一人あたりの平均の公園の面積から言えば、
44	T 会長	この意味はね、おそらく我々住民もそうですけど、大公園はいらんと、しかし小公園まあ、小公園ね、各地域で小さいやつはほしいんですね、大公園はもう・・・
47	毛利	それから、はっきり言うてね、人口から出れば、公園の面積はまた少ないかもしれませんよ。神戸市の()ね、新聞に出てましたけど、何mいるのか、言えばね。要請が出てくるやろ・・・現状ではね、今まで一つもなかった公園がこれだけでけとんやから、まあ満足しとる・・・や、 それから、はっきり言うてね、人口から出れば、公園の面積はまた少ないかもしれませんよ。神戸市の()ね、新聞に出てましたけど、何mいるのか、言えばね。要請が出てくるやろ・・・現状ではね、今まで一つもなかった公園がこれだけでけとんやから、まあ満足しとる・・・や、
49	宮西	将来、将来というかな、・・・2001年にはやっぱり足らんのではないかな、いう・・・そういう意味ですね、毛利さんが言われたの
50	毛利	あ、あの一、・・・、で将来に向けてね、我々はこのプランの中ではね、やっぱりこういう考えもあるわけでしょう、今、ま、一応、あのこの地域が老齢化して来ていると、ほんで、やはり、若いもんが過疎化して来ると、出てましたわね、これは現実でね、そやからこの若い人が市営住宅なんか来て、住環境変える中で、どどめていくのが我々の目的であるからね、そうすれば、子どももようけできるんで、・・・そうする段階では足らんやろと、いう考えがあるわけね、将来に向かったら あ、あの一、・・・、で将来に向けてね、我々はこのプランの中ではね、やっぱりこういう考えもあるわけでしょう、今、ま、一応、あのこの地域が老齢化して来ていると、ほんで、やはり、若いもんが過疎化して来ると、出てましたわね、これは現実でね、そやからこの若い人が市営住宅なんか来て、住環境変える中で、どどめていくのが我々の目的であるからね、そうすれば、子どももようけできるんで、・・・そうする段階では足らんやろと、いう考えがあるわけね、将来に向かったら

(再掲) 表 5-3-26 第 3 分節(D)の発話内容

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がりが
73	毛利	生活道路いうたら人間優先の道路、人間が楽しく、楽しみながら歩けるような道路というのがね、僕は生活道路だと	F: 評価		【道路と工場の問題】 毛利は工場団地のように工場をまとめることが道路問題の解消につながるかと説明している。 若者Aは道路は個別に討議したいと述べている。 毛利の発言の中にゲタバキ式工場団地という将来像が含まれていたため、垂水（事務局）からも指摘され、まずは現状を討議したいと修復が開始された。 毛利はゲタバキ案が地元の工場主から出ており、それが現状であると主張するが、なかなか修復が完了しない。
77 79	酒井	という形が・・・それでまあ、ちょっと停めて買ってくるかと・・・警察貼られたと、それで、客商売で・・・ような意見出されてね。それでやっぱりあの一、まとまっとこへね、こう、・・・一番ええ、ええでしょうね、それで、まだにね、道路なんかも一人一人、地域、いろいろやからね、全部総意かってできへんしね、それで、そういう面も必要やな一、って。意見出されとってね。	s1: Fに対する同意		
80	毛利	そやからね、酒井さん、この前あんたの見てもうたけどね、あの一、まとめの中ではね、いちおう、今のお宅らの零細の鉄工所がね、今の現状のままでは一応営業しにくいんだと、いうことを、出てましたわね。その中で、やはりゲタバキ式なね、やっぱり団地をこの地域でしてもらって、自動車のほう入りやすいようにしてもうて、で、下に鉄工で、上に住宅をもっていく、という方針を出してほしい、いうように僕は捉えているんだよね、ゲタバキね、そやから、将来の、	f2: 提案	トラブル源	
82	垂水	そのへんは十分議論せんとあきまへんな、いろいろね	f3: f2に対する評価	修復開始(トラブル源顕示)	
83	若者A	だからね、今の、道路が狭くてね、()する時に、後ろに道路がつながる、これは問題なんですわ。問題やけど、どう解決するかという話の時にね、道路を広げるほうがええのか、どっかまとまってもらうのがええか、って話が出てくるわけです。今はなんかちょっと、ちょっとなんか、()とこ、でっでっでっでっ出してもうたで。	s2: f2に対する不同意		
84	毛利	・・・今、酒井さんの言うた将来性のこと言うたわけや。・・・ゲタバキ式団地をこしらえてもらって、下に工場はおって、なるべく広い、車の入る道路、駐車禁止にして、あとは、職と住とは接近というのが出るんやからね、今までは事業主が、工場でおいて、帰って、通勤して来おったんやから、それがやね、工場の2階にその経営主もやね、よそから通うのではなく住みたいと、こういう話だと思ったね。	f4: f3,s2に対する評価	修復操作	
92	若者A	工場の先行きが不安いうのは、道路の話もあるし、やっぱり公害の問題もあるし、それからなんかやっぱり事業拡張したいとね、拡張スペースがないとか、そのへんのお話が抜けてるんちゃうかな思いますけど。	f5: f4に対する評価		
95	毛利	・・・隣で旋盤、がりがりやとったらやな、病気で寝とったら、頭の上できいきいいうからやな、うち苦情が来たことがある。そこは位置変えさせたわけ、旋盤の位置。裏側にしなさいって。・・・裏は溝があって道路があるんやからね、多少、空間が。・・・そういう配置の問題もあるやんけど、・・・安心できるようにゲタバキ団地にしてほしい、っていうのが意見やったね、そうでんね酒井さんね。	f6: f5に対する評価	修復操作	
96	若者A	この話やったら、なんやちょっと配置変えるとか、なんや、小手先のことでだめだというお話・・・	s3: f6に対する不同意		
98 102	垂水	先に現状出した方がええね。将来像はもうちょっと議論してそれは、せまい、とか現状を出してもうたらどうかな、最初は	f7: 評価		
103	毛利	いや、現状をね・・・	s4: f7に対する同意	修復操作	

④－２ 成員を孤立させない代弁機能

(i) 「毛利」と「T 会長」の同調と「芦尾」の孤立化

成員間の関係について、本論の対象とした会議録の中では、「T 会長」に対して「芦尾」が、また「芦尾」に対して「毛利」が異議を申し立てた個所がそれぞれある。

まず一つは、第 1 回検討会で代表を選出する際に、(表 5-3-23)「T 会長,147～151」の発言に対して「芦尾,154」と苦言を呈した場面である。これに対して「毛利,155」は、「T 会長」の発言の修復を行い、「芦尾」を諭している。

もう一つは、(表 5-3-24)「毛利,227」を受けて「芦尾,228」と述べた場面である。これに対して「毛利,229」は、「芦尾」に異議を申し立て、「芦尾」も返したが、「委員 S」から訴追されている。

一方、「T 会長」に対して「毛利」はどう振舞ったのかと言えば、(表 5-3-21)「第 4 回懇懇談会/毛利,135,136」、(表 5-3-23)「第 1 回検討会/毛利 155」、(表 5-3-30)「第 2 回運営委員会/毛利 11」、(表 5-3-31)「第 2 回運営委員会/毛利 50」に見られるように「T 会長」と常に同調ないし補完する発言ばかりが見られた。「T 会長」もまた「毛利」の発言に対しては、(表 5-3-21)「第 4 回懇談会/T 会長,138」、(表 5-3-23)「第 1 回検討会/T 会長,147・149」のように同調ないし補完する発言ばかりが見られた。

以上のことから、「毛利」と「T 会長」は互いに同調的態度を示され、それを受け入れていると言えるが、「芦尾」は他の成員から同調的態度を示されていない。ここに「芦尾」の孤立傾向が見られる。

(ii) 「T 会長」による「毛利」の代弁的発話行為（第 2 分節において）

前述のように芦尾会長が(表 5-3-24)「第 1 回検討会/芦尾,228」(あれは絶対活かすしかしょうがないもの…我々に聞くよりか…あんたちよっと描いてみて下さいよ。)と述べた場面では、毛利会長が「毛利,229」(それは間違いや)と芦尾会長に異議を申し立て、芦尾会長も「芦尾,232,239」と返したが、委員 S から「委員 S,240」と訴追され、ここでは「宮西,244・245,247」のように宮西氏が「住民の意向をどこまでくみ取るか」という論点に改めることで「毛利,248」と、訴追的を芦尾会長から自身に変えることに成功している。

しかしながらここでは、その前の「T 会長,237」(芦尾さん…たたきだいは…できとるん…あれを…みんなで検討して…)に注目したい。

「毛利,229」によって最初の「トラブル源の顕現化」が行われたが、それに対して「芦尾」がなかなか修復を操作できないでいる。そこで、「芦尾」に修復の操作を促すために 2 回目の「トラブル源の顕現化」として「T 会長,237」が発話されたのではないかと考える。

「T 会長,237」は「毛利,229」(それは間違いや…)の代弁をしている形となっている。「たたきだいは…できとるん」と言い換えることによって、争点(トラブル源)は、「芦尾,228」の「我々に聞くよりか…あんたちよっと描いてみて下さいよ。」部分にあることを明示しようとしている。

同時に、「芦尾,236」の代弁機能も果たそうとしている。すなわち、「我々に聞くよりか…」と言った趣旨は「検討会で討議しなくて良いという意味ではなく、完成版に近い案を再度描いてほしいという意味」であったと¹⁷。そして、「検討会で討議すべきタタキ台としてはくもうできているのではないかと、真意を確かめているように感じられる。ここにおいて「T 会長」は、「芦尾」

¹⁷ これに対して「芦尾,239」(私も…宮西さんので決めるって言ってませんで…)と発話していることから。

を孤立させないように代弁的発話行為を行いながら自己修復（訂正）の操作を促したと解釈することができる。

(iii) 「宮西」による「芦尾」の代弁的発話行為（第2分節において）

まず第1回検討会での（表5-3-24）「第1回検討会/宮西, 244・245」の発言とその一連の会話群について着目したい。これには「1 検/毛利, 248」の異議申し立てが続くが、それに対して宮西氏は（表5-3-24）「第1回検討会/宮西, 250」と「宮西, 245」の真意を伝えようとしている。ここにおいて宮西氏は自治会の形式的な情報伝達だけでは住民には十分に浸透しないのであって、彼が各地区を回って説明しなくてはならないのではないかと委員らに問いかけたのである。これに対しては（表5-3-24）「第1回検討会/毛利, 253」のように運営委員が地元に戻って説明すべきという発言が続く、と同時にT会長から（表5-3-24）「第1回検討会/T会長, 255」と、地域集会のような討議の場を設ける必要があるといった自覚的な提案があった。

1979年2月の第2回検討会は、将来の方向について検討した会議であり、その後は同年5月の第4回検討会で計画テーマが決定し、同年12月の第8回検討会で「まちづくり構想のタタキ台」が検討され、やがて翌年5月の第9回検討会で地元住民に大筋で理解されたとされている（宮西2005:79-82）。第4回検討会から第9回検討会までには「まちづくり学習講座」^{注18}、「まちづくり小集会」^{注19}といった公開での地域集会が開催されており、これらを経て「将来の方向」は、「計画テーマ」そして「まちづくり構想」となって地元住民に大筋で理解されることになったと考えられる。このような地元住民の認容のためのロードマップは、基本的に第1回検討会のこの討議によって形成されたと解釈できる。

すなわち、真野まちづくり検討会は、地元の自治会の代表者を役員に取り込み、毎検討会ごとにニュースレターを配布し、自治会の役員会や定期総会でも討議していたが、自治会の代表たちが討議した内容を必ずしも住民が知るわけではない。「まちづくり学習講座」や「まちづくり小集会」のような公開の討議の場を設けたこと、とくに、3人の自治会長が主体的に開いた「まちづくり小集会」を執拗に何度も設けたことが実質的な住民周知に繋がったと考えられる。その意味で「宮西, 244・255」と「毛利, 253」と「T会長, 255」は「言説」としての機能を担っていると言える。

(iv) 「毛利」による欠席者の代弁的発話行為（第3分節において）

第1回運営委員会で、（住民ではない工場主の）「井出さん」を委員に入れるかどうかという争点で、「委員 I」と「毛利」が対立する。「毛利」は「井出さん」が住民でないからこそ関心を持ってもらう必要があり、そのため委員に入れなくてはならないと主張している。（表5-3-25 参照）

真野地区には、地区外に住んでいて工場だけを地区内に持つ零細工場主が多数おり、皮革や染色や鉄工関係の大工場の下請けをしていた。元々の住民ではないために自治会に入っていないケースも多く、普段の付き合いがないため、コミュニティから疎外される傾向が少なくなかった。そのような背景の中で、「毛利」は徹底した地域民主主義の理念あるいは将来の若い人を呼び戻すまちづくりの理念から、こうした工場主たちを孤立化させてはならないと考えていたことが、（表5-3-25）「毛利, 1-143」から窺い知ることができると同時に、この発話はそのような疎外されていた人々の代弁機能を果たしたと解釈できる。

¹⁸ 行政職員や学識委員も交えた公開討論会

¹⁹ 自治会が主催した小会議

(再掲) 表 5-3-24 第2分節(D)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
226	浅井	一つだけちょっと提案、やはりね、なるだけこう地元の方々に知って頂くと、第1回()ね、こういう検討会やっていうことで、まあ我々よく、まあ…ミニニュースみたいな、ニュース版ですね、そういうのを作って()ね()で、今回もですね、やったんだというものを知らせるという、そういうミニニュースみたいなものをつくる、それを検討会議が発行すると、というようなことがやっぱり()ではないかと…	F: 提案		<p>【運営委員会でのタキ台の扱い】</p> <p>芦尾はタキ台を宮西に一任するような発言をしたために、毛利、T会長、委員Sから非難を受けている。</p> <p>芦尾は何度も修復を試みるが、なかなか完了させてもらえない。</p> <p>そこで宮西が、トラブル源を改めて提示し、自らが非難的となる。</p> <p>今度は宮西が修復を試み、最後には完了する。</p> <p>同時にこの過程で争点が明確になり、新たな行動提案が毛利やT会長から出されている。</p>
227	毛利	ただ…今後の運営どないしまんねいうても出てこんで…中略…一つの今までの資料があるんで、そういう問題を運営委員会でみんなに渡るようにしてもらわなないけまへんで、それを見ながらどうするか検討すると、…中略…やっぱそのなかで運営委員会の意見も出てくるんですよ。	S: Fに対する同意 f2: 提案		
228	芦尾	しかしね、宮西さんの前に()していただいたやつね、あれあんたも細かい、よう調べて、あれは絶対活かすかししょうないもの…あれを()ずしてね、そもそも我々に聞くよりか、あんたが、こうしたら一番早う真野地区はようなるわいというやつをあんたちちょっと描いてみて下さいよ。	s2: f2に対する同意 f3: 依頼	トラブル源	
229	毛利	あのね、それは間違いや、あのね、実はアレは宮西さん1人に任せたっていうのもあるんでね	s3: f3に対する不同意 f4: 評価	修復開始(トラブル源顕示)	
230	芦尾	いやいやいや…	s4: f4に対する不同意		
231	毛利	…検討運営委員会ができたんやから、運営委員会の中でしてもうて、運営委員会の中でええか悪いか、よければそれでいいんですよ、異議無しで、そういうやっぱり検討をね、時間を…	f5: 提案		
232	芦尾	…考えてること同じ…基本的に…もんで…実は早い…	s5: f5に対する同意	修復の操作	
233	毛利	やっぱり地域に…言わんともっとわかりませんのでね…	f6: 評価		
236	芦尾	そういうものはね、やはり部分的にね、部分的に起こってくることで、やはりアウトラインが、こうってやつがね、青焼きが、それはやっぱし一発ないと	s5: f6に対する不同意	修復の操作 トラブル源	
237	T会長	芦尾さん、宮西さんのアウトラインはね、たたきだいは、あんたも見とったやろうけど、できとるん。あれを、あれを…やってもらって、…みんなで検討して、…	f7: 提案	修復開始(トラブル源顕示)	
238	委員S	そう…、宮西先生がこしらえられたもの、がいいか、いいからと、…だったらそれはもう委員会は…まあでも、先生がこしらえたのはね、あれは一その、検討会議の資料であって、…	s6: f7に対する同意 f8: 評価		
239	芦尾	…私も…宮西さんので決めるって言ってませんで…	s7: f8に対する同意	修復の操作	
240	委員S	いや、代表のね、代表の()でしたらね、…それでやったらええっていうような、聞こえましたもん	f8: s7に対する評価		
241	芦尾	いやいや、そんなことないよ	s8: f8に対する不同意		
242	委員S	それは言葉の問題かも分かりませんけども、私もそういうふうに聞こえたからね、あつ、代表は…	f9: s8に対する評価		
243	芦尾	いやいや…	s9: f9に対する不同意		
244 245	宮西	ようは、この一、なんかたたき台がないとね、やっぱりこー、よく分からないと。今なんの議論しているのかという、全体の中でまちづくりたって、いろんな話があるわけで、今話しているのはどこの、まちづくりのどこの話をしているんだと、例えばじゃあ住宅の話をしようかと、いったら、住宅の話、どういう住宅の話をしようかと、いうたたき台がないと、やっぱりできないわけで、ただそのたたき台は、いちおうなんか、まちづくりってのは、真野地区のまちづくりってのはこんなもんやないかと、いちおう描いたと、で、その中で今日はこの部分の話をしようかと、いうことで、いちおうたたき台は僕はできとると思っているわけですね。それから、そういう形でぶつけていって、それで、いろいろこう揉んで、それでその場のなんかこう、一つの成案というか、それを作っていくと、でそれをそこでどういう議論してきたか、いうのを今度は総会にかけて、それでいいかどうか、いうやつを決めていくと、でそれを今度はみんなに分かるように文章化していくなり、みんなに知らせていくと、いうことがやっぱり、全体の流れだろうと思うわけです。で、その中で一つ気になっているのが、()で出た話なんですけど、あの一、住民の意向をどこまでくみ取るのか、	f10: s9に対する評価 s10: f3に対する同意		

④－３ 専門家の役割としての介入

以上整理してきたように、３人の自治会長は各々積極的に討議に参加していたが、「毛利」と「Ｔ会長」に同調傾向が見られる一方、「芦尾」に対しては見られなかった。

このような状況の中で、「芦尾」が「委員Ｓ」から訴追された場面（表 5-3-24,行番 242 参照）で、「宮西」が（同表,244・245）「住民の意向をどこまでくみ取るか」という論点に改めることで「毛利」を相手に討議を交わすことになり、訴追の的を芦尾会長から自身に変えただけでなく争点の深化に成功している。そしてその後、前述したように毛利会長やＴ会長から自覚的な発言が続いている。この「宮西,244・245」に見られる専門家としての介入は大きな一つの転機となっていたことが分かったと同時にその後の成員の連帯に向けての意識の変化に大きく効果的に働いたと言える。

④－４ 争点を顕現化するための対立構造

「毛利」の統合的な理念の下に各会議の繋がりを考えながらテーマを有機的にリードしていくような「卓越したリーダーの存在」（広原 2002:56）については既往研究でも触れられているが、背後には分裂した３つの自治会の勢力図があり、それを毛利会長一人が連帯に繋げて行ったわけではない。会話からは、３人の自治会長もそれ以外の委員も対立を恐れず異議申し立てを行い、誰かが修復を試み、それらを通してかえって論点の意味が深まって行くという対話パターンを見ることができた。

これは「毛利」の討議スタイルでもあったが、これを否定することなくむしろ借用・増幅して、意味の深化と共有化を図ろうとする「宮西」の進行技能を見ることができた。こうした討議のあり方は（会議を一つのコミュニティの縮図と考えた時の）住民と自治会との巧妙な連帯を生み出したミクロレベルでの一側面であると言え、「対立を対立のまま終わらせることなく、ときほぐす人の絡み合があり、なごみ、さらなる対立をつくりだす。これが真野地区のまちづくりの原動力」（宮西 2005:79-93）が、本研究で客観的に明らかにされたと考える。

第4節 小括

第1節で述べたように、真野まちづくり検討会（及びその前段の懇談会）は、まちづくりの住民運動が相互になかなか連帯できないでいる桐生市と比較するため、また30年以上という長い期間を通して継続して会が存続している点が、2年間の期間限定で行われた小布施町図書館建設運営委員会とはどのような類似点ないし相違点が観察できるのかを確認すべく研究対象として選んだ。

そして第2節で述べたように、真野小学校周辺は3つの自治会の塊が飛び地に入り混じった状況が20年余り続いていて連合自治会の統一ができない中で、各自治会長が「懇談会や検討会という一つの討議の場で共通の問題に協力・競争して取り組んだ過程が以降の住民主体のまちづくりに繋がった」（倉田 1982:22）、また「計画づくりに対する共通認識と自信が生まれた」（延藤・宮西 1981:169）と分析されてきたなかで、具体的にどのような討議プロセスがあり、3人の自治会長がどのように意識を変化させていったのかを明らかにすべく第3節で当該技法の適用を行うこととした。

第3節ではまず、当該技法（第2章の手順）に従って、会議録コーパスの作成、時期の分節化、指標発話（候補）の抽出と選定、指標発話連鎖会話群の抽出を行った。

後半では、当該技法の適用の結果分かったこと、すなわちリーダーシップ構造、コミュニケーション構造、会話・談話分析から解釈できることを整理した。

すなわちまず、リーダーシップ（芦尾）が多くの反対意見を受けたことが契機となって次のリーダーシップ（毛利）に交替し、そして「毛利」の積極的な目標表現に対して事務局との温度差が露呈され始めたことを契機に、次のリーダーシップ（コンサルタント：宮西）にリーダーシップが交替した過程を明らかにした。

なお意見対立の解消過程については、まず全体を通して、対立を恐れず忌憚なく異議申し立て（トラブル源の顕現化）を行い、誰かが修復を試み、それらを通してかえって論点の意味が深まって行くという対話パターンがあることを把握した。

具体的には、前半の代表の決め方をめぐる争点については、「T会長」が（その前の事務局の言い方が悪かった、と）トラブル源を顕現化し、「毛利」が（代表が2名でも良いではないか、と）対立の当事者（T会長、事務局）の「代弁的発話行為」を行うことで修復が成立したことを明らかにした。

また、「まちづくりのタタキ台」の使い道をめぐる争点については、「毛利」が（それは間違いや、と）トラブル源を顕現化し、「宮西」が対立の当事者（芦尾）を孤立させないために、争点を自分の言葉（住民の意向をどこまでくみ取るか）に言い換えるという代弁機能を果たすことで修復を成立させたことが分かった。

また、目標の共有過程については、まず第2回検討会の前までは、住民側のリーダーシップ「毛利」が統合的なまちづくり理念の下に、テーマ別に諷示していくような目標表現を行っていたことが分かった。そして後半の「毛利」の「ゲタバキ団地」案については、事務局（垂水）が（先に現状出した方がええね、と）抑制的介入を行ったことを明らかにした。

しかし第2回検討会では、学識委員が提示した「地元優先型市営住宅」に対して「宮西」が代弁的発話行為を行うことで、会全体の共有目標に押し上げたことを明らかにした。

なお、前述のように専門家「宮西」が果たした役割については、孤立しがちな「芦尾」に向けられた批判を自分に向けて新たなトラブル源を創出することで、トラブル源を（より深化したものに）書き換える機能を果たしたことが分かった。

このように「トラブル源の顕現化」によって争点が顕現化されるとともに、対立の当事者を「孤立させない」よう誰かが「代弁的発話行為」を行い、対立がほぐれていく、こうした討議のあり方は（会議を一つのコミュニティの縮図と考えた時の）住民と自治会との巧妙な連帯を生み出したミクロレベルでの一側面であると言え、「対立を対立のまま終わらせることなく、ときほぐす人の絡み合があり、なごみ、さらなる対立をつくりだす。これが真野地区のまちづくりの原動力」（宮西 2005:79-93）と言われるような討議デザインを、実際に可視化することできた。

これは桐生事例や小布施事例では見られなかった特徴であり、真野事例の特徴を説明するものとして洞察可能な結果となった。

そして、これらの知見は、どこで誰が重要な発話^{注20}を行ったのかというデータがなければ分かりえなかったものである。

当該技法ではそのデータに該当するのが「指標発話連鎖会話群」であり、さらに 2 次加工した「コミュニケーション構造図」や「会話分析シート」である。それら（とくにビジュアライズした構造図・シート）があることによって、現象が（分析者のみならず他者にも）共有化され、他者に対して説明可能なものとなった。そしてそのように膨大な会話データを発話の順番や言説の位置を崩さずに縮約ならしめたのは当該技法の適切な縮約技法にあった。

＜第 5 章の参考文献＞

- ・倉田和四生,1982「町づくり運動のダイナミックプロセス」『関西学院大学社会学部紀要』,45,p-7-25
- ・今野裕昭,2001『インナーシティのコミュニティ形成－神戸市真野住民のまちづくり』,東信堂
- ・広原盛明,白石克孝,富野暉一郎,2002『現代のまちづくりと地域社会の変革』,学芸出版社
- ・牧里毎治著,高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編,1981,「公害反対運動から町づくりへ－神戸市真野(荻藻)地区の場合－」『ソーシャル・ワークを考える』,川島書店
- ・宮西悠司ほか,2005『日本最長・真野まちづくり』,真野地区まちづくり推進会
- ・吉岡健次,崎山耕作編,延藤安弘,宮西悠司,1981「内発的まちづくりによる地区再生過程」『大都市の衰退と再生』,東京大学出版会

²⁰ 例えば、反対意見のまとめ上げ、対立意見の了解に重要な役割を果たした言説など。

第6章 各地区事例の比較を通じて

第1節 小集団分析の評価（各分析から得られた知見）

本節では、リーダーシップ構造分析とコミュニケーション構造分析から3事例に共通して得られた知見を整理するとともに、それをふまえて意見対立の解消過程と目標の共有過程について会話分析から得られた知見を整理する。

第1項 リーダーシップ構造分析から得られた知見

3事例のいずれも発話割合の1位の（討議をリードした）人物が後段で交替していると同時に、その前の上位者と相互に「代弁的発話行為」^{注1}を通じて深く関連していることが分かった。同時にそのことで、「行動目標を差配する人物」と、その「目標を実行に移す人物」との立場の逆転が生じていることが注目に値する。

①桐生事例

後段「Ka」の革新的な目標表現に対して代弁機能を果たした「住職」は、前半における発話割合2位者である。すなわち前任のリーダーシップが後任のリーダーシップを援護する構造が見られた。

前半のリーダーシップを果たした住職が、「Ka」の代弁機能を果たすことで、「Ka」がその他の成員から了解を得られることを期待した行為だと解釈できる。

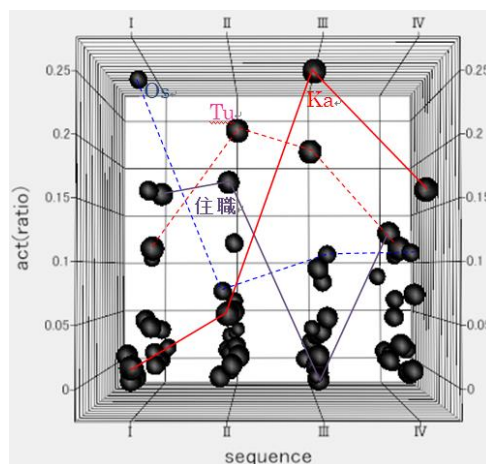
「Ka」は寺所有の資産を管理する経営者であり、「まちなかシルバー支援住宅部会」及びその後の「古民家再生部会」の部会長であることから住職の使命を実現化する立場にあった。

後段の両者の立場は逆転しており「Ka」の目標表現の差配の下で「住職」も成員の一員として実行する立場^{注2}に変化している。

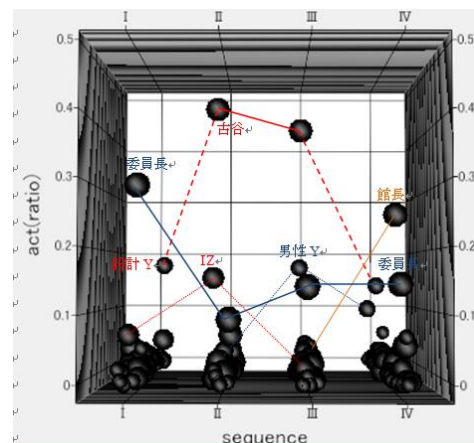
②小布施事例

前半、「古谷」の代弁機能を果たした「館長」は後段（終結期）における発話割合1位者となった。すなわち、前任のリーダーシップを援護した成員が後任のリーダーシップとなる構造が見られた。

前半のリーダーシップを担った古谷の代弁機能を果たした館長であるがゆえに、（その功績から）後段のリーダーシップ役を果たすことが回りの成員から了解された^{注3}とも、あるいは館長が初めから、最後は自分がリーダーシップを担わされることが分かっていたので前半は古谷の代弁機能を果た



■図 6-1-1 桐生のリーダーシップ構造図



■図 6-1-2 小布施のリーダーシップ構造図

¹ 「代弁機能」ないし「代弁的発話行為」については発達心理学の中で岡本,2014、中川,2012などの論文があるが、いずれも乳幼児に対するものである。本論では「何らかの理由で理解してもらいたい（あげたい）他者のために、その他者の立場に立って説明・補足する、あるいは言い換え・翻訳する行為」と定義することにした。

² 例えば「Ka,197：店子を育てたら店子に借りてもらうみたい。…会では取り組みやすいのかなと。」という目標表現に対して、「住,198：家賃がどうだって、そういう話になってくけども…できるんじゃないかなって気がします」と実践に協力する立場を表明している。

³ 古谷から期待されていたことは言うまでもない。（第2分節「古谷,119：花井さんがここにいてくれば、」とある。）

したとも解釈できる。

「館長」はもともと竣工後の新図書館の責任者となる立場にあったことから、その諸機能を設計する「古谷」の下で実際にその諸機能を動かし実践する立場にあった。

後段の両者の立場は逆転しており「館長」の目標表現の差配の下で「古谷」（をはじめとする設計者側）も成員の一員としてその実現化に協力する立場^{注4}に変化している。

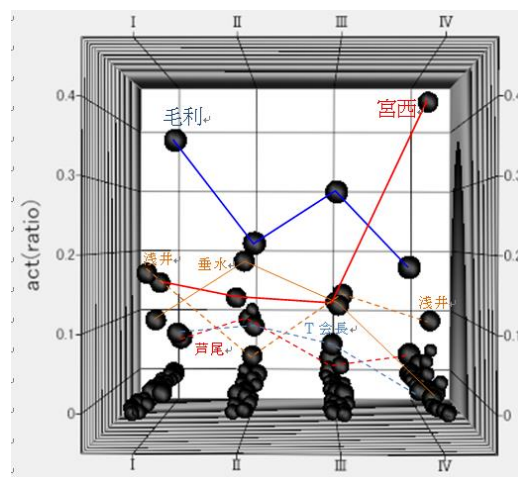
③真野事例

前半、「芦尾」の代弁機能を果たした「宮西」は後半における発話割合1位者となった。すなわち、小布施事例と同様に前任のリーダーシップを援護した成員が後任のリーダーシップとなる構造が見られた。

前半は「芦尾」と対極にあるリーダー「毛利」が他を圧倒してリーダーシップを担っていた。「毛利」は前半で事務局や「宮西」や「芦尾」と同調しながら進行していくことができる自信を得たため^{注5}、終盤は事務局や「宮西」にリーダーシップを委ねたと解釈できる。

「芦尾」もまた自身の代弁機能を担ってくれた事務局や「宮西」であるがゆえに、（その功績から）後段のリーダーシップ役を担うことを委ねたと解釈できる。

「宮西」はもともと「芦尾」や「毛利」の目標表現の差配の下で、その実現化を担うコンサルタントの立場にあったが、後段の両者の立場は逆転しており「宮西」の目標表現の差配の下で「芦尾」も「毛利」も成員の一員として実現を遂行する立場^{注6}に変化している。



■ 図 6-1-3 真野のリーダーシップ構造図

桐生事例の場合は、生業としてあるいは部会長として「Ka」は以前から住職の使命を実現化する行為を日常的に行っていた。小布施事例の場合は、委員会の討議の中で「館長」は「古谷」の構想を周知し理解させる発話行為を行っていた。真野事例の場合はコンサルタントとして「宮西」は「芦尾」や「毛利」の思いを実現化する業務を担っていたと同時に討議の中でも「芦尾」を孤立させないよう援護する発話行為を行っていた。

いずれも状況は異なるが、何らかの形で行動目標を差配する人物の下でその実現化に携わった人物が、やがて行動目標を差配する人物へ代わって行く現象が見られた。おそらく或る人物の下で実現化に携わる過程で、両者の間に特別な人格的な信頼感情を伴った「同類意識」^{注7}が生じることが原因となっているであろうことは既往研究でも指摘した^{注8}事実であるが、その「同類意識」が討議の中で「代弁機能」として現れることを本研究は示唆することができた。

4 この時期まだ未計画だった警備システムや植栽計画への協力、あるいは図書館が主催するイベントへの協力など。

5 本論がこれを確信したのは第2回検討会であるが、延藤も「懇談会に3人が参加することで計画づくりに対する共通認識と自信が生まれた」と述べている。（延藤・宮西 1981.p-169）

6 例えば検討会・運営委員会で討議された内容を地元町内会や地権者たちに説明する地域集会を何度も開くことが任務となった。

7 ここでは「社会的紐帯」（ギッディングス、内山訳、1929、『社会学原理』）の意味で用いる。

8 島田、小泉(2007)。「まちづくり運動の連帯における共同態の発見とその応用可能性」p-322

第2項 コミュニケーション構造分析から得られた知見

①特徴的な構造の発見

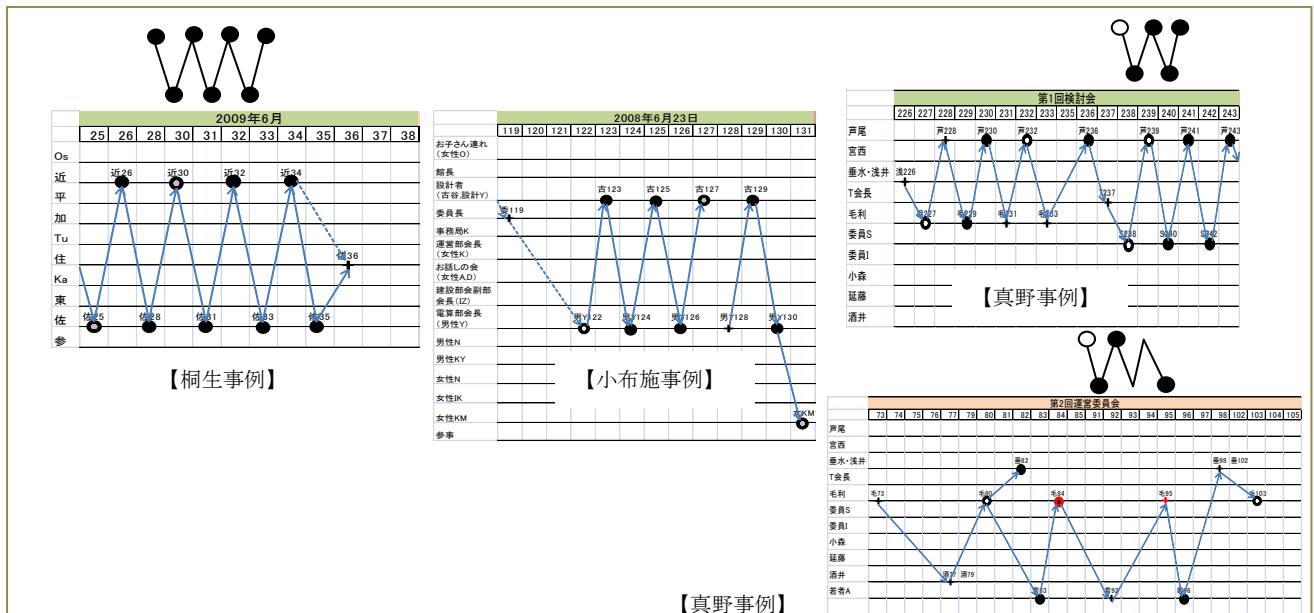
各事例とも、コミュニケーション構造図から意見対立や目標の共有化を示す特徴的な構造をいくつか発見した。以下、「特徴的な構造」を4つのタイプ（A型、B型、C型、D型）に類型化して紹介する。

これらはその対話の性質を視覚的に直感することができる。コミュニケーション構造図から会話分析個所を選定する際の一つの手掛かりとなると言える。

（ア）A型：激しい対立構造

A-1型：振れ幅の大きい対立構造

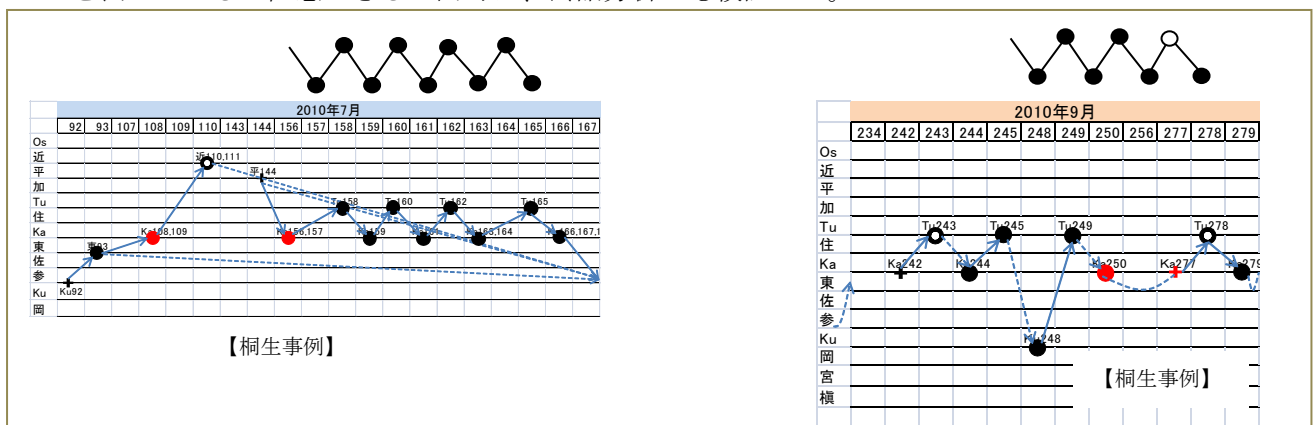
いずれも所属（サブ組織）の近い者をまとめて置くように図示しているので、振れ幅が大きいほど所属の関係距離が大きいことを示しており、反対（黒丸）が続くことで激しい対立を表していると直感できると同時に、会話分析でも検証した。



■図 6-1-4 コミュニケーション構造図に見られる A-1 型構造

A-2型：振れが長く続く対立構造

振れ幅は小さい（したがって所属の近い者同士が）が、反対（黒丸）が長く続くことで堅固な対立を表していると直感できると同時に、会話分析でも検証した。

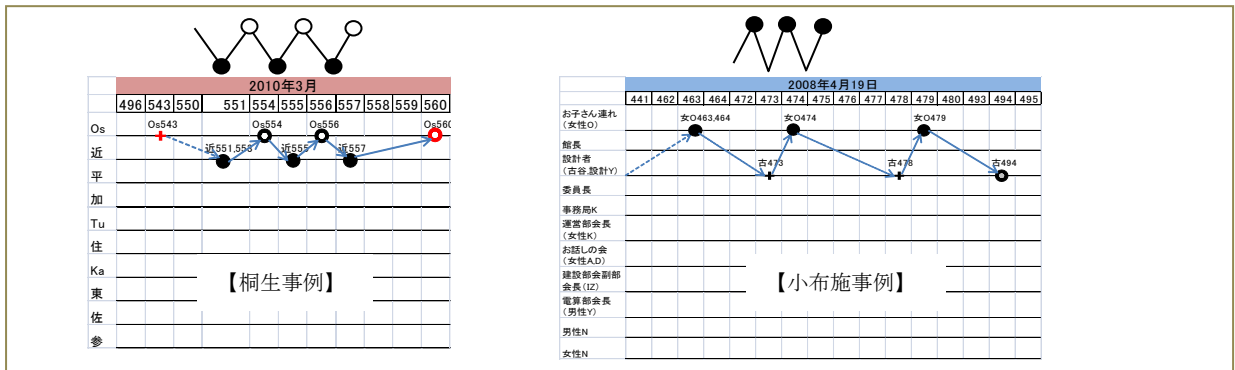


■図 6-1-5 コミュニケーション構造図に見られる A-2 型構造

(イ) B 型：弱い対立構造

B-1 型：振れ幅の小さい対立構造

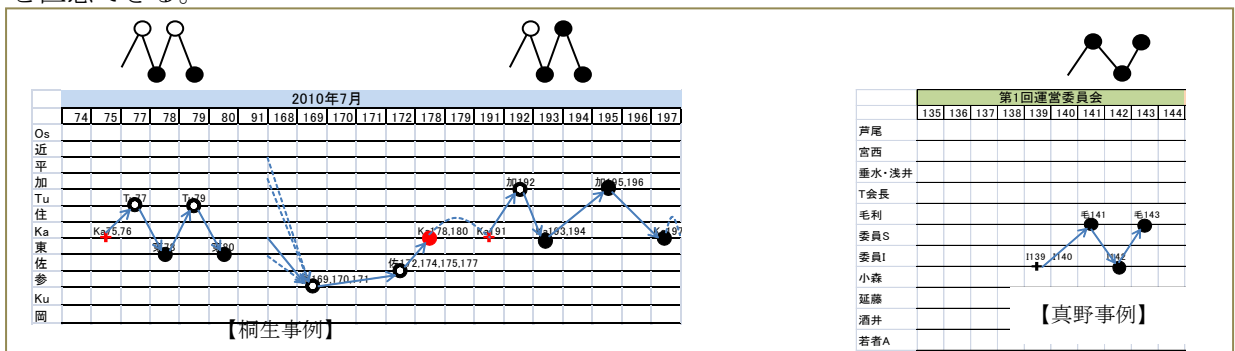
振れ幅が小さいので所属の異なる距離が小さいことから、反対（黒丸）が続くことで弱い対立を表していると直感できる。



■ 図 6-1-6 コミュニケーション構造図に見られる B-1 型構造

B-2 型：短い対立構造

最後は反対（黒丸）で終わっている短い対話は、弱い対立だが了解しないまま終わっていることを直感できる。



■ 図 6-1-7 コミュニケーション構造図に見られる B-2 型構造

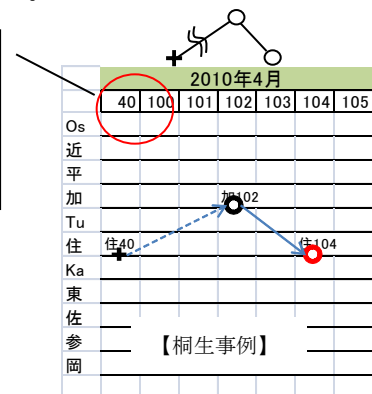
(ウ) C 型：意見をまとめる構造

C-1 型：立て直し

長い対話を跳躍して、かつて他者が発話した内容を再度提示するとそれを受けて他者が話の続きを始めるような「立て直し」も以下のように視覚的に直感できる。

また、かつて何らかの反対をした成員や、逆に反対の意思表示をされた成員の発話を再び言い換えたり補完することで「立て直し」を図る行為も見られた。本論ではそれを「代弁的発話行為」と呼んだ。これについての詳細は後述することにして、このうち視覚的に直感しやすい構造を次に示す。

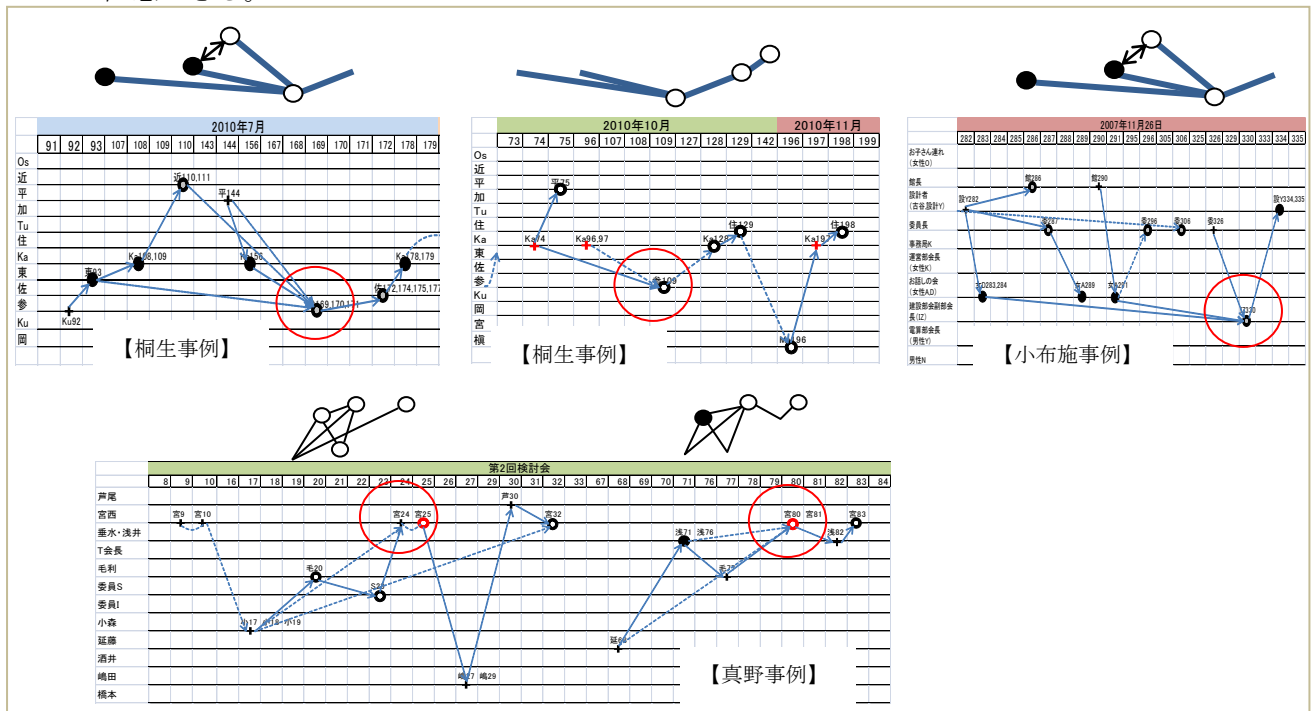
この間が相当数跳んでいることから、或る意見が討議の途中で横道にそれ、賛成・反対のないやりとりがあったことが分かる。



■ 図 6-1-8 コミュニケーション構造図に見られる C-1 型構造

C-2 型：とりまとめ（鳥足型）

複数の矢印が 1 点に集まっていることで、複数の意見を集約して次の発話者に発話していることが直感できる。

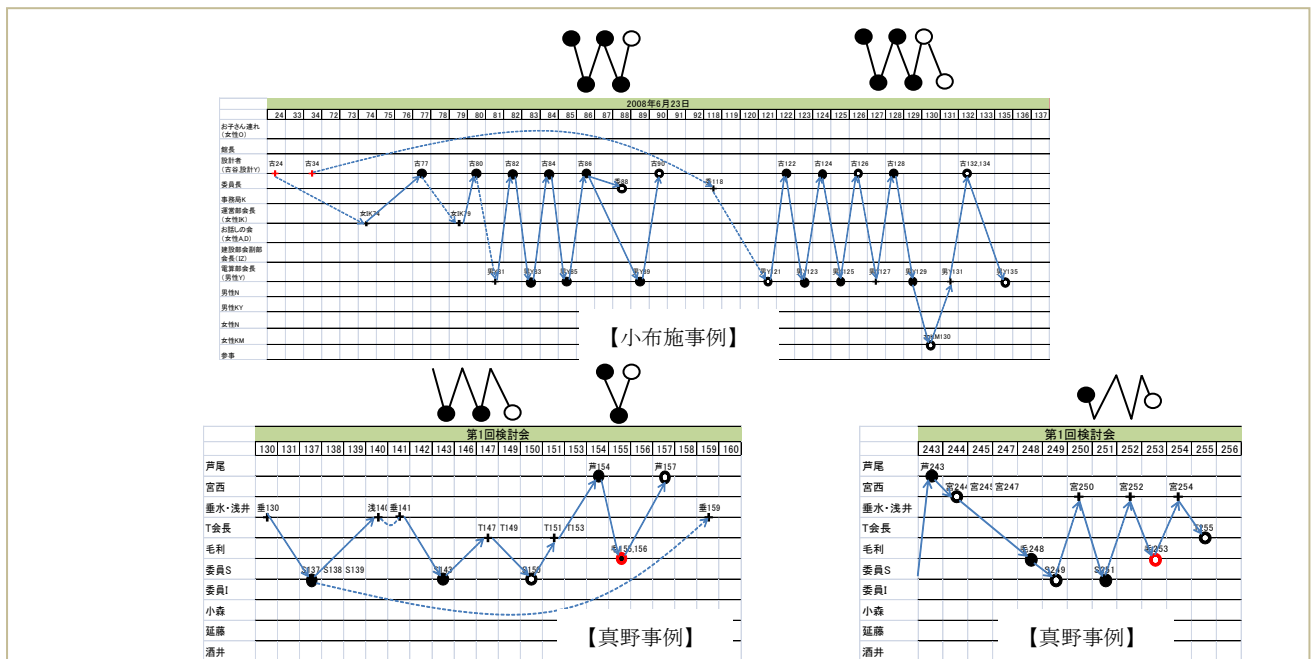


■ 図 6-1-9 コミュニケーション構造図に見られる C-2 型構造

(エ) D 型：了解に至る構造

D-1 型：討議の結果了解に至る構造

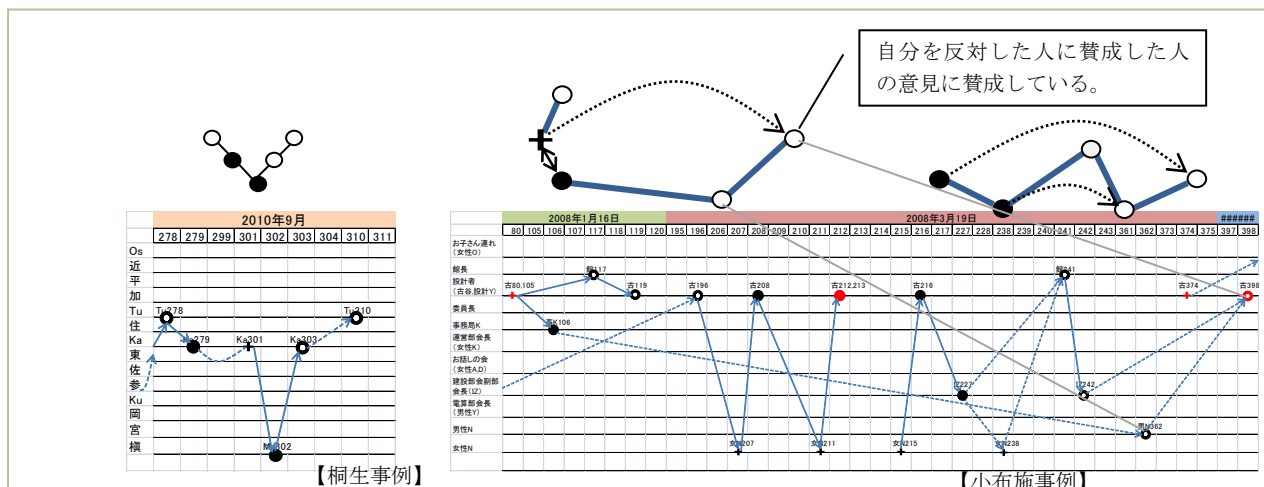
賛成、反対のやりとりが続く中で反対を示していた話者が賛成に転じた個所であり、討議の結果了解に至った過程であると直感できる。



■ 図 6-1-10 コミュニケーション構造図に見られる D-1 型構造

D-2 型：「反対意見の転向」に至る構造

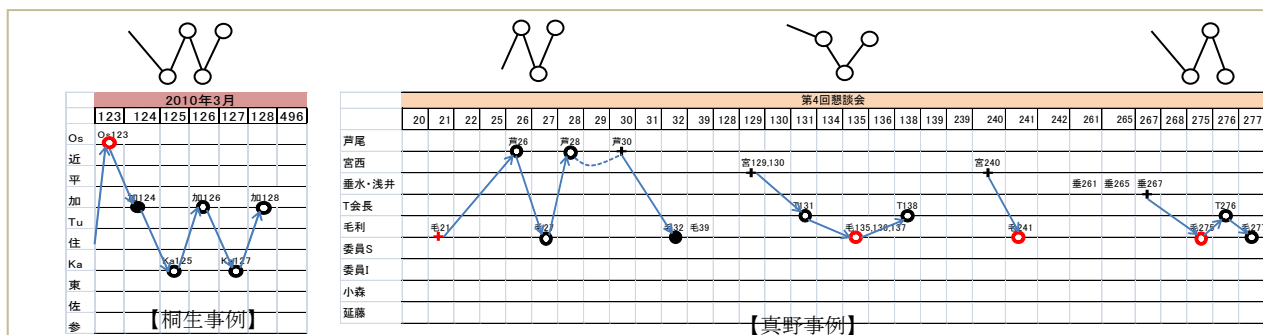
上と同様に、反対を示していた話者が賛成に転じた個所である^{注9}が、討議の過程を踏まず、誰かの発話を契機にしながらも突如現れる現象である。



■図 6-1-11 コミュニケーション構造図に見られる D-2 型構造

D-3 型：同調構造

誰かに了解を求めて相手もそれに応じる場合と、前の発話者に対してその期待される発話を自分から積極的に行う場合がある。また受動的な同調と内面的同調^{注10}がある。いずれに該当するかは会話分析を行わないと分からないが、コミュニケーション構造図の段階では、賛成（白丸）が続いていることで何らかの「同調」を表していることが直感できる。



■図 6-1-12 コミュニケーション構造図に見られる D-3 型構造

⁹ 単なる「言葉探し」（で言葉が見つかった）のレベルから論点の真相の発見を意味するものまで様々だが、ここでは一様に「反対意見の転向」という用語で整理する。なお本論文では「気づき」や「設計変更」や「主張の転向」等でも表現している。

¹⁰ 或る成員の言動をグループや他の成員が期待する方向に変化させることを「同調」という。意思に反して同調する場合や、いわゆる「バンドワゴン」効果のように無意識に同調してしまう場合を「受動的な同調」といい、了解したうえで積極的に同調する場合を「内面的同調」と呼ぶことがある。

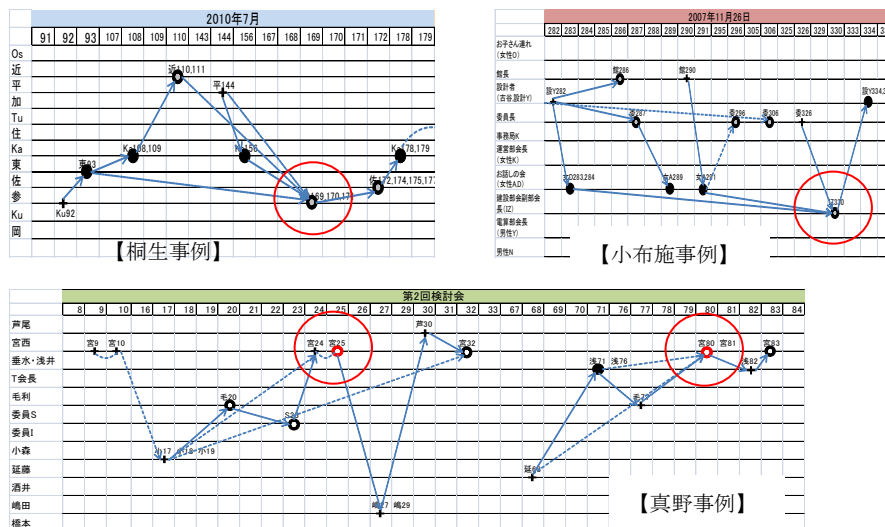
②注目すべき発話行為が現れる箇所

②-1 「代弁的発話行為」が現れる構造

本論では、相手に理解してもらうために他者の説明を補足したり追加する、あるいは言い換えたり翻訳したりする行為を「代弁的発話行為」と呼び、以下の構造に現れることが分かった。

(ア) C-2 型（鳥足型）

まず C-2 型（鳥足型）によく見られる。複数の意見を取りまとめていることから「代弁的発話行為」である可能性が高い。



③各小集団の構造的特徴

小布施事例においては早い段階で対立構造が生じ、とりまとめ構造も見られ、中期には対立解消に至っている。桐生事例においても初期から強い対立構造が見られるが、対立が解消するのは晩期である。真野事例においては同調構造から始まり、中期に対立構造から了解構造へ、晩期にはとりまとめ構造へと推移している。

(ア) 初期

桐生事例と小布施事例では初期は強い対立(A-1型)構造から始まっているが、真野事例は同調(D-3型)構造の連続から始まっている。また桐生事例では対立したまま終わっているが小布施事例では解消して終わっている。

ただし小布施事例においてもとりまとめ(C-2型)構造においてはまだ了解に至っていない。

(イ) 中期

桐生事例においては、対立(A-1型)構造がとりまとめ(C-2型)構造へとつながるものの反対のままで終わっている。一方、小布施事例と真野事例では了解(D-1型)構造に至っている。また小布施事例では反対意見の転向(D-2型)構造も見られる。

(ウ) 晩期

桐生事例において、対立の解消(D-2型)構造や、とりまとめ(C-2型)構造が賛成の連鎖で終わっている。真野事例でもとりまとめ(C-2型)構造が連続的に続く。

小布施事例においては、構造的な特徴は見られない。(中期までに了解構造を終えていると言える。)

■表 6-1-1 桐生事例に見られる構造の分布

構造タイプ	初期	中期	晩期
A-1型 振れ幅の大きい対立	第1分節 対立したままで終わっている。		
A-2型 振れが長く続く対立		第3分節 とりまとめへとつながっている。	
B-1型 振れ幅が小さい対立	第1分節 対立は解消して終わっている。		
B-2型 短く終わる対立		第3分節 対立したまま終わっている。	
C-1型 立て直し		第2分節 連鎖は続かないで終わっている。	
C-2型 とりまとめ		第3分節 反対のままで終わっている。	第4分節 賛成が連鎖して終わっている。
D-1型 討議の結果了解に至る			
D-2型 反対意見の転向			第4分節 長く続いていた対立が解消。
D-3型 同調	第1分節 2者間のままで連鎖はない。	第3分節 2者間のままで連鎖はない。	

■表 6-1-2 小布施事例に見られる構造の分布

構造タイプ	初期	中期	晩期
A-1 型 振れ幅の大きい対立	第 1 分節 対立は解消して終わっている。	第 3 分節 了解構造へとつながっている。	
A-2 型 振れが長く続く対立			
B-1 型 振れ幅が小さい対立			
B-2 型 短く終わる対立			
C-1 型 立て直し			
C-2 型 とりまとめ	第 1 分節 対立意見をとりまとめるも了解には至っていない。		
D-1 型 討議の結果了解に至る		第 3 分節 2つの了解構造が連続する。	
D-2 型 反対意見の転向		第 2 分節 対立の原因となっていた主張が転向する。	
D-3 型 同調	第 1 分節 「とりまとめ」構造に包含	第 2 分節 「転向」構造に包含	第 4 分節 (短い同調はある。)

■表 6-1-3 真野事例に見られる構造の分布

構造タイプ	初期	中期	晩期
A-1 型 振れ幅の大きい対立		第 2 分節、 第 3 分節 対立し了解構造に繋がる。	
A-2 型 振れが長く続く対立			
B-1 型 振れ幅が小さい対立			
B-2 型 短く終わる対立		第 3 分節 短く対立したまま。	
C-1 型 立て直し			
C-2 型 とりまとめ			第 4 分節 連続的に見られる。
D-1 型 討議の結果了解に至る		第 2 分節 対立構造から了解構造へ至る。	
D-2 型 反対意見の転向			
D-3 型 同調	第 1 分節 連続的に見られる。		

これらの特徴が各小集団の構造的特徴であると言える。ではこのような違いをもたらした原因は何か、会話（談話）分析の結果から次項で考察する。

第3項 会話（談話）分析から得られた知見

桐生事例では、討議のやり取りの結果了解に至るといった（D-1 型）構造は見当たらなかった。この点が桐生事例のコミュニケーション構造の特殊性を端的に示していると言える。

桐生事例で、意見の対立を解消する過程で現れる構造は C-2 型であり、複数の反対意見を集約して相手に訂正を促そうとしたケースのみであった。

同様に、C-2 型で意見対立を解消しようとする行為は、小布施事例にも見られたが真野事例には中期まで見られなかった。このことは桐生と小布施事例には、成員に反対されても堅固に自己主張を守っていた人物（桐生事例では「Ka」、小布施事例では設計者）がいたことを、真野事例にはいなかったことを示している。

討議のやり取りによって意見対立を解消しようとする行為（D-1）型が見られたのは小布施事例と真野事例であった。小布施事例ではそれは設計者が、設計者に反対する意見に了解を示した個所であった。真野事例では誰かが相手に訂正を促し、指摘された成員が訂正した個所であった。

桐生事例では、反対する意見に了解を示そうとしても反対されるケースや、指摘された成員が自ら訂正できないケースが見られた。すなわち、非了解志向的で、自己訂正の優先性が担保されていないことが分かった。

これはどのような過程なのか、意見対立の解消過程に着目して以下考察する。

①意見対立の解消過程に着目して

（ア）桐生事例の場合

前半に「近」と「佐」の間で対立があった。住職が両者に対して理解を示すような発話を行っているが、これはどちらの代弁機能も果たしていないことに気づく。すなわち、どちらかを代弁していれば、トラブル源を指摘された側が自己訂正する機会を与えられたかもしれないが、両者に理解を示しかつ争点を明らかにしていないことによって、その機会を奪われていることが分かる。

（イ）小布施事例の場合

前半に設計者「古谷」と「お話しの会」が対立する場面があるが、「古谷」に対して修復を開始（トラブル源を顕在化）した「IZ」の発話は「お話しの会」の代弁機能を果たしている。

また「お話しの会」に対して修復を開始した「館長」の発話は「古谷」の代弁機能を果たしている。

また、「古谷」と「事務局 K」がカウンターの件で対立する会があり、会を超えて「男性 N」が「古谷」に修復を開始する場面があるが、その発話内容は「事務局 K」の代弁機能を果たしていることが分かる。

（ウ）真野事例の場合

前半、代表の決定の仕方をめぐって事務局と「委員 S」が対立する場面があり、「毛利」や「T 会長」が事務局ないし「委員 S」に修復を開始する場面があるが、これらも事務局と「委員 S」の代弁機能を果たしている。

また「芦尾」と「毛利」が対立する場合に「T 会長」が、「芦尾」と「T 会長」が対立する場合に「毛利」が修復を開始する場面があるが、「T 会長」は「毛利」を、「毛利」は「T 会長」を、「芦尾」は「宮西」が代弁機能を果たしていることが分かる。

このように、「非了解志向的であること」と「自己訂正の優先性が担保されていないこと」は、代弁的発話行為の有無と深い関連を持つことが分かった。

■表 6-1-4 各事例における意見対立解消過程の特徴

	意見対立解消過程の特徴	自己訂正の優先性	
桐生事例	非了解志向的	×	見られない
小布施事例	(第三者的立場による) 代弁的行為	◎	良く見られる
真野事例	(リーダー間の) 代弁的行為	○	見られる

真野事例の初期に見られた「同調」構造は、リーダー間の代弁的発話行為を示すものであり、この段階でリーダーが相互に「代弁機能」が機能していることを確認できたので、中期において忌憚なく対立し、そして了解構造に至ることができたのだと解釈できる。

また小布施事例においてこの「同調」構造は、「代弁機能」を成員らが確認するまでもなく)すでに機能していたので、激しく対立しても解消に向かっている。そして中期にいたって「とりまとめ構造」で了解に至っていなかった論点(堅固に自己主張を守っていた人物)をこの同調圧力が「反対意見の転向」に動かした(解決した)と解釈できる。

このようにして、意見対立の解消に寄与した発話行為には共通点があることが分かった。すなわち(会話分析における「修復」には様々なタイプがあるが)今回の3事例においては、意見対立の解消に寄与した非当事者(すなわち第三者的立場)の発話行為にはいずれも対立の当事者のどちらかの成員の発話を代弁する機能を有していることが分かった。

②「目標表現の共有化」の共通点

以上、「討議の結果了解に至る」(D-1型)構造の見られる小布施・真野事例と、見られない桐生事例との比較を行い、その原因を考察したが、了解に至る構造を有するか否かで「目標表現の共有化」過程にも影響を与えることが考えられる。

すなわちその過程においては、討議によって了解行為を踏まえて共有化される場合と、或る成員が影響力のある言葉「言説」^{注12}を残すことで共有化される過程があり、前者については前項で触れたので、ここでは後者について考察することとする。各事例について「言説」を残した成員をリーダーシップ^{注13}とその他に分類したものが下表である。

■表 6-1-5 各事例において言説を残した成員

	リーダーシップ	その他
桐生事例	住職、Ka	(参与観察者)
小布施事例	館長、(古谷 ^{注14})	IZ、男性N、男性Y、女性O
真野事例	毛利、宮西	T会長

この表に現れているように、桐生事例を除いて「言説」を残した成員はすべて意見対立の解消過程で「代弁機能」を果たした成員であることが分かる。

さらに桐生事例における「住職」、「Ka」も「第1項 リーダーシップ構造分析」で、また「参与観察者」も「第2項 ②-1「代弁的発話行為」が現れる構造」で述べたように、目標表現の共有化過程において代弁機能を果たした成員である。

このように、代弁機能を果たした成員は、意見対立の解消過程においても目標表現の共有化過程においても重要な役割を果たしていることが検証できた^{注15}。

¹² 本論では回を超えて長期にわたり会の行動目標に強く影響を与えた発話行為を「言説」と呼ぶこととした。

¹³ ここではターン割合1位者をリーダーシップと言うことにした。

¹⁴ 古谷は設計者側なので強い影響力を残すことは発話行為に関わらず事前確定的であることから()で括った。

¹⁵ また代弁機能を果たす成員がどのようにして生じるかについては、第1項リーダーシップ構造分析を参照されたい。

第2節 小集団の意向調整に向けた支援技術の考察

本節では以上の分析を踏まえ、専門家の役割やその他の成員の役割について考察する。

第1項 専門家の介入時機に着目して

①桐生事例の場合

最初の3年間はコンサルタントが、住職の権威を利用しながら目標表現を共有化しようとした過程があったことを前述した。そして意見対立が続く中、4年目から筆者がコーディネーターとして関わることになる。筆者は、反対意見者に対する代弁機能や自己訂正の優先性が当会に欠如していることを直感的に感じて介入した。すなわち、「Ka」に対して自己訂正の優先性を尊重しながら「Ka」への反対意見の代弁的行為を行った。その介入の後、回を超えて（それまで古民家再生部会を非公開で行うことを主張し続けていた）「Ka」が主張の転向を行い、かつ「職の提供」から「空間の提供」までをパッケージでテナントにサービスを提供するという創造的な目標表現を行うに至った過程を会話（談話）分析で述べてきた。これを見る限り、後半の介入の成果があったと言える。

②小布施事例の場合

小布施事例では、当初からこの小集団に代弁機能や同調圧力が強く、とりまとめ構造が堅調に見られることをコミュニケーション構造図や会話分析より明らかにした。そして小布施事例での専門家は設計者であってコンサルタントではないが、結果的に第三者的立場の成員の意見も受け入れて設計変更したことにより、同調圧力が強い小集団のポテンシャルを十分に引き出した結果となった。そしてその過程を会話（談話）分析より明らかにした。

③真野事例の場合

真野事例では、当初は同調の連続から始まり、やがて忌憚なく意見を述べ合いながらも代弁的機能が活発に見られることをコミュニケーション構造図や会話分析から明らかにした。はじめはカリスマ的な住民側のリーダーシップ（毛利）が討議をリードしていたが、もう一人のリーダーシップ（芦尾）が孤立しそうになった時、コンサルタント（宮西）が争点を書き替えるとともに、そうしたコミュニティのポテンシャルを利用して自省的な目標表現を引き出した過程を会話（談話）分析から明らかにした。晩期では、専門家（学識委員）から挙がってきた提案の実現可能性にかかわらず受け入れ、目標表現として共有化する役割をも担ったことをコミュニケーション構造図や会話（談話）分析で明らかにした。

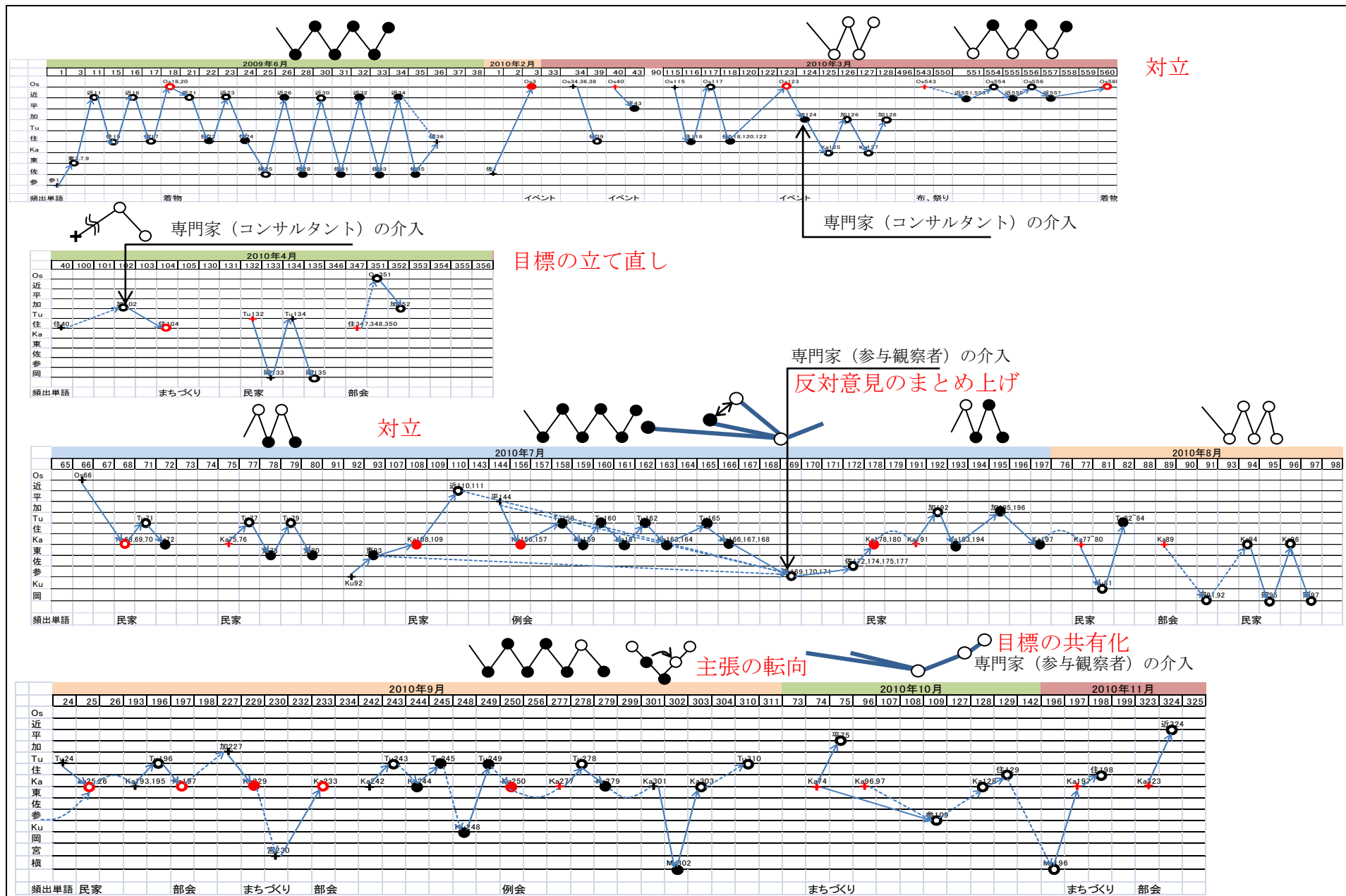
■表 6-2-1 専門家介入の時機

桐生事例	対立→目標の立て直し→対立→ 反対意見のまとめ上げ →主張の転向・目標の共有化
小布施事例	反対意見のまとめ上げ → 主張の転向 → 了解（和解）
真野事例	同調 → 了解 → 対立 → 目標の共有化

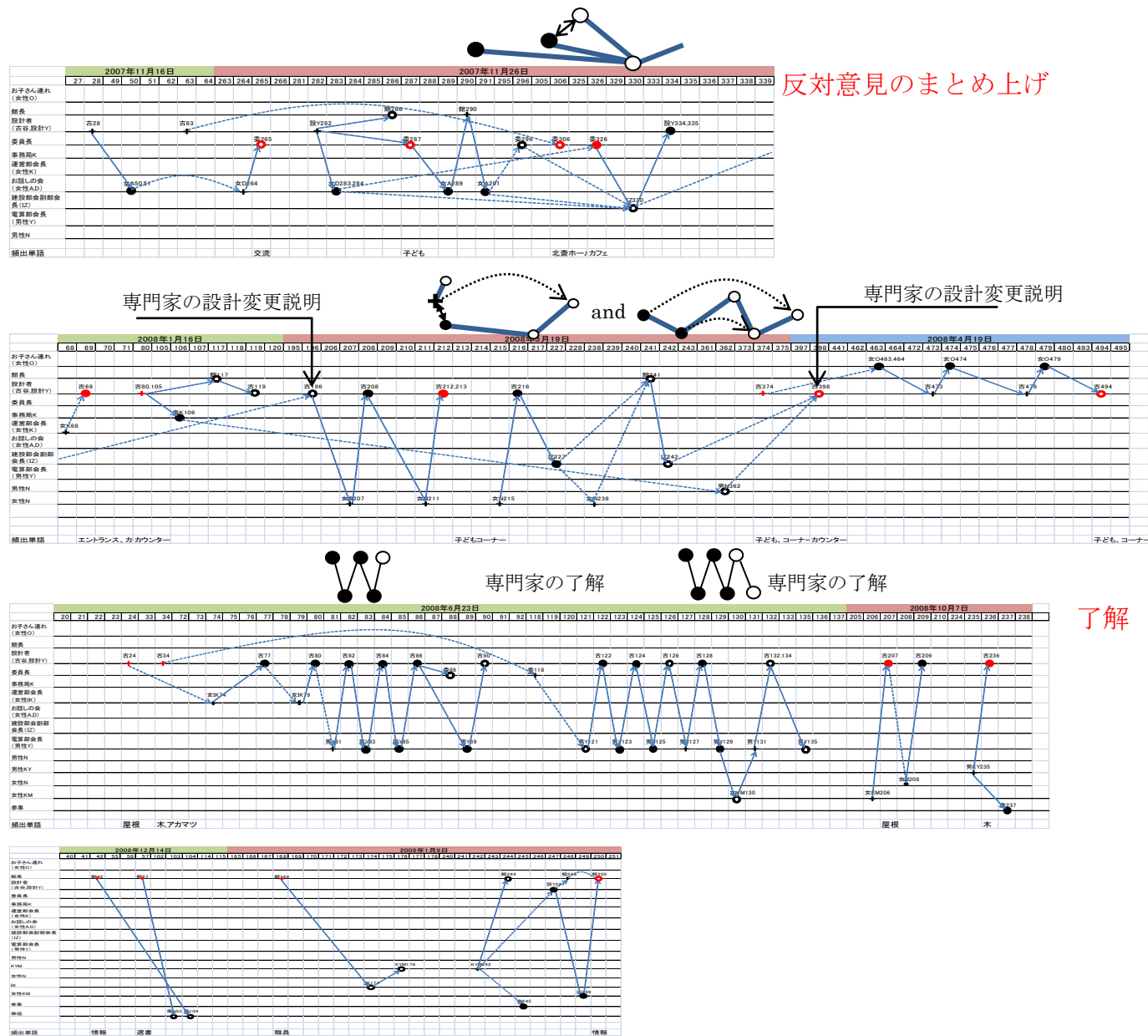
※専門家の関わった局面を赤字で表示

当技法はこうした経緯、専門家が下した判断の根拠を客観的に可視化することができた。このことによって専門家は説明責任を果たすことが可能となるばかりでなく、後続のあるいは同業種の専門家に対して技術的知見を広めることができ、かつ専門家自身もまた今後のフィールドとの関わりにおけるプランニングを考える上での参考にすることができる¹⁶。

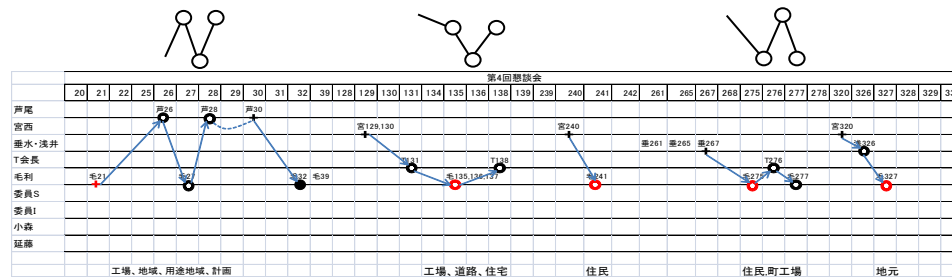
¹⁶ 事実、筆者は本論で明らかにした桐生事例の2010年11月までの分析結果を成員に見せ、成員とともに評価し合うことを随時行うとともに、現時点でのプランニングに活かしている。



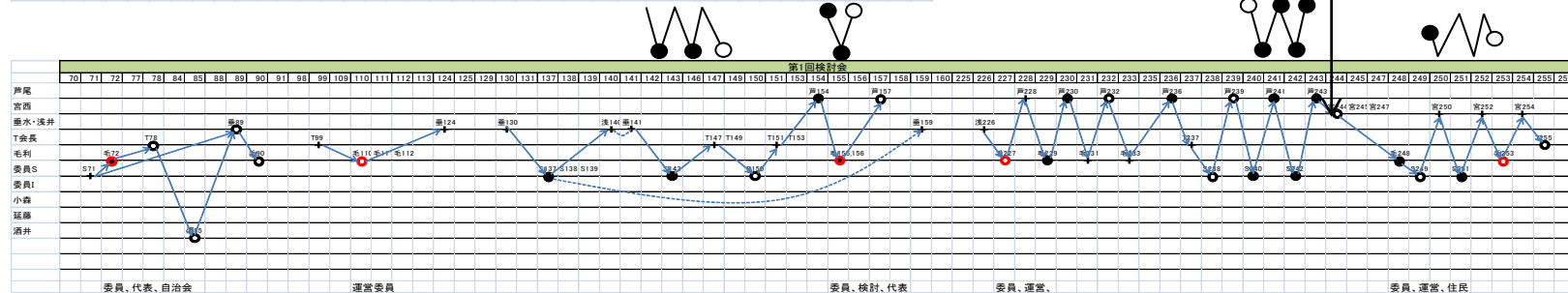
■図 6-2-1 桐生コミュニケーション構造図に示した専門家介入時機



■図 6-2-2 小布施コミュニケーション構造図に示した専門家の設計変更時機

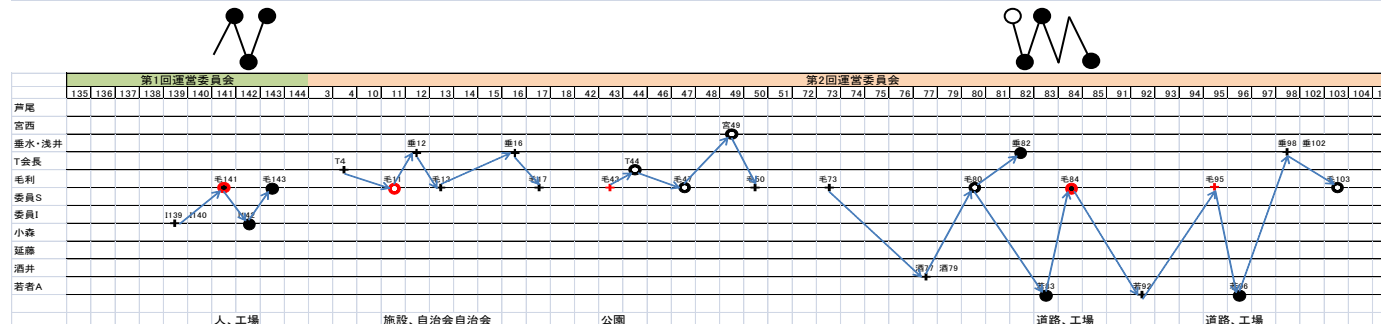


同調

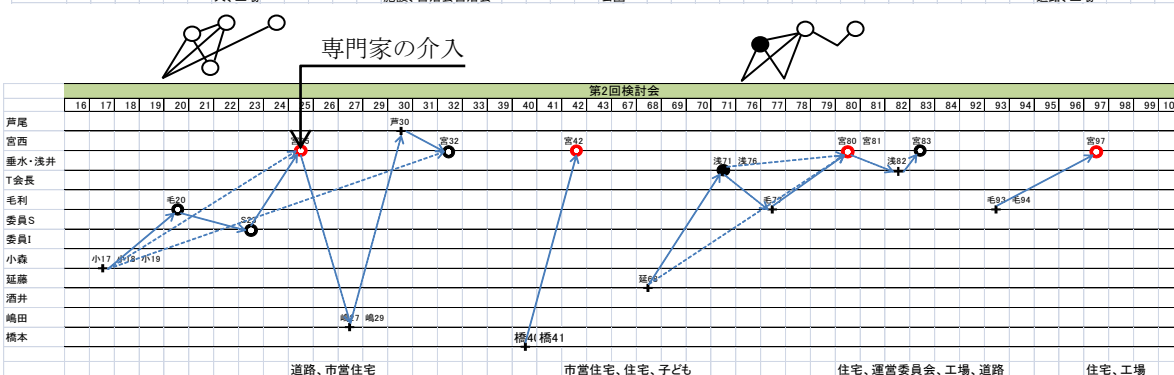


専門家の介入

了解



対立



目標の共有化

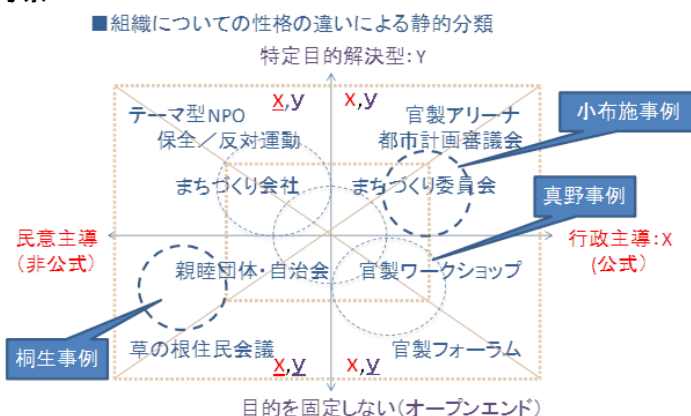
■図 6-2-3 真野コミュニケーション構造図に示した専門家介入時機

第2項 小集団の静的分類の観点による比較考察

まちづくり運動が単発で終始してしまう桐生事例と、運動が連帯し創造的に進展する小布施町事例とを比較することから2事例を取り上げ、それを補足する観点から真野事例を取り上げた。

小集団の静的分類としては、民意主導でオープンエンドな桐生の小集団、行政主導で特定目的解決型の小布施事例の小集団、行政主導でありながらオープンエンドな真野事例の小集団、に分類できる。

ここでは、このような観点から前項で考察した専門家の役割を再評価してみる。



■図 6-2-4 小集団の静的分類

■表 6-2-2 専門家の役割はどのように果たされたか

	事例の特徴	観察できた専門家の技術
桐生事例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民意主導（非公式） × 意思決定システム × 役割分担 ・ 目的非固定（オープンエンド） 	<ul style="list-style-type: none"> → グループ構造が不定 → テーマが自在に変遷
小布施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政主導（公式） ○ 賛成、反対派が明確 ○ 役割分担も明確 ・ 成員の帰属＝新旧利用者層の対立 ・ 特定目的解決型 	<ul style="list-style-type: none"> → グループ構造が固定 → （異なる利害関係者による）摩擦が想定 → 意思決定を行わなければならない
真野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政主導（公式） ○ 賛成、反対派が明確 ○ 役割分担も明確 ・ 成員の帰属＝自治会の親和／対立を反映 ・ 目的非固定（オープンエンド） 	<ul style="list-style-type: none"> → グループ構造が固定 → （対立する関係者による）摩擦が想定 → テーマが動的に変遷

①「かんのんまちづくりの会」では

意見の方向性の違いが集団の分裂を引き起こしそうになったとき、専門家が成員の一人として、異なる意見を包含する目標表現を行うこと（構造C型/第1節第2項）で意向調整する役割を担うことが可能であることを観察できた。当会は非公式かつ非目的限定型小集団であることから、専門家がその権威を以て意向調整することが馴染まなかった、あるいはできなかったと考えられる。

②「小布施町図書館運営委員会」では

専門家と異なる意見を成員が提示してきた場合、第三者的立場の成員から挙がってきた修正案を専門家が受け入れて設計を変更すること（構造D型/第1節第2項）で意向調整する過程を観察できた。当会は公式かつ特定目的解決型小集団であることから、専門家（ここでは設計者）が初めに或る目標を描いて臨まざるをえなかつと考えられると同時に、公正的な立場からも賛成反対のどちらかの意見に与しにくい中で中立的な第三者の意見に与しやすかつと考えられる。

③「真野まちづくり検討会」では

専門家は対立の矛先が特定の成員に集中し集団の分裂を引き起こしそうになった時、その矛先を自身に向けさせて争点を深化させること（構造D）によって成員の目標をより明らかにしていくことが可能であることを観察した。当会は公式ではあるが非目的限定型小集団であることから、専門家がその権威を以て目標を固定することは馴染まなかつと考えられると同時に、専門家の目標は成員が主体的に課題に気づき成員からそれに対処する目標表現が生じることにあつたと考えられる。

第3項 その他の成員の役割に着目して

～会にとって有効な援護者は誰か

以上、各事例におけるリーダーシップ、専門家の果たした局面を整理したが、ここではそれ以外の成員の中で、修復や目標表現の共有化過程において特に効果的な発話行為を行った成員に焦点を絞り、それらの局面を以下整理する。

①桐生事例の場合

桐生事例においては、前述のとおり第4分節において「Ma」が「Ka」の自己訂正を促し、訂正させることで「Tu」の理解を引き出したこと、また、住職の目標表現に対して積極的な同調を行うことで、「Ka」の創発的な目標表現を引き出したことを説明した。前者についてはいわゆる「言葉探し」での自己訂正であるが、「自己訂正の優先性」が見られた。また後者は10月の「Ka,74」の目標表現を具体的に解題した初めての目標表現となった。

「Ma」は当会設立当初から3年間「まちなかシルバー支援住宅部会」のメンバーで、地元ゼネコンの役員であり、ステークホルダーの一人でもあることから、貴重な人的資源として事務局側はそのポテンシャルをより一層引き出すべきであったが、その後当会を去っており、活かすことはできなかった¹⁷。

②小布施事例の場合

小布施事例においては、建設部会副部長「IZ」が、設計者「古谷」の自己訂正を促し訂正させることで、設計者側に対立する側の意見を反映させることに寄与したことを説明した。また役職にもついておらず利害関係もない第三者的立場の「男性N」が設計者「古谷」の自己訂正を促し、「古谷」もそれを受け入れることで委員会の同調圧力を高めることに寄与したことを説明した。また電算部会長「男性Y」も、「IZ」に代弁する形で設計者「古谷」の自己訂正を促し訂正させることに成功している。

地元の設計士である「IZ」も、いわば門外漢の「男性N」や「男性Y」も、忌憚なく「古谷」に自己訂正を促している。著名な建築家である「古谷」に対して公平かつ率直に発話できる人材がいることやその討議環境があることが小布施コミュニティの貴重な資源であると言える。

また「古谷」もそれを受け入れて見せたことで、結果として小布施コミュニティのポテンシャルを引き出すことができたと言える。

③真野事例の場合

真野事例においては、リーダーシップ「毛利」の代弁機能を「T会長」が、「芦尾」の代弁機能を「宮西」が担っていたことを説明した。「T会長」についてはリーダーシップ構造図で目立たない存在だが、要所要所で、「毛利」を代弁し、また会にとって重要な目標表現となる「言説」を残していることが分かる。

「T会長」は単独自治会の会長であるが、その自治会は「毛利」や「芦尾」の率いる連合自治会よりも歴史があることから、影響力は「毛利」や「芦尾」と拮抗しており、有力な「フォロワーシップ」となるポテンシャルがあった。事務局側は、懇談会の段階から彼を他の自治連合会長と同等に扱い、検討会においては副代表に据えるなどした。その点においてチームビルディングにおける

¹⁷ Maは2011年6月に退会した。理由としては同じ会社からもう一人の役員が参加しており、その成員が当会の役員に就いたことを彼は挙げている。その点において事務局側のチームビルディングにおいて大きな誤り（あるいは能力不足）があったと言える。

事務局側の配慮（戦略性）を感じさせる。

また学識委員「小森」は、当時まだ前例のなかった「市営住宅の特定入居制度」をあえて提案し、会にとって重要な目標表現を残した。「宮西」はその実現可能性を問題にせず会の目標に取り入れることを言明した。このことが、個人のアイデアを会の目標とすることで公定し、学識委員の革新的アイデアを行政側につなぐことに成功したと言える。

第3節 小活

第6章は3事例の分析を通して、共通して得られた知見を整理した。第1章で挙げた本論の目的のとおり、会話分析・談話分析を援用することにより発話間の繋がりや意味が明らかになり、第三者が事後的に、「集団にとって有効となった目標表現」や「意見対立の解消の仕方」の過程や「専門家や他の成員が果たした役割」を質的に吟味し具体的に記述できることが確認できたと言える。

リーダーシップ構造の分析からは、3事例のいずれも発話割合の1位者が後段で交替しているとともに、その交替前後の上位者が相互に「代弁的発話行為」を通じて深く関連していることが分かった。同時にそこで、「行動目標を差配する人物」と、その「目標を実行に移す人物」との立場の逆転が生じていることも分かった。このことについては既往研究でも指摘した現象である¹⁸が、それを討議における発話行為の観点から実証した形となった。

コミュニケーション構造の分析からは、大きく4つ（A型、B型、C型、D型）に類型化可能な特徴的な構造のバリエーションを紹介することができた。

同時に、「代弁的発話行為」を示す構造が「C-2型」や「C-2型」及び「D-1型」の直前に現れることを結果として示すことができた。また、「言説」を示す構造が賛成意見へ連鎖する直前に現れることも発見した。

またこれらの構造的特徴の各小集団の分布から、各事例の「討議デザイン」の特質を窺い知ることができた。すなわち、小布施事例においては早い段階で対立し、とりまとめが見られ、討議慣れしている小布施の特徴を改めて確認することができた。

また真野事例においては、同調構造から始まり、対立しても了解するが、やがてまた対立し、最後にとりまとめに至るといった特徴を見ることができ、これは延藤が言った「計画づくりに対する共通認識と自信が生まれた」過程を確認することができたとともに、また宮西が言った「対立を対立のまま終わらせることなく、ときほぐす人の絡み合があり、なごみ、さらなる対立をつくり出す。これが真野地区のまちづくりの原動力」といった地域ならではの討議デザインを実証的に把握する結果となった。

また桐生事例からは、初期から対立構造で始まり、かといって小布施のように「とりまとめ」構造がなかなか現れない桐生の特徴を改めて確認することができた。

会話分析から得られた知見としては、まず桐生事例から討議のやり取りの結果了解に至るといった構造（D-1型）が見当たらなかったことが挙げられる。反対する意見に了解を示そうとしても反対されるケースや、指摘された成員が自ら訂正できない、すなわち、非了解志向的で、自己訂正の優先性が担保されていないことを確認した。そして「非了解志向的であること」と「自己訂正の優先性が担保されていないこと」は、代弁的発話行為の有無と深い関連を持つことが分かった。

¹⁸ 島田・小泉,2007,「まちづくり運動の連帯における共同態の発見とその応用可能性」,都市計画論文集 No.42-3,p-319-324

今回の 3 事例においては、意見対立を解消しようとした非当事者（第三者的立場）の発話行為にはいずれも対立の当事者のどちらかの成員の発話を代弁する機能を有していることが分かった。

また、桐生事例を除いて、（目標表現として強い影響を与えた）「言説」を残した成員はすべて意見対立の解消過程で「代弁機能」を果たした成員であることが分かった。このように、代弁機能を果たした成員は、意見対立の解消過程においても目標表現の共有化過程においても重要な役割を果たしていることを発見できた。

また専門家の介入時機については、まず桐生事例では（「Ka」に対して自己訂正の優先性を尊重しながら）「Ka」への反対意見の代弁的行為を行った結果、「Ka」が創造的な目標表現を行うに至った過程を会話（談話）分析から記述できた。

小布施事例では、専門家が結果的に第三者的立場の成員の意見も受け入れて設計変更したことにより、同調圧力が強い小集団のポテンシャルを引き出したことを把握できた。

真野事例では、専門家が争点を書き替えることによって自省的な目標表現を引き出すことができたことを把握できた。

小集団の静的分類の観点から専門家の役割を考察した結果については、まず「非公式かつ目的非固定型」の桐生事例では、そこでの専門家は成員の一人として他の成員と同等であることから、自分の目標表現を行うよりも他の異なる意見を包含する目標表現を行うこと（コミュニケーション構造 C 型）が意向調整に大きく貢献可能であることを示唆する結果となった。

この「意見のまとめ上げ」行為は或る種の「代弁的発話行為」であり、これがほとんど見られなかった桐生事例であるからこそ、より有効に効果を発揮したと考えられる。また会にとって重要な目標表現の「呼び水」となるような言説を生み出す討議環境を形成する上でも効果的であったことが明らかになった。

また、「公式かつ目的解決型」の小布施事例では、専門家が中立的な第三者の意見に与しやすいことを示唆する結果となった。この点については第 4 章で述べたように、利害関係のない第三者的立場の成員が発話し、その意見を取り入れることで或る種の「公共性」を保つことができるからであると考えられ、公平かつ公正な討議環境を形成する上で有効な条件であることを提示する結果となった。

さらに「公式で目的非固定型」の真野事例では、まず専門家の目標は「成員が主体的に課題に気づき成員自らがそれに対処する目標表現を発すること」にあったと考えられる。だからこそ、専門家は対立の矛先が特定の成員に集中し集団の分裂を引き起こしそうになった時、その矛先を自身に向けさせて争点を深化させること（コミュニケーション構造 D 型）が有効であり、それによって成員の目標をより明らかにしていくことが可能であることを提示することができた。

その他の成員の役割については、桐生事例においては「Ma」が、小布施事例においては「IZ」、「男性 Y」、「男性 N」が、真野事例においては「T 会長」が代弁機能や目標表現など大きな役割を果たしたことを示した。そしてこれらの成員はいずれも意見対立の当事者ではない「第三者的立場」にあったことから、先述のとおり「公共的」な討議環境を形成する上で重要な役割を果たすことを提示する結果となった。

<第6章の参考文献>

- ・岡本依子ほか,2014,「前言語期の親子コミュニケーションにみられる代弁」,湘北紀要,第35号,p-67-84
- ・延藤安弘・宮西悠司著,吉岡健次,崎山耕作編,1981,「内発的まちづくりによる地区再生過程」『大都市の衰退と再生』,東京大学出版会
- ・ギッディングス著,内山訳,1929,『社会学原理』,春秋社
- ・島田昭仁・小泉秀樹,2007,「まちづくり運動の連帯における共同態の発見とその応用可能性ー小布施町と桐生市のまちづくり運動の比較を通してー」,都市計画論文集,no.42-3,p-319-324
- ・橋本仁司・斉藤勇,1969,「同調行動の類型と実験的研究」,『日本心理学会大会第33回発表論文集』438
- ・中川愛,2012,「児童の乳幼児きょうだいへの発話に関する研究ー家庭観察データからの検討ー」,奈良教育大学教育実践開発研究センター,No.21,p-139-147

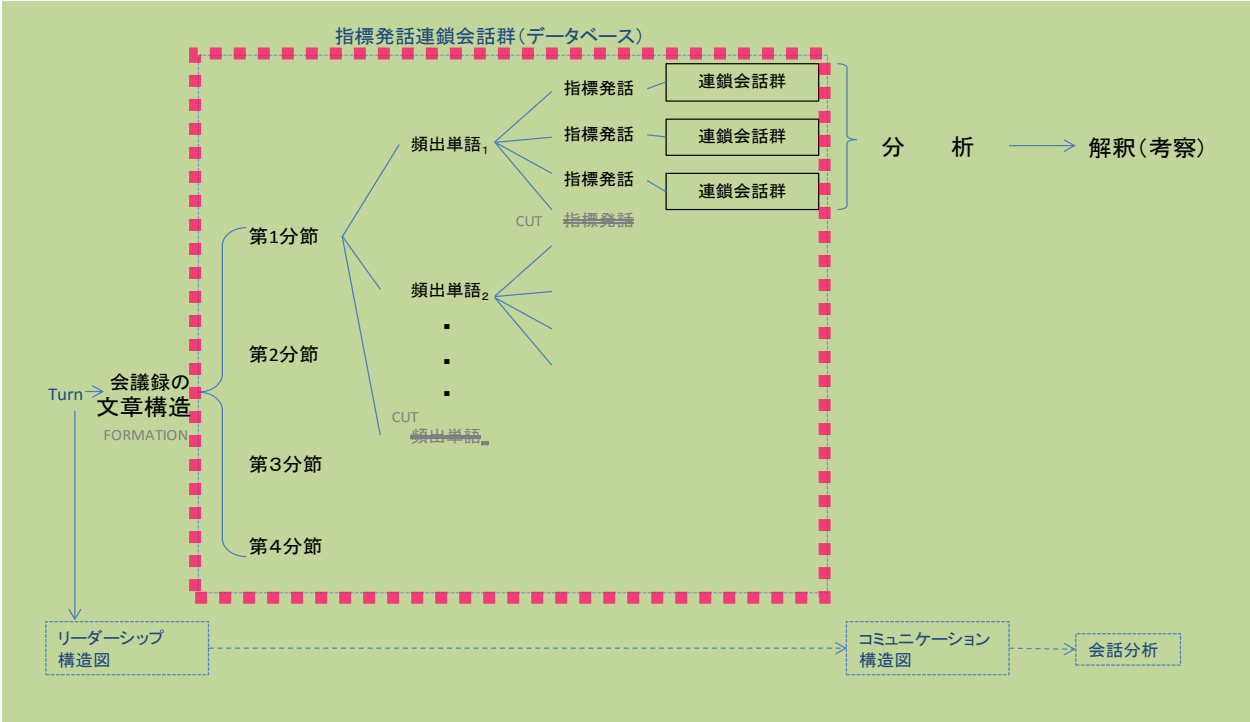
第7章 当該技法の有効性・妥当性についての評価

第1節 当該技法による討議記録のデータ（発話レコード）数の縮約性能

本節では、データ（発話レコード）数がどれだけ縮約できたかといった縮約性能について評価する。

第1項 会議録コーパスから「指標発話連鎖会話群」まで

まず、会議録コーパスから指標発話連鎖会話群（データベース）を作成する際の縮約化実績について評価する。



■ 図 7-1-1 本項の対象箇所

①会議録コーパス→テキストマイニング

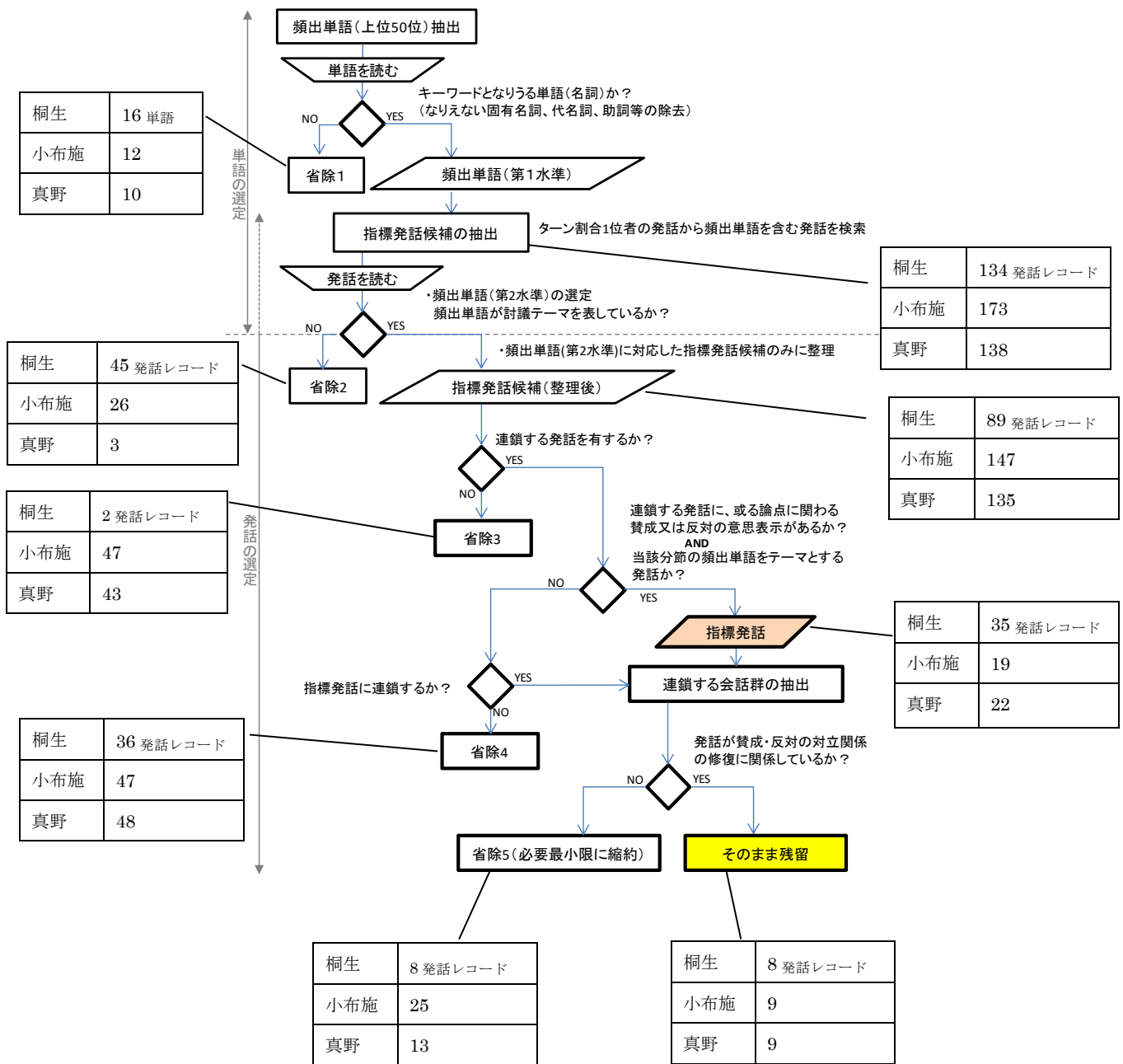
各事例とも、発話割合の最も多く頻出単語を含む発話の検出（テキストマイニング）を行った結果、会議録コーパスのデータ数の数%~1割強が検出された。この時点で発話レコード数が100~200程度となり、そのまま読んで解読することも可能なまでに縮約された。さらに、そのうち代表となる発話（指標発話）を選定すると1~2%にまで縮約化された結果となった。これを以て「指標発話」の一つ一つを吟味して「指標発話連鎖会話群」を選定する作業も容易となった。

②テキストマイニング結果→指標発話連鎖会話群

各事例とも、「指標発話」に連鎖する前後を入れて「指標発話連鎖会話群」を作成したところ、「指標発話」の4~6倍に拡大した。その結果、いずれも会議録コーパスの数%~1割弱に縮約化された結果となった。この時点で発話レコード数が100~150程度となり、そのまま読んで解読することも容易となった。

■ 表 7-1-1 指標発話連鎖会話群までの縮約実績

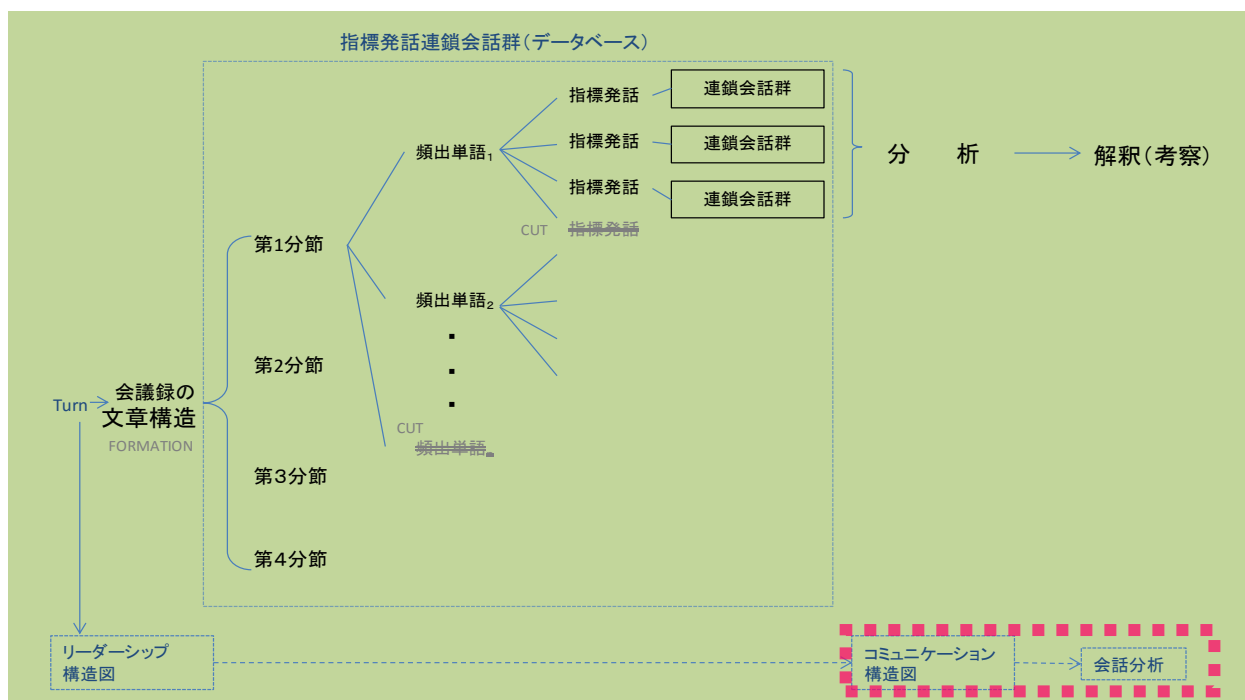
	会議録コーパス	指標発話候補抽出時 (指標発話)	指標発話連鎖 会話群
桐生事例	2,879	4.7% : 134 1.2% : (35)	4.8% : 139 4.1倍
小布施事例	1,561	11% : 173 1.2% : (19)	6.3% : 99 5.2倍
真野事例	1,209	11% : 138 1.8% : (22)	9.4% : 114 5.2倍



■図 7-1-2 指標発話選定までの各ステージにおける省除実績

第2項 コミュニケーション構造図から会話分析シートの作成まで

次に、コミュニケーション構造図から会話分析シートを作成する際の縮約化実績について評価する。



■ 図 7-1-3 本項の対象箇所

①指標発話連鎖会話群→コミュニケーション構造図

いずれも指標発話連鎖会話群の会話群を賛成・反対に分けて並べたのがコミュニケーション構造図だが、中には複数の指標発話に連鎖しているため指標発話連鎖会話群では重複していた発話や、連鎖の相手方が省略（会話には存在していない）されていてコミュニケーション構造図で示すことができない発話があるのでデータ数は若干減少する傾向が見られた。

②コミュニケーション構造図→会話分析シート

各事例とも、コミュニケーション構造図から特徴的な構造を呈する個所を選出し、会話分析シートを作成した際に、7割前後に縮約化され、元の会議録コーパスと比べればいずれも7%未満に縮約化され、その結果データ数は 10^1 レベルとなり一つ一つを吟味することも容易となった。

■ 表 7-1-2 会話分析までの縮約実績

	会議録コーパス	指標発話候補抽出時 (指標発話)	指標発話連鎖会話群	コミュニケーション構造図	会話分析シート
桐生事例	2,879	→ 4.8% : 139	→ 4.1 倍	→ 4.4% : 128	→ 67% : 86 3.0%
		→ 4.7% : 134			
		→ 1.2% : (35)			
小布施事例	1,561	→ 6.3% : 99	→ 5.2 倍	→ 5.9% : 92	→ 66% : 61 3.9%
		→ 11% : 173			
		→ 1.2% : (19)			
真野事例	1,209	→ 9.4% : 114	→ 5.2 倍	→ 9.1% : 110	→ 74% : 81 6.7%
		→ 11% : 138			
		→ 1.8% : (22)			

第2節 時期の分節化の妥当性

第1項 桐生事例の場合

この時期区分ごとに頻出単語を調べ、さらに討議テーマの推移、及び討議内容を条件づけたような外部条件（状況）の変化を調べてみた。

すなわち、表 7-2-1 のとおり、まず、2009 年 6 月～2010 年 3 月での頻出単語は{イベント,布,まちづくり,シルバー,活動,祭り,部会,着物}等であった。そして実際にこの時期の発話から、2009 年秋にイベント「布祭り」を実施したことから、その前後は特にイベントを会の今後の行事とするかどうかについて討議されていたことが分かった。

■表 7-2-1 時期区分の検証

会議録年月 日	頻出単語と外部状況の変化から解釈されるテーマの推移		手掛かりとなる発話例
	頻出単語例	外部条件（状況）の変化	
2009 年 6 月 ～2010 年 3 月	イベント 布 まちづくり シルバー 活 動 祭り 部会 着物	会の活動期間は 2007 年 6 月の設立時に 3 年間で決めており、その後継続するかどうかを討議し始めたのが（3 年目に当たる）2009 年 6 月である。 <u>2009 年秋にイベント「布祭り」を実施したことから、その前後は特にイベントを会の今後の行事とするかどうかについて討議した時期に当たる。</u>	Os03 : ・・・イベントをやる意義というのは、イベントに携わる人のチームワークが良くなるってこと、昨年の 1 1 月にやったように、ああいうチームワークが必要なんだよ、 Os40 : ・・・イベントについては、そんなに手間をかけないでやれたらいいなあと思っております。・・・ 住職 48 : ・・・ちょうど私が言いだしついで、…ちょうど 3 年にもうすぐなるということで、今、このようなことをやっているわけですけども。…せっかく撒いた種ですから、何とかこれをですね。継続できればと思いますけれども。…方向性としてはやっぱり去年もあれだったんですけども。…布の関係とそれからガーデニング、それから緑化とそれから古民家というか、シルバーというか、その 3 つの柱だと思うんですね。
2010 年 4 月 ～6 月	まちづくり 部会 世界遺 産 末広 民 家 歴史 商 店街	当初の活動期間が終わるにあたり、4 年目以降どのような組織体制で協議していくのかを討議した時期に当たる。 その中で、会の下に「 <u>古民家再生部会</u> 」を設立し、会の活動基軸の一つとすることとなる。	住職 40 : ・・・町中空き家、空き地、活用…前からずっと申し上げてます、そこの、えー、今西が、あの一、…考えてて、…何かこう、皆さんでいいプランを考えていただいて、え、何か一つモデルケースにね、 住 348 : ・・・部会もありますから、それも 18 日にやりましょうということですから、毎月必ず…あるということで、古民家は毎月 5 時からやるわけ。・・・
2010 年 7 月 ～8 月	民家 まちづ くり 部会 再生 イベント 例会	「古民家再生部会」の在り方について討議した時期に当たる。 会の設立当初からこの時期まで、古民家再生案件は、 <u>一部の成員</u> （不動産・建築業者、専門家）で討議していた。	Ka68 : ・・・何人かの方が古民家再生部会に入りたいということなんですけど、どうしても専門的な部分もあるもんですから・・・
2010 年 9 月 ～11 月	部会 例会 まちづくり 民家	それまで一部の成員で討議していた「古民家再生部会」を全員で討議することになった。 全員で討議するためのテーマが模索され、決定した討議時期に当たる。	Ka74 : ・・・一番まちづくりの中で決定的なのは、…「雇用」の問題、いわゆる、住むのは良いんだけど、その仕事がないわけ、そこが一番きつい訳なんですよ、 Ka96 : ・・・それを、こんなやり方でも良いんだっていう、…それを総合的に古民家再生の方で、・・・

次に、2010 年 4 月～6 月での頻出単語は{まちづくり,部会,世界遺産,末広,民家,歴史,商店街}等であった。また実際にこの時期の発話から、「古民家再生部会」を設立し、会の活動基軸の一つとする討議が行われたことが分かった。

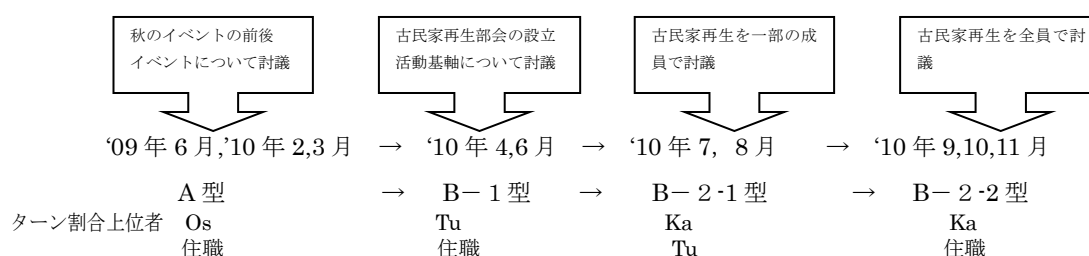
さらに、2010 年 7 月～8 月での頻出単語は{民家,まちづくり,部会,再生,イベント,例会}等である。こ

の 2 つの会議は下部組織である「古民家再生部会」の在り方^{注1}について討議された時期に当たることが分かった。

さらに 2010 年 9 月～11 月での頻出単語は{部会,例会,まちづくり,民家}等である。また実際の発話からは古民家再生部会を定例会と同様に全員で討議するための共有のまちづくりテーマが模索され、決定したことが分かった。

以上のように、ターン割合上位者の変遷を討議テーマの変遷と見立てて分節化した 4 つの時期区分が、テーマの変遷と一致するとともに、討議の外的条件（状況）の変化からも説明可能なことが確認された。

さらに会議録^{注2}を 2009 年 6 月から 2010 年 11 月まですべて読んだ結果から、この 4 つの時期に分節化された＜意味＞を考察すると、次のようにまとめることができる。すなわち、ターン割合上位者の変化が（これらの時期の境に）生じた理由を考察してみた。



■図 7-2-1 ターン割合の変化に伴う会議の構造と外部条件の変化との関係

まず第1分節に当たる 2009 年 6 月から 2010 年 3 月までは、前述のとおり、設立から 3 年目にあたり、その後継続するかどうかを討議し始めた時期に当たることから（設立発起人の代表である）「住職」が積極的にリードしたと考えられる。しかし、2009 年秋にイベント「布祭り」を実施し、その前後は特にイベントを会の今後の例年行事とするかどうかについて討議した時期に当たることから、「住職」より「Os」のターン割合が多い。すなわち、Os が織物業者であり「布祭り」の責任者であったからであることが会議録を読んで分かる。つまり、第1分節において「Os」と「住職」がリーダーシップをとったことが、（3 年目に当たり、イベント実施の前後だったという）外的条件や、そこで扱うテーマの変化と一致していることが確認できる。

次に第2分節に当たる 2010 年 4 月、6 月は、設立から 4 年目以降の新体制に向けて 3 つの基本部会が設立された時期である^{注3}。会の新体制について会長の「Tu」が積極的に説明を行ったことが会議録から分かる。また活動基軸の一つとして「古民家再生部会」が立ち上げられた^{注4}初回であり、他の「織物・着物部会」や「ガーデニング部会」とのバランスの取り方がテーマとなる中で、（先の第1分節でイベントを例年行事とすることに強い反発があったことを受けて、）「住職」が（イベントよりむしろ）古民家再生に或る実践的課題を提示したことが会議録を読んで分かった。その結果、ターン割合 1 位が「Tu」、2 位が「住職」となったと説明できる。つまり、第2分節において「Tu」と「住職」がリー

¹ 古民家再生部会を 7 月 18 日の会議では、さらに一部の成員で討議する「プロジェクトチーム」と全員で討議する「住み続けたいまちづくり企画研究室」に分ける案が事務局から提示された。

² 当該事例では、当時の音声を記録した IC レコーダーから書き起こした会議録コーパスが会議録に相当する。

³ 2010 年 4 月に発表、5 月は（会計監査報告や新年度予算についての承認の場である）総会、6 月が本格的実施となる。

⁴ 名称についてはそれまで「まちなかシルバー支援住宅部会」と呼ばれていたが、ここで「古民家再生部会」と呼ぶこととなり基本部会 3 つ（その他「織物・着物部会」、「ガーデニング部会」）の内の 1 つに位置づけられた。

ダーシップをとったことが、(新体制に向けて3つの基本部会が設立されたという) 外的条件や扱うテーマの変化と一致していることが確認できる。

次に第3分節に当たる2010年7月、8月は、新体制についてまだ模索が続く中で「古民家再生部会」の在り方について討議した時期に当たる。会の設立当初からこの時期まで、古民家再生案件は、一部の成員(不動産・建築業者、専門家)で討議していた。その中心にいたのが「Ka」であり、会議録を読むと、ここでも「Ka」が「古民家再生部会」^{注5}の在り方を積極的に提示しようとしていることが分かった。この結果、ターン割合1位が「Tu」より「Ka」が多くなったと説明できる。つまり、第3分節において「Ka」と「Tu」がリーダーシップをとったことが、(新体制の模索が続く中で古民家再生部会を2つの会議に分けようとしたという) 外的条件や扱うテーマの変化と一致していることが確認できる。

最後に第4分節に当たる2010年9月以降は、それまで一部の成員で討議していた古民家再生案件を全員で討議することになり、全員で討議するためのテーマが模索された時期に当たる。会議録を読むと「ka」が積極的に目標表現を行い、結果的にテーマ「職の提供」を提示したことが分かった。そしてその新テーマをオーソライズするために(会の設立発起人の代表者)「住職」が積極的にリードしたことが分かる。その結果、ターン割合1位は依然として「Ka」で2位が再び「住職」となったと説明できる。つまり、第4分節において「Ka」と「住職」がリーダーシップをとったことが、(古民家再生案件を全員で討議することになったという) 外的条件や扱うテーマの変化と一致していることが確認できる。

以上のように、ターン割合上位者の変化を説明することができる。このように会議の位置づけが変わるごとにリードすべき人物が変わっている。そのためターン割合上位者の変化が会議の位置づけの変化と連動する結果となったと言える。

このことから、会議の何らかの位置づけが変わると討議プロセスが変わり、ターン割合上位者の組み合わせが変化するという当該技法の仮説の妥当性が検証された。

⁵ 古民家再生部会は、一部の成員だけで討議する「プロジェクトチーム」と全体で討議する「住み続けたいまちづくり企画研究室」に分かれたが、後に全員で討議するようになってからの「古民家再生部会」は後者を指す。

第2項 小布施事例の場合

この時期区分ごとに頻出単語を調べ、討議テーマの推移、及び討議内容を条件づけたような外部条件（状況）の変化を調べて見た。

すなわち、表 7-2-2 のとおり、まず、第1回、第2回の会議での頻出単語は{交流,子ども,北斎ホール,カフェ}等であった。そして実際にこの時期の発話から、図書館と隣接する「北斎ホール」と連結してホールの諸施設と連携させて交流や子育て等の諸機能を分担させることが条件となつて討議されていたことが分かった。

■表 7-2-2 時期区分の検証

会議録年月日	頻出単語と外部状況の変化から解釈されるテーマの推移			手掛かりとなる発話例
	該当会議	頻出単語例	外部条件（状況）の変化	
2007 年 11/16	第 1 回,	交流, 子ども, 北斎ホール, カフェ	図書館と隣接する「北斎ホール」 を連結することを条件 ▼	1 回古谷 28：…たとえば北斎ホールにある施設やなにかを有効に活用することで、この中をやたらと仕切ってしまう。そういう計画にしていきたい。
2007 年 11/26	第 2 回		ホールの諸施設と連携させて交流や子育て等の諸機能を分担させることに	2 回KIN306：では、重点課題の 1 として、北斎ホールとどう一体化するのかという課題があります、図書館の一部の役割を担う視点から繋げてはどうかという意見があります、…
2008 年 1/16	第 4 回,	エントランス, カウンター, 子どもコーナー	「北斎ホール」との連結が土地の高低差から無理があることが判り、当面は連結しないことを条件 ▼	4 回古谷 23：…今はつながないんですけど、将来何か北斎ホールとつなげることを考えて…こここの 2 階にスロープでアクセスするというのはあまり現実性がない…
2008 年 3/19	第 6 回,		ホールの諸施設と連携させようと考えていた機能を新図書館の中でどう配置するかに	6 回古谷 374: 子どもの中に一緒に高齢者が入ってそこで一緒に読んで…
2008 年 4/19	第 8 回			8 回古谷 494：…間仕切りで仕切るのではなく、家具とか本棚とかそういうもので柔らかに仕切って子どもさんのコーナーをつくってはどうか？…
2008 年 6/23	第 10 回,	屋根, 木, アカマツ	7 月 24 日に入札があり、不調に終わり 9 月 22 日に再入札。第 10 回は入札前に、第 11 回は入札後にあたり、どちらもコスト調整の観点からコストダウンが要請 ▼	10 回古谷 11：…金額を決定する上で、…まず、外部の仕上げ、…当初最も、予算を許せば最もいいと思うのはチタンだとして報告しました、…実際に計算してみますと、チタンの金額を入れるのはちょっと、…亜鉛メッキステンレス鋼板、と呼ばれるものにしようというふうに思っています、
2008 年 10/7	第 11 回		設計の最終段階でのコストカットのため「素材」が変更	11 回古谷 207：…ここではフッ素樹脂のガルバリウム鋼板にしたことで、…
2008 年 12/14	第 12 回,	情報, 選書 職員	工事や発注が開始され、ハード面についての討議に後戻りできない ▼	12 回設計Y1：…10 月 22 日に起工式という…
2009 年 1/9	第 13 回		ハード面で積み残してきた課題や竣工後の運営に向けたソフト（蔵書の電算化、警備）面に	12 回KIN42：…電算化に向けた作業がどこまでいっているか…だんだん電算化のための機材を運び込んだり、…電算化のデータ入力してくださる方を町報などで公募し、… 12 回館長 43：…運営ビジョン案に即して話を… 13 回設計Y243：設計の方で言いますと、外警備というのは、まだ未発注なんですね。…これだという決定はまだしてないので、皆さんの意見を伺って…。

次に、第4回、6回、8回の会議での頻出単語は{エントランス,カウンター,子どもコーナー}等であった。実際にこの時期の発話から、図書館の入口の位置を決める際に、入口までの土地の高低差をどう処理するかを検討する中で「北斎ホール」との連結が土地の高低差から困難であることが判り、今は連結しないという条件の変化があったことが分かった。そのため、ホールの諸施設と連携させようと考え

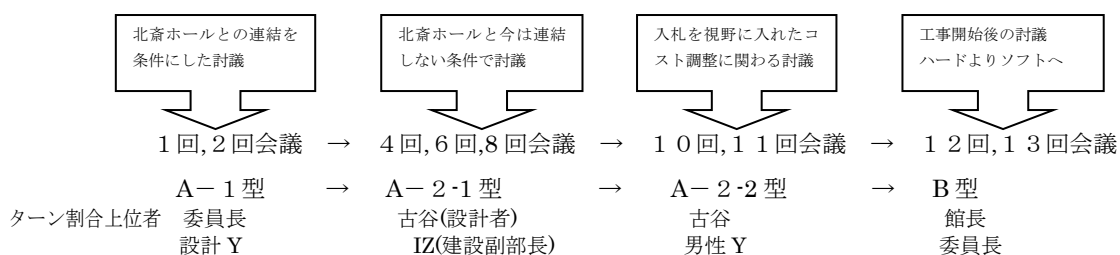
ていた機能を新図書館の中でどう配置するかが討議されていたことが分かった。

さらに、第 10 回、11 回の会議での頻出単語は{屋根、木、アカマツ}等である。この 2 つの会議の間には工事入札が行われ、それが不調に終わり再入札されたことが分かった^{注6}。実際にその前の第 10 回でもコスト調整に係る発話が見られるが、その後の第 11 回でも更なるコストダウンに言及した発話が見られるなど、屋根や外構についてのコスト調整について討議された時期に当たることが分かった。

さらに 12 回、13 回の会議での頻出単語は{情報、選書}等である。実際の発話からこの直前に工事が開始され、建築資材の発注が始まったことが分かった。よって図書館のハード面で積み残してきた課題や竣工後の運営に向けたソフト面に話題が移った時期に当たることが分かった。

以上のように、ターン割合上位者の変遷を討議テーマの変遷と見立てて分節化した 4 つの時期区分がテーマの変遷と一致するとともに、討議の外的条件（状況）の変化からも説明可能なことが確認された。

さらに会議録を初回から 13 回まですべて読んだ結果から、この 4 つの時期に分節化された＜意味＞を考察すると^{注7}次のようにまとめることができる。すなわち、ターン割合上位者の変化が（これらの時期の境に）生じた理由を考察してみた。



■図 7-2-2 ターン割合の変化に伴う会議の構造と外部条件の変化との関係

まず、初回と第 2 回は、設計者側の基本的考えとして隣接する北斎ホールと連結することにより新図書館をなるべく特定目的で仕切らないようにしたいという理念が前提としてあったため、設計者側が討議をリードした時期であると言える。その中で争点は第 2 回で先鋭化したものの、第 2 回は「古谷」が欠席し代理の「設計 Y」が設計者側の発話者となったため、設計者側は町民側にやや押される形勢となり、そのため委員長がフォロワー^{注8}としてかなり多くの発話をする事となったことが会議録を読んで分かる。その結果、初回から第 2 回まで通して見ると^{注9}、委員長がターン割合 1 位者となったと説明できる。

第 4 回からは、討議の前提としてすでに北斎ホールとの連結は白紙となっており、連結しない前提で討議となったため、新図書館の中に「お話し会」等の活動スペースがあってよいこととなり、もっぱら新図書館内の空間のレイアウトについて討議されることとなり、地元の設計士でもある建設部会副会長「IZ」が「古谷」に次いで活発に発話することとなったことが会議録を読んで分かる。

第 10 回と 11 回は入札前後の実施設計について討議された時期であり、実施設計段階とあって、も

⁶ 公開されている第 11 回会議録の町長の発話「…7 月 24 日に入札をしたところ、これが不調に終わって…」から分かる。

⁷ JMP パーティションは、単にターン割合上位者の構成が類似する会議をグルーピングしているのではなく、初回から最終回までのシーケンスの中での変化を捉えながら、その変化点を分析している。よって単に各回のターン割合上位者を見てもこの時期区分は判別できない。

⁸ 「リーダーシップ」を「設計 Y」としたときの「フォロワーシップ」。

⁹ 各回個別にみるターン割合 1 位者は第 1 回は「古谷」で、第 2 回は「委員長」であり、異なる。

はや空間のレイアウトについての討議はなく、テーマは外構や植栽や屋根に移ったことが会議録を読んで分かる。「IZ」の発話がほとんどなくなったのは第 10 回に欠席していたことと、第 11 回は入札後の（設計が固まった）段階にあった（ため発言を控えた）からであると考えられる。「IZ」が欠席した 10 回に代わってターン割合の多かったのは「男性 Y」である。発話のやり取りを読むと、「IZ」の代弁を行っていた¹⁰ことが分かる。外構や植栽や屋根について「男性 Y」から執拗に疑義が挙がっているため、依然として「古谷」の発話は多くなり、その結果ターン割合 1 位者となったと考えられる。

第 12 回と 13 回は工事発注後の会議で、テーマは未発注の防犯カメラや選書や開館後の運営指針などに変わっていることが会議録を読んで分かる。「館長」の発話が多かったのは開館後を見据えて彼に討議のリードが任されたからであると考えられる¹¹。

以上のように、ターン割合上位者の変化を説明することができる。このように会議の位置づけが変わるごとにリードすべき人物が変わっている。そのためターン割合上位者の変化が会議の位置づけの変化と連動する結果となったと言える。

このことから、会議の何らかの位置づけが変わると討議プロセスが変わり、ターン割合上位者の組み合わせが変化するという当該技法の仮説の妥当性が検証された。

¹⁰ 彼は電算部会長であることから、3 部会の役員会議等で「IZ」から意見を聞いていたことが想定される。

¹¹ 実際に第 12 回も 13 回も「館長」の演説から始まっている。

第3項 真野事例の場合

この時期区分ごとに頻出単語を調べ、さらに討議テーマの推移、及び討議内容を条件づけたような外部条件（状況）の変化を調べてみた。

すなわち、表 7-2-3 のとおり、まず、第 4 回懇談会での頻出単語は{工場,道路,地域,住民}等であった。そして実際にこの時期の発話から、検討会設立の準備について討議されていたことが分かった。

次に、第 1 回検討会での頻出単語は{委員,運営,代表}等であった。実際にこの時期の発話から、それまでの懇談会から検討会（まちづくり構想策定のための準備会）という条件（会議の位置づけ）の変化があり、その組織体制について協議したことが分かった。

さらに、第 1 回,2 回の運営委員会での頻出単語は{人/歩行者,道路,工場,公園}等である。この 2 つの会議は検討会の下部組織である運営委員会¹²の進め方や検討会でのテーマについて討議された時期に当たることが分かった。

■表 7-2-3 時期区分の検証

会議録年月日	頻出単語と外部状況の変化から解釈されるテーマの推移			手掛かりとなる発話例
	該当会議	頻出単語例	外部条件（状況）の変化	
1978 年 11/4	第 4 回懇談会	工場 道路 地域 住民/地元/区民/地域住民/市民 住宅 計画 用途 地域 事業 将来 都市計画	1978 年 4 月から、「検討会」を設立することを視野に入れた、まちづくり構想策定の準備会的性格と位置付け、コンサルタントを交えた会合が始まる。第 4 回（11/4）はその「検討会」設立の具体的準備のため討議された 最終「懇談会」 。	毛利 275： ・・・まあ連合会長とか、地域の代表であってもやね、やっぱりこういう問題はね、各個人個人の利害関係に関係するんでね。・・・僕らも大事にふまえていかなと思うし。やっぱり準備委員会的で、この問題が進行していく中であればね、・・・町工場も・・・企業も・・・営業所も寄ってもらわんといかんしね。やっぱり住民だけでこの問題を、僕は解決すると思うてないし、・・・”
1978 年 12/4	第 1 回、検討会	委員 運営 検討 代表 住民/地元/区民自治会 お願い 代表者	「検討会」の設立総会 にあたり、今後どのような組織体制で協議していくのかを討議した会議。検討会で討議する具体的テーマについては「検討会」の下部組織に「運営委員会」を設立し、そこで討議することとなる。	毛利 253： やはり住民は知らないのに、おまえら何勝手にこんなこと決めたんやというね、総会が今までに多いからね、その点ではやはり運営委員の方は地元にとって帰って、多少のね、やっぱりそういう問題を提案して、住民の多少なり意見を聞いて、”
1978 年 12/20	第 1 回、第 2 回運営委員会	人/歩行者 道路 工場 公園 住民/地元/市民/地元住民委員 生活道路 自治会 施設	「運営委員会」 を今後どのような組織体制で協議していくのか、また、「検討会」でどのようなテーマについて協議していくのかを討議した会議。	毛利第 1 回 141： ・・・地域で工場を持って住んどる人、地域に工場置いて帰る人、こういう人らもやっぱよってもらう方がええとちゃうの。 毛利第 2 回 13： ・・・その場所に、あの一、憩いの場所が必要で、そしてまた青年の憩いの場所、婦人の文化的向上の場所、地域の自治会の集合場所、・・・”
1979 年 1/20				
1979 年 2/6	第 2 回検討会	住宅 市営住宅 運営 委員 工場 地元/住民商業 道路 子ども 空き家	「運営委員会」を踏まえ、まちづくり構想について討議した会議。第 1 回目の検討会がほぼ組織体制について話されたのに対して、具体的な 内容について討議した最初の検討会 。	延藤 68： 住宅についてはね、今日どう解決するかっていう方向が、こう、出てきてるような感じ”

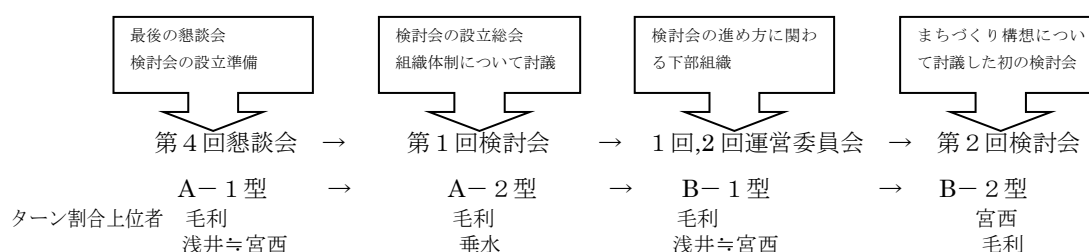
さらに第 2 回検討会での頻出単語は{住宅/市営住宅,運営,委員}等である。実際の発話から「まちづくり

¹² ただし「検討会」が総会とすれば当該会議は「幹事会」に当たるので、その意味では下部組織ではない。

構想」について実質的に討議されたことが分かった。よって＜まちづくり構想策定のための準備会として＞初めて実質的に討議された会議に当たることが分かった。

以上のように、ターン割合上位者の変遷を討議テーマの変遷と見立てて分節化した4つの時期区分が、テーマの変遷と一致するとともに、討議の外的条件（状況）の変化からも説明可能なことが確認された。

さらに会議録^{注13}を第4回懇談会から第2回検討会まですべて読んだ結果から、この4つの時期に分節化された＜意味＞を考察すると、次のようにまとめることができる。すなわち、ターン割合上位者の変化が（これらの時期の境に）生じた理由を考察してみた。



■ 図 7-2-3 ターン割合の変化に伴う会議の構造と外部条件の変化との関係

まず第1分節に当たる第4回懇談会は、前述のとおり、フォーマルな「検討会」を設立することを視野に入れて討議されてきたインフォーマルな会議の最終回に当たり、検討会でどのようなテーマを討議するのかについて関心が集中する中で、「毛利」がこれまでの公害闘争を例に出しながら用途地域指定に問題があることを焦点にしようとしていたことが会議録を読んで分かる。圧倒的に「毛利」が発話しているのは、彼が過去の経緯を引き合いに出しながら行政（事務局）に対して、住民と本気で協働する意思があるかどうかを確かめているからであることが会議録を読んで分かる。そして行政側に圧力をかける「毛利」に対して、行政側のフォロワー^{注14}として発話したのがコンサルタントの「宮西」である。その結果、ターン割合1位が「毛利」、2位が「宮西」となったと説明できる。

次に第2分節に当たる「第1回検討会」は、まちづくり構想策定の＜準備会的性格＞と位置付けられフォーマルな会議として立ち上げられた「検討会」の初回であり、その下部組織「運営委員会」も含めてどのようにして住民から代表を委員として選ぶかに関心が集中したことが会議録を読んで分かった。その中で「毛利」は地域民主主義的手続きを執拗に述べていることが分かる。またフォーマルな会議であるからリードは行政（司会進行は「垂水」）が行っている。その結果、ターン割合1位が「毛利」、2位が「垂水」となったと説明できる。

次に第3分節に当たる「運営委員会」でも、会議録を読むと「毛利」が積極的に会の方向付けをしようとしていることが分かった。第1回では運営委員に（住民ではない）町工場主を入れるかどうかといった話題になり、「毛利」が「入れるべき」と盛んに発話し、また第2回では地域に必要な公共施設は何かという話題になり^{注15}、福祉や医療機能も複合化したコミュニティ施設が必要だと盛んに発話している。これらの結果、ターン割合1位が依然として「毛利」となったと説明できる。

最後に第4分節に当たる「第2回検討会」は、（第1回目が代表者の選び方など組織体制について討

¹³ 当該事例では、当時の音声記録した磁気テープから書き起こした会議録コーパスが会議録に相当する。

¹⁴ 「リーダーシップ」を行政側（「垂水」、「浅井」）としたときの「フォロワーシップ」。

¹⁵ 最初は行政側から、公園が必要かという話題から討議に入っている。

議されたのに対して、) テーマの実質的な討議が行われた。それまで会の方向付けに積極的だった「毛利」は一委員に徹し、司会進行はこれまでの行政に変わり「宮西」が行うこととなり、彼が積極的に会議をリードしていることが会議録を読んで分かった。その結果、ターン割合 1 位が「宮西」、2 位が「毛利」となったと説明できる。

以上のように、ターン割合上位者の変化を説明することができる。このように会議の位置づけが変わるごとにリードすべき人物が変わっている。そのためターン割合上位者の変化が会議の位置づけの変化と連動する結果となったと言える。

このことから、会議の何らかの位置づけが変わると討議プロセスが変わり、ターン割合上位者の組み合わせが変化するという当該技法の仮説の妥当性が検証された。

第3節 抽出及び選定したデータのテーマ網羅性

第1項 桐生事例の場合

本項では縮約された「指標発話」とその「指標発話連鎖会話群」が討議テーマを網羅しているかどうかを検証する。

「指標発話」とその連鎖会話群が、当該時期の討議テーマをどれくらい網羅しているかについて、具体的には会議録を読んで網羅的に抽出した討議テーマと照応することで検証を行う。

表 7-3-1 は、第1分節から第4分節までに該当する会議の公開されている議事録及び会議録コーパスから網羅的に抽出した討議テーマである^{注16}。すなわち、各回の議事録から討議項目を把握し、具体的内容を知るため会議録を読み、空間や施設整備に関わる（いわゆる「ハード」の）テーマと、会の組織体制づくりや構想づくりに関わる（いわゆる「ソフト」の）テーマに分けて整理した^{注17}。

■表 7-3-1 各会議におけるテーマ

※記号は、空間や施設機能に関わるテーマは英字で、利用者や利用形態や管理に関わるテーマは数字で表す。

公開議事録から引用した討議項目	具体的論点(会議録を読んで内容を把握し要約)	記号※
2009.06.18		
■例会(第25回)		
・からくり人形芝居との今後の交流について		①
・(11月のファッションウィークで)「布まつり」を開催するかどうか	・会のイベントとして位置づけるか	②-1-1
	・業者に任せるか自分たちでやるか	②-1-2
	・来年はパッチワーク展	②-1-3
2010.02.18		
■例会(第32回)		
・アンケート実施結果について	・「今後の活動アンケート調査」の講評	③-1
・活動方針協議①(第33回テキストp-15より引用)	・寺を活用した観光という切り口について	④-1
	・共益か公益か	③-2
	・イベントの意義	④-2
	・まちなかシルバー古民家事業検討(調査の具体化、次年度に向けた事業スキーム)	A-1
2010.03.18		
■例会(第33回)		
・活動方針協議②(第33回テキストp-15より引用)	・5月総会以降3本の柱(ガーデニング、古民家活用計画、布祭り)で	③-3
	・年間スケジュール	③-4
	・6月の布祭り(パート2)	②-2
	・会員、会費をどうするか	③-5
	・例会と部会をどうするか	③-6
・町立て400年祭参加報告	・3月6日の「布まつり」の報告	②-3
2010.04.18		

¹⁶ URLに公開されている議事録は、いずれも各回の前回の会議の要旨を項目ごとに整理している。しかし要旨は作者によって不規則かつ恣意的に編集されていたことから、当該要旨に記載されている項目のみを引用するとともに、(音声から書き起こした)会議録コーパスを読んで、各項目ごとの具体的論点を把握し要約することとした。

¹⁷ 表中「ハード」のテーマについては英字で、「ソフト」のテーマについては数字で表記。同じテーマの下で複数的小テーマがある場合には枝番(-2,-3,等)で表記。「ハード」については「Tu邸の再生構想」をA、「旧今西邸の再生構想」をB、「岡田邸の再生構想」をC、「旧藤田邸の再生構想」をD、の3グループに分けて示した。「ソフト」については、登場順に「からくり人形」を①、「布祭り」を②、「会の運営」を③、「まちの活性化」を④、「ガーデニング」を⑤、その他のイベントを⑥と、6つに分けて示した。

■例会(第34回)		
・エリアマネージメントについてー勉強会		④ー3
・ガーデニング部会	・経費節減(土の再利用。プランターを半減。)	⑤ー1
	・5月18日に植え替え実施	⑤ー2
・着物・織物部会	・全員で役割分担してイベント(布市)を実行	②ー4
	・商店街フリーマーケットに合わせて開催	②ー5
・会運営の総務について	・規約に「事務担当を置く」を明記	③ー7
	・年間スケジュール	③ー4
	・会員、会費をどうするか	③ー5
	・例会と部会をどうするか	③ー6
・古民家再生部会	・具体的案件について実行段階へ	A-2 C-1
・街なかの空き地、空き店舗再生事業について	・寺所有の2つの地所についてチャレンジ	B-1 D?
・その他報告	・5月の商店街フリーマーケットに参加予定(布市を実施するかどうかは未定)	⑥ー1
2010.06.18		
■例会(第36回)		
・古民家再生部会報告	・末広町の3案件、本町6丁目の1案件(旧今西邸)を内覧	B-2
	・Tu邸については話が止まっている。	A-3
・ガーデニング部会	・5月に植え替えを実施した。	⑤ー3
・新聞記事トピック		④ー4
・歴史教室	・講師依頼予定	⑥ー2
・年間スケジュール	・例会は奇数月に開催	③ー8
	・古民家再生部会は毎月開催	③ー8
	・10月16日のイベント(十夜会)への参加協力願い	⑥ー3
	・着物部会はフリーマーケットに合わせて開催	②ー6
・出席者の感想	・外国人が和風旅館に関心(岡田邸再生に参考とすべきではないか)	C-2
	・そろそろ外向きの交流が大事。(例えば納涼会、合同勉強会など)	③ー9
2010.07.18		
■例会(第37回)		
・活動報告	・新会員	③ー10
	・補助金事業採択(国事業、県事業)	③ー11
	・歴史教室を9月～11月に予定	⑥ー2
	・群大生との交流(BBQ)を実施した	⑥ー4
	・上田市の業容改革事例を紹介	④ー5
	・第2回「町立て400年祭」への参加・協力内容	⑥ー5
	・西荻窪視察の報告	④ー6
・今後の例会、部会の進め方	・部会の構成・・・コミュニケーション部会と古民家再生部会とする	③ー12
	・テキストをどうするか(今までどおり作るか)	③ー13
2010.08.18		
■部会		
・岡田邸の再生構想について	・名称を「岡福亭」とする。	C-3
	・これまで行ってきたイベントを資料にして、その人脈から何が可能か、次回話し合う。	C-4
・Tu邸の再生構想について	・(現在住処としている)家族がどこに住むのかが解決しないと次に進めない。	A-4
	・今まで構想してきた「小規模多機能型」介護施設案は難しい状況となった。	A-5
・部会、例会の進め方について	・全員で話し合える部分と、業務上の話と2本立てでいくべき。	③ー14

	・9月までは今のスタイルでやって、9月の総会で以降のスタイルを決める。	③-15
2010.09.18		
■例会(第38回)		
・報告	・浄運寺山門でジャズライブを実施	⑥-6
	・十夜会に合わせてパッチワークキルトを開催予定	⑥-7
	・国交省補助事業で「古民家等活用研究会」を立ち上げた。	③-16
・学習	・個人情報保護法	④-7
・組織について	・「古民家再生部会」と「コミュニケーション部会」の座長決定	③-17
	・「古民家再生部会」に「プロジェクト企画室」と「住み続けたいまちづくり研究・企画室」を置いた。	③-18
	・「プロジェクト企画室」でTu邸、旧今西邸に着手	A-6 B-3
	・「住み続けたいまちづくり研究・企画室」で「藤田邸」「岡田邸」にソフト面から着手	D-1 C-5
・討議事案	・11月3日(ファッションウィーク)は、布祭りを行うが、会長Tuと大須賀Osは参加しない(別途視察へ行く)。	②-7
	・布祭りに看板(幟ばた)をつくりたい。	②-8
	・布祭りの会議を適宜招集	②-9
	・部会は毎月行う。例会は2カ月に一度、部会に続いて最後に30分くらいで行う。	③-19
	・次回の開始は7時。	③-20
	・「住み続けたいまちづくり研究・企画室」で自由に討議して具体的になったら「プロジェクト企画室」で討議。	③-21
	・今後テキストは誰が作るか、継続審議。議事内容の引用はやめる。	③-22
	・新たに議事録確認サイトを作る。	③-23
2010.10.18		
■部会		
・報告	・織物部会:11月3日の布市の進め方、予算	②-10
	・ガーデニング部会:11月頃に植え替えをやる。	⑤-4
	・歴史教室は11月18日にやる。	⑥-8
・国交省の事業(空き家ヒアリング)	・当会から2,3人協力をしていただきたい。	③-24
	・モデルケースとして岡田邸を対象にしたい。	C-6
・住み続けたいまちづくり研究室	・ハード的な部分ではなく、雇用の問題に結びつかないと結論が出ない。	③-25
	・雇用→商売→来てくれる人→どういう人を対象にするのかシナリオをみんなで考えていきたい。	③-26
2010.11.18		
■例会(第39回)		
・部会(住み続けたいまちづくり研究・企画室)	・店子を作る	④-8
	・話題提供(盛岡の空き家を宿泊に使用している事例、山形の芸子による町おこし事例)	④-9
	・売れるものを集めた場所が必要。	④-10
	・具体的な筋書き(シナリオ)を作って場所を提供することが必要。そのサポートを当会がやる。	③-27
	・職と住まいのパッケージの受け入れ体制があるとよい。→次回のテーマに。	③-28
・まちづくり活動報告・予定	・十夜会(10月16日)に合わせて着物ショー、パッチワーク展実施報告	⑥-9
	・布祭り(11月3日)実施報告	②-11
	・本町1丁目でジャズライブ実施(11月6日)	⑥-10
	・11月19日に花植え実施予定	⑤-5
	・国交省の補助事業で当会が建物所有者とのマッチングを担うことに。	③-29
・学習	・地域ケアシステムについて	④-11
・布祭り(11/3)について	・報告→反省し次回に向けて展望を話し合う	②-12

以上の整理を踏まえて、前述の「表 7-3-1 各会議におけるテーマ」に挙げた諸テーマが、テキストマイニングによる「指標発話候補」検索時、「指標発話」選定時、「指標発話連鎖会話群」作成時の各ステージにおいて、確認できるかどうかについて調べてみた。整理して示したのが表 7-3-2 である。

まず、テキストマイニングの時点（指標発話候補）ですでに多くのテーマが確認できないことが分かる。確認できなかったものは、ターン割合 1 位者の発話内容に（そのテーマが）なかったため、検索されなかったことを示している。

またテキストマイニング時点（指標発話候補）及び「指標発話」にはなかったものの、「指標会話連鎖会話群」作成過程において発現したもの（③-27,28）もある。これらは連鎖する発話の中にテーマが含まれていたものである。

またテキストマイニング時点（指標発話候補）にはあったが「指標発話」選定時以降に消えてしまったもの（②-3,⑥-2）がある。これらは、その次の「指標会話連鎖会話群」作成過程においてそのテーマが目標の共有化・争点化に至っていないことが判明したため事後的に省除したものである。

なお最初（テキストマイニング結果）から最後（指標発話連鎖会話群）まで登場していないものについて、それが分析に与える影響について以降一つ一つ検証することとする^{注18}。

■表 7-3-2 各ステージにおけるテーマ網羅性

活動や会の運営に関するテーマ(公開議事録と会議録コーパスより)				テキストマイニング結果(指標発話候補)	「指標発話」選定後	「指標発話連鎖会話群」	備 考
記号※	議事録による討議項目	具体的論点(会議録から)	討議された会議				
①	・からくり人形芝居との今後の交流について		2009.06.18	-	-	-	
②-1-1	・布祭りについて	・会のイベントとして位置づけるか	2009.06.18	Os,18・20	Os,18・20	Os,18・20 住,15・17・22・24・36 佐,25・28・31・33・35 近,16・21・26・30 東,3・7・9 参,1	2009年11月布祭りについて
②-1-2	・布祭りについて	・業者に任せるか自分たちでやるか	2009.06.18	Os,37・65	-	-	2009年11月布祭りについて
②-1-3	・布祭りについて	・来年はパッチワーク展	2009.06.18	Os,34	-	Os,34・35・38 住,39	来年の布祭り
③-1	・アンケート実施結果について	・「今後の活動アンケート調査」	2010.02.18	-	-	-	
③-2	・活動方針協議①	・共益か公益か	2010.02.18	-	-	-	
④-1	・活動方針協議①	・寺を活用した観光という切り口について	2010.02.18	-	-	-	
④-2	・活動方針協議①	・イベントの意義	2010.02.18	Os,3	-	Os,3 佐,1	
A-1	・活動方針協議①	・まちなかシルバー古民家事業検討(調査の具体化、次年度に向けた事業スキーム)	2010.02.18	-	-	-	
②-3	・町立て400年祭参加報告	・3月6日の「布まつり」の報告	2010.03.18	Os,500	-	-	2010年3月布祭りについて
③-3	・活動方針協議②	・5月総会以降3は本の柱(ガーデニング、古民家活用計画、布祭り)で進める。	2010.03.18	Os,40	Os,40	Os,40 平,43	イベントをどう進めるか
③-4	・活動方針協議②	・年間スケジュール	2010.03.18	-	-	-	
②-2	・活動方針協議②	・6月に布祭り(パート2)	2010.03.18	Os,482・497・500・543・560・562・568・618・634	Os,543・560	Os,543・556・560 近,551・553・555・557	昨年11月の布祭りへの批判も含む
③-5	・活動方針協議②	・会員、会費をどうするか	2010.03.18	-	-	-	

18 当該テーマが網羅されていなかったことが、当該技法の目的とする目標表現の共有過程や意見対立の解消過程を見る過程で支障がないことを説明する。

③-6	・活動方針協議②	・例会と部会をどうするか	2010.03.18	Os,123	Os,123	Os,117・123 住,116・118・ 120・122 加,124・128 Ka,125・127	イベント部会について
②-4	・着物・織物部会	・全員で役割分担してイベント(布市)を執行	2010.04.18	-	-	-	
②-5	・着物・織物部会	・布市は商店街フリーマーケットに合わせて開催	2010.04.18	-	-	-	
③-4	・これからの活動方向について	・年間スケジュール	2010.04.18	-	-	-	議事項目は4月定例会テキストより引用
③-5	・これからの活動方向について	・会員、会費をどうするか	2010.04.18	-	-	-	議事項目は4月定例会テキストより引用
③-6	・これからの活動方向について	・例会と部会をどうするか	2010.04.18	住,337・350	住,350	住,347・348・350 Os,351 加,352	議事項目は4月定例会テキストより引用
③-7	・会運営の総務について	・規約に「事務担当を置く」を明記	2010.04.18	-	-	-	
④-3	・エリアマネージメントについて 一勉強会		2010.04.18	-	-	-	
⑤-1	・ガーデニング部会	・経費節減(土の再利用。プランターを半減。)	2010.04.18	-	-	-	
⑤-2	・ガーデニング部会	・5月18日に植え替え実施	2010.04.18	-	-	-	
⑥-1	・その他報告	・5月の商店街フリーマーケットに参加予定(布市を実施するかどうかは未定)	2010.04.18	-	-	-	
A-2	・古民家再生部会	・具体的案件について実行段階へ	2010.04.18	-	-	-	
B-1	・街なかの空き地、空き店舗再生事業について	・寺所有の2つの地所についてチャレンジ	2010.04.18	住,104	住,104	住,40・104 加,102	旧今西邸
D?	・街なかの空き地、空き店舗再生事業について	・寺所有の2つの地所についてチャレンジ	2010.04.18	住,95・97	-	-	※おそらく藤田邸をさすものと思われる。
C-1	・古民家再生部会	・具体的案件について実行段階へ	2010.04.18	Tu,119・132	Tu,132	Tu,132・134 岡,133	議事録ではKaの発話だが、Tuの発話からも確認できる
②-6	・年間スケジュール	・着物部会はフリーマーケットに合わせて開催	2010.06.18	-	-	-	
③-8	・年間スケジュール	・例会は奇数月に開催	2010.06.18	-	-	-	
③-8	・年間スケジュール	・古民家再生部会は毎月開催	2010.06.18	-	-	-	
③-9	・出席者の感想	・そろそろ外向きの交流が大事。(例えば納涼会、合同勉強会など)	2010.06.18	-	-	-	北川氏の感想から引用
④-4	・新聞記事トピック		2010.06.18	-	-	-	
⑤-3	・ガーデニング部会	・5月に植え替えを実施した。	2010.06.18	-	-	-	
⑥-2	・歴史教室	・歴史教室講師依頼予定	2010.06.18	Tu,54 住,277・280・ 286・288	-	-	
⑥-3	・年間スケジュール	・10月16日のイベント(十夜会)への参加協力願い	2010.06.18	-	-	-	
A-3	・古民家再生部会報告	・Tu邸については話が止まっている。	2010.06.18	-	-	-	
B-2	・古民家再生部会報告	・末広町の3案件、本町6丁目の1案件(旧今西邸)を内覧	2010.06.18	-	-	-	
C-2	・出席者の感想	・外国人が和風旅館に関心(岡田邸再生に参考とすべきではないか)	2010.06.18	-	-	-	
③-10	・活動報告	・新会員	2010.07.18	-	-	-	
③-11	・活動報告	・補助金事業採択(国事業、県事業)	2010.07.18	-	-	-	
③-12	・今後の例会、部会の進め方	・部会の構成・・・コミュニケーション部会と古民家再生部会とする	2010.07.18	Ka, 68・69・ 70・72・75・76・ 108・109・112・ 113・121・156・ 157・163・168・ 180・191・193	Ka, 68・69・ 70・75・76・ 108・109・ 156・157・180	Ka, 68・69・70・ 71・72・75・76・ 108・109・156・ 157・158・159・ 161・163・164・ 166・167・168・ 178・180・191・ 193・194・197 Os,66 Tu,71・77・79・ 93・165 Ku,92 参,170・171 佐,172・174・ 175・177 近,110・111 東,78・80 加,192・195・196	古民家再生部会について

③-13	・今後の例会、部会の進め方	・テキストをどうするか(今までどおり作るか)	2010.07.18	-	-	-	
④-5	・活動報告	・上田市の業容改革事例を紹介	2010.07.18	-	-	-	
④-6	・活動報告	・西荻窪視察の報告	2010.07.18	-	-	-	
⑥-2	・活動報告	・歴史教室を9月～11月に予定	2010.07.18	-	-	-	6月の発話にもある
⑥-4	・活動報告	・群大生との交流(BBQ)を実施した	2010.07.18	-	-	-	
⑥-5	・活動報告	・第2回「町立て400年祭」への参加・協力内容	2010.07.18	-	-	-	
③-14	・部会、例会の進め方について	・全員で話し合える部分と、業務上の話と2本立てしていくべき。	2010.08.18	Ka, 20・77・89・94	Ka,77・89・94	Ka,77～80・89・94・96 Ku,81 Tu,82～84 岡,91・92・95・97	古民家再生部会について
③-15	・部会、例会の進め方について	・9月までは今のスタイルでやって、9月の総会で以降のスタイルを決める。	2010.08.18	-	-	-	
A-4	・Tu邸の再生構想について	・(現在住処としている)家族がどこに住むのかが解決しないと次に進めない。	2010.08.18	-	-	-	
A-5	・Tu邸の再生構想について	・今まで構想してきた「小規模多機能型」介護施設案は難しい状況となった。	2010.08.18	-	-	-	
C-4	・岡田邸の再生構想について	・これまで行ってきたイベントを資料にして、その人脈から何が可能か、次回話し合う。	2010.08.18	-	-	-	
C-3	・岡田邸の再生構想について	・名称を「岡福亭」とする。	2010.08.18	-	-	-	
②-7	・討議事案	・11月3日(ファッションウィーク)は、布祭りを行うが、会長Tuと大須賀Osは参加しない(別途視察へ行く)。	2010.09.18	-	-	-	2010年11月布祭りについて
②-8	・討議事案	・布祭りに看板(幟)をつくりたい。	2010.09.18	-	-	-	2010年11月布祭りについて
②-9	・討議事案	・布祭りの会議を適宜招集	2010.09.18	-	-	-	2010年11月布祭りについて
③-16	・報告	・国交省補助事業で「古民家等活用研究会」を立ち上げた。	2010.09.18	-	-	-	
③-17	・組織について	・「古民家再生部会」と「コミュニケーション部会」の座長決定	2010.09.18	-	-	-	
③-18	・組織について	・「古民家再生部会」に「プロジェクト企画室」と「住み続けたいまちづくり研究・企画室」を置いた。	2010.09.18	Ka, 25・26・28・31・36・193・265	Ka, 25・26・31・193・265	Ka, 25・26・31 Tu,24	
③-19	・討議事案	・部会は毎月行方。例会は2カ月に一度、部会に続いて最後に30分くらいで行う。	2010.09.18	Ka, 197・199・201・229・233・235・236・242・250・277・279・281・286・301・303・316・357	Ka, 197・229・233・250・277	Ka, 193・195・197・229・233・242・244・250 Tu,196・243・245・247・249・278 加,227 宮,230 KU,248・279	
③-20	・討議事案	・次回の開始は7時。	2010.09.18	-	-	-	
③-21	・討議事案	・「住み続けたいまちづくり研究・企画室」で自由に討議して具体的にになったら「プロジェクト企画室」で討議。	2010.09.18	-	-	-	2つの企画室の関連
③-22	・討議事案	・今後テキストは誰が作るか、継続審議。議事内容の引用はやめる。	2010.09.18	-	-	-	
③-23	・討議事案	・新たに議事録確認サイトを作	2010.09.18	-	-	-	
④-7	・学習	・個人情報保護法	2010.09.18	-	-	-	
⑥-6	・報告	・浄運寺山門でジャズライブを実施	2010.09.18	-	-	-	
⑥-7	・報告	・十夜会に合わせてパッチワークキルトを開催予定	2010.09.18	-	-	-	
A-6	・組織について	・「プロジェクト企画室」でTu邸、旧今西邸に着手	2010.09.18	-	-	-	
B-3	・組織について	・「プロジェクト企画室」でTu邸、旧今西邸に着手	2010.09.18	-	-	-	
C-5	・組織について	・「住み続けたいまちづくり研究・企画室」で「藤田邸」「岡田邸」にソフト面から着手	2010.09.18	-	-	-	

D-1	・組織について	・「住み続けたいまちづくり研究・企画室」で「藤田邸」「岡田邸」にソフト面から着手	2010.09.18	-	-	-	
②-10	・報告	・織物部会:11月3日の布市の進め方、予算	2010.10.18	-	-	-	2010年11月布祭りについて
③-24	・国交省の事業(空き家ヒアリング)	・当会から2,3人協力をしていただきたい。	2010.10.18	-	-	-	
③-25	・住み続けたいまちづくり研究室	・ハード的な部分ではなく、雇用の問題に結びつかないと結論が出ない。	2010.10.18	Ka,74	Ka,74	Ka,74 平,75	旧「古民家再生部会」
③-26	・住み続けたいまちづくり研究室	・雇用→商売→来てくれる人→ どういふ人を対象にするのかシナリオをみんなで考えていきたい。	2010.10.18	Ka,96・128・160	Ka,96	Ka,96・97・128 参,109 住,129	旧「古民家再生部会」
⑤-4	・報告	・ガーデニング部会:11月頃に 植え替えをやる。	2010.10.18	-	-	-	
⑥-8	・報告	・歴史教室は11月18日にやる。	2010.10.18	-	-	-	
C-6	・国交省の事業(空き家ヒアリング)	・モデルケースとして岡田邸を対象にしたい。	2010.10.18	-	-	-	
②-11	・まちづくり活動報告・予定	・布祭り(11月3日)実施報告	2010.11.18	-	-	-	2010年11月布祭りについて
②-12	・布祭りについて	・報告→反省し次回に向けて 展望を話し合う	2010.11.18	Ka,258・323	Ka,323	Ka,323 近,324	2010年11月布祭りについて
③-27	・部会(住み続けたいまちづくり 研究・企画室)	・具体的な筋書き(シナリオ)を作 って場所を提供することが 必要。そのサポートを当会が やる。	2010.11.18	-	-	槇,196	
③-28	・部会(住み続けたいまちづくり 研究・企画室)	・職と住まいのパッケージの受 け入れ体制があるとよい。一次 回のテーマに。	2010.11.18	-	-	槇,196	
③-29	・まちづくり活動報告・予定	・国交省の補助事業で当会が 建物所有者とのマッチングを 担うことに。	2010.11.18	-	-	-	
④-8	・部会(住み続けたいまちづくり 研究・企画室)	・店子を作る	2010.11.18	Ka,28・46・ 79・148・197	Ka,197	Ka,197 槇,196 住,198	
④-9	・部会(住み続けたいまちづくり 研究・企画室)	・話題提供(盛岡の空き家を宿 泊に使用している事例、山形 の芸子による町おこし事例)	2010.11.18	-	-	-	
④-10	・部会(住み続けたいまちづくり 研究・企画室)	・売れるものを集めた場所が 必要。	2010.11.18	-	-	-	
④-11	・学習	・地域ケアシステムについて	2010.11.18	-	-	-	
⑤-5	・まちづくり活動報告・予定	・11月19日に花植え実施予定	2010.11.18	-	-	-	
⑥-9	・まちづくり活動報告・予定	・十夜会(10月16日)に合わせ て着物ショー、パッチワーク展 実施報告	2010.11.18	-	-	-	
⑥-10	・まちづくり活動報告・予定	・本町1丁目でジャズライブ実 施(11月6日)	2010.11.18	-	-	-	

※表側(ひょうそく)はテーマの記号毎に色分けしている。

まず、各ステージを通して確認できたテーマと時期を右表に表した。これらを差し引いて考えると、ソフトについては①（からくり人形）、⑤（ガーデニング）、⑥（その他のイベント）が、またハードについてはA（Tu 邸）、D（旧藤田邸）が、全く確認できなかったことが分かる。

会議録を読んで確かめたところ、いずれも話題としては挙げたものの討議されていない（したがって目標の共有化過程や争点がない）ことが分かった。

また②（布祭り）についても②－4～11 まで、③は1, 2, 4, 5, 7, 8、④は1, 3～7, 9～11 についても話題は挙げたものの討議されていないことが分かった。

これらはいずれも司会進行役ないしコンサルタントから一方的に提示され、賛成も反対も出されていないものばかりであった。

なお、討議されているか否かについては、（当該技法上は「指標発話連鎖会話群」の作成過程で前後に連鎖する発話を見ながら確認していくだけであるが、）ここでは検証のため会議録検索^{注19}で確認作業を行った。

ただし、④－1（寺を活用した観光という切り口について）は、成員から提案が出され、それに対して住職が否定するという、賛成・反対の構造が見られた^{注20}。

にもかかわらず、当該期間のターン割合 1 位者の発話からは抽出することができなかった原因については、1 つは、賛成・反対のターンが 1 度限りで終わっていたことが挙げられる。またもう一つは、ターン割合 1 位者（Os）が、司会進行を行っていたことから「見かけ上」^{注21}のターンが多かったことが挙げられる。（2010 年 2 月の会議を含む第 1 分節の）次のターン割合 2 位者（住職）からは④－1 を検索することができた。

しかしながら、争点を含んでいないこと、そしてこの賛成・反対の当事者となっている成員（近藤と住職）間には（④－1 についての）対立構造がないことから、当該技法の目的からは重要視すべき問題ではないと考えられる。

全ステージで確認できなかったテーマは（④－1 を除いては）いずれも、それに他者が賛同して目標を共有するような過程も、賛成・反対の対立構造も見られなかった。

また④－1 も争点や対立関係には至っていないことが分かったので、いずれのテーマも当該技法の分析上影響を与えないことが確認できた。

■表 7-3-3 各ステージで確認できるテーマ

時期区分		ソフトについての討議	ハードについての討議
第 1 分節	2009. 6	②布祭り	
	2010. 2	④まちの活性化(イベント)	
	2010. 3		
第 2 分節	2010. 4	③部会と例会	B 旧今西邸 C 岡田邸
	2010. 6		
第 3 分節	2010. 7		
	2010. 8	③部会と例会	
第 4 分節	2010. 9	③部会と例会	
	2010. 10	③雇用をテーマに	
	2010. 11	③職と住居のパッケージ ④まちの活性化(店子を作る)	

¹⁹ 会議録コーパスからこれらの単語検索を行い、抽出された全ての発話を読んで確認した。

²⁰ 争点となっていない。

²¹ 次のステージの「指標発話連鎖会話群」の作成過程で前後に連鎖する発話を詳細に（それらの多くが目標の共有化過程や争点に繋がって行くかどうかを）見ていくと、この時節の Os の多くの発話が争点に繋がっていないことが分かる。

第2項 小布施事例の場合

本項では縮約された「指標発話」とその「指標発話連鎖会話群」が討議テーマを網羅しているかどうかを検証する。

「指標発話」とその連鎖会話群が、当該時期の討議テーマをどれくらい網羅しているかについて、具体的には会議録を読んで網羅的に抽出した討議テーマと照応することで検証を行う。

表 7-3-4 は、初回から第 13 回までの会議録を筆者が読んで網羅的に抽出した討議テーマである^{注22}。

すなわち公開サイトで示されている各回の討議項目について、具体的内容を知るため会議録を読み、空間や施設機能に関わる（いわゆる「ハード」の）テーマと、利用者や利用形態や管理に関わる（いわゆる「ソフト」の）テーマに分けて整理した^{注23}。

■表 7-3-4 各会議におけるテーマ

※記号は、空間や施設機能に関わるテーマは英字で、利用者や利用形態や管理に関わるテーマは数字で表す。

公開サイトにおける討議内容(項目)	会議録を読んで	記号※
H19.11.16		
■図書館建設運営委員会(第1回)		
・これまでの経過と設計者からの提案について	・北斎ホール等既存施設の有効活用	A
	・内部を仕切らない構造	B
	・北斎ホール側桜の保存	C
・図書館建設運営委員会の役割と役員選出について		
H19.11.26		
■第2回 図書館建設運営委員会		
・前回の経過と今後の進め方について	・交流センターの意味	①
	・カフェコーナーの必要性	D
	・タイムシェアリングの提案	②
・図書館建設運営委員会 重点課題について(全体討議)		
	・北斎ホールとの一体化の仕方	A-2
	・カフェコーナーのあり方	D-2
	・寒冷地に対応した屋根の形や素材	E
	・防犯上目隠しになる植栽の問題	F
	・床暖房、床の素材	G
	・土足と裸足の分け方	H
	・正面玄関の位置	I
	・エレベーターを設置するか	A-3
	・駐車場からの動線	J
	・カウンターの配置	K
	・高齢者や車いす等への配慮	L
	・多目的な部屋の必要性	M
	・音の問題と交流、タイムシェアリング	②-2
	・トイレの在り方	N

²² これらのテーマは、会議録のほか、小布施町図書館の公式サイト URL : <http://machitoshoterrasow.com/pg802.html> で公開されている各会議のテーマ(項目)を参考にして作成した。

²³ 表中「ハード」のテーマについては英字で、「ソフト」のテーマについては数字で表記。同じテーマの下で複数の小テーマがある場合には枝番(ー2,ー3,等)で表記。

H20. 1. 16		
■第 4 回 図書館建設運営委員会		
・専門部会報告と要望について		
・建設運営委員会の要望を受けてからの、設計者からの再提案について	・コンシェルジュカウンターの提案	K-2
	・北斎ホールと連結しない	A-3
	・切妻でない屋根形状	O
	・雨風対策	P
	・ゲートのセンサーはつけない	Q
・現状の問題点と討議の仕方についての意見・アドバイス	・閉架、調査閲覧室の必要性	R
H20. 3.19		
■第 6 回 図書館建設運営委員会		
・基本設計の報告	・子どもコーナー	S
	・多目的室	M-2
	・閉架書庫	T
・ワークショップ(家具について)	・新聞閲覧コーナー	U
	・閲覧席	V
H20. 4.19		
■第 8 回 図書館建設運営委員会		
・新体制の紹介	・建設部会と運営部会の合体	③
・前回の経緯報告		
・設計者よりこれまでの経過説明	・コンシェルジュカウンターとサービスカウンターの一体化	K-3
	・給水給湯設備(カフェコーナー)	D-3
	・書架(本棚)	W
	・スロープ、除雪、エントランスの位置	I-2
	・植栽樹種	F-2
	・雪対策(すがもり、ツララ等)	E-2
	・視聴覚コーナー	X
・質疑応答	・書架の高さ	W-2
	・子どもコーナーの開放度	S-2
H20. 6.23		
■第10回 図書館建設運営委員会		
・事務局からの連絡		
・実施設計の報告	・たまごトイレ	N-2
	・校庭側の植栽(アカマツ)	F-3
	・小学校側ヒマラヤスギの移植	Y
	・駐車場の位置	J-2
	・床のカーペット	G-2
	・空調	G-3
	・屋根素材(ステンレス)	E-3
	・本棚素材	W-3
	・環境に優しい素材	④
・質疑応答	・泥や雨対策(風除室)	Z
	・コールドルーフ	E-4
	・外構の凍結対策	I-3
	・アカマツ	F-4

H20.10. 7		
■第11回 図書館建設運営委員会		
・町長あいさつ		
・事務局から入札に至るまでの経緯と報告	・入札の不調による設計変更 (コストダウン)の経緯	⑤
・設計者古谷氏からの報告・質疑応答		
・今後の進め方		
〈主な設計変更点〉		
・屋根主要構造 曲げ加工の鉄骨梁 → 直線材で構成		E-5
・コールドルーフ(つらら対策のため通気層を計画) → 断熱材で対処		E-6
・曲面屋根仕上げ材:亜鉛メッキステンレス鋼板 → フッ素樹脂塗装ガルバリウム鋼板		E-7
・たまご型トイレの壁:鉄板仕上げ → ボード仕上げ		N-3
・北側外壁 鉄板仕上げ → 左官仕上げ		N-4
・多目的ルーム:2室に分けて使用するため の可動間仕切り → 取り やめ		M-3
・植栽 建設と同時進行 → 今後の計画とする		F-5
・外構 建物東側(プールとの間) → スロープ状のまま		I-4
H20.12.4		
■第12回 図書館建設運営委員会		
・事務局からの報告		
・工事進捗状況の報告(ナスカー級建築士事務所)		
・運営ビジョン案について	・公募町民によるデータ入力	⑥
	・選書チームの立ち上げ	⑦
	・館名とCIについて	⑧
・電算化プレゼンテーション(早稻田システム開発株式会社)	・デジタルアーカイブ	⑨
・その他	・植栽検討委員会の提案	⑩
H21.1.9		
■第13回 図書館建設運営委員会		
・事務局からの報告		
・工事進捗状況の報告(ナスカー級建築士事務所)		
・現場監督の紹介		
・運営について		
家具の配置	・本棚の向き	W-4
植栽	・予算がなくなった、寄附案	F-6
選書方法	・選書委員会の在り方	⑦-2
セキュリティ対策	・防犯カメラと個人情報の絡み	⑪
・その他	・開館時間	⑫

以上の整理を踏まえて、前述の「表 7-3-4 各会議におけるテーマ」に挙げた諸テーマが、テキストマイニングによる「指標発話」検索時、「指標発話」選定時、「指標発話連鎖会話群」作成時、の各ステージにおいて確認できるかどうかについて調べてみた。整理して示したのが表 7-3-5 である。

まず、テキストマイニングによって指標発話を検索した時点ではほぼ全てを網羅していることが分かる。そして「指標発話」選定後にいくつか消えている。これら A-3,E-2,F-1,G-1,G-2,G-3,J-2,L,N-1,N-2,N-4,O,P,Q,R,V,W-2,W-3,Y,Z は、その次の「指標会話連鎖会話群」作成過程においてそのテーマが争点化していないことが判明したため事後的に省除したものである。

■表 7-3-5 各ステージにおけるテーマ網羅性

図書館HPと会議録より		テキストマイニング結果(指標発話候補)	「指標発話」選定後	「指標発話連鎖会話群」	備 考
空間や施設機能に関わるテーマ		討議された会議			
A-1	・北斎ホール等既存施設の有効活用	第1回	—	—	女A,50・51
B	・内部を仕切らない構造	第1回	—	—	古,28
C	・北斎ホール側桜の保存	第1回	—	—	—
A-2	・北斎ホールとの一体化の仕方	第2回	委員長, 306・307・317・342・464	委員長, 306	委員長, 306 1回古,28・63 1回女A,50・51
A-3	・エレベーターを設置するか	第2回	委員長,342・447	—	—
D-1	・カフェコーナーの必要性	第2回	委員長, 326・329・337	委員長, 326	委員長, 326 IZ,330 設Y,335・336
D-2	・カフェコーナーのあり方	第2回	委員長, 326	委員長, 326	—
E-1	・寒冷地に対応した屋根の形や素材	第2回	—	—	—
F-1	・防犯上目隠しになる植栽の問題	第2回	委員長,378	—	—
G-1	・床暖房、床の素材	第2回	委員長,393	—	—
H	・土足と裸足の分け方	第2回	委員長,410	—	—
I-1	・正面玄関の位置	第2回	委員長,445	—	—
J-1	・駐車場からの動線	第2回	—	—	—
K-1	・カウンターの配置	第2回	—	—	—
L	・高齢者や車いす等への配慮	第2回	委員長,445・447・451	—	—
M-1	・多目的な部屋の必要性	第2回	—	—	委員長,296 女A,289・291 女D,283・284
N-1	・トイレの在り方	第2回	委員長,456	—	—
①	・交流センターの意味	第2回	委員長, 265・269・278	委員長,265	委員長,265 女D,264 1回古,28 1回女A,50・51
②-1	・タイムシェアリングの提案	第2回	委員長,287	委員長,287	委員長,287
②-2	・音の問題と交流、タイムシェアリング	第2回	委員長,287	委員長,287	委員長,287 館長,286・290 女A,289・291 女D,283・284 設計Y,282
K-2	・コンシェルジュカウンターの提案	第4回	古谷, 69・70・72・74・76・80・81・83・90・101・105・111・149・187	古谷,69・105	古谷,69・105・119 女K,68 事K,106 館長,117
O	・切妻でない屋根形状	第4回	古谷,270	—	—
P	・雨風対策	第4回	古谷,378	—	—
Q	・ゲートのセンサーはつけない	第4回	古谷,83	—	—
R	・閉架、調査閲覧室の必要性	第4回	古谷,143・151	—	—
M-2	・多目的室	第6回	古谷,196・374	古谷,374	古谷,196・208・213・374 女N,207・211
S	・子どもコーナー	第6回	古谷,213・374	古谷,213・374	古谷,213・374
T	・閉架書庫	第6回	古谷,196	—	—
U	・新聞閲覧コーナー	第6回	古谷,374	古谷,374	—
V	・閲覧席	第6回	古谷,374	—	—
D-3	・給水給湯設備(カフェコーナー)	第8回	古谷,398	古谷,398	古谷,398・6回古谷,216 6回IZ,227・242 6回館長,241 6回女N,215・238
E-2	・雪対策(すきり、ツララ等)	第8回	古谷,437・440	—	—
F-2	・植栽樹種	第8回	—	—	—
I-2	・スロープ、除雪、エントランスの位置	第8回	古谷,437・440	—	—
K-3	・コンシェルジュカウンターとサービスカウンターの一体化	第8回	古谷,398	古谷,398	古谷,398

(表 7-3-5 のつづき)

W-1	・書架(本棚)	第8回	古谷,313・317・494	—	古谷,478・494 女O,463・464・474・479	
W-2	・書架の高さ	第8回	古谷,471・475	—	—	
X	・視聴覚コーナー	第8回	古谷,473・476	—	古谷,470～473・494	
③	・建設部会と運営部会の合体	第8回	—	—	—	建設運営部会になった
E-3	・屋根素材(ステンレス)	第10回	古谷,11・21・24	古谷,24	—	亜鉛メッキステンレス
E-4	・コールドルーフ	第10回	古谷,24・64・76	古谷,24	古谷,24・77・80 女IK,74・79 男性Y,81	
F-3	・校庭側の植栽	第10回	古谷,33・34	—	—	
F-4	・アカマツ	第10回	古谷,34・122・124・128・134	古谷,34	古谷,34・122・124 KIN,118 男性Y,121・123	
G-2	・床のカーペット	第10回	古谷,15・64	—	—	
G-3	・空調	第10回	古谷,15	—	—	床下から噴き出す仕掛け
J-2	・駐車場の位置	第10回	古谷,28	—	—	障害者用駐車場の位置
N-2	・たまご型トイレ	第10回	古谷,18	—	—	
W-3	・本棚素材	第10回	古谷,158	—	—	
Y	・小学校側ヒマラヤスギの移植	第10回	古谷,33	—	—	
Z	・泥や雨対策(風除室)	第10回	古谷,48・54	—	—	
④	・環境に優しい素材	第10回	古谷,158	—	—	
E-5	・屋根主要構造 → 曲げ加工の鉄骨梁 → 直線材で構成	第11回	古谷,197	—	—	
E-6	・コールドルーフ (つらら対策のため通気層) → 断熱材で対処	第11回	—	—	—	書庫と多目的室の上
E-7	・曲面屋根仕上げ材:亜鉛メッキステン ス鋼板 → フッ素樹脂塗装ガルバリウム 鋼板	第11回	古谷,207・209	古谷,207	古谷,207・209 女KM,206 女N,208	
F-5	・植栽 建設と同時に進行 → 今後の計画とする	第11回	古谷,225・236	古谷,236	古谷,236 女KY,235 幹事,237	
M-3	・多目的ルーム:2室に分けて使用する ため の可動間仕切り → 取りやめ	第11回	—	—	—	会議録にはこのような発話 はない。現実とも違う。
N-3	・たまご型トイレの壁:鉄板仕上げ → ボード仕上げ	第11回	—	—	—	会議録にはこのような発話 はない。
N-4	・北側外壁 鉄板仕上げ → 左官仕上げ	第11回	古谷,201	—	—	
⑤	・入札の不調による設計変更(コスト ダウン)の経緯	第11回	—	—	—	当初の見積もりが甘く入札不 調に終わった件
⑥	・公募町民によるデータ入力	第12回	館長,42	館長,42	館長,42 県協,104	
⑦	・選書チームの立ち上げ	第12回	館長,57	館長,57	館長,57 県協,103	
⑧	・館名とCIIについて	第12回	—	—	—	
⑨	・デジタルアーカイブ	第12回	館長,56・62	—	—	
⑩	・植栽検討委員会の提案	第12回	—	—	—	
F-6	・予算がなくなった、寄附案	第13回	—	—	—	
⑪	・防犯カメラと個人情報の絡み	第13回	館長,250	館長,250	館長,250 IK,249 設計Y,247 参事,245 KYM,242	
⑫	・開館時間	第13回	館長,168	館長,168	館長,168 IK,174 KYM,242	

※表側(ひょうそく)はテーマの記号毎に色分けしている。

また、調べたところこれらの中に「指標発話連鎖会話群」において「指標発話」に連鎖する発話として再登場しているもの(W-1)がある。これはそれ自体争点化していないが付随する発話として再登場したことになる。

そして最初(テキストマイニング結果)から最後(指標発話連鎖会話群)まで再登場していないものに、M-3,N-3,③,⑤,⑧,⑩がある。これらについて一つ一つ確認すると以下ようになった。

まず M-3 は会議録で確認されない情報であり、また現実とも異なるので、図書館 HP 側の何らかの誤植であると考えられる。N-3 は、会議録には該当する発話が見られなかった^{註24}。また③は3部会のうち2つの部会が一つになったことを示すものだが、このことについて特に討議されてはいない。⑤

²⁴ おそらく配布された資料中に記載されていたものと想定される。

についても事実を示すものであって具体的に討議はされていない。⑧と⑩については館長から発案があったのみで、それに対する発話がなかった。

このように、これらはいずれにしても有為な討議テーマではないことが確認できた^{注25}。なお争点化しているか否かについては、(当該技法上では「指標発話連鎖会話群」の作成過程で前後に連鎖する発話を見ながら確認していただくであるが、)ここでは検証のため会議録検索^{注26}とビデオの両方で(各単語について争点化していないかどうかの)確認作業を行った。

それらの結果、これらのほとんど全てにおいて争点化していないことが確認できたが、唯一「O 切妻でない屋根形状」については、まず会議録検索で第 8 回の古谷の発話(発話番号 396)に「…その屋根の提案が、これで良いだろうか、という議論が次に起こり、…」にあるように、いずれかの会議で争点化した可能性があることが分かり、次にビデオで調べたところ第 3 回で屋根形状について、図書館コンペの審査委員長(以降 K 氏と略す。)^{注27}から疑義が挙がっていたのを確認した。

前掲のとおり第 3 回の会議録は公開されていない。もし会議録コーパスのデータとして不足していたことが問題であれば、第 4 回と同様にビデオからテキストデータ書き起こして会議録コーパスに盛り込むべきだが、ビデオで見たところ K 氏の疑義の提示のみでそれに対する発話が無く、対話が成立していなかった。すなわち、第 3 回では疑義を挙げた K 氏の発話の確認されるばかりで、それに対して賛成ないし反対意見の存在がほとんどなかった^{注28}。このことから、仮に第 3 回の会議録を作成しコーパスに盛り込んだとしても、ターンが極めて少ないために「指標発話」として抽出される可能性も低いのみならず、発話が連鎖していないので他の「指標発話」から連鎖して検出される可能性も低い。

このように当該技法においては、特定の会議で、特定の人物が議題として挙げたとしてもそれに対してターンが十分に成立していない場合には抽出されないしくみになっているが、そのことがここで確認された。

このテーマ(屋根の形状)が実際に第 3 回の会議において争点として認識されていたかどうかについては、当時の主要な成員にヒアリング^{注29}した結果、彼らは「参加していた町民にとって重要な問題や課題としての認識は薄かったし、自分としても争点とすべき意思がなかった。」と答えている^{注30}。

このテーマの内容については筆者は重要であると考えるが、意外なことに町民側はそう認識していなかった可能性が大きい^{注31}。

以上のことから、「テキストマイニング」から「指標発話」選定及び「指標発話連鎖会話群」の抽出においては有為な討議テーマを網羅的に拾っていることが確認できた。

²⁵ また、C は S、E-1 と E-6 は E-2~5、F-2 は F-1 と F-3~5、J-1 は J-2、K は K-2、K-3 において争点内容が分かる。

²⁶ 会議録コーパスからこれらの単語を一つ一つ検索し、該当する(当該単語を含む)全ての発話を読んで確認した。

²⁷ 東京理科大学教授、川向正人。

²⁸ 委員長から K 氏に対して「では今後どのように進めたらよいのでしょうか」という質問があり、次回の第 4 回で古谷氏が説明することとなった。第 4 回では古谷氏が説明しただけで、それに対する反対ないし賛成意見は続いていない。

²⁹ この件を含めテーマを網羅しているかどうかの確認は、委員長、館長に対して 2011 年 11 月 12 日、まちとしょテラスにてインタビューを行った。また、筆者は 2010 年 3 月まで日常的に参与観察を続けていたが、町民から屋根形状に対する不満や疑義のナラティブを一度も聞いたことがない。さらに 2013 年 5 月 5 日に小布施堂にて古谷氏が「OBUSESSION」で講演された際にも、町民側からこの件に対する支持する意見は聞かれたが疑義や質問は出なかった。

³⁰ 上のインタビューの中で委員長は、屋根形状をテーマとすることは後戻りでこそあって、建設的な会議として進める実感を全く持てなかったと述べている。

³¹ このことは、ターン割合による「指標発話」の抽出方法が、争点化したテーマを抽出するための客観的なフィルター機能を果たしていると言える。

第3項 真野事例の場合

本項では縮約された「指標発話」とその「指標発話連鎖会話群」が討議テーマを網羅しているかどうかを検証する。

「指標発話」とその連鎖会話群が、当該時期の討議テーマをどれくらい網羅しているかについて、具体的には会議録を読んで網羅的に抽出した討議テーマと照応することで検証を行う。

表 7-3-6 は、第 4 回懇談会から第 2 回検討会までの会議録コーパスを筆者が読んで網羅的に抽出した討議テーマである^{注32}。すなわち、具体的内容を知るため会議録を読み、空間や施設整備に関わる（いわゆる「ハード」の）テーマと、会の組織体制づくりや構想づくりに関わる（いわゆる「ソフト」の）テーマに分けて整理した^{注33}。

■表 7-3-6 各会議におけるテーマ

※記号は、空間や施設機能に関わるテーマは英字で、利用者や利用形態や管理に関わるテーマは数字で表す。

筆者が整理した討議内容(項目)	具体的論点(まちづくり構想のタタキ台を参照に)	記号※
1978.11.04		
■懇談会(第4回)		
・これまでの公害闘争と行政の責任について	・用途地域「工業地域」指定と住環境悪化	A
・検討会の検討課題	・幹線道路未整備部分の拡幅	B
	・地区道路の拡幅整備	B-2
	・将来の人口規模	①
	・土地利用の考え方、「住宅街区」と「工場街区」	A-2
	・工場の移転(鉄工団地を幹線道路沿道に)	C
	・転がし事業(富士化成跡地利用構想)	C-2
・検討会組織の在り方	・将来に向けた準備会的組織としての位置づけ	②
	・構想段階からの住民参加	③
	・町工場、企業、営業所も参加させる	④
	・ある過程で住民会を開催	⑤
	・委員の構成(行政より地元中心)	⑥
1978.12.04		
■第1回 検討会		
・代表の決定と今後の進め方について	・自治会の代表を当会の代表とすることについて	⑦
	・運営委員会の位置づけ	⑧
	・まちづくりニュースの発行	⑨
	・タタキ台の位置づけ	⑩
	・運営委員会と地元とのフィードバック(運営委員に地元で検討会の進捗を説明させる)	⑤-2
	・住民以外の家主、地主にもフィードバック	④-2
1978.12.20		
■第1回 運営委員会		
・まちづくりニュース編集 ^{注34}	・第1回まちづくりニュースの編集	⑨-2
・運営委員会の委員選定について	・住民以外の工場主を入れるか	④-3

³² 当時の音声を記録した磁気テープしか存在しないので、それを書き起こした会議録コーパスを読んで作成した。さらに「まちづくり構想タタキ台」(図 5-2-4 参照)で整理されている項目を参考にしながら「具体的論点」を整理した。

³³ 表中「ハード」のテーマについては英字で、「ソフト」のテーマについては数字で表記。同じテーマの下で複数の小テーマがある場合には枝番(一2,一3,等)で表記。「ハード」については、「まちづくり構想タタキ台」の整理を踏まえ、「土地の利用構想」をA、「道路構想」をB、「建物構想」をC、の3グループに分けて示した。

³⁴ ただし、第1回前半の「まちづくりニュース」編集部分の(磁気テープに残る)会話は、雑談形式で討議形式ではないので、具体的に何を編集したかについてはあまり触れることができない。

1979.1.20		
■第2回 運営委員会		
・地区に必要な公共施設について	・多機能複合型コミュニティセンター	C-3
	・公園(大公園は要らない)	C-4
・道路と工場について		
	・人間優先の生活道路確保(車の入らない小路)	B-3
	・工場の移転・集団化を進める(ゲタバキ団地案)	C-5
1979.2.06		
■第2回 検討会		
・まちづくり構想の中身について	・地元優先入居可能な市営住宅	C-6
	・工場のアパート	C-7
	・若い人をどう呼び戻すか(人口の定着を図る)	①-2
	・自分たちで共同建替え、共同住宅	C-8
	・地場産業の発展(商店街の育成等)	C-9
	・学識委員らに講義していただく(学習会の開催)	⑪

以下、参考までに「まちづくり構想タタキ台」及び「計画テーマ」^{注35}での項目との照応を示す。

■7-3-6-2 参考：まちづくり構想タタキ台及び計画テーマと当該対象期間の討議テーマとの照応

「計画テーマ」の項目		「まちづくり構想検討のためのタタキ台」の項目		
計画テーマ	項目の具体内容	表5-3-6記号	項目の具体内容	
住宅環境の改善	[住宅まわりの環境を良くする] ・建てづまりをなくし、住宅まわりに植樹し、幼児の遊ぶところをつくり、安全でうるおいのある環境にしたい。	A	A-2	1. 土地利用構想 ・住宅の規模と階数 ・住宅地と工場地の配分
	[今ある住宅を改善する] ・日常の近隣づきあいを単位にして、住宅の共同化をはかり、今ある住宅を住みやすいものにしたい。		C-8	3. 建物構想 ①長屋の共同建替 ②自分たちで共同住宅を建設
	[新しい住宅をつくる] ・息子達が独立できる家、地元優先入居可能な市営住宅など、いろいろなタイプの住宅がほしい。	C-6	③公共住宅の建設	
	住宅と工場の関係改善	[今ある工場を改善する] ・住宅との共存・共栄をはかるため発生源対策等の工場側の対策を進める。	C	*
[住宅・工場の立地を誘導する] ・住宅を優先させるところ、工場を優先させるところを定め、誘導により、住宅環境を守りつつ、工場生産活動を維持する。		C		④住宅・工場の移転
[工場の移転・集団化を進める] ・公害防止が個々の改善では難しい工場は、移転や集団化することにより経営基盤の充実と公害防止をはかる。		C-5 C-7		
道路の改善		[公道を整備する] ・可能なところは道路を広げ、また道路の使い方のルールを作り、歩行者にとっても車にとっても通行しやすくする。また、今後地区内にもう少し広い道路が必要か検討する。		B
	[小路を整備する] ・行き止まりの小路をなくし、緊急時の避難路を確保し、現在の小路のもつ安全なコミュニティの場としての役割を生かし、小路と小路をつないで、地区内の主要地点に行けるような歩行者専用道路をつくる。	B-3	④緑道の整備	
	[幹線道路を整備する] ・早急な整備が望まれる。	B	①幹線道路未整備部分の拡幅	
	駐車場対策	[まちづくりの将来像にそって利用を進めていく] ・地主に、まちづくりの将来像にそった利用の協力を求める。	④	
[騒音遮断をはかる] ・国道2号沿いに高い建物を建てるよう誘導し、建物、植樹等により、騒音を遮断する。		③	*	第4回懇談会行番号151・152・154に話題あり。
施設整備	[2001年を迎えるべき施設の整備をおこなう] ・地域の福祉・文化・体育等の活動を支える施設を整備し生活を豊かにする。	C	C-3	3. 建物構想 ⑦コミュニティセンターの建設
	*は、「タタキ台」には表記されていないが、第4回懇談会から第2回検討会までの会議での発言(話題提供)として現れている。			

35 「真野まちづくり構想検討のためのタタキ台」(本文中は「まちづくり構想タタキ台」と略す。)は、1980年2月「真野地区まちづくりニュース第4号」で公表されたが、この元になったのは第3回検討会の後1979年5月「真野地区まちづくりニュース第2号」で公表された「計画テーマ」であり、その大部分は第2回検討会までに討議されている。

以上の整理を踏まえて、前述の「表 7-3-6 各会議におけるテーマ」に挙げた諸テーマが、テキストマイニングによる「指標発話」検索時、「指標発話」選定時、「指標発話連鎖会話群」作成時の各ステージにおいて、確認できるかどうかについて調べてみた。整理して示したのが表 7-3-7 である。

■表 7-3-7 各ステージにおけるテーマ網羅性

会議録及びまちづくり構想タキ台より		テキストマイニング結果(選定前の指標発話)	「指標発話」選定後	「指標発話連鎖会話群」	備 考
空間や施設整備に関わるテーマ	討議された会議				
A-1	・用途地域「工業地域」指定と住環境悪化	4回懇談 毛,17・21・23	毛,21	毛,21・27・32・39 芦,26・28・30	
A-2	・土地利用の考え方、「住宅街区」と「工場街区」	4回懇談 毛,127・137	毛,137	毛,137 T,138	
B-1	・幹線道路未整備部分の拡幅	4回懇談 毛,53・145・149・154	—	—	地区内十字部分と新湊川 治い
B-2	・地区道路の拡幅整備	4回懇談 毛,53・140	—	—	具体個所や数値は未だ話 題に出ていない。
C-1	・工場の移転(鉄工団地を幹線道路沿道に)	4回懇談 毛,126・127・136・137	毛,136	毛,136・135 T,131 宮,129・130	
C-2	・転がし事業(富土化成跡地利用構想)	4回懇談 毛,209	毛,209	毛,209	
①-1	・将来の人口規模	4回懇談 毛,32・36・37・38	—	毛,32・39	
②	・将来に向けた準備会的組織としての位置づけ	4回懇談 毛,275	毛,275	毛,269・271・273・275・277 T,276 垂水,261・265・267	
③	・構想段階からの住民参加	4回懇談 毛,241	毛,241	毛,241 宮,240	
④-1	・町工場、企業、営業所も参加させる	4回懇談 毛,275	毛,275	毛,269・271・273・275・277 T,276 垂水,261・265・267	地区外から通い、地区内 で工場を営む人の扱い
⑤-1	・ある過程で住民会を開催	4回懇談 毛,277	—	毛,277	
⑥	・委員の構成(行政より地元中心)	4回懇談 毛,327	毛,327	毛,327 浅井,326 宮,320	
④-2	・住民以外の家主、地主にもフィードバック	1回検討 —	—	T,255	
⑤-2	・運営委員会と地元とのフィードバック(運営委員に地元で進捗を説明させる)	1回検討 毛,253・276	毛,253	毛,248・253 宮,247・250・252・254 S,249・251 T,255	
⑦	・自治会の代表を当会の代表とすることについて	1回検討 毛,61・66・72・142・155	毛,72・155	毛,72・90・155 S,71・137・138・139・143 T,78・147・151・153 酒井,85 垂水,85・89・130・141 芦,154・157	2人の連合会長を代表と することについて
⑧	・運営委員会の位置づけ	1回検討 毛,110・114・119・120・ 231・248・253・277	毛,110・253・ 277	毛,110・111・112・253・277 T,99 垂水,124	会則、代表や委員の選び 方、地元との関わり
⑨-1	・まちづくりニュースの発行	1回検討 毛,227	毛,227	毛,227・229・231・233 芦,228・230・232・236・239・ 241・243 浅井,226 T,237 S,238・240・242	
⑩	・タキ台の位置づけ	1回検討 毛,248・253	毛,253	毛,248・253 宮,247・250・252・254 S,249・251 T,255	
④-3	・住民以外の工場主を入れるか	1回運営 毛,141・145	毛,141	毛,141・143 女性,139・140・142	意味は④と同じ
⑨-2	・第1回まちづくりニュースの編集	1回運営 毛,32・43・95・100・ 119・137	—	—	ニュースの中身は会議録 に存在しない。
B-3	・人間優先の生活道路確保(車の入らない小路)	2回運営 毛,73	—	毛,73	
C-3	・多機能複合型コミュニティセンター	2回運営 毛,11・13	毛,11	毛,11・13・17 T,4 垂水,12・13・16	三等郵便局、医療セン ター、等具体の機能が上 がっている。
C-4	・公園(大公園は要らない)	2回運営 毛,43・47	毛,43	毛,43・47・50 T,44 宮,49・50	
C-5	・工場の移転・集団化を進める(ゲタバキ団地案)	2回運営 毛,84・95	毛,84・95	毛,73・80・84・95・103 若者,83・92・96 垂水,82・98・102 酒井,77・79	
①-2	・若い人をどう呼び戻すか(人口の定着を図る)	2回検討 宮,42	宮,42	宮,42 橋本,40・41	
C-6	・地元優先入居可能な市営住宅	2回検討 宮,9・10・24・25	宮,25	宮,25・32 S,23 毛,20 嶋田,27・29 芦尾,30 小森,17・18・19	
C-7	・工場のアパート	2回検討 —	—	嶋田,27・29	意味はC-5と同じ
C-8	・自分たちで共同建替え、共同住宅	2回検討 宮,42	宮,42	宮,42 橋本,40・41	具体の階数、広さ、整備 手法等は未だ話題に出て
C-9	・地場産業の発展(商店街の育成等)	2回検討 宮,9・81	宮,81	宮,80・81・83 浅井,71・76・82 毛,77 延藤,68	工場だけでなく、商店や市 場のことを含む
⑪	・学識委員らに講義していただく(学習会の開催)	2回検討 宮,97	宮,97	宮,97 毛,93・94	

※表側(ひょうそく)はテーマの記号毎に色分けしている。

まず、テキストマイニングによって「指標発話候補」を検索した時点では網羅していないものもあるにもかかわらず、「指標発話連鎖会話群」作成時では、同図中「B-1」、「B-2」、「⑨-2」以外の全てを網羅していることが分かる。

テキストマイニング時点でなかったもの（C-7,④-2）は、ターン割合1位者の発話内容になかったため検索されなかったものである。またテキストマイニング時にはあったが「指標発話」選定時にいくつか消えているもの（B-1, 2, 3,①-1,⑤-1,⑨-2）は、その次の「指標会話連鎖会話群」作成過程においてそのテーマが争点化していないことが判明したため事後的に省除したものである。

また、調べたところこれらの中に「指標発話連鎖会話群」において「指標発話」に連鎖する発話として再登場しているもの（B-3,①-1,⑤-1）があることが分かった。これらは、それ自体は争点化していないが連鎖する発話が争点化しているために再登場したことになる。

なお最初（テキストマイニング結果）に登場していながら最後（指標発話連鎖会話群）に再登場していないものが、「B-1」、「B-2」、「⑨-2」である。これらについては前述のとおり、争点化していないことが分かったため事後的に省除されたものである。同時にまた⑨-2については「まちづくりニュース」の中身について知ることのできるデータが会議録になかった^{注36}からでもある。

なお、争点化しているか否かについては、（本論の技法上は「指標発話連鎖会話群」の作成過程で前後に連鎖する発話を見ながら確認していくだけであるが、）ここでは検証のため会議録検索^{注37}で確認作業を行った。

第4項 3事例のテーマの網羅実績

いずれの事例もテキストマイニングから「指標発話連鎖会話群」までほぼ変化がないことから、ターン割合1位者の発話の中に高い確率で討議テーマが入っていたことを示していると同時に、（ターン割合の変化で分節化し、各々の時期で頻出単語を抽出し、ターン割合1位者の発話の中から「指標発話」を抽出した）本論の技法の妥当性を証明している。

ただし、桐生事例の結果は、当時のコンサルタントが残した会議録要旨に示したテーマの多くが、当該技法では拾うことができなかったことを示している。

また小布施事例は、ほとんどのテーマがテキストマイニング時点で登場し、指標発話連鎖会話群を作成するまでに省除されていく傾向が見られた。

一方、小布施事例と真野事例の場合は、指標発話連鎖会話群を作成する際に初登場するテーマも若干見られた^{注38}。

³⁶ 当該部分の磁気テープに残る会話からは、ニュースの中身（記事）については触れることができない。

³⁷ 会議録コーパスからこれらの単語検索を行い、抽出された全ての発話を読んで確認した。

³⁸ 真野についてはタタキ台を作成した時期が分析対象にした会議よりも先であったことも関係している可能性がある。

■表 7-3-8 桐生事例の検証結果

活動・運営に関するテーマ(公開協議者と会議録コーパスより)	議事録による討議項目	討議された会議	テキストマイニング結果(指標発話候補)	指標発話選定後	指標発話連鎖会話群
①	・からくり人形芝居との今後の交流について	2009.06.18	—	—	—
②-1-1	・布祭りについて	2009.06.18	●	●	●
②-1-2	・布祭りについて	2009.06.18	●	—	—
②-1-3	・布祭りについて	2009.06.18	●	●	●
③-1	・アンケート実施結果について	2010.02.18	—	—	—
③-2	・活動方針協議①	2010.02.18	—	—	—
④-1	・活動方針協議①	2010.02.18	—	—	—
④-2	・活動方針協議①	2010.02.18	●	●	●
A-1	・活動方針協議①	2010.02.18	—	—	—
②-3	・町立て400年祭参加報告	2010.03.18	●	—	—
③-3	・活動方針協議②	2010.03.18	●	●	●
③-4	・活動方針協議②	2010.03.18	—	—	—
②-2	・活動方針協議②	2010.03.18	—	●	●
③-5	・活動方針協議②	2010.03.18	—	—	—
③-6	・活動方針協議②	2010.03.18	●	●	●
②-4	・着物・着物部会	2010.04.18	—	—	—
②-5	・着物・着物部会	2010.04.18	—	—	—
③-4	・これからの活動方向について	2010.04.18	—	—	—
③-5	・これからの活動方向について	2010.04.18	—	—	—
③-6	・これからの活動方向について	2010.04.18	●	●	●
③-7	・会運営の総務について	2010.04.18	—	—	—
④-3	・エリアマネージメントについて	2010.04.18	—	—	—
⑤-1	・ガーデニング部会	2010.04.18	—	—	—
⑤-2	・ガーデニング部会	2010.04.18	—	—	—
⑤-1	・その他報告	2010.04.18	—	—	—
A-2	・古民家再生部会	2010.04.18	—	—	—
B-1	・街なかの空き地、空き店舗再生事業について	2010.04.18	●	●	●
※	・街なかの空き地、空き店舗再生事業について	2010.04.18	●	—	—
C-1	・古民家再生部会	2010.04.18	●	●	●
②-6	・年間スケジュール	2010.06.18	—	—	—
③-8	・年間スケジュール	2010.06.18	—	—	—
③-8	・年間スケジュール	2010.06.18	—	—	—
③-9	・出席者の感想	2010.06.18	—	—	—
④-4	・新聞記事トピック	2010.06.18	—	—	—
⑤-3	・ガーデニング部会	2010.06.18	—	—	—
⑥-2	・歴史教室	2010.06.18	●	—	—
⑥-3	・年間スケジュール	2010.06.18	—	—	—
A-3	・古民家再生部会報告	2010.06.18	—	—	—
B-2	・古民家再生部会報告	2010.06.18	—	—	—
C-2	・出席者の感想	2010.06.18	—	—	—
③-10	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
③-11	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
③-12	・今後の例会、部会の進め方	2010.07.18	●	●	●
③-13	・今後の例会、部会の進め方	2010.07.18	—	—	—
④-5	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
④-6	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
⑤-2	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
⑤-4	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
⑤-5	・活動報告	2010.07.18	—	—	—
③-14	・部会、例会の進め方について	2010.08.18	●	●	●
③-15	・部会、例会の進め方について	2010.08.18	—	—	—
A-4	・Tu部の再生構想について	2010.08.18	—	—	—
A-5	・Tu部の再生構想について	2010.08.18	—	—	—
C-4	・岡田部の再生構想について	2010.08.18	—	—	—
C-3	・岡田部の再生構想について	2010.08.18	—	—	—
②-7	・討議事案	2010.09.18	—	—	—
②-8	・討議事案	2010.09.18	—	—	—
②-9	・討議事案	2010.09.18	—	—	—
③-16	・報告	2010.09.18	—	—	—
③-17	・組織について	2010.09.18	—	—	—
③-18	・組織について	2010.09.18	●	●	●
③-19	・組織について	2010.09.18	●	●	●
③-20	・組織について	2010.09.18	—	—	—
③-21	・組織について	2010.09.18	—	—	—
③-22	・組織について	2010.09.18	—	—	—
③-23	・組織について	2010.09.18	—	—	—
④-7	・学習	2010.09.18	—	—	—
⑥-6	・報告	2010.09.18	—	—	—
⑥-7	・報告	2010.09.18	—	—	—
A-6	・組織について	2010.09.18	—	—	—
B-3	・組織について	2010.09.18	—	—	—
C-5	・組織について	2010.09.18	—	—	—
D-1	・組織について	2010.09.18	—	—	—
②-10	・報告	2010.10.18	—	—	—
③-24	・国交省の事業(空き家ヒアリング)	2010.10.18	—	—	—
③-25	・住み続けたいまちづくり研究室	2010.10.18	●	●	●
③-26	・住み続けたいまちづくり研究室	2010.10.18	●	●	●
③-4	・報告	2010.10.18	—	—	—
⑥-8	・報告	2010.10.18	—	—	—
C-6	・国交省の事業(空き家ヒアリング)	2010.10.18	—	—	—
②-11	・まちづくり活動報告・予定	2010.11.18	—	—	—
②-12	・布祭りについて	2010.11.18	●	●	●
③-27	・部会(住み続けたいまちづくり研究・企画室)	2010.11.18	—	—	●
③-28	・部会(住み続けたいまちづくり研究・企画室)	2010.11.18	—	—	●
③-29	・まちづくり活動報告・予定	2010.11.18	—	—	—
④-8	・部会(住み続けたいまちづくり研究・企画室)	2010.11.18	●	●	●
④-9	・部会(住み続けたいまちづくり研究・企画室)	2010.11.18	—	—	—
④-10	・部会(住み続けたいまちづくり研究・企画室)	2010.11.18	—	—	—
④-11	・学習	2010.11.18	—	—	—
⑤-5	・まちづくり活動報告・予定	2010.11.18	—	—	—
⑥-9	・まちづくり活動報告・予定	2010.11.18	—	—	—
⑥-10	・まちづくり活動報告・予定	2010.11.18	—	—	—

■表 7-3-9 小布施事例の検証結果

図書館HPと会議録より	テキストマイニング結果(指標発話候補)	指標発話選定後	指標発話連鎖会話群
空間や施設機能に関わるテーマ	討議された会議		
A-1 北斎ホール等既存施設の有効活用	第1回	—	●
B 内部を仕切らない構造	第1回	—	—
C 北斎ホール側柱の保存	第1回	—	—
A-2 北斎ホールとの一体化の仕方	第2回	●	●
A-3 エレベーターを設置するか	第2回	●	—
D-1 カフェコーナーの必要性	第2回	●	—
D-2 カフェコーナーのあり方	第2回	●	—
E-1 寒冷地に対応した屋根の形や素材	第2回	—	—
E-2 防犯上目隠しになる植栽の問題	第2回	●	—
G-1 床暖房、床の素材	第2回	—	—
H 土足と裸足の分け方	第2回	—	—
I-1 正面玄関の位置	第2回	●	—
J-1 駐車場からの動線	第2回	—	—
K-1 カウンターの配置	第2回	—	—
L 高齢者や車いす等の配慮	第2回	—	—
M 多目的な部屋の必要性	第2回	—	●
N-1 トイレの在り方	第2回	●	—
① 交流センターの意味	第2回	●	●
②-1 タイムシェアリングの提案	第2回	●	●
②-2 音の問題と交流、タイムシェアリング	第2回	●	●
K-2 コンシェルジュカウンター	第2回	●	●
O 切妻でない屋根形状	第4回	—	—
P 雨風対策	第4回	—	—
Q ゲートのセンサーはつけない	第4回	—	—
R 開架、調査閲覧室の必要性	第4回	●	—
M-2 多目的室	第6回	●	●
S 子どもコーナー	第6回	—	—
T 開架書庫	第6回	—	—
U 新聞閲覧コーナー	第6回	●	—
V 閲覧室	第6回	●	—
D-3 給水給湯設備(カウナター)	第8回	●	●
E-2 雪対策(すきも、ウララ等)	第8回	—	—
F-2 植栽樹種	第8回	—	—
F-2 スロープ、階差、エントランスの位置	第8回	—	—
K-3 コンシェルジュカウンターとサービスカウンターの一体化	第8回	●	●
W-1 書架(本棚)	第8回	●	—
W-2 書架の高さ	第8回	—	—
X 視聴覚コーナー	第8回	—	●
③ 施設部会と運営部会の合体	第8回	—	—
E-3 屋根素材(スチレンス)	第10回	●	—
C-4 コールドルーフ	第10回	●	●
F-3 校庭側の植栽	第10回	—	—
F-4 アカマツ	第10回	●	●
G-2 床のカーペット	第10回	—	—
G-3 空調	第10回	●	—
J-2 駐車場の位置	第10回	—	—
N-2 たまご型トイレ	第10回	●	—
W-3 本棚素材	第10回	●	—
Y 小字校側にマラヤスキの移植	第10回	—	—
Z 形や雨対策(風除室)	第10回	●	—
④ 環境と植栽素材	第10回	—	—
E-5 屋根と植栽	第11回	●	—
E-6 コールドルーフ(つらら対策のための通気層)	第11回	—	—
E-7 断熱材で対処	第11回	—	—
E-7 曲面屋根仕上げ材:亜鉛めっきステンレス鋼板	第11回	—	●
E-7 フッ素樹脂塗装ガルバリウム鋼板	第11回	—	—
F-5 植栽:建設と同時進行	第11回	●	●
F-5 今後の計画とする	第11回	—	—
M-3 多目的ルーム、2室に分けて使用する可動間仕切り	第11回	—	—
N-3 たまご型トイレの壁:鉄板仕上げ	第11回	—	—
N-4 北側外壁:鉄板仕上げ	第11回	●	—
⑤ 入札の不調による設計変更(コストダウン)の経緯	第11回	—	—
⑥ 公事関係によるデータ入力	第12回	●	●
⑦ 運営チームの立ち上げ	第12回	●	●
⑧ 館名とOIについて	第12回	—	—
⑨ デジタルアーカイブ	第12回	—	—
⑩ 植栽検討委員会の提案	第12回	—	—
⑪ 予算がなくなった、寄附案	第13回	—	—
⑫ 防犯カメラと個人情報保護	第13回	●	●
⑬ 開館時間	第13回	●	●
利用者や利用形態や管理に関わるテーマ	討議された会議		

■表 7-3-10 真野事例の検証結果

会議録及びまちづくり懇話会より	テキストマイニング結果(選定後の指標発話)	指標発話選定後	指標発話連鎖会話群
空間や施設整備に関わるテーマ	討議された会議		
A-1 用途地域(工業地域)指定と住環境悪化	4回懸話	●	●
A-2 土地利用の考え方、「住宅地区」と「工業地区」	4回懸話	●	●
B-1 幹線道路未整備部分の拡幅	4回懸話	●	—
B-2 地区道路の拡幅整備	4回懸話	●	—
C-3 工場の移転(就工団地を幹線道路沿道に)	4回懸話	●	●
C-2 転がし事業(富士化成跡地利用構想)	4回懸話	●	●
①-1 将来の人口規模	4回懸話	●	—
② 将来に向けた事業的組織としての位置づけ	4回懸話	●	●
③ 構想段階からの住民参加	4回懸話	●	●
④-1 町工場、企業、営業所も参加させる	4回懸話	●	●
④-1 ある過程で住民会を開催	4回懸話	●	—
⑤ 委員の構成(行政より地元中心)	4回懸話	●	●
④-2 住民以外の家主、地主にもフォードバック	1回懸話	—	—
⑤-2 運営委員会と地元とのフォードバック(運営委員会に地元で連絡を密着させる)	1回懸話	●	●
⑦ 自治会の代表を自治会の代表とするについて	1回懸話	●	●
⑧ 運営委員会の位置づけ	1回懸話	●	●
⑨-1 まちづくりニュースの発行	1回懸話	●	●
⑨-1 タタキ台位置づけ	1回懸話	●	●
④-3 住民以外の工場を入れるか	1回懸話	—	—
⑤-2 第1回まちづくりニュースの編集	1回懸話	●	—
B-3 人間関係の生活道路確保(車の入らない小径)	2回懸話	●	—
C-3 多機能複合型コミュニティセンター	2回懸話	●	●
C-4 公園(大公園は要らない)	2回懸話	—	—
C-5 工場の移転:集約化を進める(ゲタ1年地帯)	2回懸話	●	●
①-2 若い人をどう呼び戻すか(人口の定着を図る)	2回懸話	●	●
C-6 地元優先入居可能な多世帯住宅	2回懸話	—	—
C-7 工場のファクトリー	2回懸話	—	●
C-8 自分たちで共同調理場、共同住宅	2回懸話	—	●
C-9 地域産業の発展(商店街の育成等)	2回懸話	—	●
⑩ 学識委員らに「調議していただく(学習会の開催)	2回懸話	●	●

桐生事例の結果は、当時のコンサルタントが残した会議録要旨に示したテーマの多くが、実際に論点として討議されていなかったことを示唆している。

小布施事例の結果は、殆どのテーマが、ターン割合1位者によって語られていたことと同時に、意見対立の解消過程や目標の共有過程の中では討議されていないものもあったことを示している。一方、(ターン割合1位者の発話ではなく、それに)連鎖する発話において登場するものもあったことを示している。

真野事例の結果は、小布施事例と同様に、ターン割合1位者によって、殆どのテーマが語られていたが意見対立の解消過程や目標の共有過程の中では討議されていないものや、連鎖する発話において登場するものもあったことを示している。

第4節 コミュニケーション構造図における会話分析対象箇所を選定妥当性

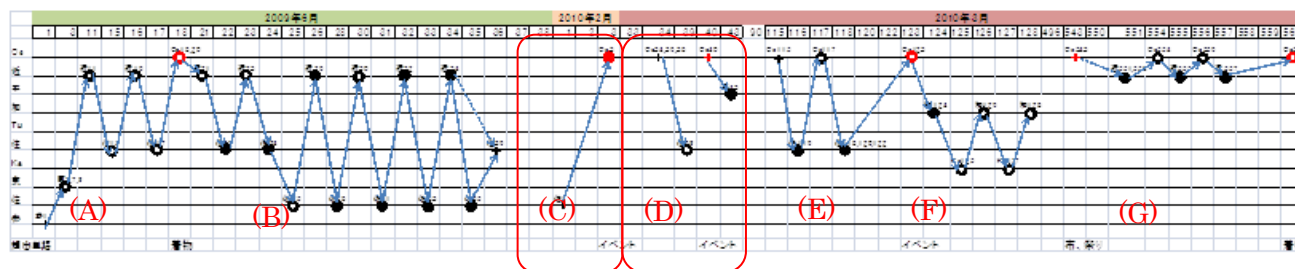
第1項 桐生事例の場合

以上説明してきたように、議事録の主要なテーマと照応した結果、「会議録コーパス」から「指標発話連鎖会話群」まで、実際に討議されたテーマについては網羅されていることが確認された。

これ以降、すなわちデータベース「指標発話連鎖会話群」の作成後は、前項までのテーマ網羅性ではなく、会話分析の対象箇所を選定した際に、除外した箇所に（分析すべき）重要な発話がなかったかどうかを検証する。

① 第1分節

まずは選定した「指標発話」のみで第1分節のコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析箇所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）を選別した妥当性を検証するため、図7-4-1のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A)～(G)に分けたとき、このうち分析の対象としなかったのは(C),(D)であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その（対象から外したこと）妥当性について吟味する。



■図7-4-1 第1分節のコミュニケーション構造図における会話群

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-1であり、「佐」から「イベントでまちづくりはできない」という言説が示され、「Os」がそれに反発している。

が、そこで終わっているため「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程ないし「意見対立の解消」過程が見られない。

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-2であり、「Os」から「イベントについてはあまり手間をかけたくない」という言説が示され、「平」もそれに賛同している。

なお「Os」は「ガーデニングイベントに費用が掛かりすぎている」と評価を行っており、ここに「Os」のイベントに対する基本的考え方を見ることができる。

同様に「平」の基本的考え方も見ることができるが、成員全体に「集団にとって有効となった目標表現」となったかどうか、その共有過程を見ることができない。

よって第1分節において会話分析対象から外した(C),(D)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

またそのこと（同調や対立解消が見られないこと）は、図7-4-1の「コミュニケーション構造図」からも直感的に洞察できる。

■表 7-4-1 第 1 分節 (C) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
1	佐	今日お見えになってないけど商店街の人、たまたま今日お茶でも飲まないかって話をして話したんですよ、どこかの商店街に視察に行ったんだそうですよ、理事長さんがいろいろがんばった話をした後ね、実は商店街のことなんだけど、何でもいから日本一じゃなくちゃだめだと言うことでね、やたら長い海苔巻きをつくったり、マスコミが飛びつくようなこと、ギネスブックに載るようなこととか、いろいろやってみた結果、そういうイベントではまちづくりは出来ないとということにつくづく感じたんだったってことで締めくくったんだった、いろいろ聞いた後でがっくりきたって、よく考えてみるとあんだだけがんばった人がそう言うからには真理かなって思ったって言ってました。	F: 評価		【まちの活性化とイベント】 「佐」から「イベントでまちづくりはできない」という言説が示され、「Os」がそれに反発している。
3	Os	イベントをやる意義というのは、イベントに携わる人のチームワークが良くなるってこと昨年の 11 月にやったように、ああいうチームワークが必要なんだよ。	S: F に対する不同意		

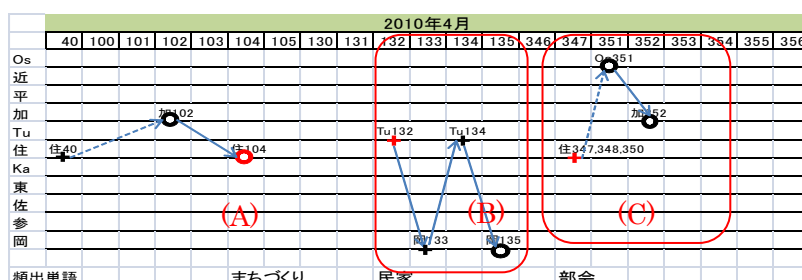
■表 7-4-2 第 1 分節 (D) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
34, 36, 38	Os	私の番で、ましてや、私の方は、どうしても植家と言う立場で、ここに出ているものから、イベントという、浄運寺の檀家さんに少しでも寺に来てもらうようにしなくてはいかんという意識が、大変強いものでして、今年の十夜会はず 10 月 16 日でもいいんですか？ 第 3 土曜日が 16 日なんです。で、なるかなあとおもうんですが、去年の 10 月から今年の十夜会の準備を始めてまして、パッチワーク展をやらうじゃないかという、準備をしまして、お坊さんの身につけるものというのは、昔からどちらかというと、パッチワークで出来ているものが非常に多いんですね。だから、そんなものをこのパッチワークのグループに発展として作ってもらって、10 月 16 日の日にこの和順会館の 4 階で陳列というか、皆さんに見に来てもらいたいなと思っています。このパッチワーク・キルト展に関しては、我々が手伝うという項目もほとんどない進行・・・木下さんグループが全部陳列と片付けをしてくれるということで、非常にどちらかというと、丸投げ出来るので、非常に私としては、楽なと思っています。ただ、住職としてもしませうければ、変更しなくてはならないんですが・・・	F: 申出		
39	住	全然まずくない・・・	S: F に対する承諾		
40	Os	・・・それで、実はこれ配ったという理由は、明日がその日本手芸協会の会員の広告に、この催しのことを掲載したいという要望があるんです。それもこの先生が勝手に全部お金も出すそうです。我々はお金がかからないでいいからということです。で、これが、10 月の十夜会についてのこのプリントを見ていただければという気がいたします。次にガーデニングについてなんですが、ちょっと私の考え方は、皆さんと若干違っているかと思うんですが、何回かガーデニングをやったんですが、非常に原価率が高かった。土の単価、それから苗の単価、で、1 回あたりの費用で 10 万円ぐらいかかっていたのではないかと思います。次回やるとすれば、もっと原価率を下げる必要が僕はあると思います。それと花を配ったんですが、果たして、6 丁目・巴町でいいのかと、非常に僕は疑問に思います。というのは、普段、まちづくりにも出てこないようなところに人のところに置いてたって、価値がないような気もするし、逆にいうと、まちづくりに出てこないんだから、水くれぐらいはやれよ、それがまちづくりの最低の何というのかな？ みちづれだという、考えがあっても出来ると思うんですが、いずれにせよ、ガーデニングについては、ちょっと本町 1・2 丁目で行っているような自分で朝顔の種を撒いてやる、そういう風にして行った方がいいんじゃないかなと、私は思っております。それとたまたま今回 3 月 6 日に桐生町立で 400 年ということで参加したんですが、あれも非常に我々としてはお金をかけずに何もしないで、あれだけの宣伝が出来たというのが、浄運寺を宣伝する意味で、非常に良かったかと思っています。桐生の週刊誌で、33 観音の募集が出ていますが、また違う意味で、桐生市民も浄運寺の 33 観音について認識するような僕はイメージを持っております。イベントについては、そんなに手間をかけないでやれたらいいなあと思っております。皆さん、	f2: 提案		【イベントについての関わり】 「Os」からイベントについてはあまり手間をかけたくないという言説が示され、「平」もそれに賛同している。なお「Os」はガーデニングイベントに費用が掛かりすぎていると評価を行っており、ここに「Os」のイベントに対する基本的考え方を見ることが出来る。
43	平	はい。私も 3 年間観音祭りの方に入りまして、多少、こう、なんですか？ ガーデニングとかイベントとかやったんですけど、実際にこういう会がやっぱりないと、今、いったようにね。成功というんじゃないけど、本当に前に行くものが、まず、リーダー的なものがやっぱりないと前に進まないで、やっぱり、これ 3 年間こうやって維持出来たというのは、素晴らしい会だと私は思います。やっぱり、ガーデニングなんかでもやっぱりいいまして、俺なんかはすぐに急いで何でもやろうと、昔は思っていたんですけど、やっぱり少しずつでも、地道にこういう継続は力なりじゃないけど、本当に少しずつでも前向きにやっていけば、何という？ 桐生、この観音会のあれも、やっぱり何かいけそうな感じもします。あんまり俺も前はあせってこうしろ、あしろって、人の観光スポットを人を入れたっていう気持ちがあったんだけど、なかなかそれは難しいもので、やっぱり年数をかけて行かないとなかなか行かないなというのはよく理解出来ました。やっぱりガーデニングでも言われた通り、前・・・南口からガーデニングをお寺さんところから何とか道しるべをしようとか、やっぱり私もいい夢だなあとか、そういう風に出来たらいいなあと思うけど、やって、すぐっていうのは無理だから、少しでもこう継続して、皆さんを増やして何とかやっていけたのならば、段々観光スポットじゃないけど、地方の人を呼んで、あ、こういうことが、こんな少しづつやっているんだなあということが、段々わかって、それでいいかなあと思います。あんまり負担にならないような感じでやっていけば、継続していただければいいと思います。以上です。	f3: 評価 s2: s2 に対する同意		

② 第2分節

次に第2分節について検証する。

まずは選定した「指標発話」のみで第2分節のコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図7-4-2のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B),(C)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(B),(C)であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その（対象としなかったことの）妥当性について吟味する。



■図7-4-2 第2分節のコミュニケーション構造図における会話群

(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-3であり、岡田邸の再生構想を検討していきたいという目標表現が「Tu」から出され、岡田（「岡」）も同意している。その意味で重要な個所ではあるが、全体のF-S連鎖が岡田の発話で終わっているの、全体化されたのかどうか（目標の共有過程）が見られない。

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-4であり、「住職」から部会は毎月、例会は隔月で実施という目標表現が出され、「Os」が成員に諮問し、コンサルタントの「加」が同意を表明している。なお、ここに会長の「Tu」の発話行がないことから、「Os」の発話が「Tu」に向けて行われた可能性、及び「加」の発話が「Tu」に代わって行われた可能性がある。ここに「Tu」の了解の欠如が見られ、その意味で重要な個所ではあるが、「Tu」の発話がないので相互行為から目標の共有過程や意見対立を掴むことができない。

よって第2分節において会話分析対象から外した(B),(C)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

なお、このこと（同調や対立解消が見られないこと）について(B)は、図7-4-2の「コミュニケーション構造図」からも直感的に洞察できる。(C)は直感的には「同調」構造にも見るができるが、発話内容を読んでみると、「Os」と「加」の同調だけで終わっており、目標の共有に繋がるような「同調」ではなかったことが判る結果となった^{注39}。

³⁹ このことから、本論では「同調」を白丸が3つ以上連鎖する場合、と定義することとした。よって、その前提に立てば、直感的（外見的）にも判ることであると言える。

■表 7-4-3 第2分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
132	Tu	400坪あるんですが、あー、昔工場だったところも、今、あの一、いろいろ倉庫になったり、あるいはスタジオになったりしております、活用はしてるんですけど、全体的に、いー、その、もっと、えー、古民家を再生した活用ができないかっちゃうことで、今、あー、いろいろあそこの先生、あー、あの、佐々木先生、工業の、あの、建築科の、えー、科長さんしてる、えー、佐々木先生が設計いたしまして、ああ、設計じゃない、調査して、測量したりして、いろんなプランを提案しているところまでございまして、それを本格的に、具体的にどうやって、あの一、それを実現してくかっていうところにこれから入ってくとこなんで、えー、そこに、あの一、錦町にも昔、いー、川があって水車が、こう、回ってたんですよ、そういうイメージをまたある程度復活して、まあ、あの辺を特色ある、あそこに、あの、えーっと、か、何神社だっけ、えー、神社、織姫、織姫神社ってんが、あの一、市民文化会館の前に、あれ、気が付かない方結構いるんですけども、あそこに、いー、立派な、あの、お姫様がまつってあるんですけども、えー、それなんかも活用した、あー、一つの拠点をつくって、それを、まあ、点を線で結んでいきたいっていう、あの一、町会の人たちも今盛んに動きだしたとこなんで、えー、これが、あの一、うまく、あの一、オカフクさんのところが民家活用できたら起爆剤になるんじゃないかっちゃうことで、われわれもできるだけ協力して、えー、それを実現させたいというところでございます。あと、ちょっと詳しいことは、岡田さん、いいですか。	F: 提案		【岡田邸再生の目標表現】 岡田邸の再生構想を検討していきたいという目標表現が「Tu」から出され、岡田(「岡」)も同意している。
133	岡	私のほうで?	f2: 質問		
134	Tu	どんなふうな、うん、あれで。	s1: f2に対する回答		
135	岡	いや、あの一、まあ、もともとが、ま、古い自宅なものですから、それを、あの一、まちづくりに、活性化にできればいいかなーっていうようなかたちで考えております。まあ、あの一、そもそもは、あの、古い家のように、家でしてですねー、そこにあり、どういふふうに生かせれば自分としていいかなーとか、それ、ズーッとここ2〜3年考えてた結果が、去年の協議書に出しました、あの一、まあ、うーん、か、おふくろの味付けで、今、あの一、ぜんざい屋っていうかたちで、スタートしたんですけども、やはり人の出はいいが重なるにつれて、いろいろな情報が入ってきます。その中で、去年に、松野さん、あ、これ、かんのんまち、まちの会、づくりの会ですか、それと、あ、その、出会いましてですね、出会って、まあ、先生方にいい方向付けができたかなというふうな考えでしております。まあ、あの一、うちの父も非常に、あの一、感銘を受けてですね、まあ、いい方向に向けられなというかたちで考えております。ま、一つ、まあ、あの一、あまりにも本町の、ああ、天神町のほうが盛んになっておりますので、できれば、あの一、錦町というところは、まあ、第三区ですね、桐生でいいますと、あー、市役所があり、まあ、いくと、桐生の、えー、まあ、永田町やないですけども官庁街です。そこにやはり、どうか、まあ、あの一、錦町自体がさみしくなっておりますので、何か、こう、活性化できればなという、まあ、一つの一貫として皆さんの、えー、知恵と、えー、まあ、労を、まあ、いただきながら、まちづくりに持っていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。	f3: 申出		

■表 7-4-4 第2分節(C)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
347	住職	だから、そういう意味でね、あの一、まあちょうど約3年になるので、見直しを少ししようってこともあるわけですが。で、そのなかであまり、ずっと毎月例会をやったら、きたんですけども、まあ、あの一、先生が毎月、東京から来なくちゃならない、ってことがあるので、例会等は2ヶ月に1回、奇数月にやろうと、いうような今、みなさんで下打ち合わせしては、そういうことになっている。ただ、委員会っていうか部会もありますから、それも18日にやりましょうということですから、毎月必ず…あるということで、古民家は毎月5時からやるわけ。で、例会の日はこういうふうに、食事を用意します。それで、この食事代で1000円お預かりします。で、部会の日は、特に用意しません。今度会のほうでさ、あの一、お茶だけ、ウーロン茶ってあるじゃん、でかい、あれを買っておいでもらって、冷蔵庫に入れておいてもらえば、それをみんなが自分たちで飲んで、会議して、食事っていうのは自分たちで、…そういうふうにしてもらいたい。偶数月はね、そういうことにして。そういうふうにしたい。ですから他の部会も、いちおう、まあ用がある月は、なんていうんですか、偶数月に…やりたいと。とくにあの、ガーデニングなんかは、その…来月なんかはもう間に合いませんから、18日の午前中ということで、特にご案内は出せんけども、いちおう10時頃、みなさんには来られる方は出て頂ければ、と。	F: 提案		【定例会・部会の開催時期】 「住職」から部会は毎月、例会は隔月で実施という目標表現が出され、「Os」が会員に諮問し、コンサルタントの「加」が同意を表明している。なお、ここに会長の「Tu」の発話行為がないことから、「Os」の発話は「Tu」に向けて行われ、「加」の発話は「Tu」に代わって行われた可能性がある。
351	Os	それでいいですか。	f2: Fを受けた諮問(Yes or No 質問)		
352	加	いいんじゃないですか。	s1: f2を受けた回答(Yes)		

③ 第3分節

次に第3分節について検証する。

まずは、選定した「指標発話」のみで第3分節のコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図 7-4-3 のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A)~(E)に分けたとき。このうち分析対象としなかったのは(A)であることから、この箇所について会話（談話）分析を行い、その（対象から外したことの）妥当性について吟味する。

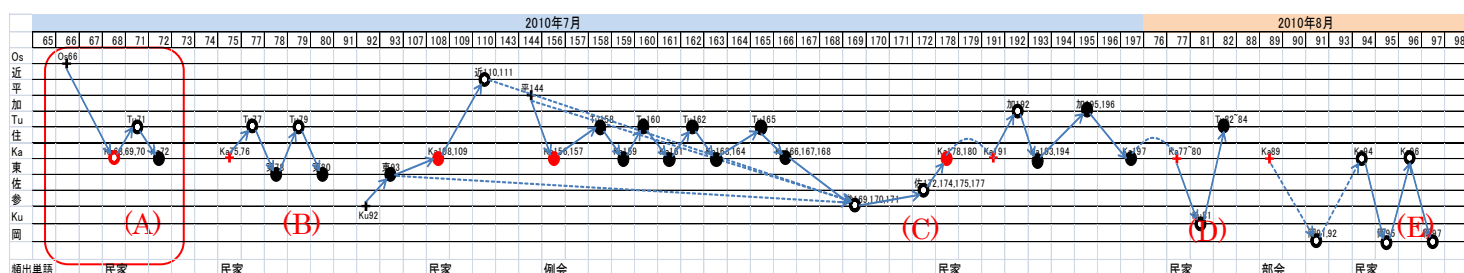


図 7-4-3 第3分節のコミュニケーション構造図における会話群

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-5 である。表に示したとおり、「Os」から「古民家再生部会」とは別に古民家再生を検討する専門部会をつくる提案が出され、「Ka」と「Tu」がその背景について述べているが、両者間で微妙な認識のずれがあり^{注40}、最後は「Ka」の不同意で終わっている。

しかし、ここではその次の「Tu」の発話がないことから、両者（Tu と Ka）の対立構造が不明なままとなっている。

よって第3分節において会話分析対象から外した(A)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

なお、このこと（同調や対立解消が見られないこと）について(A)は、図 7-4-3 の「コミュニケーション構造図」から直感的には「対立」構造にも見ることができが、発話内容を読んで両者の対立構造が不明なままとなっていることが判る結果となった^{注41}。

40 ここにおいて、専門部会に「世界遺産の会」を入れたくない「Ka」の基本的考え方も見ることができる。

41 このことから、本論では「対立」構造は白丸と黒丸が2つ以上連鎖する（山の形が2つ以上形成される）場合、と定義することとした。よって、その前提に立てば、直感的（外見的）にも判ることであると言える。

■表 7-4-5 第3分節(A)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
66	Os	はい、…。まあだいたい、こんな風にしたらどうかという提案を考えました。今までは着物部会、ガーデニング部会、古民家再生部会の三つでしたが、…。そしてこれはまた別と考えてます。…。実際には4つの部会になるかと思われませんが、これに担当者をつけたいと…。	f1: 提案		【古民家再生の組織変容】 「Os」から「古民家再生部会」とは別に古民家再生を検討する専門部会をつくる提案が出され、「Ka」と「Tu」がその背景について述べているが、両者間で微妙な認識のずれがあり、対立関係を生じている。なお、ここに「Ka」が専門部会に「世界遺産の会」を入れたくない基本的考え方も見ることができる。
68,69,70	Ka	…。何人かの方が古民家再生部会に入りたいということなんですけど、どうしても専門的な部分もあるもんですから…。そうじゃなくて「住み続けたい・まちづくり」を掘り下げていくというもあるんじゃないかと…。今日も5時からやってるんですけど、もうそろそろ分けていった方が進むんじゃないかなというのが、…。一言ご提案させていただきました。企画推進のところでも、おかふくさん、まあ、たまたま出てますけど、じゃあ案はいいんだけど、ちょっと具体的な話で申し訳ないですけど、銀行はどうするんだと、テナントはどうやって連れてくるんだと、たとえばどうやってテナントを育成していくかってこと、いまさらアッシュミたいに発信みたいなこと、発信かけて地域に貢献してもらわないといけないし、そういったこともやっぱり…。絵だけ投げかけるのもまちづくりなんですけど、そのところの落としこみってのが大事ですから、その落とし込みするチームとですね、育成班とを分けていかないと、まあ空論をとうじているみたいな感じになってしまうんで、まあ幅広く参加してもらえようような形になっていきたいな、ってのが古民家再生の方の事情であります。それからちょっと話が…。もうひとつあれなんですけど、さっきの冒頭で少し出た世界遺産とかと結局…。ええと、佐々木先生との関係というのも開拓していく余地あるんじゃないのかなと…。今のままだと全部が古民家再生に入ってきたらうんで、ちょっと、ぐちゃぐちゃになってきちゃう…。一つ一つはいいことなんですけど、整理しないとぐちゃぐちゃになってしまうんで…。みなさんが参加しやすいような形に変えていかないと、って思ったもんですから。以上です。	f2: f1に対する評価		
71	Tu	この、桐生世界遺産の会っていうのは、北川さんが会長でやっている会で…。1,2丁目、上のほうがやっているんですけど、上のほうだけじゃなくて、この観音まちづくりの会もやっていかないと、…。会として入ってもらいたいということで、協力するということで、あの、今回ありまして、北川さんも…。お互いに交流したり、あれなんで、前はイベント部会としてなかったんですけど、今回…。古民家再生は、専門家に入ってもらって、ある程度絞ってやってもらって…。	f3: f2に対する評価		
72	Ka	会長ね、古民家再生もね、専門的なことは専門的なことで一部でやって、育成とか地域貢献とかやっていかないといけないんで、…。お店にしても、地域貢献、こうしてもらいたいとか、知識がある程度幅広くメンバーの方を決めさせていただきたい、ってのがあるんですよ、専門的なのはごく一部で。	s1: f3に対する不同意		

④ 第4分節

次に第4分節について検証する。

まずは、選定した「指標発話」のみで第4分節のコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図7-4-4のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B),(C),(D)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(A),(D)であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その（対象としなかったことの）妥当性について吟味する。

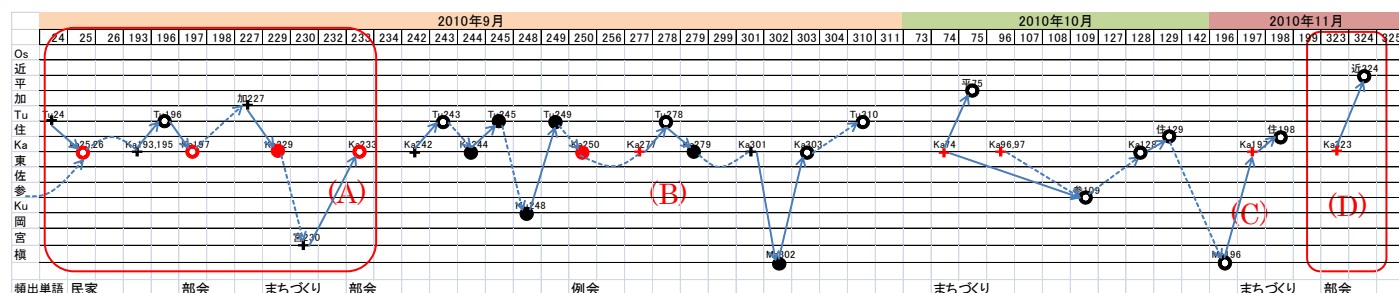


図7-4-4 第4分節のコミュニケーション構造図における会話群

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-6である。表に示したとおり、「Ka」から説明が行われるが、「Tu」や「加」や「宮」の理解不足によって再三説明を繰り返す過程が見られる。しかしながらそこには意見の対立も目標の共有化も見られなかった。

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-7であり、「Ka」から「布市」を（着物部会だけでなく）例会でもテーマとしてとりあげてもよいのではという提案があり^{注42}、「近」も賛同している。しかしながら他の成員の連鎖がないことから、これが「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程であると見ることは難しい。

よって第3分節において会話分析対象から外した(A),(D)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

なお、先の第3分節の(A)及び第4分節の(A)については、第4分節の(B)で「Ka」が「部会」を「研究会」に訂正し、「Tu」が了解に至る箇所の背景（文脈）を知る上では重要な箇所であるとも言える。

しかし、この第4分節の(B)を会話分析することで「了解の構造」は明らかになることから、本論の会話分析の目的から見れば必ずしも選定すべき必須箇所とは言えない。

また、このこと（同調や対立解消が見られないこと）について(A)は、図7-4-4の「コミュニケーション構造図」から直感的には「了解」構造にも見ることができが、発話内容を読んで意見の対立も目標の共有化も見られなかったことが判る結果となった^{注43}。

⁴² これは前の「近」に対する「Ka」の発話の釈明でもあることが分かる。

⁴³ このことから、本論では「了解」構造は黒丸から白丸に変わる間に、少なくとも黒丸か白丸が1つ以上挿入されている場合、と定義することとした。よって、その前提に立てば、直感的（外見的）にも判ることであると言える。

■表 7-4-6 第 4 分節 (A) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
24	Tu	あと、あの詳しいことは事務局の久保田さんの方から、・・・川口さんかな、・・・この内容について。 役割分担ってというか、こういう区分けしたあれを。	f1: 依頼		【部会・例会の在り方】 「Ka」から説明が行われるが、「Tu」や「加」や「宮」の理解不足によって再三説明を繰り返す様子がみられる。
25,26	Ka	じゃあ、古民家の方から。・・・ いちおう3年間やってきまして、活動の幅も広がってきたもんですから、ちょっとこの、マンモスっていうか大きい組織になってきたんで、もう一回、えー、二つに分けたほうがいいんじゃないかっていうご意見をいただいですね、えー、基本的には今まで古民家、まあいくつかあの、案件で進んでいるものも、進み始めているものもあるもんですから、そちらのほうをいちおうプロジェクトっていいですか、企画室の方に、で、こちらの方は月一回っていうと全然もう間に合わない、今、週一ぐらいのペースで打ち合わせしなくちゃいけないってあるんですけども、ちょっと、それは普段の部会、例会とは別にですね、今後締め切り等もあるもんですから、・・・それで、古民家の本丸っていいですか、えー、やっぱりあの、かんのん会の一歩のキーワードであります「住み続けたいまちづくり」っていうものを、やっぱり中心的にですね、握って・・・ここで新しいかたとか、あの一、入りやすい、なおかつ、もう一回「住み続けたいまちづくり」、これを一つ中軸として、少し専門的に進めていかなきゃならない、・・・もう一回、古民家を見つめなおして、いろいろな方々が参加して、そんな中から、っていう二つにできれば、分けていただいた方がいという形で、いちおうこういう形にさせていただきました。	s1: f1に対する承諾 f2: 提案		
193 195	Ka	先ほど申し上げたとおり、コミュニケーション部会は、ある程度皆さんのご協力をいただきたいと思うんですが、古民家再生の・・・今、久保田さんが説明してくれた「古民家再生とは」っていうのがありますよね。それを勉強会という形でやっていくというなかで、先ほど申し上げたように、プロジェクトの方は随時やっていきますので、あの一、この、今回の本会で、あれですよね。研究会の方を、と例会と部会の在り方というのに、そろそろ話を・・・。 それをみなさんに・・・していただくということだね。まとまらなくなるということだね。もう、それでよろしいかと思うんですよ。	F3: 提案		
196	Tu	じゃ、あの一、組織のなんかの、まあ、あれは、・・・分かったと思うんで、もっと具体的に、今の、研究会とか、あるいは部会、例会、のことに話を持っていきたいと思いますが、まああの、部会の方から、いきたい、まあ、何時から何時までどこでって、具体的なそういう意見でもいいんですけど、今、あの7時から、これはあの一、例会で、隔月にやっている、こういう形でいいのか、部会はまあ毎月、えー、5時からやってまして、場所はまあここに、まあ決まってるやっていたのを、これでいいの、か、そういう具体的なことを話し合っていたいただければ、と思うんですが、また案があったら一つ、話して頂ければたまたまにしたいと思うんですが、ちょっと川口さんの方から今、お話が出たんで、あの一、ひとつ。えっ、案をね。	s2: F3に対する同意 f4: 依頼		
197	Ka	ではもう一回整理をね。 あの、プロジェクトの方は随時やりますので、私、ちょっと提案なんですけど、例会の方ね、例会は確認作業ってことにしてもらって、部会のこの「住み続けたいまちづくり」っていうのを毎月、例えば1時間とか2時間とかやって、最後までめで例会みたいな、スタイルの方がいいんじゃないのかって思っているんですよ。で、今回、部会をやったときに、今日は例会でしつぽ部会でしたっけ、こう何回も聞かれて、なおかつ自分もちょうとこんがらがっちゃうと思うんですよ。それなんで、むしろ、・・・部会は毎月やるような形で、例会を2カ月に1回、短くコンパクトにしてやるのかな、っていうほうが、やっぱり逐例会、部会よりも、みんなであらうね、ちょっと、もうちょっと若干・・・な進行の仕方に変えてですね、やっていくほうがいいんじゃないかな。もう一つは時間なんんですけど、あの7時から始めるとだいたい2時間で9時って形で、なにからの場合はもうちょっと遅くからとか、6時ごろからでもいいですよみたいな話もあるもんですから、そのへんの時間なんかもいろいろ、会長、意見出していただければ。	s3: f4に対する承諾 f5: 提案(F3の後方拡張)		
227	加	あの一、たぶん2カ月に1回ということになったので、2カ月先で次にもう準備しなくちゃいけない、緊急性の高いものも絶対あるわけでしょ。だからそういうものは、あの一、優先して話し合っていくと。 2カ月に一辺という、のを逆に頭に入れないといけないと・・・。	f6: f5に対する評価 f7: 提案		
229	Ka	もともと、あの一・・・例会が2カ月に一回ということになっていて、それはそれでいいと思うんですけど、今まで意外とちょっと、専門的な打ち合わせしたりとか、こういう、この色々バラバラだったのが、そういうのは各自でどんどんやっていただく、いただかないと、やっぱり尻決めの部分もあるんで、ようはあの一、毎月、住み続けたいまちづくり研究会ってことで、全員ここに入って、あの一、こんななかで、あの一、いろいろな・・・。住み続けたいまちづくりっていう位置づけは、さきほどちょっと、こちらの図でありましたんで、なにも古民家再生だけがその一、住み続けたいまちづくりではないのかなと。	f8: f7に対する評価		
230	宮	あの一、プロジェクト、古民家再生部会のプロジェクトはよくわかったんですよ。あの一、プロジェクトでどんどんやっていくという。でもね、シマダさんが室長になっているこの「住み続けたいまちづくり研究・企画室」というのは、定期的にいろんなことをおしゃべりしながら、そういうようなテーマに向けてやっていくような場を作っていくということ？	f9: f8に対する質問		
233	Ka	それを部会にして、それをちょっと、みんなであらう勉強したりとか、いろいろ意見言いあって、・・・主力とする。そして、そのあと2カ月に1回、例会、もともと、今年は例会は2カ月に1回ってことになってたんで、例会ってのはちょっと、共通の・・・というのがあるものですから、それを例会で部会の後に付け加えてやる月も2カ月に1回ありますという方が、全員が動き出せるんじゃないか、っていう提案なんですよ。はい、そういうことです。	s4: f9に対する回答		

■表 7-4-7 第4分節(D)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
323	Ka	さっきの近藤さんに誤解なく・・・趣旨を伝えたいと。まあ頑張られて、近藤さんといわゆる外部からの人っていうことに、例えば深化させて、とりあえずこの一、部会で分かれてるんで、・・・例会のテーマとして少しづつ布市のこと本格的にやるのであれば、あの一、近藤さんといろんな桐生の素材であると思うんですけども、それを1年かけて来年のその、ほんとにやっていくなり、もうちょっと、こう、きちっと計画だててやっていってもらいたいな、っていう趣旨で申し上げました。	F: 提案		【部会と例会の位置づけ】 「Ka」から着物部会のみならず例会のテーマとして「布市」をとりあげてもよいという提案があり、「近」も賛同している。なおこれは前の「近」に対する「Ka」の発話の釈明でもあることが分かる。
324	近	ありがとうございます。わかります。	S: Fに対する賛同		

第2項 小布施事例の場合

桐生事例と同様に、会話分析の対象箇所を選定した際に、除外した箇所に（分析すべき）重要な発話がなかったかどうかを検証する。

① 第1分節

まずは、選定した「指標発話」のみで第1分節のコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析箇所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図 7-4-5 のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B),(C)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(A)であることから、当該箇所について会話（談話）分析を行い、その妥当性について吟味する。

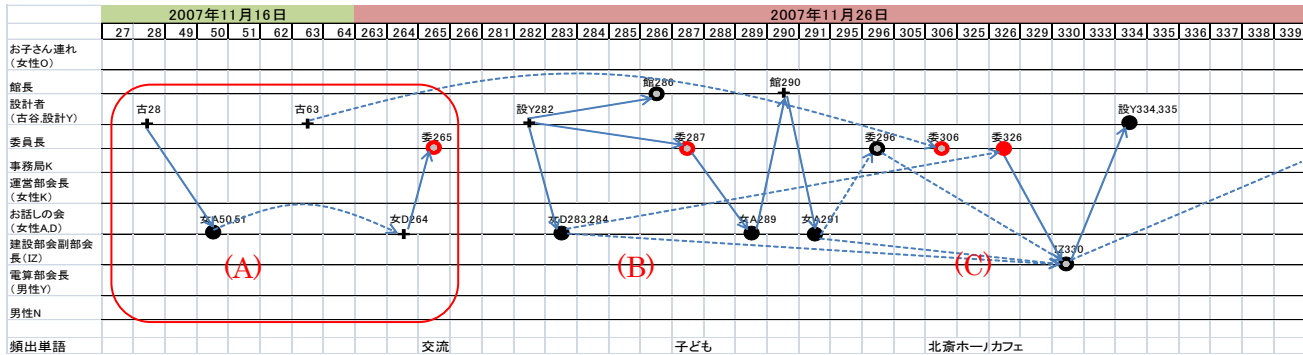


図 7-4-5 第1分節のコミュニケーション構造図における構造的特徴

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-8 である。表に示したとおり、北斎ホールとの一体的活用に関して設計者と委員長は全体への共有化を図っているが、「お話しの会」はそもそも交流機能の導入の意義に困惑しているといった或る種の対立関係を示している。しかしここに「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程または「意見対立の解消」過程を見ることはできない。

よって第1分節において会話分析対象から外した(A)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

■表 7-4-8 第1分節(A)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
28	古谷	…北斎ホールにある施設やなにかを有効に活用することで、この中をやたらと仕切ってしまう。	F1: 提案		【北斎ホールとの運動にあたって】 お話しの会(女性A,女性D)は交流機能の導入に対して困惑している。 困惑の契機となった発話は古谷28,63である。 その意味で女性D264は後方拡張。 委員長は古谷63の全体への共有化を図っている。
50,51	女性A	…せっかく新しい図書館ができる時に、図書館ではない場所、北斎ホールの方に移動してお話しの会をするというの、とても勿体ないという気がします。 …ワンルームであった場合には、声の問題をどう風にするか。…交流をするということは、人が話をしたり、子ども達がそこで遊んだりする、本を見ながら読んでもらえば声が出る。そんな、声の処理をどうするのかという風に思いました。	S: F1に対する不同意 f1: 申出		
63	古谷	…同じ建物ではないけれど、直近に使えるホールがあり、役場の施設があり、公民館がありという、…施設をもう少し有効に活用するという方法で解決する事もあるのではないかな	f2: 依頼		
264	女性D	…「交流センターの条件」ということは、どういうことが条件になるのか	f3: 質問		
265	委員長	交流センターという名前は補助金をいただくためというのが一つあるということ、一つは交付金という問題を離れて、本来の図書館機能を大事にしながらも交流の拠点としてこの図書館を位置付けたいという理念の表れ…	s: f3に対する回答		
306	委員長	北斎ホールの講習室、ステージ、ホール、町民サロン、それらを繋げ、リニューアルする事で、北斎ホールを図書館の一部と位置付ける事ができるのではないのかという考え方です。	F2: 提案		

② 第2分節

まず第2分節について選定した「指標発話」のみでコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析箇所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図7-4-6のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B)⁴⁴、(C),(D),(E)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(A)(C)であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その選別の合理性について吟味する。

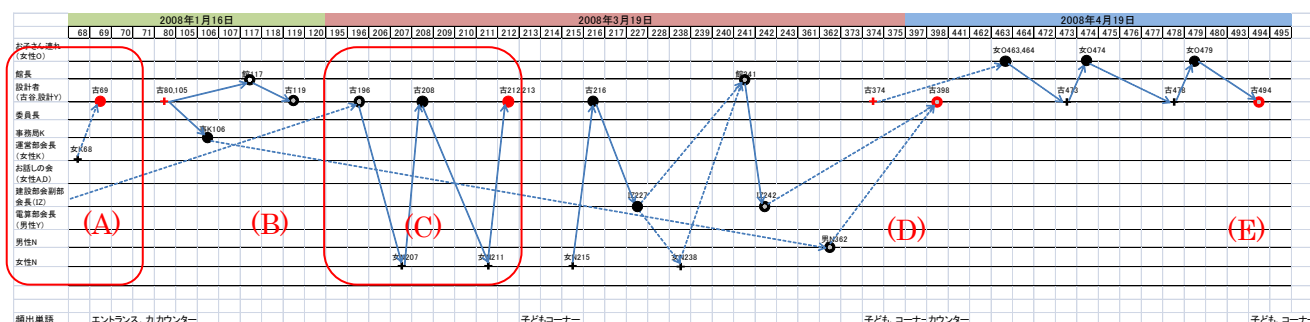


図7-4-6 第2分節のコミュニケーション構造図における会話群

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-9である。表に示したとおり、サービスカウンターの位置に関して設計者が運営部会の要望と異なる案を出したといった或る種の対立関係を示しているが「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程または「意見対立の解消」過程を見ることはできない。

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-10であり、「多目的室」の提案は第1分節のタイムシェアリングに関する「意見対立の解消」過程から繋がっており、ここでも声の遮音性について疑義が挙がっており、より閉鎖性の高い部屋の要望が提示されていることが分かる。

しかし、設計者は児童コーナーは多目的室ではなく、別の開放的空間(図4-2-3の「子どもコーナー」古谷,213「ここ」がそれに当たる。)に計画していることを示しており両者の考え方の相違を窺い知ることができるが、顕著な対立構造または「意見対立の解消」過程を見ることはできない。

よって第2分節において会話分析対象から外した(A)(C)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

44 (B)の会話群の終わりは「指標発話」362 ないし 398 にあり、複数の発話を超えて 106 とペアの関係にあると考える。筆者は会議形式特有の現象と捉えるが、会話分析の狭義の「連鎖」の定義には当てはまらない可能性もある。しかしここでは、サービスカウンターをテーマに討議しているという事実上のつながりを重視して「連鎖」と考える

■表 7-4-9 第2分節(A)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
68	女性K	…運営部会の方で、エントランスホールについては南西の役場の駐車場からのアクセスしやすい場所に、…サービスカウンターについてもエントランスから入ったすぐ左側に…をお願いしてあります。…そういうことについての検討はどういうふうにされたんでしょうか。	F1:質問		【サービスカウンターの位置について】 設計者の案が運営部会の要望と異なる提示がされた。
69	古谷	私の設計ではここからここまで見通しがつくように、エントランスで何が起きているかは、お一人ここに座っていれば、エントランスで起きていることも裏で何が起きているかもいちおう見える…実はエントランスとの関係は、エントランスがあって、カウンターがあって、その後ろのバックヤードに繋がる。	s: F1に対する回答(No) f: 提案		

■表 7-4-10 第2分節(C)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
196	古谷	…これが前々から出ている多目的室。半分に分けて2つの部屋でも使えるようになっています。	f1: 提案		【子どもの声の遮音について】 設計者は、児童コーナーは多目的室ではなくオープンな場所に計画していることを説明している。その理由としてカウンターからの見通しを挙げている。
207	女性N	分からないのはこの引き戸なんです、下から上までガラスになっていて…。	f2: 質問		
208	古谷	…今、僕のイメージでは、…ガラスでもなくて、ポリカーボネート…どうしても必要ならば、もう一度遮光の為のカーテンが必要かと…	s: f2に対する回答(No)		
211	女性N	遮光の場合は、カーテンでもいいと思うんですけど、遮音の場合はどういう風に考えていますか？	F: 質問		
213	古谷	…元からここに子どもさんのコーナーがあるのがいいなあと思っていたんですが、まず、目が行き届きやすい場所にあるというのと、トイレにも近いし、何かがあってもすぐ対応できる…	S: Fに対する回答(No) f3: 提案		

③ 第3分節

まず第3分節で選定した「指標発話」のみでコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図7-4-7のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B)⁴⁵, (C),(D),(E)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(C)(D)であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その妥当性について吟味する。

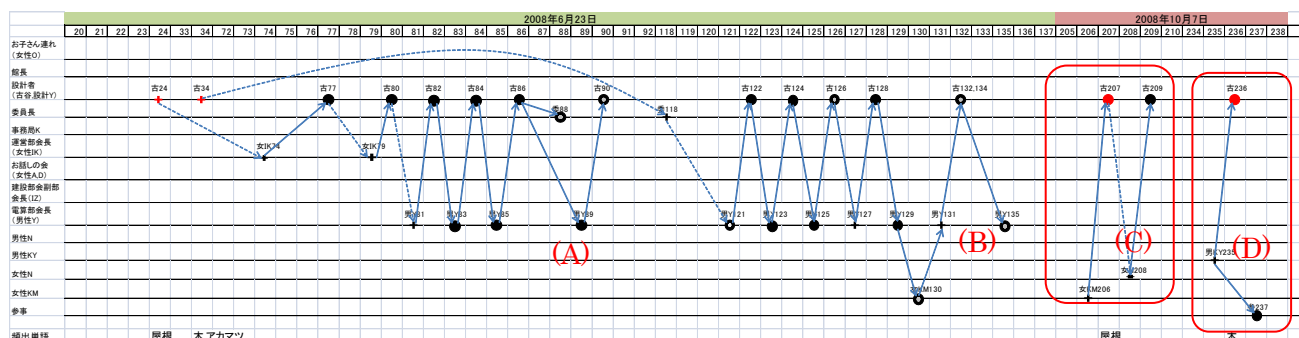


図7-4-7 第3分節のコミュニケーション構造図における会話群

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-11であり、屋根素材の変更について町民から疑義が挙がっているが、顕著な意見対立やその解消過程は見られない。

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-12であり、植栽予算が白紙になったことについて町民から疑義が挙がっているが、顕著な意見対立やその解消過程は見られない。

以上のことから、第3分節において会話分析対象から外した(C)(D)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

45 (B)の会話群の始まりは「指標発話」34にあり、複数の発話を超えて74とペアの関係にあると考える。筆者は会議形式特有の現象と捉えるが、会話分析の狭義の「連鎖」の定義には当てはまらない可能性もある。しかしここでは、植栽のアカマツをテーマに討議しているという事実上のつながりを重視して「連鎖」と考える。

■表 7-4-11 第3分節(C)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
206	女性KM	…私たちもこの建物は100年間もつだろう、内装については20年とか30年とか、そういう考えを持っていたんです。今度の屋根の構造とか材料とか、そういうものが変わってきたことによって、…100年間は持つ建物ですよというような保証はどうなのでしょう。	F: 質問		【屋根素材の変更について】 古谷207は、100年保証から10年保証へ素材が変更したことを示す。 そのため耐久性についての質問が町民から続いている。
207	古谷	一番最初にご提案したチタンの屋根を使うと、下は腐ってもチタンだけ残るほど強いんです。けれども、純粋にそこまでの性能は必要かどうか。…ここではフッ素樹脂のガルバリウム鋼板にしたことで、メーカーはもちろん10年は保証します。…	S: Fに対する回答(No)		
208	女性N	今の屋根に関連することなんですが、私も先程からそれがすごく気になっていたんです。主婦感覚としては、フッ素樹脂加工というお鍋が売っているんですが、あれを使っているとやはりはげてくるんです。ガルバリウム鋼板というものの自体が、50年くらいしか持たないんでしょうか？その前にフッ素樹脂塗装をやりかえていった場合には、もっともつものんでしょうか。	fl: 質問		
209	古谷	…ガルバリウム鋼板という、表面にガルバリウム樹脂という結晶をくっつけたような種類のものと思ったらいいでしょうか。表面を保護する層がついている鉄板がガルバリウム鋼板です。…これだけで、20年やそこらは野ざらしにしても問題ありません。ですが、それにさらにフッ素樹脂をコーティングすることでより耐久力を高めたのがこの製品です…基本的には、20年30年は大丈夫ですが、それまで全く見もせず放っておかないで、大事に至る前にそろそろ手を施した方がいいかどうかは…例えば30年くらい経った時にじゃあ、その上にもう一回皮膜コーティングしましょうとか、あるいは5年後に皮膜をするために少しずつお金を貯めましょうとか、そういう事は考えて頂きたいと思います。…	s: flに対する回答(No) f2: 提案		

■表 7-4-12 第3分節(D)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
235	KY	植栽について質問です。温室の予算をどのくらいとっているのかと。もう一つ、はじめ家だけ建てて、周りが何もない状態だとなんだかつんつるてんみたいな感じで、多少は植えるのか。それも運営委員会の方でも検討しなくてはいけないので。まるっきりない状態で始めるのか、それともある程度植木をやるのか、お聞きしたい。	F: 質問		【植栽の予算について】 古谷236から白紙になったことが分かる。 (先の屋根素材の変更と合わると予算の見直しがあったと推察可能) KY235から多少は植栽があった方がよいと考える町民もいることが分かる。
236	古谷	すでにそこに生えているもの以外は、今、一本も植える予算が入っていません。元々、そこにどのくらい見ていたかという、高木低木合わせて250万円くらいだそうです。	S: Fに対する回答(No)		
237	参事	植栽につきましては、先程町長からも申し上げましたが、今後、21年度22年度で、皆さんに植えて頂いたり、どんな方法が考えられるかということを建設運営委員会でご検討頂きながら、予算付けが必要なものについては予算付けをしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。	S: Fに対する回答(No) fl: 提案		

④ 第4分節

まず第4分節で選定した「指標発話」のみでコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため会話群を下図のように(A),(B),(C),(D)の4つに分けたが、いずれも、同調構造や対立構造、あるいは複数の意見を受けて一つの意見にまとめるような構造や反対だった発話者が討議の末に賛成に転じるような構造が見られなかったため分析対象としなかった。

以下その妥当性について検証するため、これら4つの箇所の発話の内容を会話分析してみる。

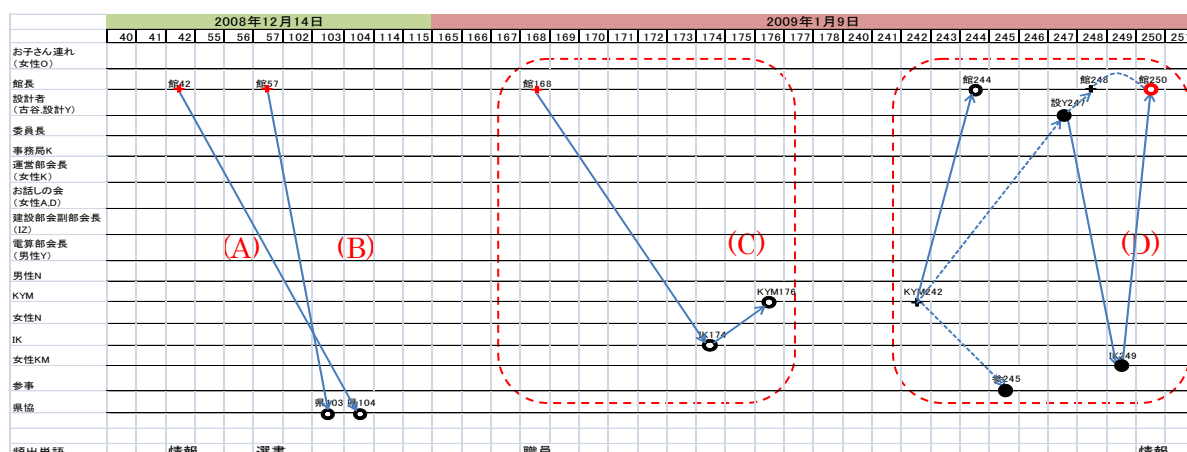


図 7-4-8 第4分節のコミュニケーション構造図における会話群

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-13 である。表に示したとおり、データ入力等に関して「館長」から、町民と協力して行う提案が出され、「県協」から具体的な課題が示されている^{注46}。後続の連鎖がなく討議過程ないし「意見対立の解消」過程が見られない。

(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-14 であり、選書チームの設立について「館長」から提案が出され、「県協」から課題が示されている^{注47}が、やはり討議過程や「意見対立の解消」過程を見ることはできない。

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-15 であり、開館時間について「館長」から案が挙がっているが、町民からはもう少し延長しても良いといった意見が出されている。しかし顕著な意見対立やその解消過程は見られない。ただし短いながらも「館長」に対する「IK」の、「IK」に対する「KYM」の同調は見られる。^{注48}

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-16 であり、防犯カメラの導入について「KYM」から提案が挙がっているが、「参事」や「館長」及び「設計 Y」は消極的な態度を取っている。これに対して「IK」から異議申し立てが行われ、最後に「館長」が再度検討するという発話を持って終結している。しかしながら「意見対立の解消」過程を見ることはできない。

以上のことから、第4分節においては(D)を除いて顕著な対立関係や「意見対立の解消」過程を見ることができず、また(D)についても若干の意見対立は見られるものの解消過程は見られない。したがっ

46 「館長」の提案に対して同意しているものの、「もうちょっと議論した方がいいと思います。」といった強い批判も込められた評価もしていることから、対立構造を有するものとして発話 42・104 を「指標発話連鎖会話群」には残していた。

47 上と同じ理由で、発話 57・103 を「指標発話連鎖会話群」として残していた。

48 IK からは「3時間くらい延ばしてやってもいいし」、KYM からは「日没から2時間はやるとか」といった発話が見られると同時に、「館長さんが言われたみたいに」（IK, 174）と、「館長」の提案に対して対立していない意向も示している。しかし、本論では白丸が両者の中で3つ以上連続している個所を「同調構造」とみなすことにした。

て他の分節に比べて会話分析すべき重要箇所を提示するのは困難であると言える。

そしてこのような傾向は図 7-4-8 の「コミュニケーション構造図」からも直感的に洞察できる。

■表 7-4-13 第 4 分節 (A) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
42	館長	年明け早々電算化のデータ入力してくださる方を町報などで公募し	F: 提案		【町民の協力について】 館長の提案を受けて、「県協」が 具体的課題を示 (解題)している。
104	県協	・・・館長からのご説明で、データ化の話もあって、寄付金やそういう事なんだけど、その為には住民の皆さんに協力して頂く中で、例えば、古文書の学習会を行うとか、それをデータ化してどのように使うのかとかの議論がもっとないと・・・何のためにという事をもうちょっと議論した方がいいと思います。・・・さっきの案で色んな盛りだくさんの事をやると言うのなら、・・・やっぱり住民の方が協働という形で参画して貰っていただかないと絶対出来ないですね。・・・その為には学習活動、文化活動に住民の方にどんな風に参加して貰ってもらえるかそういうお膳立てづくりが大変重要だと・・・	S: 同意 fl: 評価		

■表 7-4-14 第 4 分節 (B) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
57	館長	特に選書に対しては図書館側だけで決めるのではなく・・・選書チームをつくるべきだと思っています。	F: 提案		【選書チーム設立について】 館長の提案を受けて、「県協」が 具体的課題を示 (解題)している。
103	県協	最初に館長さんの方で説明頂いたこの案ですが、・・・これを基にしてどうやって具体化していくかという段階に、今差し掛かっていると・・・一般的には選書といいますが、期間は1年以上必要なんです。そうすると1年切っている訳で・・・年間8万件もあるいは雑誌5万件も出ている訳で、何を選ぶかって話になるんですね。その為にはどういう図書館を作るか何を選ぶかという話がもうちょっと煮詰まっていけないといけないと思うんですよ。・・・	S: 同意 fl: 評価		

■表 7-4-15 第 4 分節 (C) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
168	館長	ただ、職員の働く時間等がありますので、9時～18時を前提においてやりたい	F: 提案		【開館時間について】 館長の提案に対して、IkもKYMも 少し長めに希望している。
174	IK	基本的に、北斎館周辺の店もそうですけど、・・・要は人がいないから。だからそれと同じように基本的に花井館長さんが言われたみたいに、・・・ある意味あまり人が集まらない時間だったら縮めてもいいし、・・・夏場だけ、サマータイムみたいな形で、3時間くらい延ばしてやってみてもいいし、断続的にやっていく方向性で考えてもいいと思います。・・・新しい発想みたいなのもあったほうがなんか創造性があるのかなと思うし。	S: 同意 fl: 提案		
176	KYM	今言われた事でだいぶいいと思いますが、例えば、日没から2時間はやるとかね。	s: flに対する同意		

■表 7-4-16 第 4 分節 (D) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F,S連鎖	修復連鎖	談話分析による 意味的繋がり
242	KYM	13回KYM242:今のセキュリティーに関してなんですけれども、その配管の問題は兎も角として、例えばビデオ。そういう防犯カメラ、モニターとかそういうものがあれば。	F:提案		【防犯カメラについて】 KYMから提案が挙がったが、参事と館長は個人情報の点から消極的である。
244	館長	13回館244:最初の頃、ゲートの話で、ゲートはつけないと決めたように、こちらからこうじゃないかって言うよりは、こういう意見の中で、今も出た、防犯カメラ、今また小さくなっていますが、あるほうが良いとか悪いとかかそういう所から始まって、あるんだったら何個か。どことどこか、そういうところもまた、議論の対象になってくるんじゃないかと思えますね。特に、その町作り委員会にも防犯がありますし、そういう所に逆に持って帰ってもいい意見って事もありますし、そこら辺が一番運営に対して検討して欲しいところかなと思います。	s1:Fに対する同意 f2:依頼		
245	参事	13回参事245:ちょっと防犯カメラについて調べてもらえますか?・・・果たして公共施設で防犯カメラをつけるというのはいいかどうかという事も出てくると思うんですよ。・・・館長も言っていますが、防犯の使い方そのものを、検討していかないと。・・・	s2:Fに対する不同意		
247	設計Y	13回設計Y247:ちょっと正確に言いますと、さっき付けられるようになって考えていますと言いましたが、防犯カメラ的なものは考えていなかったんですね。閉館後の機械警備っていうのが出来るようには考えておりましたが、・・・それにプラス防犯カメラをやるかやらないかって言うのは今後の・・・。	s3:Fに対する不同意 f3:提案		
248	館長	13回館長248:はい。こちらで今参事の言った様に調べてみます。	s4:s2に対する同意		
249	IK	13回IK249: ちょっと良いですか。・・・でも、デッドスペースがもし発生した時は、それについては例えば今、色々ありますよね。・・・それはそうやって行く中で、管理者が、あそこら辺にはやっぱり不安があるって所とかそういう声を聞いた上でやっぱり検討すべき事なのかなって。・・・そういうのはやっぱり管理者の責任において形を取っていかれたらと思うんで、そういう中でも検討していかれたらと思います。	s5:f3に対する不同意 f4:依頼		
250	館長	13回館長/250: 図書館ではかなりの個人情報を守らなくてははいけないし、だから、そこら辺も調べさせて頂いて、	s6:f4に対する同意		

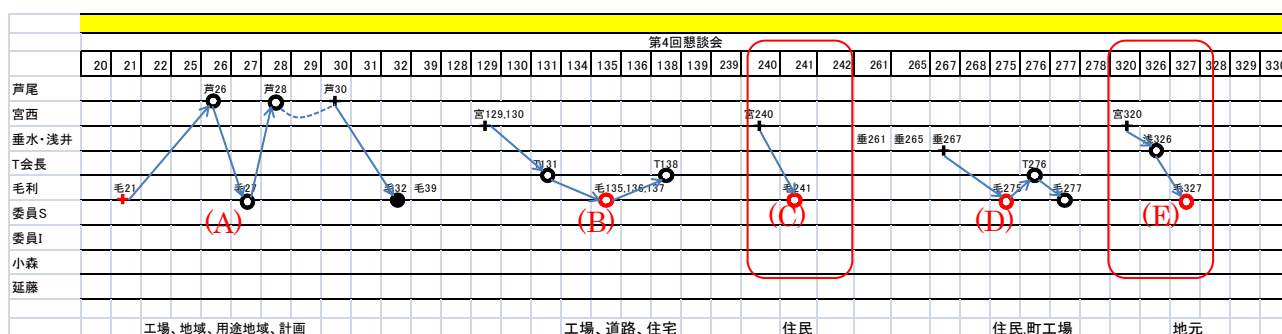
第3項 真野事例の場合

桐生事例、小布施事例と同様に、会話分析の対象個所を選定した際に、除外した箇所に（分析すべき）重要な発話がなかったかどうかを検証する。

① 第1分節

まずは第1分節で選定した「指標発話」のみで第1分節のコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図7-4-9のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A)～(E)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(C),(E)であることから、これらについて会話（談話）分析を行い、その選別の妥当性について吟味する。

※赤い記号が指標発話を表す。



■図7-4-9 第1分節のコミュニケーション構造図における会話群

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-17であり、「宮西」に対する「毛利」の賛成が見られるが、そこで終わっているため「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程ないし「意見対立の解消」過程が見られない。

(E)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-18であり、「垂水」に対する「毛利」の賛成が見られるが、そこで終わっているため「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程ないし「意見対立の解消」過程が見られない。

以上のことから、第1分節において会話分析対象から外した(C)(E)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

■表 7-4-17 第 1 分節 (C) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
240	宮西	それで、まあそういうことで、この、まあ懇談会を、まあ今年度、そういうふうにかう、運営できたら、われわれもなんか、その、転がし事業だけじゃなくてね、転がし事業で何ができるのかというのがありますけれども、やっぱりその地区の将来はこうあるべしと。で、そこへ、その次にじゃあ、それを具体化するために、この事業というのを位置づけて、それで何をやったらいいのかと。で、具体的には富士化成と、今とにかく空いてる土地があると。あの土地をどう利用するのかという話があると。だからそういうことで、なんかここ3月ぐらいまで、あの一、そういう話がね、みんなとできたら、われわれもなんか、仕事やったないう気がする。	F: 提案		【住民】 毛利は「構想段階からの住民参加」であれば検討会設立の意義に同意すると述べている。
241	毛利	構想の段階からの住民参加だと思うんです、わたしはね。 僕は、あの、住民参加いうの、やかまし言うのはね、構想の段階から住民参加してくれ言うわけね。 そうするとまあ、そういうところが住民参加だと思って、	S: Fに対する同意		

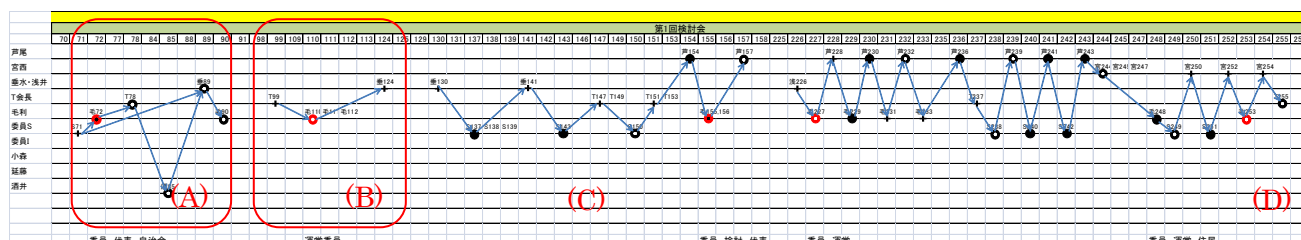
■表 7-4-18 第 1 分節 (E) の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
320	宮西	行政がどこでどんだけどのぐらい求められて	F: 質問		【地元】 検討会委員について、三者とも地元多数で構成する意思を示す。
326	垂水	あんまり多すぎると、あの一、そういう、で、あれで、区役所さんがね、入っていただいとったら、もう後は、	S: Fに対する回答		
327	毛利	それはあるな。 やっぱり地元やからな、地元。	t: Sに対する同意		

② 第2分節

まず第2分節で選定した「指標発話」のみでコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析箇所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証する。

ここでは、図7-4-10のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B),(C),(D)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは(A)(B)であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その選別の妥当性について吟味する。



■図7-4-10 第2分節のコミュニケーション構造図における会話群

(A)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-19である。表に示したとおり、{毛利,T会長,酒井,垂水}の同調関係を示しているが、ここでは「委員S」の了解過程が見られない。このことが次のシーケンスの(C)の「委員S」の発話行為に繋がっていると考えられ、その意味で(C)が重要な個所であることを予測させる箇所であると言える。

(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-20であり、「T会長」の質問に関して「毛利110・111・112」は代弁機能を果たしており、その意味で重要な個所ではあるが、全体のF-S連鎖が質問・回答で終わっているため、「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程ないし「意見対立の解消」過程が見られない。

以上のことから、第2分節において会話分析対象から外した(A)(B)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

■表 7-4-19 第 2 分節 (A) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F, S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
71	委員 S	・・・このままやったらね、自治会の代表者がそく、自治会の代表者であれば自治会長であって、そうすると今毛利さんがおっしゃったようなね、選挙で役員改選になったらどうなるとか、出てくるけど。・・・	F: 評価		【代表の選び方】委員 S は、自治会長を検討会の代表にすることに反対している。T 会長は自治会長を代表にする妥当性を説明し、酒井は同意している。(毛利も垂水も同意しているが、委員 S の了解が見られない。)
72	毛利	今僕そういう意味でなしにね、ここに自治会の代表者って・・・自然発生的に自治会長が出るのか、・・・個人の資格で委員なのか明確にすることなんです。	S: F に対する不同意		
78	T 会長	まあね、自治会の代表がね、あなたに反発するんじゃないよ、なったほうがね、いろいろとまあ便利なええケースもありますわな。・・・自治会の代表がなっとったら・・・だから誰が役員になっても次の人は誰か分かってますさかいな、・・・やっぱり自治会の代表がなっとってね、そのつど会長が変わればバトンタッチしていくという、やっぱり関心的なものの方がね、やっぱり我々中入って経験してみると、そのほうがええやと思うんですよ。	f2: F, S に対する評価		
85	酒井	それと今の件ですね、やはり自治会長が、変われば、当然変わったほうがね、なにかにつけて、今、天宅さんがおっしゃったようにね連絡がその一、() つながることもあるから、変わった方が・・・ええじゃないかと私は思います。	s2: f2 に対する同意		
89	垂水	・・・まとめさせていただきますと、・・・まあいちおう会長さんがなっていたのが・・・ただ、これ、必ずしも自治会の代表権を持って来られているということでもないんで、・・・各町の実情を考えながら、・・・引き継ぎしてもらおうような方向で運用していったらどうかと思いますけど、いかがでしょう。	f3: S, s2 に対する評価		
90	毛利	いや、それで結構ですよ。	s3: f3 に対する同意		

■表 7-4-20 第 2 分節 (B) の発話内容の会話 (談話) 分析

行番	話者	発話内容	会話分析による F, S 連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
99	T 会長	じゃあ、含みとしましてはやっぱり運営委員会には議長というか代表そういう役職があるわけですね。	F: 質問		【運営委員会の会則】垂水(事務局)は、検討会の会則で運営委員会を規定しようと提案している。
110	毛利	・・・天宅さんが言われるのはね、運営委員会独自のね。会則的なものをこしらえる必要があるんかないんかという問題やね。その点どう考えますやん。			
111					
112					
124	垂水	それじゃ、雑則につきましては今、宮西委員の方からありましたように「総会で承認する」と・・・	S: 回答		

③ 第3分節

第3分節について、選定した「指標発話」のみでコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図 7-4-11 のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B),(C),(D)に分けたとき、このうち分析対象としなかったのは (B) (C) であることから、これらの箇所について会話（談話）分析を行い、その選別の妥当性について吟味する。

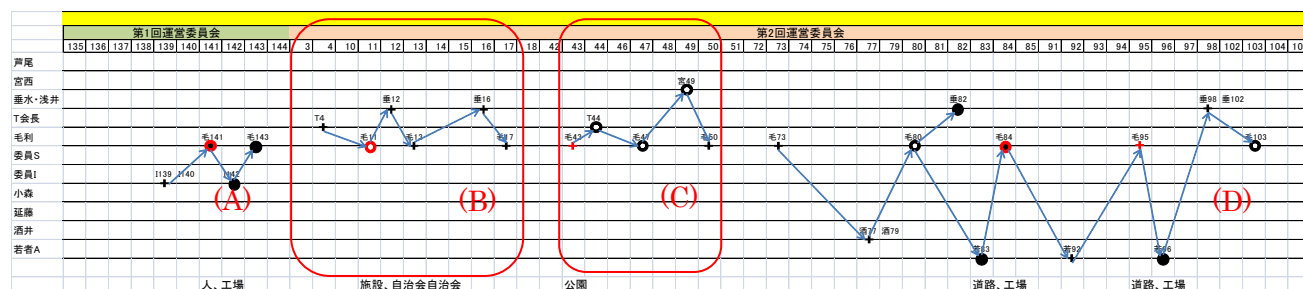


図 7-4-11 第3分節のコミュニケーション構造図における会話群

(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-21 であり、最後に修復連鎖が見られるものの、「言葉探し」程度のもので「意見対立の解消」過程には相当しない。

(C)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表 7-4-22 であり、「毛利」と「T 会長」の同調関係が見られるが、顕著な意見対立やその解消過程は見られない。

以上のことから、第3分節において会話分析対象から外した(B)(C)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

■表 7-4-21 第3分節(B)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
4	T会長	そのほかにね一、これは全部そのとおりですけど、各地区ともそうですけどもね、やっぱり各地区とも望んでいることですけど、やっぱり文化情操的なね、施設が、また…そういう機能が多いんですけど、特にこの地区にはないということがね	F: 評価		【コミュニティセンター】 地域に必要な施設としてT会長と毛利から提言された。 毛利は高齢者福祉の観点から医療センターも複合化する提案を打ち出したが、垂水(事務局)にとってすぐには理解できない様子である。
11	毛利	それでね、今、天宅さんの言われたのはね、こういう現状の中で、事当たるべしという場合はこういう施設があると、…僕もそういう点では賛成なんですよ。それからここでね、コミュニティセンター…文化センターであり、青少年、青年の家、憩いの場であり、婦人の会合の場でありね、地域の自治会の活動の場であり、それから慰労センター、…三等郵便局、そういうのも必要じゃないかな	S: Fに対する同意 f2: 提案		
12	垂水	今、何言われました？ちょっと、書いときますわ。	s2: 質問		
13	毛利	え、例えば、コミュニティセンターを…総合的なね、天宅さんが言われたような文化施設が、…その場所に、あの一、憩いの場所が必要で、そしてまた青年の憩いの場所、婦人の文化的向上の場所、地域の自治会の集合場所、それから三等郵便局、ね、それから医療センター、そやから今度のまちづくりにはね、僕は健康、かね、医療とかいう問題を無視できない()がある…	f3: 回答		
16	垂水	医療…？	s3: 質問	修復開始	
17	毛利	医療センター…医療センターね。	f4: 回答	修復操作	

■表 7-4-22 第3分節(C)の発話内容の会話(談話)分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
43	毛利	毛利第2回43: 今の皆さんの意見で、公園はもういらんと聞いているわけやね、ね、ということは、今の段階ではいらんだろうと、しかし、今のね、今のはっきりいうて神戸市が出しとるね、一人あたりの平均の公園の面積から言えば、	F: 評価		【公園は足りているか】 毛利もT会長も将来的に人口増を見込んだ場合には児童公園が足りない可能性があることを指摘している。
44	T会長	この意味はね、おそらく我々住民もそうですけど、大公園はいらんと、しかし小公園まあ、小公園ね、各地域で小さいやつはほしいですね、大公園はもう…	f2: Fに対する評価		
47	毛利	それから、はっきり言うてね、人口から出れば、公園の面積はまた少ないかもしれないよ。神戸市の()ね、新聞に出てましたけどね、何mいるのか、言えばね。要請が出てくるやろ…現状ではね、今まで一つもなかった公園がこれだけでとんやから、まあ満足しとる…や、それから、はっきり言うてね、人口から出れば、公園の面積はまた少ないかもしれないよ。神戸市の()ね、新聞に出てましたけどね、何mいるのか、言えばね。要請が出てくるやろ…現状ではね、今まで一つもなかった公園がこれだけでとんやから、まあ満足しとる…や、	s1: f2に対する同意 F2: 評価		
49	宮西	将来、将来というかな、…2001年にはやっぱり足らんのではないか、いう…そういう意味ですね、毛利さんが言われたの	s2: F2に対する同意 f3: 質問		
50	毛利	あ、あの一、…、で将来に向けてね、我々はこのプランの中ではね、やっぱりこういう考えもあるわけでしょう、今、ま、一応、あのこの地域が高齢化して来ていると、ほんで、やはり、若いもんが過疎化して来ると、出てましたわね、これは現実でね、そやからこの若い人が市営住宅なんか来て、住環境変える中で、どどめていくのが我々の目的であるからね、そうすれば、子どももようけるんで、…そうする段階では足らんやろと、いう考えがあるわけね、将来に向かったら あ、あの一、…、で将来に向けてね、我々はこのプランの中ではね、やっぱりこういう考えもあるわけでしょう、今、ま、一応、あのこの地域が高齢化して来ていると、ほんで、やはり、若いもんが過疎化して来ると、出てましたわね、これは現実でね、そやからこの若い人が市営住宅なんか来て、住環境変える中で、どどめていくのが我々の目的であるからね、そうすれば、子どももようけるんで、…そうする段階では足らんやろと、いう考えがあるわけね、将来に向かったら	s3: f3に対する回答		

④ 第4分節

まず第4分節について、選定した「指標発話」のみでコミュニケーション構造図を作成し、次に会話（談話）分析個所（「賛成・反対の構造的特徴を有する会話群」）選別の妥当性を検証するため、図7-4-12のように、それぞれのまとまった会話群の内容を(A),(B),(C),(D)に分けたとき、対象箇所としなかったのは(B)(D)であることから、これらの箇所の会話（談話）分析を行い、その選別の妥当性について吟味する。

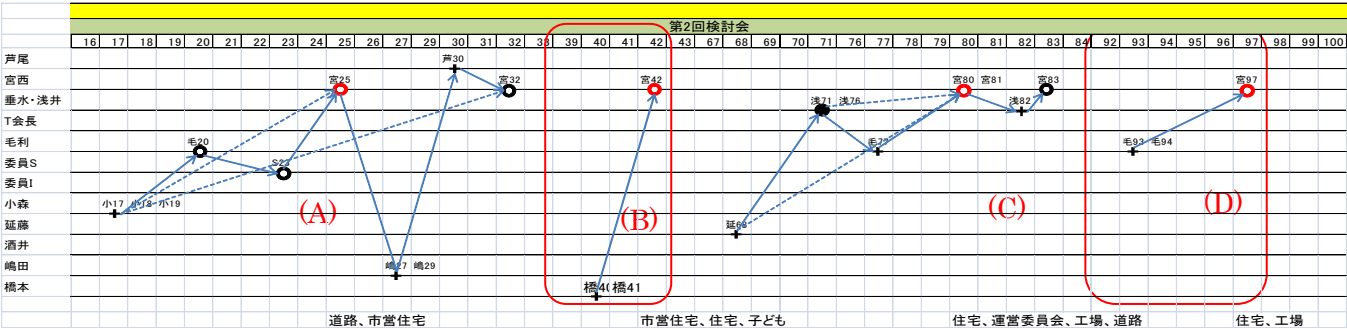


図 7-4-12 第4分節のコミュニケーション構造図における会話群

(B)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-23であり、自力で共同建替える方法についても討議するべきと「橋本」から提案が出され、「宮西」もそれを受けて同意しているが、「橋本」も「宮西」も事務局側の成員であり他の成員の連鎖がないことから、これが「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程であると見ることは難しい。

(D)についての会話（談話）分析結果をまとめたものが表7-4-24であり、地場産業の振興について「毛利」から提案が挙がっており、「宮西」もそれを受けて賛成している。しかしながら他の成員の連鎖がないことから、これが「集団にとって有効となった目標表現」の共有過程であると見ることは難しい。

以上のことから、第4分節において会話分析対象から外した(B)(D)には目標の共有過程や対立の解消過程が見られないことが確認でき、その選別について妥当であるという結果が得られた。

■表 7-4-23 第4分節(B)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
40 41	橋本	だから、なんか、僕はあれですけど、地元のやっぱり()若い人は、例えばそりや市営住宅入りたいかも分からないし、ある人は、あの一、お父さんと息子ということで、ね、自分の家をどっかで、このコブ住宅みたいなうんかね、皆さんでお金を出し合って共同で進めましようってやり方もありますし、だから、分譲もあります賃貸もあります。ただ、その場合やっぱりいろいろ考え出さない。それとも、自分の民間、あの一、＝長屋＝でしたらそういう建て替えをつくらね。今、市営住宅の話出ましたけど、ほかにいろいろあるんではないかは、いっぺんそれは見直し(),いっぺんいろいろ、	F:提案		【共同建替え】 橋本から、自力で共同建替える方法も討議すべきという提案があり、宮西も受諾。
42	宮西	市営住宅だけじゃなくて、やっぱり住宅のこう、なんか、例えば大きさとかね、例えば家族何人で住むのかと、その一、親子だけで住むのか、おじいさんも一緒に住むのかで、こう、住宅の大きさが変わってくるわけだし。	S:同意		

■表 7-4-24 第4分節(D)の発話内容の会話（談話）分析

行番	話者	発話内容	会話分析によるF,S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
93 94	毛利	それから宮西さん、もう一つね、これの議題を深めてほしいのはね、この地域のね、やっぱりわれわれは、あの、地場産業をね、やっぱり発展させる()気があるわけですね、やっぱり地域の繁栄のためにはね。だからここで、地場産業とはどこにする()かね、やっぱり今後問題出てくると思うわね。僕はやっぱり、地場産業は発展してもらわんと地域が発展せんいう考えもあるんでね。では、この地区の地場産業いうたらどういう種類かい。これもまた先生方のご質問にも()	F:提案		【地場産業の振興】 毛利は学識委員に聞きたいと提案し、宮西はそれを受けて学習会を開きたいと目標表現している。
97	宮西	今毛利さん言ったのは、やっぱり地場産業が問題だということだろうと思うんですね。...工場の問題をどうするのかと、もう工場そのもの、営業の問題なり、その一、成り立ち、...どう理解していくのかというような話に、こう、つながっていくわけで、で、おそろくこう、どう解決するかという時には、例えば住宅の問題ではここにおられる、その一、＝エンドウ＝先生とか、まあ工場の問題では小森先生とか、まあその、土地利用の問題では、その一、島田先生とかっていう先生に、ある時はこう、講義をね、してもらって、...共通の基盤みたいなものをつくっていかなくちゃいけないだろうと思うんですね。	S:同意		

第5節 小活

第1節では、当該技法による討議記録のデータ（発話レコード）数の縮約性能について評価したところ、いずれも会議録コーパスの時点で 10^3 レベルの発話レコード数であったが会話分析シートの段階で 10^1 レベルまで縮約できたことを確認した。

データ数の縮約実績については、各事例につき最初は量にして開きのあるデータ数であったが、テキストマイニング、指標発話、指標発話連鎖会話群、コミュニケーション構造図、会話分析シートに至っては、いずれも開きのないデータ数となった。筆者は桐生事例は直接参与観察しており、他の2事例は現場にいない。現場を知る・知らないに限らず、 10^1 レベルまで縮約できる結果を示した。

第2節では、時期の分節化の妥当性について評価を行ったところ、いずれの事例も討議環境の変化からも、討議テーマの変遷からも説明可能なことを確認した。

第3節では、データの縮約化にともない、テーマを十分に網羅しているかどうかについて評価した。

テーマの網羅実績（会議録との照応）については、小布施と真野事例ではすでにテキストマイニングの時点でほぼ網羅していたが、桐生事例は逆に網羅していなかった⁴⁹。いずれにしても会議録コーパスから2次加工したデータベース「指標発話連鎖会話群」を作成するまでに落としてきた発話にく討議テーマをを表すような重要な発話がなかったかどうかを検証した結果、いずれも重要な発話はなかったことを確認した。

桐生事例の結果は当時の会議録要旨が必ずしも討議されたテーマを取り上げていなかったことに起因するものであったが、図らずも本論冒頭第1章で述べたように、観察者（この場合は当時のコンサルタント）の選択における主観性・恣意性が働いていることを証明した形となった。

また桐生事例においては、「寺を活用した観光という切り口」については、成員から提案が出され、それに対して住職が否定するという、賛成・反対の構造が見られたにもかかわらず、当該期間のターン割合1位者（Os）の発話からは抽出することができなかったことが分かった。

この原因については、1つは、賛成・反対のターンが1度限りで終わっていたこと、またもう一つは、「Os」が司会進行を行っていたことから「見かけ上」のターンが多かったためターン割合1位者に選ばれてしまったことだと分析した。しかしながら、争点を含んでいないこと、そしてこの賛成・反対の当事者となっている成員（近藤と住職）間には（当該テーマについての）対立構造がないことから、当該技法の目的からは見れば重要視すべき問題ではないという結論に至った。

また小布施事例においては、「切妻でない屋根形状」について、第8回の古谷の発話（発話番号396）に「…その屋根の提案が、これで良いだろうか、という議論が次に起こり、…」とあることから、いずれかの会議で争点化した可能性があることが分かり、ビデオで調べたところ第3回で屋根形状について、確かに図書館コンペの審査委員長から疑義が挙がっていたのを確認したにもかかわらず、当該期間のターン割合1位者の発話からは抽出することができなかったことが分かった。

この原因については、第3回の会議録は公開されていなかったのも会議録コーパスのデータとして含まれていなかったことだと分析した。しかしながら第3回では、疑義を挙げたK氏の発話を確認さ

⁴⁹ すなわち当時の専門家（コンサルタント）が重要だと思われる箇所を適宜選んで編集した会議録要旨と、当該技法により会議録コーパスから抽出された箇所とが大きく乖離する結果を示した。

れたのみで、それに対して賛成ないし反対意見がほとんどなかったことから、このテーマ（屋根の形状）が実際に会議において争点として認識されていなかった可能性が大きいと判断でき、したがって当該技法の目的から見れば重要視すべき問題ではないという結論に至った。

第4節では、コミュニケーション構造図における会話分析対象箇所を選定妥当性、すなわちコミュニケーション構造図から会話（談話）分析箇所を選定した際に観察者が見たい部分（意見対立の解消過程や目標表現の共有過程）を選ぶことができるか、を検証した。

いずれの事例も、会話分析すべき箇所をコミュニケーション構造図によって十分に現示できていることも実証した。

ただし桐生事例においては、岡田邸の再生構想を検討していきたいという目標表現が会長「Tu」より出され、岡田（「岡」）も同意している箇所が選定されていないことが分かった。これは当会の古民家再生の案件を知る上で重要な箇所ではあるが、当該箇所のF-S連鎖が岡田の発話で終わっていて、目標が全体化された過程が見られないことから、（目標の共有過程や対立の解消過程を見るという）本論の目的から見れば重要視すべき箇所ではないという結論に至った。

また、「古民家再生部会」とは別に古民家再生を検討する専門部会をつくる提案が出され、それについて「Ka」と「Tu」の両者間で微妙な認識のずれを見せる箇所が第3分節にも第4分節にもあるが、（会話分析対象箇所として）選定されていない。これについては、（部会なのか例会なのか）「言葉探し」をめぐる賛成・反対の連鎖であって、対立構造が鮮明に現れていなかったので選定されなかったことに起因するものだが、第4分節で「Ka」が「部会」を「研究会」に訂正し、「Tu」が了解に至る箇所（分析対象とした第4分節の(B)）の背景（文脈）を知る上では重要な箇所である。しかし、この第4分節の(B)を会話分析することで「了解の構造」は明らかになることから、会話分析の目的から見れば必ずしも選定すべき必須箇所とは言えないという結論に至っている⁵⁰。

同様に小布施事例においても、真野事例においても、目標表現があっても共有化過程が見られない箇所や、賛成・反対があっても対立構造や解消過程が見られない箇所は分析対象箇所から外れていることを確認した。これらは桐生事例と同じように、会話分析の目的から見れば必ずしも選定すべき箇所とは言えないが、（選定した箇所との関連づけの）理解の厚みを増す上では必要に応じて触れることが望ましいという結論に至った。

⁵⁰ 時間の許す限り必要に応じて、前の箇所に遡って分析することで第4分節(B)の理解の厚みを増すことができる。その意味で、最初に対象箇所として選ばないことは正しいとか間違いということではなくて、分析者の判断に委ねるべき問題であると考えられる。

第8章 結論

第1節 本研究のまとめ

第1章で提示した「研究の目的」に対して、まず会議録のテキストデータを対象とした「談話分析」や「会話分析」などの質的研究を可能にするためのデータ縮約技法を第2章で提示した。

これは、そもそも会話記録という質的データを（膨大であるが為に）計量的に扱い、機械的に縮約して再び質的に扱うことができるようにする技法であったと言える。

同時に、この縮約されたデータから「コミュニケーション構造図」を作成することができ、誰が誰に対してどのようなタイミングで、賛成ないし反対したのかといった情報を可視化することができた。これを第2章で提示した。

そして当該技法が実際に適用可能なことを第3章から第5章を通じて示すことができた。さらに3つのケーススタディを通して、「リーダーシップ構造図」及び「コミュニケーション構造図」から、そして会話（談話）分析から専門家が果たした役割を第三者が客観的に解釈しうることを確認できた。また第6章では「コミュニケーション構造図」からいくつかの構造的パターン、及び会話（談話）分析から「代弁的発話行為」、「自己修復の優先性」に関わるいくつかの発見を得ることができた。

そして実例に適用した場合にテーマの網羅性、会話分析対象箇所を選択の妥当性において大きな問題は生じなかったことを第7章で確認した。

第2節 まちづくり研究に対する貢献と今後の研究課題

まちづくり協議会は概ね周辺住民が参加するケースが多い。その意味で、参加した成員は互いにコミュニティすなわち日常生活における生活領域を同じくしていることから、人付き合いの親和性の維持を無視することができず、賛成・反対の明確な意思表示をしづらい緊張した環境に置かれている。とくに、まちの空間形成を話題にする場合には他人の建物や土地を含むことも少なくないので、なおさらである。

一方で、まちづくり協議会は「まちづくり」という何らかの創造行為をテーマにしていることから、或る目標に向かって共同して実践的に関わっていかなくてはならないという宿命も持している。

したがって賛成・反対の意思決定については、非常に繊細かつ慎重な態度が要請されるとともに、その中で意見対立が生じた場合にはその解消に向けて、目標表現が行われた場合にはその共有化に向けて、大きな努力が必要となる。そして多くの場合、将来に禍根を残さないように成員が納得することが尊重され、テーマの「蒸し返し」や「行きつ戻りつ」のような事態が伴われ、長い年月をかけて討議されることになる。

このようなまちづくり協議会の特性に対して本論は、まず、一つの実践的目標に至るまでの過程を「いつ、誰が、誰に対して何を言ったのか」という相互行為の形式を損なうことなく、重要な会話を明示しながら把握する技法を提示した。そして3つの事例研究を通して、それぞれの小集団にそれぞれの「討議デザイン」があることを提示した。

それらは「まちづくり」特有の繊細かつ創造的で、かつ成員の納得を尊重する討議環境をいかに作り出すかに向けて、それぞれのコミュニティが結果的に選んだデザインであると言える。

まちづくり協議会の援助に関わる専門家は、これまでこのような各コミュニティ特有の討議デザインを無形的に感じて、それを活用しながら介入することが少なくなかったと思われるが、本論はこのような討議デザインを客観的に共有可能にした点に大きな貢献があると考ええる。

本論では、当該技法をまず桐生事例について適用し、試行錯誤を経て具体的な手順を定め、他の2事例に適用した。その結果、その縮約過程及び分析過程においては前述のとおり、いずれも特に技術的な大きな問題は生じなかったが、今後もさらに事例を増やして検証していくべきであろう。

また本論の分析成果では、意見対立の解消過程や目標の共有過程で「代弁的発話行為」が重要な役割を果たしていること、またその際に「第三者的立場」の成員が大きな役割を果たすことがあること、さらに（それらの過程で強い影響を与えた）言説の位置に共通点があること、を発見することができた。また、了解に至る構造や意見が転向する構造など、構造のバリエーションについてもいくつか挙げることができた。今後はさらに事例を増やして検証するとともに、よりいっそう共通点（類型）のバリエーションを蓄積し、個別に深く分析していくべきであろう。

一方でまた本論は、第2章で述べたように「グループワーク論」のアセスメント技法の援用から、グループ構造としての「リーダーシップ構造」と「コミュニケーション構造」の変化を眺めながら、グループ過程としての「意見対立の解消過程」と「目標表現の共有過程」に着眼することとした。

その枠組みで3事例を分析し、いくつかの知見を得る結果となったが、「意見対立の解消過程」、「目標表現の共有過程」にも属さない重要な会話群もあった。

例えば、「同調」であり、「目標表現の共有過程」に関与していないまでも単発的な「同調」があった。また「意見対立」とは呼べないまでも長いやり取りが続く対話があった。

前者の「同調」を見せる成員間には或る種の親和性があり、グループ構造を把握する上で重要な情報であると言えるが、本論では「意見対立の解消過程」、「目標表現の共有過程」に関係しない会話群は「指標発話」ないし「指標発話連鎖会話群」からは除外することにした。

また後者については、（そこから対立構造も解消過程も見えないとしても）長く続く理由には、当事者にとって了解・納得できない何らかの理由や、相互の何らかの人間関係を反映していることがあり、それらを把握することによって上述の「グループ構造」や「グループ過程」がより厚みを増して理解できるようになることがある。しかしながら当該技法においては、指標発話連鎖会話群を作成する過程で、また会話分析対象箇所を選定する過程で「意見対立とは呼べない発話」は省除してしまう。よって、厚みの薄い理解にとどまっている可能性を否定できない。

これらの点については、作業上の時間の許す限り、必要に応じて、指標発話選定過程ないし指標発話連鎖会話群の作成過程で落とした箇所、会話分析対象箇所で落とした箇所にも再帰的に視野を広げてみて、そこに分析成果の厚みを増すような会話群がないかどうかを調べる必要があると言える¹。

また当該技法は専ら会議録を対象にして分析する技法である。本論の3事例については幸いにも会議録だけを用いて、発話の意味する内容をほぼ理解することができた。

ただし、例えば小布施事例において、当初入り口の異なる3つの施設平面案が登場しており、（発話の内容から入り口がそれぞれどこにあるのかを理解することはできても）入り口の違いによって内部のしつらえがどのように変わっていたのかについては（発話内容に現れていたカウンターの位置などを除いて）把握できないものがあった。

¹ 前者については「指標発話候補」を見ることで（どの箇所を落としたのかは）容易に判別できると思われる。また後者については「コミュニケーション構造図」を見ることで容易に判別できると思われる。本論では実際にその作業を行い、落とした箇所には分析結果に重要な影響を与える情報はなかったことを検証したが、分析結果に厚みを与える情報が隠されていたことは否定していない。

それらに関しては、話題として「意見対立の解消過程」ないし「目標の共有過程」に直接関与して来なかったので本論では問題にはならなかった。しかし、もし当時の3案の図面（又は模型）が資料としてあったならば、あるいは録画ビデオの中で識別できたならば、より効率的に正確に文脈的理解ができたかもしれない。このように図面資料はなるべく集めた方がよいと言えるだろう。

同様に各会議の参加者名簿も揃っているほど会議録コーパスの作成を効率的に行うことができる。真野事例では第1回・第2回運営委員会については参加者名簿がなく映像記録もなかったため、特定できない発話者が若干おり、（ターン割合が少ないことから特に問題は生じなかったが）それらを分析対象から外すしかなかった。

当時の会議録以外の会議資料は集めうる限りなるべく集めた方がよいと言えるが、とくに図面と参加者名簿は強力な味方となることが分かった。

また本事例の会議は、第2節第2項で示したように、「特定目的解決型」か「オープンエンド型」か、「行政主導型」か「民意主導型」か、といった違いはあるものの、いずれも協議会形式であり発言機会は比較的平等に与えられており自由な発議が許されている場であったと言える。さらに当該技法は「話し手」と「受け手」の間で賛成・反対が明確になっている会議に限定した技法である。

したがって、例えば形式的に「説明会」、「報告会」に近いような会議、また例えば「根回し」のように、会議の中での相互行為ではなく会議外に意思決定のプロセスの重点が置かれているケースに対して当該技法が有効であるか否かは不明である。

具体的には、ターン（順番交替）の変化による時期区分、また会議の中での賛成（Pro.）・反対（Con.）の意思表示の記号化といった技法が十分に機能しないことが想定され、このようなケースに対応するために何が必要かについてはまた別の研究が必要となるだろう。

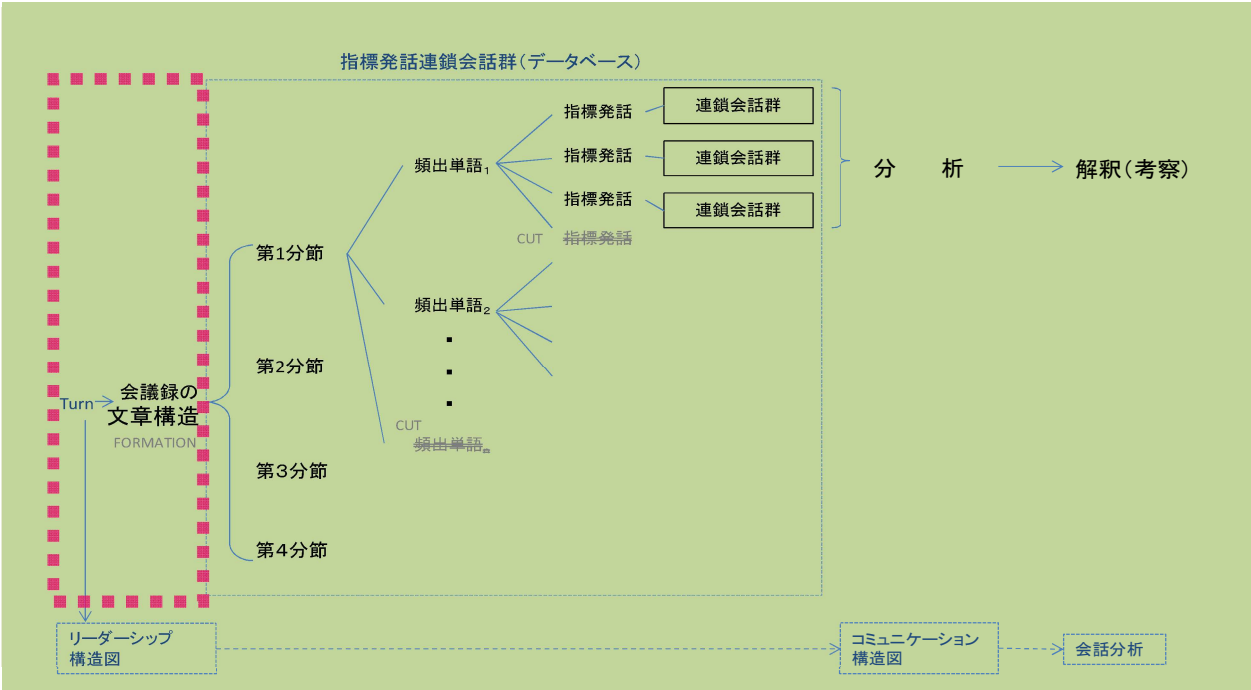
また、当該技法は数年にわたるような長期の会議を対象とし、事後的に分析することを前提としている。一方で例えば1回分の会議録であっても「時間」という経過があるので、その中での時期の分節化、頻出単語と指標発話候補の抽出、指標発話の選定、指標発話連鎖会話群の抽出、コミュニケーション構造図の作成、会話分析シートの一連の工程が、理論上は適用可能であり、そこから質的な分析が可能であると言える²が、1回ないし短期の会議録について当該技法がどの程度有効であるのかは本論では扱っていない。この点についても別途研究が必要となるだろう。

² 実際に本論とは別に、「時間」変数を「行番号」で置き換えて適用したところ、よりミクロな視点で会話分析が可能であることを確認している。また現時点では一部の判断を分析者が行っていることからオンタイムでの分析はできないが、例えば午前の会議の分析結果を午後の会議に活かすことができる程度の応用は可能と思われる。

第9章 補論～手順書

第1節 会議録コーパスの作成

本節では、会議録コーパスの作成手順について説明する。



■図 9-1-1 当該手順の箇所

まず会議録コーパスのフォーマットを下表 9-1-1 に示し、(表頭の) 各列についての記入の仕方について順次説明する。

■表 9-1-1 会議録コーパス見本

	A	B	C	D	E
1	*日付	ターン用氏名	%氏名	行番号	発話内容
2	2009/6/18	参与観察者	参与観察	1	これを集めてきたときに相生にはどんな書物があるのか実際に興味はわくものだと思うんですよ。だから集めてきた中でこれはすばらしいと思ったものは写真に撮って…に頼んで写真を撮って、こういうものがありましたよということとどこかで雑誌的に公表するというか、ばらまく、そういうことをやっていってほしいと思うんですよ。実際に試着したものがあつたというので、つなげていく可能性はあるんじゃないかと。
3	2009/6/18		住職	2	まあ、だからね、そういう意味ではね…
4	2009/6/18	東山	東山	3	いい話だよ。
5	2009/6/18	住職	住職	4	東山さんもいい話って言うてるのもそうなんだけど、私もね、今いろいろ考えていたんだけど、その意味では、「共生き」なんたよな、書物も共に生きるわけはちょっとね、浄土宗のいう…環境もそうだし、地球共存もそうだし、共に生きようってような感じが全部そうなのとある意味で言うとなんかテーマなのかなって感じがするんだよね。
6	2009/6/18	近藤	近藤	5	私もうたと思う、こういうまちで育った私たち…私はよそからきた人間かもしれないけど…みなさん、みなこの町で育った人たちでしょ、そういう人たちがいったいどういうからんでしょ、昔読者くらいいっぱいあるから、で、どんなふうに出てくるかというのはものすごく期待があると私が思うのは、忘れてはいいけないのは、みんな相生に住んでいる人なんだから、どうかな、いいけど。
7	2009/6/18			6	重要ですよ、だって、まあおこしでしょ。
8	2009/6/18	東山	東山	7	ちょっといいですが、このあいたちと小林さんのところに行きたんだけど、小林さんのところの2階に古書がいっぱいあるんですよ、で、そこいじやまで、それでなんとかあそこばかりにどいて、いつか、雑誌試験場ってのが相生にあるんだって、その館に預かれないやつをぜんぶ、いい、あるんですよ、それが片付けられない。
9	2009/6/18	住職	住職	8	それが三千書あるって話?
10	2009/6/18	東山	東山	9	そう、それが小林さんと、きもの小沢先生と…3人で片付けただけで片付けられないくらいいっぱいある、それが、ほんのお宝って思うやつが、そういう無造作にあるんですよ。
11	2009/6/18			10	(間髪入れず)。
12	2009/6/18	近藤	近藤	11	それで当初は書物ミュージアムをつくるっていう発想があったでしょ、書物ミュージアムって発想はすごく大事なことになるのに、誰も見向きもしないし、考えてもみなあったでしょ、結局一人でやっただけで、いいかわかんない、なんでも…ほんとうにえっ、って、感じですよ。
13	2009/6/18	大須賀	大須賀	12	織物組合でちゃんと資料はとってある、ただ見れるところがない、箱物がいない。
14	2009/6/18	近藤	近藤	13	ただね、お金がないっていうのは…
15	2009/6/18			14	(間髪入れず)。
16	2009/6/18	住職	住職	15	でも、博物館ってのがあって、たしか相生にはそういう博物館があってもいいのかなと思うよね、それはね。
17	2009/6/18	近藤	近藤	16	だから、それと、博物館で、それと、相生にはそういう博物館があってもいいのかなと思うよね、それはね。

第1項 「発話内容」欄の記入の仕方

①基本的な考え方

ここでの個々のセル情報が以降の分析の「発話レコード」の単位となる。またこの発話単位が、後の作業でテキストマイニングソフトを使って単語検索を行う際の発話単位になる。ここでいう「発話単位」とは、質問と応答など意味を持ったひとまとまりのことで、基本的には分析者が「最も自然と

思われるところで区切るのがよい」(坊農ほか、2009)。ただし、ターンの返しが無いことが自明な発話^{注1}については、(分析に使われないので)省除しても、一つのセルに全て記入しても良い。

②実用上の指針

基本的な考え方は上述のとおりだが、実際にエクセルの場合は一つのセルに入る文字数の限界があり、限界に近づくほど動作が鈍くなるので、限度いっぱいに入らないことが望ましい。また単語検索を行った際にもセルの文字量が多いと(その単語がどこにあるのか)判別が困難になるので、ターンの返しが無いことが自明な発話についても、記入するならば短めにしておいた方がよい。これらの理由から目安として「200 字程度」を限度として記入するとよい。

第2項 「行番号」欄の記入の仕方

①基本的な考え方

行番号は発話内容を発話単位で整理した際の、個々の発話レコードの ID になるので、上から順番に付けていく。同時にこれが時間の推移を表す「順序尺度」になる^{注2}。

なお、発話情報以外の情報(例えば表 9-1-1 の 10 番と 14 番)が混ざっていたとしても(ID として必要になるので)一貫して番号を付してよい。

②実用上の指針

基本的な考え方は上述のとおりだが、この後の作業で時期を分節化した際に、同じ分節の中で同じ行番号があると(区別するために)日付情報を付加しなければならないので、コーパス全体を通して、もしくは後の作業で分節化した際に分節ごとに1から順に番号付けを行うほうが効率的である。

しかし、途中の会議が抜けていて、あとからデータとして挿入するといった状況や、対象範囲が前に遡る可能性もあるので(その都度行番号が変わると ID としてふさわしくない)、会議ごとに1から順に番号付けを行ってもよい^{注3}。どちらを選ぶかは、そうした可能性を踏まえて分析者が任意に決めればよい。

第3項 「氏名」欄の記入の仕方

①基本的な考え方

氏名欄は、発話レコードの発話者情報になるので、全行につき記入しなくてはならない。氏名は後のコンピューターソフトで分析する際の ID になるので、個々の氏名が固定されている必要がある。なお、実際の姓名でも、記号でも構わないが、実名の場合は基本的に本人の(承認の)意思を確認しておく必要がある。

②実用上の指針

後のテキストマイニングソフトで「氏名(発話者)」情報を認識するために表頭に記号「%」を記入する必要がある^{注4}。

また、個々の氏名が統一して使用されるように、また(同姓や同記号などの)重複がないように、実際の氏名と氏名欄に記入する情報との連関を整理した名簿を別に作成しておくことが望ましい。

¹ 例えば、基調講演や資料説明などの発話部分。

² ただし本論では「順序尺度」とした計量的分析は一切行っていない。(当該技法は、同じ会議の中の時間の要素を「行番号」として分析することも可能であるが、本論では紹介していない。)

³ 本論では、桐生事例と真野事例は会議ごとに、小布施事例は分節ごとに通し番号を付けている。

⁴ 本論で使用する「PAT-M-STD-V4」の場合、%が氏名に関するアノテーション・タグとなっている。

第4項 「ターン用氏名」欄の記入の仕方

①基本的な考え方

ターン用氏名欄は、ターンを算定する際の情報になる。ターンはターン割合の変化、すなわち時期の分節化を判定する際に用いられる説明変数であり、発話内容との連関には用いられない⁵ので、各行に記入する必要はない。したがって、複数の発話単位（行）が一つのターンに該当する場合には、それら複数の行のどれかに「ターン用氏名」を記入すればよい。また、「ターン」の定義から外れる発話には記入しない（例えば表 9-1-1 の行番号 2 番を参照）。

なお、ターンの定義は次のとおりである。

（ターンの定義）

以下のすべての条件を満たすものを 1 「ターン」としてみなす。

（ア）次の発話者に交替するまでの発話

（イ）質問と応答のように、前の発話者に対するリアクションがある場合

例：「Why 質問と返答」，「Yes/No 質問と一致ないし不一致」，「依頼と承諾ないし拒否」，「申出と受諾ないし拒否」，「誘いと受諾ないし拒否」，「感謝と承認ないし拒絶」，「謝罪と承認ないし拒絶」，「評価と同意ないし不同意」

（ウ）ただし以下の発話行為を除く

i .あいさつ（に対するあいさつ）

ii .あいづち⁶

iii .感情的に口から洩れた発話で賛成・反対の意思が不明なもの

②実用上の指針

ターンの定義については、本論では以上のように説明しているが、実際、会議録コーパス作成段階で一つ一つの発話がターンの定義に該当するかどうかを判定することは極めて不効率であるので、消去法で考えた方がよい。すなわち、以下のような手順でターンに該当しないものを対象から外していくほうがよい⁷。

i .明らかにリターンがない発話、リターンを期待していない発話を外す。（演説、司会進行等）

ii .上の（ウ）に該当する発話を外す。

第5項 「日付」欄の記入の仕方

①基本的な考え方

「日付」は時間の推移を表す「連続尺度」となる。行番号や氏名とともに、「発話レコード」の ID となる。したがって全ての発話レコード（「発話内容」の発話単位）に付していなければならない。

②実用上の指針

「日付」情報は「ターン用氏名」又は「発話内容」のアノテーション（メタデータ）として使用されるだけだが、「発話内容」以外の情報にも付しても問題はないので、全行に記入するとよい。

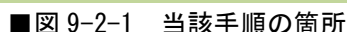
また本論のテキストマイニングソフトでは「日付」情報を認識するにあたり、表頭に記号「＊」を記入する必要がある。

⁵ 時間（日付情報）の目的変数として用いられるのみである。

⁶ ここでいう「あいづち」の定義は、発話の内容に関係なく、間を埋めるために行われた発話行為とする

⁷ 会話分析の段階で精査するので、この段階でターンに該当しないものが混ざっていても特に問題はない。

本節では、データベースの作成手順について説明する。



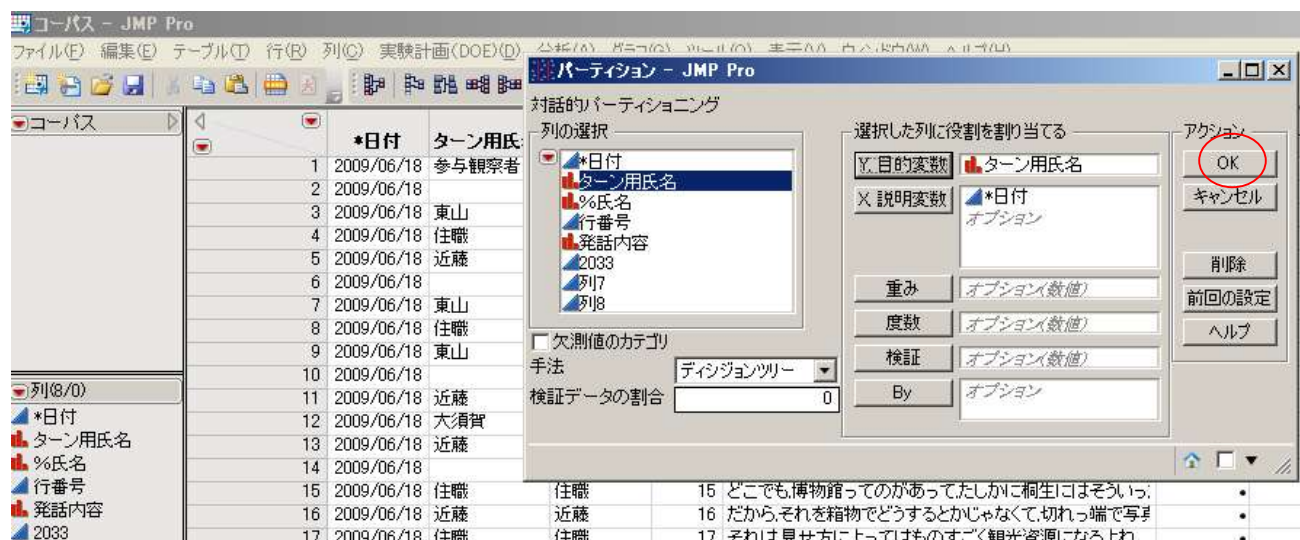
本論の「データベース」とは、「頻出単語」、「指標発話」、「指標発話連鎖会話群」とそれらの連関が分かるように整理された表である。当該技法では必要に応じて「指標発話連鎖会話群」から「指標発話」、「指標発話」から「頻出単語」、と遡ることができるようにエクセルのリンク機能を使って整理する。すなわちエクセル表では図 9-2-2 に示したように各ワークシートで整理することが可能であり、これらについての記入の仕方について以下説明する。

■図 9-2-2 ワークシート(時期区分)見本

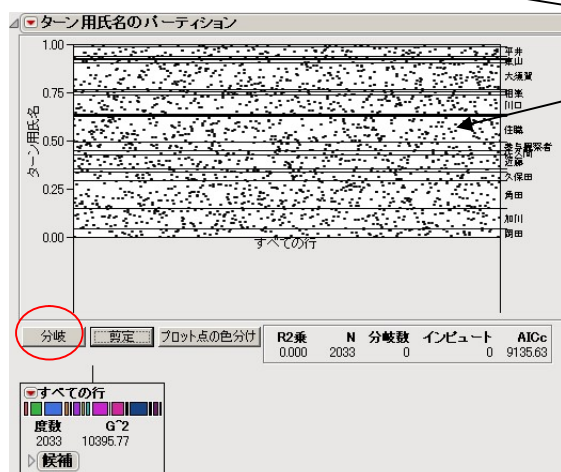
第1項 時期の分節の仕方～「ターン割合」の算定手順

①基本的な考え方

前節で作成された会議録コーパスを用いて、成員のターン割合の変遷を解析する。なお解析に当たっては本論では決定木分析を用いる⁸。

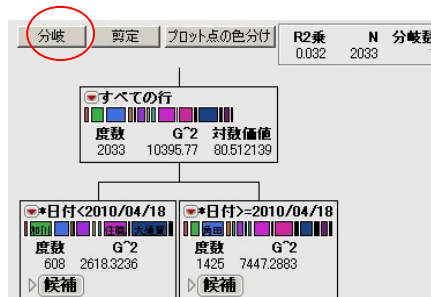


実行

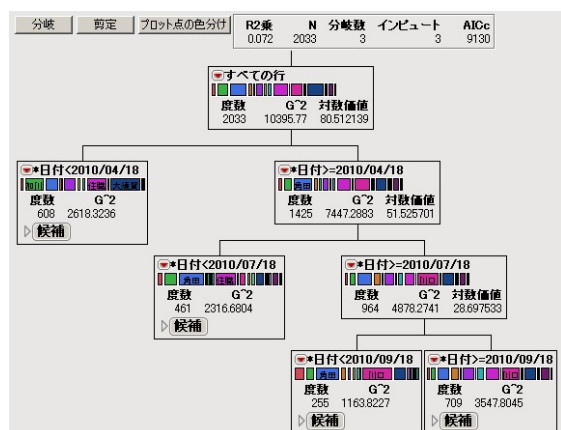


※ターン出現の度数分布を示している。この中を分岐前の母集団と分岐後の左右2つの「尤度比カイ2乗 (G^2)」の和との差が最大になるように分岐していく。

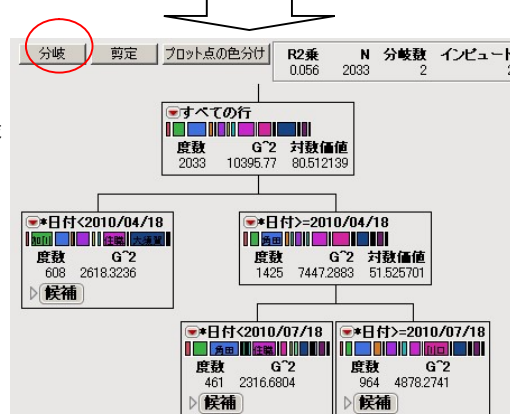
分岐していく



分岐していく



3度目の分岐



■図 9-2-3 パーティションによる決定木

⁸ 本論では「JMP」の「パーティション」を使用する。

この算定にあたって必要なのは、目的変数が会議録コーパスの「ターン用氏名^{注9}」（名義尺度）、説明変数が「日付」（連続尺度）である。すなわち各「ターン用氏名」の出現を「日付」という時間（シーケンス）で説明させることで、時期（シーケンス）と各成員のターンの出現量の変化についての連関を算定している。

「パーティション」には「分岐統計量の最大化」と「有意度の最大化」の2種類のアルゴリズムがあるが、本論のように説明変数を一つの項目で設定している^{注10}場合は前者によって分岐を選ぶことになる。「分岐統計量の最大化」とは、下式のような2つの応答の差が最大になるように分岐することをさし、本論のように応答（目的変数）がカテゴリ変数（名義尺度）の場合は、「尤度比カイ2乗^{注11}」が「応答」の基準となる^{注12}。

JMPの「尤度比カイ2乗」とは、「エントロピー（情報量）^{注13}」に2を乗じたもの^{注14}で、「エントロピー」とは、確率(P)の逆数を自然対数で取った $\log(1/p) = -\log(p)$ で表される^{注15}。例えば全体で100ターンあったうちn回ターンを残した或る成員がn回連続して^{注16}ターンを起こす確率は $(n/100)^n$ であるから、「エントロピー（情報量）」は $\Sigma -\log((n/100)^n)$ となる。よって JMP の「尤度比カイ2乗 (G^2)」 $= 2 \times \{ \Sigma -\log((n/100)^n) \}$ となる^{注17}。

そして、下の式で表されるような G^2_{test} が最も大きな値を示す個所で分岐される。

$$G^2_{\text{test}} = G^2_{\text{parent}} - (G^2_{\text{left}} + G^2_{\text{right}})$$

すなわち、図 9-2-3 に示すように「 G^2_{parent} 」は分岐する前の「 G^2 」の値を指しており、「 $G^2_{\text{left}} + G^2_{\text{right}}$ 」は、分岐後の左と右の「 G^2 」の値の和を指している。この差が最大となる点で順次分岐していき、分岐するごとに（「 G^2_{parent} 」の）値が小さくなる^{注18}。逆に、「R2乗」の値は増えていき、改善の余地がなくなるまで分岐を続けることができる^{注19}。本論では、分岐するごとに「第1分岐」、「第2分岐」、・・・と呼ぶ。分岐するたびに分節個所が増える。

この分岐点を時期の分節の切れ目とする。エントロピーという統計量を用いて分岐選択を行うため、統計的な意味での有意性は保証されている。

すなわち、この切れ目をもとに会議録コーパスを分割（層化）し、会議録コーパスを加工したデータベースを作成する^{注20}。

9 ここで時期区分を算定するにあたっては「ターン用氏名」が「目的変数」になっている。「説明変数」の「日付」に対する（ターン用氏名が現れる）度数として計算される。

10 本ソフトでは説明変数を複数設定し、要因分析を行うことができるが、本論では「時間（日付）」のみを説明変数にしている。

11 G^2 または G^2 と記述される。一般に「尤度比」とは、「帰無仮説が成立するとした条件下の尤度関数の最大値をその条件がない場合の尤度関数の最大値で割った比」を言う。JMPの「尤度比カイ2乗」とは「 $2 \times \Sigma -\log(p)$ 」をさす。

12 「決定木（decision tree）」分析と言われる。

13 「エントロピー」もしくは「情報量」とは、情報理論で「どれほど起こりにくいか」を表す尺度で、確率の逆数を対数で取ったものとして表される。

14 下の自然対数を使った式に2を掛けるとカイ2乗分布に漸近的な分布となるため。

15 具体的な「 G^2 」の値の算出方法については「②実用上の指針」で述べる。

16 途中で他の成員のターンが挟まれていても「連続」と考える。

17 ここでの Σ は、各成員の値の総和という意味で用いられている。

18 それに伴って「度数」も小さく分割されていく。カイ2乗によって分岐点を選ぶアルゴリズムについては1975年 Hartigan によって提案されたアルゴリズム「CHAID」、1963年 Morgan&Sonquist が提唱した「AID」を参照。

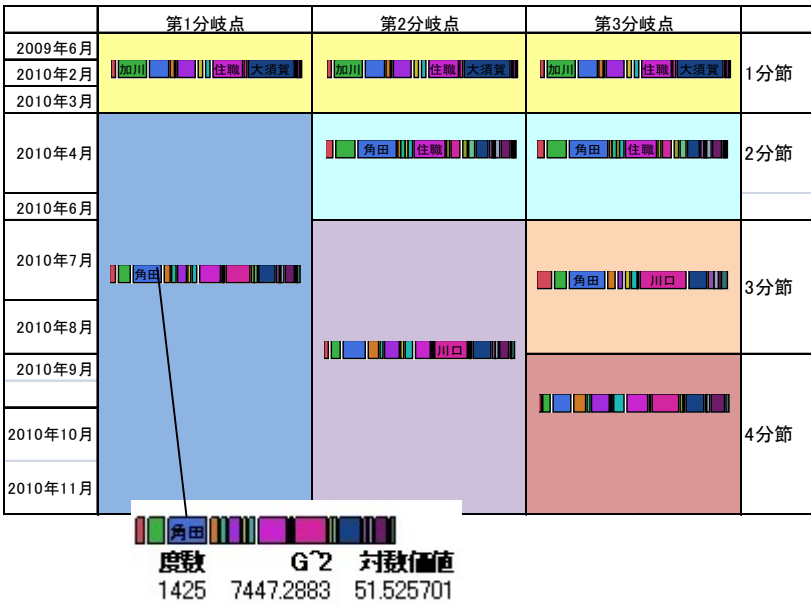
19 「R2乗」の値は本ソフトでは参考値でしかないが、今回の事例ではいずれも第3分岐の時点で0.07以上となった。

20 ただし実際にデータベースが作成されるのは、「頻出単語」の抽出・選定からである。

②実用上の指針

本論ではこの分節に従って「頻出単語」、「指標発話」を抽出・選定し、その後、各「指標発話」について分析者が発話内容を見ながら前後の連鎖関係を判断していく。桐生事例での試行の結果から概ね 4 つの時期に分節化することがデータ量を扱う上で最も適切という考えに至った。そしていずれの事例も「第3分岐」（分岐を3回繰り返すこと）で、4つの時期に分節する結果となった。

図 9-2-3 で表している各成員の帯の幅は、その成員のターン出現数の構成比を示しているが、言い換えれば「単位時間（期間）あたりの各成員のターン数の割合」を示していることから、本論では「ターン割合」と称した。



※分節（期間）の取り方はターン出現数の構成比の大きな変化点の位置に該当する。よって変化の大きさを小さく見るに従って分節のし方を細分化していくことができる。
左表について言えば、2010 年 4 月以降の会議を 6 月までと 7 月以降の二つに分けることができ、さらに後者は 8 月までとそれ以降の二つに分けることができることを示している。（なおまた、本論では日付を最小単位としているので日付レベルまで細分化できるが、時間を最小単位とすれば時間レベルまで細分化することもできる。）

②-1 G²の算定方法

「パーティション」を使用する上で留意したいのは、図 9-2-4 の帯グラフの帯の幅は各成員のターンの割合（「分節」単位での各成員のターン度数を分子にし、その分節の全員のターン度数を分母にした構成比）を表している点である。

ただし、その分岐点の決定にあたっては、G² という「統計量」が算定されなくてはならない。その算定方法は、まず右図のように各成員の（当該分節の）ターン数から各成員が（1 回）出現する確率（図中の P）を求め、それに各ターン数を「べき乗」する（図中の $x=p^t$ ）。

すなわちそれが、（当該分節にあたり）或る成員が t 回連続してターンを発現する確率を表している。

次に、この数値（x）の逆数を自然対数でとった「 $-\log(x)$ 」を算定し、（当該分節の）全成員の値を総和する（表 9-2-2 の $\Sigma -\log(x)$ に当たる）。

この数値に 2 を乗じたものが「G²」に当たる。

「G²」の値の算定方法については上述のとおりだが、「パーテ

■表 9-2-1 確率算定表（桐生事例）

全ての行計			
member	t=ターン	p=t/2033	x=p ^t
Tu	296	0.14559764	0.00000000
Ka	212	0.10427939	0.00000000
Os	291	0.14313822	0.00000000
近	148	0.07279882	0.00000000
加	211	0.10378751	0.00000000
住	274	0.13477619	1.00000000
Ku	89	0.04377767	0.00000000
平	102	0.05017216	0.00000000
参与観察者	84	0.04131825	0.00000000
宮	30	0.01475652	1.00000000
佐	50	0.02459420	0.00000000
東	26	0.01278898	0.00000000
岡	95	0.04672897	0.00000000
大	22	0.01082145	1.00000000
Ma	19	0.00934579	0.00000000
生	3	0.00147565	0.00000163
伏	25	0.01229710	0.00000000
Su	14	0.00688637	1.00000000
Sa	27	0.01328087	0.00392157
北	2	0.00098377	1.00000000
北川	4	0.00196754	1.00000000
武藤	5	0.00245942	1.00000000
奈良	1	0.00049188	1.00000000
不明	3	0.00147565	0.00392157
total	2033		

ィション」は、これを考えられる全ての場合の「分節」において計算し、先述のとおり、分岐前の母集団の G^2 の値と、分岐後の左右の G^2 の値の和を引いた値が最大になる箇所を選定する。

表 9-2-2 は桐生事例における「パーティション」の各分岐点での G^2 の値を算定過程とともに示したものである。

■表 9-2-2 G^2 算定表（桐生事例）

	全ての行計		第1分節計		第2~4分節計		第2分節計		第3~4分節計		第3分節計		第4分節計	
member	$x=p^t$	$-\log(x)$	$x=p^t$	$-\log(x)$	$x=p^t$	$-\log(x)$	$x=p^t$	$-\log(x)$	$x=p^t$	$-\log(x)$	$x=p^t$	$-\log(x)$	$x=p^t$	$-\log(x)$
Tu	0.00000000	570.3649	0.00000000	148.9654	0.00000000	417.8286	0.00000000	152.2895	0.00000000	259.4550	0.00000000	81.4620	0.00000000	173.3582
Ka	0.00000000	479.2645	0.00000000	41.0759	0.00000000	394.6392	0.00000000	76.6142	0.00000000	298.6034	0.00000000	88.4723	0.00000000	205.8301
Os	0.00000000	565.6879	0.00000000	211.0998	0.00000000	322.1849	0.00000000	90.2317	0.00000000	230.3453	0.00000000	60.6265	0.00000000	169.7173
近	0.00000000	387.7682	0.00000000	142.8235	0.00000000	239.6384	1.00000000	0.0000	0.00000000	206.4174	0.00000000	32.3868	0.00000000	168.4776
加	0.00000000	478.0014	0.00000000	180.5005	0.00000000	283.3161	0.00000000	115.7984	0.00000000	161.1983	0.00000000	52.4316	0.00000000	107.2921
住	0.00000000	549.1343	0.00000000	181.3005	0.00000000	364.7939	0.00000000	141.5877	0.00000000	214.7811	1.00000000	0.0000	0.00000000	186.8226
Ku	0.00000000	278.4482	0.00000000	55.5319	0.00000000	218.8818	0.00000000	32.4317	0.00000000	176.9748	0.00000000	40.6309	0.00000000	135.8558
平	0.00000000	305.2141	0.00000000	34.6459	0.00000000	255.5514	0.00000000	78.4334	0.00000000	176.9748	0.00000000	19.6591	0.00000000	149.6319
参与観察者	0.00000000	267.6619	0.00000000	73.0209	0.00000000	194.3571	0.00000000	32.4317	0.00000000	155.6338	0.00000000	27.6946	0.00000000	125.8198
宮	0.00000000	126.4821	0.00000000	20.0955	0.00000000	104.0996	0.00000000	41.0905	0.00000000	62.4456	1.00000000	0.0000	0.00000000	57.8371
佐	0.00000000	185.2622	0.00000000	86.1832	0.00000000	91.7595	0.00000000	29.3124	0.00000000	62.4456	0.00000000	30.0964	0.00000000	28.6326
東	0.00000000	113.3385	0.00000000	27.7105	0.00000000	85.3239	0.00000000	22.6198	0.00000000	62.4456	0.00000000	25.1675	0.00000000	35.8753
岡	0.00000000	291.0221	0.00000000	81.9540	0.00000000	208.9196	0.00000000	74.7578	0.00000000	133.7253	0.00000000	56.7170	0.00000000	68.7689
大	0.00000000	99.5770	0.99679935	0.0032	0.00000000	91.7595	0.00000000	48.9208	0.00000000	38.3332	1.00000000	0.0000	0.00000000	35.8753
Ma	0.00000000	88.7837	0.00001082	11.4341	0.00000000	75.2881	0.00000028	15.1044	0.00000000	59.2485	0.00000000	22.4970	0.00000000	35.8753
生	0.00000000	19.5560	0.99679935	0.0032	0.00000001	18.4899	1.00000000	0.0000	0.00000003	17.3174	0.00000163	13.3280	1.00000000	0.0000
伏	0.00000000	109.9598	0.00164474	6.4102	0.00000000	98.0130	0.00000000	43.7819	0.00000000	52.6342	0.00000000	19.6591	0.00000000	32.3256
Su	0.00000000	69.6949	0.00164474	6.4102	0.00000000	61.0607	0.00000000	35.4256	0.00000000	21.9392	1.00000000	0.0000	0.00000000	20.7102
Sa	0.00000000	116.6786	0.99679935	0.0032	0.00000000	107.0844	0.00000000	62.7533	0.00000000	34.4763	0.00392157	5.5413	0.00000000	28.6326
北	0.00000097	13.8482	0.99679935	0.0032	0.00000197	13.1376	0.00216920	6.1334	0.00103734	6.8711	1.00000000	0.0000	0.00141044	6.5639
北川	0.00000000	24.9239	0.99679935	0.0032	0.00000000	23.5025	0.00000001	18.9884	1.00000000	0.0000	1.00000000	0.0000	1.00000000	0.0000
武藤	0.00000000	30.0391	0.99679935	0.0032	0.00000000	28.2624	0.00000000	22.6198	1.00000000	0.0000	1.00000000	0.0000	1.00000000	0.0000
奈良	0.00049188	7.6173	0.99679935	0.0032	0.00070175	7.2619	0.00216920	6.1334	1.00000000	0.0000	1.00000000	0.0000	1.00000000	0.0000
不明	0.00000000	19.5560	0.99679935	0.0032	0.00000001	18.4899	0.00001882	10.8805	0.00103734	6.8711	0.00392157	5.5413	1.00000000	0.0000
$\Sigma -\log(p)$		5197.885		1309.187		3723.644		1158.34		2439.137		581.9113		1773.902
$G^2=$		10.395.8		2.618.4		7.447.3		2.316.7		4.878.3		1.163.8		3.547.8

上「表 9-2-2」はコンピューターソフト「パーティション」が選定した分岐点（第 1 分岐点については表中「第 1 分節計」と「第 2~4 分節計」、第 2 分岐点については表中「第 2 分節計」と「第 3~4 分節計」、第 3 分岐点については表中「第 3 分節計」と「第 4 分節計」）の G^2 の値を表しており、これらが先述の $G^2_{\text{test}} = G^2_{\text{parent}} - (G^2_{\text{left}} + G^2_{\text{right}})$ の値が最大になった箇所である。

では、仮にそれ以外の分岐点で区切った場合に G^2_{test} の値はどうなっているのか、各事例について整理して下表 9-2-3 に示す。この表から分かるように、3 事例いずれについても、 G^2_{test} の値は「パーティション」が選んだ分岐点とそれ以外の分岐点の統計量は僅差ではない（相当に違う）と言え、統計量から見れば明白な分岐点であると言える。

■表 9-2-3 各事例における分岐統計量

すなわち、「パーティション」の「決定木」の「*日付 (<ないし≧)」に表 9-2-3 の各「分岐点」列を設定した際の $G^2_{\text{parent}} - (G^2_{\text{left}} + G^2_{\text{right}})$ の値が表 9-2-3 「 G^2_{test} 」列に示されている。

「パーティション」が選んだ分岐点（及び G^2_{test} ）の値のセルを着色している。

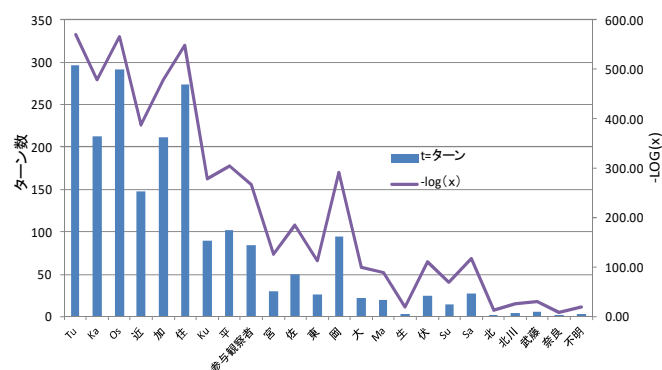
	桐生事例		小布施事例		真野事例	
	分岐点	G^2_{test}	分岐点	G^2_{test}	分岐点	G^2_{test}
第1分岐点をどこにとるか？	2月18日	106.0	2007年11月26日	93.7	1978年12月4日	117.2
	3月18日	112.3	2008年1月16日	373.3	12月20日	155.3
	4月18日	330.2	3月19日	341.1	1979年1月20日	144.9
	6月18日	253.5	4月19日	342.4	2月6日	138.5
	7月18日	284.3	6月23日	398.9	-	-
	8月18日	246.1	10月7日	373.9	-	-
	9月18日	200.1	12月14日	449.2	-	-
	10月18日	170.8	1月9日	206.1	-	-
	11月18日	104.6	-	-	-	-
	6月18日	205.8	2007年11月26日	88.4	1979年1月20日	120.3
第2分岐点をどこにとるか？	7月18日	252.3	2008年1月16日	404.7	2月6日	145.2
	8月18日	185.9	3月19日	310.6	-	-
	9月18日	191.6	4月19日	229.3	-	-
	10月18日	145.1	6月23日	220.1	-	-
	11月18日	107.7	10月7日	87.6	-	-
第3分岐点をどこにとるか？	8月18日	98.1	3月19日	159.4	1978年12月4日	55.0
	9月18日	166.7	4月19日	179.8	-	-
	10月18日	122.8	6月23日	197.1	-	-
	11月18日	80.2	10月7日	75.1	-	-

②-2 決定木分析におけるその他の方法

「パーティション」では、その算定を第1回会議から第2回会議まで、第1回会議から第3回会議まで、・・・と、全ての場合について行い、その中で最も「統計量 (G^2)」の差が大きかった箇所に分けている^{注21}。これをもし「パーティション」を使わないで（エクセル等を用いて）手計算するとしたら、桐生事例の場合だと表9-2-3から分かるように19回計算すればよいことになる。

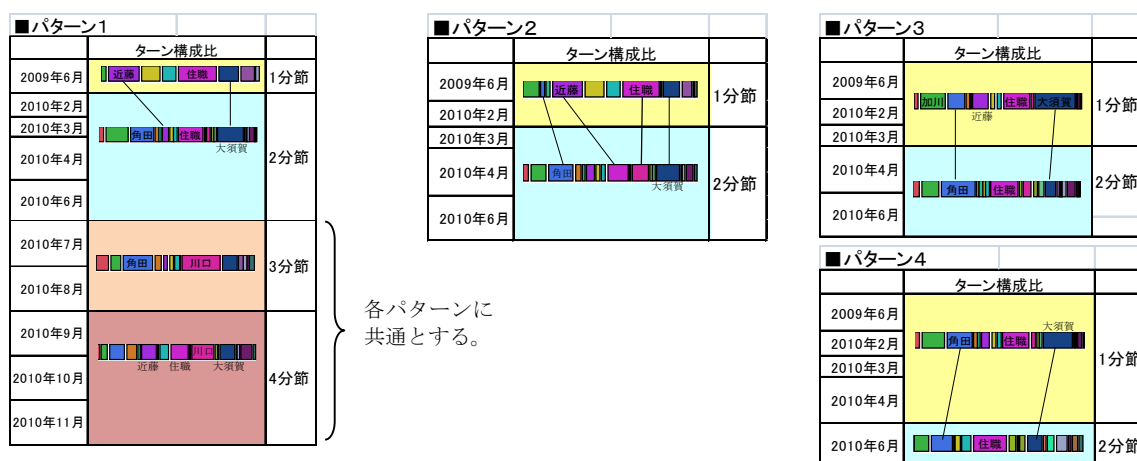
実は G^2 の元となる「 $-\log(x)$ 」はターン出現数（度数）と非常に近似していることが分かる。しかし、「統計量」ではなくてターン割合そのものを算定するとすると、第1回会議から第2回会議まで、第1回会議から第3回会議まで、・・・と、全ての場合について、各成員のターン割合を算出しなくてはならない。

例えば桐生事例のように全部の会議が10回とあるとすれば、計84とおとりもあり^{注22}、そもそも算出し比較することは現実的とは言えない。



■図9-2-5 桐生_「全ての行」_のターンと $-\log(x)$

ただし桐生事例のように、もし変化点の判断が後半は明らかに傾向が異なることが目視で分かり^{注23}、{T,U}と{V,W,X}で第3分節と第4分節に分かれることが自明だとするならば、判断すべき点は第1分節の切れ目を0とP、PとQ、QとR、RとSの4つのどこにするか、の4とおりのみになるので、実際に「ターン割合」を下図9-2-6に示して見た。しかしそれでも、図のとおり前半（1分節と2分節）の分岐点を目視で判断することは、極めて難しいことが分かる。



■図9-2-6 ターン割合の目視による解析

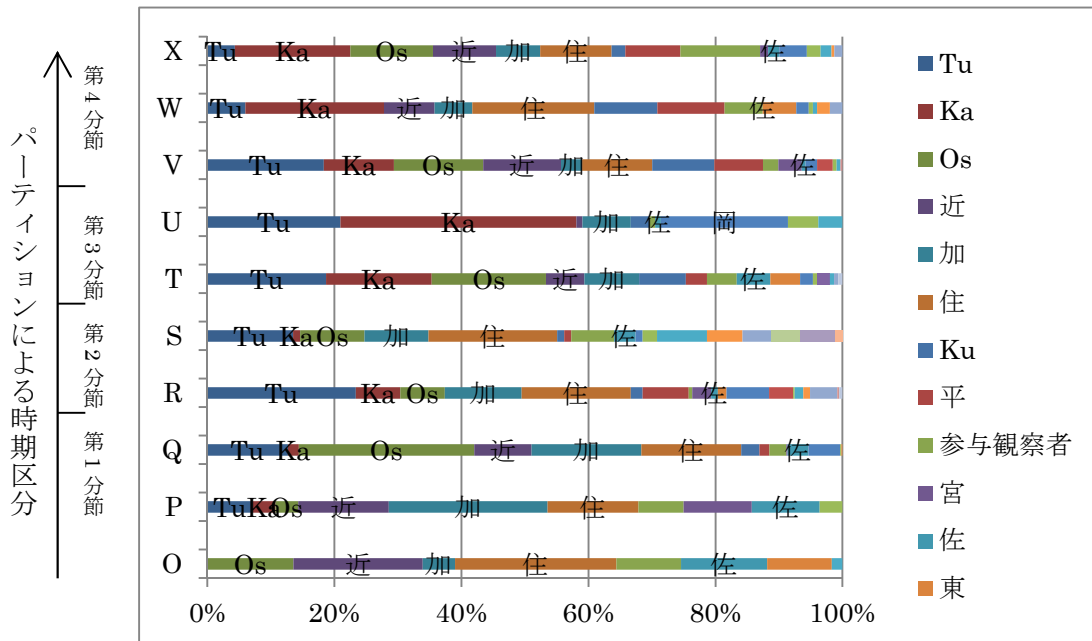
また、図9-2-7のように各「会議」での各成員のターン割合を数値でとって、その数値の変遷を目視して大きな変化が見られた時点で分節化していく方法も考えられる。本論で言う「リーダーシップ構造図」を各会議毎に表したのが図9-2-8であるが、これらの結果と「パーティション」解析結果と

²¹ ただし、水準数の多い変数ほど分岐候補になる傾向があるため、「対数値」の大きい分岐点を選ばれるようになっていく。（すなわち単にターン出現数の構成について、目視による変化の大きい点を選ぶことは原理がちがう。）

²² 第1分節を2009年6月までとする場合の数が28とおとり、2010年2月までとする場合の数が21とおとり、2010年3月までとする場合の数が15とおとり、2010年4月までとする場合の数が10とおとり、2010年6月までとする場合の数が6とおとり、2010年7月までとする場合の数が3とおとり、2010年8月までとする場合の数が1とおとり、の計84とおとり。

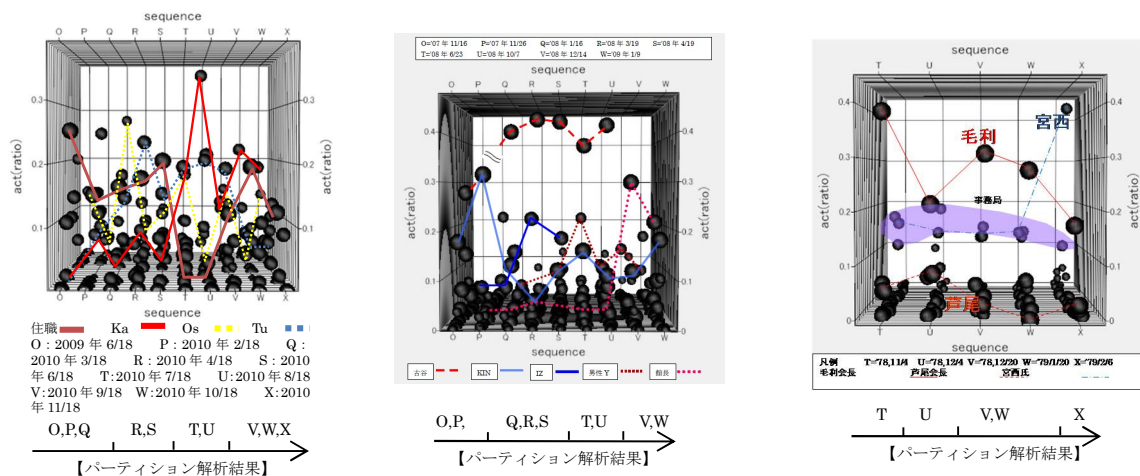
²³ 図9-2-7、9-2-8からも分かるように「Ka」がにわかに台頭し始める。

が一致するかどうかについては、一概には言えない。



■図 9-2-7 桐生事例の会議ごとのターン割合とパーティション解析結果との比較

すなわち小布施事例と真野事例の場合は目視で変化をとらえやすく一致することも確認できるが、やはり桐生事例については目視では変化点を判断しがたく^{注24}、その意味で一致するとは言えない。



■図 9-2-8 リーダーシップ構造図とパーティション解析結果との比較

以上のことから、目視による判断は必ずしも容易ではなく、「分岐統計量の最大化」を基準にして選ぶことが望ましいと言え、「パーティション」が使えるならばなお効率的であると言える^{注25}。

なお、これをもとに以降より会議録コーパスを分割してデータベースを作成するが、実際にこの時期区分は、次のステージの頻出単語の抽出・選定の際にのみ用いられることに留意されたい。

²⁴ 最初の第1分節をOのみとするか、Pまでとするか、Qまでとするか、リーダーシップ構造図から判断するには難しい。ただし第2分節と第3分節の切れ目、第3分節と第4分節の切れ目は目視でも分かりやすいので、パーティション解析結果と一致する。

²⁵ 「パーティション」は対数値も算出する。図9-2-6の「パターン1」の(第1分節と第2分節の分岐点の選び方の)「対数値値=-log₁₀(調整済みP値)」は24.1、「パターン2」が25.5、「パターン3」が73.1、「パターン4」が56.1である。

第2項 「頻出単語」の抽出及び記入の仕方

①基本的な考え方

上述の時期区分ごとに、その期間最も頻出した名詞単語を抽出する。これは、次のステージで「指標発話」を抽出するためのキーワードを探す作業である。

まず、コンピューターソフトで検索し、意味から判断して有意なものだけを残す。本論ではテキストマイニングソフト「PAT-M-STD-V4」²⁶を用いて、形態素分析を行ってから名詞を50位まで抽出し、その中から明らかにキーワード（討議テーマ）となりえない名詞を取り除く。本論ではこの結果残った名詞を「第1水準の頻出単語」と呼んでいる。

次に、単語を見ただけでは具体的な内容が分からないので、実際にその単語の含まれた発話を読んでもみる。すなわち、ここで次のステージの「指標発話」抽出に向けた作業に進んでいることになる。そして「指標発話」の選定過程で最終的な「頻出単語」が決まる。本論ではこれを「第2水準の頻出単語」と呼んだ。

まずは、「第1水準の頻出単語」の抽出手順について説明し、「第2水準の頻出単語」の選定手順については次項の「指標発話」において説明する。

ばっとマイニング ST2013 【全文書 2849 件 / 抽出文書 2849 件 / 選択文書 0 件】 【ランキング 500位まで有効 / 英字大小同一視しない】

ファイル(F) 表示(V) 分析(A) システム(S) 設定確認(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

文書ブラウザ 3件

総合ランキング 設定

重要度3 | 重要度4 | 重要度5 | %氏名

キーワード | 重要度1 | 重要度2

対象: 全文書 (2849件) ?

全選択 全解除

☐ チェック状態を抽出条件に反映させる

☐ グループ内の出現数詳細を表示する

表示項目: 順位 出現数 文書数 データ

集計基準: 出現数 文書数

ランキング再集計(?)

分析対象: 文節種 | 辞書 | ?

☐ 追加接続語 ☐ 数字

☐ 追加判断語

☒ 追加名詞

☐ 未知語

☒ 英単語

☒ 名詞

☐ 接続詞

☐ 接辞

抽出条件

検索項目

条件

抽出は解除されています

単語・名称グループ機能を有効にする ↑

表示項目選択

☐ 全て表示する

全選択 全解除

全選択反転 全選択解除 全文書 2849件 抽出文書 2849件 選択文書 0件

順位	出現数	文書数	データ
20	161	125	日 (名詞)
21	157	143	ですよね (連
22	150	131	あれ (名詞)
23	145	107	時 (名詞)
24	143	117	わけ (名詞)
25	134	93	意味 (名詞)
26	133	97	町/まち/街
27	130	113	あと (名詞)
28	128	91	民家 (名詞)
29	128	90	一つ/1つ/つ
30	125	85	年 (名詞)
31	113	102	そこ (名詞)

順位	日付	%氏名	発言内容
1	2009/06/18	参与観察者	これを集めてきたときに、桐生にはどんな着物があるのか実際に興
2	2009/06/18	住職	まあ、だからね、そういう意味ではね・・・
3	2009/06/18	東山	いい話だよな。
4	2009/06/18	住職	東山さんもいい話って言っているのもそうなんだけど、私もね、今
5	2009/06/18	近藤	私もそうだと思う、こういうまちで育った私たち・・・私はよそか
6	2009/06/18		重要なですよ、だって、まちおこしでしょ、
7	2009/06/18	東山	ちょっといいですか、このあいだちょっと小林さんのところに行っ
8	2009/06/18	住職	それが三千着あるって話？
9	2009/06/18	東山	そう、それが、小林さんと、きものの小沢先生と・・・3人で片付け
10	2009/06/18		〈間髪入れずに〉
11	2009/06/18	近藤	それで、当初は着物ミュージアムをつくるっていう発想があったで
12	2009/06/18	大須賀	織物組合でちゃんと資料はとってある、ただ、見れるところがない、
13	2009/06/18	近藤	ただね、お金がないっていうのは・・・

■図 9-2-9 テキストマイニングソフトによる頻出単語の抽出操作

²⁶ テキストマイニングソフトとしては、商用では Text Mining Studio(堀部,2010)や IBM SPSS Text Analysis for Surveys(内田ほか,2012)があり、フリーソフトに KH Corder(2014、被口)などがあるが、本論で使用する PAT-M-STD-V4 は、筆者が 2005 年より株式会社ワイズシステム(本社京都市)と共同で、テキストマイニング研究者用の実用的なソフトとして開発(オーダーメイド)してきたものである。商標名は「ばっとマイニング」である。データの中から語を切りだすために、形態素解析ソフト「茶筌」を利用している。表形式のデータはエクセルと互換性がある。ただし読み込みは.txt 形式か.csv 形式のみ可能である。他社のソフトウェアと同様に共起ネットワーク分析やいくつかの多変量解析機能を搭載しているが、本論では、このソフトの検索機能のみ使用する。

(ア) テキストマイニングソフトの操作手順

具体的には、まず当ソフトでデータを読み込むため、会議録コーパスを CSV 形式に保存し直してから読み込む。次に表 9-2-4 のようにテキストマイニングソフトの「ランキング集計」で名詞の頻出単語を 50 位まで検索する^{注27}。この時、検索条件を以下のように設定する。

- i. 検索範囲を「発言内容」に設定。
- ii. 検索品詞を「名詞」、「追加名詞」、「未知語」に設定。
- iii. 集計基準を「出現数」に設定。

(イ) キーワードとなりえない単語の除去基準

上記の手順で検索した上位 50 位までをエクセルのワークシートに(コピー&ペーストで)書き写し、それらを見て、日本語としてキーワード(討議テーマ)となりえないものを省除する^{注28}。

■表 9-2-4 頻出単語の整理見本

第1分節	第2分節	第3分節	第4分節
2009.to.2010.3	2010.4.to.6	2010.7.8	2010.9.to.11
1 214 127 ん	1 86 44 ・	1 191 124 ん	1 133 96 ん
2 147 104 さん/様/ちゃん/	2 58 41 さん/様/くん	2 186 106 ・	2 125 76 ・
3 146 103 それ	3 48 30 ん	3 119 82 さん/様/ちゃん/	3 112 73 さん/氏/ちゃん
4 115 68 私/僕/俺/ぼく	4 22 13 方	4 67 51 それ	4 75 45 あの一(未知語)
5 77 52 人	5 20 8 まちづくり	5 66 49 方	5 71 56 それ
6 66 49 話	6 18 15 人	6 57 44 会	6 69 46 部会
7 62 34 ・	7 17 14 私/僕	7 50 41 今	7 66 42 方
8 61 46 今	8 16 12 町/まち/街	8 49 40 民家	8 61 38 例会
9 61 39 方	9 15 14 今	9 49 37 私/僕/俺/ぼく	9 54 35 時
10 59 39 皆さん/皆/みんな	10 14 10 それ	10 48 37 まちづくり	10 50 34 会
11 55 35 ので	11 14 10 ところ	11 46 30 人	11 49 35 今
12 54 37 会	12 13 9 桐生	12 45 31 部会	12 47 32 皆さん/みんな/皆様/皆
13 50 25 やっぱり/やはり	13 11 10 皆さん/みんな	13 43 35 再生	13 47 24 人
14 48 39 それで	14 11 9 あの一(未知語)	14 42 33 皆さん/みんな/皆	14 40 25 時間
15 46 23 意味	15 11 9 なんです	15 40 34 話	15 37 25 まちづくり
16 42 33 イベント	16 11 8 会	16 36 29 なんです	16 32 27 日
17 42 24 桐生	17 10 9 六	17 31 27 あの一(未知語)	17 32 22 ので
18 39 34 ところ	18 9 8 ので	18 27 24 あれ	18 32 20 なんです
19 39 32 日	19 9 8 話	19 27 18 わけ	19 31 29 それで/そんで
20 39 31 布	20 9 6 部会	20 26 23 ところ	20 31 28 私/僕/俺
21 39 23 まちづくり	21 8 7 今日	21 25 25 ですよ	21 31 25 ですよ
22 38 33 あれ	22 8 7 丁目	22 25 24 そこ	22 27 24 わけ
23 37 33 ですよ	23 8 6 三	23 25 22 ので	23 27 24 話
24 37 30 なんです	24 8 6 頁	24 23 19 観音	24 26 22 形
25 34 20 一つ/一つ/ひとつ	25 8 4 世界遺産	25 23 18 桐生	25 24 23 あと
26 33 26 わけ	26 8 4 本	26 23 17 やっぱり/やはり	26 24 18 回
27 33 22 年	27 8 3 非常	27 22 19 あと	27 23 21 ところ
28 32 26 時	28 8 2 団体	28 22 14 年	28 22 12 民家
29 32 22 まち/町	29 7 6 7月	29 18 15 なんです/なぜ	29 21 18 意見
30 30 18 というか	30 7 6 邸	30 17 17 形	30 20 13 ふう
31 30 13 寺	31 7 6 末広	31 17 16 ふう	31 19 17 あれ
32 28 23 そんな/そんなふ	32 7 6 民家	32 17 14 お願	32 19 16 加川
33 27 21 形	33 7 6 歴史	33 17 14 それで	33 19 15 一つ/ひとつ
34 27 17 お寺	34 7 5 商店街	34 17 14 まち/町/街	34 19 14 毎月
35 27 15 シルバー	35 7 5 年	35 17 14 日	35 18 15 大須賀
36 27 14 ふう	36 7 4 意味	36 16 15 回	36 18 13 カ月
37 26 21 回	37 6 6 あと	37 15 14 意見	37 16 15 研究
38 26 21 気	38 6 6 あれ	38 15 14 我々/私たち	38 16 14 なん
39 26 19 我々/自分たち/	39 6 6 いろんな/色んな	39 15 13 先生	39 15 12 プロジェクト
40 25 17 観音	40 6 6 先生	40 15 11 なん	40 14 13 したい
41 23 12 活動	41 6 6 伏木	41 15 11 ほう	41 14 12 11月
42 23 8 非常	42 6 5 角田	42 15 10 みたい	42 14 12 意味
43 22 20 4月	43 6 5 日	43 14 14 一つ	43 14 12 今日
44 21 16 さっき	44 5 5 そこ	44 14 14 今日	44 14 11 もんです/ものです
45 21 14 みたい	45 5 5 それで	45 14 13 イベント	45 14 10 やっぱり
46 21 14 いろんな/色んな	46 5 5 なん	46 14 13 全部	46 13 12 そこ
47 20 17 じゃない	47 5 5 魚	47 13 13 例会	47 13 12 自分
48 20 17 祭り	48 5 5 君	48 13 12 企画	48 13 11 あの一(未知語)
49 19 18 部会	49 5 5 藤	49 13 11 いろんな/色んな	49 13 11 一番
50 19 15 着物	50 5 5 藤田	50 13 9 北川	50 13 11 寺

※キーワードとして選んだ単語に着色している。セルを赤く示した単語は、その意味から判断してテーマとなる可能性が高いもの。黄色く示した単語は(その意味から判断して)可能性が高いもの。色付けしていない単語は、ほとんど可能性のないものである。黄色は、「指標発話」選定時に発話内容を読んで省除に至った。

²⁷ 当ソフトでは CSV ファイルを読み込んだ後に「形態素解析」を実行後「総合ランキングを再集計しますか?」と表示されるので、「はい(実行)」を実行。500 位まで検索できるが、本論では 50 位までを見ることが効率的と判断した。

²⁸ 当ソフトには「辞書」機能があり、無視すべき単語をあらかじめ追加することができる。また、「一字のかな文字」を無視することもできるので、これらの機能を適宜活用されたい。

ここでは、明らかにキーワードとして相応しくないものだけを選別し、判断に迷うものはできるだけ残しておく（後の「指標発話」の選定にあたって発話内容を読む際に判断する。）。

会議の内容によって一概には決められないが、当該小集団がまちづくりをテーマに討議している前提から考えると、まずは空間や施設（ハード）に関わるキーワードと、活動内容（ソフト）に関わるキーワードを重視すべきであり、さらに、小集団の組織運営の内容も重視すべきであると言える。それらを抽出する目的において、明らかに遠いと思われるものを省除することが基本的考え方となる。

しかしながら、それらは実際に発話内容を読まないと分からないことが多いので、ここではコンピューターソフトの特性で拾ってしまう明らかな誤り²⁹を補正することが主たる目的となる。省除の基準を以下に列挙する。

- i. 人 の 名 前
- ii. 擬態語・擬音語
- iii. 体言としても使われる形容詞・形容動詞・副詞等の用言
- iv. 順序や方向を示す名詞（前、先、後、東西南北、等）、代名詞（あれ、それ、こっち、等）

すると、表 9-2-4 のように多くの単語は省除される。本論では 3 事例いずれも「数分の一」程度の単語が残る結果となった。

②実用上の指針

「頻出単語」は後の「指標発話」を検索するキーワードとなると同時に「指標発話」選定段階で、再び「頻出単語」の選別が行われるので、データとして分かりやすく残しておく必要がある。図 9-2-2 では「時期区分」というワークシートの中に整理した様子が示されている（再掲、図 9-2-10）。

=L24&L26&L33&L34&L35&L38&L39&L47&L49&L52&L53&L59&L66&L67&L68																											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA
3		会議録日付	第1分岐点	第2分岐点	第3分岐点	第2水準 keyword																					
4		2009年6月	ターニング割合 1位:住職 2位:TU	ターニング割合 1位:Os 2位:住職	ターニング割合 1位:Os 2位:住職	イベント布まちづくり シルバークエスト 活動寄り辞金書物																					
5		2010年2月				イベント布まちづくり シルバークエスト 活動寄り辞金書物																					
6		2010年3月				イベント布まちづくり シルバークエスト 活動寄り辞金書物																					
7		2010年4月				まちづくり 辞金 世界遺産 水産 民家 歴史 商店街																					
8		2010年6月				まちづくり 辞金 世界遺産 水産 民家 歴史 商店街																					
9		2010年7月	ターニング割合 1位:Ka 2位:TU	ターニング割合 1位:Ka 2位:TU	ターニング割合 1位:Ka 2位:TU	民家 まちづくり 辞金 再主 イベント 辞金																					
10		2010年8月				今 民家 まちづくり 辞金 再主 お祝い まち/街/イベント 辞金 全国																					
11		2010年9月				辞金 辞金 まちづくり 民家																					
12		2010年10月				辞金 辞金 時間 まちづくり 民家 研究 プロジェクト 幸																					
13		2010年11月																									
14																											
15																											
16																											
17																											
18																											
19																											
20																											
21																											
22																											
23																											
24																											
25																											
26																											
27																											
28																											

■図 9-2-10 ワークシートにおける頻出単語の整理見本

²⁹ 用言であっても名詞として転用されることがあるので、デフォルトの辞書には広めに登録されている。また形態素に分解した際に一つの用言が名詞と助詞に分かれて認識されるので、用言（の名詞部分）を拾うこともある。

第1水準と第2水準に分けて2段階で「頻出単語」を選定するのは、発話内容を読まないとは有為な単語かどうか分からないことが多いからである。しかしながら「頻出単語」を決めないと「指標発話（頻出単語が含まれる発話）」を検索できないので、或る程度の水準で頻出単語を決めてしまう必要がある。それが第1水準である。

第1水準の選定基準については前項①(イ)「キーワードとなりえない単語の除去基準」で述べたが、実際には特殊な文脈の中で(i~ivに該当する名詞であっても)討議テーマとなる可能性はある。しかしながらここでは、(特殊な事情を考えず)一般的な傾向として判断し省除してよい。もし実際に討議のテーマとして挙がっていたならば、それらは後の「指標発話連鎖会話群」で連鎖した発話の中で復活する可能性が高いからである^{注30}。

また逆に、「討議テーマ」として(一般的な傾向として)可能性が高い名詞であっても、発話内容を読んでみると、発話者の「話ぐせ」で登場しているなど有為な意味を持っていないことが分かる場合もある^{注31}。

よって、どちらか分からない場合はできるだけ第1水準に残しておいて、実際の発話の中で判断するようにした方がよい。

第3項 「指標発話」の抽出・選定及び記入の仕方

①基本的な考え方

上述の「第1水準の頻出単語」を含む、ターン割合1位者の発話を検索し、それらの発話と前後の発話を読みながら、「指標発話」を選定していく。なお本論では検索にあたってテキストマイニングソフト(PAT-M-STD-V4)を使用した、エクセルでも可能な操作である。

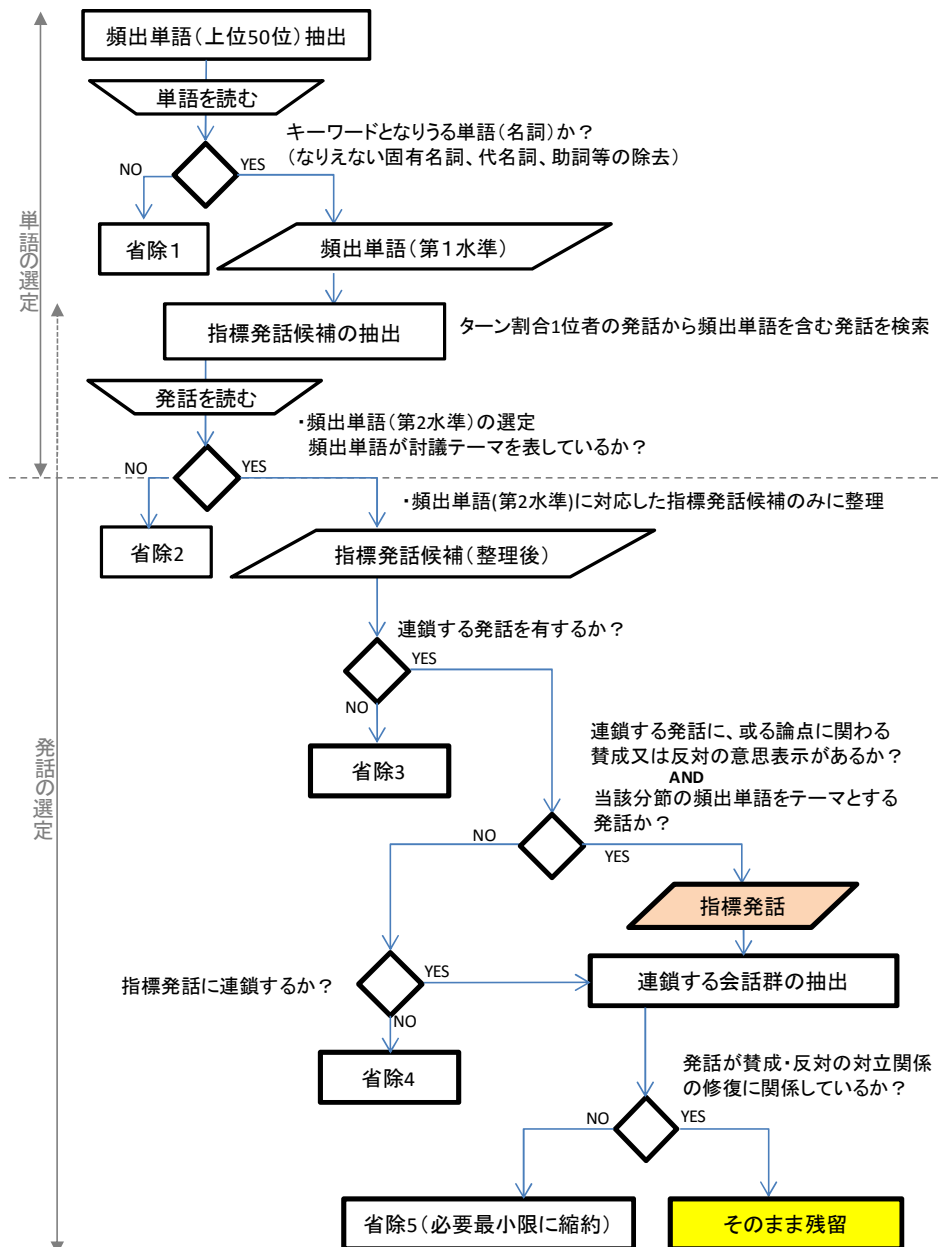
「指標発話」の抽出・選定にあたっては大きく2つの作業に分かれる。まず「頻出単語」を選定し、それを含む発話を読みながら、「頻出単語」が討議テーマを表していたかどうかを判断する作業である。この判断基準は以下のフロー(図9-2-11)にて説明する。そして、もし討議テーマを表していなかった場合には「頻出単語」として取り下げる。

次の作業は「頻出単語」を含む発話間での選択である。ほとんどの場合、或る「頻出単語」を含む発話は複数検索される。しかしながらそれらのすべてが討議テーマを有しているとは限らない。また(頻出単語ではなく)別のテーマで討議されている場合もある。これらを省除し、「頻出単語」が討議テーマを表している発話のみを「指標発話」として残していかななくてはならない。これが「指標発話の選定」という作業に該当する。

これらの作業は具体的には次のフローで示すことができる。この図9-2-11に示されているように、作業は「単語の選定」と「発話の選定」の2つに分かれ、前者については「省除1」と「省除2」があり、残ったもの(単語)が後者に進む流れになっている。このうち「省除1」については前項「頻出単語(第1水準)」にて説明したが、「省除2」については新たに発話内容を読んで判断するので以下に説明する。

³⁰ 実際に桐生事例の中で「旧今西邸」がテーマとして挙がっており、「今」や「西」が頻出単語として検索され、時や方向を示す名詞だから省除したとしても、別の頻出単語「民家」をキーワードにした「指標発話」やそれに連鎖した「指標発話連鎖会話群」の中で登場してくる。

³¹ 例えば、本論の事例の中で実際にあったものとしては「風」という単語が実際には「～風(ふう)に」と直喩の言い回しの中で使われていたり、「話」という単語が或る時(小布施事例)は「お話しの会」という討議テーマとして使われていたが、或る時(桐生事例)は「～という話」というように、発話者の「話ぐせ」で使われていたこともあった。



■ 図 9-2-11 頻出単語の整理見本

「頻出単語」の選定に関わる「省除 2」の判断基準について説明する。すなわちここでは、その単語が討議テーマのキーワードとなる「頻出単語」として妥当かどうかの判断を以下の基準に従って行う^{注32}。

(ア) 省除 2 の判断基準～各分節の討議テーマを表しているか？

頻出単語として検索した単語であっても、それがその時期の討議テーマを表すキーワードとして相応しいとは限らない。

まず常用句のように他の分節でも出現しているものは当該分節の討議テーマを表しているとは言えない。

またターン割合 1 位者の発話の中に存在しなかったものは、(その単語を含むターン割合 1 位者

³² ただし省除の対象となるのは単語だけでない。それを含む発話も併せて省除される。

の発話と定義した) 指標発話になり得ない。

こうしたケースに該当する場合は省除の対象とする。

(イ) 省除2の判断基準～その単語を含む発話か前後の発話は何らかの賛成・反対を有しているか？

「頻出単語」を含む語句が主語や目的語ないし述語の一部になっている場合、「指標発話候補」を読んだだけでは、いわゆる常用句として(または派生的な話題のなかで)使用されているのか、討議テーマとして使用されているか、の判断が難しいことがある。その場合は以下の考え方で判断する。

当該技法で選定する「指標発話」とは後の「指標発話連鎖会話群」を検索するためにあり、「指標発話連鎖会話群」は後の会話(談話)分析で、「話し手」と「受け手」の発話内容から「目標の共有過程」と「意見対立(争点)の解消過程」を解釈するためにある。よって、「指標発話」を検索するための「頻出単語」も、「目標の共有過程」や「意見対立(争点)」の解消過程が存在する発話を導出できるように選定することが必要となる。

そこで、何らかの肯定的ないし否定的発話の一部を構成しているかどうか^{注33}を判断し、肯定的ないし否定的意思が明らかに存在しない場合は「頻出単語」として取り下げる^{注34}。

次に「指標発話」の選定に関わる^{注35}「省除3」と「省除4」の判断基準について説明する。すなわちここでは、その発話が「目標の共有過程」や「意見対立(争点)の解消過程」の「話し手」もしくは「受け手」のいずれかとして存在しているかどうかの判断を行う。

(ウ) 省除3の判断基準

- ・連鎖する発話を有するか？

連鎖する発話を有していない発話は「指標発話」になりえないので、省除する。なお「連鎖」の判断基準は後述の「前への遡り基準」及び「後への遡り基準」と同じなので、第4項を参照されたい。

(エ) 省除4の判断基準

- ・連鎖する発話に、或る論点に関わる賛成・反対の明白な意思表示があるか？

その単語を含む発話ないし前後の発話は何らかの賛成・反対を有しているはずだが^{注36}、連鎖する発話に賛成・反対の明白な意思表示が見られるかを再確認し、見られる発話だけに整理する^{注37}。

- ・当該分節の頻出単語をテーマとする発話か？

複数の頻出単語を含む発話の場合において、他の分節の頻出単語が論点になっているケースがあるのでこれを取り除くことが必要になる。

これらの作業を通してフローの「指標発話」が決定する。なお「省除5」については、次の「指標

³³ すなわち「目標の共有過程」や「意見対立(争点)の解消過程」のキーワードとなりうる「頻出単語」かどうかの判断基準につながる。

³⁴ 省除2の判定時点では肯定・否定の意思が明らかに存在しない発話だけ対象にし、発話内容の詳細な分析はしない。最初は「篩(ふるい)」の目を粗くして、だんだんと細かい目の「篩」にかけていくほうが効率的であるからである。

³⁵ 同時に、もしこの過程で或る「頻出単語」を含む発話の全てが「指標発話」に該当しなければ、その単語は「頻出単語」としての機能を失うが、「頻出単語」の取り下げらにはならない。(取り下げは省除1と省除2で行う。)

³⁶ 省除2と省除3の判断基準より。

³⁷ 後の分析で「話し手」と「受け手」の発話内容から「目標の共有過程」と「意見対立の解消過程」を解釈するためである。本来ならば、省除2の時点で行えばよい「判断」かもしれないが、はじめからこの基準で判断するとなると作業の効率が著しく損なわれるため、あえてこの時点で行う。

318

キング ST2013 [全文書 2849 件 / 抽出文書 31 件 / 選択文書 0 件] [ランキング 500位まで有効 / 英字大小同一視しない]

表示(V) 分析(A) システム(S) 設定確認(C) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

抽出条件

検索項目 条件

*日付 2009/06/18+2010/02/18+2010/03/18 クリア AND

%氏名 大須賀 クリア AND

発言内容 話+今+意味+イベント+桐生+布+まちづくり+まち+寺+シルバー+活動+祭+部会+着 クリア

単語・名称グループ機能を有効にする↑ 抽出が適用されています 解除 抽出実行

表示項目選択

全選択反転 全選択解除 全文書 2849件 抽出文書 31件 選択文書 0件

全選択 全解除

*日付

2009/06/18 大須賀 近藤さん、着物が来ればね、まずはね、仕分けするよ、いっしょにやるよ、

2009/06/18 大須賀 ちゃんと、着物として採っておくのか、端切れとして採っておくのか、そこまでやるよ、

2009/06/18 大須賀 まあそんなんだけど、ほんととこれ言うべきじゃないんだけど、実は来年の企画や

2009/06/18 大須賀 ただ、桐生の布って限定すると、非常に狭い範囲になっちゃうんだよ、桐生もお

2010/02/18 大須賀 イベントをやる意義というのは、イベントに携わる人のチームワークが良くなる

2010/03/18 大須賀 今はそんなぐらいたと...

2010/03/18 大須賀 私の番で、ましてや、私の方は、どうしても檀家と言う立場で、ここに出ている

2010/03/18 大須賀 で、なるかなあとおもうんですが、去年の10月から今年の十夜会の準備を始め

2010/03/18 大須賀 だから、そんなものをこのパッチワークのグループに発展として作ってもらって、

2010/03/18 大須賀 ・・それで、実はこれ配ったという理由は、明日がその日本手芸協会の会員の広

それもこの先生が勝手に全部お金も出すそうです。

テキストマイニングソフトからの書き出し

A	B	C	D	E
1		134 全発話数		
2	第1分節	31 当該分節の発話数		
3	2009/6/18	18 大須賀	近藤さん、着物が来ればね、まずはね、仕分けするよ、いっしょにやるよ、	
4	2009/6/18	20 大須賀	ちゃんと、着物として採っておくのか、端切れとして採っておくのか、そこまでやるよ、	
5	2009/6/18	37 大須賀	まあそんなんだけど、ほんととこれ言うべきじゃないんだけど、実は来年の企画も僕は考えていたんだよ、今年はあんまりやるつもり	
6	2009/6/18	65 大須賀	ただ、桐生の布って限定すると、非常に狭い範囲になっちゃうんだよ、桐生もお召しとか、いろんなもの作ってたけど、	
7	2010/2/18	3 大須賀	イベントをやる意義というのは、イベントに携わる人のチームワークが良くなるってこと、昨年の11月にやったように、ああいうチーム	
8	2010/3/18	8 大須賀	今はそんなぐらいたと...	
9	2010/3/18	34 大須賀	私の番で、ましてや、私の方は、どうしても檀家と言う立場で、ここに出ているものだから、イベントという、浄運寺の檀家さんに少し	
10	2010/3/18	36 大須賀	で、なるかなあとおもうんですが、去年の10月から今年の十夜会の準備を始めまして、パッチワーク展をやるうじゃないかという、望	
11	2010/3/18	40 大須賀	の身につけるものというのは、昔からどちらかというと、パッチワークで出来ているものが非常に多いですね。	
12	2010/3/18	40 大須賀	だから、そんなものをこのパッチワークのグループに発展として作ってもらって、10月16日の日にこの和唐会館の4階で陳列という	
13	2010/3/18	40 大須賀	いたいなと思っています。	
14	2010/3/18	40 大須賀	このパッチワーク・キルト展に関しては、我々が手伝うという項目もほとんどない進行...	
15	2010/3/18	40 大須賀	・・・それで、実はこれ配ったという理由は、明日がその日本手芸協会の会員の広告に、この催しのことを掲載したいという要望があるん	
16	2010/3/18	40 大須賀	それもこの先生が勝手に全部お金も出すそうです。	
17	2010/3/18	40 大須賀	我々はお金がかからないでいいからということです。	
18	2010/3/18	40 大須賀	で、これが、10月の十夜会についてのこのプリントを見ていただければという気がいたします。	
19	2010/3/18	40 大須賀	次にガーデニングについてなんですが、ちょっと私の考え方は、皆さんと若干違っているかと思うんですが、何回かガーデニングをや	
20	2010/3/18	40 大須賀	働率が高かった。	
21	2010/3/18	40 大須賀	土の単価、それから苗の単価で、1回あたりの費用で10万円ぐらいかかっていたのではないかと思います。	
22	2010/3/18	40 大須賀	次回やるうとすれば、もっと原価率を下げる必要はあると思います。	
23	2010/3/18	40 大須賀	それと花を配ったんですが、果たして、6丁目・巴町でいいのかと、非常に僕は疑問に思います。	
24	2010/3/18	40 大須賀	というのは、普段、まちづくりにも出てこないようなところに人のところに置いてたって、価値がないような気もするし、逆にいうと、まち	

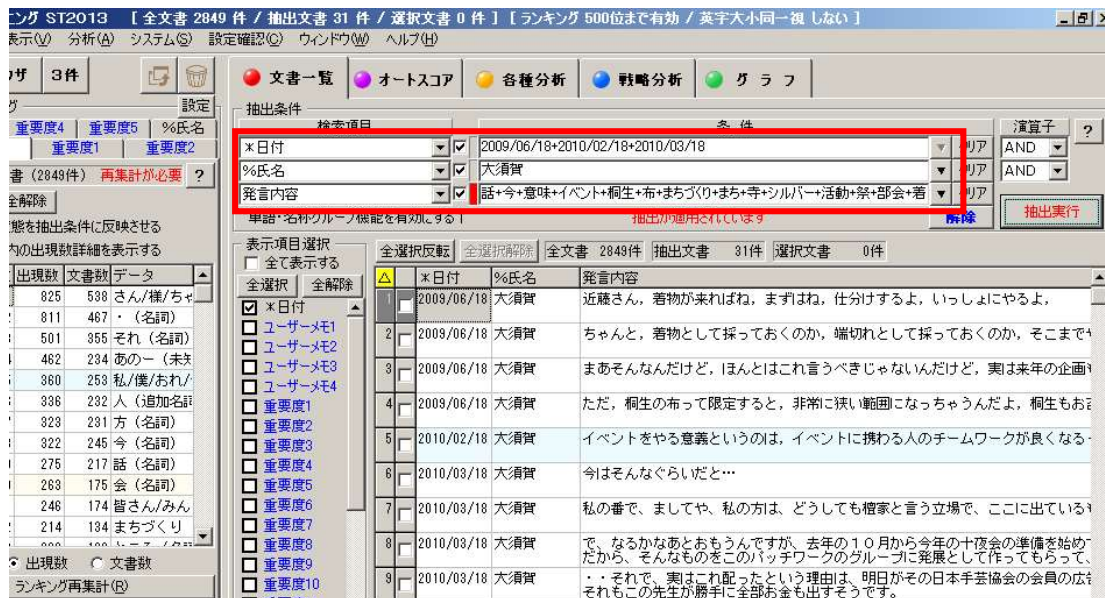
第2水準の頻出単語決定後の指標発話

第1分節	80 全発話数	18 当該分節の発話数	頻出単語
2009/6/18	18 大須賀	近藤さん、着物が来ればね、まずはね、仕分けするよ、いっしょにやるよ、	着物
2009/6/18	20 大須賀	ちゃんと、着物として採っておくのか、端切れとして採っておくのか、そこまでやるよ、	着物
2009/6/18	37 大須賀	まあそんなんだけど、ほんととこれ言うべきじゃないんだけど、実は来年の企画も僕は考えていたんだよ、今年はあんまりやるつもりなかったんだけど、来年は、あ、・・・パッチワーク展をやるつもりでいるのよ、10月18日、お十夜にね、それは、もうパッチワークのグループに話してあるのよ、ただし、桐生の布を使ったもの	布
2009/6/18	65 大須賀	ただ、桐生の布って限定すると、非常に狭い範囲になっちゃうんだよ、桐生もお召しとか、いろんなもの作ってたけど、	布
2010/2/18	3 大須賀	イベントをやる意義というのは、イベントに携わる人のチームワークが良くなるってこと、昨年の11月にやったように、ああいうチームワークが必要なんだよ、	イベント
2010/3/18	34 大須賀	私の番で、ましてや、私の方は、どうしても檀家と言う立場で、ここに出ているものだから、イベントという、浄運寺の檀家さんに少しでも寺に来てもらうようにし	イベント
2010/3/18	34 大須賀	なくてはいいかという意識が強いものでして、今年の十夜会はずいぶん10月16日ではないですか？第3土曜日が16日ではないですか？	イベント
2010/3/18	34 大須賀	・・・それで、実はこれ配ったという理由は、明日がその日本手芸協会の会員の広告に、この催しのことを掲載したいという要望があるんです。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	それもこの先生が勝手に全部お金も出すそうです。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	我々はお金がかからないでいいからということです。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	で、これが、10月の十夜会についてのこのプリントを見ていただければという気がいたします。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	次にガーデニングについてなんですが、ちょっと私の考え方は、皆さんと若干違っているかと思うんですが、何回かガーデニングをやったんですが、非常に原価	イベント
2010/3/18	34 大須賀	率が高かった。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	土の単価、それから苗の単価で、1回あたりの費用で10万円ぐらいかかっていたのではないかと思います。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	次回やるうとすれば、もっと原価率を下げる必要はあると思います。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	それと花を配ったんですが、果たして、6丁目・巴町でいいのかと、非常に僕は疑問に思います。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	というのは、普段、まちづくりにも出てこないようなところに人のところに置いてたって、価値がないような気もするし、逆にいうと、まちづくりに出てこないんだから、	イベント
2010/3/18	34 大須賀	水くぐりはいはやれよ、それがまちづくりの最低の何というのかな？まちづくりという、考えがあっても出来ると思うんですが、いずれにせよ、ガーデニングにつ	イベント
2010/3/18	34 大須賀	ては、ちょっと本町1・2丁目までやっているような自分で朝顔の種を撒いてやる、そういうふうに行った方がいいんじゃないかなと、私は思っています。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	それとまたま今3月6日に桐生町立で400年ということで参加したんですが、あれも非常に我々としてはお金をかけずに何もしないで、あれだけの宣伝が	イベント
2010/3/18	34 大須賀	来たというのが、浄運寺を宣伝する意味で、非常に良かったかと思っています。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	桐生の週刊誌で、33観音の募集が出ていますが、また違う意味で、桐生市民も浄運寺の33観音について認識するような僕はイメージを持っています。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	イベントについては、そんなに手間をかけないでやりたいいなあと思っています。	イベント
2010/3/18	34 大須賀	皆さん、よろしく。	イベント

■図 9-2-13 指標発話を選定するまでの作業過程

すなわち図 9-2-13 の最上段は、テキストマイニングソフトで、「第 1 水準の頻出単語」を含むターン割合 1 位者の発話全てを検索した結果である。操作にあたっては検索項目を次のように設定する。

- i. 「*日付」：各分節に該当する年月日を入力する。条件内の項目（年月日）は「+」でつなげる。
- ii. 「%氏名」：各分節のターン割合 1 位者の氏名を入力する。
- iii. 「発言内容」：各分節の頻出単語（第 1 水準）を入力する。条件内の項目（単語）は「+」でつなげる。

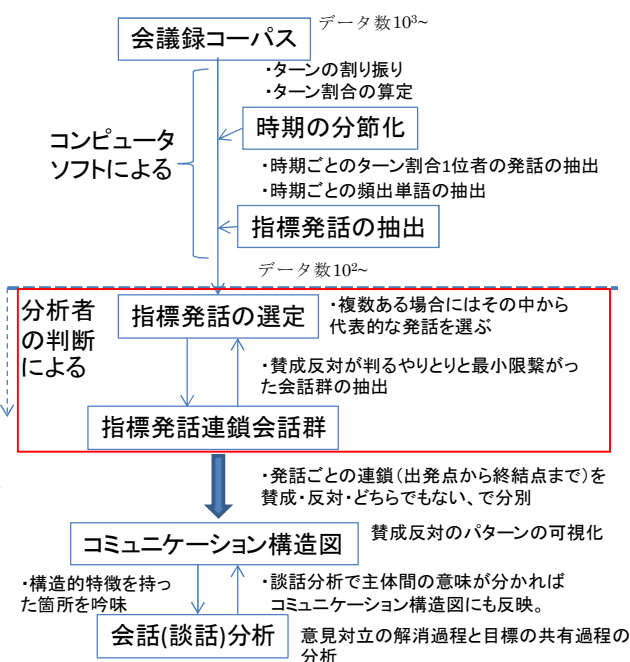


次に図 9-2-13 の中段は、テキストマイニングソフトの表からエクセル表に（コピー＆ペーストで）書き写したものである。この中には「第 1 水準の頻出単語」を含むターン割合 1 位者の発話全てがある。各発話内容を見ながら「頻出単語」としての吟味を行い、有意でないものは取り下げる。すると「第 2 水準の頻出単語」を含むターン割合 1 位者の発話が残る。これが図 9-2-13 の下段の表に当たる。

そして、図 9-2-13 の下段の着色部分が「指標発話」に選定された部分であるが、実際の選定にあたっては、次のステージの「指標発話連鎖会話群」の作成過程において行われる。

このように「指標発話」は、ソフトウェアによる「第 1 水準の頻出単語」と、次に分析者による「第 2 水準の頻出単語」から、そして発話内容からと、段階的に精査していくため事後的に決まる⁴¹。

これは、はじめは目の粗い筈で濾して、少しずつ目の細かい筈で濾していく方法と同じであると言える。これはテキストマイニングでは一般的に見られる方法であり、本論の技法全体もこのような方法で貫かれている。



41 したがって再帰的な作業構造を持っている。

■図 9-2-14 「指標発話の選定」の作業ステージ

第4項 「指標発話連鎖会話群」の作成の仕方

①基本的な考え方

上述のように「指標発話」の選定作業は、実際は「指標発話連鎖会話群」を作成しながら行われる。具体的には、「指標発話」の一つ一つの連鎖を調べ、ひとまとまりの会話群がどこからどこまでかを選定する作業になる。そして連鎖のない発話や、連鎖があってもそこに賛成・反対の意思表示が見られない発話は省除される。

この「ひとまとまり」の選定にあたっては、理念的には分析者が最も自然に思われる箇所判断してよいと考えられるが、本論では最終的に会話分析を行うことに配慮して次のような基準を設けた。

(ア) 前への遡り基準

前に連鎖する発話は、「F-S連鎖」の第1成分(F)に相当する「質問」、「申し出」、「誘い」、「評価」等が現われるまで、もしくは「修復」連鎖にある場合は「トラブル源」に相当する発話が現われるまで記入していく。

・F-S連鎖の第1成分

発話を行為として捉えた場合、誰かの働きかけと、それへの応答という二つの成分に分けることができる。前者のことを第1成分、後者を第2成分と呼び、この組み合わせを「F-S連鎖」と呼ぶ。この組み合わせについては既往研究で概ね以下のようなパターンがあると言われているので、これを参考にされたい^{注42}。ただし、本論の目的から考えて「挨拶」は除く。

■表 9-2-5 F-S連鎖のタイプ

第1成分	Why 質問	Yes/No 質問	依頼	申出	誘い	感謝	謝罪	評価	挨拶
第2成分	返答	一致 or 不一致	承諾 or 拒否	受諾 or 拒否	受諾 or 拒否	承認 or 拒絶	承認 or 拒絶	同意 or 不同意	挨拶

・「修復」連鎖の「トラブル源」

「修復」行為とは大きく「修復の開始」と「修復の操作」に分けられる。これらは何らかの問題（トラブル源）を含んでいるため、そのまま会話を続けられない時に行われる行為である。そのトラブル源を特定する行為を「修復の開始」という。そしてそれに対して修復を実行する行為を「修復の操作」という。「修復」は互いに了解を志向する中で、会話の順番交替システムが一時的に乱れた時に、それに対処するために行われるものである。なので、前述の「F-S連鎖」の乱れ（例えばSが来るべき個所にFが来るなど）を以て吟味を開始し、「修復の開始」が存在しているかどうか判断する^{注43}。そして「修復の開始」で顕現化しようとしている「トラブル源」とは何かを考え、それが直前の発話に含まれているかどうかを判断する（含まれていれば、そこから連鎖が始まっていると見なす。）。

(イ) 後への遡り基準

後に連鎖する発話は、「F-S連鎖」の第2成分(S)に相当する「返答」、「受諾／拒否」、「同意／不同意」等が現われるまで、又は「修復」連鎖にある場合は修復が完了するまで^{注44} 記入していく。

・F-S連鎖の第2成分：表 9-2-5 を参照されたい。

⁴² ただし、これらはあくまでも理念型であって実際はいくつかのバリエーションが考えられる。例えば「申し出」と「提案」は若干のニュアンスの違いがあるが、両者とも第1成分として捉えてよい。

⁴³ ただし互いに了解志向がなければ、修復行為ではない。

⁴⁴ 修復が完了しない場合は最後の「修復の操作」まで。

- ・「修復」連鎖にある場合は修復が完了するまで

「修復の操作」が行われても相手が納得しないため「修復の操作」が繰り返される場合がある。

本論では相手が納得しなければ「修復の完了」と見なさない。

(ウ) 同じ話題を繰り返す場合やとりとめもなく話題が変化していく場合

前後に連鎖する発話を遡ると、同じ話題を何度も繰り返すパターンや、とりとめもなく話題が変化していくパターンに遭遇する場合がある。このようなケースでは以下のような基準で対処する。

すなわち、前後の連鎖は「F-S 連鎖」か「修復連鎖」のいずれかなので、二つに分けて整理する。

・基準①「F-S 連鎖」の場合

大きな意味を持った第1成分と第2成分の間に、階層的にその下の小さな意味を持った多くの F-S 連鎖が挿入されている場合がある。前者を「親の F-S 連鎖」又は「基底となる F-S 連鎖」といい、後者を「子となる F-S 連鎖」と呼んだりする。この後者をすべて拾うとなると大変な作業になることがあるので、次の基準で対処する。

a.意見の対立関係を表している場合は、忠実に連鎖を拾う。…基準「①-A」という。

b.意見の対立関係を表していないが、賛成ないし反対の意思表示はある場合は、意味が繋がる範囲で最小限の「F-S 連鎖」にまとめる。その場合、どのターンから第1成分ないし第2成分を選んでも良い。…基準「①-B-a」という。

両成分がない場合には共通の頻出単語を持った発話が（順番的に）次に現れるまで進み、その発話に代表させる。…基準「①-B-b1」という。

それらの発話が次に現れない場合、すなわち第1成分もしくは第2成分しか存在しない場合は、片方の成分のみ記録する。…基準「①-B-b2」という。

c.意見の対立もなく賛成ないし反対の意思表示もない場合は、省除する⁴⁵。…基準「①-2」という。

・基準②「修復連鎖」の場合

「修復の開始」をしてもなかなか「修復の操作」に至らない場合や、「修復の操作」をしてもなかなか修復が完了せず、延々と「修復の操作」が続くことがあり、これらをすべて拾うとなると大変な作業になることがあるので以下の基準で対処する。

修復連鎖の一連のやり取りにある場合は、争点の対立関係がある場合には忠実に拾う。…基準「②-A」という。

争点の対立関係がない場合には「トラブル源」と「修復の開始」と「修復の操作」のみにまとめる。…基準「②-B」という。

なお、以上の基準「①-B」タイプ、「①-2」、「②-B」タイプが、前述のフロー（図 9-2-11）の「省除5」に該当する。

②実用上の指針

②-1 ワークシートの作成にあたって

「指標発話連鎖会話群」は後の「コミュニケーション構造図」作成のための直接的なデータベースとなる。したがって、「指標発話」がどれで、その前、その前の前…、その後、その後の後…、が誰のどの発話（日付と行番号）か、が分かるように整理されていけばよい。

⁴⁵ 基底（親）となる F-S にまとめてしまうという意味である。

[illegible]

また、本論の「指標発話」列の各セルは、前工程で作成したワークシート「指標発話」からコピー＆ペーストして記入している。エクセルのリンク機能を使用してもかまわないが、「指標発話」と「指標発話連鎖会話群」では発話内容の記入フォーマットが違うので、若干の工夫が必要となる^{注47}。

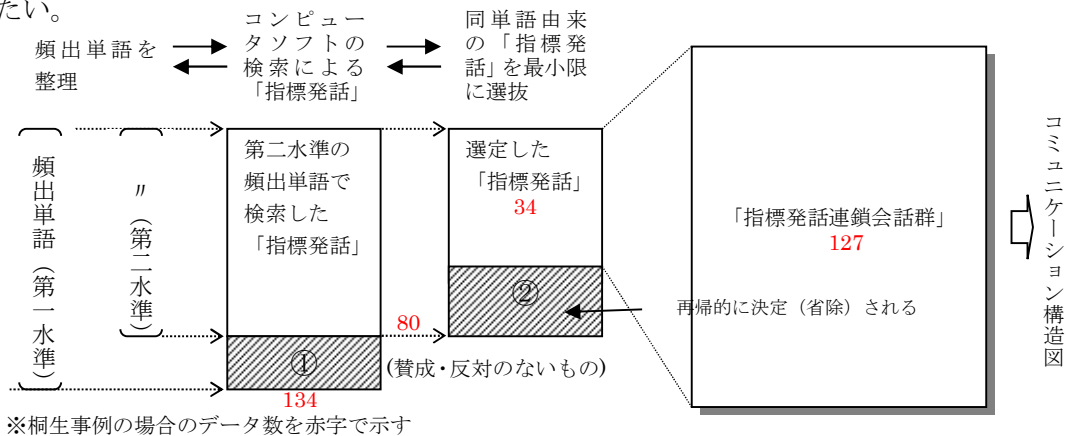
前述の「①基本的考え方」で、前後の遡り基準を「F-S連鎖」と「修復連鎖」で定義したのは、後のステージで会話分析を行うからである。しかしながらこのステージで一つ一つの発話を「F-S連鎖」と「修復連鎖」で＜厳密に＞分類していくことは作業負荷が大きく、実用性を大きく損なう。

②-3 「指標発話」・「頻出単語」の事後選定にあたって

同様に、「指標発話連鎖会話群」を作成する段階で、連鎖がないことや賛成・反対の連鎖がないことに気づくこともあり、その場合、「指標発話」の選定や「第2水準の頻出単語」まで遡って書き換えることは必要である。また、この作業は、必ずしも1回で済むとは限らないこともある。本論では、ここまでの再帰的な作業を一巡したうえで、「指標発話」の選定

47 すなわち、ワークシート「指標発話」は、テキストマイニングソフトからのコピー＆ペーストで作成されているので、その書式に従属されており、ワークシート「指標発話連鎖会話群」は各発話の発話者がそれぞれ異なるので、一つのセルの中で発話者情報と（日付と）行番号を表示しなくてはならないため書式が異なり、単純にリンクできない。必ずしもリンク機能を必要としないので本論ではコピー＆ペーストで記入した。なお、「指標発話」以外の発話は会議録コーパスからやはりコピー＆ペーストで記入している。今後自動化を進めるにあたっては、全発話を発話者記号と（通しの）行番号でIDづけし、ID番号でリンクするようなソフトを設計・作成することが考えられる。

定、「第 2 水準の頻出単語」の選定、「指標発話連鎖会話群」の作成が完了することになっている点に留意されたい。



■図 9-2-16 「指標発話連鎖会話群」作成までの再帰的な工程

ただし、この省除過程が（ブラックボックスにならず）第三者に説明可能なように、下表 9-2-6 のような作表を行い、フロー（図 9-2-11）と照応しやすく可視化することも工夫の一つである。すなわち、「頻出単語」ごとに選定した「指標発話」と省除した「指標発話」の番号を示したものが表 9-2-6 である。

■表 9-2-6 （本論より再掲）第 2 分節の指標発話選定理由

分節	会議	頻出単語	指標発話	選定・省除理由		連鎖会話群に 含まれる発話
				図3-3-3	備考(記号は手順書「指標発話の選定基準」参照)	
第2	2010年4月 2010年6月	まちづくり	4月 1	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月 5	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月 104	指標発話		●
			4月 343	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		部会	4月 350	指標発話		●
			6月 62	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月 156	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		末広	4月 95	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月 99	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月 1	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		民家	4月 132	指標発話		●
			4月 336	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月 337	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月 62	「古民家再生部会」にて→頻出度上位の「部会」に集約		
		歴史	4月 115	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月 277	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			4月 280	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
			6月 54	省除4	賛成・反対の意思表示がない。	
		商店街	6月 1	「末広商店街」にて→「末広」		

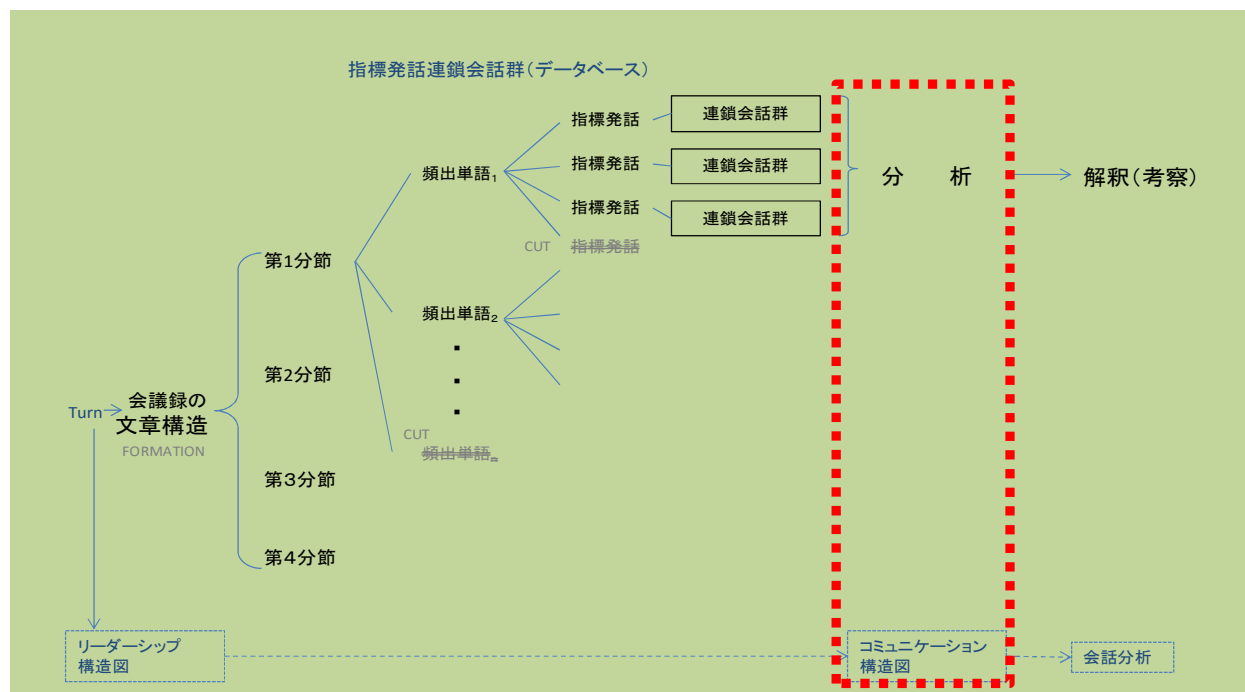
この表から分かるように、6つの「頻出単語」につき^{注48}検索された発話（すなわち「指標発話」の候補）がいくつか挙がっているが、このうち「指標発話」に選定された発話は3つであり、「指標連鎖会話群」まで残ったのも3つの発話のみである。

また、結果として使われなくなった「頻出単語」もあるが、このように省除理由が分かるようになっていることで説明責任を果たすことができる。

⁴⁸ このうち「省除 4」で結果的に使用されなくなった「頻出単語」がいくつかあるが、（単語レベルで省除の理由となるのは「省除 1」、「省除 2」のみであることから、）これらは本論では「第 2 水準の頻出単語」として残されている。すなわち、4 月の発話 95,99,115,277,280 及び 6 月の発話 1 は、「指標発話連鎖会話群」に残らないが、単語「末広」、「歴史」、「商店街」は、連鎖する発話の中に（「発話」としてではなく）「単語」として出現する可能性があるからである。発話として連鎖する場合は「省除 5」もしくは「残留」のいずれかになる。このことと混同しないように注意されたいが、実際はどちらでも分析において影響を与えない。

第3節 コミュニケーション構造図の作成

本節では、コミュニケーション構造図の作成手順について説明する。



■ 図 9-3-1 当該手順の箇所

本論の「コミュニケーション構造図」とは、「指標発話連鎖会話群」から、発話ごとにかつ主体ごとに「賛成」・「反対」・「どちらでもない」に分別して賛成・反対のパターンが分かるように作成された図である。当該技法では必要に応じて「コミュニケーション構造図」から「指標発話連鎖会話群」、「指標発話連鎖会話群」から「指標発話」、「指標発話」から「頻出単語」、と必要に応じて再帰的に遡ることができるようにエクセルのワークシートに格納する。

以下、エクセルの当該ワークシートにおける作図の仕方について説明する。

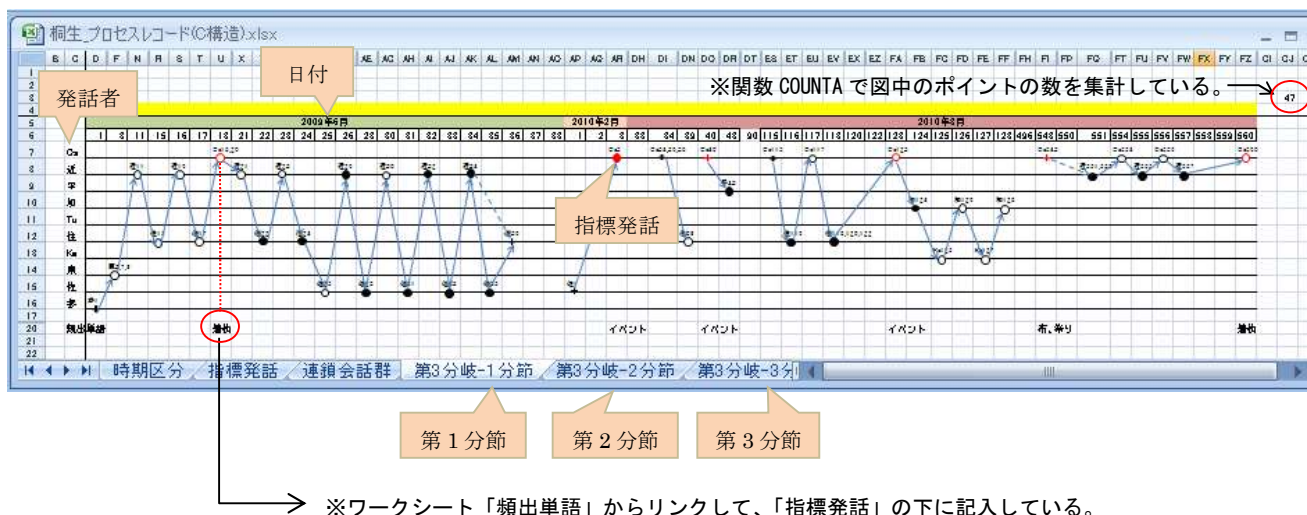
①基本的な考え方

本論で提示する技法では「指標発話連鎖会話群」に記入された発話を、図 9-3-2 に示すように前の発話相手に対して「肯定的（pros）＝○」・「否定的（cons）＝●」に分類して時間軸上に並べていく。起点となった発話や、肯定とも否定とも言えない発話は十字で表す。なお「指標発話」は（○,●,+いずれも）赤く塗る。

また、矢印で発話の順番を示し、その際、「F-S 連鎖」や「修復連鎖」のように（会話分析の）連鎖に相当するものは実線で結び、それ以外の＜意味＞の繋がりから時を超えて関係を結ぶ場合は破線で結ぶ⁴⁹。また同一人物の言い直しや補足に該当する発話も、前の発話と破線で結ぶ。なお、線の重なりから見えにくくなる場合は適宜曲線で表現する。

この図において、「頻出単語」、「指標発話」、とそれに連鎖する発話すべての相対関係（pros・cons）が一覧できるようになっている。各ポイントには発話者記号と行番号が記入してあるので、同じファイルのワークシート「（指標発話）連鎖会話群」に遡ることで発話内容を確認することができる。

⁴⁹ また会議自体を遡る大きく時を超えるような発話同士の意味的繋がりも破線で結ぶ。その意味において本論では、実線は会話分析の行為の連鎖をさし、破線は談話分析の意味の繋がりをさすと説明できる。



■図 9-3-2 ワークシート(時期区分)見本

②実用上の指針

②-1 Pros・Cons の判断にあたって

前節で述べた「指標発話連鎖会話群」はデータベースであることから、討議過程（といっても賛成・反対の方向性を有する会話群だけだが）をありのままに記述しておかなくてはならないが、「コミュニケーション構造図」は会話（談話）分析を行うべき切片を分かりやすく可視化するのが目的なので、分析者の主観によって「判断」を行ってかまわない⁵⁰。

またここで賛成か反対かを＜厳密に＞判断することはそれだけ作業負荷が大きくなり、実用性を大きく損なうことになる。

次の「会話分析シート」を作成する段階で、一つ一つの発話を精査することになるので、その際に入念に吟味すればよい。その場合、事後的に「コミュニケーション構造図」が書き換えられることになるが、特に問題はない。現実的に言えば、会話（談話）分析を行う際に新たな連鎖関係に（あるいは連鎖関係でなかったことに）気づくことはありうるので、いずれにしても最後まで「コミュニケーション構造図」が書き換えられる可能性はある。

すなわち、ここでは決定的に考えず、暫定的な判断として（前の発話者に対して）「肯定的」か「否定的」かを判別することが重要である。

②-2 会話群の縮約について

コミュニケーション構造図は、次の会話分析を行うべき個所を選定する目的でも使われることから、行為の繋がりも意味的繋がりも可能な限り図示して特徴が分かるようにデザインを工夫すべきである。したがって、特徴を分かりにくくするような会話群は必要に応じて省除してかまわない⁵¹。

例えば、下図 9-3-3 は本論桐生事例における第 1 分節の省除箇所（会話群）を示したものである。図中(ア)については、まず 497 と 500 は「賛成・反対の対立構造がない」と整理し「指標発話」から省除した発話であり、「住,498,499」や「加,501,504」はそれらに連鎖した発話である。

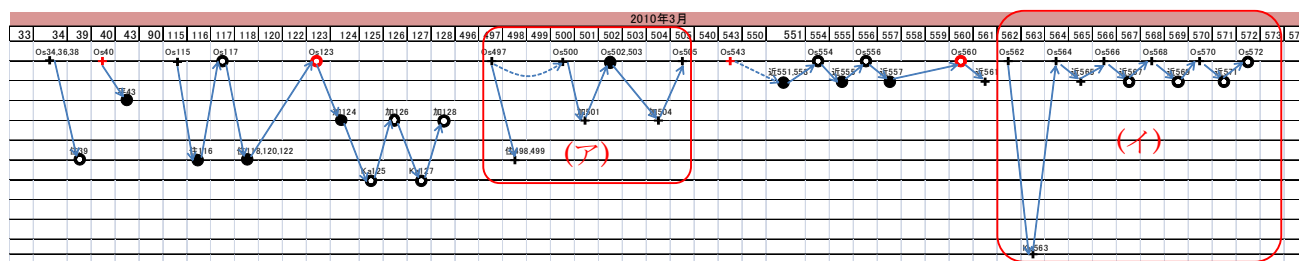
（よってこの会話群から賛成・反対のパターンを検出することは困難と考えられるが）ただし、502,503 は「加,501」に対する「反対」を示している。そこで実際に会議録を読んでもと、

⁵⁰ ただしその説明責任はもちろん問われる。

⁵¹ 削除しないでおくことが有利な点もあるので、省除はあくまでも必要に応じて行う。

「497 で提示したイベントをスケジュールに載せるかどうかについて、日程が不定なので載せられない。」と答えただけで特段の意見対立は確認されなかったので、省除することにした。

(イ)については、実際に会議録を読むと、「前回のイベントで余った布を今回のイベントで使うかどうか」について、「近」が「Os」に問い質しているだけで、特段の賛成意思の表明は示されていないかった。



■図 9-3-3 第 1 分節の省除箇所

この「問い質し」の行為については「近」の「Os」に対する不信感を表すものであり、或る種の対立構造とも言えなくもないが、この前の時点（543~560）においても現われており、この部分は残していることから、分析上の支障はない（543~560 までを分析すれば十分）と考え^{注52}省除した箇所である。

ただし問い質しが長く続いていること^{注53}や、前半は Os が「反対」を示しているが後半は Os の「賛成」で終わっていることから何らかの了解過程ではないかと疑うこともできる。そこで再び実際に会議録を読んでみると了解過程とも言えないことが分かった^{注54}。

よって(ア)と(イ)については、これらを省除したことで、賛成・反対の構造的特徴にはなんらかの深刻な影響を及ぼさないと考えられるので図から省除されるに至った。

このように「コミュニケーション構造図」は会話分析すべき重要な会話群に効率的に到達するためのツールでしかないので、必要に応じて縮約することを是とした。

一方で、この分析個所が恣意的に選択されていないかどうかを検証するためには、データベース「指標発話連鎖会話群」まで戻ってそこで議論しなければならない。しかし、もしこの「コミュニケーション構造図」だけでクライアントや住民にその検証も含めて説明しなくてはならない場合は、縮約は一切しないで示すほうが公正であると言える。

②-3 その他デザイン上の工夫

「コミュニケーション構造図」は相互の発話行為のパターンが構造的に分かりやすく見えるようにデザインされるべきである。よって以下の点についてデザイン上の配慮が望まれる。

(ア) 矢印線の引き方について

会議の場合は、相当に離れた発話に対して（肯定ないし否定する）応答がなされる場合があり、会

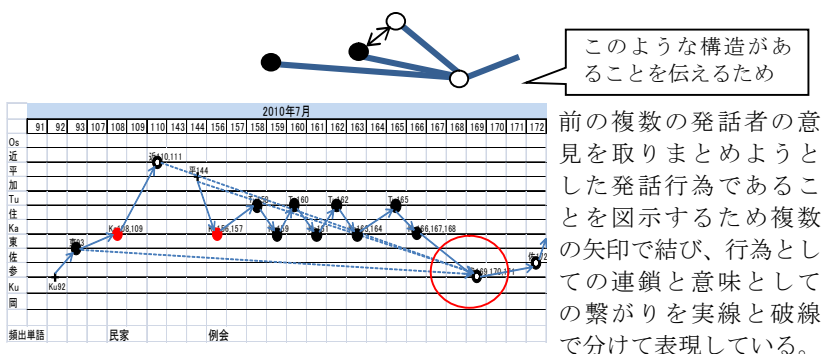
⁵² 内容的な討議過程を知ることが必要な際には「会議録コーパス」に戻って発話内容を確認できるよう、当該技法は発話の一つ一つに番号を付している。（コミュニケーション構造図に登場するものは賛成・反対のパターンが明確なものだけである。）

⁵³ 「近」は前回のイベントで余った布地（和服）がどこにいったのか、Os に尋ねているが、Os が明確な回答をしないので、問い質しが続いている。何らかの理由で Os は明確な回答を避けており、そこを分析する価値はあるが、当該分析は目標の共有過程や意見対立の解消過程を探ることが目的であることから、ここでは分析しないこととした。

⁵⁴ Os が、前回のイベントで和服の布地は出しておらず今回のイベント用にとっておいたと回答したことで、「近」は自分がそれを知らなかったと発話（565,567,569）し、「Os572」はその認識が正しいことを確認した発話で終わっている。しかし「近 576」で「かなりの量あったでしょう？」という発話があり、「近」はまだ納得していないことが窺えることから。

話分析で扱う「行為の連鎖」だけでは説明困難な場合がある。したがって、談話分析で扱う「意味の繋がり」も積極的に捉えていかなくてはならず、可能な限り（破線で）図示して特徴が分かるようにデザインを工夫すべきである。

例えば、下図 9-3-4 は本論桐生事例における或る局面（会話群）を示したものである。図中赤丸内に示した発話 169（○）については、直前の 168 に対する応答として発話されたが、発話内容から解釈すると明らかにそれ以前の複数の発話に対する肯定的意思を表した応答であることが分かる。



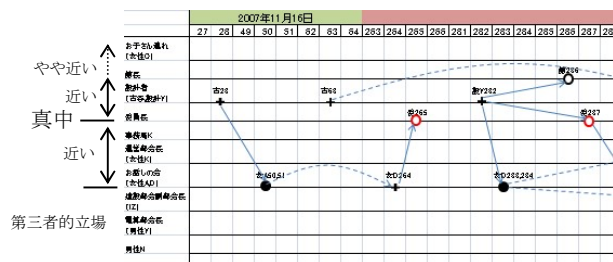
■ 図 9-3-4 矢印線の作成上の工夫例

このような場合、会話分析で扱う「行為の連鎖」（実践の矢印）だけでは、発話 169 が複数の発話のとりまとめ行為であることを示せないで、「意味の繋がり」（破線の矢印）をそれらと結ぶことで可視化することができる。

（イ）発話者列の並べ方について

「コミュニケーション構造図」の最左列に発話者を記入するが、この並べ方によって図が大きく変わる。成員についての厳密な「コーディング」は必ずしも必要としないが、なるべく成員の立場の近い者同士を寄せて並べた方がよい。

本論の小布施事例のように立場によって意見が異なることが明らかな場合は、司会進行役のような中立的な立場を真中にして、対極的な二つの立場を上下に配置する。また第三者の立場の成員はその下にまた別のグループとして並べるとよい。



■ 図 9-3-5 発話者列の並べ方の工夫例

このようにしておくと賛成・反対のパターンの振れ幅が大きいほど異なる立場間のやりとりであり、小さい振れ幅であるほど同じ立場の間でのやりとりであることが、直感的に分かるようになる。

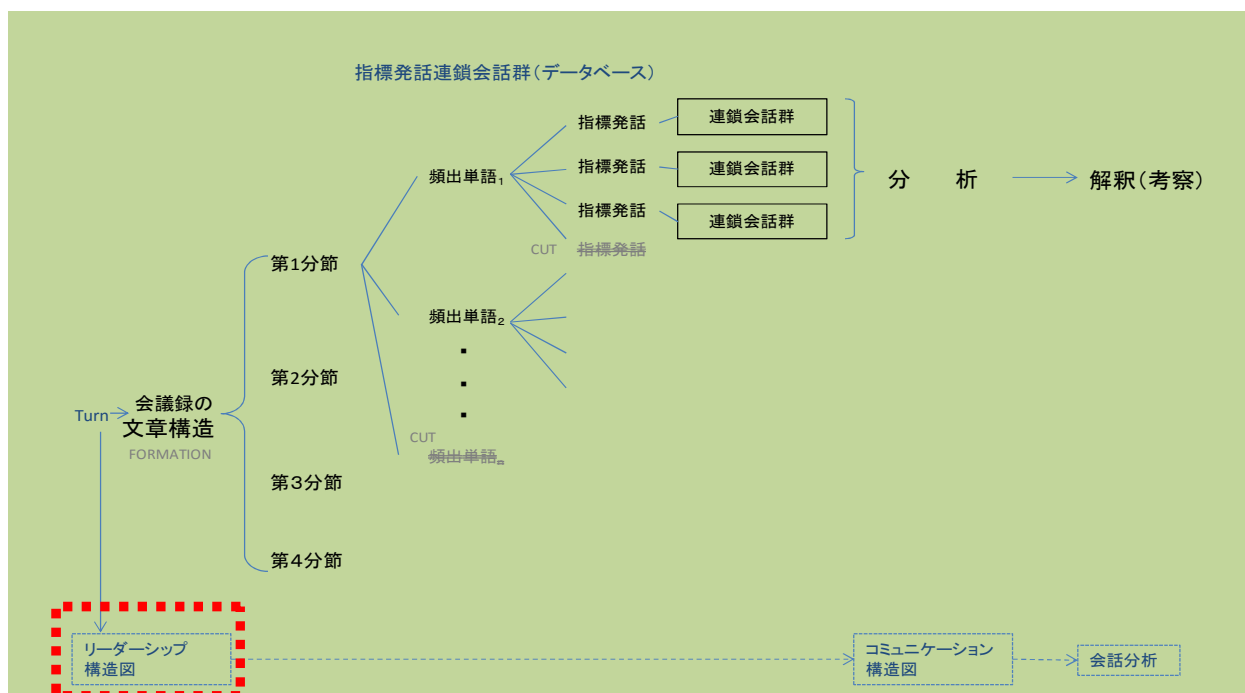
しかし多くの場合は、会議録を読んでみないと立場の違いは分からないので⁵⁵、概ね次のような基準で成員を配列すればよい。

- i. 司会進行役（委員長、事務局、コンサルタント等）を真中に置く。
- ii. ターン割合 1 位者（が司会進行役でない場合は）をその近くに置く。
- iii. なんらかの意見対立で対立している成員の一方を i より上と下に振り分ける。とくに激しい意見対立をしている成員から順番に振り分ける。
- iv. その他の成員を、iii で分けたグループのどちらに同調しているか、で判断して振り分ける。
- v. 意見対立の利害関係に関係していない第三者の立場の成員は別グループとして下方へ並べる。

⁵⁵ 実際は「コミュニケーション構造図」を作成する段階で、その前に「指標発話連鎖会話群」を作成しており、会議の内容は大体把握できているはずである。

第4節 リーダーシップ構造図の作成

本節では、リーダーシップ構造図^{注56}の作成の手順について概略的に説明する。



■図 9-4-1 当該手順の箇所

基本的に X 軸に時間軸、Y 軸にターン割合、Z 軸に各成員を与えれば、3 次元散布図を作成することはできるが、本論ではさらに重みづけ^{注57}を図中で表したいので、コンピューターソフトウェア「JMP」^{注58}を用いて作成（アウトプット）する。

まずデータベースの作成方法について述べれば、JMP では、表頭の各列を各次元のデータとして読み込むので、エクセルデータで入力する際に図 9-4-2 左のように表頭に、成員（member）列、ターン割合（act ratio）列、時間（sequence）列、重みづけ（weight）列を設けて、これに従って入力しなくてはならない。

次に、このデータベースを JMP で読み込んでから「グラフ」作成画面を開き「三次元散布図」をコマンドし、「Y.列」（X 軸、Y 軸、Z 軸）に成員（member）列、ターン割合（act ratio）列、時間（sequence）列を、「重さ」に重みづけ（weight）列を指定し実行すると、三次元散布図が出力される。（図 9-4-2 出力後のグラフ）

次に、各成員のマーカー（球体）をラインで結んで^{注59}、本論で提示する「リーダーシップ構造図」は完成する。JMP では「3 次元散布図」のマーカー（球体）にカーソルを当てると、その行番号が表示されるので、その番号から元データを特定する。なお、JMP 上では直接ライン加工はできないので、エクセルやワードなどの他のソフトウェアにコピーで貼り付けて加工する。

56 リーダーシップ構造分析を行うための図。指標発話連鎖会話群（データベース）から会話分析までの作業の流れとは別に位置づけられる。

57 例えば、小集団の役付や土地・建物・事業等の利害関係者か否か等で数段階に分ける。ケーススタディ毎に設定する。

58 SAS 社製品「JMP」のグラフ作成機能「三次元散布図」を用いて作成する。これによれば重みづけは球体の大きさで表される。

59 成員全てをラインで結ぶと煩雑で見にくくなるので、（各分節の）ターン割合 1 位者のみを結ぶのが適当である。



「三次元散布図」元表

member	weight	act(ratio)	sequence
Tu	5	0.11	I
Ka	4	0.02	I
Os	2	0.25	I
近	2	0.10	I
加	3	0.16	I
住	6	0.17	I
Ku	3	0.02	I
平	3	0.01	I
参与観察者	3	0.04	I
宮	3	0.01	I
佐	4	0.05	I
東	4	0.01	I
岡	4	0.04	I
大	1	0.00	I
Ma	3	0.00	I
生	1	0.00	I
伏	3	0.00	I
Su	4	0.00	I
Sa	1	0.00	I
北	4	0.00	I
Tu	5	0.21	II
Ka	4	0.06	II
Os	2	0.08	II
近	2	0.00	II
加	3	0.12	II
住	6	0.18	II
Ku	3	0.02	II
平	3	0.06	II
参与観察者	3	0.02	II
宮	3	0.02	II
佐	4	0.02	II
東	4	0.01	II
岡	4	0.06	II
大	1	0.03	II
Ma	3	0.01	II
生	1	0.00	II
伏	3	0.03	II
Su	4	0.02	II
Sa	1	0.04	II
北	4	0.00	II

※ここでは sequence を見やすくするため I ～ IV の記号に置き換えている。

データベース (元票) は表頭に各次元の要素となる「成員 (member)、重さ (weight)、ターン割合 (act ratio)、時間 (sequence) を設け、これに従ってデータ入力する。

*左図は「ひながた」なので、sequence を I ～ II までのみ記載している。このように初めの行から終わりの行まで成員をその並びのまま繰り返し記入する。

ターン割合上位者*のマーカを各々ラインで結んで軌跡を示す。

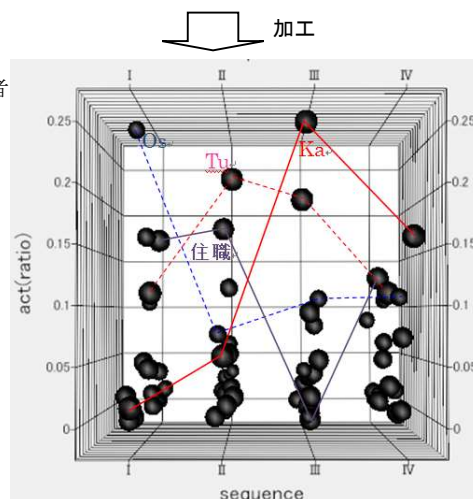
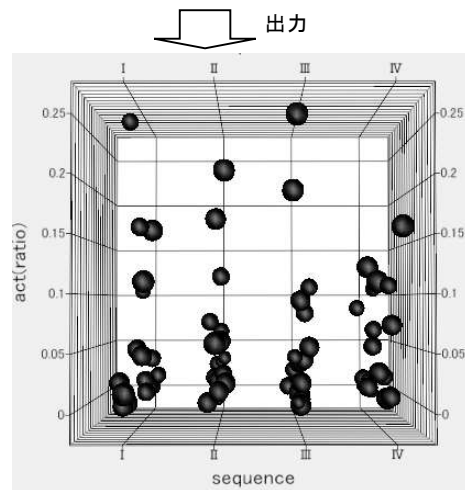
*各時期区分のターン割合 1 位者を示すのが望ましい。

住職	Ka	Os	Tu
I : 2009 年 6/18～2010 年 3/18			
II : 2010 年 4/18～T : 2010 年 7/18			
III : 2010 年 8/18～2010 年 9/18			
IV : 2010 年 10/18～2010 年 11/18			

※マーカ (球体) 間のラインの引き方

JMP 上では加工できないので、他のソフトウェアにコピーして加工する。同時に JMP 上でマーカにカーソルを当てて行番号と照応しながら、かつマーカの大きさを指標にしながら成員を判別していく、

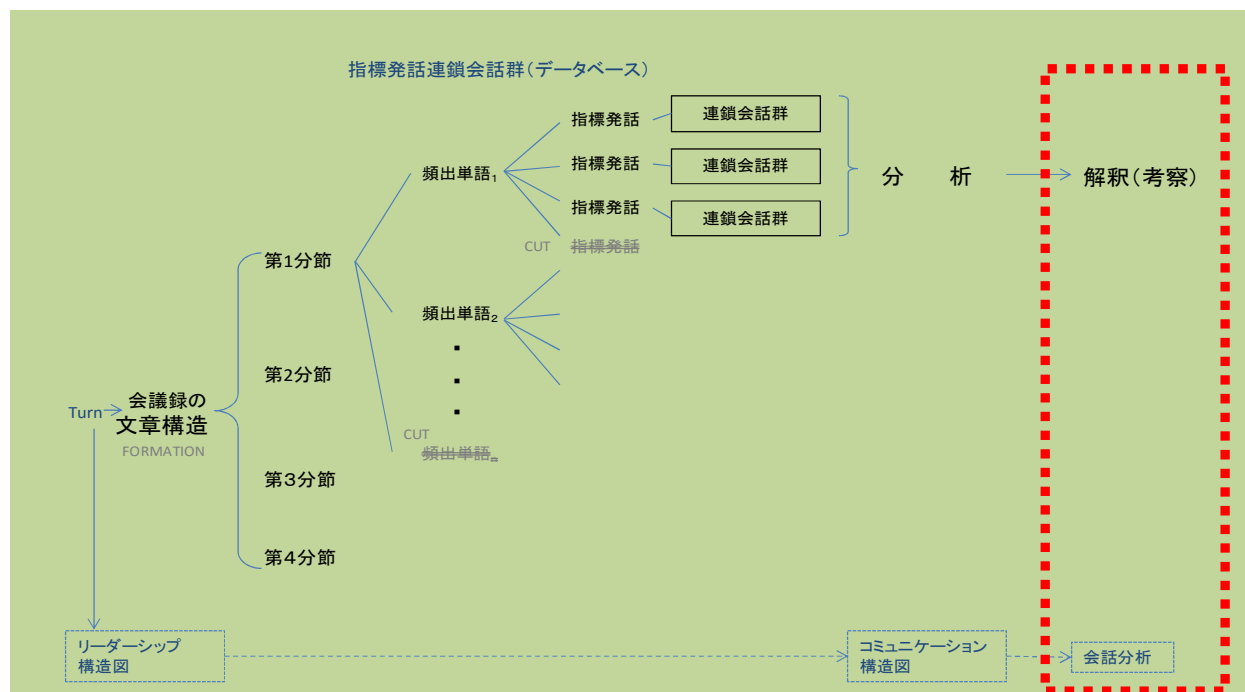
▲JMP「三次元散布図」によるグラフ作成画面



■図 9-4-2 「三次元散布図」からリーダーシップ構造図の作成までの手順

第5節 会話分析シートの作成

本節では、会話分析シートの作成手順について説明する。



■図 9-5-1 当該手順の箇所

本論では、「誰が誰に何をなぜ話したのか」が分かるようにテキストデータを整理したものを「会話分析シート」と呼ぶこととした。

■表 9-5-1 会話分析シートのひな型

「指標発話連鎖会話群」からの転記					
行番	話者	発話内容	会話分析によるF.S連鎖	修復連鎖	談話分析による意味的繋がり
21	近	値段が分からないっていうんだから、値付けしてあげるわよ私がそれ	F1: 申出		【市祭りを実施するか否か】 最初に「近」から積極的な協力意思が示されたが、「住職」が否定的な言説を示した機に乗じて「佐」が否定的発話を投げかけ、「近」との対立関係を生じている。最後は「住職」が「(やれるだけのことを)やってみたらどうか」と、事態を収
22	住職	だけど最初からはそんなこと全然出来ないよ。	S1: f1に対する否定		
23	近	発想だよな。	f2: 申し開き		
24	住職	面白そうではあるんだけどどうもぜんぜんびんと来ないんだよ。	s2: f2に対する否定	修復開始	
25	佐	最初、なんとなくBさんからその話が出てきたときに、それってここがやる仕事かっていう気がしたんだよ。	f3: s2への同意		
26	近	仕事じゃないですよここはまちづくりの会じゃないですか。	s3: f3への不同意		
27		(さえざるように)			
28	佐	だまってちょっと聞いていってよ、あなたの理想っていうかさなんとなくそれは分かる、分かるけれどもそれって俺たちがやる仕事なのかって今でもわかんない。(中略)おれたちがっていうとなんか曇をつかむような	f4: s3への評価		
29		(うんうんと相打ちをうちながら)			
30	近	なんでも最初はそうですよ、だいたいようぶですよ、できますよ。	s4: f4への同意 f5: 誘い	修復操作	
31	佐	だったらだよ、おれがもしあなただったら、それをやるための策っていうの、ね、自分で誰でもいいから口説いて一緒にやちうって言う人を…それさっき個人でやれて言った人がいるって聞いたけど、それ、まるっきしオレも同じだよ。	s5: f5に対する拒否 f6: 提案		
32	近	一人じゃ出来ませんよ、仕事、商売してますから。	s6: f6に対する拒否		
33	佐	できないでしょ、出来ないから俺たちにやれっていうのは違うと思うんだよ。	s7: f6に対する拒否 f8: 評価		

①基本的な考え方

図 9-5-1 に示したように、本シートのデータの根本は、「コミュニケーション構造図」で分析したい個所を決めて、当該個所を「指標発話連鎖会話群」から抜粋したものである。

そして発話内容の一つ一つに対して会話分析でいう「F-S 連鎖」や「修復連鎖」と、当該個所の会話群は文脈的に（よって談話分析的に）どのように解釈しうるのか、といった情報を記入する。

（ア）「会話分析による F-S 連鎖」の記入方法

基本的に誰の誰に対する発話なのかが分かればよい^{注60}。

（イ）「修復連鎖」の記入方法

「修復連鎖」については本論第 2 章で述べたとおりである。（第 2 章の該当部分を引用する。）

a. 以下の各点を満たすとき「修復連鎖」列に「修復の開始」と記入する。

- ・ 了解志向性：互いに了解を志向する対話の中で生じていること。
- ・ 順番交替の乱れ：第 1 成分の後に第 2 成分が来るべきなのに来ていないなど、F-S 連鎖が一時的に乱れた状況を以て生じていること。
- ・ トラブル源の特定：トラブル源は何かを特定するために行われた発話であること。

b. 以下の各点を満たすとき「修復連鎖」列に「修復の操作」と記入する。

- ・ 了解志向性：互いに了解を志向する対話の中で生じていること。
- ・ 「修復の開始」の後に生じていること。（複数ある場合には「修復の操作」が完了した時点のものを選ぶ。）
- ・ トラブル源に対処するために行われた発話であること^{注61}（発話の中にそれが確認できること。）。

c. 修復の操作が行われてトラブル源者とそれを指摘した者の中で了解が見られるとき「修復連鎖」列に「修復の完了」と記入する。

ただし、いつまでも完了しないこともある。それは、「他者修復」によって行われた場合、ほとんどの場合その後に「自己修復」が来るまで「修復の操作」が繰り返されるからである^{注62}。

（ウ）「談話分析による意味的繋がり」の記入方法

前述のように、当該切片を文脈的にどのように解説できるのかを記述する。具体的には、各「指標発話連鎖会話群」は基本的に或る論点について討議されており、その論点は「頻出単語」に依拠しているはずなので、その頻出単語がどのように論じられているのかが分かるよう解説する。

②実用上の指針

②-1 連鎖の判定について

ここで初めから「F-S 連鎖」や「修復連鎖」を＜厳密に＞吟味することは、作業の効率性を著しく損なうことになるので、基本的に「誰の誰に対する発話か」、「それは相互のどのような関係から生まれたのか」が簡潔に分かればよい。

実際は、「誰に対する」だけでも判断が困難な場合も少なくないので、ここでは深く考えずにテキスト

⁶⁰ 何を第 1 成分（F）とし第 2 成分（S）とするか、またその内容（申し出なのか、評価なのか等）については解釈する者に委ねられており、何を以て解釈したのかという根拠が示されればよい。より重要なのは「F-S 連鎖」の組（誰の誰に対する発話なのか）が確認されることである。ただしこれすらも実際には確定できないことがある。

⁶¹ 「訂正」はその一つでしかないが、圧倒的に多いとされる。

⁶² これを「自己修復の優先性」という。

トを読んだ情報から、もしその場にいたら自分はどうか感じるか、といった主観で判断することが重要である。

「会話分析シート」をもとに何度も読み返しながら吟味する段階で、一つ一つの連鎖関係を精査することになり、その際に新たな連鎖関係に（あるいは連鎖関係でなかったことに）気づくことは絶えずありうるので、その意味で最後まで「会話分析シート」は未完成である。換言すれば「連鎖関係」の判断に明確な真偽があるわけではない（演繹的な作業を行っているのではない）ので、解釈の筋道や道理が帰納的に説明可能であればよい⁶³。

ただし、混乱しやすいいくつかの状況があるので、以下にそれらを挙げて、対処の仕方について参考までにアドバイスしておく。

（ア）「F-S 連鎖」について

基本的に会話分析では、ターンを TCU という単位で厳密に定義しているが、本論では基本的に「発話交替が起こるまでの区間」として定義している。例えば表 9-5-1 の行番号 30 は、TCU で言えば「なんでも最初はそうですね」と「だいじょうぶですよ」と「できますよ」は個別のターンに分解でき、最初のターンは「佐,28」に対する同意を示す応答で、「だいじょうぶ」以降は「佐」に対する新たな働きかけ（ここでは「誘い」とした。）を示している。つまり「近,30」の中には少なくとも「S（応答）」と「F（働きかけ）」が同棲しているのである。

ただし、ここで厳密な TCU 認定を行うことは本論の目的ではないので、同一の発話レコードが必ずしも一つの F ないし S に対応するものではないことに留意し、必要に応じて（表 9-5-1 における行番号 30 の「会話分析による F,S 連鎖」列の記入例のように）分けて記述すればよい。

（イ）「修復連鎖」について

基本的に会話分析では「トラブル源」を顕現化する行為「修復の開始」と、それに応答する「修復の操作」が連鎖として挙げられている。

しかしながら「トラブル源の顕現化」といっても非了解志向的な行為は「修復の開始」とは言わないので、まずは「修復の開始」をした発話者に了解志向があるかを見極める必要がある。

また会話分析では「言葉探し」のような場合でも「修復」と定義しており、「訂正」のような場合だけが「修復の操作」ではないとしているが、本論のように意見対立の解消過程を分析対象としている限りにおいては、どちらかといえば「言葉探し」は対象外である。むしろ「訂正」や「修正」をもって「応答」となることが多いと言える。

ただし、「修復」というのは互いの「F-S」のような相互行為のパターンを正常に戻そうとするための「修復」であって、発話内容自体の修復ないし修正ではないことに留意しなくてはならない。

例えば表 9-5-1 における行番号 30 の発話は、「住職,24」に対して「近」が応答する個所に「佐」が割り込んできたことで破調が生じ、さらに行番号 27 のように「佐,25」に対する応答もさえぎろうとした破調に対して、正常に戻そうとする意図の発話行為であることから筆者は「修復の操作」と解釈したが、「近,30」の発話内容は何も訂正も修正もしていないことに注視されたい。

⁶³ ただし解釈の詳細は別に展開するのであって、ここ（「会話分析シート」の記入欄）では概略的に記述するだけである。

後説・謝辞

本研究は2005年から着手し、まずはテキストマイニング・ソフトの開発から始めた。当時テキストマイニングの本格的なソフトは数百万円もしていた中で、筆者は個人研究者が手軽に使えるようなソフトを手に入れるため、全く面識もなかった京都市の会社（ワイズシステム）に共同開発の企画話を持ちかけた。商標「ぱっとマイニング」のベータ版が世の中に出るまで2年を要したが、現在では特許検索の分野では知らぬ人のいないほど優れたデータマイニングソフトにまで成長した。このソフトがなければ本論の研究はなかったと言える。(株)ワイズシステム（現社名は「ワイズ特許サービス」）社長の山岡敬章氏には大変お世話になり、心から感謝申し上げたい。

2007年には都市計画学会に「まちづくり運動の連帯における共同態の発見とその応用可能性—小布施町と桐生市のまちづくり運動の比較を通して—」を投稿した。ただし、ここでは会話分析の「順番交替」の考え方を紹介し援用しただけで、会話記録を使ったテキストマイニングないし会話分析は一切行わなかった。

この間、筆者は桐生市のまちづくり運動に参加観察を行っており、多くのまちづくり運動が創発的に誕生していくのを目の当たりにしながら、なぜ諸まちづくり運動が連帯できず単発な運動に終わってしまうのかという疑問に直面していた。そこでその疑問を明らかにするために、諸まちづくり運動の住民主体が奉仕的に互いに助け合いを行いながら上手にマネジメントできていた小布施町へも足を運んでいた。

筆者は「ア・ラ・小布施」の運営するガイドセンターのカウンターで、そこに訪れる住民と職員との日常会話を終日観察し記録に取り、その会話記録から会話分析を試みようとしていた。しかし、職員の巧みな会話術を観察することはできても、それが「小布施」と「桐生」の違いに繋がるのかどうかについて、とうとう自信が持てなかったため分析作業ができなかった。個人的に会話術の巧みな人材は桐生にもいた。個人的な能力ではなく、集団としての何かが「小布施」と「桐生」では明確に違うことに気づいていたが、それを実証的にどのように調べればよいのか分らないでいた。

そして2007年に図書館建設運営委員会、2008年に「まちづくり委員会」が公募町民による協議会形式で開催されるようになったのを見て、もしかしたら協議会の会議分析を通して「小布施」らしい討議デザインのようなものが把握できるのではないかと思い立った。

筆者はどちらかというと「まちづくり委員会」にその期待を抱き、その全体会については全会議に参加して会話記録を取ったが、実際にはこれといって争点もなく、依然として分析の仕方が分からずにいた。悶々としながらも東京と小布施を往復する中、現地で親のように友人のように心身ともに支えて下さった（ア・ラ・小布施の）関悦子氏、（穀平味噌醸造場の）小山洋史氏には、この場を借りて心から感謝申し上げたい。

こうして2008年秋に博士課程に進学し、「図書館建設委員会」がほぼ終わりに近づいたころ、この委員会の納会（反省会）に参加させていただき、その席で当委員会がこれまで

結構な紆余曲折があったことを知らされた。こうして小布施町の「図書館建設委員会」の会議録分析を始めることにした。なんらかの討議デザインの実証的把握について少しずつ手ごたえを感じながら、「桐生」と「小布施」について具体的な会話分析を進めていくことになった。

この頃、「会話分析」については（当時明治学院大学教授の）西坂仰先生、（大阪教育大学教授の）串田秀也先生、（神奈川大学教授の）細田由利先生に直接教えていただいた。毎年夏に3泊で行われる初心者セミナーにも2年連続で参加した。ほとんどの研究者が社会学や言語学の出身である中で、筆者は「アントラディショナル」な出自であったが、親身に指導して頂いたことに心から感謝申し上げたい。そして「会話分析」の「連鎖」や「修復」等の概念を本論では会議分析用に援用したあまりに原義から離れてしまったであろうことにお詫びを申し上げたい。

会話分析の習得ならびに会議分析の手法の確立には数年がかかり、その成果を初めて公刊できたのは2012年3月に出版された「規範理論の探求と公共圏の可能性」においてである。この出版企画に招いて頂いた（法政大学教授の）壽福眞美先生と故舩橋晴俊先生には心から感謝申し上げたい。この出版が心の支えとなって、桐生事例については2013年に都市計画論文集に「まちづくり小集団の討議過程の分析手法に関する研究について」を投稿することができた。本論の第3章はこの論文を基本に構成されている。

小布施事例についてはさらに数年後の2016年2月公刊の「計画行政」に「小布施町図書館の空間利用に関わる討議過程の研究－利用者相互の意向調整はどのようにしてなされたか－」として投稿することになる。本論の第4章はこの論文を基本に構成されている。

数年間もの時間を費やしたのは、この間に会議分析技術の開発における大きな発見と模索があったからである。発話の主体間を線で結び図示する方法（本論では「コミュニケーション構造図」といった。）であり、これにより各事例の「討議デザイン」を可視化できるのではないかという大きな期待を持つことができた。

この技術開発にあたっては、本論の副査でもある（東京大学文学部教授の）佐藤健二先生のご助言に依るところも大きく、改めて感謝申し上げたい。

またこの間の大きな出来事といえば、真野地区のコンサルタントをしておられる宮西悠司先生から、1978年頃の「まちづくり検討会」の録音テープをいただいたことである。数十年前も経過していることから磁気テープの損傷も激しかったが、慎重に修理した結果、「第4回懇談会」から「第2回検討会」までを再生することができたのは誠に幸運であった。

この分析結果は、2015年5月に「地域社会学会年報第27集」に「真野地区の討議における連帯の生成に関する研究－「真野まちづくり推進会」の前段組織における会議の会話群に着目して－」として投稿することができた。貴重な磁気テープであったにも関わらず預けていただいた宮西先生には心から感謝申し上げたい。神戸市の荻藻駅で待ち合わせた際、御自宅から地下鉄に乗って大きな荷物を重そうに抱えて来られた先生の姿は今でも忘れられない。

質的調査（分析）は徹底したリアリティが求められる。その結果、まちづくりのフィールドワークにおいて調査者が参与観察して記述することは、社会学のみならず都市工学においても今日認められつつあるが、その記述にあたって調査者が選んだ事象は、恣意的に選ばれたものではなく紛れもなく現場を代表するものと言えるだろうか。そこにリアリティの欠陥が残されたままであった。

ありのままの会話記録を対象に分析する「会話分析」は或る意味でそのリアリティの欠陥に立ち向かうための手法であり、また「テキストマイニング」も、調査者が選ぶ事象をより客観的に選び出すための手法なのであった。

2,000 年前後は、会議録のデータ化、全面公開が普及し始めたこともあって、データマイニングによって会議を分析し、討議の活性化や合意形成に貢献しようとする研究が少し流行した時期もあった。本論の副査でもある（東京大学教授の）堀田昌英先生が開発された **CRANES** もその一つである。しかし、データマイニングのとくにテキストマイニングに特化した汎用ソフトの開発が遅れていたこともあって、2008 年前後はそれを真剣に研究する者自体が少なかった。

博士課程に入門した当時は、「テキストマイニング」という言葉はすでに情報学の論壇に現われていたものの、都市工学においてそれを手法にした研究を「前置き」なしに語ることができるような風潮ではなかった。

ましてや「会話分析」という社会学的手法については、都市工学の中で受け入れてくれるような時代ではなかった。

多くの辛辣な批判や無視・無関心が寄せられる中で、本論の着手から完成まで 10 年以上が経過してしまったが、最後までよき理解者であり続けていただいた（本論の主査である）小泉秀樹先生に最後に深甚な謝意を申し述べたい。

2016 年 3 月 31 日